沖縄県文化財調査報告書第125集

平敷屋（へしきや）トウバル遺跡

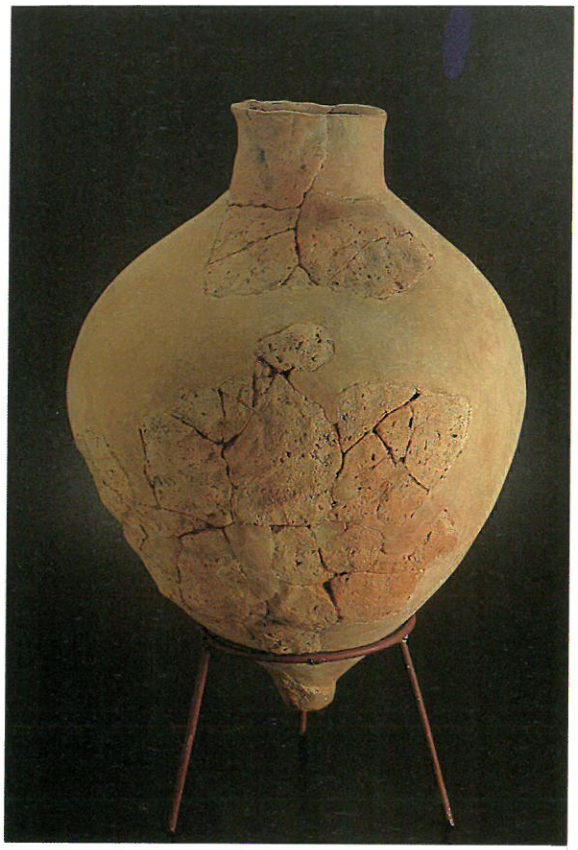
ーホワイトビーチ地区内倉庫建設工事に伴う緊急発掘調査報告書ー

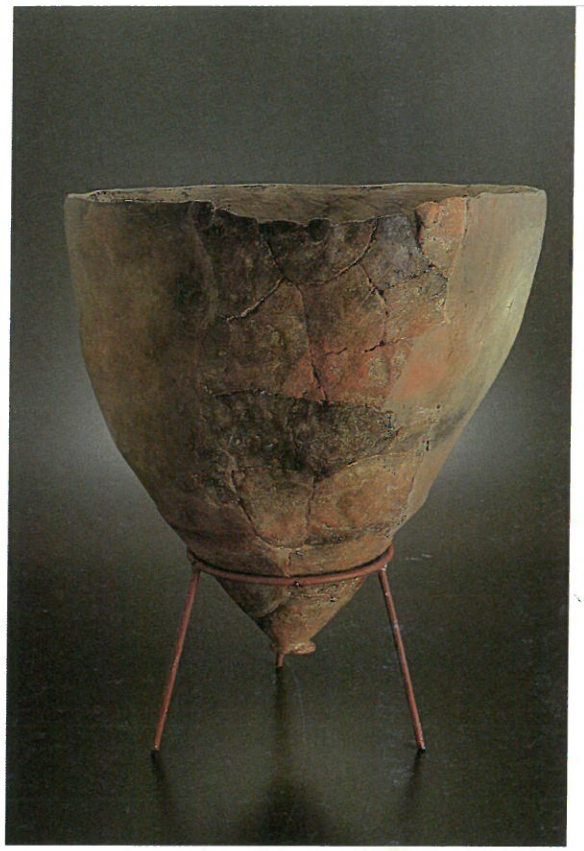
1996年3月

沖縄県教育委員会

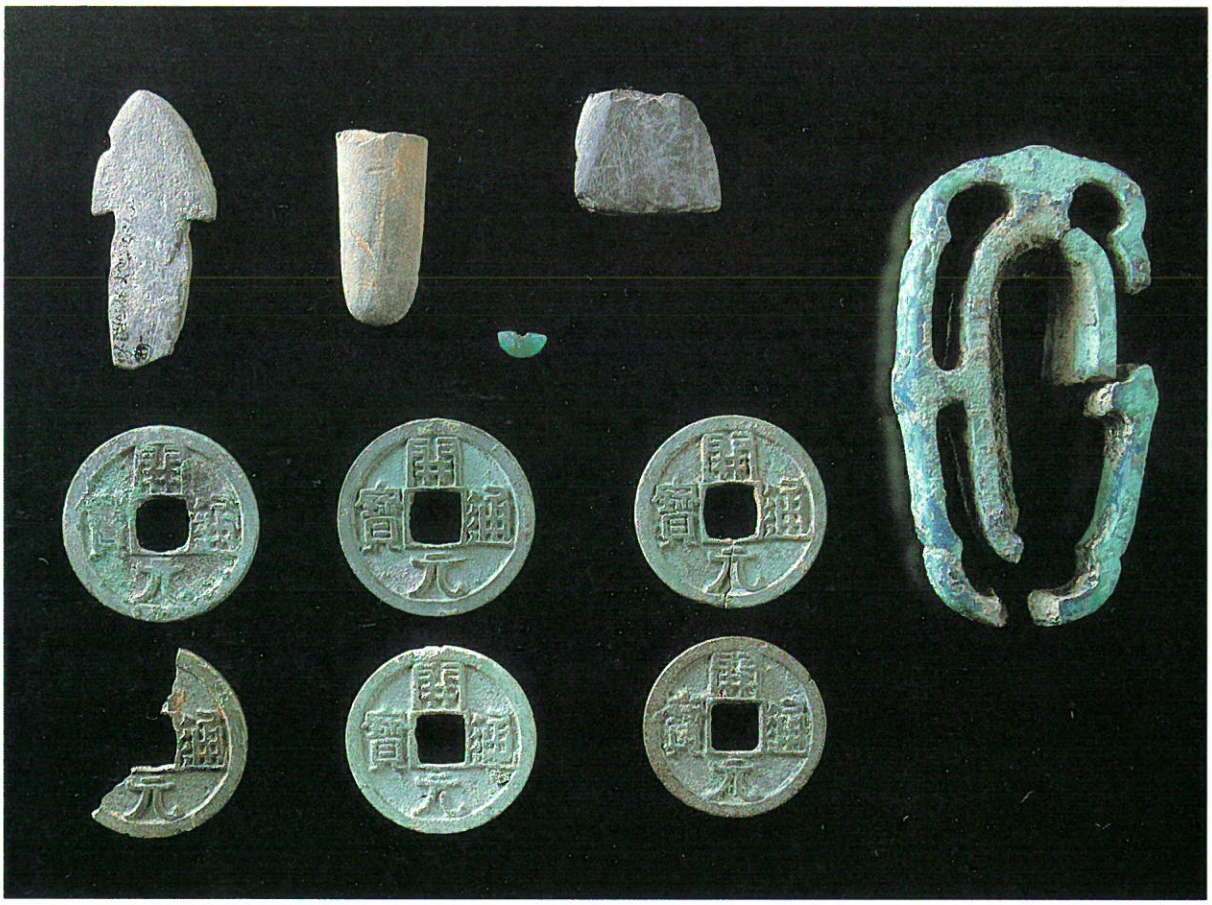
巻首図版１　遺跡（航空写真）

巻首図版２　上：検出した柱穴群（２地区）、イモガイ集積





巻首図版３　上左：完形壺（第３群）、上右：完形鉢（第３群）
下：復元した土器、ミニチュア・小型土器



巻首図版 4　上：石鏃、ガラス小玉、刀の鐔　下：石斧、クガニイシ

巻首図版５　上：イモガイ札状製品　下：貝輪

報 告 書 抄 録

ふりがな	へしきや
書名	平敷屋トウバル遺跡
副書名	ホワイトビーチ地区内倉庫建設に伴う緊急発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	沖縄県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 125 集
編著者名	島袋洋・金城亀信・上原静・島袋春美・金子浩昌
編集機関	沖縄県教育委員会 文化課
所在地	〒900 沖縄県那覇市泉崎1−2−2　　TEL 098−866−2731
発行年月日	西暦1996年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
へしきや 平敷屋 トウバル遺跡	おきなわけん 沖縄県 なかがみぐん 中頭郡 かつれんちょう 勝連町 あざへしきや 字平敷屋 いたんざ 小字板武座	473235		26° 10′ 43″	127° 54′ 45″	第1次調査 1992.12.1 ～ 1993.3.26 第2次調査 1993.6.17 ～ 1994.3.12	6,000	倉庫建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平敷屋 トウバル遺跡	集落 貝塚	グスク時代 沖縄新石器 後期 前Ⅴ期 前Ⅳ期	溝状遺構 柱穴群 土壙 大型巻貝（アンボンクロザメ）集積	輸入陶磁器 須恵器 滑石製石鍋 青銅製品 開元通宝 土器 石器 貝製品 骨製品 土玉製品 貝類 獣魚骨類	グスク時代～沖縄新石器前Ⅳ期にかけての複合遺跡 各時期ごとに中心部が移動 沖縄後期の時期の遺物が多量で、当該時期の様子を窺うことができる。

序

本報告書は勝連町平敷屋に所在する米軍施設ホワイトビーチ地区内に計画された倉庫（医療）建設工事に先立って実施された平敷屋トウバル遺跡緊急発掘調査の成果を記録したものであります。

ご承知のように本県は県土の約11％が米軍提供施設で占められており、基地の整理計画や施設整備の拡充等が頻繁に実施されている状況があります。ここ数年、基地内のこのような動きに合わせて文化財の調査件数も増加の一途をたどっております。その結果、数多くの文化財が基地内に所在していることが確認されています。特に、埋蔵文化財は開発調整との関連から表面踏査や試掘調査等の確認調査により、その数が増加しております。

今回報告します平敷屋トウバル遺跡の発掘調査も同様な開発計画の中で緊急に発掘調査されたものであります。発掘調査の結果、本遺跡は沖縄貝塚時代前期から中世の時期にわたる複合遺跡であることが確認されるとともに、夥しい量の土器、石器、貝類、獣・魚骨類等の遺物や住居遺構等が検出されました。特に広い範囲に無数に検出された柱穴群と溝状遺構は集落の様子をとどめているような状況があったと聞いております。このような調査結果をふまえ、工事計画の見直しが図られ、一部ではありますが遺跡の主要部分について現地保存の措置がとられたことは文化財保護行政に携わるものとして喜びとするところであります。現地保存の図られた部分には集落遺跡を研究する上で貴重な資料も含まれており、将来、極めて重要な遺跡の一つになるものと確信しております。

埋蔵文化財は国民的共有財産であり、その地域の歴史的環境と密接な関係にあり、永く保存・保護していく必要があると考えております。本報告書が県民の文化財に対する理解および意識高騰のために活用されることはもとより、地域の歴史研究など学術研究の一助ともなれば幸いに存じます。

最後になりましたが、ご指導をいただきました文化庁、奈良国立文化財研究所、さらに、発掘調査の進行にご理解・ご協力をいただいた那覇防衛施設局、また、多大な協力をいただきました勝連町教育委員会などの関係各機関に厚く御礼申し上げるとともに、発掘調査に参加、協力いただきました多くの方々のご労苦に対し心から感謝申し上げる次第であります。

平成８年３月

沖縄県教育委員会
教育長　仲　里　長　和

例　　言

1．本報告書は平成４年度・５年度に実施した平敷屋トウバル遺跡緊急発掘調査の成果をまとめたものである。

2．調査は「ホワイトビーチ地区内倉庫建設工事」に伴うもので、那覇防衛施設局の委託を受けて沖縄県教育委員会が実施した。

3．発掘調査に際し、勝連町教育委員会の協力を得た。

4．発掘調査および資料整理にあたり、下記の方々の指導・助言をいただいた。記して謝意を表する次第である。

岡村道雄氏・天田起雄氏・木全敬蔵氏・伊東太作氏・内田和伸氏・高宮廣衞氏・上村俊雄氏
矢部良明氏・金子浩昌氏・黒住耐二氏・大城逸朗氏・嵩原健二氏

5．獣・魚骨、石質、貝種の同定は下記の方々による。記して感謝申し上げる次第である。

獣・魚骨　　金子浩昌氏（早稲田大学講師）
石　　質　　大城逸朗氏（県立前原高等学校教頭）
貝　　種　　久保弘文氏（沖縄県栽培漁業センター）

6．青銅製の太刀の鐔については、東京国立博物館学芸課の小笠原信夫課長、池田宏主任研究官、原田一敏主任研究官の三氏から所見をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。

7．本書に掲載した５万分の１地形図は国土地理院発行のものを、グリット設定図は工事設計図に加筆して作成した。

8．本書の執筆は第Ⅰ章第２節に示したとおりである。

9．出土した資料については、すべて沖縄県教育庁文化課の資料室に保管している。

本 文 目 次

序
例言
第Ⅰ章　調査に至る経緯
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査体制及び成果の記録…… 2
　　１．調査体制…… 2
　　調査主体…… 2
　　調査事業事務…… 2
　　調査総括…… 2
　　２．成果の記録…… 4
第Ⅱ章　位置と環境…… 5
第Ⅲ章　調査経過…… 7
　第１節　第一次調査…… 7
　第２節　第二次調査…… 8
第Ⅳ章　層序…… 11
第Ⅴ章　遺構…… 17
第Ⅵ章　出土遺物…… 24
　第１節　土　器…… 25
　　１．第１群…… 26
　　２．第２群…… 27
　　３．第３群…… 28
　　イ．第１類…… 28
　　ロ．第２類…… 29
　　ハ．第３類…… 32
　　ニ．有文資料…… 39
　　ホ．底部…… 43
　　４．第４群…… 51
　第２節　石　器…… 72
　　１．石　鏃…… 73
　　２．石製品…… 73
　　３．石　斧…… 73
　　４．石斧転用品…… 73
　　５．敲石・磨石類…… 75
　　６．クガニイシ…… 79
　　７．球状石器…… 80
　　８．砥　石…… 80
　　９．有孔製品…… 80
　　10．石　皿…… 80

第３節　貝製品…… 92
１．利　器…… 93
イ．貝刃…… 93
ロ．螺蓋製貝斧…… 95
ハ．貝包丁様製品…… 95
ニ．スイジガイ製利器…… 99
２．容　器…… 99
イ．ホラガイ製品…… 99
ロ．容器状製品…… 101
ハ．貝匙…… 103
ニ．貝皿…… 103
３．その他…… 106
イ．二枚貝有孔製品（貝錘）…… 106
４．装飾品…… 113
イ．貝製小玉…… 113
ロ．巻貝製有孔製品…… 114
ハ．半輪状製品…… 114
ニ．貝輪…… 116
ホ．垂飾品…… 127
小結…… 130
第４節　骨製品…… 132
１．実用品…… 133
イ．骨針…… 133
ロ．骨銛…… 133
ハ．ナイフ状製品…… 133
ニ．骨錐…… 133
２．装飾品…… 134
イ．サメ脊椎有孔製品…… 134
ロ．ジュゴン有孔製品（未製品）…… 134
３．用途不明…… 134
イ．イノシシ？…… 134
ロ．ウミガメ…… 134
４．キズ有り…… 134
小結…… 136
第５節　土玉製品…… 137
第６節　青磁…… 138
１．碗…… 138
２．盤…… 138
３．杯…… 138
４．皿…… 138

小結…… 138
第７節　白磁…… 139
１．白磁玉縁碗か端反碗…… 139
２．白磁外反碗…… 139
小結…… 139
第８節　染付…… 140
１．碗…… 140
２．杯…… 141
３．碗胴部…… 141
小結…… 141
第９節　緑釉陶器…… 141
１．小壺…… 141
小結…… 141
第10節　黄釉陶器…… 142
１．壺…… 142
小結…… 142
第11節　本土産陶磁器…… 143
１．伊万里系の瓶…… 143
２．近・現代の茶碗…… 143
第12節　須恵器…… 143
１．壺…… 143
２．器種不明…… 144
第13節　沖縄産無釉陶器…… 144
第14節　沖縄産施釉陶器…… 145
第15節　その他の陶器…… 146
第16節　瓦質土器…… 149
第17節　陶質土器…… 149
第18節　滑石製石鍋…… 149
１．口縁…… 149
２．胴部…… 150
３．底部…… 150
小結…… 150
第19節　鉄製品…… 151
１．刀子…… 151
２．鉄鏃…… 151
第20節　青銅製品…… 152
１．鐔…… 152
２．板状製品…… 152
○　平敷屋トウバル出土の鐔について（鑑定の所見）…… 152
小結…… 154

第21節　貨銭…… 154
小結…… 154
第22節　ガラス小玉…… 157
小結…… 158
第23節　羽口…… 158
第24節　円盤状製品…… 158
1．染付製円盤状製品…… 159
2．荒焼製円盤状製品…… 159
小結…… 159
第25節　土製品…… 159
第26節　軟体動物遺体…… 161
1．最小個体数の算出方法…… 161
2．出土状況…… 161
3．棲息地別出土状況…… 162
4．大きさについて…… 163
5．割れ方について…… 164
小結…… 167
第27節　動物遺体（軟体動物を除く）…… 168
第Ⅶ章　総括…… 184

図　目　次

第１図　平敷屋トウバル遺跡とその周辺 …… 6
第２図　グリット設定 …… 13
第３図　層序①１地区－東壁・北壁、２地区－東壁・南壁、３地区－東壁 …… 14
第４図　層序②５地区－東壁・南壁、６地区－東壁・南壁…… 15
第５図　層序③試掘no. 1南壁・西壁、試掘no. 6西壁、試掘no. 8東壁、試掘no. 9西壁、試掘no. 7南壁、試掘no. 13、試掘no. 10北壁 …… 16
第６図a　２地区の柱穴群（Ⅱb層面）…… 別紙１
第６図b　平面プラン想定（G－28グリット）…… 別紙１
第７図　３地区の柱穴群（Ⅲ層面）…… 別紙２
第８図　Ⅴ層のピット群（Q・R－21・22－Ⅴ層上面、S・T－21・22－Ⅴ層下面）… 18
第９図　イモガイ集積（８地区Z－17Ⅴ層面）… 19
第10図　土壙Ⅰ（４地区P－20Ⅳ層面）…… 20
第11図　土壙Ⅱ（５地区）…… 21
第12図　灰集中土壙（７地区あ～え33～35）… 22
第13図　１地区溝状遺構 …… 23
第14図　第１群　神野E式（１～３）伊波式（４～７）大山式（８・９）室川式（10～12）…… 52
第15図　第２群 …… 53
第16図　第３群　第１類（１～10）、第２類（11～18）…… 54
第17図　第３群　第２類 …… 55
第18図　第３群　第３類　ミニチュア（１～９）、小型（10～29）…… 56
第19図　第３群　第３類　壺形①　小型 …… 57
第20図　第３群　第３類　壺形②　大型 …… 58
第21図　第３群　第３類　甕・鉢形（１）…… 59
第22図　第３群　第３類　甕・鉢形（２）…… 60
第23図　第３群　第３類　甕・鉢形（３）…… 61
第24図　第３群　第３類　甕・鉢形（４）…… 62
第25図　第３群　第３類　甕・鉢形（５）…… 63
第26図　第３群　第３類　大型土器 …… 64

第27図　有文第１類　凸帯 …… 65
第28図　有文第２類　凸帯＋沈文 …… 66
第29図　有文第３類　沈線 …… 67
第30図　底部（１）第１種（１）、第２種（２～７・９）、第３種（８・10～21） …… 68
第31図　底部（２）第３種（22～32）、第４種（33～51） …… 69
第32図　底部（３）第４種（52～73）、第５種（74～81） …… 70
第33図　第３群（１～９）、第４群（10～13） … 71
第34図　石器層別出土状況 …… 72
第35図　石鏃（１・２）、石製品（３） …… 73
第36図　石斧① …… 83
第37図　石斧②　石斧（１・４）石斧未製品（２）局部磨製石斧（３）石斧転用品（５～７） …… 84
第38図　敲石・磨石類①　Ａ類 …… 85
第39図　敲石・磨石類②　Ａ類（１・２）Ｂ類（３）Ｃ類（４）Ｄ類（５～８）…… 86
第40図　敲石・磨石類③　Ｄ類（１）Ｅ類（２～７） …… 87
第41図　敲石・磨石類④　Ｅ類 …… 88
第42図　敲石・磨石類⑤　Ｅ類（１）Ｆ類（２～７） …… 89
第43図　クガニイシ（１）　球状石器（２）砥石（３・４）有孔製品（５・６） … 90
第44図　石皿 …… 91
第45図　貝刃（１～11）、貝包丁様製品（12～18） …… 94
第46図　附刃の範囲模式 …… 95
第47図　貝包丁様製品 …… 97
第48図　スイジガイ製利器（１・２）、螺蓋製貝斧（３～５） …… 98
第49図　スイジガイ製利器模式 …… 99
第50図　ホラガイ製品 …… 100
第51図　巻貝有孔製品（１～３）、貝匙（４～９） …… 102
第52図　貝匙（１～７）、夜光貝の殻（製品加工の残欠資料）（８） …… 104
第53図　貝皿 …… 105
第54図　二枚貝有孔貝製品　ソメワケグリ（１）シレナシジミ（２）ハイガイ（３）カワラガイ（５・６）リュウキュウサルボウ（４・７～10・12）リュウキュウマスオガイ（11）ヒメジャコ（13・14） … 107
第55図　有孔貝製品　ヒメジャコ（１～３）シラナミ（４）、夜光貝（５）オオギガイ（６） …… 108
第56図　巻貝有孔貝製品 …… 115
第57図　オオツタノハ、オオベッコウガサガイ、メンガイ、シャコガイ製貝輪 …… 118
第58図　ゴホウラ製貝輪 …… 122
第59図　ゴホウラ未製品 …… 123
第60図　イモガイ製貝輪 …… 126
第61図　イモガイ製品 …… 129
第62図　骨製品 …… 135
第63図　土玉製品 …… 137
第64図　青磁 …… 138
第65図　白磁 …… 139
第66図　染付 …… 140
第67図　緑釉陶器 …… 141
第68図　黄釉陶器 …… 142
第69図　本土産陶磁器 …… 143
第70図　須恵器 …… 144
第71図　沖縄産無釉陶器 …… 145
第72図　沖縄産施釉陶器 …… 146
第73図　その他の陶器 …… 149
第74図　瓦質土器 …… 150
第75図　滑石製石鍋 …… 151
第76図　鉄製品　刀子（１）、鉄鏃（２） …… 152
第77図　青銅製品　刀の鐔（１）板状製品（２） …… 153
第78図　刀の鐔模式 …… 153
第79図　鐔断面模式 …… 154
第80図　貨銭　開元通宝（１～８）、不明銭（９）、無文銭（10） …… 156
第81図　ガラス小玉 …… 157
第82図　羽口 …… 158
第83図　円盤状製品　染付製（１）、荒焼製（２） …… 159

第84図　土製品 …… 159
第85図　貝類棲息地別出土状況 …… 161
第86図　貝類大きさ別出土状況 …… 164
第87図　主な貝の破損率
（１地区と７地区） …… 167
第88図　イノシシ歯牙咬耗状況 …… 180
第89図　ジュゴン頭骨の名称及び計測の位置…182
第90図　イノシシ、イヌ、ジュゴン、ウミガメの
計測位置 …… 183
第91ａ図 主な出土遺物の地区別
・層別出土一覧 …… 190
第91ｂ図 主な出土遺物の地区別
・層別出土一覧 …… 191

図　版　目　次

巻首図版１　遺跡（航空写真）
巻首図版２　上：検出した柱穴群（２地区）、イモガイ集積
巻首図版３　上左：完形壺（第３群）、上右：完形鉢（第３群）下：復元した土器、ミニチュア・小型土器
巻首図版４　上：石鏃、ガラス小玉、刀の鐔、下：石斧、クガニイシ
巻首図版５　上：イモガイ札状製品、下：貝輪
図版１　遺跡遠景 …… 193
図版２　各地区の状況　１～４地区（左列）、５～８地区（右列） …… 194
図版３　遺構検出状況　１地区溝状遺構（１）、１地区溝状遺構貝溜り（３）、７地区溝状遺構 …… 195
図版４　上：７地区Ｖ層面、下：灰集中土壙（７地区） …… 196
図版５　柱穴検出状況 …… 197
図版６　発掘状況 …… 198
図版７　イモガイ集積とイモガイ製貝輪 …… 199
図版８　遺物検出状況① …… 200
図版９　遺物検出状況②　ゴホウラ製貝輪（１）、ホラガイ製品（３）、土玉製品（６）、開元通宝（７）、イノシシ下顎骨（２）、ジュゴン肋骨（４）、ジュゴン頭骨（５）、貝殻集中（８）、…… 201
図版10　第１群　神野Ｅ式(１～３)伊波式(４～７)大山式(８・９)室川式(10～12) …… 202
図版11　第２群 …… 203
図版12　第３群　第１類（１～10)、第２類（11～18） …… 204
図版13　第３群　第２類 …… 205
図版14　第３群　第３類　ミニチュア（１～９)、小型（10～29） …… 206
図版15　第３群　第３類　壺①小型 …… 207
図版16　第３群　第３類　壺②大型 …… 208
図版17　第３群　第３類　甕・鉢形（１） … 209
図版18　第３群　第３類　甕・鉢形（２） … 210
図版19　第３群　第３類　甕・鉢形（３） … 211
図版20　第３群　第３類　甕・鉢形（４） … 212
図版21　第３群　第３類　甕・鉢形（５） … 213
図版22　第３群　第３類　大型土器 …… 214
図版23　有文第１類　凸帯 …… 215
図版24　有文第２類　凸帯＋沈文 …… 216
図版25　有文第３類　沈線 …… 217
図版26　底部（１）　第１種（１)、第２種（２～５)、第３種（６～21) …… 218
図版27　底部（２）　第３種（22～32)、第４種（33～51） …… 219
図版28　底部（３）　第４種（52～74)、第５種（75～79)、不明（80・81） …… 220
図版29　第３群　第３類（１～９)、第４群（10～13） …… 221
図版30　石鏃（１・２）　石製品（３） …… 222
図版31　石斧① …… 223
図版32　石斧②　石斧（１・４）石斧未製品（２）局部磨製石斧（３）石斧転用品（５～７） …… 224
図版33　敲石・磨石類①　Ａ類 …… 225
図版34　敲石・磨石類②　Ａ類(１・２)　Ｂ類

（3）C類（4）D類（5～8） …… 226
図版35　敲石・磨石類③　D類（1）
E類（2～7） …… 227
図版36　敲石・磨石類④　E類 …… 228
図版37　敲石・磨石類⑤　E類（1）
F類（2～7） …… 229
図版38　クガニイシ（1）　球状石器（2）
砥石（3・4）有孔製品（5・6）…… 230
図版39　石皿 …… 231
図版40　貝刃（1～11）、貝包丁様製品
（12～18） …… 232
図版41　貝包丁様製品
（上：表面、下：裏面） …… 233
図版42　スイジガイ製利器（1・2）、螺蓋製貝斧
（3～5） …… 234
図版43　ホラガイ製品 …… 235
図版44　巻貝有孔製品（1～3）、貝匙
（4～9） …… 236
図版45　貝匙（1～7）、夜光貝の殻（製品加工の
残欠資料）（8） …… 237
図版46　貝皿 …… 238
図版47　二枚貝有孔貝製品（上：表面、下：裏面）
ソメワケグリ（1）、シレナシジミ（2）、
ハイガイ（3）、カワラガイ（5・6）、
リュキュウサルボウ（7～10・12）リュ
ウキュウマスオガイ（11）、ヒメジャコ
（13・14） …… 239
図版48　二枚貝有孔貝製品（上：表面、下：裏面）
ヒメジャコ（1～3）、シラナミ（4）、
夜光貝（5）、オオギガイ（6） …… 240
図版49　巻貝有孔貝製品（上：表面、下：裏面）
…… 241
図版50　オオツタノハ、オオベッコウガサガイ、
メンガイ、シャコガイ製貝輪 …… 242
図版51　ゴホウラ製貝輪
（上：表面　下：裏面） …… 243
図版52　ゴホウラ未製品 …… 244
図版53　イモガイ製貝輪
（上：表面　下：裏面） …… 245
図版54　イモガイ製品
（上：表面　下：裏面） …… 246
図版55　骨製品 …… 247
図版56　土玉製品 …… 248
図版57　白磁（1・2）、青磁（3～8）染付
（9～15） …… 249
図版58　緑釉陶器（1）、黄釉陶器（2・3）、
本土産陶磁器（4・5）、その他の陶器
（6）、瓦質土器（7） …… 250
図版59　須恵器（上：表面　下：裏面） …… 251
図版60　上：沖縄産無釉陶器、
下：沖縄産施釉陶器 …… 252
図版61　滑石製石鍋
（上：表面　下：裏面） …… 253
図版62　鉄製品（1・2）青銅製品（3・4）ガラ
ス小玉（5）羽口（6）円盤状製品（7・
8）土製品（9） …… 254
図版63　貨銭　開元通宝（1～8）、不明銭（9）、
無文銭（10） …… 255
図版64　貝類① …… 257
図版65　貝類② …… 259
図版66　貝類③ …… 261
図版67　貝類④ …… 263
図版68　貝類⑤ …… 265
図版69　貝類⑥ …… 267
図版70　サカナ（1） …… 269
図版71　サカナ（2） …… 271
図版72　ウミガメ（1） …… 273
図版73　アオウミガメ（2） …… 275
図版74　ウミガメ（3） …… 277
図版75　上：リクガメ、ヘビ、コウモリ、ネズミ
下：アホウドリ、ミズナギドリ、ワシ・
タカ、フクロウ …… 279
図版76　上：クジラ、下：イルカ …… 281
図版77　ジュゴン（1） …… 283
図版78　ジュゴン（2） …… 285
図版79　ジュゴン（3） …… 287
図版80　イノシシ（1） …… 289
図版81　イノシシ（2） …… 291
図版82　イノシシ（3） …… 293
図版83　上：イヌ、ネコ、ヤギ　下：ヒト … 295

表 目 次

第１表　イモガイ集積計測一覧 …… 19
第２表　人工遺物出土状況 …… 24
第３表　沖縄諸島の暫定編年 …… 25
第４表　土器出土状況 …… 26
第５表　有文土器出土状況 …… 39
第６表　底部分類別出土状況 …… 44
第７表ａ第１群土器観察一覧 …… 47
第７表ｂ第２群土器観察一覧 …… 47
第７表ｃ第３群土器観察一覧 …… 47
第７表ｄ底部観察一覧 …… 50
第７表ｅ第４群観察一覧 …… 50
第８表　石器地区別出土状況 …… 72
第９表　石鏃観察一覧 …… 73
第10表　石斧観察一覧 …… 74
第11表　石斧転用品観察一覧 …… 75
第12表　敲石・磨石類（Ａ類）観察一覧 …… 76
第13表　Ｄ類使用痕別分類 …… 77
第14表　敲石・磨石類（Ｄ類）観察一覧 …… 77
第15表　Ｅ類使用痕別分類 …… 77
第16表　敲石・磨石類（Ｅ類）観察一覧 …… 78
第17表　Ｆ類使用痕別分類 …… 79
第18表　敲石・磨石類（Ｆ類）観察一覧 …… 79
第19表　砥石観察一覧 …… 80
第20表　有孔製品観察一覧 …… 80
第21表　石皿観察一覧 …… 80
第22表　貝製品出土状況 …… 92
第23表　貝刃観察一覧 …… 93
第24表　螺蓋製貝斧観察一覧 …… 95
第25表　貝包丁様製品観察一覧 …… 96
第26表　スイジガイ製利器観察一覧 …… 99
第27表　ホラガイ製品観察一覧 …… 101
第28表　貝皿観察一覧 …… 106
第29表　二枚貝有孔製品（貝錘）ａ～ｄ …… 109
第30表　貝製小玉観察一覧 …… 114
第31表　オオツタノハ製貝輪観察一覧 …… 117
第32表　ゴホウラ製貝輪観察一覧 …… 120
第33表　イモガイ製貝輪観察一覧 …… 125
第34表　イモガイ製貝札観察一覧 …… 128
第35表　県内主要遺跡出土の貝製装飾品との比較状況 …… 130
第36表　骨製品出土状況 …… 132
第37表　骨針観察一覧 …… 133
第38表　キズ有り観察一覧 …… 136
第39表　土玉製品観察一覧 …… 137
第40表　沖縄産施釉陶器観察一覧 …… 147
第41表　陶質土器及び沖縄産無釉陶器 …… 148
第42表　貨銭観察一覧 …… 155
第43表　近世遺物出土状況 …… 160
第44表　貝製品に使用された貝 …… 167
第45表ａ貝類出土状況（巻貝）１・７地区 … 165
第45表ｂ貝類出土状況（二枚貝）１・７地区 … 166
第46表　脊椎動物遺存体種名一覧 …… 168
第47表　ウニ・パイプウニ・イカ出土一覧…… 別紙４
第48表　サカナ出土量…… 別紙３
第49表　トリ出土量 …… 181
第50表　カメ出土量…… 別紙４
第51表　ヘビ出土一覧…… 別紙４
第52表　ネズミ出土量…… 別紙４
第53表　イノシシ出土量…… 別紙５
第54表　イノシシ歯牙出土量 ……別紙６
第55表　クジラ・イルカ出土一覧 ……別紙４
第56表　イヌ歯牙出土量 ……別紙４
第57表　イヌ出土量 ……別紙４
第58表　ジュゴン出土量 ……別紙４
第59表　ヒト出土一覧 …… 181
第60表　その他の骨出土一覧 ……別紙４
第61表　イノシシ計測一覧 …… 179
第62表　イヌ計測一覧 …… 179
第63表　ベラ科下咽頭骨大きさ別出土量 …… 179
第64表　ジュゴン計測一覧 …… 180
第65表　ウミガメ計測一覧 …… 180
第66表　^{14}Ｃ年代測定結果 …… 188

第Ⅰ章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

近年の世界的な軍縮の流れの中、県内の米軍基地の整理・統合は急展開をみせてきており、返還されるところと新たな建物がつくられるところなど、基地内の動きが活発化してきているようである。今回の平敷屋トウバル遺跡の調査も同様で、ホワイトビーチ地区の倉庫建設がその契機となっている。

平成３年８月に那覇防衛施設局から勝連町教育委員会に対してホワイトビーチ地区内で倉庫建設の計画があり、その予定地内の文化財の有無についての照会がなされた。おりしも勝連町教育委員会では町内の遺跡分布調査(註１)を進めている途中であり、那覇防衛施設局と調整して平成３年12月に２日間の日程で試掘調査を実施した。倉庫建設予定地（6000㎡）に16箇所の試掘穴（約3m×3m）を設けて地下の様子を調べたところいずれの試掘穴からも遺物（くびれ平底を主とした土器など）が検出されるとともに遺物包含層が確認され、計画予定地全体が遺跡地であると那覇防衛施設局に回答した。

勝連町教育委員会からの回答を受け、平成４年１月に那覇防衛施設局から遺跡発見届けが提出され、それに対し沖縄県教育委員会から工事着手前に発掘調査を実施するよう通知された。その通知を受け、２月には倉庫建設予定地の遺跡発掘調査について、当該倉庫の配置は変更が不可能な状況であり、また、当該倉庫の建設は平成４年12月には着手する必要があるため発掘調査を実施してほしいとの要請が沖縄県教育委員会になされた。

那覇防衛施設局と県文化課との間で当該倉庫建設予定地の発掘調査について協議・調整が図られた。施設局側は先に要請したとおりの状況にあり、ぜひ早い時期に発掘調査を実施してほしい旨を説明し、県文化課は当初予定の今年度事業で専門員が手いっぱいの状況にあり、当該事業のような年度半ばの事業、ましてや調査対象面積が6000㎡という広い範囲におよぶ発掘調査には体制的にとても対応できない状況にあることを説明した。その後、再三にわたる調整の結果、県文化課が調査員の確保になんとかめどがつき、発掘調査に係る費用は那覇防衛施設局が負担するということで話がまとまった。

平成４年６月に那覇防衛施設局から県文化課に発掘調査業務委託についての協議文が提出され、平成４年７月に県文化課から那覇防衛施設局へ経費の見積りを回答し、発掘調査を行なう方向で動き始めた。米軍基地内という特殊な地域であり、基地内へ立ち入るためのパスなど倉庫建設予定地の調査に必要な諸手続きは那覇防衛施設局が米軍と調整して行った。県文化課は勝連町教育委員会に発掘作業員の手配やその送迎など発掘調査を行なうにあたっての協力をお願いした。

このような発掘調査の諸準備と並行して９月補正での予算処置を行い、沖縄県と那覇防衛施設局との間で業務委託契約が結ばれ、沖縄県教育委員会が発掘調査を実施することになった。平成４年11月下旬からユンボによる表土剥ぎを行い、12月から作業員を投入してホワイトビーチ地区の倉庫建設に伴う平敷屋トウバル遺跡の発掘調査がスタートした。

註

註１．「勝連町の遺跡　遺跡詳細分布調査報告」『勝連町の文化財第17集』　沖縄・勝連町教育委員会　1993年３月

第２節　調査体制及び成果の記録

１．調査体制

調査主体……沖縄県教育委員会

教育長……津留　健二　（平成４年度）
〃　……嘉陽　正幸　（平成５・６年度）
〃　……仲里　長和　（平成７年度）
文化課課長……金城　　功　（平成４年度）
〃　……糸数　兼治　（平成５年度）
〃　……西平　守勝　（平成６・７年度）
文化課課長補佐……川満　一成　（平成４・５年度）
〃　……知念　　勇　（平成４～６年度）
〃　……新垣　末子　（平成６・７年度）
〃　……日越　国昭　（平成７年度）
発掘調査指導……岡村　道雄　（文化庁主任調査官）
〃　……天田　起雄　（文化庁主任調査官）
〃　……木全　敬蔵　（奈良国立文化財研究所）
〃　……伊東　太作　（　　〃　　）
〃　……内田　和伸　（　　〃　　）

調査事業事務

文化振興・管理係長……大村　光仁　（平成４・５年度）
〃　……比屋根正治　（平成６・７年度）
主　査……新垣　和子　（平成５～７年度）
副主査……玉村　良子　（平成４年度）
〃　……上間　尚子　（平成４年度）
〃　……比嘉美代子　（平成４・５年度）
〃　……宮城　直子　（平成５・６年度）
〃　……新崎　文子　（平成６・７年度）
〃　……新垣　敏子　（平成７年度）
主　任……伊波　盛治　（平成４～６年度）
〃　……當間　保智　（平成７年度）

調査総括

埋蔵文化財係長……大城　　慧　（平成４～７年度）
発掘調査員
埋蔵文化財係主任専門員……上原　　靜　（現史跡整備係係長）
〃　……岸本　義彦　（現史料編集室）
主　任　……島袋　　洋
〃　……金城　亀信
充指導主事……我那覇　念
専門員　……山城　安生　（現北谷町教育委員会嘱託）

専門員　……上地　克哉　（現南風原町教育委員会学芸員）

発掘調査資料整理・補助員

嘱託調査員……矢沢　秀雄
〃　……高良三千代
〃　……比嘉　聡
〃　……普天間直也
〃　……上原　明
〃　……瑞慶覧尚美
〃　……比嘉　優子
〃　……玉寄智恵子
〃　……豊見山ゆかり
〃　……又吉　純子
〃　……金城　美祈
〃　……川満美賀子
〃　……仲間　留美
〃　……島袋　春美

発掘調査資料整理指導・助言……高宮　廣衛　（沖縄国際大学教授）
〃　……上村　俊雄　（鹿児島大学法文学部教授）
〃　……金子　浩昌　（早稲田大学講師）
〃　……矢部　良明　（東京国立博物館東洋陶磁室室長）
〃　……黒住　耐二　（千葉県立中央博物館）
〃　……大城　逸朗　（前原高校教頭）

発掘調査作業員

前徳絹子、新川サダ子、徳平キヨ、宇根安子、島袋清江、仲本サチ、仲尾サダ子、東仲村文子、濱川かつ子、徳本マサ子、兼城弘子、益田原洋子、伊良部民子、益田原真一、識名盛明、平敷安子、田原千賀子、新屋トヨ、宮里和美、新川幸子、盛根ヨキ、新川明子、大石根安子、吉原ヨシ、山城一雄、川上貴美子、屋良康子、久加根エミ子、川上房枝、徳山ヤス、仲嶺ツル子、仲里キヨ、新屋ヤス子、新里エイ、与座節子、徳門光子、仲尾サチ、徳山ハル、幸地チエ、東門マサ子、恩納ミサ子、新屋敷勝子、崎原美津子、平敷洋子、新垣シズ子、門口恵美子、松尾ミツ子、吉本シゲ子、仲尾シズ、宮城トヨ、新里愛子、野呂内良子、新垣由紀子、新里幸美、宮城由江、鶴元寿充、仲與根ゆかり、大城江津子、平敷ひとみ、大城清美、新里洋子、大石根溜枝、東門ミヨ子、久志江美、新里八重子、東仲ハツ子、大石根敦美、田場ハル、金城ヨシ子、大城ヤス子、新川スミ子、前徳シズ、吉里俊子、崎原ノリ子、東門春江、田場初枝、宇根カツ、稲福豊美、池田清子、小湾照美、宇根幸子、田原美枝子、仲門久子、茂太春枝、古賀恵美子、山城みどり、大庭キク、名波悦子、大城美江子、徳嶺光子、池味ツル子、新屋恵子、平敷勝江、真鶴ヨシ、平敷勝美、山内節子、高橋八津子、池味節子、池味恵子、赤平ヤス子、伊禮ツル子、座間味恵子、池味ハツ、徳門和子、新垣朝子、新屋米子、新膳圭子、吉本むつ美、新里留美子、東門美和子、新屋敷幸恵

2．成果の記録

出土遺物の洗浄・注記・接合・分類・集計・実測・製図等、報告書作成に向けての整理は、下記のメンバーにより実施した。

遺物洗浄作業員

金城房子、兼久綾子、吉田豊子、真境名百合子、牧志珠代、平良香代子

資料整理作業員

池原直美、高良三千代、小嶺禮子、玉寄智恵子、石橋朝子、浜元春江、備瀬枝美子、瑞慶覧尚美、手嶋永子、源河秀子、座間味美津子、譜久村郁子、島　京美、川満美賀子、折田衣代、豊見山ゆかり、安和千代子、岡村綾子、城間桂子、高宮とり、新垣千恵子、西銘定子、金城敬子、上原美智子、川上益子、宮城サダ子、大村由美子、金城礼子、真栄城慶子、金武雅子、上地春枝、比嘉優子、喜屋武さおり、友利映子、仲宗根三枝子、大村広美、外間瞳、上原園子、城間千鶴子、大城勝江、照屋利子、平良貴子、玉城恵美利、金城薫、島袋春美、又吉純子、比嘉登美子、津波古良子、仲間留美、田中ゆきの、新城恵

なお、遺物の写真撮影は長田剛（県文化課嘱託調査員）があたり、校正は池原直美、玉寄智恵子の協力を得た。

報告書は下記のように分担執筆し、編集は島袋春美の協力で島袋洋が行なった。

第Ⅰ章		島袋　洋
第Ⅱ章		宮城　伸一
第Ⅲ章		島袋　洋
第Ⅳ章		島袋　洋
第Ⅴ章		島袋　洋
		金城　亀信
第Ⅵ章	第１節	島袋　洋
	第２節	仲間　留美
		新城　恵
		田中ゆきの
	第３節１．	上原　静
	２．	金城　亀信
	第４節	島袋　春美
	第５節	上原　静
	第６節～第21節	金城　亀信
	第22節	島袋　春美
	第23節	金子　浩昌
第Ⅶ章		島袋　洋

第Ⅱ章　位置と環境

本遺跡は沖縄本島東海岸の中部（那覇から北東へ約40km）、勝連町に所在する。勝連町は太平洋側に突出した半島－勝連半島－に位置している。勝連半島は北に金武湾、南に中城湾の二大湾を形つくり、周辺には大小の島々が点在している。半島の北側（金武湾側）が与那城町、南側（中城湾）が勝連町で、西は具志川市と接している。勝連町は南風原、平安名、内間、平敷屋、浜、比嘉、津堅の７行政区からなり、人口は14,000人、町域12.74㎢、東西6.5km、南北1.5kmとなっている。

地形的には中城湾側に海岸沖積層の低地が細長くのび、その背後には標高90ｍの丘陵が走り、丘陵の西端には町のシンボルとなっている勝連城跡が位置している。この丘陵は内陸の方へ緩やかに傾斜しながら展開し、町の中心部ではほぼ40～50ｍの台地を形成している。地質的には珊瑚石灰岩、沖積土壌、泥灰岩、国頭礫層の４層がみられ、平安名、内間、平敷屋、津堅の各字には珊瑚石灰岩が広く分布し、南風原、浜、比嘉には泥灰岩と沖積土壌の分布がみられる。南風原の一部には国頭礫層もみられる。

同町を構成する集落は７つあり、平敷屋トウバル遺跡のある平敷屋集落は勝連半島の最東端に位置している。「村の高さや平敷屋村」と詠まれた同集落も、終戦と共に集落地域が軍用地として接収され、戦後は浦ヶ浜に至る傾斜地帯に集落を形成している。しかし、昭和52年に旧集落地域が返還され、それに伴って集落は再び高台の方へ大きく発展しようとしている。和文学者で、組踊「手水の縁」の作者として知られる平敷屋朝敏のかつての領地で、彼の唯一の随想録「貧家記」の舞台としても知られている。

現在、町内に所在する遺跡は51箇所確認されており[註1]、その分布状況をみると丘陵背梁部に集中している。自然湧水が丘陵背梁部に集中するというのも一因であろう。

平敷屋トウバル遺跡は勝連半島の先端部にある米軍基地（ホワイトビーチ）内にあり、中城湾に面した低砂丘地に立地している。背後を丘陵に取り囲まれ、孤立した感じの場所である。丘陵部には湧水の湧きだす場所もみられ、前述したような町内の多くの遺跡の在り方と同様な状況にある。調査の結果、沖縄新石器前Ⅳ期～グスク時代の複合遺跡であることが判明している。長期にわたり居住地として利用されたということは、本遺跡が生活する場所として適した環境（湧き水、眼前に広がる中城湾）を具備している所であったといえる。沖縄後期の時期の面から出土した夥しい量の貝殻、ジュゴンの骨などをみると、豊富な海の幸を与えてくれたことを物語るようである。

周辺地域に目を向けると、本遺跡の下層（沖縄新石器前Ⅳ期）と同時期の遺跡として平安名貝塚、平安名貝塚Ａ地点、内間貝塚、津堅キガ浜貝塚などが知られる。上層（沖縄後期）と同時期頃の遺跡として浮原島遺跡、津堅ヤジリ浜貝塚、津堅和名浜貝塚が認められる。また、グスク時代～近世の遺跡として北西側の丘陵台地（標高約60ｍ）に平敷屋古島遺跡がある。同遺跡の発掘調査成果[註2]によれば、平敷屋トウバル遺跡に後続する時期になろうか。

このように本遺跡周辺は歴史文化の痕跡を随所に残す地域であり、集落の形成課程、人的移動などの様子が窺える地域である。遺跡に立って津堅島、遥か久高島や知念半島をみると、中城湾を丸木船で行き来する往時の人々の様子に思いを馳せるとき、夢物語の中にタイムスリップするようである。しかし、遺跡地の周辺を取り巻く状況（基地としての利用や中城湾の埋め立てなど）はきびしく、夢物語もかたられなくなっていくのだろうか。

註

註１．勝連町教育委員会「勝連町の遺跡」『勝連町の文化財第17集』　1993年３月

註２．勝連町教育委員会「平敷屋古島遺跡―発掘調査報告書―」『勝連町の文化財第13集』　1991年３月

第１図　平敷屋トウバル遺跡とその周辺

第Ⅲ章　調査経過

今回の調査は年度の後半に着手したことやその対象面積が6000㎡と広い範囲であること、さらに、沖縄新石器後Ⅳ期の単一遺跡として調査に入ったが、発掘調査の途中で複合遺跡であることが判明し、また、調査区のほぼ全面にピット群が検出されるなどの状況になり、調査の途中で発掘調査対象地域の変更などがあり、延べ月数にすると13ヶ月、２次に亘る長期の調査になった。

第一次調査は平成４年12月から平成５年３月まで、第二次調査は平成５年６月から平成６年３月まで実施した。以下、第一次調査・第二次調査の経過について概略を記す。

第１節　第一次調査

平成４年11月30日・12月１日の両日で発掘調査に入る事前の現場確認を行い、現場事務所の設置（調査対象地区の東側）、ユンボによる表土剥ぎがある程度の面積済んだ12月10日から作業員を投入しての本格的な発掘調査がスタートした。

表土剥ぎは調査対象範囲（倉庫建設予定地）を四分割した東北側の地区（28m×48m）から行い、表土剥ぎがある程度進んだ段階で、作業員による発掘やグリット設定を行なった。先に打ち込まれている倉庫建設予定地の幅杭を利用して基準ラインとし、調査地区内に4m×4mを単位とする方眼を組み、東から西へ算用数字を、北から南へアルファベットを付した。グリットの呼称は東北側の杭を示準しD－11、E－12、F－13などとした。

調査範囲全体の1／4の地区ではあるがかなりの広さがあり、表土（厚さ約150㎝）剥ぎ終了後、本地区をさらに四分割するように十字に土層観察用の畦を設けた。作業員による発掘作業は東側から西側の方へ進めていった。黒色土層は30㎝前後の厚さがあり、10㎝レベルで掘り下げていった。上部は青磁や褐釉陶器、須恵器、滑石製石鍋の破片などが若干得られただけで、ほとんど遺物を含まない。下部の方に貝殻（アラスジケマンガイが中心）・骨（イノシシが目立つ）・土器（くびれ平底）などの遺物集中部が点在してみられた。この黒色土層の直下は青灰色粘土層になり、その上面にはピット群（直径15㎝前後の円形状）が検出された。また、南側では砂が混ざる状況にあった。

表土剥ぎの際に６箇所の試掘穴を南北の壁沿いに設け、堆積層の確認を行なった。黒色土直下の青灰色粘土層（無遺物層）は北側で厚く、南側に薄くなっていく状況にあり、この層の下からは砂層になった。北側壁沿いに設けた３箇所の試掘穴では砂層の上部から伊波式土器や石器などが得られ、沖縄新石器前Ⅳ期の頃であり、本遺跡が異なる時期の生活層が重なり合う複合遺跡であることが判明した。この層の下方は次第に砂の粒が粗くなり、砂利層になっていく。砂の粒が粗くなりはじめる層から下方においては遺物が含まれず、いわゆる地山層になるものとみられた。

調査を進めた東側部分の表土剥ぎや作業員による発掘の状況から、黒色土層の厚さは30㎝前後あるものの、遺物は下部の方に集中し、そこまではほとんど遺物が出土しないので、本地区の東側は黒色土層の下部（遺物が目立ってくる部分）までユンボにより掘り下げ、その後に作業員による発掘を進めていった。

東側は遺物の集中部を除き青灰色粘土層上面まで掘り下げ、その面で検出したピット群の掘り下げを行なった。西側は黒色土上面を整えていた。中央に設けた土層観察用の畦を整えながら、堆積層を仔細に観察していくと黒色土層は中間の若干黄味を帯びた青灰色粘土層（無遺物層）により上下に二分されること

が判明し、黄味を帯びた青灰色粘土層の上面にピット状の落ち込みが確認された。つまり、Ⅱ層はa・b・cに3分され、aは遺物の出土量は僅少であるが輸入陶磁器や須恵器、滑石などグスク期のものが主体で、bは間層（無遺物層）、cは下部に薄く貝層を形成する部分などがみられ、土器はくびれ平底を主体としており、沖縄新石器後期の層と判明した。

Ⅱb層上面でピット状の落ち込みを確認したところで、今年度の調査期間が終了した。次年度（平成5年度）に継続して調査を実施するということで、今回発掘を行なった北東側の地区のほぼ全面をブルーシートで覆い、次年度すぐに調査が再開できるようにして第一次調査を終了した。

第2節　第二次調査

平成5年6月17日から現場を開始した。発掘調査を進めていくため調査対象範囲を四分割して、1～4地区と呼称した（第2図）。前回の調査箇所は1地区となる。まず、前回の調査箇所（1地区）の調査終了の際に覆ったブルーシートを取りのぞき、その面の確認を行なった。それから、前回の調査終了間際に確認されたⅡb層の上面で確認されたピット状の落ち込みの状況をつかむため、2地区の発掘を行なった。その結果、ピット状の落ち込みは本地区の全面に広がり、また、東側（26ライン）と西側（33ライン）に南北に走る浅い溝状の落ち込みも確認された。ひとつの集落のありようが検討されたが、無数に検出されたピット状の落ち込みの平面プランが把握できず、また、面積にたいして遺物の出土量が非常に少ないことなど、答えを導きだすまでには至らなかった。

検出されたピット群や溝状遺構の掘り下げを東側（25ライン）から西側（35ライン）の方へと進め、それをおいかけるように写真撮影および平面・断面実測を行なっていった。これと並行して3・4地区の表土剥ぎをユンボにより行ない、その面を整えピット状の落ち込みの検出作業を行なった。また、下層の状況を確認するため、3地区のほぼ中央に十字に試掘トレンチを設けた。

このような現場の進行の最中に県文化課と那覇防衛施設局の工程会議が行なわれた。その中で県文化課は大幅な期間延長が見込まれることを話し、那覇防衛施設局は期間延長よりは工事の設計変更を行ない倉庫建設の場所を当初より南側にずらしたいので、その地域の試掘調査を行なってほしいとの話がだされた。それを受けて現在の発掘範囲の南側30m付近の試掘調査を行なった。南西隅（Z－35）の試掘箇所で貝層がみられ遺物も非常に多いが、他の試掘グリットでは遺物の量はそれほど多くない状況であった。

この試掘と並行して3・4地区のピット検出のためにユンボで剥ぎ取った面の整理を行なった。Ⅱc層がかなり砂が混ざるようになり、薄くなる状況が認められた。そのため、3地区ではⅢ層面を露出させ、その面のピット検出作業を行なった。本地区の南東側ではⅢ層が途切れ、以南に延びないことが判明した。4地区もかなり砂が混じるようになり、O・P－21を中心に遺物（貝殻・イノシシ骨・土器など）の広がりが確認された。砂層であるが、主体となっている土器がくびれ平底であり、Ⅱc層の延長と捉えた。しかし、3地区の南東側の状況からⅣ層とした方がよいと考えられ、Ⅳ層上面として扱った。

3・4地区の南側へいくにつれピットの数も次第に少なくなっていくことが判明した。このような状況からさらに南側へ30m寄せたらどうかということで、3・4地区の南側60mのところの試掘調査を実施したところ、部分的に遺物の集中部がみられるものの、それ以外は層厚も薄くなり、遺物の量もそれほど多くないことが判明した。南側の試掘調査の結果、当初の倉庫建設予定地を南側へ約50m平行移動することになり、その地区の発掘調査を行なうことになった。

新に発掘することになった南側の地区を四分割し、5～8地区と呼称した。これにより1・2地区およ

び3・4地区の北側は現在の調査面（Ⅱb層、Ⅲ層上面）で埋め戻すことになった。5～8地区の表土剥ぎと並行して、1地区は実測・写真撮影ができるように、露出させてある遺物の取り上げやピットの掘り下げなど、埋め戻しの準備に取りかかった。

5～8地区のグリット設定は第一次調査の際のラインをそのまま延長し、アルファベットが足りなくなった南側のグリットには五十音を付した。グリットの呼称も同じように北東隅の杭を示準し、O－20、Y－21、Z－22、あ－23、う－24などとした。

3地区のOライン・29ラインの試掘トレンチの壁面の整理とピットの掘り下げ、4地区のⅣ層面の露出作業、北側にみられるピットの掘り下げと並行して、東側（5・8地区）から表土剥ぎを進めていき、ユンボで削ったあとのⅣ層面の掃除およびその掘り下げを行ない、西側（3・6・7地区）も同様な手順で発掘を進めていった。このような作業の途中に1地区の実測・写真撮影が終了したので、1・2地区は白砂を敷き（後日の発掘のときに、今回の調査レベルがわかるように）、埋め戻した。

3地区の試掘トレンチ西壁側のV層から前V期のカヤウチバンタ式かとみられる大型破片が押しつぶれた感じで検出され、接合して第15図1（図版11）に示す形状になった。4地区ではO・P－21を中心とした遺物集中部（Ⅳ層上部）からくびれ平底土器と共に定角式になるかとみられる石斧、青銅製の太刀の鐔（第77図1）や古銭（開元通宝）などが出土した。5地区の南側ではヒメジャコの出土が目立ち、6地区の北側ではピットが多く検出された。

調査期間と発掘面積の兼ね合いから作業員を20余名増やし、写真測量やベルトコンベアーの使用などを行いながら発掘調査を進めていった。Ⅳ層を掘り下げていくと、5・6地区の南側（Vライン以南）では下部の方からは乳房状尖底土器（くびれ平底のものに比べ厚みがある）が目立つようになり、ピットの検出される部分もあるが、3・4地区に比べ数は激減してくる。

那覇防衛施設局より倉庫建設工事の工程から、先に東側の箇所（4・5・8地区）を完掘してほしいとの要望があり、この地区のV層の掘り下げに入った。Ⅳ層面では貝殻や獣・魚骨、土器などが集中的に広がる部分などが見受けられたが、V層では上部（0～15cmレベル）において若干遺物の広がりがみられるものの、下部（15cm～30cmレベル）では遺物の出土がほとんどなくなり、30cm前後掘り下げると砂の粒が粗くなり、以下ははっきりと異なる砂層になってきた。

本層の土器はほとんどが乳房状尖底および尖底の厚みのあるものが主体になり、大型巻貝（アンボンクロザメ）の集積遺構がZ－17グリットで検出された（第9図）。また、北西側（4地区の南西隅）では下部において平面プランが長方形状を呈すようにピットが検出され（第8図）、X・Yのラインで東西方向に帯状に延びる軽石の集中部が確認された。はっきりと砂粒が粗くなってきた層の下層の確認のため、ユンボを使って発掘区のほぼ中央に東西の試掘トレンチを設け、基盤の白砂層になることを確認して東側地区（4・5・8地区）の発掘を終了した。

東側地区の調査に目処がたったところで西側地区（3・6・7地区）の調査を再開した。両地区を分けていた23ラインの畦の除去、西側地区全体の掃除を行ないⅣ層面で検出したピットを再確認し、その掘り下げを行なっていった。南西側で検出された貝の集中部（貝はイソハマグリが主体、土器はくびれ平底が主体）の広がりを確認するためW・X－33を掘り下げ、Zラインの畦も除去した。全体の広がりが露出できた時点で写真測量をおこなった。第35図に示す石鏃などもこの貝集中部から出土している。

Ⅳ層下部では乳房状尖底が出土し始め、貝殻も大型のイモガイやシャコガイなどが目につくようになる。V層になってくるとほとんどが乳房状尖底の土器で、7地区ではジュゴンの骨の出土量が特徴的である。また、V層面の露出作業の際に第17図1に示す搬入土器が得られている。

6地区ではV層で検出されたピットはその時点でマークし、掘り終えた段階で再度マークして、Ⅳ層検

出のピットと区別できるようにした。また、本層になってから大型の巻貝（アンボンクロザメ）が散見されるようになり、1箇所に2・3個みられるものや第9図に示すように集積遺構として検出されたものなどがみられる。V層を掘り下げると東側の地区からの延長とみられる軽石の帯状の広がりが、東西方向にみられ、発掘区西壁まで続いている。

西側地区のほとんどが粒の粗い砂層（地山）になった。最後に残った発掘区南西隅のあ～え－33～35グリットのV層を掘り下げていくと、灰層とV層の砂層とが互層をなしてみられた。若干鍋底状に灰層と砂層が互層をなし、深いところで約40cmあり、その下方は白砂になった。平面形は直径が約8mの円形状を呈し、この部分から得られた土器はすべて乳房状尖底であった。中央に設けた畦の実測や写真撮影、さらに、完掘状況の実測・写真撮影を行なった。

これで今回の調査をすべて終え、途中、発掘調査対象地区の変更（倉庫建設工事の設計変更）などがあったものの、6000m²という広い範囲で延べ13ヶ月（平成4・5年度）におよんだ平敷屋トウバル遺跡の発掘調査を完了した。

第Ⅳ章　層　　序

今回の調査は当初からその対象範囲が6000㎡の広さであったが、前章で記したように発掘調査の途中で当初予定地域を南側へずらし、ほぼ同じ広さの範囲を新に発掘調査することになり、結果的に10000㎡を超える範囲の発掘調査を実施したことになる。ただ、当初予定地域は部分的に行なった試掘により基盤の白砂層まで確認したが、全体を基盤の白砂層まで掘り下げたわけではない。

沖縄新石器後期（くびれ平底の土器）の単純遺跡として発掘調査に入ったが、一枚の層と捉えていた黒色土層が３枚に細分され、この黒色土層の下層により古い時期の遺物包含層の存在が確認された。

さらに、北側（陸側）の当初発掘調査地域と南側（海側）の変更後の発掘調査地域では異なる層相を示すことが判明した。つまり、北側の当初発掘調査地域（１～４地区）に展開する土層、南側の変更後の発掘調査地域（５～８地区）に展開する砂層という状況がみられた。以下、今回の調査で確認できた層序について略述する（第３図～第５図）。

Ⅰ層－表土層。上部は米軍の造成層で下部は灰～黄褐色の旧耕作土層である。発掘調査範囲の全面に認められ、北側で100cmを越す厚さを有しているものの、南側へ次第に厚さを減じ、南西側では30cm前後の厚さとなる。米軍の造成層は南側で厚くみられ、旧耕作土は北側で厚い。

Ⅱ層－黒色土の遺物包含層。当初発掘調査地域（１～４地区）に認められ、変更後の発掘調査地域（５～８地区）にはみられない。30～40cm厚さを有し、ほぼ水平方向に堆積している。間層を挟む部分がみられ、a・b・cに細分される。

a－黒色の遺物包含層。当初発掘調査地域にみられ、３・４地区の北側まで広がっているものとみられる。厚いところで20cm前後の厚味があり、南西側へ薄くなっていく。輸入陶磁器類や須恵器、滑石製石鍋、グスク系の土器などが得られているものの出土量は非常に少ない。

b－淡黄色の無遺物層。D－24グリットを中心とした２地区北東側で厚く（約20cm）、そこから東・西・南側へ薄くなる。１地区の東壁、２地区の南西側および３・４地区には及んでいない。本層の上面には柱穴群が無数に検出されたほか、溝状の遺構なども検出されている（第６図）。２地区は本層上面で発掘を終了し、下層の状況は試掘穴で確認した。

c－黒色の遺物包含層。厚いところで20cm前後あり、層の広がり方はa層よりやや広く、当初発掘調査地域のほぼ全面にみられる。粘土層であるが、南側の方では砂が混ざってくる。b層を挟まない箇所においては、a層との区別は非常に困難である。下部において遺物の集中部が点在し、出土量は多い。土器はくびれ平底を主体とし、自然遺物は貝類ではアラスジケマンガイ、獣骨類はイノシシを中心としている。注目される遺物として青銅製の太刀の鐔（第77図１）、開元通宝（第80図）などが見受けられる。

Ⅲ層－無遺物の黄色粘土層。本層も北側の当初発掘調査地域（１～４地区）にみられ、南側の変更後の発掘調査地域（５～８地区）には認められない。当初発掘調査地域のほぼ全面にみられ北東側で厚く（約20cm）、南西側に薄くなる。南側では砂が混ざり、１地区の東側、３・４地区の南側では本層の上面で柱穴群が検出された（第７図）。Ⅱb層面のものより一回り大きく、深いものが多い。本層まで達しなかった１地区の西側および２地区においても同様な状況になるものと予想

される。また、4地区では平面が楕円形（長径約350cm、短径約150cm）状の土壙が検出されている。

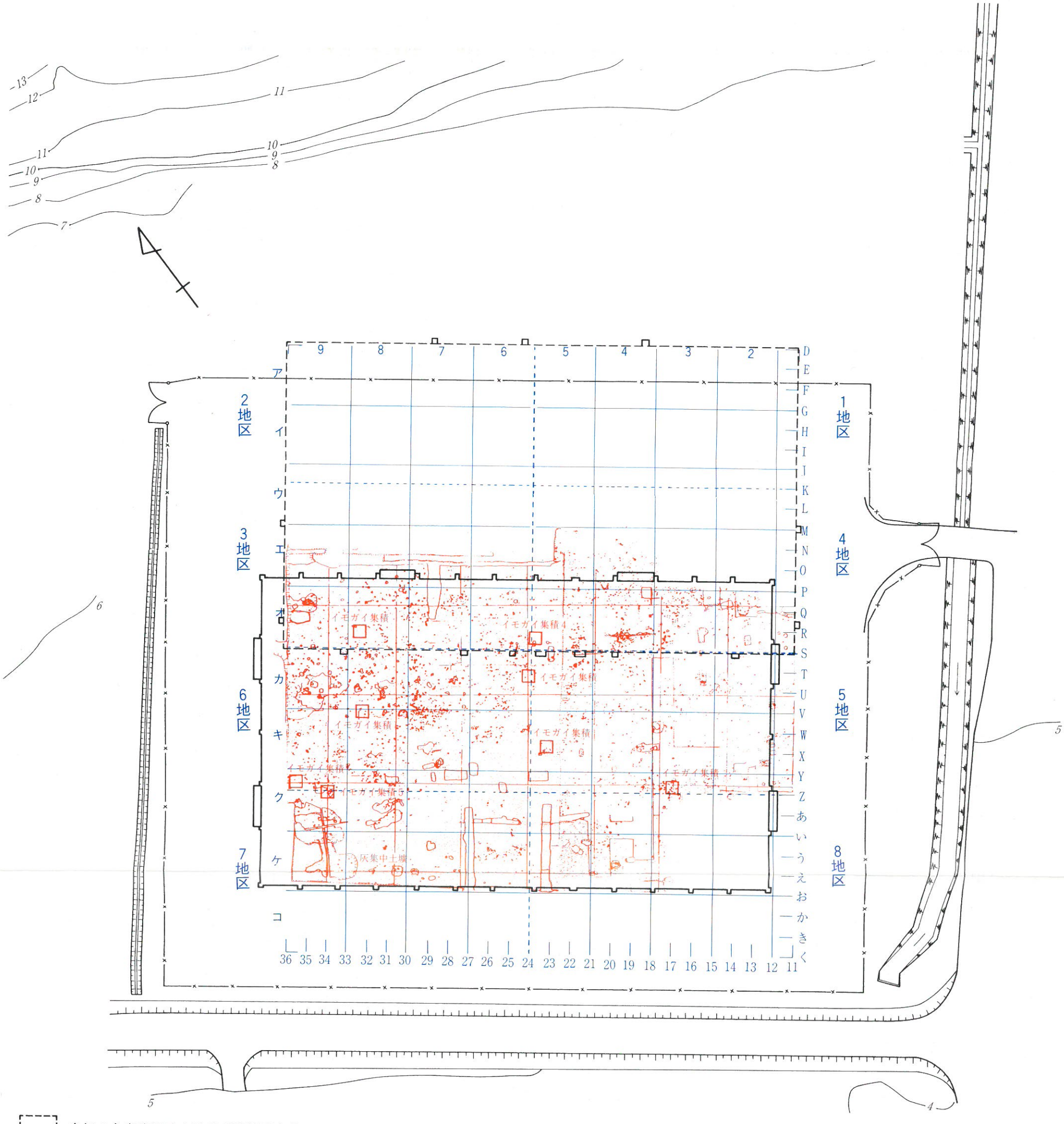
Ⅳ層－黒褐色の遺物包含層。Ⅱ・Ⅲ層とは異なり、本層からは砂層になる。変更後の発掘調査地域（5～8地区）に展開している。20cm前後の厚みを有し、ほぼ水平に堆積している。調査地域の南東側、南側、南西側では大きく撹乱された箇所も見受けられるが、調査地域外にも延びている。遺物の集中部がそれほど間隔をあけずに点在してみられ、夥しい量の遺物が得られている。上部と下部で出土する遺物に若干違いが見受けられる。上部はくびれ平底の土器が主体で、貝類はイソハマグリを中心とし、獣骨類はイノシシが主体をなす。下部は厚みのある土器が目立ってくるようになり、乳房状尖底・尖底のものが増える傾向にある。貝類はヒメジャコ、サラサバテイラなど大きなものが目に付き、獣骨類はジュゴンが多くなってくる。注目される遺物として石鏃（第35図1、2）や貝札（第61図53～58）、土製玉（第63図）などが上部から出土している。

Ⅴ層－黄緑色砂の遺物包含層。20cm前後の厚さを有し、3・4地区の南側から変更後の発掘調査地域（5～8地区）にみられる。南側では大きく撹乱されている部分も見受けられる。Ⅳ層に比べ遺物集中の度合いは粗になるものの、全体としての遺物量は少なくない。土器は乳房状尖底および尖底のものがほとんどで、貝類はシャコガイ、サラサバテイラ、ゴホウラなどの大型貝が多く、獣骨類ではジュゴンが頭骨（図版9－5）や肋骨など多く見受けられる。北側においては本層の上面や下部で柱穴が検出されており、中には平面プランの確認できるものが検出されている（第8図）。また、アンボンクロザメの集積遺構も数箇所で確認されている（第9図、図版7）。上部からは第16図1に示す搬入土器が出土している。調査区の南西側では灰の集中する部分（第12図）も見受けられた。

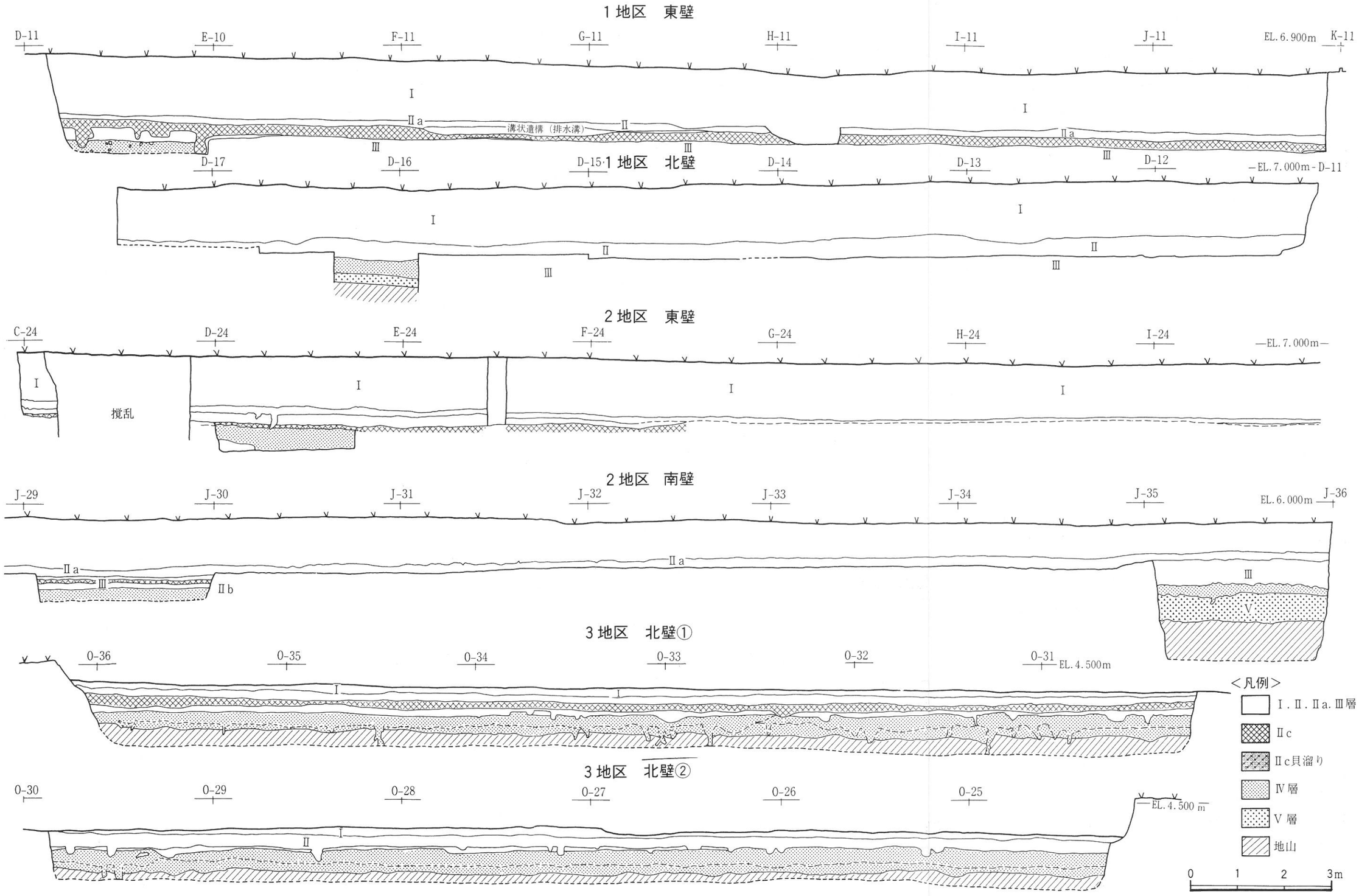
Ⅵ層－黄褐色砂の遺物包含層。3地区の試掘トレンチで確認しただけであり、全体的な状況は判然としない。1・2地区の試掘の状況や4～6地区の発掘の状況からすると、2・3地区から西側に広がるものとみられる。試掘トレンチではⅢ層の直下にあり、30cm前後の厚みを有す。遺物の出土量は少なく、土器では間延びした感じのカヤウチバンタ式（第15図1）や頚部下端で逆くの字状に折れ曲がるもの（第15図3・4）などが出土している。**（本文・表の3地区Ⅴ層）**

Ⅶ層－灰黄色砂の遺物包含層。層の広がりは1地区を中心とした比較的狭い範囲のようで、1・2地区の北壁および南壁沿いに設けた12箇所の試掘穴の状況から、2地区の東側から1地区に広がるものとみられる。1地区北側で厚く（約30cm）、北東隅に設けた試掘穴では遺構かとみられる礫の集中部も検出されており、この辺りに中心部があったかと想定される。試掘穴だけの発掘であり、全体の状況は不明。得られた遺物の量は少なく、土器では神野E式、伊波式（第14図4～7）などが認められ、石器は磨り石が得られている。**（本文・表の1地区Ⅳ層）**

Ⅷ層－無遺物の白色砂層。本地域一帯の基盤をなす、いわゆる地山層。Ⅴ～Ⅶ層に比べ、砂粒が粗く、さらさらする。5・6地区では東西方向に延びる軽石の帯状の広がり（幅約4m）がみられ、さらに、調査区外にも延びている。

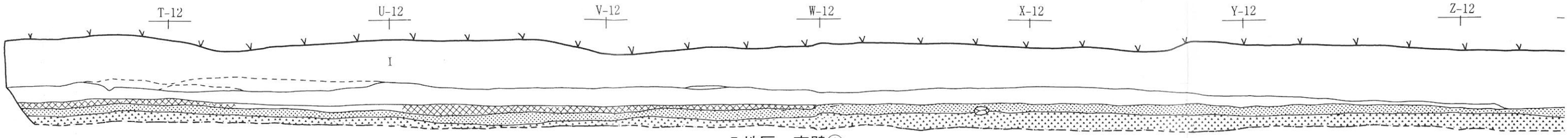


第2図　グリット設定（黒－倉庫、青－グリット設定、赤－遺構検出状況）

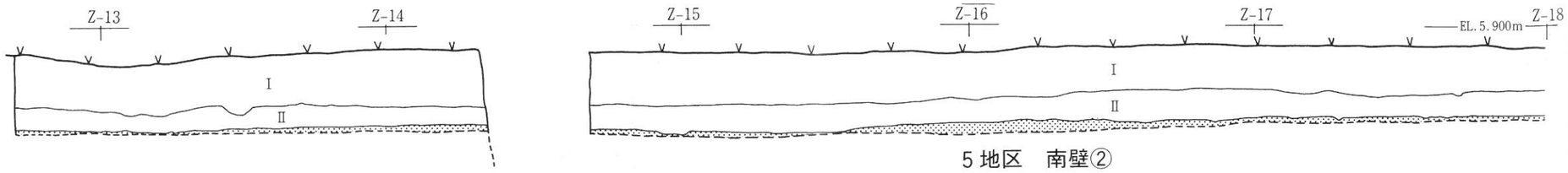


第3図　層序①　1地区－東壁・北壁、2地区－東壁・南壁、3地区－東壁

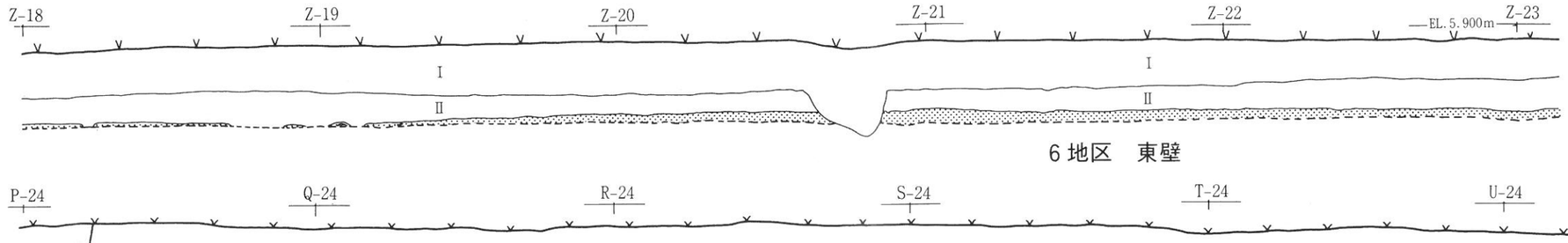
5 地区　東壁



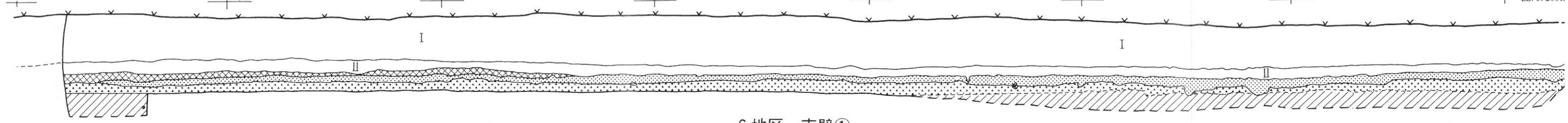
5 地区　南壁①



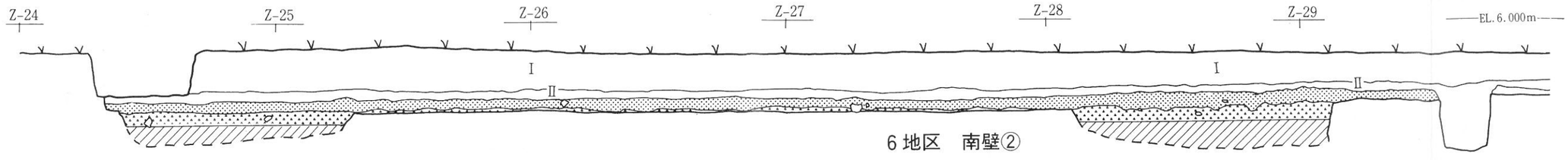
5 地区　南壁②



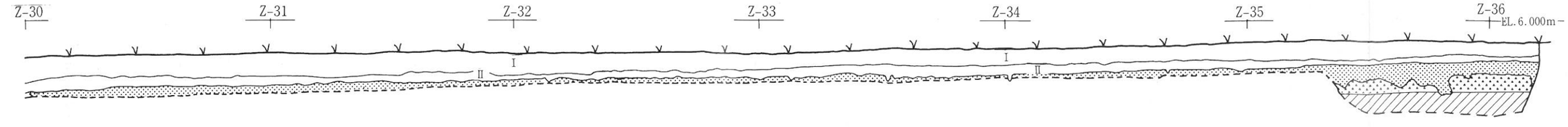
6 地区　東壁

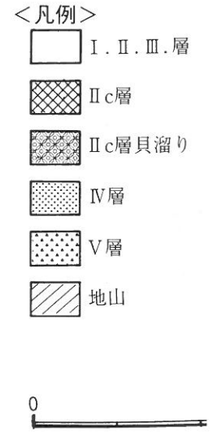


6 地区　南壁①



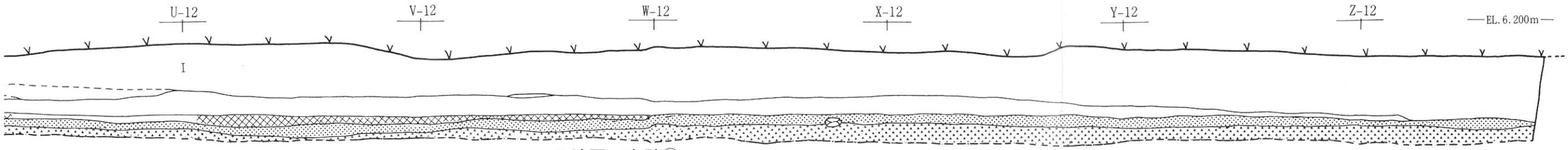
6 地区　南壁②



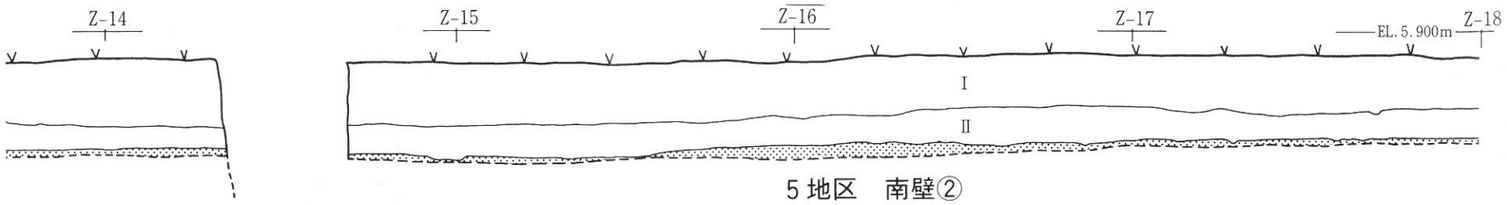


第 4 図　層序②　5 地区－東壁・南壁、6 地区東壁、南壁

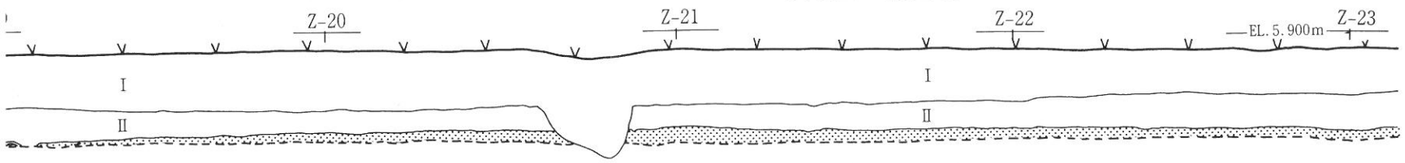
5 地区　東壁



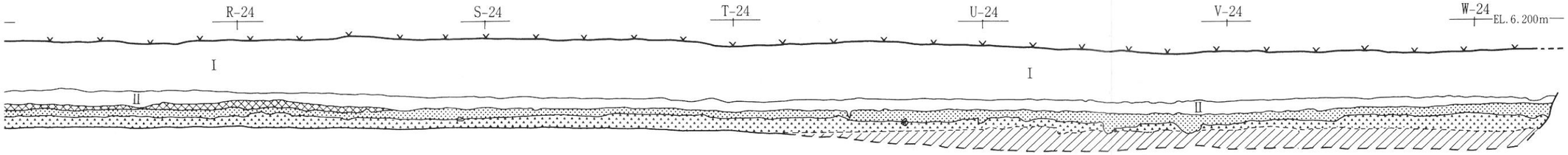
5 地区　南壁①



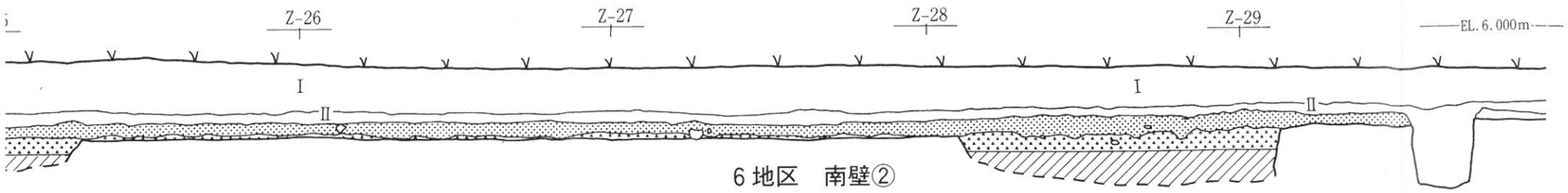
5 地区　南壁②



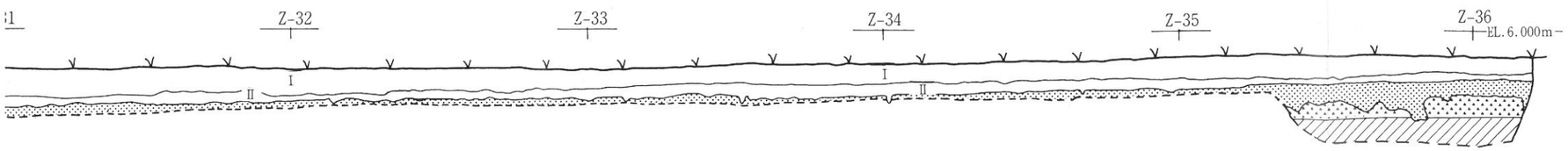
6 地区　東壁

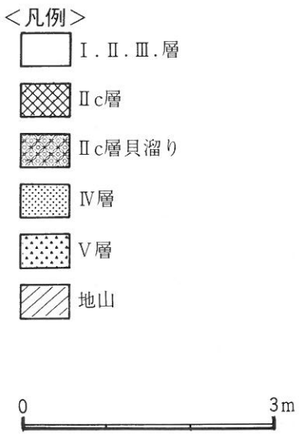


6 地区　南壁①

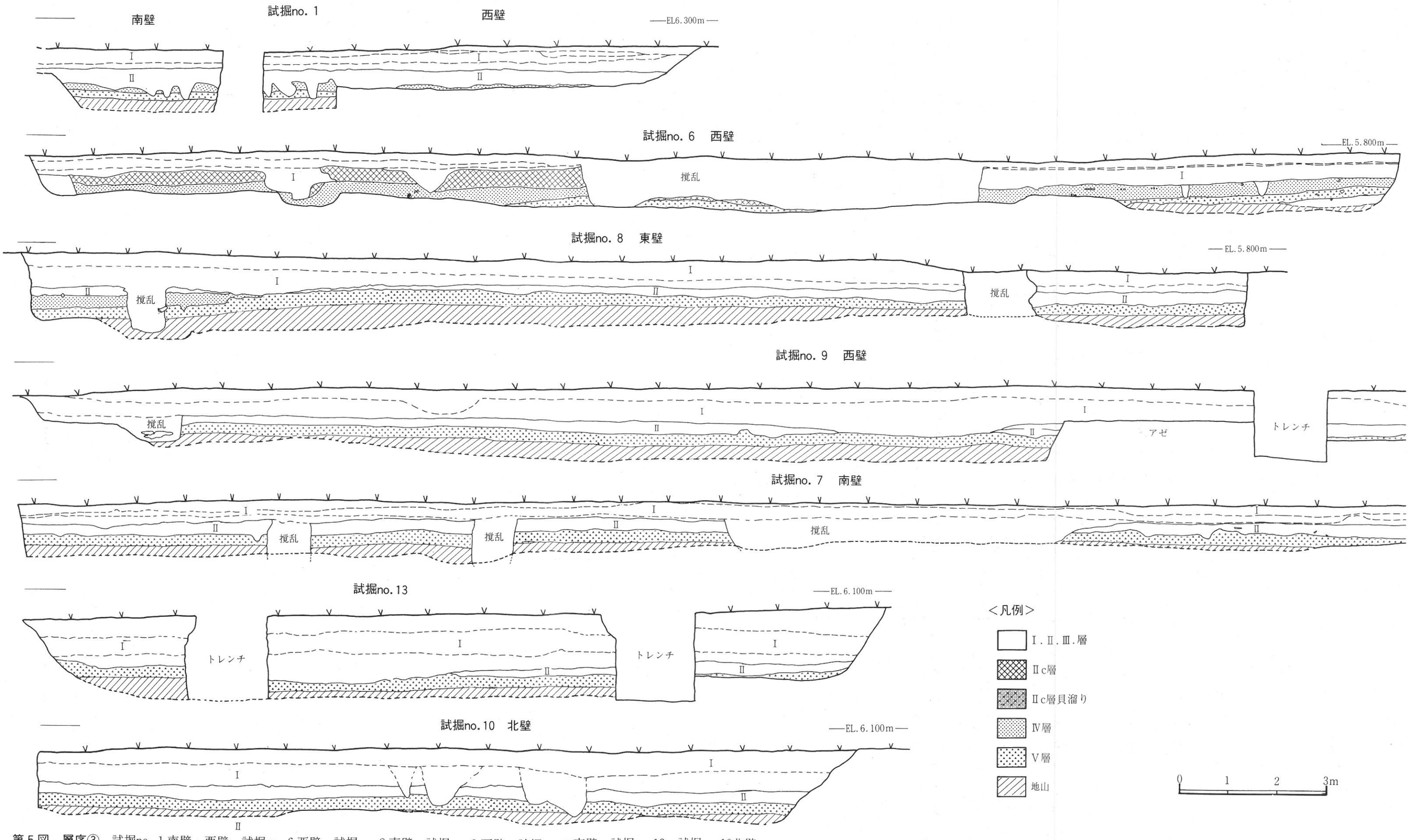


6 地区　南壁②



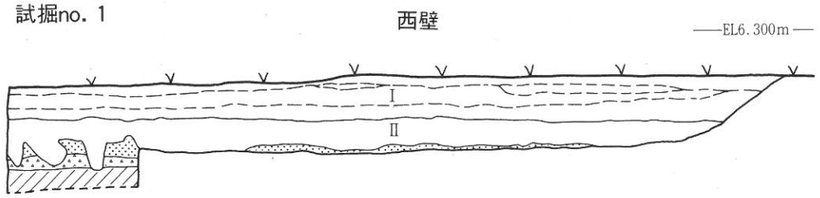


壁、6 地区東壁、南壁

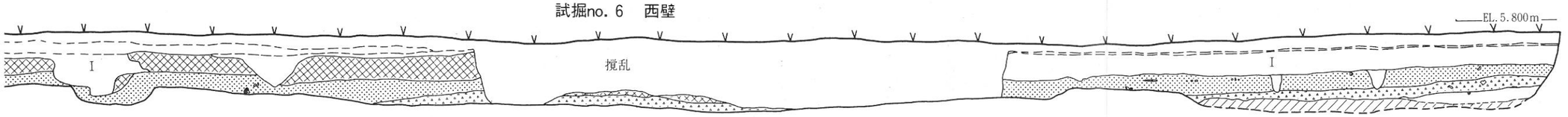


第５図　層序③　試掘no. 1 南壁・西壁、試掘no. 6 西壁、試掘no. 8 東壁、試掘no. 9 西壁、試掘no. 7 南壁、試掘no. 13、試掘no. 10北壁

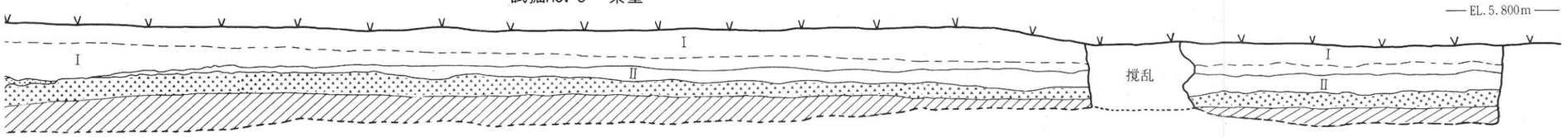
試掘no. 1　西壁



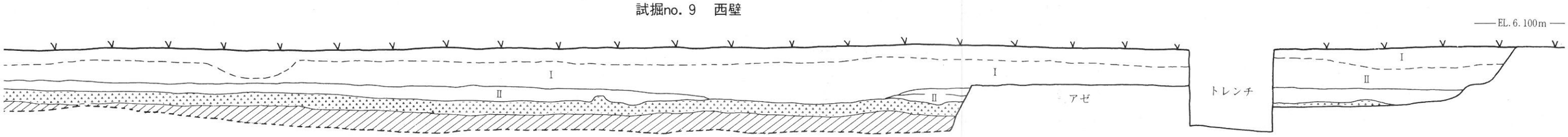
試掘no. 6　西壁



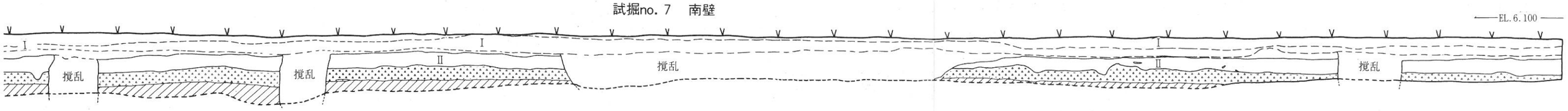
試掘no. 8　東壁



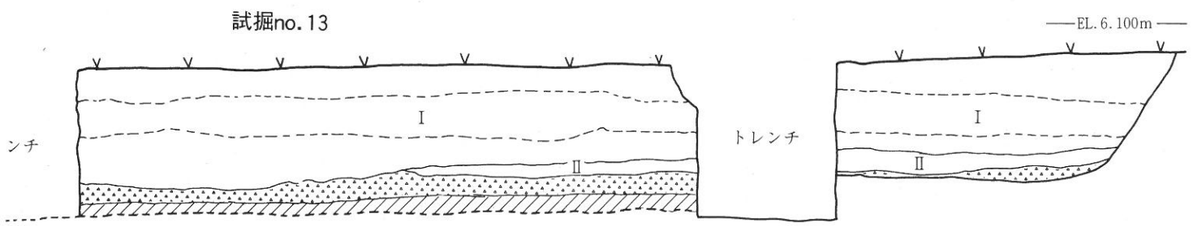
試掘no. 9　西壁



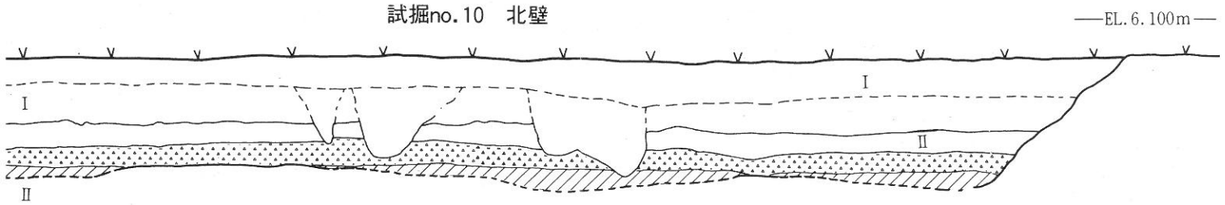
試掘no. 7　南壁



試掘no. 13



試掘no. 10　北壁



、試掘no. 6 西壁、試掘no. 8 東壁、試掘no. 9 西壁、試掘no. 7 南壁、試掘no. 13、試掘no. 10北壁

第Ⅴ章　遺　構

今回の調査により本遺跡は沖縄前Ⅳ期～グスクまでの複合遺跡であることが判明している。面積的に広い範囲の発掘調査を行なった沖縄後期～グスクの時期において、ピット群の検出、土壙、大型イモガイの集積遺構、溝状遺構など当該時期に属す遺構が検出されている。以下、検出された遺構について、その概要を記す。

1．ピット群

Ⅱb層面、Ⅲ層面、Ⅴ層上面、Ⅴ層下面において、ピット群が検出されている。それぞれについて、概要を記す。

イ．Ⅱb層面検出のピット群（第6図）

1・2地区に広がる本層の上面で無数のピット群が検出されている。特に、2地区においては南北に走る溝状の遺構も東西で確認され、集落の在り方を窺わせるような状況であった。ピットは直径が10cm前後の円形状のものが多く、深さは20cm前後のものが主体をなす。しかし、径が100～200cmの不定形状のものの中に数個のピットが検出されるようなところや円形状のものが数個繋がるような感じで連続するところなども見受けられた。

無数に検出されたピット群であるが、平面プランの掴めるものはほとんど見受けられなかった。ただ、2地区の南側において長方形状のもの（1間×2間）が1棟想定されているだけである。なお、1地区西側のピット群は確認しただけで掘下げは行なわなかった。Ⅱa層の時期のものかと考えられる。Ⅱa層は量的には少ないものの、12世紀～14世紀頃の中国産陶磁器、滑石製石鍋の破片、須恵器などが得られている。

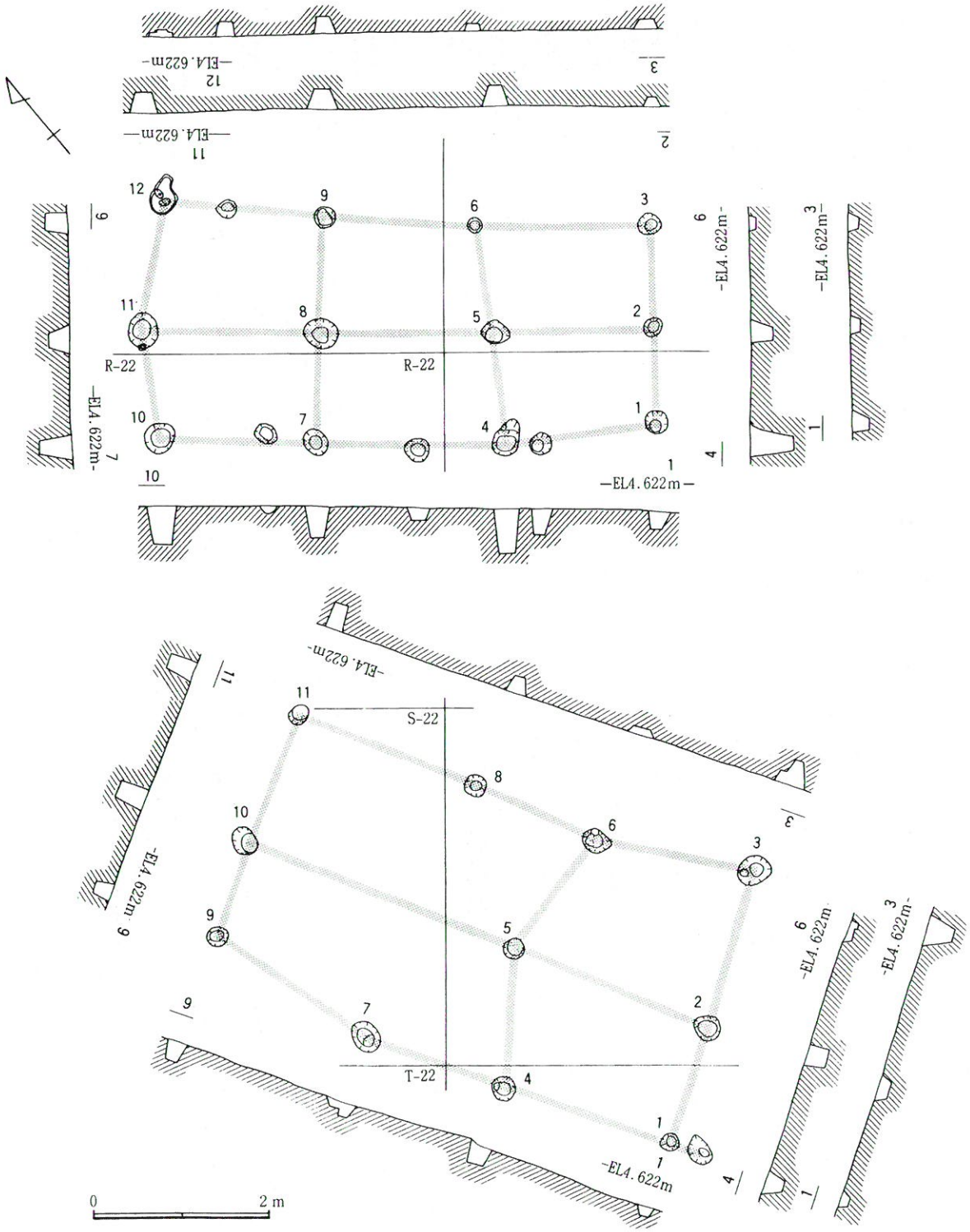
ロ．Ⅲ層面検出のピット群（第7図）

1地区の東側、3地区南側で検出されている。両地区の状況からすれば、当初発掘調査地域のほぼ全面に認められるものと推察される。Ⅱb層面のものより若干大きめで、直径が約20cmの円形状のものが多いようである。深さも約30cmとやや深いものがほとんどである。ただ、部分的な検出であり、平面プランの窺えるようなものは見受けられなかった。

ピットからは土器・石器・貝・骨などの遺物が得られたものも多く、また、拳大の石灰岩礫が入っているものなども見受けられた。

ハ．Ⅴ層上面検出のピット群

前述のピット群よりは疎らになり、Ⅴラインあたりで途切れ、以南にはおよばない。ピットの形状、大きさや深さはⅢ層面で検出されたものとほぼ同様である。部分的に集中するようにみられ、平面プランの掴めるものが1棟検出されている（第8図）。長方形状になるとみられるもので、縦は約310cm、横は約550cmである。大体2間×3間の大きさのようである。長い方に5本、短い方に3本ピットが並び、その中に2本のピットを配している。



第8図　V層のピット群　（Q・R－21・22－V層上面、S・T－21・22－V層下面）

ニ．Ⅴ層下面検出のピット群

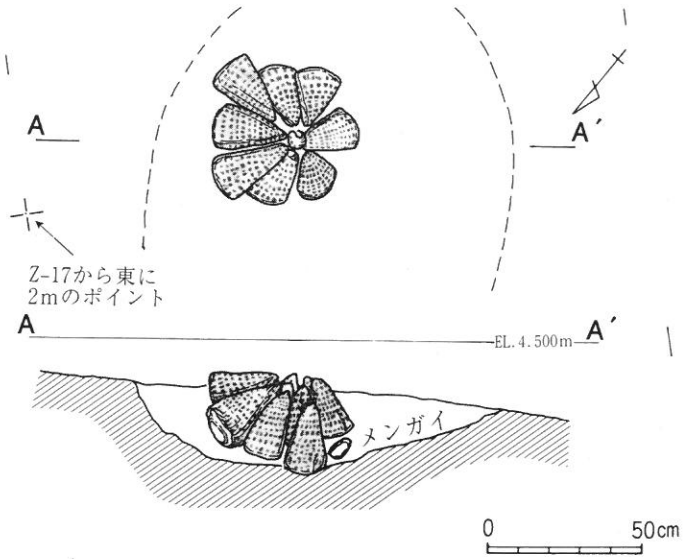
上面のピット群と同じような状況である。ピットの形状や大きさ、深さもさることながら、部分的に集中してみられることなども似たような状況を呈す。平面プランの掴めるものが１棟検出されている。上層のものの近くで認められ、大きさもほぼ同じである。縦が約310cm、横が約540cmで、ほぼ２間×３間の長方形状のものである。ただ、ピットの配置が異なり、長い方に４本、短い方に３本、中央に１本である。

２．大型イモ貝の集積

Ⅴ層で大型イモ貝（アンボンクロザメ）の集積が７基検出されている。この種の貝の集積遺構については、岸本・島氏により集成がなされ、貝種による分類やその性格づけなどについて九州本土のこの種貝製品の研究成果なども視野に入れながら検討がなされている。(註1) 時期的には沖縄前Ⅴ期末～後期初頭に集中することが指摘されている。その後の新資料の紹介とともに、九州本土の製品との時期的な対応などについて、南海産貝輪の供給地としての現状や問題点などが提起されている。(註2)

最近では久米島の清水貝塚(註3)などで報告されており、これからも増えていくものと予想される。当該時期の南島－九州本土間の交流のみならず、全国規模の交流解明の足掛かりになるものと考えられ、今後も注意される遺構のひとつである。

本遺跡のものをみると、集積遺構が検出されたⅤ層は乳房状尖底・尖底の時期の層であり、時期的には符合している。検出されたもので６～10個集積しているものはほとんどが殻頂を下向きにして円形に配するもので、岸本・島氏のⅢ類Ａタイプに入る。伊江島具志原貝塚、ナガラ原西貝塚などから類例の報告が知られている。また、２・３個のものは横に置かれた状態で検出されている。以下、検出された集積遺構の



第９図　イモガイ集積（８地区Ｚ－17Ⅴ層面）

第１表　イモガイ集積計測一覧

集積	No.	堆	グリット	層	殻高	殻長	完/破	重量	貝種
1	20	3	R-32	V下	10.1	5.6	完	200	イボカバイモガイ
	17				10.4	5.8	完	220	アンボンクロザメ
	16				11.7	6.7	完	270	
	19				11.7	6.1	完	230	イボカバイモガイ
	15				11.8	6.7	完	320	アンボンクロザメ
	18				12.1	6.4	完	270	イボカバイモガイ
	14				12.3	7	完	350	アンボンクロザメ
2	13	6	T-24	V下	8.9	5.1	完	150	アンボンクロザメ
	11				10.5	5.9	完	220	
	12				10.8	6.1	完	240	
	9				11.1	6.3	完	280	
	7				11.2	6.7	完	330	
	4				12.9	7.9	完	500	
	5				12	7.2	完	360	
	6				12.7	7	完	280	
	8				12.1	6.7	完	320	
	10				11.5	6.4	完	290	
3	21	6	V-32	V下	11.6	6.7	完	320	アンボンクロザメ
	22				12.2	7.6	完	460	
	23				11.3	6.9	完	350	
4	95	6	R～Z24	Ⅳ	9.8	5.6	完	160	アンボンクロザメ
	96				9.9	5.5	完	200	
	97				9.9		破		
5	43	7	Z-34	V下	14.4	8.3	完	580	アンボンクロザメ
	44				11.9	6.8	完	350	
	45				12.6	6.9	完	380	
	46				12.5	7.4	完	400	
	47				12.6	7.4	完	440	
	48				16	9	完	730	クロフモドキ
6	32	6	X-24	V下	12.4	7.6	完	470	アンボンクロザメ
	33				11.6	6.7	完	240	
7	25	7	Z-35	V	11.8	7.1	完	300	アンボンクロザメ
	26				12.1	6.9	完	310	
	27				11.3	6.7	完	260	
	28				11.4	6.4	完	290	
	29				10.7	6.5	完	290	
	74				12.3	7.1	完	340	
	30				12.5	7.6	完	370	
	31				11.5	6.6	完	340	
8	49	8	Z-17	V	13.5	7.9	完	580	アンボンクロザメ
	50				12.7	8	完	480	
	51				12.4	7.3	完	440	
	52				12.5	7.5	完	440	
	53				11.7	7.3	完	400	
	54				11.4	7.1	完	410	
	55				12	7.2	完	420	
	56				12	7.3	完	420	
	57				11.9	6.9	完	330	
	58				12	7.4	完	370	

中からＺ－17、Ｔ－24グリット検出のものについて略述する。

Ｚ－17グリットのものはグリット北西側で検出されている（第９図）。残した畦の断面から、若干掘窪めて集積したことが判る。掘り方は北側がやや直方向に立ち上がり、南側は緩やかな傾斜になっている。確認できる掘り方の径は約60cmであるが、平面の形状は判然としない。また、確認できる深さも集積されている貝の殻高とほぼ同じ約12cmである。貝は最深部付近に集積されており、まず、１個を殻軸がほぼ直立するように置き、その貝にもたせ掛けるように殻軸を上に向けた８個の貝を周りに配置している。

Ｔ－24グリットのものはグリット南西側で検出されている。土層観察用に残してあった１グリット幅の畦にあり、上部をユンボで除去した際の影響か集積された貝全体が西側にずれ落ちたように検出された。そのため、写真撮影を行なうのがやっとで（図版７）、実測は行なえなかった。Ｚ－17グリットのもののような集積の状況などは掴めなかった。集積された貝はＺ－17グリットのものよりは若干小振りのものが中心である。今回検出された集積遺構の貝の大きさをみると（第１表）、いずれの集積においても殻長が10～13cm、殻高が６～７cmのものに集中する。同じような大きさの貝が選択されたものと考えられる。

註

註１．岸本義彦・島　弘「沖縄における貝の集積遺構－ゴホウラ・イモガイを中心に－」『紀要』第２号　沖縄県教育委員会文化課1985年３月

註２．島袋春美「南島からみた貝の交易－弥生時代を中心に－」　考古学ジャーナル　No311　1989年11月

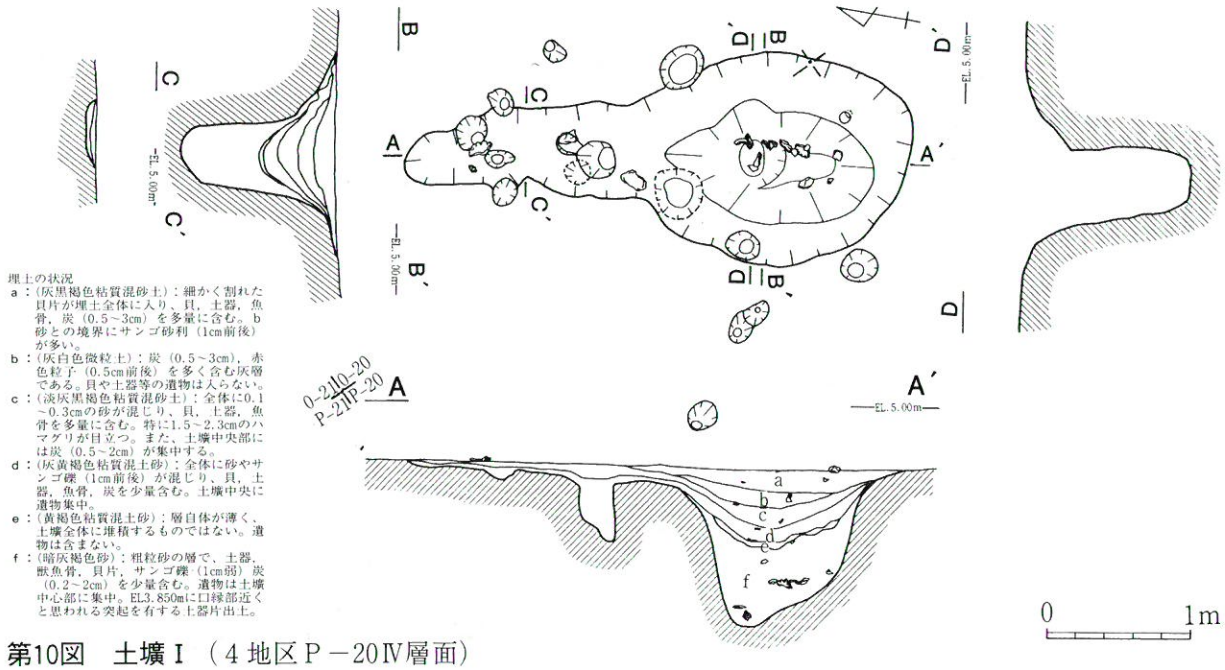
註３．「清水貝塚　発掘調査報告書」『具志川村文化財調査報告書第１集』　具志川村教育委員会　1989年３月

３．土　壙

２基の土壙が検出されている。Ｏ・Ｐ－20グリットの第Ⅳ層面のもの（第10図）とあ・い－33～35グリットの第Ⅴ層面のもの（第12図）である。以下、それぞれについて略述する。

イ．Ｏ・Ｐ－20グリット検出の土壙

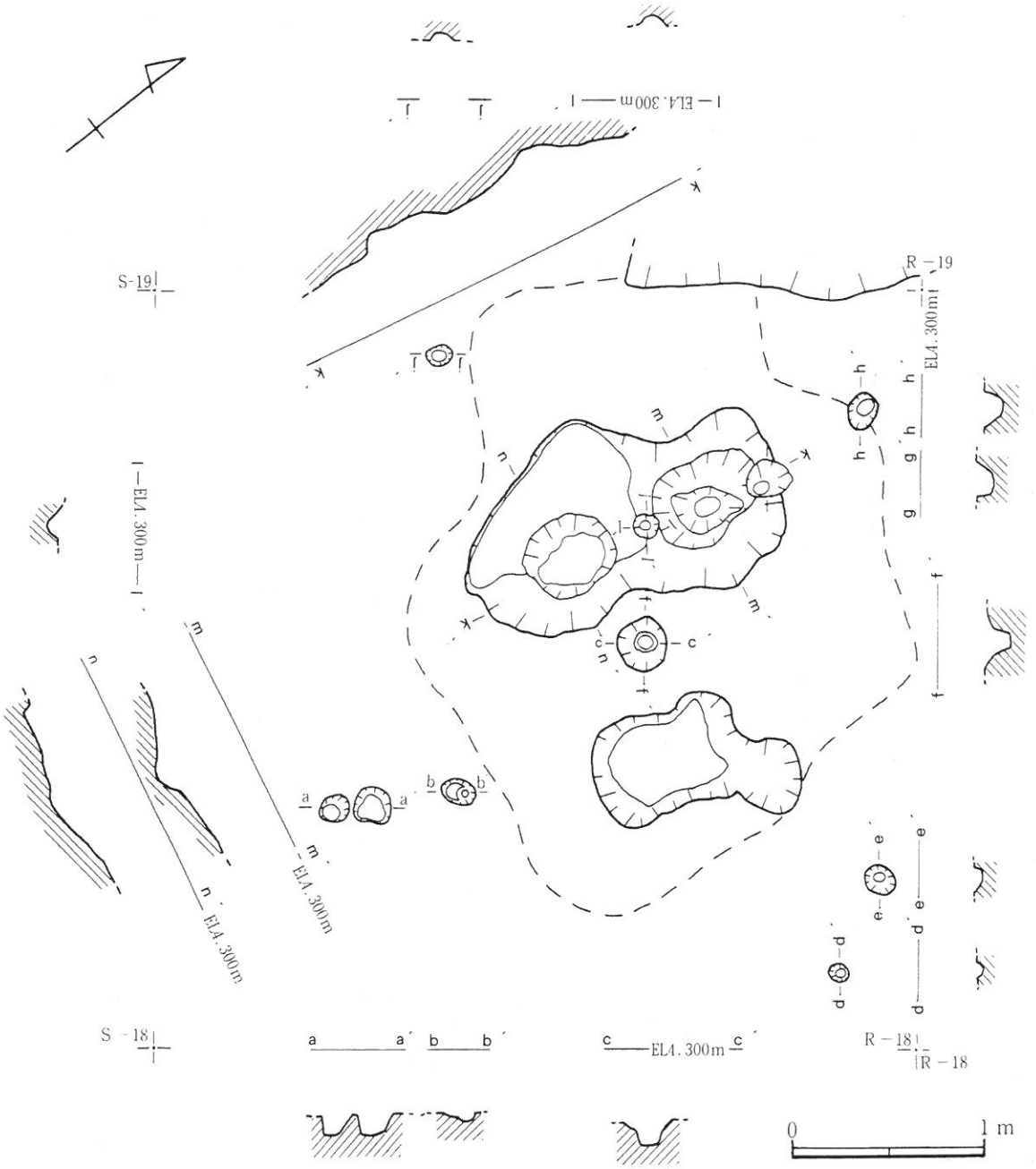
Ｐ－20グリット北東隅からＯ－20グリット南側にかけて検出されたものである。上層の貝集中部（Ⅱc層）を掘り下げた面で確認され、東側が楕円形状（長径が約180cm、短径が約150cm）に膨らみ、西側の方



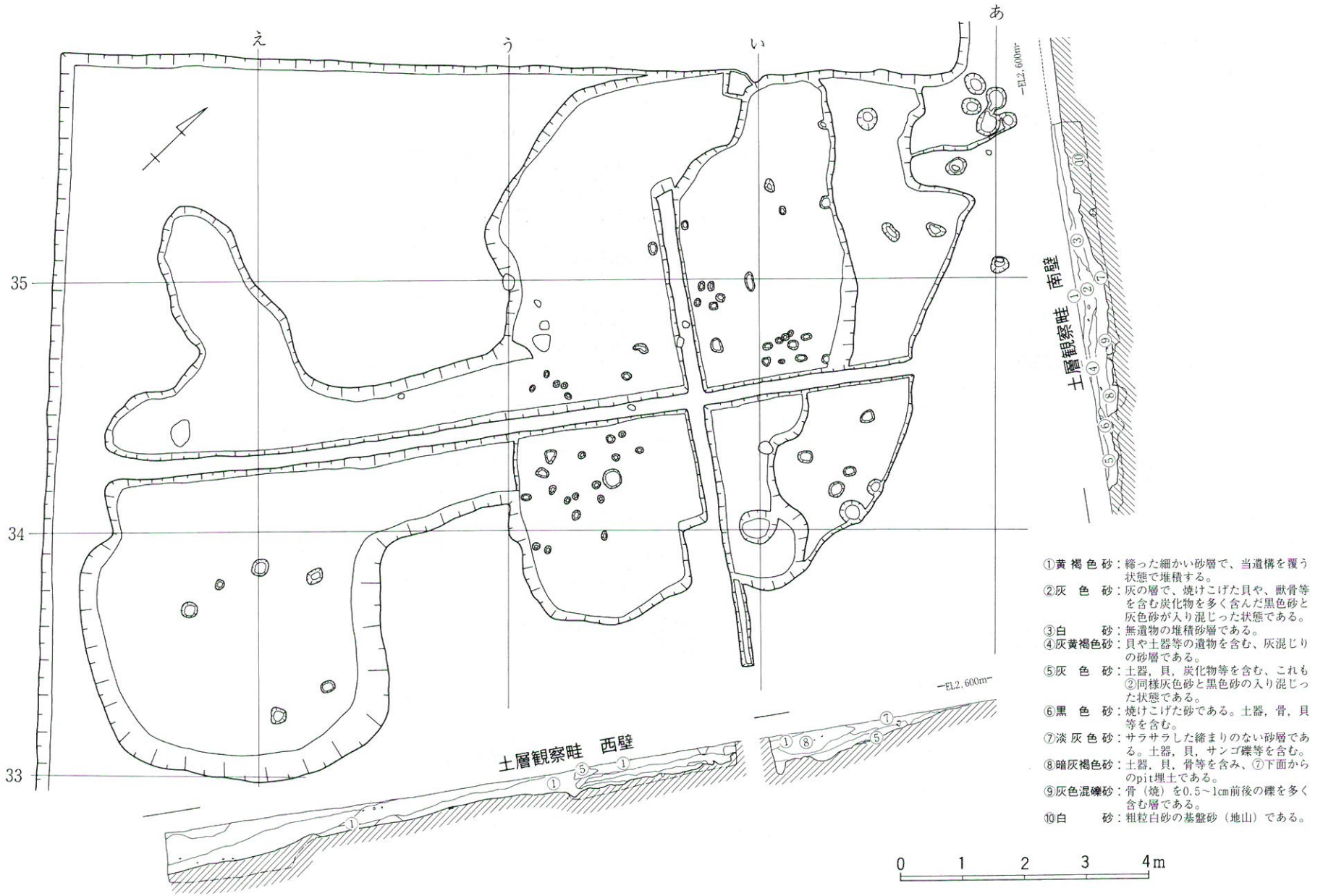
第10図　土壙Ⅰ（４地区Ｐ－20Ⅳ層面）

へ細くなっている。全体の平面形がオタマジャクシに似たような形状を呈し、全長が約350cmである。西側の細い部分（幅約50cm）は緩やかな傾斜で東側へ移行するが、途中２箇所に柱穴状の落ち込みがみられる。ひとつは楕円形状（長径約20cm、短径約12cm）を呈し、鍋底状に掘り込まれた小さめのもので、深さは10cmぐらいの浅いものである。もうひとつは円形状（直径約25cm）を呈し、ほぼ直方向に掘込まれ、片側は約40cm、反対側は約30cmの深さである。

東側の楕円形状の部分は横断面からみると漏斗状の掘り方になっている。上方が緩やかな弧状を呈し、中央部付近で直方向に近い感じで掘込まれている。西側が約114cmと最も深くなり、そこから東側へS字状に若干の段を有すように立ち上がっていく。覆土の状況をみると、下層のものが最も厚く60cm前後を測りその上方のものはいずれも10cm前後の厚みである。遺物は土器・貝・獣魚骨のほか、炭やサンゴ砂利が目につき、いずれの層においても中央部に集中する傾向がみられ、周辺から流れ込んで堆積したことが窺える。どのような性格のものかは判然としない。



第11図　土壙Ⅱ（5地区Ｒ－19）

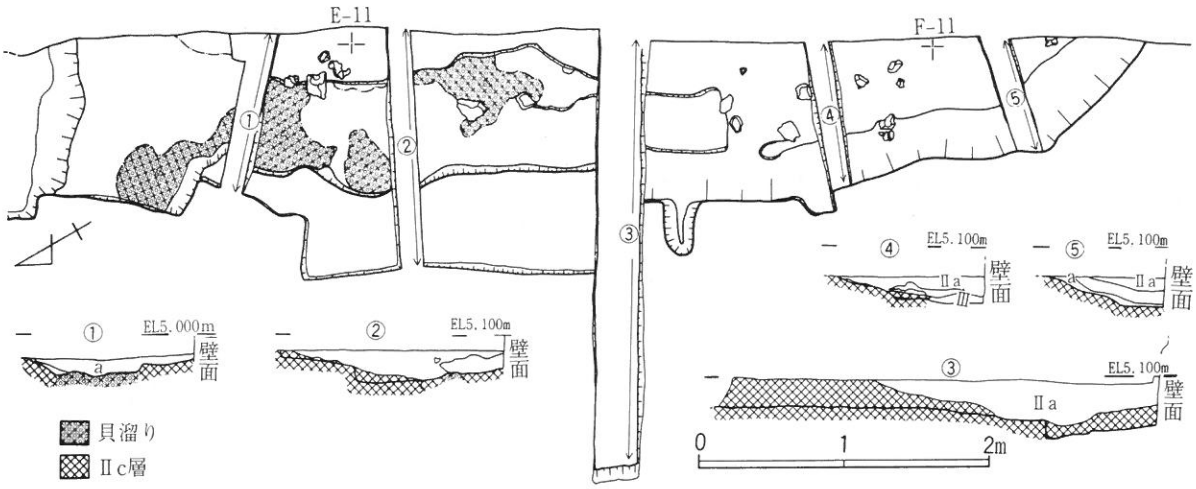


第12図　灰集中土壙（７地区あ～え－33～35）

ロ．あ・え－33～35グリット検出の土壙

7地区の南西隅で検出されており、約2m離れて南北にみられる土壙をつなぐような形状で確認された（第12図）。北側の土壙は直径が約8mの円形状を呈し、ゆるやかな鍋底状になり、中央付近の深いところで約25cmである。南側のものは楕円形状（長径が約6m、短径が約4m）を呈し、堆積層はゆるやかに南側へ傾斜している。潜り込むようにみられる灰色砂を追いかけて掘り下げた結果としてこのような形状になった。南側の深いところで約60cmである。両者とも下層の白砂上面にピット状のものが検出されたものの、どういうものか判然としない。

堆積層の状況には違いがみられる。北側のものはレンズ状の小範囲にみられる層が重なり合うようにみられ、南側のものは2枚の層が整然と認められる。図に示した番号は各層の状況を意味したものである。遺物の出土量は多く、土器はほとんどが乳房状尖底（第26図8）で、ガラス小玉（第81図）やアンボンクロザメガイなども見受けられた。また、焼けた貝殻や獣・魚骨類、炭化物なども多く見受けられた。乳房状尖底の時期の遺構とみられるものの、性格的には判然としなかった。



第13図　1地区溝状遺構（①、②、③、④、⑤は断面図の位置）

第Ⅵ章　出土遺物

今回の調査により沖縄新石器前Ⅳ期～グスク期にかけての複合遺跡であることが判明し、各時期の遺物が得られている。特に、今回の新石器調査のメインになった沖縄後期の時期の遺物は膨大な量が得られている。土器・石器・貝製品・骨製品・輸入陶磁器・須恵器・滑石製石鍋・青銅製品・鉄製品・貸銭・沖縄産陶器などの人工遺物と貝類、獣・魚骨類などの食料残滓があり、内容も豊富で本時期の様相を窺わしめるものである。以下、今回得られた遺物の概要について種別に簡記する。

第２表　人工遺物出土状況

出土地	1 地区									2 地区						3 地区						4 地区							5 地区						
種類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱa	ⅡC	Ⅳ	Ⅳ上	Ⅴ	不明	攪乱	Ⅰ	Ⅱ	ⅡC	Ⅳ	Ⅴ		Ⅰ	Ⅱ	ⅡC	Ⅳ	Ⅳ	Ⅴ		表/攪Ⅱ	ⅡC	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ	表/攪Ⅱ	ⅡC	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ
土器	1	269		164	18	1	4	17		5	15	14	9	3		2	7	2	15	2	5		6	3	30	67	12	7	7		11	11	28	2	233	37	46	34
石器			4	12	3		1				1		1				2		5		4				2	1	10			1				28			5
貝製品	2	3		29	2			1		1			2	2		7	3		2		4		3	1	1	28			8		2	1	1	71			26
骨製品				11	1																															
土玉製品																																				
青磁	3	2								1						3	1														3					
白磁										1																										
染付	1	1								1						1														1						
輸入陶器	1	3														1																				
本土産陶磁器		1														3	6						3								1					
須恵器	2	5																													3					
沖縄産陶器	27			18						9	1					19	20						2	1	4					4		6				
瓦質土器																																				
陶質土器	2	3						1		1							3													2						
滑石製石鍋		5															1							1							1					
鉄製品		1																																		
青銅製品																																				
貨銭											1						1							1										1			
ガラス小玉																																				
羽口																										1										
円盤状製品																																				
土製品									1																											
合計	39	293	4	234	24	1	5	19	1	19	18	14	12	5		36	43	3	22	2	13		14	6	38	1	106	12	7	16	20	20	35	2	333	37	46	65

出土地	6 地区						7 地区								8 地区							地区不明				合計
種類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ	表/不Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ	土壙	土壙2	表/攪Ⅱ	ⅡC	Ⅳ	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ		表/攪Ⅱ	ⅡC	Ⅳ	Ⅴ	
土器	23	4	654	17	76	103	233	63	873	21	283	371	2	25	11	4	133	71	11	9		155	18	3	20	3	4273
石器			54			15	3	2	79			58	16	2			25			2		43					379
貝製品	6		188			31	56	28	330			154			6		75			7		37	4		1		1124
骨製品			6					1	5			5					1					1					31
土玉製品			5			1																					6
青磁	3						2	1							1	1						9					30
白磁							1								3	1		1				4					11
染付	1						5	2							2	1						4					20
輸入陶器	1	2					3	4				1			3							8					27
本土産陶磁器	2	2					12	9							7	5						19					70
須恵器	1						5	4																			20
沖縄産陶器	13	7					62	33							69	37						82					414
瓦質土器																						1					1
陶質土器							7								4	1						4					28
滑石製石鍋							1	1																			10
鉄製品																						1					2
青銅製品									1													1					2
貨銭	1		1	1			3																				10
ガラス小玉									1																		1
羽口																											1
円盤状製品															1							1					2
土製品																											1
合計	51	15	908	18	76	150	393	147	1289	21	283	589	18	27	107	50	1	235	71	11	18	370	22	3	21	3	6463

第1節　土　器

今回の調査により夥しい量の出土があった。これらの資料はかなりの時期幅がみられるものの、今回の調査の主体となった沖縄新石器後期のものがほとんどで、接合して全形の窺えるもの、また、ある程度全体の形が推測できるものなども数多く含まれている。特に、乳房状尖底は層位的な出土傾向など、この種の土器の様相解明に大きな手がかりをあたえるものである。さらに、壺形やミニチュア土器、九州系の搬入土器などこの時期の土器をとりまく状況が窺えるような豊富なバリエーション、出土量になっている。

その他には神野E式、伊波式、大山式、室川式などの前Ⅳ期の土器、前Ⅴ期と考えられるカヤウチバンタ式や縄文晩期系の土器も若干見受けられるほか、グスク系の土器も僅かにみられる。このように得られた資料はかなりの時期幅を有しており、時期的な面から下記のように分類した。なお、時期区分については第3表の編年を用いた。

第3表　沖縄諸島の暫定編年（高宮廣衞氏作成）

本土		沖縄	土器型式	沖縄諸島発見の九州系土器	その他の編年資料	現行編年
縄文時代	早期	前期 I	野国第4群 ヤブチ式土器 東原式土器	爪型文土器	ヤブチ式 6670±140Y. B. P. 東原式 6450±140Y. B. P.	早期
	前期	Ⅱ	条痕文土器 室川下層式土器 曽畑式土器 神野A式土器 神野B式土器	条痕文土器 曽畑式土器	曽畑式（渡具知東原） 4880±130Y. B. P.	
	中期	Ⅲ	面縄前庭Ⅰ式土器 面縄前庭Ⅱ式土器 面縄前庭Ⅲ式土器 面縄前庭Ⅳ式土器 面縄前庭Ⅴ式土器	旧具志川A式 旧具志川B式 旧具志川C式 旧神野C式 旧面縄前庭式		
	後期	Ⅳ	神野D式土器 神野E式土器 伊波式土器 荻堂式土器 大山式土器 室川式土器		伊波式（熱田原） 3370±80Y. B. P. 伊波式（室川） 3600±90Y. B. P.	前期
	晩期	Ⅴ	室川上層式土器 宇佐浜式土器 仲原式土器		入佐式並行 黒川式土器	中期
弥生時代	前期	後期 I	真栄里貝塚	板付Ⅱ式土器 亀ノ甲類似土器		後期
	中期	Ⅱ	具志原式土器	山ノ口式土器		
	後期	Ⅲ	アカジャンガー式	免田式土器	アカジャンカー式は中津野式並行か？	
古墳時代～平安時代		Ⅳ	フェンサ下層式土器		類須恵器	

◎「フェンサ下層式は城時代初期」とする見解もある。　　（1991. 4. 5日改訂）

第１群－沖縄新石器前Ⅳ期に属すもので、神野Ｅ式、伊波式、大山式、室川式などが認められる。量的には僅少である。

第２群－沖縄新石器前Ⅴ期に属すかと考えられるカヤウチバンタ式のくずれたものや縄文晩期系とされる胴上部が逆くの字状に折れ曲がるものなどがみられる。量的には僅少である。

第３群－沖縄新石器後期に属すと考えられるもので、今回得られた資料のほとんどが本群に含まれるⅡｃ層、Ⅳ層が出土層位の主体をなしている。

第４群－グスク系土器と呼称されるもので、Ⅱａ層が出土層位の中心となる。量的には非常に僅少である。

これら４群の出土状況は第４表に示すとおりである。以下、群別に概要を記す。

第４表　土器出土状況

分類	出土地	1地区						2地区						3地区						4地区						5地区					
		Ⅱ層	Ⅱc	Ⅳ層	Ⅴ層	不明		Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅱc	Ⅳ層	Ⅴ層		Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅳ上	Ⅴ層	不明	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅱc	Ⅳ層	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ層	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅱc	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ層
第１群	口	1	1	4	2			2																						2	4				
	胴			2																															
	底					1																													
第２群	口	4													7			1																	
第１類	口		1																																
	胴																																		
第２類	口											1												1		1				2	1	1			
ミニチュア	口		2																											3	1				
	胴																																		
	底	1													1	2							1												
小型	口																																		
	胴																																		
	底	1														1								1											
第３群壺 無頸小型	口	1																												2					
第３群壺 無頸小型	胴																																		
第３群壺 有頸小型	口													1					1									1		1	1				
第３群壺 有頸小型	胴																																		
第３群壺	肩/頸																													1					
第３群壺	底																																		
第３群壺 大型無頸	口																															1			1
第３群壺 大型有頸	口		1																													1			2
第３群壺 大型有頸	胴																													1					
第３群壺・鉢形 第１種	口	43	47			5		1	4	7	1	2					2			1	1	1	4	7	4		5	2	3		62	9	14	12	
第３群壺・鉢形 第２種	口								4																				1		7	1	4		
第３群壺・鉢形 第３種	口		1		1			2	3	2	6				2	1										1		2	7		29	10	12	5	
第３群壺・鉢形 第４種	口		2		1	2																									1	2	1	1	
第３群壺・鉢形 第４種	胴																																		
第３群壺・鉢形 第５種	口		2																			1					1		2		7	1	3	3	
第３群壺・鉢形 第６種	口	5	9											1							1								1		3	4	1			
第３群壺・鉢形 第６種	胴	1	1																																
第３群壺・鉢形 種不明	口								1	5																									
第４群	口	4	1																	1															
有孔	口																																	1	
合計		61	68	6	4	8		5	12	14	7	3		1	2	12	1	2	1	2	1	2	6	9	4	3	6	5	14	2	123	32	37	24	

注：底部、有文は別表に集計し、胴部は時間の都合上集計しなかった。但し、ミニチュア、小型の底部はここに含めた。

分類	出土地	6地区							7地区							8地区							地区不明				合計
		Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ層		Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ層		Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅳ上	Ⅳ下	Ⅴ層		Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅴ層	不明	
第１群	口																							2	3	21
	胴																					1				3
	底																						2			3
第２群	口	2										1					1								6	22
第１類	口			1					1		4			3												10
	胴								1		2															3
第２類	口	1		4		1	1		1		3		3	5				1							1	28
ミニチュア	口								1	2(1)	6(1)			3			1									21
	胴										1					1										2
	底								4	1	18			4			1						1	1		35
小型	口										4		2					1						2		9
	胴														1											1
	底								3	1				2			1									10
第３群壺 無頸小型	口	1	1	5		1					2			3	2			1								19
第３群壺 無頸小型	胴										1															1
第３群壺 有頸小型	口	2		9		1	1				5			2	2			2							1	30
第３群壺 有頸小型	胴			1																						1
第３群壺	肩/頸			1		2			1		5			2	3										1	16
第３群壺	底								1		1															2
第３群壺 大型無頸	口			2		1								1	3											9
第３群壺 大型有頸	口	1		1		1	1			1	1			2	7										1	20
第３群壺 大型有頸	胴	1		2		1	1								2											8
第３群壺・鉢形 第１種	口	5	2	223	10	29	43		50	37	152		8	102	113		1	21	29	4	6	5	5	1	43	1126
第３群壺・鉢形 第２種	口			9	1	2	2		6	5	31			15	30			7	6	1					1	133
第３群壺・鉢形 第３種	口			80	2	20	21		10	11	37		2	40	54		1	11	6	2					11	392
第３群壺・鉢形 第４種	口			24		3	5		2	2	28		1	17	26		1	3		1					5	128
第３群壺・鉢形 第４種	胴														1											1
第３群壺・鉢形 第５種	口	1		20		6	4		3		21			5	13										1	94
第３群壺・鉢形 第６種	口			6		2	1		2		8			2	2			1	3			1			3	56
第３群壺・鉢形 第６種	胴														1											3
第３群壺・鉢形 種不明	口																									6
第４群	口																						1		2	9
有孔	口			4							1	6	1	2	5				1				1		1	23
合計		14	3	392	13	70	80		86	62	337	13	198	281		2	3	47	50	8	7	7	9	3	83	2245

1．第1群

出土量は多くないものの、神野E式、伊波式、大山式、室川式が認められた。前2者は1地区の試掘の際にⅢ層の青灰色粘土層（無遺物層）下の褐色砂層Ⅵ層から得られたもので、後2者は5地区のⅣ層から出土している。後2者のものはなんらかの理由で紛れ込んだものと考えられる。特徴的なものを第14図に示した。

1～3は神野E式の口縁部と胴部の資料で、いずれも口縁部に無文空白部を設けるものである。1は片側の傾斜が急な山形口縁の破片であるが、この形状の山が4箇所に配されたのか、山と山の間にくるものなのか判然としない。朝顔状に口縁部が開くもののようである。文様は口縁部の形状に沿うように1組の点刻文が施されている。口縁部が一段下がった所では点刻文もずれが認められ、一旦途切れたようになっている。施文は深く明瞭で、左から右へ施している。口唇部は無文。

2は平口縁の資料と考えられるもので、口唇部が若干広くなる。口縁部上端に叉状工具による長沈線文を1組横位に施している。破片の左側に縦位の文様の一部が認められる。3は半裁竹管状工具による横位の点刻文が1組認められる胴部片である。

4～7は伊波式の資料で、5は同一個体とみられる口縁部と底部資料から全体の形状を推定復元したものである。底部から口縁部へ朝顔状に開く典型的なもので、口縁部はいわゆるシェブロン状の山形が4箇所に付されるものと考えられる。口径・器高とも約20cmを測り、底径は約8cmとなっている。文様は口縁部上端と胴上部に2組の点刻文を横位に配し、その間は無文空白部としている。山形直下には1組の点刻文を縦位に施し、区画文としている。施文は深く、明瞭である。口唇部は無文。6も5と同一個体とみられる。4・7は点刻文が2組認められる胴部片で、4は文様が細かく、密な感じである。

8・9は大山式になるかとみられる資料で、8は口縁部、9は胴部である。8は上端部が若干丸味を持って肥厚する感じになる。その直下および約1cm下方に、5㎜幅の単ベラ工具による押し引き文が1条づつ横位に認められる。9は横位の刻文と幅広沈線が認められる。両者とも施文は深く力強い。

10～12は室川式Aの範疇でとらえられるものかと考えられる口縁部資料である。10はカヤウチバンタ式の口縁部で、推算口径が約17cmを測る。口縁部上端が若干外側へ張り出し、口唇部が幅広くなっている。この時期によくみられる特徴を有しており、文様はみられない。11は口縁部上端が逆L字状に外側へ張り出すもので、肥厚部外面は丸味を持って仕上げている。推算口径は約19cmを測る。文様は口唇部に縦位沈線と刺突文が認められるものの、全体的な様子は判然としない。12は口縁部の誇張はみられない。口唇部および口縁部に3㎜幅の単ベラ工具による押捺刻文が施されている。

2．第2群

本群も量的には多くない。得られた資料のほとんどは深鉢形のようである。全体的な器形の特徴としては平口縁で、口縁部上端が外反し、胴上部に比較的明瞭な稜を有し（稜は凸帯を廻らして描出するものと凸帯を廻らさないものがみられる）、そこからゆるやかなカーブを描きながら底部の方へすぼまっていくものとして把握することができる。底部資料は確認されてなく、底部の形状については判然としない。無文。器面は丁寧なナデ調整。混入物に石英・チャートの微砂粒を多量含み、黒色鉱物が散見される。器色は暗茶～黒褐色のものが多くみられることがその他の特徴として認められる。以下、図示したものについて略述する。

第15図1・2は胴上部に凸帯を廻らし、カヤウチバンタ式の口縁をつくるものである。1は底部が欠落するものの、全体の様子が窺えるものである。口唇部は平坦で、両側のカドは丸味を持つ。胴上部の凸帯は口唇下約3cmのところに施され、その幅の肥厚部をつくっているようである。その部分から胴部がほとんど膨らまず、スムーズにカーブしながら底部の方へすぼまっていく。

口径が約25cm、高さは現存の資料の形状に沿って推定すると25cm前後かとみられる。口縁部上端の内面には指頭痕が廻るような感じで認められる。

2は肥厚部が1よりやや狭い（口唇下約2cm）ものの、口唇部は1と同じように仕上げている。口縁部の状況を除けば、1と同じようなプロポーションが想定される。推定口径は約26.0cm。多量に含まれている混入物が器表面に露出し、ザラザラした感じをあたえる。

3・4は頚部下端に凸帯を廻らさないもので、1・2と似たような器形が想定される。3は口唇部の両側のカドが丸く、4は両側のカドが明瞭である。口唇部から胴上部の稜までは約3cmで、1と同様な幅である。2点とも口径の推算ができ、3は約22cm、4は約26cmとなっている。4は他の資料に比べ、混入物の量が若干少なめである。

5は口唇部の両側がカドを有すものであるが、小破片のため全体の様子は判然としない。推算口径は約24cmである。胎土・混入物の特徴は4と似ている。

6・7は混入物に黒色鉱物がほとんど見受けられないことからすると、本群から外すべきものかもしれないが、本群の他の特徴の名残りが見受けられここに示した。6は口縁部および口唇部の形状が1と似ており、器面も丁寧なナデ調整が施されている。7は胴上部の稜がやや不明瞭になり、口唇部から胴上部までの幅が約5cmと広くなるものである。口縁部上端には約7mm幅の不明瞭な肥厚帯もみられる。

8も黒色鉱物を混入しないが、石灰質の砂粒を多量混入し、器色が暗褐色を呈す。器面は比較的丁寧にナデ調整が施されるなど古さを感じさせるものである。胴上部にわりと明瞭な稜を有し、口唇部は平坦に仕上げる。口唇部には約3cmの長さで剥がれた痕がみられ、突起様のものが貼り付けられていたかと推察される。推算口径は約20cm。

9は推算口径が約11cmと小型のもので、3・4と似たような器形が推定される。微砂粒と黒色鉱物を多量混入している。外面は丁寧にナデ調整が施されるが、内面は雑である。器色は暗褐色を呈し、外面では黒褐色の部分も見受けられる。11は口縁部の外反がややきつくなるもので、推算口径は約19cmを測る。器面調整の状況や器色などは9と同様で、混入物に石英質の微砂粒と黒色鉱物のほか赤色粒が散見される。

10は口唇部下約2cmの箇所に鍔状の凸帯が廻るとみられる特徴的なものである。口縁部は内湾し、口唇部は舌状を呈す。推算口径は約19cm。両面とも比較的丁寧にナデ調整が施されている。胎土は細かく泥質で、石英質の微砂粒が密に混入され、黒色鉱物も散見される。外面は赤褐色、内面は黒褐色を呈す。胎土混入物からここに示したが、所属時期については判然としない。

3．第3群

今回得られた資料のほとんどが本群に属すものである。陸側（1～4地区）ではⅡc層、海側（5～8地区）ではⅣ・Ⅴ層が出土層の主体となっている。ただ、Ⅱc層ではほとんどがくびれ平底のものであるが、Ⅳ層の場合には上部からくびれ平底、下部の方から乳房状尖底・尖底のものが多く出土する傾向が見受けられた。Ⅴ層からはほとんど乳房状尖底・尖底のものが出土しており、乳房状尖底・尖底→くびれ平底の傾向を示していた。器種も豊富で、この時期の土器文化の様相を窺わしめる内容である。得られた資料を下記のように分類した。

第1類－胎土・混入物、器面調整などが他の多くの資料と異なり、あきらかに他所から持ち込まれたと考えられるもの

第2類－胎土・混入物、器面調整などは他の多くの資料と同様であるが、器形的に他からの影響を受けたと考えられるもの

第3類－器形、胎土・混入物、器面調整などの諸特徴がいわゆる沖縄後期系とされるものに含まれるもので、今回得られた資料の主体をなす。器形、大きさ、文様などバリエーションに富んで

おり、さらに細分可能である。

以上の３類で、量的には地元の土器とみられる第３類がほとんどを占める（第４表）。また、第２類としたものの中には今後再検討を必要とするものも含まれる。以下、類別に略述する。

イ．第１類

量的には僅少である（第４表）。第16図１～10に特徴的なものを示した。１～７は九州本土の成川式の範疇のものかとみられ、８～10は奄美の兼久式と考えられる。

１～７はいずれも壺形になるとみられるもので、１・２は口縁部、３は頚部、４・５は胴部、６・７は底部の資料である。これらは胎土が精選され泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒や赤色粒が多量に含まれ、外面は滑らかな器肌を有すものの、内面は剝がれる部分がみられたり、凹凸が著しいなど雑な感じになっているという共通点がみられる。

１は大きく折れ曲がるように外反する口縁部資料で、頚部で破損しており、以下の状況は窺えない。口唇部に１本の凹線を廻らしている。内面は頚部の方からやや削り込むように仕上げ、口縁部上端で若干盛り上がる感じで縁部をつくる。外面の下方には不明瞭な縦方向の刷毛目痕が認められる。頚部上方には焼成後に両側から穿たれた小孔（輪郭の直径が約８㎜、内側の直径が約５㎜）が１箇所認められる。推算口径は約16cm、推算の頚径が約９cmを測る。器色は両面とも褪せた黄褐色を呈し、器厚は約６㎜を測る。

２・３は同一個体と考えられるもので、２は口縁部、３は頚部の資料である。２はゆるやかな外反を示すもので、口唇部を舌状につくる。推算口径が約13cm、推算頚径が約９cmを測る。外面に刷毛目の痕跡がかすかに認められる。外面は橙褐色、内面は暗黄褐色を呈す。３は２よりも明瞭な色合いを呈す。

４・５は凸帯を有す胴部片の資料である。４は断面三角形状の凸帯が横方向に２条認められ、５は刻目を付した凸帯が横方向に１条みられる。５の凸帯上の刻目はやや間隔をあけて施されている。器色は外面が暗黄褐色、内面が黒褐色を呈す。

６・７はいずれも平底の資料である。６は底面から若干内側へカーブして立ち上がり、それから外側へ開いて胴部へ移行するものである。立ち上がり部のカドはやや丸くなる。底面は若干上げ底状になる。推算底径は約10cm。外面は色褪せた橙褐色、内面は灰黒色を呈す。

７は底面からほぼ直線的に外側へ開き、胴部の方へ移行していくもので、立ち上がり部は丸味を持つ。推算底径は約６cm。外面は暗褐色、内面は橙褐色を呈す。

８～10は混入物に金雲母片を多量含むもので、奄美の兼久式の範疇で捉えられるものかと考えられる。８は口縁部、９・10は底部の資料である。８は外反口縁の資料であるが、口唇部が破損している。推算口径は約11cm。器面はナデ調整が施されるが、裏面に横方向の擦痕が認められる。９はくびれ平底の資料で底面からの立ち上がり部はカドをつくり、その上方には指頭痕がみられる。また、底面には葉痕の一部が認められる。推算底径は約６cm。底面から若干くびれ、内側へゆるやかなカーブを描きながら外側に開いて胴部へ向かう。立ち上がり部はカドをつくり、その上方には指頭痕がみられる。底面には葉痕の一部が認められる。推算底径は約６cm。10は中空の脚台部の資料で、底部との境に断面カマボコ状の凸帯を廻らす。底径は約６cmを測る。脚台は若干外側へ開くようにつくられ、端部は舌状を呈す。高さは約２cmで、混入物の量が多くザラザラした器肌である。３点とも暗茶褐色を呈す。

ロ．第２類

本類も量的には多くない。しかし、甕形、壺形、鉢形など若干のバリエーションがみられる。特徴的なものを第16図11～18、第17図に示した。以下、器種別に簡記する。

ａ．甕　形

第16図11～18、第17図19～25に示したもので、11は全形の窺えるものである。12～18は口縁部の、第17

図19～25は底部の資料である。

11は一部ではあるが口縁部から底部まで接合でき、全形の窺える資料である。口縁部が折れ曲がるように強く外反し、胴部は膨らまず、スムーズなカーブを描きながら底部に至る。底部は丸底的な平底で、安定感がない。推算口径は約19cmで、高さが12.5cmと小型である。口縁部の内外面に文様が認められる。外面は若干長さの異なる縦位沈線が約２cm間隔でみられ、その下端をつなぐように弧状の曲線が配されている。このパターンで器面を廻るかと考えられる。内面は上端に斜位の短沈線を約１cm間隔で施し、その下方に１本の横位沈線を配している。また、外反部の境目には焼成前に穿たれた小孔（直径約４mm）が１個見受けられる。両面とも比較的丁寧なナデ調整を施すが、器面の剥落が著しい。胎土は泥質で、粒の粗い砂粒を多量混入する。器色は赤～暗褐色を呈すが、胴部は煤けて黒褐色を呈す。

12～18は口縁部資料である。13は底部から直線的に開きながら胴上部まで至り、そこから口縁部の方へ直方向に立ち上がる。口唇部は丸味を持つ。約４cm間隔で凸帯様の盛り上がり部がみられる。頚部の間隔は約３cmである。２段目と３段目の盛り上がり部の間には逆Ｕ字状の凸帯も見受けられる。１段目の凸帯にはわりと規則的な刻み目が配され、２・３段目および逆Ｕ字状の凸帯上には不規則な刺突文が認められる。口唇部と１段目の凸帯の間には弧状の沈線文が配されるが、全体的な構図は不明。器面はナデ調整が施されるが、胴部には擦痕が見受けられる。胎土は細かく、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を含む。器色は暗褐色を呈す。

12は口縁部上端を強く折り曲げて外反させるもので、内側に明瞭な稜を有す。外反部は平坦で、口唇部は尖る。推算口径は約22cm。外面の外反部直下には沈線様のものが認められるが、文様なのか判然としない。器面はナデ調整が施され、外面はより滑らかな仕上げとなっている。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒と赤色粒を密に混入する。器色は暗褐色を呈す。14は口縁上端部の下方に約２cm幅の鍔状に張り出した粘土帯を廻らし、外側へくの字状に折れ曲がった口縁部を描出しているものである。口縁部上端が若干上方へ盛り上がり、凹面を形成するようにやや斜め上方へ張りだす。張りだし部の端部は丸味を持つ。推算口径が約36cmで、両面ともナデ調整が施され、滑らかな器面である。胎土は細かく、石英質の微砂粒のほか黒色鉱物も散見される。内外面とも赤褐色を呈す。

15～17は口縁部上端が外反するもので、口唇部に向かって厚さを減じる。15・16は口唇部が尖り、17は平坦になっている。15は口縁部の内側に口唇部の方へ向かう縦位の凸帯の一部が認められる。15・16は推算口径の算出ができ、15が約22cm、16が約19cmである。文様は見受けられない。いずれも器面はナデ調整が施され滑らかであるが、15はポーラスになっている。３点とも胎土は細かく、石灰質の砂粒を混入している。15はやや粒が粗く、16は微砂粒を非常に密に含み、17は微砂粒をやや疎に混入している。器色は15が色褪せた黄褐色、16が茶褐色、17が暗褐色を呈す。

18は口縁部がゆるやかに外反するもので、口唇部は丸味を帯びる。推算口径は約10cm。頚部下端に雑な貼りつけ方で、横位に廻らされた小さな凸帯が１条認められる。その凸帯と口唇部の間に細い粘土紐状のものが、なんらかの記号のような感じで貼り付けられている。現資料からするとやや間隔をあけて、器面を囲繞するようである。胎土は細かく泥質で、混入量は多くないものの赤色粒や石英質の微砂粒が見受けられる。両面ともナデ調整が施され、器面は滑らかであるが、若干の凹凸がみられる。表面は赤褐色、裏面は暗褐色を呈す。

19～25に示した底部は、いずれも脚台の資料である。16は高さ約１cm、径が約５cmと小振りの中空の脚台で、端部は丸味を持ってつくられる。立ち上がりで内側へかなりくびれ、そこから外側へ若干膨らみ気味に胴部へ移行する。器面はナデ調整のようであるが、それほど丁寧ではない。胎土は細かく、石英質の微砂粒や赤色粒を多く混入している。外面が赤褐色、内面が黒褐色を呈す。

19・20は底面がやや上げ底状になるものである。底径は19が約４cm、20が約５cmで、両者とも小振りのもののようである。19が約１cm、20が約２cm立ち上がった箇所でくびれ部をつくっており、どちらもそこから直線的に外側へ開いて胴部へ向かう。19は底面から約３cmのところを折り返すように、紐状の凸帯を貼りつけている。４箇所にみられるが、わりと雑な貼りつけ方である。２点とも両面ナデ調整が施され、19はより丁寧に施されている。胎土は両者とも細かく、石英質の微砂粒を混入しているが、あまり目立たない。19はより精選された感じである。19は外面が赤褐色、内面が黒褐色を呈し、20は外面が褪せた赤褐色内面が暗褐色を呈す。

23～25は充実した脚台で、底径が６cm、底面の厚みが約3.5cm、器厚が10mm前後と大体似たような大きさのものである。23・24は底面からの立ち上がり部はゆるやかにくびれ、そこから直線的に外側へ開いて胴部へ向かい、25は底面からの立ち上がり部のくびれがきつい。そこから直線的に外側へ開いて胴部に向かうが、23・24よりも外側への開きが大きくなっている。また、底面部の状況をみると23は平坦面をつくるが、24は中央部に径約２cmの盛り上がりがみられ、乳房状尖底の周りに粘土を付け足し脚台をつくっていることが窺え、注目される資料である。25は中央部から端部へ傾斜し、地面への接着範囲が狭い。23は立ち上がり部に１箇所、底面部から凸帯状の粘土紐（長さ約3.5cm）が貼り付けられている。

23・24は両面ともナデ調整が施され、滑らかである。胎土は泥質で、赤色粒を主体に微砂粒を混入するが、量的には多くない。外面が赤褐色、内面が黒褐色を呈す。25は両面ともナデ調整が施され、滑らかである。胎土は泥質であるが、石英質の微砂粒が多量に混入され、ザラザラした感じになっている。器色は外面が暗茶褐色、内面が赤褐色を呈す。

第17図22は裾広がりになる脚台の脚部の資料で、端部を平坦に仕上げる。端部の推算径は約８cmで、筒部の推算径は約４cmである。端部の内側に滑らかな部分が若干みられるものの、端部の外面に指頭痕がみられ、全体としては雑な仕上げである。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒のほか赤色粒などを混入する。器色は暗褐色を呈す。

b．壺　形

本器種に属すかとみられるものは第17図26・30に示したもので、26～28は口縁部、30は底部の資料である。

26は口縁部上端がくの字状に強く折れ曲がるもので、短頸壺のものである。口唇部は尖り気味につくる。小破片のため判然としない部分が多い。推算口径は約19cm。両面とも滑らかな器肌を有すが、口縁部上端や内面には凹凸もみられる。胎土は細かく、石灰質の微砂粒のほか黒色鉱物などが混入されている。外面は暗～黒褐色を呈し、内面は橙褐色を呈す。27は口唇部の方へ開き気味になる長頸壺の資料で、口唇部は尖り気味になる。口唇下約４cmの所に断面三角形の凸帯を廻らし、その部分でくの字状を呈す。この凸帯の上下には紐状の細い凸帯（断面は三角形）を配すが、全体の構図は不明。また、口唇下約2.5cmの所に焼成後に穿たれた小孔が認められる。推算口径は約12cm。器面は両面とも丁寧なナデ調整である。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒を多く混入している。暗褐色を呈すが、口縁部外面では黒褐色の部分も見受けられる。

28は口縁部が大きく外反する長頸壺である。頸部の長さは約10cmで、推算口径が約19cm、推算頸径が約15cmを測る。口唇部は丸味を帯びる。かなり大型のものになるかと考えられる。内面の口縁部上端には第16図１の資料の名残りのような浅い凹部が認められる。文様はみられず、器面はナデ調整により滑らかである。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒と赤色粒を密に混入する。器色は暗褐色を呈すが、黒褐色を呈す部分も見受けられる。

30はカドを有す肩部の資料である。口縁部と底部がなく、全形は判然としない。そのため器種は明確にし得ないが、可能性の高いものとしてここに示した。肩部の最大径は約18cmを測る。両面とも丁寧なナデ

調整が施され滑らかであるが、外器面の剝落が著しい。胎土は細かく、黒色鉱物などの微砂粒を密に含むほか、小型の巻貝も見受けられる。上部は橙褐色で、下部は暗褐色を呈す。

23は底面からほぼ直線的に外側へ開き、胴部の方へ移行していく平底の資料である。底面からの立ち上がり部はカドがとれ丸味を持つ。推算底径は約10cmを測る。外面はよくナデ調整が施されているものの、底面の近くはそれほどでもない。内面は凹凸が見受けられる。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒が密に含まれるが、粒の粗いものも目立つ。外面が暗茶褐色、内面が灰黒色を呈す。

c．鉢　形

第17図33に示すものである。底部からゆるやかなカーブを描いて口縁部に至るもののようである。底部の形状は不明。口唇部は平坦につくる。胴上部に瘤状の突起が1個みられるが、ここ1個だけなのか判然としない。文様は見られず、両面とも滑らかな器面を有す。胎土は泥質で、肉眼観察では混入物はほとんどみられない。表面は口縁上端部と胴下半部に黒褐色の部分がみられるものの、頚～胴部は赤褐色を呈し、裏面は黒褐色を呈す。胴部から口唇部までほぼ同じような厚みである。

第17図31は推算口径が約7cmと小型であり、胴部で三角形状の盛り上がり部を有すことなどから坩形を想定して推定復元図を示した。口縁部が若干外反し、胴部で三角形状に盛り上がり、そのままナベ底状の底部をつくる。高さは推算8cm。口唇部はやや丸味を帯び、注口様の突出部をつくっている。器面は雑なナデ調整が施され、胴部の盛り上がり部付近には指頭痕も見受けられる。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒のほか赤色粒を密に混入する。外面は暗褐色を呈すが、口縁部は煤けて黒褐色を呈す。内面は赤褐色。

32は乳房状尖底で、先端部は弧状を呈す。立ち上がり部がほぼ水平方向へ開いていくようであり、坩形の底部になるかとみられるものである。器面はナデ調整により滑らかである。胎土は細かく、黒色鉱物などの微砂粒を密に含む。外面は暗黄褐色、内面は赤褐色を呈す。

34は碗形になるかとみられる底部資料である。底面から直線的に外側へ開くもののようで、立ち上がり部のカドを有さず丸くつくられている。内外面に指頭痕とみられる凹部がみられる器面は滑らかで、外面に化粧土を塗っている。胎土は精選され、鉱物質の微砂粒や赤色粒などが多量に混入されている。内面は橙褐色を呈す。外面は赤褐色が主体であるが、上端部では黒味を帯びる部分が認められる。底面部が6mm前後、胴部が4mm前後である。

35・39・40は器種が判然としないものである。35は皿形の資料かとみられるものである。底面部は外面と同じような色合いを呈すが、凹凸が著しく剝がれているようにも見受けられる。口縁部を欠失しており、高さは不明。推算底径は約6cm。内面に擦痕様の調整痕がみられ、全体的に雑な感じのつくりである。胎土は泥質で、混入物に赤色粒が散見される。厚さ3mm前後と非常に薄い。

39は縦・横方向の小さな凸帯状のものがみられる胴部片である。器面はナデ調整が施されるが、凹凸が認められる。胎土はやや砂質で、赤色粒を混入する。両面とも暗褐色を呈すが、表面は白っぽくなっている。10mm前後の厚手のものである。

40は尖底の資料である。胎土は細かく、やや砂質で、赤色粒を多量混入する。外面は暗黄褐色、内面は白っぽく褪せた感じの色合いを呈す。胎土・混入物が他と異なるためここに示した。

ハ．第3類

今回得られたほとんどのものが本類に含まれる。接合して全形の窺えるもの、ある程度器形の推定できるものなども数多く見受けられる。また、器種・器形、大きさ、文様、胎土・混入物などの特徴にかなりのバリエーションが認められる。器種においては甕形を主体としているようであるが、鉢形、壺形も目に付く。特に、壺形は長頚壺が主流で、第26図1に示した全形の窺えるものは底部が乳房状尖底であり、この種資料の初めてのものとして注目される。また、この時期の特徴的な底部形態であるくびれ平底、尖底

および乳房状尖底の出土状況が前者が上層に多く、後2者のものが下層に多いという状況がみられた。

大きさも口径・高さとも30cmを超すような大型のものからミニチュアのものまで見受けられる。文様は凸帯を貼りつけるものが多いようであるが、沈線文を施すものもみられる。後者の場合、ラフなタッチの曲線文が目に付く。しかし、全体的にみれば無文のものが圧倒的に多く、この時期の他の遺跡と同様な状況にある。胎土・混入物については、胎土は細かく泥質なものが多いものの、混入物は赤色粒を主体とするもの、鉱物質の微砂粒を多く含むもの、石灰質の砂粒を多く含むものなどが見受けられた。

以下、得られた資料の中から特徴的なものについて略述するが、全形の窺えるものを中心に口縁部について概観し、それから底部についてみていきたい。特徴的なものを第18図～第33図に示した。

a．ミニチュア土器

超小型土器として把握されるもので、数量的には僅少である。第18図1に示す完形土器の大きさを目安にし、大体それに近い大きさが想定される資料をまとめてみた。第18図1～9に示すものがそれで、1は完形、2～5は口縁部、6～9は底部の資料である。

1は完形の資料である。やや丸味を帯びた尖底部から若干内側へくびれる感じで立ち上がり、そこから外側へ開いて口縁部へ向かい、口縁部上端で僅かに直方向に立ち上がって口唇部に至る。口唇部はほとんど欠けているが、残っている部分をみると尖っている。口径は約4.6cmを測り、高さは約3.3cmである。無文で、両面とも丁寧なナデ調整が施され器面は滑らかであるが、全体に細かなポーラスがみられる。胎土は細かく泥質で、石灰質の砂粒を多量に含む。内面は赤褐色を呈し、外面は赤褐色と暗黄褐色がまだら状になっている。

2・3は底部からゆるやかなカーブを描いて口縁部に至るもので、2点とも口唇部は丸味を持って仕上げている。今回得られた底部形状からすると尖底の可能性が強い。いずれも推算口径は約6cmを測る。2点とも両面ナデ調整により滑らかな器肌を有すが、2は外面に擦痕様のもの、内面に粘土を重ね塗りした痕跡などが認められる。3は内外面とも凹凸がみられる。2は胎土が砂質で石灰質の微砂粒が多く混入され、3は泥質な胎土で混入物に赤色粒が散見されるだけである。2は両面とも赤褐色を呈し、3は表面が暗茶褐色、裏面が黒褐色を呈す。

4は底部から胴部へ僅かに膨らみ、口縁部上端で若干外反するものである。外面の口縁上端部を僅かに直方向に削っており、口唇部は尖る。推算口径が約7cmを測る。両面とも滑らかな器肌で、胎土は泥質、混入物に微細な赤色粒がみられる。表面が暗茶褐色、裏面が暗褐色を呈す。

6～9は底部の資料で、6～8は尖底の資料である。6は他の2点よりも底面部が尖る。3点とも器面は滑らかに仕上げられているが、6の内面、8の外面には擦痕様のものが部分的にみられる。6・7は泥質な胎土のもので、8はやや砂質である。混入物は疎で、赤色粒が散見される。6は両面とも暗褐色、8は両面とも赤褐色を呈す。7は外面が橙褐色、内面が黒褐色を呈す。

9は乳房状尖底の底面を押し上げるものである。器面は滑らかに仕上げられるが、整形の際の粘土のヨセなどがみられる。胎土は細かく、微砂粒のほか細かな赤色粒を混入する。外面は橙褐色、内面は暗褐色を呈す。

b．小型土器

このグループに属すものは概ね口径、高さとも10cm前後のものをまとめてみた。第18図10～29に示すものである。本グループのものには尖底と平底が見受けられる。以下に略述する。

10～18に示したものは尖底の資料である。10は全形の窺えるもので、底部からゆるやかなカーブを描いて口縁部へ至る。胴部が若干膨らむ直口口縁の資料で、口唇部は丸味を帯びる。比較的均整の取れたプロポーションを示す。推算口径が約10cm、高さ8.4cmを測る。無文。両面ともナデ調整を施すが、器表面に

は粘土の積み跡など制作時の凹凸がみられる。胎土は泥質で、微砂粒が混入されるが、量的には多くない。両面とも赤褐色を呈すが、暗黄褐色を呈す部分も見受けられる。

11は底部が欠落しているが、全形の推察できるものである。口縁部が内湾して胴上部が膨らみ、そこから内側へすぼまりながら底部に移行する。口唇部は尖る。10に比べると非常に歪な形状になっており、上面観も楕円形状を呈す。推算口径は長径が約12cm、短径が約10cmである。高さは推算８cm。口縁部上端に粘土粒を貼りつけたような箇所が１箇所みられるが、文様として意識されたものか判然としない。両面ともナデ調整を施すが、器表面には粘土の積み跡など制作時の凹凸がみられる。また、外面には細かなポーラスもみられる。胎土は泥質で、やや粒の粗い砂粒を混入する。

13～16は底部の資料で、13・16は尖底、14・15は乳房状尖底である。立ち上がり部の状況をみると16だけがやや立ち気味で、他は開き気味に胴部へ向かうもののようである。いずれもナデ調整が施されるものの、器表面には制作時の凹凸がみられる。４点とも胎土は泥質で、13・15は鉱物質の微砂粒、14・16は粒のやや粗い砂粒と赤色粒が混入されている。13・15は両面とも暗褐色、14・16は両面とも赤褐色を呈す。

26・27・29はくびれ平底の資料で、いずれも推算底径が約５cmである。３点とも底面近くで若干くびれ、27そこからほぼ直線的に外側へ開いて胴部に至り、26はやや膨らみながら胴部へ至るものである。いずれもナデ調整が施されるが、それほど丁寧ではない。27は外面に縦方向の擦痕様のものがみられ、26は粘土の積み跡が明瞭にみられる。胎土は泥質で、微砂粒を密に含む。26・27は両面とも赤褐色と黒褐色を呈す箇所が見受けられ、29は両面とも暗黄褐色を呈す。

20はゆるやかな外反を示す口縁部資料で、底部形状は不明。口唇部は尖り気味につくり、推算口径は約10cmを測る。口唇部および口縁部に文様を施している。口唇部には刻目、口縁部には上端と胴上部に横位沈線を配し、その間に２本１組の右傾の斜沈線を施している。この斜沈線は約３cm間隔で施され、器面を囲繞するようである。施文は浅く不明瞭で、雑な感じを受ける。比較的丁寧なナデ調整を施しているが、内面は胴部付近に凹凸がみられる。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒を密に含む。混入量が多く、器表面がざらつく感じで、粒の粗いものも目立つ。両面とも暗褐色を呈す。

c．壺　形

本器種に含まれるかとみられるものが　点得られている。他の後期遺跡に比べ、長頸壺が目につき、本遺跡のこの時期の特徴を示しているようである。ほとんど破片の資料であるが、第26図１は全形の窺えるものである。全形の窺える長頸壺として注目される資料である。その他にも比較的大型の口縁部や胴部の破片がみられ、その部分までの器形や大きさなどある程度窺い知ることができた。しかしながら、口～頸部の資料がほとんどであり、全体的にみると肩部や底部の形状については不明の状況である。

得られた口縁部資料の推算口径をみると、若干の幅が認められる。仮に８cm前後をひとつの目安として口径をみると、それより小さなもの（小型）と大きなもの（大型）に大別できる。この両者をみると、いずれにおいても頸部を有すものと有さないものがみられるが、頸部を有すものが主流のようである。小型のものにはその中間的なグループ（第19図５～８）も見受けられる。小型のものは有文が比較的多くみられるものの、大型のものは無文のものが多いようである。それぞれの特徴的なものを第19図、第26図１および第28図に示した。以下に略述する。

①　小型のもの

この種に分類できるかと考えられるものを第19図に示した。大型のものに比べ有文の資料が多く見受けられる。注目されるものに注ぎ口を有すもの（１）や山形口縁のもの（17）頸部中央が三角形状に盛り上がるもの（16）、２つの粘土粒をリボン状にくっつけて貼りつけたもの（７）などがある。以下、無頸、有頸に分けて略述する。

・無　頸

本種に入るものを1～4に示した。1～3は口唇部を有し、4は口唇部を欠失するものである。口縁部から直線的に開きながら胴部へ向かうものであるが、破片のため胴部以下の状況は不明。いずれも口唇部は尖り気味につくる。1・2はナデ肩になるものとみられ、3・4はかなり肩の張るものと推察される。1は注口を有すもので、その部分は丸味を持って仕上げている。3は曲線文が施されているが、全体的な構図は判然としない。4は肩部に1条の幅広沈線を廻らしている。

3点ともナデ調整が施され、器面は滑らかであるが、指頭痕も認められる。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒と赤色粒が含まれる。1は暗黄褐色、2は暗褐色、3は褪せた黄褐色を呈す。4は表面が暗褐色、裏面が灰褐色を呈す。

・有　頸

口縁部上端を若干直方向に立ち上げて短い頸部をつくるもの（5～8）とはっきりとした比較的長い頸部のもの（9～17）が見受けられる。口縁部は5・6がやや内傾し、7～11・13は若干外反するもので、12・14は直口状を呈す。15は口縁部上端が僅かに外側へ張り出し、16は頸部中央付近が盛り上がる。17は山形口縁の低くなった部分の上端に凸帯を貼りつけ、その部分の口唇部を広くするという非常に特徴的な口縁部資料である。5・6・14は口縁部上端が若干内側へ張り出す感じになっている。

口唇部は丸味を持ってつくられるものが多く、尖り気味のもの（7・16）や平坦なもの（15）などもみられる。器形をみるとナデ肩のもの（5）、肩の張るもの（13）がみられる。確認できた口縁部および胴部（18～26）の資料からすると、ナデ肩のものが主流であったかと推察される。18～26をみるとほとんどが同じような厚さで胴部から頸部の方へ向かうが、20は凸帯の廻らされた頸部下端を境に厚さが変わり、口縁部の方へ薄くなっていく。

有文の資料をみると沈文と浮文および両者を組み合わせるものがみられる。施文部位は口～頸部のものがほとんどであるが、26は胴部まで施文されている。また、12は裏面にも施文するものである。口唇部に施文するものは見受けられない。沈文はラフなタッチで浅く不明瞭なものが多く、沈線による曲線文が施文の中心となっているが、方向の異なる斜沈線文を施すもの（10・11）や縦位の押し引き文と刻文を配すもの（18）などもみられる。

凸帯を配すものは8が扁平な幅広の凸帯を逆U字状に上端が口唇部に接して配し、19は頸部下端に小さな紐状の凸帯を、その直下に断面三角形状の凸帯を横位に廻らす。20は沈線の施された扁平でやや幅広の凸帯を、21は断面が三角形状の凸帯を頸部下端に1条横位に廻らす。19・21は8・20に比べ丁寧に整形して貼り付けられている。

沈文と浮文を組み合わすものは7と12である。7は頸部下端にラフな横位沈線を配し、その上方にリボン状に貼りつけた扁平な粘土粒を4箇所に配し、その間に弧状の沈線文を上向きに1条配すという構図のようである。12は上端が口唇部に接して約2㎝の長さの凸帯をハの字状に配し、その間に雑な短沈線が4条みられる。同じようなパターンで何箇所かに配したものとみられる。凸帯上にも沈線を施す。本資料は裏面にも同様な沈線文が認められる。

器面はナデ調整が施され滑らかであるが、裏面は粘土の積み跡や指頭痕などがみられるものが多い。器面調整はどちらかといえば表面に主体がおかれていたようである。胎土は泥質なものが多く、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を混ぜるものがほとんどである。14・21・22は石灰質の砂粒も混入している。器色はほとんどが暗褐色を呈すものであるが、赤褐色（5・18）や黒褐色（16）を呈すものも見受けられる。

②　大型のもの

推算口径が8㎝を超えるものをここで扱った。特徴的なものを第26図1および第20図に示した。ほとん

どは長頸壺のようであるが、第20図１は無頸壺の資料である。第26図１は口縁部、胴部、底部が直接接合できるものではないが、器面調整、胎土・混入物、器色などの諸特徴から、同一個体と考えられる資料で推定復元を試みたものである。全形の窺える壺形資料として注目される。以下に略述する。

・無　頸

第20図１に示すもので、推算口径が約18cm、肩部上方の推算径が約30cmを測る。口縁部から肩部の方へゆるやかな弧状を呈して向かうもので、肩部の上方でつなぎ目から破損している。そのため肩部以下の状況は不明。口唇部は内側の稜が丸味を持つ。表面はナデ調整により滑らかな仕上がりであるが、裏面は指頭痕や積み跡などがみられるなど、表面のような仕上げの調整は行なわれなかったようである。鉱物質の微砂粒や石灰質の微砂粒を密に含み、器表面の手触りがザラザラする。また、赤色粒も散見される。器色は裏面が赤褐色を呈し、表面は赤褐色や暗黄褐色を呈すところがあり、黒褐色の部分も見受けられる。

・有　頸

第26図１および第20図２～19に示したものである。第26図１は全形の窺えるもので、第20図２～11は口縁部の、12は頚～胴部の、13～19は頚部の資料である。

第26図１はやや張り気味の肩部から僅かにS字状を示すように頚部に至り、頚部が若干外側へ開くように立ち上がり、口縁部上端で若干外反する。口唇部は丸味を持って仕上げられ、若干波打つ感じになる。口縁部の上面観は楕円形状を呈す。肩部から底部へすぼまりながら向かい、底部は乳房状尖底になる。底面部が厚く弧状をなすもので、後述の乳房状尖底の分類でａ種としたものに含まれる。全体の形状はトランプのスペードを逆にしたような感じである。推算口径は長径が約10cm、短径が約８cm、高さが約41cmを測る。頚部の長さが６cm、胴部の最大径が約31cmである。器形や大きさの一端が窺い知れる資料である。

器面はナデ調整が施されるものの、雑な仕上げとなっている。特に頚部以下は粘土のつなぎ目の部分が盛り上がったり、粘土のつけ足し痕がみられる。器表面が著しく凹凸を示すほか、アバタ状を呈す。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒と赤色粒が混入される。赤色粒は比較的大粒のものも散見され、器表面に露出しているのが目立つ。器色は赤褐色を呈すが、表面では色褪せたところも広範囲にみられる。

第20図２～11の口縁部資料をみると、直口状のもの（２～６）、上端部が両側へ張り出すもの（７）、上端部が外反するもの（８～11）などがみられる。直口状のもの（２～５）は推算口径やその形状などからここで扱った。２～５は直線的に開く感じで頚部が立ち上がり、口縁部が頚部より広くなるが、６は逆に口縁部が内側へすぼまり、頚部よりも小さくなるものである。口唇部の形状をみると前者の４点は尖り気味につくり、６はやや平坦につくる。いずれも直口口縁であるが、２～５と６では異なる器形を示す。２は第26図１と同様、口縁部が楕円形状を呈し、図の推定口径は短径を示しているとみられる。６は有文の資料で、縦位の沈線文が約２cmの間隔で配されている。

器面調整は２・３がわりと雑に施され、４～６は比較的丁寧である。２～５は器面に指頭痕がみられ、若干凹凸をなす。５点とも胎土は泥質であるが、３～５は混入物が密に含まれ、手触りがザラザラする。混入物として鉱物質の微砂粒と赤色粒がみられ、６は赤色粒がわりと目立つ。器色は２が赤褐色を呈し、３～５は暗褐色、６は色褪せた赤褐色を呈す。３・６は若干薄手のものである。

７は口縁部上端に粘土紐を貼りつけて両側へ張り出すようにし、口唇部を広くするものである。口唇部は若干凸面をなすように仕上げている。広くなった口唇部から直線的に頚部に至るもののようで、同一個体とみられる頚下部の資料と合わせて、口～頚部の推定復元図を示した。頚下部の資料は粘土帯の幅を示すもの（上下端とも積み跡で破損）であり、それを参考に図のように推定した。それからすると推算口径は約10cm、頚部の長さは約８cmを測る。器面はナデ調整が施され、表面の方がより丁寧である。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を密に含み手触りがザラザラする。器色は暗褐色を呈す。

8～11は外反口縁の資料である。11は比較的大型の資料で、胴上部までの器形が窺えるものである。胴部から肩部が張らずに頚部へ至り、頚部が若干内傾気味に立ち上がる。口縁部上端で僅かに外反し、口唇部は舌状を呈す。推算口径が約13cmと他の資料に比べて大きく、頚部の長さは7と同じ約8cmである。資料の下部の推算径が約28cmである。胴上部にはラフな沈線が縦位に認められるが、文様を意図したものか判然としない。表面は丁寧なナデ調整により滑らかであるが、裏面は粘土の積み跡や指頭痕など成形時の調整のままである。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒を多く含み、手触りがザラザラする。赤色粒も散見される。器色は赤褐色を基調とするが、黒褐色や黄褐色を呈す部分もみられる。

8～10は口～頚部の資料で、8は口縁部上端を強く折り曲げて外反させ、9・10はゆるやかに外反するものである。口唇部は8が平坦で、9・10は尖る。推算口径は8・9が約8cm、10が約10cmを測る。10は有文の資料で、口縁部の表裏面に横位・縦位の沈線でジグザグ文様を配しているようである。3点ともナデ調整が施されており、8は比較的丁寧である。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒がみられる。器色はいずれも暗褐色を呈す。

12～19は頚～胴部の資料である。これらの資料をみるとナデ肩のものが主流であったかと推察される。また、胴部の最大径は30cm前後のもの（12・17・18）、40cm前後のもの（19）がみられる。前者のものが普通であったかと考えられる。18・19は胴上部に横位の沈線が1条配されている。器面のナデ調整は表面に主眼がおかれているようである。12は11同様丁寧な仕上げであるが、17は第26図1と同じように雑である。それからすると精粗のものがあったかと推察される。

胎土はいずれも泥質で、12・14・18は石灰質の微砂粒を多量混入する。表面側に集中するようで、裏面側ではあまりみられない。13は鉱物質の微砂粒を多く含み、15・17は混入物の量がそれほど多くなく、赤色粒が目立つ。16・19は鉱物質の微砂粒を多量混入し、手触りがザラザラする。ほとんどが暗褐色を呈すが、15は暗黄褐色を呈す。また、12・17・19は表面に黒褐色を呈す部分も見受けられる。

d．甕・鉢形

得られた資料の主体をなす器種である。ここでは口径が10cmを超す中～大型のものについて略述する。第26図4に示すものは一部ではあるが口縁部から底部まで接合できた大型（推算口径が約36cm、高さが約32cm）の資料であるが、底径が約3cmと底径だけをみると小型に分類されるものである。例外的なものとして捉えるかこの種の底部形状（後述の底部資料の第5種）を示すものにみられる特徴なのか注意される資料である。ここでは器形、大きさについて略述するが、後述の主な有文資料や底部資料を含めたトータル的な検討までには至らなかった。今後の課題として引き続き検討を重ねていきたい。

今回の調査では破片の大型資料に恵まれたものの、口縁部から底部まで接合できた資料は第26図4の1点だけである。その他に口縁部と底部資料が明らかに同一個体とみられるものが2点（第26図6・8）あるだけで、全体の器形を確定できるものはこの3点だけである。そのため、後述する底部形態との関連について言及するにはもう少し細かい検討が必要かと考えられる。

特徴的なものを第21図～第25図および第26図2～11、第33図1～9に示した。かなりバリエーションがみられ、下記のように大別した。

第1種－口縁部が外反するもので、その形状や胴部の状況などにより、さらに細分することも可能である（第26図7～9、第21図、第22図、第23図31～39、第24図 59～63、第33図1・9）。

第2種－口縁部が内湾気味になるもの（第26図3・10、第23図40～49、第25図90、第33図4・5）。

第3種－口縁部の方へほぼ直線的に開く感じになるもの（第26図4～6、第23図50～53、第24図54～58・64～79、第33図2）。

第4種－口縁部の方へすぼまり気味になるもの（第26図2、第25図80～89、第33図3・6～8）。

第５種－口縁部から胴部下半へ丸味を帯びて移行するもの（第25図91～96）。

第６種－その他（第25図97～102）。

以上の６種である。第６種を除く５種はさらに細分可能であるが、今回は時間的な都合もあり、大まかな分類を示すに止めた。以下、種別に概要を記す。

・第１種

口縁部をみると外反の度合いが強いもの（第21図１～３）や上端部が僅かに外反するもの（第21図９～17）、ゆるやかに外反するもの（第22図25～30）などが見受けられる。また、底部からスムーズに口縁部へ移行するもの（第26図８）や胴上部で直方向に立ち上がるため稜を有するもの（第26図９、第22図18～24）などもみられ、後者の中には稜の位置が胴部中央付近にくるもの（第22図22）も認められる。口唇部は舌状を呈すものや尖り気味のものが主流のようである。

推算口径からみると20cm前後のものや30cm前後のもの、それより大きくなるものなどが見受けられる。胴部に稜を有するものは20cm前後のものが多いようで、上端部が僅かに外反するものはいずれの大きさのものもほぼ同じようにみられ、ゆるやかに外反するものは30cm前後のものが多く見受けられる。高さについては明言できないが、第26図８は約26.5cmである。推算口径が約32cmであり、その前後の口径のものの高さの一端を示しているものとみられる。

・第２種

本種も口縁部上端を若干内湾させるもの（第26図３）や折り曲げた感じのもの（第23図41・42）、胴上部から膨らみ気味に口縁部へ至るもの（第23図46・47）などが見受けられる。第26図10に示すものは若干波状口縁を呈し、口縁部が内湾するものである。胴部中央付近でくびれ、その下方がやや膨らみ「３」の字状の形状をなす。大型破片の資料で、若干波状を呈するものとして示したが、判然としない部分も残る。口唇部の形状は尖り気味のものや舌状を呈すものが主流のようである。

推算口径をみると上端部を若干内湾させるものは約28cmのものと約17cmのものがあり、折り曲げた感じのものは約20cm、約26cmのものが、胴部から膨らみ気味に口縁部へ至るものは約19cmである。推算口径が約35cmのもの（第23図43、第26図10）もみられるが、20cm前後、27cm前後のものが多かったようである。

・第３種

少し細かくみるとやや立ち気味のもの（第23図50～53、第26図４～６）、開き気味のもの（第24図54・56・57・72）などが認められる。また、底部から胴上部へ直線的に向かうものが多くみられるが、第24図67・74、第26図６のように胴下半部が丸味を有するものも見受けられる。第24図67は強く膨らんでいる。口唇部の形状は尖り気味のものや舌状を呈すものが主流のようであるが、平坦に仕上げるものも比較的目立つ。

全形の確定できる第26図４・６をみると、４は底部から口縁部へ開き気味になり、胴上部がやや丸味を持つものである。推算口径が約36.5cm、高さが約32cmで大きさのひとつの目安になるものとみられるが、底径が約３cmと小さな平底で、底面部を若干押し上げるものである。全体の形状をみると典型的なもののひとつかとみられるが、底部形状が特徴的で注意される資料である。６は胴部下方に丸味を持つもので、乳房状尖底の資料である。口唇部のつくりや器面の状況など４とは異なるイメージのものである。推算口径は36cmで、推算の高さが約29cmである。この両者からみると口径が35cm前後のものは、高さが30cm前後になるものとみられる。他の資料をみると口径は25cm前後のものが多いようである。第26図５は推算口径が約43cmと、今回得られた資料の中では最も大きなものである。

・第４種

口縁部の方へすぼまるもので、胴部が若干膨らみ気味のものである。口縁部上端を若干直方向へ折り返

すものが多く（第25図80～89）、上端部がそのままのものは少ないようである（第26図２）。口唇部の形状は尖り気味のものや舌状を呈すものよりも平坦なものが目立ってくるようである。

推算口径をみると20cm前後、25cm前後、30cm前後、35cm前後とバラエティーがみられ、25cm前後のもの30cm前後のものがわりと多くつくられたかとみられる。

・第５種

口縁部から胴部下半へ丸味を帯びて移行するもので、比較的浅目のものになるかとみられるものである第25図96は胴上部に断面三角形状の凸帯様のものが廻るもので注意される。口唇部の形状は舌状を呈すものが主流のようで、尖り気味のものや平坦にするものなどは少ないようである。口径をみると15cm前後のものから30cm前後のものまでみられる。

・第６種

前述の第１～第５種からはずれるもので、それぞれ種を設けるべきものかと考えるが、今回はここにまとめた。第25図97は底部から口縁部へ直線的に開き、口縁部上端を僅かに内側へ折り曲げる山形口縁の資料である。推算口径は約15cm。98・99は胴部から口縁部へ直線的に内側へ向かい、上端部を折り曲げるように外反させるものである。推算口径は98が約13cm、99が約18cmである。100～102は胴上部で段を有すものであるが意識的なものかどうかは判然としな。100は口縁部上端を強く外反させ、101は上端部が僅かに外反する。102はほぼ直口状を呈す。推算口径は101が約30cm、102が約20cmである。103・104および第26図11は大きさのひとつの手がかりになるかとみられる大型の胴部片である。前２者は最大胴径が約20cmで、後者は約35cmを測る。

二．有文資料

一般的に無文化の著しくなる時期といわれており、本遺跡の場合もその例にもれない。得られた土器の全体に占める割合は低いものの、点数的には多く、文様の種類にもバリエーションがみられる。浮文、沈文に大別できるが、この両者を組合わすものも見受けられる。量的には沈文を施すものが多い。いずれの文様も雑に施されるものが多く、他遺跡同様本時期のひとつの特徴を示しているようである。今回の調査で得られた資料を下記のように分類した。

第１類－凸帯文だけを配すグループ

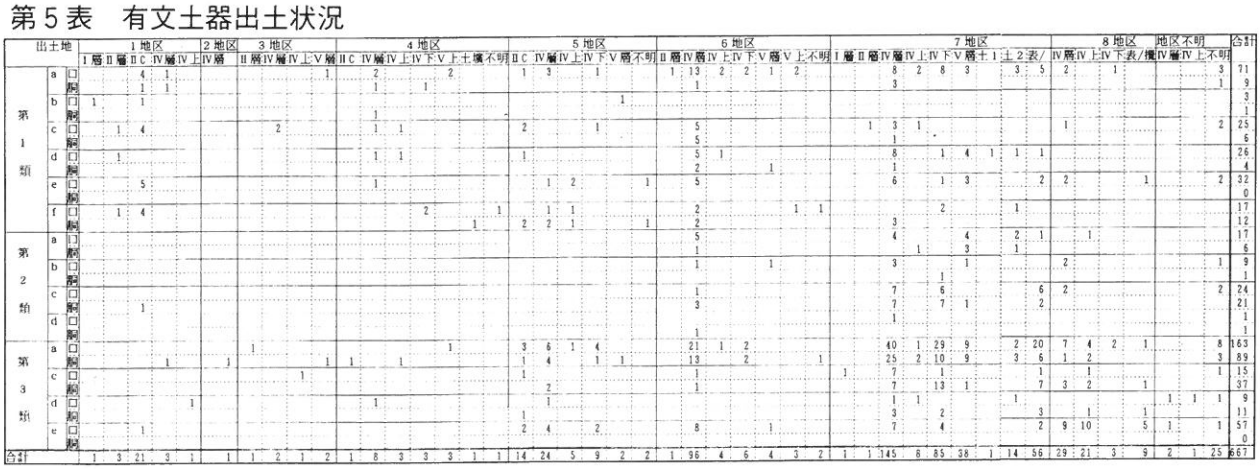
ａ種－縦位凸帯だけのもの

ｂ種－縦位凸帯と横位凸帯を組合わすもの

ｃ種－横位凸帯だけのもの

ｄ種－弧状を呈す凸帯だけのもの

第５表　有文土器出土状況



e種－口唇部に沿うような横位凸帯を配し、肥厚帯をつくるもの
f種－瘤状の突起を付すもの

第2類－凸帯文と刻文や沈線文などの沈文を組合わすグループ
a種－凸帯と沈線文を組合わすもので、表裏面に施文するもの
b種－凸帯と沈線文を組合わすもので、表面に施文するもの
c種－刻み凸帯と沈線文を組合わすもの
d種－瘤状突起と沈線文を組合わすもの

第3類－沈文だけを配すグループ
a種－沈線文だけを施すもの
b種－細沈線文だけを施すもの
c種－沈線文と刻文を組合わすもの
d種－刻文だけを施すもの
e種－無文。口唇部だけに刻文を施すもの

以上の3類である。第1・3類ではa種が、第2類ではc種が主体をなすようである。第2類a種としたものは注目されるグループである。以下、類別に略述する。

a．第1類

第27図に特徴的なものを示した。1～10に示すものは**a種**に入るものである。凸帯の形状や長さ、貼りつけ方など様々である。ただ、表面から裏面にかけて貼りつけるいわゆる鞍状凸帯のものは表裏面とも同じような長さで、短めのものが目につく（1～5）。10は2本1組で配している。凸帯が表面に長くみられるもの（6～9）は僅かに裏面にもおよぶ。器形的には口縁部が直口気味のもの（1・5・6）も見受けられるが、外反するものが多いようである。4は折れ曲がるようにきつく外反するものである。口唇部は丸味を帯びるものが主流で、尖り気味のもの（1）や平坦になるもの（4）などもみられる。

口径が推算できるものをみると15cm前後のもの（1・5）、28cm前後のもの（2）が見受けられる。10は口唇部に刻文を施しており、凸帯上にも施文されている。器面は滑らかなものが多くみられるものの、積み跡が盛り上がるもの（1・2）もある。基本的にはナデ調整を施すようである。混入物は鉱物質の微砂粒や赤色粒が多くみられるが、石灰質砂粒が目立つもの（3・4）もある。器色は黒褐色のもの（1・5・6）、暗褐色のもの（2～4）、暗黄褐色のもの（7・9・10）、赤褐色のもの（8）などが見受けられる。

b種に属するものを11～16に示した。口縁部の3点をみると凸帯は表面がやや長めで、裏面に僅かにおよぶ。縦位凸帯が複数単位のもの（11・12・14）、横位凸帯が複数のもの（13）などがみられる。a種に比べると断面が丸く、細いものが目立つ。器形的には口縁部がゆるやかに外反するものが多いようで、口唇部は尖り気味のもの（11）、丸味を帯びるもの（12・13）がみられる。推算口径が算出できたものは11だけで、約25cmを測る。器面は滑らかなものがほとんどで、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を混ぜるものが多い。器色は暗褐色のものが多く、赤褐色のもの（11）なども見受けられる。

c種のものは17に示すものである。カマボコ状のやや幅広の凸帯である。ゆるやかに外反する口縁部で口唇部は尖り気味になる。推算口径は約15cmを測る。器面は滑らかで、混入物として鉱物質の微砂粒と赤色粒がみられる。器色は暗黄褐色を呈す。

d種のものを18～27に示した。U字状のもの（18・19）、逆U字状のもの（20～22）、波状を呈すもの（23・24）、逆しの字状のもの（25）などが見受けられる。ただ、同じ形状の凸帯でも貼り付けられる場所には若干の違いが認められる。ほとんどが器面に貼りつくものであるが、20は凸帯と器面の間に隙間を設けている。27はV字状に貼り付けられるもののようで、下方の横位凸帯の状況も他と異なり、本来的

には本種からはずすものかと考えられる。裏面まで凸帯がおよぶものは18だけで、凸帯の貼りつけは表面だけになってくるようである。18は凸帯上に沈線を配すが、他の資料には見受けられない。

器形的には外反するものが多いものの、18・20のように内湾気味のものもみられる。口唇部は尖り気味のものや丸味を帯びたものが多く、22・23のように平坦につくるものは少ないようである。23は口縁部上端が両側へ張り出し、広くなった口唇部に約4㎝の長さの凸帯を貼りつける。凸帯は中央部がくぼみ、両端が突出するように整形している。このような凸帯が何箇所に配されていたかは不明。また、25は凸帯の配された横に小孔（外径が約10㎜、内径が約5㎜）が認められる。

推算口径の算出できたものは20・23で、それぞれ約11㎝と約23㎝を測る。器面はほとんどナデ調整によるが、27は裏面の胴部に比較的明瞭な刷毛目調整痕が認められる。混入物には鉱物質の微砂粒や赤色粒、石灰質の砂粒などがみられる。19・23は混入物の肉眼観察が容易である。器色は赤褐色（18・20）、暗褐色（19・21・23・25・26）、黒褐色（22・27）、暗黄褐色（24）を呈すものなどが見受けられる。

e種のものは28・29に示すものである。前者は厚く明瞭な肥厚帯をつくるが、後者は薄く不明瞭なものである。量的には後者のものが多いようである。後者のものは口唇部に刻文を施すものもみられる。器形的には外側へ直線的に開くもののようで、口唇部は丸味を帯びる。器面は滑らかであるが、28は全面に指頭痕が認められる。いずれも混入物は鉱物質の微砂粒と赤色粒が認められる。29は薄手のものである。器色は外面が黒味をおび、内面は赤味を帯びた色合いを呈す。

f種のものは30～34に示すものである。1個配すもの（30～32）と2個1組のもの（33・34）がみられる。胴上部付近に配されるものが多いようであるが、33は口唇部に接するように貼り付けられている。後者のものは押さえ付けられたように扁平な感じになる。30・33からすると直口状のもので、口唇部は30が尖り気味になり、33が丸味を帯びる。器面はいずれもナデ調整のようであるが、1個配すものは泥質な胎土で、2個1組のものはやや砂質っぽい。混入物は鉱物質の微砂粒と赤色粒がみられ、2個1組のものは混入量が多い。器色は赤褐色（30・31）、暗黄褐色（32）、暗褐色（33・34）を呈すものがみられる。

b．第2類

第28図1～15に特徴的なものを示した。**a種**のものを1・2に示した。1は口縁部が直線的に外側へ開くもので、口唇部は尖る。推算口径が約38㎝と大型のものである。表裏面にラフなタッチの沈線で曲線文を施しており、表面の方が施文範囲は広い。また、細い紐状の凸帯を表面から口唇部、裏面にかけて配す。表面では1本の縦位凸帯となり、裏面ではV字状になるように貼り付けられている。この凸帯が何箇所に配されたかは不明。器面は滑らかで、表裏面に刷毛目調整痕が認められる。裏面のものがより明瞭である。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒、赤色粒、石灰質の砂粒などが含まれる。器色は表面が暗褐色、裏面が赤褐色を呈すが、表面では黒味を帯びる部分も見受けられる。

2は口縁部上端が若干外反し、口唇部は丸味を帯びる。推算口径は約31㎝と1よりはやや小さいものの大型の部類に入るものである。表裏面に幅の狭いヘラ状工具により浅く不明瞭な斜線を若干間隔を開けて施文し、裏面はその後にやや幅の広いヘラ状工具により横位沈線を数本施している。表面はミミズ腫れ状の凸帯が弧状にみられ、口唇部にも細い凸帯が横方向に配されている。器面は両面ともナデ調整が施されている。胎土は細かく、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒が見受けられる。器色は表面が暗褐色、裏面が黒褐色を呈す。

b種のものを3～6に示した。3は口唇部に凸帯の1部が認められ、口縁部に沈線による曲線文が施されている。4は胴上部に断面が扁平な凸帯を横位に廻らし、その凸帯と口唇部の間に施文するが、器面が剝がれており判然としない。口唇部にも刻文がみられる。5は断面が三角形状の凸帯を口縁部上端と胴上部に1条づつ横位に配し、その間に上向きの弧状を呈すものがみられる。6も上向きの弧状を呈すもので

あるが、断面は扁平で、上部は口唇部の上方に飛び出る。5・6は凸帯の縁に沿うように沈線文が施されている。いずれも全体的な状況は判然としない。

器形をみると5は口縁部が内湾気味になるが、他は上端部が外反するものである。前者は口唇部が丸味を帯び、後者のものは丸味を帯びるもの（3）、平坦なもの（4）、尖り気味のもの（6）がみられる。推算口径の算出できたものは4だけで、約22cmを測る。4点とも器面は滑らかであるが、3・4は指頭痕が認められる。いずれも胎土は泥質で鉱物質の微砂粒を密に含む。6は赤色粒も散見される。器色は暗褐色を呈すが、裏面は黒味が強くなる。

c種は7～13に示すものである。7は縦位の刻み凸帯（若干裏面までおよぶ）を間隔を開けて配し、その下方に約4cmの長さの刻み凸帯を横位に配している。胴上部の横位凸帯は途切れ途切れになる。この凸帯に囲まれた部分に鋸歯状の沈線文がみられる。口縁部が大きく外反し、口唇部は丸く、若干厚くなる。推算口径は約32cmで大型の部類のものである。器面は滑らかであるが、表面には器面が剝げ落ちた部分なども見受けられる。裏面の口縁部には指頭痕、胴部には擦痕様の調整痕がみられる。胎土は泥質で鉱物質の微砂粒を密に含む。器色は表面が赤褐色、裏面が暗褐色を呈す。

8～13は胴上部に1条の刻み凸帯を廻らすものである。8～10は凸帯と口唇部の間に施文しているが、11は凸帯下方にも施文がおよぶものである。前者は鋸歯状文、後者は縦位沈線が胴上部で折り返すように施文されている。後者のものは凸帯を切るように沈線文がみられ、凸帯を廻らしたあとに沈線文を施している。12・13は約2cm間隔で2本の縦位沈線文が認められるが、11と同じように凸帯下方にもおよぶのか判然としない。ほとんどのものが口縁部は外反する。8・10は胴部があまり膨らまないもので、11は胴部が膨らむもののようである。どちらが主流であったかは不明。

口径の推算できたものは8が約12cm、11が約27cmで、10は推算胴径が約23cmを測る。大型、中型のものがあったかと推察される。器面はナデ調整が施され滑らかであるが、口縁部上端には指頭痕がみられるものもある。10は裏面の上部に指頭痕、下部に擦痕様のものが認められる。胎土は泥質で鉱物質の微砂粒と赤色粒を密に含む。器色は暗褐色のものがほとんどであるが、9は黒褐色を呈す。

d種は14・15に示すものである。14は刺突文を施した瘤状突起を口縁部上端に配し、口縁部に沈線による曲線文を施文している。この瘤状突起は何箇所に付されたか不明。口唇部にも刻文が施されている。口縁部がゆるやかに外反し、口唇部はやや丸味を帯びる。器面は滑らかで、胎土は泥質である。鉱物質の微砂粒を密に含むほか、赤色粒も散見される。器色は暗褐色を呈す。

15は口唇下約4cmのところに押し潰されたような円形状の突起が付され、口縁部上端に沈線文を施すものである。突起の周りは無文である。口縁部が直線的に外側へ開くもので、上端部が若干外反する。口唇部は丸味を帯びる。器面は滑らかで、粘土の積み跡が盛り上がる。その部分には指頭痕も見受けられる。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒や赤色粒を多量に含む。器色は暗褐色を呈し、裏面は黒味がやや強い。

c．第3類

特徴的なものを第28図16～29および第29図に示した。**a種**に属するものを第28図16～29、第29図1～12に示した。沈線文でまとめたが、直線を主体に構成するもの（第28図16～29、第29図1～4）、曲線を主体に構成するもの（第29図5～12）がみられる。さらに細かくみると前者には鋸歯状文（16～22）、斜沈線文（23・24）、格子目文（25・26）、縦位・横位・斜位の沈線の組み合わせ（27～29）、縦方向の沈線文（第29図1・2）、縦位・横位の沈線の組み合わせ（3・4）で施文するものが、後者のものには斜位の弧状沈線（5）、波状文（6）、山形文（7）、波状文を互い違いに配すもの（8）、下向きの弧状文と横位沈線の組み合わせ（9）、曲線文の組み合わせ（10～12）などがみられる。

施文部位をみると第28図16・22、第29図1・2などのように口縁部および胴上部だけに施文するものが

ほとんどのようである。しかし、第28図28、第29図６・８は裏面にも文様が認められ、前者は横位沈線、後二者は斜沈線が施されている。また、第28図23・26、第29図11・12は口唇部にも施文するもので、前二者は刻文、後二者は刻み目が施されている。施文は浅く不明瞭なものが多くみられ、第28図16のような明瞭に施文するものは稀なようである。

口縁部形状は平口縁のものがほとんどであるが、第28図23はゆるやかな弧状を呈す山形部を設けているこの山形部が何箇所に付されたか不明。また、第29図３は粘土を紐状にして貼りつけて口縁部を整えている。器形をみると胴部があまり膨らまず、口縁部がゆるやかに外反するものが主流のようであるが、外側へ直線的に開くもの（第28図16）、直口状を呈すもの（第28図20・26）、胴上部で若干の稜をつくるもの（第29図１・２・10）なども見受けられる。口唇部の形状は丸味を帯びるものが多く、次いで平坦にするものが目につき、尖り気味のものは少ないようである。また、口縁部上端が外側へ張り出し、口唇部を広くするもの（第28図26）もみられる。

推算口径の算出できたものをみると、15cm前後のもの（第28図18・27・29、第29図６）、21cm前後のもの（第29図４・11）、23cm前後のもの（第28図16・21・28）、34cm前後のもの（第29図10）がみられ、バリエーションのあったことが窺える。器面はナデ調整が施され滑らかなものが多く、指頭痕がみられるものも目立つ。第28図16は縦方向の、20は横方向の擦痕様のものが表面に認められる。また、第29図２は器面の凹凸が著しい。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を混ぜるものがほとんどであるが、第28図24・26は石灰質の砂粒も混ぜている。器色は暗褐色を呈すものが主流で、黒褐色のものも目立つほか、赤褐色を呈すもの（第28図17・24）も見受けられる。

b種のものは第29図13～21に示すものである。ほとんどはラフなタッチで施された曲線文であるが、17は矮小化したような鋸歯文を施文している。施文部位はａ種と同様、表裏面の口縁部～胴上部および口唇部であるが、裏面にも施文しているものは13だけであり、口唇部に施文するものは14・15である。14・15は同一個体とみられることから、本種においても口唇部や裏面にも施文するものは少なかったようである。

器形をみると直口気味に口縁部がやや外側へ開くもの（13・16・19）、口縁部が外反するもの（14・15・17・18）がみられる。前者は口唇部が尖り気味になり、後者は18が尖り気味で、他の３点は丸味を帯びる。本種も胴部が膨らむものはみられないようである。また、胴上部の粘土の積み跡部が盛り上がり、肥厚するようにみえるものも見受けられる。大きさについては判然としない。器面はナデ調整が施されるものの指頭痕がみられるものが多く、13は両面とも胴部に擦痕がみられる。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を含むものが多い。16・17・20は石灰質の砂粒も混入される。器色は暗褐色のものや黒褐色のものなど黒味のものが多く見受けられる。

c種に入るものを22～24に示した。いずれも胴上部の横位刻文とその上方の鋸歯状沈線の組み合わせである。23は横位文が押し引き文であるが、ここに含めた。22・23の口縁部をみると、いずれも外反するものであるが22は胴部がほとんど膨らまずに直線的に開きながら口縁部に向かうようで、23は胴部がやや膨らみ気味になるもののようである。24の胴部資料は22に似たような器形を示すものとみられる。22・23とも口唇部は平坦に仕上げている。24は胴径の推算ができ、横位文様の付近で約22cmを測る。器面はナデ調整が施されるが、22・23は擦痕のみられる部分も見受けられる。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒がみられる。３点とも暗褐色を呈す。

d種に入るものは25・26に示すものである。２点とも口縁部に１条の横位刻文が認められる。25は口唇部にも刻文を施している。いずれも口縁部が外反するもので、25は口唇部が丸味を帯び、26は平坦に整形している。26は口径の推算ができ、約14cmを測る。器面はナデ調整を施すが、裏面に指頭痕がみられる。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を含む。器色は25が黒褐色、26が暗褐色を呈す。

e種としたものを27・28に示した。口縁部は無文のまま放置し、口唇部だけに施文するものである。刻み目を配すものが普通のようである。器形的には胴部があまり膨らまず、口縁部が外反するものが多いようである。口唇部は丸味を持つ。2点とも口径の推算ができ、27は約18cm、28は約23cmである。両者とも器面はナデられ、裏面に指頭痕がみられる。胎土は泥質で、混入物に鉱物質の微砂粒と赤色粒を含む。器色は暗褐色を呈す。

ホ．底　部

今回の調査により数多くの底部資料が得られている。大別すれば丸底、尖底、乳房状尖底、平底のグループにわけられる。しかし、仔細にみるとそれぞれの中で若干の差異がみられ、下記のように分類してみた。

第1種－底面がゆるやかな弧状を呈す丸底のグループ

第2種－底面が砲弾状の尖底のグループ

第3種－底面部が厚く突き出たもので、いわゆる乳房状尖底のグループ

a、底面部は厚く弧状を呈すもの

b、底面部は厚く平坦なもの

c、全体の形状はbと同様であるが、底面を上げ底状に押し上げるもの

d、底面部は平坦であるが、内面がくぼみ底面部が薄くなるもの

e、全体の形状はdと同様であるが、底面を上げ底状に押し上げるもの

f、底面部への盛り上がりがよりスムーズになるもの

第4種－底面が平坦で、底径が5cm前後の平底のグループ

a、底面から直線的に外側へ開き、立ち上がり部は丸く仕上げるもの

b、底面から若干直方向に立ち上がり、比較的カドを有すもの

c、底面が若干外側へ張り出す感じになり、わずかにくびれ部をつくるもの

d、形状はcと同様であるが、底面の中央がくぼみ、縁部をつくるもの

e、形状はcと同様であるが、底面の縁部の数箇所に粘土粒を貼りつけるもの

f、底面が明瞭に外側へ張り出し、くびれ部は底面に近く、きついもの

g、くびれ部がやや上方にあり、ゆるやかなもの

第5種－その他

これらの出土状況をみると圧倒的に第3種、第4種が多く得られている。層位的にはV層で第3種が多く、Ⅳ層・Ⅱc層で第4種が多く得られ、第3種→第4種への傾向がみられた。しかし、両者とも細分したもののつながりについては判然としなかった。特徴的なものを第30図～第32図に示した。

以下、種別に略述する。

第6表　底部分類別出土状況

出土地		1地区				2地区		3地区					4地区				5地区				6地区			7地区					8地区			地区不明					合計
		Ⅱ層	ⅡC層	Ⅳ層	不明	Ⅱa	Ⅳ層	Ⅱ層	ⅡC層	Ⅳ層	V層	不明	Ⅱ層	ⅡC層	Ⅳ層	不明	Ⅱ層	Ⅳ層	V層	不明	Ⅳ層	V層	不明	表/攪	Ⅳ層	V層	土壌1	土壌2	攪乱	Ⅳ層	V層	表/攪	Ⅱ層	ⅡC層	Ⅳ層	不明	
第1種																	3			1	19			1	20			2							1	47
第2種																					23	1		3	45	10	1	1		1	1				1	87
	a																							3	2	1		1								7
	b																				1				1						1					3
第3種	a	2	1				1										3	1			29	5		15	102	18		2		1						180
	b	3	1										1	8			3				14	5		4	16	9		1		2		1		1	2	71
	c	1												1			1				5			1	15	1								2	27
	d	2																			3	1		1	19	4		1		2					33
	e																				3	1			2										6
	f	2															1				11			3	21	3		2					1			44
	破片																							6	36	2										44
第4種	a	5	3		1									2			3				6			2	12					1		2		1	1	39
	a′													1							6	1			3					1					1	13
	b	37	8		4	1		1					1	8	8		2	17	1	1	24		2	14	22	1				14		3	2	1	4	4	180
	b′	3	1											1	3			1			2				1											12
	c	67	35	7	3	1		1	2		1		1	10	12	1	1	31	2		12		1	22	48	1				18		4	1	1	1	14	298
	d	1	3																			1		4	3					3		2	2			19
	e	2													1																					3
	f	40	15	1	1						1				11	1		9	1		3		1	4	13	1		1	1	8		1	4		1	2	120
	g	39	4	1		1		2						7	6	1	3	12	2	1	5	1	3	6	10	1				6		2	2			4	119
第5種		1	4															2	1					1												9
合計		205	75	9	9	3	1	4	2	1	1		2	27	53	3	6	86	8	3	166	16	7	90	391	52	1	11	1	57	2	15	11	3	8	32	1361

a．第１種

明確に本種に属すとみられるものは第30図１に示すものである。底面はゆるやかな弧を描き、そのまま直線的に外側へ開いて胴部へ向かう。器面は雑なナデ調整が施され、凹凸が著しい。胎土は細かく石灰質の砂粒を多量混入する。外面は赤褐色、内面は黒褐色を呈す。

b．第２種

本種に属すと考えられるものを第30図２～５に示した。２は典型的なもので、３・４は底面が潰れた感じになっている。２・４はやや立ち気味に、３はその２点より開き気味に胴部へ移行するもののようである。２・３は制作時の際の粘土の繋ぎ目が盛り上がり、凹凸のある器面状況であるが、４はそれに比べるとスムーズな器面の状況を呈す。粘土の積み跡の状況が判明する２・５からすると、底面に近い部分は粘土紐の幅が小さめで、そこから２段目、３段目と幅の広くなる粘土紐を積み上げているのが認められる。

いずれも器面はナデ調整によるが、それほど丁寧ではない。２は指頭痕、３は縦位の擦痕が外面にみられる。どちらかといえば内面の方が滑らかである。２は胎土が細かく、石灰質の砂粒を混入し、３はやや砂質の胎土に微砂粒が混入され、４は胎土が細かく、鉱物質の微砂粒が多量に含まれる。

５は底面部が欠落しているが、本種になるかと考えられる。粘土の繋ぎ目の盛り上がりがみられ、若干凹凸をなす。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒を多量に含む。両面とも暗茶褐色を呈す。

c．第３種

いわゆる乳房状尖底で、前記したように底面部の状況や厚みからａ～ｆ種に細分した。

ａ種としたものは第30図６～16に示すものである。６は第２種の感じを残し、尖り気味のもので、11・16は端部がややめくれた感じで立ち上がり部がくびれる。胴部へはかなり外側へ開いて移行するもののようであるが、８・11～13はやや立ち気味になる。いずれも器面はナデ調整が雑に施されている。６・９・11～15は胎土が細かく、鉱物質の微砂粒を多量に混入しており、６はそのほか赤色粒も多量含む。７は胎土が砂質で、石灰質の微砂粒を密に混入する。８・10・16は泥質な胎土で、石灰質の微砂粒のほか赤色粒も散見されるが、量的には多くない。

ｂ種に分類したものを第30図17・18に示した。17はやや立ち気味に、18は17よりも開き気味に胴部へ移行するものとみられる。２点とも器面はナデられているものの雑で、凹凸が著しい。17は胎土がやや砂質で、鉱物質の微砂粒を密に含む。18は泥質な胎土で、混入物はあまり含まず、赤色粒が散見される。

ｃ種に属すものは19・20に示したもので、底面部を５㎜ほど押し上げている。いずれも直線的に外側へ開いて胴部へ移行するものである。器面はナデ調整が施され、20はより丁寧に調整されている。２点とも外面よりも内面の方が滑らかである。胎土は19が泥質で、石灰質の微砂粒を疎に混入し、20が胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒を密に混入している。

21は上記３種のいずれかになると考えられるが、底面部が欠落し判然としない。

ｄ種に属すものを第31図22～26に示した。底面部の幅は２～４㎝ぐらいで、ｂ種とほとんど変化はみられない。内面がやや凹む感じになり、底面部の厚みが１㎝前後と若干薄くなるものである。23・24はわずかに底面が押し上げられている。いずれも直線的に外側へ開きながら胴部へ移行するもののようである。

器面のナデ調整は雑で、どちらかといえば内面の方が滑らかな仕上がりである。胎土は細かく、鉱物質の微砂粒を多量混入する。25・26は赤色粒も散見される。

ｅ種は第31図27・28に示したもので、27はかなり立ち気味に胴部へ移行するもののようで、28は開き気味になるようである。器面は軽くナデ調整が施される。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒のほか赤色粒が密に混入される。

ｆ種に属すものを第31図29～32に示した。底面から胴下半部へスムーズに移行するもので、29・30は底

面の厚さが3㎝前後と厚く、31・32は1～2㎝前後とやや薄くなっている。32は底面からの立ち上がり部に粘土紐を貼りつけたところがみられる。器面はナデ調整が施され、31・32はより丁寧に施されている。32は内面に擦痕様のものが明瞭に残る。いずれも胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒のほか、赤色粒が混入されている。30・32は赤色粒が目立つ。

d．第4種

先述したように底面からの立ち上がり部の状況や底面の状況からa～gに細分した。特徴的なものを第31図33～51、第32図52～73に示した。以下、それぞれについて略述する。

a種に属すものは第31図33～35に示したもので、底径は3～5㎝を測る。33は内底面のほぼ中央部に円形の小孔（直径約5㎜で深さ約2㎜）が認められる。いずれも器面は雑なナデ調整が施され、胎土は細かく、33・34は鉱物質の微砂粒を、35は石灰質の微砂粒と赤色粒を多量混入する。

b種は36～44に示したもので、底径が約4㎝～8㎝と幅がみられるものの、6㎝前後の大きさのものが主流のようである。43・44は底面部が厚くなるもので、44は底面に1～2㎝大の略円形の粘土粒が、2個並んで貼り付けられている。また、36・39は若干上げ底状になる。器面は比較的丁寧なナデ調整を施しているが、立ち上がり部に指頭痕を残すもの（36・38・42）が見受けられる。また、38は内外面に刷毛目様の調整痕が認められる。胎土はやや砂質のもの（36～41）と泥質のもの（42～44）がみられる。混入物は36が粒の粗い鉱物質の砂粒が密に含まれ、それが器表面に露出して手触りがザラザラする。37～41は鉱物質の微砂粒を多量に含む。42～44は鉱物質の微砂粒を多量に混入するほか、赤色粒も目立つ。

c種に属すものを45～48に示した。46はくびれ部からほぼ直方向に立ち上がって胴部へ向かい、他の3点は外側へ開くように胴部へ移行するもののようである。46は若干上げ底状になる。底径は47が約4㎝、他の3点は約6㎝である。器面は45・48が比較的丁寧なナデ調整を施しているが、46・47はそれほどでもない。46は内面に縦方向の刷毛目様の調整痕が認められる。45・47は底面の近くに指頭痕がみられる。胎土は45がやや砂質で、他の3点は泥質である。混入物は45が鉱物質の微砂粒を多く混入するほか、赤色粒も散見される。他の3点も同様な混入物を含むが、散見される程度である。

d種としたものは49～51に示すものである。いずれもくびれ部から外側へ開くように胴部へ向かうもののようである。51は中央部のくぼみの径が小さくなっている。底径は49が約4㎝、他の2点は約5㎝である。器面はナデ調整が施され、50だけが比較的丁寧な調整を施す。胎土は3点とも泥質で、鉱物質の微砂粒や赤色粒などが散見されるものの、混入物の量は疎である。

e種は第32図52に示すもので、くびれ部から直線的に外側へ開きながら胴部へ移行するもののようである。底面の粘土粒は押し潰した感じで、雑に貼りつけている。大きめのものと小さめのものを2個づつ相対するように配している。底径は約6㎝。外面は丁寧なナデ調整により滑らかであるが、内面は縦方向の刷毛目様の調整痕が密に認められる。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒のほか赤色粒も散見される。

f種になるかとみられるものを第32図53～67に示した。器形的には59のようにくびれ部から直線的に外側へ開いて立ち上がり、胴下部でやや立ち気味になって胴上部へ移行するものが一般的であったかと推察される。66・67はくびれ部からの開きが、他の資料に比べて大きい。底面の外側への張り出しは先端部が尖る感じのものが多く見受けられるが、61～65はやや丸味を帯びる。55・56は底面が若干上げ底状になっている。底径は4～7㎝のものが見受けられるが、5・6㎝のものが多いようである。器面はナデ調整を施すが、雑に施されるものがほとんどである。56・63は立ち上がり部に指頭痕が認められる。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒を多く混入し、赤色粒が散見されるものが多く見受けられる。砂質の胎土を有すもの（55・56・59・64）でも混入物の状況に極端な変化はみられない。

g種に入るかと考えられるものは第32図68～74に示すようなものである。くびれ部からの立ち上がりの

第７表ａ　第１群土器観察一覧

親	no	坂	ｸﾘｯﾄ	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	胎土	混入物
	1	1	D-16	Ⅳ			ﾅﾃﾞ調整、表面に擦痕残る。	表-暗褐色、裏-赤褐色	細かく、泥質	チャート、石英砂粒
	2	1	H-17	Ⅱ	最下部		ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	チャート、石英砂粒
	3		C-21	Ⅳ	ﾃｽﾄﾋﾟｯﾄ		両面と擦痕著しい	表-黒褐色、裏-赤褐色	細かく、泥質	石英、チャート微砂粒
	4	2	F-26		攪乱		両面と擦痕著しい	赤褐色	細かく砂質	チャート、石英砂粒
	5	1	D-22	Ⅴ	試掘	口径20.4 器高20.0				
	6	5	S-21	Ⅳ			ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	細かく、砂質	石英、チャート微砂粒
14	7	1	D-11	Ⅳ	試掘ﾄﾚﾝﾁ		ナデ調整	赤褐色	細かく、泥質	チャート、石英砂粒
	8		不明		砂		ナデ調整	赤褐色	細かく、泥質	チャート、石英砂粒
	9		S-?	Ⅴ	盛土		ナデ調整	黒褐色	細かく、砂質	石英質微砂粒
	10		不明			口径17.4	ナデ調整	暗茶褐色	細かく、泥質	石灰質微砂粒
	11	5	ｷ-3	Ⅳ		口径19.2	ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	石灰質砂粒、石英質微砂粒
	12	5	T-11	Ⅲ	砂まじり		ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	石灰質砂粒

第７表ｂ　第２群土器観察一覧

親	no	坂	ｸﾘｯﾄ	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	胎土	混入物
	1	3	P-35	Ⅳ	西壁	口径25.4				
	2		3-129			口径26.8	ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗黄褐色	細かく、泥質	石英質砂粒、黒色鉱物
	3		不明			口径21.6	ナデ調整	暗茶褐色	細かく、泥質	石英質砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	4	1	D-21	Ⅱ	21	口径約26.0	ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	石英質砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	5	3	P-R29	Ⅳ	上部砂	口径24.0	ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	石英質砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
15	6		不明				ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	7	6	G-31-35				ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗黄褐色	細かく、泥質	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	8	3	Q-24	Ⅳ	下	口径20.2	ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	石英質砂粒
	9	7	う-19	Ⅳ	上2	口径11.0	ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗茶褐色	細かく、泥質	石英質砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	10	3	P-20-29		T.T砂	口径18.6	ナデ調整	表-赤褐色、裏-黒褐色	細かく、泥質	石英質微砂粒、黒色鉱物
	11	1	P-14	Ⅱ	25 30	口径18.6	ナデ調整	暗褐色	細かく、泥質	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒

第７表ｃ①第３群土器観察一覧

親	no	坂	グリット	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	混入物
16	1	7	Z-27+Z-27	Ⅴ	上	口径16.1	ナデ調整、表面　ハケ目調整痕残る	黄灰色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒？
	2	7	あ-29	Ⅴ		口径13.0	ナデ調整	表-褪せた赤褐色、裏-暗灰色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒？
	3	7	あ-30	Ⅳ	最下部	胴径8.8	ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗灰色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒？
	4	7	あ-い34	Ⅴ			ナデ調整	表-暗黄灰色、裏-黒灰色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	5	7	あ-31	Ⅳ	最下		ナデ調整	表-暗黄灰色、裏-黒灰色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒？
	6	7	Z-30	Ⅳ		底径10.0	ナデ調整	表-暗黄灰色、裏-黒灰色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒？、粒が粗く混入量多い
	7	7	い-31・2?			底径6.4	ナデ調整	表-暗褐色、裏-褪せた橙褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒？、混入量は疎である
	8	1	E-17	Ⅱc	⑬	胴径9.6	ナデ調整、裏面に擦痕残る	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、金雲母
	9	6	Y-34	Ⅳ		底径6.4	ナデ調整	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質砂粒、金雲母
	10	7	Z-29	Ⅳ		底径5.5	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒、金雲母
	11	6	Y-28	Ⅴ	上	口径19.4 底径（内側4.2） 高さ12.55	ナデ調整	表-赤・暗黄・黒褐色、裏-赤・黒褐色	石英質砂粒、粒が粗く、混入量多い
	12	6	X-34	Ⅳ		口径21.6	ナデ調整、表面擦痕残る	暗褐色	石英質砂粒、石灰質砂粒、赤色粒
	13	7	Z-32+あ-34+え-34	Ⅳ	最下		ナデ調整、表面擦痕残る、粘土のつなぎ目が隆帯状になる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	14	6	Y-35	Ⅳ		口径36.2	ナデ調整、裏面に擦痕残る	赤褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒、赤色粒
	15	8	Z-21	Ⅳ	上	口径22.2	ナデ調整、裏面に擦痕残る、器面ボーラスになる	褪せた暗褐色	石灰質砂粒、黒色鉱物
	16	4	Q-16	Ⅴ		口径18.6	ナデ調整、裏面指頭痕あり	暗褐色	石灰質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	17	5	Y-18	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	18	7	う-31	Ⅳ	最下		ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	26	7	Z-35			口径19.3	ナデ調整	表-黒褐色、裏-赤褐色	石灰質微砂粒、黒色鉱物
	27	7	い-35	Ⅳ		口径11.4	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質微砂粒、黒色鉱物
	28	5	W-22	Ⅳ	下面	口径18.7	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質微砂粒、黒色鉱物
	29	8	Z-16	Ⅴ		胴径17.8	ナデ調整	上部-赤褐色、下部-暗褐色	石英質微砂粒、石灰質微砂粒、黒色鉱物
17	19	7	Z-33	Ⅳ		底径4.1	ナデ調整	表-赤褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	20		不明			底径5.4	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒、赤色粒
	21	7	あ-28	Ⅳ		底径4.6	ナデ調整	表-赤褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	22	6	X-32	Ⅳ		底径6.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	23	7	Z-35	Ⅳ		底径6.4	ナデ調整	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物、赤色粒の粒が大きく、量も多い
	24	7	う-31	Ⅴ		底径6.3	ナデ調整	表-赤褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	25	5+8	X-17+Z-17	Ⅳ	上	底径7.0	ナデ調整	表-暗褐色、裏-赤褐色	石灰質砂粒、石英質微砂粒、黒色鉱物
	30	7	え-36?	Ⅴ	灰集中土壙	底径10.0	ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	31	7	う-30		攪乱	口径7.4	ナデ調整、表面指頭痕あり	表-黒褐色、裏-暗茶褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	32	5	W-17	Ⅳ		底径1.6	ナデ調整	表-暗黄褐色、裏-赤褐色	石灰質砂粒、石英質微砂粒、黒色鉱物
	33	4	O-20	Ⅳ	上面⑮		ナデ調整	表-赤・黒褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	34	7	え-29～30	Ⅴ+Ⅳ	土壙		ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	35	5	V-12	Ⅳ	下	底径6.0	ナデ調整、表-指頭痕あり、裏-擦痕残る	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	36	7	う-31	Ⅴ		底径4.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	37	7	う・え31～32	Ⅴ		底径3.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	38	6	U-25	Ⅳ	下	底径8.4	ナデ調整	暗茶褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	39	7	い-35	Ⅳ	最下部		ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、粒の粗い赤色粒
	40	2	X-31	Ⅴ	上		ナデ調整	表-暗黄褐色、裏-黒灰色	石英質微砂粒、粒の粗い赤色粒
18	1	7	Z-35	Ⅱ	砂質	口径4.6器高3.3	ナデ調整、器面はボーラスを呈す	暗褐色	石灰質砂粒
	2	7	え-35	Ⅴ		口径5.8	ナデ調整、表面に擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、粒の粗いものもみられる
	3	5	ｷ-2	Ⅳ		口径5.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	4	5	T-17	Ⅳ	上	口径7.4	ナデ調整	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	5	1	F-16	Ⅱc		口径5.4	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
	6	7	え-35	Ⅴ		底径0.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	7	3	R-25	Ⅳ		底径1.0	ナデ調整	表-赤褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	8		?-7	Ⅳ		底径1.0	ナデ調整、表面に擦痕のこる	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	9	7	Z-29	Ⅳ		底径1.3	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	10	7	い-34	Ⅳ	最下	口径9.7高さ8.4	ナデ調整、表面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、粒の粗いものもみられる
	11		不明				ナデ調整、表面に指頭痕あり	表-黒褐色、表-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	12	7	あ-35	Ⅳ		口径10.3	ナデ調整、表面に擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒
	13	7	う-32	Ⅴ	最下	底径1.3	ナデ調整、表面に指頭痕あり	暗茶褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	14	8	あ-17	Ⅳ		底径1.6	ナデ調整	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒
	15	4	Q-16?	Ⅳ	上	底径2.1	ナデ調整、表面指頭痕あり	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	16	7	え-32		表土	底径1.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	17	7	あ-34	Ⅴ		底径1.6	ナデ調整、表面に指頭痕あり	暗褐色	石灰質砂粒、石英質微砂粒、赤色粒
	18	3	R-34	Ⅳ		底径2.3	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	19	7	Z-34	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	20	8	あ-20	Ⅳ	上	口径9.8	ナデ調整	黒褐色	石英質微砂粒、粒の粗いものもみられる。金雲母
	21	7	Z-29	Ⅳ		口径8.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
	22	7	Z-25	Ⅳ	下部	口径6.7	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	23	7	T.T.7	不明			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	24	7	Z-27	Ⅳ		口径5.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	25	8	え-20		表土	胴径6.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	26		T.T.9	Ⅱ		底径4.8	ナデ調整、表面凹凸あり	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	27	7	あ-25		表土	底径4.5	ナデ調整、表面に擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	28	7	あ-25		表土	底径3.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
	29	1	E-16	Ⅱ	30～35	底径4.1	ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
19	1	6	ｷ-7	Ⅳ		口径3.2	ナデ調整	淡灰褐色	細かな赤色粒
	2	7	う-31	Ⅳ	最下	口径6.9	ナデ調整、器面凹凸あり	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	3	6	W-35	Ⅳ		口径4.0	ナデ調整、裏面に粘土の積み痕残る。	淡灰褐色	石英質微砂粒、赤色粒（粒にバラツキ）
	4	7	Z-34	Ⅳ		胴径11.0	ナデ調整、若干凹凸あり	表-暗褐色、裏-灰黒色	石英質微砂粒、赤色粒
	5	7	Z-34	Ⅳ	最下部	口径5.2 胴径8.8	ナデ調整、若干凹凸あり	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	6	7	Z-30	Ⅳ		口径5.4	ナデ調整、裏面に粘土の積み痕残る。	暗黄褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	7	7	え-30	Ⅳ	最下部	口径5.6	ナデ調整	暗黄褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	8	6	ｷ-8	Ⅳ		口径7.0	ナデ調整	表面-暗黄褐色、裏面-赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	9	8	ｹ-4	Ⅳ	上面	口径6.0	ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	10	3	R-31		表土	口径7.0	ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。

第７表ｃ②第３群土器観察一覧

類	no	地区	グリット	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	混入物
19	11	6	X-34	Ⅳ		口径5.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	12	6	ｷ-8	Ⅳ		胴径7.0	ナデ調整	表-橙褐色、裏-暗灰色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	13	6	W-24	Ⅳ		口径5.4	ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	14	5	W-14	Ⅳ	上	口径6.8	ナデ調整	表-暗褐色及び灰黒色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	15	7	え-31	Ⅴ	土壙	口径7.6	ナデ調整	暗褐色	細かな赤色粒、石英質微砂粒
	16	4	R-23	Ⅴ	上	口径7.6	ナデ調整	黒褐色	細かな赤色粒、石英質微砂粒
	17	7	あ-30	Ⅳ		口径8.0	ナデ調整	暗褐色	細かな赤色粒、石英質微砂粒
	18	6	W-31	Ⅳ	下	最小胴径6.8	ナデ調整	表-赤褐色、裏-暗黄褐色	細かな赤色粒、石英質微砂粒
	19	6	W-33	Ⅳ		最小胴径6.0	ナデ調整、表面に擦痕残る	暗茶褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	20	7	Z-34	Ⅳ		最小胴径6.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	21	7	あ-31	Ⅴ	土壙	胴径7.4	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒、石英質砂粒
	22	7	あ～え34～35			最小胴径6.2	ナデ調整、裏面は雑仕上げ	暗黄褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	23	7	Z-34	Ⅴ		最小胴径7.4	ナデ調整、裏面粘土の積み痕がみられる	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	24	7	あ～え34～36	Ⅴ	灰集中土壙	最小胴径6.3	ナデ調整、裏面は雑仕上げ	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	25	7	Z-25	Ⅳ		最小胴径6.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	26	7	ｹ-9	Ⅳ		胴径5.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
20	1	5	X-22	Ⅴ	西上	口径18.2			
	2	7	い-35	Ⅳ		口径9.2	ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	3	7	あ-33	Ⅴ	最下部	口径14.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、黒色鉱物
	4		T.T.6	Ⅱ		口径27.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	5	6	W-33	Ⅴ	上	口径11.0	ナデ調整	表-黒褐色、裏-赤褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	6		不明			口径8.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、粒の粗い赤色粒
	7	5	Y-15+ｹ-3	Ⅴ+Ⅳ	上+上	口径9.8胴径10.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	8	7	あ～え34～36	Ⅴ	土壙	口径5.5	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	9	6	X-31	Ⅳ		口径8.4	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
	10	7	あ～え32～36	Ⅴ	灰集中土壙	口径9.6	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒
	11	7	Z-35(X-35)	Ⅴ		口径13.2			
	12	6	W-35	Ⅳ Ⅴ	最下	胴径12.4	ナデ調整	暗褐色、表面黒褐色の部分あり	石英質微砂粒
	13	6	G-31-35			最小胴径12.8	ナデ調整	暗褐色、表面黒褐色の部分あり	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	14	5	W-18	Ⅳ		胴径11.6	ナデ調整	表-赤褐色、裏暗灰色	石英質微砂粒
	15	6	Y-32	Ⅳ		最小胴径9.1	ナデ調整	表-暗黄褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	16	7	Z-31	Ⅴ	灰集中土壙	最小胴径9.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	17	7	う-32	Ⅴ	最下部	最大胴径26.7	表面擦痕残る	赤褐色	石英質微砂粒、石英質砂粒（粒が粗い）、細かな赤色粒
	18	6	V-24	Ⅳ		胴径25.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、石英質微砂粒、黒色鉱物
	19	6	V-34	Ⅴ	上	胴径36.4	ナデ調整	暗褐色、表面黒褐色の部分あり	石英質微砂粒、細かな赤色粒、黒色鉱物
21	1	5	Y-12	Ⅳ	上	口径29.3	ナデ調整	表-赤褐色、裏-暗褐色、黒色の部分あり	石英質微砂粒、赤色粒
	2	7	い-25	Ⅴ		口径36.6	ナデ調整	暗黒色	石英質微砂粒、赤色粒
	3	7	い-28	Ⅳ	最下	口径15.7	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	4		T.T.7	Ⅱ		口径22.0	ナデ調整、表裏面にハケ目のこる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	5	7	う-28	Ⅳ	最下	口径20.2	雑なナデ調整、器面に凹凸あり	暗黒色	石英質微砂粒、赤色粒
	6	8	あ-18	Ⅳ		口径13.2	ナデ調整	表-暗灰褐色、裏-暗褐色	石灰質砂粒、石英質微砂粒、赤色粒
	7	8	う-19	Ⅳ	上2	口径15.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	8	1	G-16⑨	Ⅱc	⑨	口径22.1	ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	9	7	あ～え34-36		灰集中土壙	口径23.0	ナデ調整	暗褐色	石灰質砂粒、石英質微砂粒、赤色粒
	10	6	W-32	Ⅳ		口径18.4	ナデ調整		石英質微砂粒、石灰質砂粒
	11	7	あ-31	Ⅴ	土壙	口径18.0	ナデ調整、表面に指頭痕あり	表-暗褐色,煤けた部分あり、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	12	6	V-33	Ⅴ	上	口径25.0	ナデ調整	暗褐色、表-煤けた部分あり	石英質微砂粒、黒色鉱物
	13	7	あ～え34-36	Ⅴ	土壙	口径38.0	ナデ調整、表面に擦痕、裏面にヘラナデ痕がのこる	暗褐色、表-煤けた部分あり	石英質微砂粒、赤色粒
	14	6+7	Z-35+X-35+Z-37	Ⅱ+Ⅳ	表採	口径38.2	ナデ調整、裏面に擦痕のこる	暗褐色、表-煤けた部分あり	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	15	6	X-27+X-30	Ⅳ		口径35.9	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、黒色粒
	16		不明	Ⅳ		口径38.4	ナデ調整、裏面に擦痕のこる	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、黒色粒
	17	8	Z-23	Ⅴ	上		ナデ調整、裏面にハケ目のこる	暗褐色	石英質微砂粒、黒色粒
22	18	7	あ･い31～32		土坑	口径20.5	ナデ調整、表面に指頭痕、擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	19	7	Z-33	Ⅳ		口径19.4	ナデ調整、表裏面口縁部に擦痕残る、表面胴部？指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒、黒色鉱物
	20	7	Z-27	Ⅳ		口径19.1	ナデ調整、表面に擦痕のこり、表面に指頭痕あり	暗褐色	赤色粒、石英質微砂粒
	21	7	あ-35		攪乱	口径13.4	ナデ調整	暗茶褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	22	7	い-31	Ⅳ		口径18.2	ナデ調整、表面に指頭痕あり	表-暗茶褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	23		T.T.10	Ⅱ		口径17.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	24	7	あ-28	Ⅳ		口径28.7	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	表-暗褐色、裏-暗黒色	石英質微砂粒、赤色粒
	25	6	W-31	Ⅴ	土坑下	口径32.2	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	赤色粒、石英質微砂粒
	26	7	う-28+い-30	Ⅳ	最下部	口径33.8	ナデ調整、表裏面に擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	27		不明			口径23.4	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色、表面口縁部は煤けている	石英質微砂粒、粘板岩質破片
	28	7	い-28	Ⅳ	最下	口径24.2	ナデ調整、裏面に指頭痕あり	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	29	7	え-30	Ⅳ	最下	口径21.2	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	30	7	え-31	Ⅳ		口径26.8	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
23	31	5	X-22	Ⅴ	上	口径31.6	ナデ調整になるが、擦痕や指頭痕も残る。	暗褐色	石灰質砂粒、黒色鉱物
	32	6	Y-34	Ⅴ		口径28.0	ヘラナデ調整、表面-斜め、裏-横方向	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	33	6	X-30	Ⅳ		口径32.7	ナデ調整	表-赤褐色、裏-暗褐色	石灰質砂粒、石英質微砂粒
	34	5	X-22	Ⅴ	西	口径30.8	ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗灰色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	35	6	X-34	Ⅴ	上pit2	口径31.0	割りと丁寧なナデ調整、裏面に指頭今	表面の口縁部-黒褐色、胴部と底面-暗褐色	石英質微砂粒、粒の細かな赤色粒
	36	7			試NO7	口径24.5 底径6.0 高さ20.0			
	37	7	あ-29	Ⅳ		口径17.6	ナデ調整	表-赤褐色、煤付着、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	38	7	あ-34	Ⅳ	最下	口径24.5	ナデ調整、表面凹凸あり	赤褐色、外面口縁に煤付着	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	39	7			溝状攪乱	口径37.4	ナデ調整	暗茶褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	40	7	あ-34	Ⅳ	最下	口径28.4	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	41	7	あ-29	Ⅳ			丁寧なナデ調整	暗褐色	肉眼観察困難、石英質微砂粒、赤色粒
	42	7	う-28	Ⅳ	最下	口径20.2	丁寧なナデ調整	暗褐色	肉眼観察困難、石英質微砂粒、赤色粒
	43	7	あ-31	Ⅳ		口径35.6	表裏面にハケ目残る	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	44	6	X-31	Ⅳ		口径24.2	ナデ調整、表-擦痕残る、裏-指頭痕	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	45	7	え-31	Ⅳ	最下部	口径15.0	ナデ調整、裏面口縁にハケ目様の痕	表-赤褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	46	7	え-29	Ⅴ	土壙	口径19.2	ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	47	5	ｶ-3	Ⅱc		口径19.5	ナデ調整、裏面胴部にハケ目あり	暗褐色、表面煤付着	細かな赤色粒、石英質微砂粒
	48	7	あ-31	Ⅴ	上	口径28.6	ナデ調整を施すが、器面の凹凸が著しい。口縁部には指頭痕がみられる。	暗茶褐色	石英質微砂粒、粒の粗い赤色粒
	49	7	う-34	Ⅴ	土壙	口径26.9	雑なナデ調整	表-赤褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	50	7	い-31	Ⅴ	上	口径31.6	表面-凹凸著しく、指頭痕雑裏面-指頭痕やヘラナデが残る。	表面-暗褐色、裏面-黒褐色	石英質微砂粒、石英質砂粒、粒の細かな赤色粒
	51	6	X-30	Ⅳ		口径23.6	ナデ調整、表裏にハケ目様調整痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	52	7	う～え33	Ⅴ	土壙	口径33.6	ナデ調整、ヘラナデの痕が残る。表面は凹凸が著しい。	赤褐色	赤色粒、石英質微砂粒
	53	5	V-21	Ⅳ	下	口径25.4	比較的丁寧なナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、石灰砂粒
24	54	7	あ～え33～36	Ⅴ	土壙	口径17.4	ナデ調整、表-指頭痕有り、裏-擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	55	6	X-30	Ⅳ		口径21.4	ナデ調整、裏面に擦痕のこる	暗褐色	石灰質微砂粒、石英質微砂粒

第７表ｃ③第３群土器観察一覧

器種	no	地区	グリット	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	混入物
24	56	7	あ･い34･35	Ⅴ	灰土壙	口径22.6	ナデ調整、表裏面に擦痕のこる、器面若干凹凸あり	暗褐色、表裏面とも部分的に色が異る。	石英質微砂粒、赤色粒
	57	7	Z-29	Ⅴ	上	口径25.3	ナデ調整、裏面に指頭痕あり、器面凹凸あり	表-暗黒色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	58	1	G-17	Ⅱc		口径18.4	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	59	1	D-11		最下11	口径22.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	60	7	あ-27	Ⅳ	下	口径17.0	ナデ調整、表裏面に擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	61	7	あ～え34～36	Ⅴ	灰集中土壙		ナデ調整、裏面に指頭痕、擦痕のこる	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	62	7	Z-28	Ⅳ		口径21.4	ナデ調整、表面に指頭痕、擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	63	7	あ･い34･35	Ⅴ	灰土壙	口径25.4	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗黒色	石灰質砂粒、石英質微砂粒
	64	6	X-27	Ⅳ	最下部	口径31.0	ナデ調整、表面に指頭痕あり、裏面胴部に擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色粒
	65	6	V-31	Ⅳ		口径28.6	ナデ調整、表面に指頭痕あり	暗黒色	石英質微砂粒（粒の粗いものもみられる）、赤色粒
	66	7	20～30	Ⅴ		口径18.8	ナデ調整、表面指頭痕あり、粘土のつなぎ目部分的に隆帯状になる、裏面胴部にハケ目のこる	暗褐色、表面煤けている	石英質微砂粒、赤色粒
	67	8	え-21	Ⅳ	上貝3	口径26.4	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色、表面煤けた部分あり	石英質微砂粒、赤色粒
	68	6	X-31	Ⅳ			ナデ調整、裏面にハケ目のこる	表-暗褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒
	69	7	う-34	Ⅳ	最下	口径16.0	雑なナデ調整	暗褐色、表面煤けている	石英質微砂粒、粘板岩質破片
	70	7	え-28	Ⅴ		口径25.4	ナデ調整、粘土のつなぎ目隆帯状になる	暗褐色、表面に煤けた部分あり	石英質微砂粒、赤色粒
	71	6	W-35	Ⅳ		口径25.8	ナデ調整	暗褐色、表面口縁部は黒褐色	石英質微砂粒
	72	7	い-36	Ⅳ		口径31.6	雑なナデ調整、粘土のつなぎ目隆帯状になる	暗褐色、表面口縁部は煤けている	石英質微砂粒、粘板岩破片
	73	6	X-31	Ⅳ		口径29.6	ナデ調整、裏面に指頭痕あり	表-暗褐色、裏-暗黄褐色、灰褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒、赤色粒
	74	7	あ-31	Ⅴ	土壙	口径23.0	ナデ調整、表裏面に擦痕のこる	暗褐色、表面に煤けた部分あり	石英質微砂粒、赤色粒
	75	1	G-21	Ⅴ	上面	口径28.7	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	76	5	X-22	Ⅳ	下面	口径36.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	77	6	X-35	Ⅳ		口径27.1	ナデ調整、裏面に擦痕のこる	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	78	6	Y-29	Ⅳ		口径32.2	ナデ調整、表裏面若干ポーラス	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒、赤色粒
	79	7	あ-26	Ⅴ	上		ナデ調整、表面に指頭痕あり	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、粘板岩質破片、赤色粒
25	80	7	あ-34	Ⅳ		口径21.6	ナデ調整、表面凹凸あり	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	81	7	う-28	Ⅳ	最下	口径21.9	ナデ調整、表面ハケ目痕残る	表-黒褐色、裏-赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	82	7	あ-35	Ⅳ	最下	口径24.6	ナデ調整	暗茶褐色、表面煤付着	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	83	7	う～え33	Ⅴ	土壙	胴径27.8	ナデ調整、表裏指頭痕あり	表-黒褐色、裏-暗茶褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	84	7	う-え33	Ⅴ	土壙	口径25.4	ナデ調整、表裏ハケ目痕残る	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	85	6	X-27	Ⅳ	最下	口径25.4	ナデ調整	表-暗黄褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、石英質微砂粒、細かな赤色粒
	86	6	W-35	Ⅳ		口径39.0	表裏ハケ目痕明瞭	暗褐色、黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	87	7	Z-35	Ⅴ		口径35.0	ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒（粗いものもみられる）
	88	5	X-23	Ⅴ	上面	口径15.8	ナデ調整	暗褐色、表面煤付着	石英質微砂粒、黒色鉱物
	89	5+6	W-21+X-29	Ⅳ+Ⅴ	下面+上面	口径16.2	ナデ調整	暗黄褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	90	7	T.T.8	Ⅱ+Ⅴ		口径(最小13.0最大15.5)			
	91	7	Z-35			口径24.0	ナデ調整	表-赤褐色、黒褐色、裏-赤褐色、黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	92	7	Z-35	Ⅳ		口径26.4	ナデ調整	暗褐色、表面煤付着	石英質砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	93	7	え-33	Ⅳ		口径18.0	ナデ調整、裏面指頭痕	表-黒褐色、裏-暗茶褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	94	6	X-29	Ⅳ		口径25.0	ナデ調整、裏面擦痕残る。	表-赤褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	95	5	V-16	Ⅳ	下	口径28.2	ナデ調整	表-赤褐色、裏-灰黒色	石英質砂粒、粒が大きいものが主体
	96	5	Y-23	Ⅳ		口径32.20	口縁部ナデ調整、胴部擦痕あり	表-黒褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	97	6	V-33	Ⅴ	上	口径15.0	ナデ調整	暗黄褐色	石英質砂粒、黒色鉱物
	98	7	あ-33･34	Ⅳ		口径13.4	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
	99	6	X-30	Ⅳ		口径18.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、細かな赤色粒
	100	7	Z-35		黒色砂		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	101	6	X-34	Ⅳ		口径30.6	ナデ調整	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、石英質砂粒
	102	7	あ-33	Ⅴ	最下	胴径19.9	ナデ調整、表面ハケ目残る部分あり	赤褐色、表面煤付着	石英質砂粒（粒の粗いものがある）細かな赤色粒
	103	1	G-16-?	Ⅱc		胴径15.8	ナデ調整	表-暗茶褐色、裏-暗灰色	石英質砂粒（粒の粗いものがある）細かな赤色粒
	104	1	E-12	Ⅱ	最下部2	胴径17.5	ナデ調整、裏面ハケ目調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
26	1	7	あ-34	Ⅳ	最下	口径(最小8.4最大10.2)底径3.5高さ41.5	ナデ調整、器面凹凸あり、粘土のつなぎ目隆帯状の部分あり	暗褐色	石英質微砂粒、粒の粗い赤色粒
	2	7	え-29	Ⅴ	土壙	口径(最小19.0最大22.0)	雑なナデ調整、器面凹凸あり、粘土のつなぎ目隆帯状	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	3	6	X-34	Ⅳ+Ⅴ	最下	口径28.8 高さ22.5	ナデ調整、裏面に指頭痕あり	暗褐色	石灰質砂粒、赤色粒
	4	7	え-29	Ⅴ	土壙	口径36.5 高さ35.0 底径3.5	ナデ調整、器面凹凸あり、表面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	5	7	え-29	Ⅳ		口径43.1 現存高24.0	ナデ調整、表面に擦痕のこる、粘土のつなぎ目隆帯状になる	暗褐色、表面口縁部黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	6	8	Z-16+Z-15+ｸ-3	Ⅳ	下部+上面	口径36.0器高29.0	ナデ調整、裏面にハケ目痕のこる、器面ポーラスを呈す	暗褐色、表面口縁に黒色の部分あり	石灰質砂粒、赤色粒
	7	7	あ-34+あ･い34･35	Ⅴ	灰土壙	口径36.0	ナデ調整、表裏面に指頭痕擦痕のこる	表-暗既褐色、裏-黒褐色	石灰質砂粒、石英質微砂粒
	8	7	う～え31～32+あ～え33～36	Ⅴ	土壙	口径32.0高さ26.5	口縁部ナデ調整、胴部以下表裏面にハケ目痕のこる	暗茶褐色	石英質砂粒、粘板岩破片、赤色粒
	9	7	う-25	Ⅴ	最下部	口径(最小34.2最大35.0)	ナデ調整、表面凹凸あり、表裏面に指頭痕あり	赤褐色、表面口縁部煤けている	石英質砂粒、粘板岩破片、赤色粒
	10	7	え-34	Ⅴ		口径35.0	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色表裏面に黒褐色の部分あり	石英質微砂粒、赤色粒
	11	7	え-29	Ⅳ		最大胴径35.0 現存高31.0	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり、粘土のつなぎ目隆帯状になる	暗褐色、表面上部黒褐色を呈す	石英質微砂粒、赤色粒
27	1	6	W-35	Ⅳ		口径14.6	ナデ調整、表面若干凹凸あり、粘土のつなぎ目が隆帯状になる	表-口縁部が黒褐色、胴部暗茶褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる
	2	7	い-28	Ⅳ	最下	口径26.4	雑なナデ調整、指頭痕表裏面に残る	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる、黒色鉱物
	3	7	Y-あ31-32	Ⅴ			ナデ調整、擦痕様のもの残る表裏に	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒、黒色鉱物
	4	7	Z-35	Ⅴ		口径17.4	ナデ調整、表裏面に指頭痕残る	表-暗褐色、裏-口縁部赤褐色、胴部暗黄褐色	石灰質砂粒
	5	7	あ～え33～36	Ⅴ	土壙	口径14.3	雑なナデ調整、表裏面に若干の凹凸凹凸あり	表-黒褐色、暗褐色	石灰質砂粒、赤色粒
	6	6	W-3?6	Ⅳ			ナデ調整	表-黒褐色、暗褐色	石英質微砂粒
	7	6	Y-32	Ⅳ			ナデ調整、裏面胴部にヘラナデ痕あり	暗褐色	石英質微砂粒
	8	7	あ-28	Ⅳ			ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	9	1	D-12	Ⅱ	(20～25)		ナデ調整、裏面胴部に擦痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	10	7	あ-35	Ⅳ			ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質微砂粒
	11	1	D-21 11	Ⅳ	上	口径24.2	ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	12	7	Z-35	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石灰質砂粒
	13	6	U-29	Ⅳ			ナデ調整、表面に擦痕残る	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる
	14	1	F-13	Ⅱ			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	15	1	I-15	Ⅱb			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	16	4	O-21⑮	Ⅳ	上面		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	17	6	V-34	Ⅳ		口径14.9	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	18	7	う-32		表土		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である

第７表ｃ④第３群土器観察一覧

親	no	堅	グリット	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	混入物
27	19	7	え-24	V			ナデ調整	暗褐色	石灰質微砂粒、石英質微砂粒
	20	5	W-23	V	上面	口径11.0	ナデ調整、裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質微砂粒
	21	6	Y-32	Ⅳ			ナデ調整、裏面指頭痕みられる。	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	22	7	え-29	V	土壙		ナデ調整、裏面指頭痕みられる。	黒褐色	石英質微砂粒
	23	5	U-15	Ⅳ		口径23.0	ナデ調整、表裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒（粒が粗い）、石灰質砂粒
	24	1	H-12	Ⅱ	最下部		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	25	7	ケ-6	Ⅳ			ナデ調整、裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	26	7	Y-あ31-32	V			ナデ調整、裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	27	6	Y-36	Ⅳ			表-ナデ調整、裏-ハケ目調整	黒褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒
	28	7	Z-29	Ⅳ			ナデ調整、裏面指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	29	5	V-22	Ⅳ	下面貝集中		ナデ調整、裏面指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	30	1	G-14	Ⅱ	35～40		ナデ調整、裏面擦痕残る。	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	31	1	D-13	Ⅱ	20～25		ナデ調整	暗黄褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	32		835T.T				ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	33	6	V-32	V	上		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	34	2	F-33	Ⅳ	最下		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質微砂粒
	35	1	D-12	Ⅱ	20～25		ナデ調整	暗褐色	石灰質微砂粒
28	1	7	あ-34	V	灰集中部	口径38.0	両面ともハケ目残る。	表-暗褐色、裏-赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	2	7	う-28	Ⅳ	最下	口径30.0	ナデ調整	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	3	7	え-31	Ⅳ	最下		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
	4	7	Z-35		砂まじり	口径21.7	ナデ調整、裏面に擦痕指頭痕	表-暗黄褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	5	7	Z-35				ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒
	6	7	え-25	Ⅳ	下部		ナデ調整	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	7	7	え-26	Ⅳ	下	口径31.8	ナデ調整	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	8				試ﾄﾚﾝﾁ⑩	口径12.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	9	7	う-26	Ⅳ	下		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	10	7	え-25	Ⅳ	下部	胴部22.6	ナデ調整、裏面に擦痕残る。	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	11				試ﾄﾚﾝﾁ⑥	口径26.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	12	7	Z-27	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	13	7	え-30		表土		ナデ調整、表面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	14		不明				ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	15	7	え-28	Ⅳ	最下		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	16		不明			口径23.4	ナデ調整、表面に擦痕残る。	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	17	7	Z-35	Ⅱ	表採		ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	18	7	え-29	Ⅳ	最下部?	口径13.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	19	7	え-24		表土		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	20	7	あ-35	Ⅳ			ナデ調整、表面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	21	7	T.T.8	V		口径22.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	22	7	あ-35	Ⅳ			ナデ調整、表面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	23	5	W-21	Ⅳ			ナデ調整	黄褐色、黒褐色の部分あり	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	24	2	I-32	Ⅳ	最下		ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	25	7	T.T.8	Ⅱ			ナデ調整	表-黒褐色、表-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、黒色鉱物
	26	7	Z-35				ナデ調整	黒褐色	石灰質砂粒
	27	7	T.T.7	Ⅳ		口径15.6	ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	28	8	Z-18	Ⅳ		口径23.8	ナデ調整、裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	29	1	F-16①	Ⅱc		口径13.2	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒
	30	5	U-18	Ⅳ		口径15.3	ナデ調整	表-赤褐色、裏-黄褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
29	1	6	T-29	Ⅳ	最下		ナデ調整、口縁部に指頭痕	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	2		不明			胴径27.5	雑なナデ調整、表、裏面に擦痕残る。	表-赤褐色.暗黄褐色、裏-赤褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	3	7	え-34	V			ナデ調整、口縁部に指頭痕	表-赤褐色、裏-暗灰色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	4	7	え-24		表土	口径19.6	ナデ調整	表-暗黒褐色、裏-赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	5	7	あ-31		土壙		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	6	7	い-35	Ⅳ	最下	口径14.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	7	6	Y-33	V	上pit1		ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	8		X-?	Ⅳ			裏面胴部に擦痕残る。	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	9	7	あ-35	V			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	10	7	え-30	Ⅳ	最下部	口径33.5	ナデ調整	表-暗褐色、裏-赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	11	7	う-21	Ⅳ	上	口径21.4	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	12	7	Z-35	Ⅳ			ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗灰褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	13	7	い-34	V			口縁部にナデ調整、胴部にハケ目状痕残る。	表-黒褐色、裏-暗茶褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	14	6	Y-34	Ⅳ			ナデ調整、裏面指頭痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	15	6	Y-35	Ⅳ			ナデ調整、裏面指頭痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	16	6	X-35	Ⅳ	最下部		ナデ調整、裏面指頭痕残る。	表-暗褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、石英質微砂粒
	17	6	W-34	Ⅳ			ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、石英質微砂粒
	18	6	W-32	Ⅳ			ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	19	7	あ-え33-30	V	土壙		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、混入量は疎である。
	20	7	Z-22	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石灰質砂粒、粒の粗い赤色粒
	21	7	Z-29	Ⅳ			ナデ調整、ヘラナデの部分あり。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	22	7	え-29	Ⅳ	最下		ナデ調整、表･裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入物は疎である。
	23	6	U-27	Ⅳ	最下		ナデ調整、裏面に擦痕残る。	表-暗褐色、裏-灰黒色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入物は疎である。
	24	8	ケ-4	Ⅳ			ナデ調整、裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入物は疎である。
	25	5	T-23	Ⅱ	下		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	26	6	Y-29	Ⅳ		口径13.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	27	7	う-21	Ⅳ		口径19.0	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒
	28	8	う-21	Ⅳ		口径23.2	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	黒褐色	石英質砂粒

第７表ｄ　底部観察一覧

親	no	堅	グリット	層	層備考	法量(cm)	分類	混入物
	1	7	あ-31		土壙	底径3.0	第1種	石灰質砂粒、赤色粒
	2	7	え-31	V	土壙	底径3.0		石英質微砂粒、赤色粒
	3	7	う-30	Ⅳ		底径4.0	第2種a	石英質微砂粒、赤色粒
	4	7			溝状攪乱	底径4.2		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	5	7	あ-34	V	上	底径4.8		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	6	6	Y-32	Ⅳ	pit16	底径2.0	第2種b	石英質微砂粒、赤色粒
	7	5	X-18	V	上	底径2.8		石英質微砂粒、赤色粒
	8	7	い-27	Ⅳ		底径2.4	第3種a	石英質微砂粒、赤色粒
	9	7	あ-35	Ⅳ		底径3.0	第2種b	石英質微砂粒、赤色粒
	10	7	Z-32	Ⅳ	下	底径2.5		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
30	11	6	V-35	Ⅳ		底径2.5	第3種a	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	12	7	あ-34	Ⅳ	最下	底径3.3		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	13	6	X-34	V		底径3.0		石英質微砂粒
	14	7	い-34	Ⅳ		底径2.6	第3種b	石英質微砂粒
	15	7	あ-35	V		底径2.0	第3種c	石英質微砂粒
	16	5	X-15	Ⅳ		底径3.3	第3種a	石英質微砂粒、黒色鉱物
	17	6	W-32	Ⅳ		底径2.0	第3種b	石英質微砂粒、黒色鉱物
	18	7	あ-31~32	V	灰集中土壙	底径2.4		石英質微砂粒、赤色粒
	19	7	う･え-32	Ⅳ		底径2.2	第3種c	石英質微砂粒、混入量は疎である
	20	6	W-35	Ⅳ		底径3.8		石英質微砂粒、黒色鉱物
	21	8	Z-16	Ⅳ	下面	底径3.3	第3種b	石灰質砂粒
	22	8	ケ-5	Ⅳ	上面	底径2.1		石英質微砂粒、赤色粒
	23	8	ケ-3	Ⅳ	下面	底径3.0		石英質微砂粒
	24	7	あ-30	Ⅳ		底径7.6	第3種d	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	25	7	あ-28	Ⅳ	下	底径3.8		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	26	1	J-15	Ⅱ	25～30	底径3.4		石灰質砂粒、石英質微砂粒、赤色粒
	27	7	あ-29	Ⅳ		底径2.6	第3種c	石英質微砂粒、赤色粒
	28	6	T-34	Ⅳ	最下	底径3.6	第3種e	石英質微砂粒
	29		不明			底径3.4		石英質微砂粒、赤色粒
	30	7	あ-34	V	灰集中部	底径3.2	第3種f	石英質微砂粒、赤色粒
31	31	1	H-11	Ⅱ	30～35	底径3.0		石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	32	1	I-16	Ⅱ	30～35	底径3.6		石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	33	6	W-32	Ⅳ		底径3.3		石英質微砂粒
	34	7	え-30	Ⅳ	最下部	底径3.8	第4種a	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	35	1	D-11	Ⅱ	20～25	底径4.8		石英質砂粒、赤色粒
	36	8	え-21	Ⅳ	貝	底径4.8	第4種b	石英質砂粒
	37	7	あ-27	Ⅳ	下	底径5.6	第種b	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	38	1	GJ-18-22	Ⅱ		底径6.0		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	39	6	キ-7	Ⅳ		底径4.6	第4種b	石英質微砂粒
	40	7	う-29		表土	底径6.8		石英質微砂粒
	41	7	え-28	Ⅳ		底径5.6		石英質微砂粒

親	no	堅	グリット	層	層備考	法量(cm)	分類	混入物
	42	1	F-D18-22	Ⅱ	掃除	底径7.6		石英質微砂粒、赤色粒
	43	1	J-14	Ⅱ	25～30	底径4.4	第4種b	石英質微砂粒、赤色粒
	44	6	キ-6	Ⅳ		底径5.0		石英質微砂粒、赤色粒
	45	1	G-15	Ⅰc		底径6.2		石英質微砂粒、赤色粒
31	46	7	う-33	Ⅳ	最下	底径6.8	第4種c	石英質微砂粒、混入量は疎である
	47	1	D-16	Ⅰc		最小4.4最大4.6		石英質微砂粒、混入量は疎である
	48	1	G-16	Ⅰc		底径5.8		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	49	1	E-11	Ⅱ	30～35	底径4.6		石英質微砂粒、混入量は疎である
	50	1	P-12	Ⅱ	最下部	底径5.0	第4種d	石英質微砂粒、混入量は疎である
	51	1	P-15	Ⅰc		底径5.0		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	52	1	E-11	Ⅱ	(20～25)	底径6.2	第4種e	石英質微砂粒
	53	1	P-13	Ⅱ	最下1	底径5.6		石英質微砂粒、赤色粒
	54	6	W-24	Ⅱ	最下	底径5.6		石英質微砂粒、赤色粒
	55	1	P-11	Ⅰc		底径5.6		石英質微砂粒、赤色粒
	56	1	D-12	Ⅰc	③	底径5.6		石英質微砂粒、混入量は疎である
	57	1	I-15	ⅠA	30～35	底径4.4		石英質微砂粒、混入量は疎である
	58	1	P-15	Ⅰc		底径5.0		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	59		不明			底径5.2	第4種f	石英質微砂粒、赤色粒
	60	1	I-15	Ⅱ	25～30	底径4.2		石英質微砂粒、赤色粒
	61	1	D-12	Ⅱ	(10～15)	底径4.0		石英質微砂粒、赤色粒
	62	1	E-13	Ⅱ	35~40最下部	底径5.0		石英質微砂粒
	63	1	E-11	Ⅱ	13	底径6.0		石英質微砂粒、赤色粒
	64	7	え-25	Ⅳ	下部	底径7.6		石英質微砂粒
	65	1	F-16	Ⅰc		底径6.9		石英質微砂粒
32	66	1	E-12	Ⅱ	下部貝層⑨	最小5.4最大6.0		石英質微砂粒
	67	6	W-34	Ⅳ		底径5.6		石英質微砂粒
	68	1	D-11	Ⅱ	最下11	底径6.0		石英質微砂粒
	69	1	F-15	Ⅰc	⑯	底径6.5		石英質微砂粒、赤色粒
	70	1	D-14	Ⅱ	畦中	底径5.5	第4種g	石英質微砂粒、赤色粒
	71	1	D-11	Ⅱ	20～25	底径7.0		石英質微砂粒
	72	7	い-26	V	上pit2	底径4.4		石英質微砂粒、赤色粒
	73	7	T.T.7	Ⅱ		底径6.6		石英質微砂粒
	74	5	X-23	V	下	底径7.0		石英質微砂粒
	75	1	E-16	Ⅰc		底径5.4		石英質微砂粒、赤色粒
	76	1	E-12	Ⅱ	下部貝層⑨3	底径4.8	第5種	石英質微砂粒、赤色粒
	77	5	キ-22	Ⅳ		底径11.7		石英質微砂粒
	78	7	え-31		表土	底径4.4		石英質微砂粒
	79	1	E-15	Ⅱ	(25～30)	底径3.4	第6種	石英質微砂粒、赤色粒
	80	1	E-17	Ⅰc		底径5.8	第7種	石英質微砂粒、赤色粒
	81	5	Y-23	Ⅳ		底径8.0	第8種	石英質微砂粒、赤色粒

第７表ｅ　第４群土器観察一覧

親	no	堅	グリット	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	混入物
33	1	6	W-33	Ⅳ		口径25.0	ヘラ磨き	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	2	6	X-34	V		口径23.8	ナデ調整、裏面指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	3	7	Z-29	Ⅳ		口径23.8	ナデ調整、表裏面ハケ目痕残る。	暗茶褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	4	7	い-32+Z-31+Z-32	Ⅳ	最下部	口径26.7	ナデ調整	暗褐色、表面煤けている	石英質微砂粒、粘板岩質破片、赤色粒
	5	7	う～え33	V	土壙	口径17.4	ナデ調整、表面にハケ目痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒

	25	7	ケ-6	Ⅳ			ナデ調整、裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	26	7	Y-あ31-32	Ⅴ			ナデ調整、裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	27	6	Y-36	Ⅳ			表-ナデ調整、裏-ハケ目調整	黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	28	7	Z-29	Ⅳ			ナデ調整、裏面指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒
	29	5	V-22	Ⅳ	下面貝集中		ナデ調整、裏面指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、黒色鉱物
	30	1	G-14	Ⅱ	35～40		ナデ調整、裏面擦痕残る。	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	31	1	D-13	Ⅱ	20～25		ナデ調整	暗黄褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	32		835T.T				ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	33	6	V-32	Ⅴ	上		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	34	2	F-33	Ⅳ	最下		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	35	1	D-12	Ⅱ	20～25		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、石灰質微砂粒
28	1	7	あ-34	Ⅴ	灰集中部	口径38.0	両面ともハケ目残る。	表-暗褐色、裏-赤褐色	石灰質微砂粒
	2	7	う-28	Ⅳ	最下	口径30.0	ナデ調整	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	3	7	え-31	Ⅳ	最下		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	4	7	Z-35		砂まじり	口径21.7	ナデ調整、裏面に擦痕指頭痕	表-暗黄褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒
	5	7	Z-35				ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	6	7	え-25	Ⅳ	下部		ナデ調整	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒
	7	7	え-26	Ⅳ	下	口径31.8	ナデ調整	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	8				試ﾄﾚﾝﾁ⑩	口径12.2	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	9	7	う-26	Ⅳ	下		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	10	7	え-25	Ⅳ	下部	胴部22.6	ナデ調整、裏面に擦痕残る。	表-赤褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	11				試ﾄﾚﾝﾁ⑥	口径26.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	12	7	Z-27	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	13	7	え-30		表土		ナデ調整、表面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	14		不明				ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	15	7	え-28	Ⅳ	最下		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	16		不明			口径23.4	ナデ調整、表面に擦痕残る。	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	17	7	Z-35	Ⅱ	表採		ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	18	7	え-29	Ⅳ	最下部?	口径13.0	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	19	7	え-24		表土		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	20	7	あ-35	Ⅳ			ナデ調整、表面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	21	7	T.T.8	Ⅴ		口径22.6	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	22	7	あ-35	Ⅳ			ナデ調整、表面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	23	5	W-21	Ⅳ			ナデ調整	黄褐色、黒褐色の部分あり	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	24	2	I-32	Ⅳ	最下		ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	25	7	T.T.8	Ⅱ			ナデ調整	表-黒褐色、表-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、黒色鉱物
	26	7	Z-35				ナデ調整	黒褐色	石灰質砂粒
	27	7	T.T.7	Ⅳ		口径15.6	ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	28	8	Z-18	Ⅳ		口径23.8	ナデ調整、裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	29	1	F-16⑪	Ⅱc		口径13.2	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒
	30	5	U-18	Ⅳ		口径15.3	ナデ調整	表-赤褐色、裏-黄褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
29	1	6	T-29	Ⅳ	最下		ナデ調整、口縁部に指頭痕	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	2		不明			胴径27.5	雑なナデ調整、表、裏面に擦痕残る。	表-赤褐色.暗黄褐色、裏-赤褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	3	7	え-34	Ⅴ			ナデ調整、口縁部に指頭痕	表-赤褐色、裏-暗灰色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	4	7	え-24		表土	口径19.6	ナデ調整	表-暗黒褐色、裏-赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	5	7	あ-31		土壙		ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	6	7	い-35	Ⅳ	最下	口径14.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	7	6	Y-33	Ⅴ	上pit1		ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	8		X-?	Ⅳ			裏面胴部に擦痕残る。	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒、混入量は疎である。
	9	7	あ-35	Ⅴ			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	10	7	え-30	Ⅳ	最下部	口径33.5	ナデ調整	表-暗褐色、裏-赤褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	11	7	う-21	Ⅳ	上	口径21.4	ナデ調整	暗褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	12	7	Z-35	Ⅳ			ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗灰褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	13	7	い-34	Ⅴ			口縁部にナデ調整、胴部にハケ目状痕残る。	表-黒褐色、裏-暗茶褐色	石英質砂粒、細かな赤色粒
	14	6	Y-34	Ⅳ			ナデ調整、裏面指頭痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	15	6	Y-35	Ⅳ			ナデ調整、裏面指頭痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	16	6	X-35	Ⅳ	最下部		ナデ調整、裏面指頭痕残る。	表-暗褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、石英質微砂粒
	17	6	W-34	Ⅳ			ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、石英質微砂粒
	18	6	W-32	Ⅳ			ナデ調整	表-暗褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	19	7	あ-え33-30	Ⅴ	土壙		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗黄褐色	石英質微砂粒、混入量は疎である。
	20	7	Z-22	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石灰質砂粒、粒の粗い赤色粒
	21	7	Z-29	Ⅳ			ナデ調整、ヘラナデの部分あり。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、粒の粗いものもみられる。
	22	7	え-29	Ⅳ	最下		ナデ調整、表･裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入物は疎である。
	23	6	U-27	Ⅳ	最下		ナデ調整、裏面に擦痕残る。	表-暗褐色、裏-灰黒色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入物は疎である。
	24	8	ケ-4	Ⅳ			ナデ調整、裏面に擦痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒、混入物は疎である。
	25	5	T-23	Ⅱ	下		ナデ調整	表-黒褐色、裏-暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	26	6	Y-29	Ⅳ		口径13.8	ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、細かな赤色粒
	27	7	う-21	Ⅳ		口径19.0	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒
	28	8	う-21	Ⅳ		口径23.2	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	黒褐色	石英質砂粒

第７表ｄ　底部観察一覧

報	no	版	グリット	層	層備考	法量(cm)	分類	混入物
	1	7	あ-31		土壙	底径3.0	第1種	石灰質砂粒、赤色粒
	2	7	え-31	Ⅴ	土壙	底径3.0		石英質微砂粒、赤色粒
	3	7	う-30	Ⅳ		底径4.0	第2種a	石英質微砂粒、赤色粒
	4	7			溝状攪乱	底径4.2		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	5	7	あ-34	Ⅴ	上	底径4.8		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	6	6	Y-32	Ⅳ	pit16	底径2.0	第2種b	石英質微砂粒、赤色粒
	7	5	X-18	Ⅴ	上	底径2.8		石英質微砂粒、赤色粒
	8	7	い-27	Ⅳ		底径2.4	第3種a	石英質微砂粒、赤色粒
	9	7	あ-35	Ⅳ		底径3.0	第2種b	石英質微砂粒、赤色粒
	10	7	Z-32	Ⅳ	下	底径2.5		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
30	11	6	V-35	Ⅳ		底径2.5	第3種a	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	12	7	あ-34	Ⅳ	最下	底径3.3		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	13	6	X-34	Ⅴ		底径3.0		石英質微砂粒
	14	7	い-34	Ⅳ		底径2.6	第3種b	石英質微砂粒
	15	7	あ-35	Ⅴ		底径2.0	第3種c	石英質微砂粒
	16	5	X-15	Ⅳ		底径3.3	第3種a	石英質微砂粒、黒色鉱物
	17	6	W-32	Ⅳ		底径2.0	第3種b	石英質微砂粒、黒色鉱物
	18	7	あ-31~32	Ⅴ	攪中壙	底径2.4		石英質微砂粒、赤色粒
	19	7	う･え-32	Ⅳ		底径2.2	第3種c	石英質微砂粒、混入量は疎である
	20	6	W-35	Ⅳ		底径3.8		石英質微砂粒、黒色鉱物
	21	8	Z-16	Ⅳ	下面	底径3.3	第3種b	石灰質砂粒
	22	8	ケ-5	Ⅳ	上面	底径2.1		石英質微砂粒、赤色粒
	23	8	ケ-3	Ⅳ	下面	底径3.0		石英質微砂粒
	24	7	あ-30	Ⅳ		底径7.6	第3種d	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	25	7	あ-28	Ⅳ	下	底径3.8		石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	26	1	J-15	Ⅱ	25～30	底径3.4		石灰質砂粒、石英質微砂粒、赤色粒
	27	7	あ-29	Ⅳ		底径2.6	第3種c	石英質微砂粒、赤色粒
	28	6	T-34	Ⅳ	最下	底径3.6	第3種e	石英質微砂粒
	29		不明			底径3.4		石英質微砂粒、赤色粒
	30	7	あ-34	Ⅴ	灰集中部	底径3.2	第3種f	石英質微砂粒、赤色粒
31	31	1	H-11	Ⅱ	30～35	底径3.0		石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	32	1	I-16	Ⅱ	30～35	底径3.6		石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である。
	33	6	W-32	Ⅳ		底径3.3		石英質微砂粒
	34	7	え-30	Ⅳ	最下部	底径3.8	第4種a	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	35	1	D-11	Ⅱ	20～25	底径4.8		石英質砂粒、赤色粒
	36	8	え-21	Ⅳ	貝	底径4.8	第4種b	石英質砂粒
	37	7	あ-27	Ⅳ	下	底径5.6	第種b	石英質微砂粒、赤色粒、混入量は疎である
	38	1	GJ-18-22	Ⅱ		底径6.0		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	39	6	キ-7	Ⅳ		底径4.6	第4種b	石英質微砂粒
	40	7	う-29		表土	底径6.8		石英質微砂粒
	41	7	え-28	Ⅳ		底径5.6		石英質微砂粒

報	no	版	グリット	層	層備考	法量(cm)	分類	混入物
	42	1	F-D18-22	Ⅱ	掃除	底径7.6		石英質微砂粒、赤色粒
	43	1	J-14	Ⅱ	25～30	底径4.4	第4種b	石英質微砂粒、赤色粒
	44	6	キ-6	Ⅳ		底径5.0		石英質微砂粒、赤色粒
	45	1	G-15	Ⅱc		底径6.2		石英質微砂粒、赤色粒
31	46	7	う-33	Ⅳ	最下	底径6.8	第4種c	石英質微砂粒、混入量は疎である
	47	1	D-16	Ⅱc		最小4.4最大4.6		石英質微砂粒、混入量は疎である
	48	1	G-16	Ⅱc		底径5.8		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	49	1	E-11	Ⅱ	30～35	底径4.6		石英質微砂粒、混入量は疎である
	50	1	F-12	Ⅱ	最下部	底径5.0	第4種d	石英質微砂粒、混入量は疎である
	51	1	F-15	Ⅱc		底径5.0		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	52	1	E-11	Ⅱ	(20～25)	底径6.2	第4種e	石英質微砂粒
	53	1	F-13	Ⅱ	最下1	底径5.6		石英質微砂粒、赤色粒
	54	6	W-24	Ⅱ	最下	底径5.6		石英質微砂粒、赤色粒
	55	1	F-11	Ⅱc		底径5.6		石英質微砂粒、赤色粒
	56	1	D-12	Ⅱc ③		底径5.6		石英質微砂粒、混入量は疎である
	57	1	I-15	ⅡA	30～35	底径4.4		石英質微砂粒、混入量は疎である
	58	1	F-15	Ⅱc		底径5.0		石英質微砂粒、細かな赤色粒
	59		不明			底径5.2	第4種f	石英質微砂粒、赤色粒
	60	1	I-15	Ⅱ	25～30	底径4.2		石英質微砂粒、赤色粒
	61	1	D-12	Ⅱ	(10～15)	底径4.0		石英質微砂粒、赤色粒
	62	1	E-13	Ⅱ	35~40最下部	底径5.0		石英質微砂粒
	63	1	E-11	Ⅱ	13	底径6.0		石英質微砂粒、赤色粒
	64	7	え-25	Ⅳ	下部	底径7.6		石英質微砂粒
	65	1	F-16	Ⅱc		底径6.9		石英質微砂粒
32	66	1	E-12	Ⅱ	下部湧り	最小5.4最大6.0		石英質微砂粒
	67	6	W-34	Ⅳ		底径5.6		石英質微砂粒
	68	1	D-11	Ⅱ	最下11	底径6.0		石英質微砂粒
	69	1	F-15	Ⅱc ⑯		底径6.5		石英質微砂粒、赤色粒
	70	1	D-14	Ⅱ	畦中	底径5.5	第4種g	石英質微砂粒、赤色粒
	71	1	D-11	Ⅱ	20～25	底径7.0		石英質微砂粒
	72	7	い-26	Ⅴ	上pit2	底径4.4		石英質微砂粒、赤色粒
	73	7	T.T.7	Ⅱ		底径6.6		石英質微砂粒
	74	5	X-23	Ⅴ	下	底径7.0		石英質微砂粒
	75	1	E-16	Ⅱc		底径5.4		石英質微砂粒、赤色粒
	76	1	E-12	Ⅱ	下部湧り3	底径4.8	第5種	石英質微砂粒、赤色粒
	77	5	キ-22	Ⅳ		底径11.7		石英質微砂粒
	78	7	え-31		表土	底径4.4		石英質微砂粒
	79	1	E-15	Ⅱ	(25～30)	底径3.4	第6種	石英質微砂粒、赤色粒
	80	1	E-17	Ⅱc		底径5.8	第7種	石英質微砂粒、赤色粒
	81	5	Y-23	Ⅳ		底径8.0	第8種	石英質微砂粒、赤色粒

第７表ｅ　第４群土器観察一覧

報	no	版	グリット	層	層備考	法量(cm)	器面調整	器色	混入物
33	1	6	W-33	Ⅳ		口径25.0	ヘラ磨き	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	2	6	X-34	Ⅴ		口径23.8	ナデ調整、裏面指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物
	3	7	Z-29	Ⅳ		口径23.8	ナデ調整、表裏面ハケ目痕残る。	暗茶褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	4	7	い-32+Z-31+Z-32	Ⅳ	最下部	口径26.7	ナデ調整	暗褐色、表面煤けている	石英質微砂粒、粘板岩質破片、赤色粒
	5	7	う～え33	Ⅴ	土壙	口径17.4	ナデ調整、表面にハケ目痕残る。	暗褐色	石英質微砂粒、黒色鉱物、赤色粒
	6	5	W-21	Ⅳ	下面	口径29.8	ナデ調整、表裏面に指頭痕あり	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	7	7	あ-33	Ⅳ			ナデ調整	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	8	7	え-35	Ⅴ		口径29.8	ナデ調整、表裏面は指頭痕あり、粘土のつなぎ目隆帯状になる。	表-暗褐色、裏-黒褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	9	1	E-12	Ⅱ	25/30	口径17.2	ナデ調整	赤褐色	石英質微砂粒、赤色粒
	10	4	I-3	Ⅰ	60～70		ナデ調整、裏面に指頭痕あり、器面ボーラス	暗褐色	石灰質砂粒
	11		T.T.6	Ⅱ			ナデ調整、裏面に指頭痕あり、器面ボーラス	暗茶褐色	石英質微砂粒、石灰質砂粒
	12	1	D-11	Ⅱ	試ﾄﾚ	口径12.6	ナデ調整	暗褐色	赤色粒、石灰質砂粒
	13		不明				ナデ調整、裏面に指頭痕あり、器面ボーラス	暗褐色	石英質微砂粒、赤色粒

状況はｆ種とほとんど同じで、直線的に外側へ開いて胴部へ移行するもののようである。74はやや立ち気味に胴部へ移行するようである。73は底面が約５㎜と薄くつくるものである。71は底面に径が約８㎜の円形状の粘土粒が２箇所（約１cm間隔）に認められるが、意図的に配されたものかどうか判然としない。74は底面に葉痕が認められる。底径は６cm前後のものが普通のようである。

器面は雑なナデ調整が施されるが、74は比較的丁寧なナデ調整が施されている。71は外面の、74は内面の立ち上がり部に、指頭痕が認められる。また、73は内面にヘラ様の工具による調整痕がみられる。胎土は71・74が砂質で、他は泥質なものである。混入物には鉱物質の微砂粒と赤色粒などを含むが、量的には多くない。

ｅ．第５種

第32図75～79に示したものである。75・76は形状的にはくびれ平底に入るが、端部を丸くしていることからここに示した。76からすると底面から直方向に立ち上がり、そこから直線的に外側へ開いて胴部へ移行するもののようである。両者とも底径は約５cm。いずれも器面はナデ調整が施され、特に76は両面とも丁寧に施され滑らかな器肌を有す。胎土は泥質で、鉱物質の微砂粒と赤色粒を含む。

77は推算底径が約12cm、78は推算底径が約４cmのものである。77は直線的に開きながら胴部へ向かうもののようで、78はほぼ直方向へ立ち上がっていくもののようである。底面からの立ち上がり部のカドは丸味を帯びる。両者ともナデ調整が施されるが、78は外面に縦方向の擦痕様のものがみられる。胎土は泥質で、混入量は少ないものの鉱物質の微砂粒などがみられる。

79は尖底の底に３個の足状の突起（円柱状のもので直径約１cm、長さ約１cm）を付したものである。特徴的な資料であるが、得られたものがこの１点だけであり、全体的な様子はつかめない。

80・81に示したものは底面が剥がれており、どのような形状のものになるか判然としないものである。現資料の底の推算径は80が約６cm、81が約８cmである。いずれもナデ調整が施されるものの、81は立ち上がり部に指頭痕が認められる。80は胎土が泥質で、赤色粒を多量混入するほか、鉱物質の微砂粒も散見される。81はやや砂質の胎土で、鉱物質の微砂粒を密に含む。

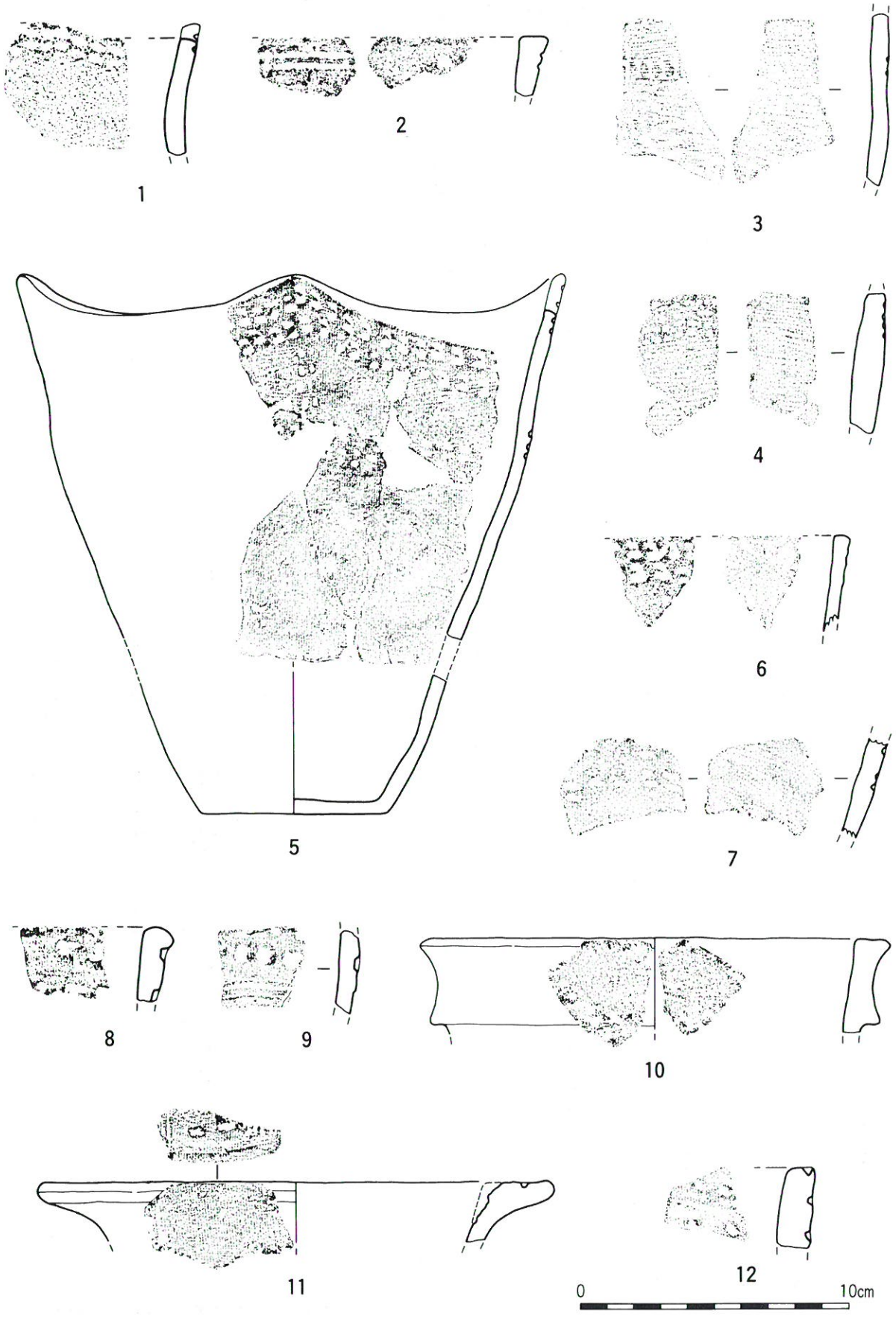
４．第４群

いわゆるグスク系土器と呼称されるものである。今回の調査では第33図10～13に示した口縁部に他の若干の胴部破片が得られただけである。点数は僅少であるが、鍋形・壺形・鉢形の資料が得られている。以下、図示したものについて特徴を簡記する。

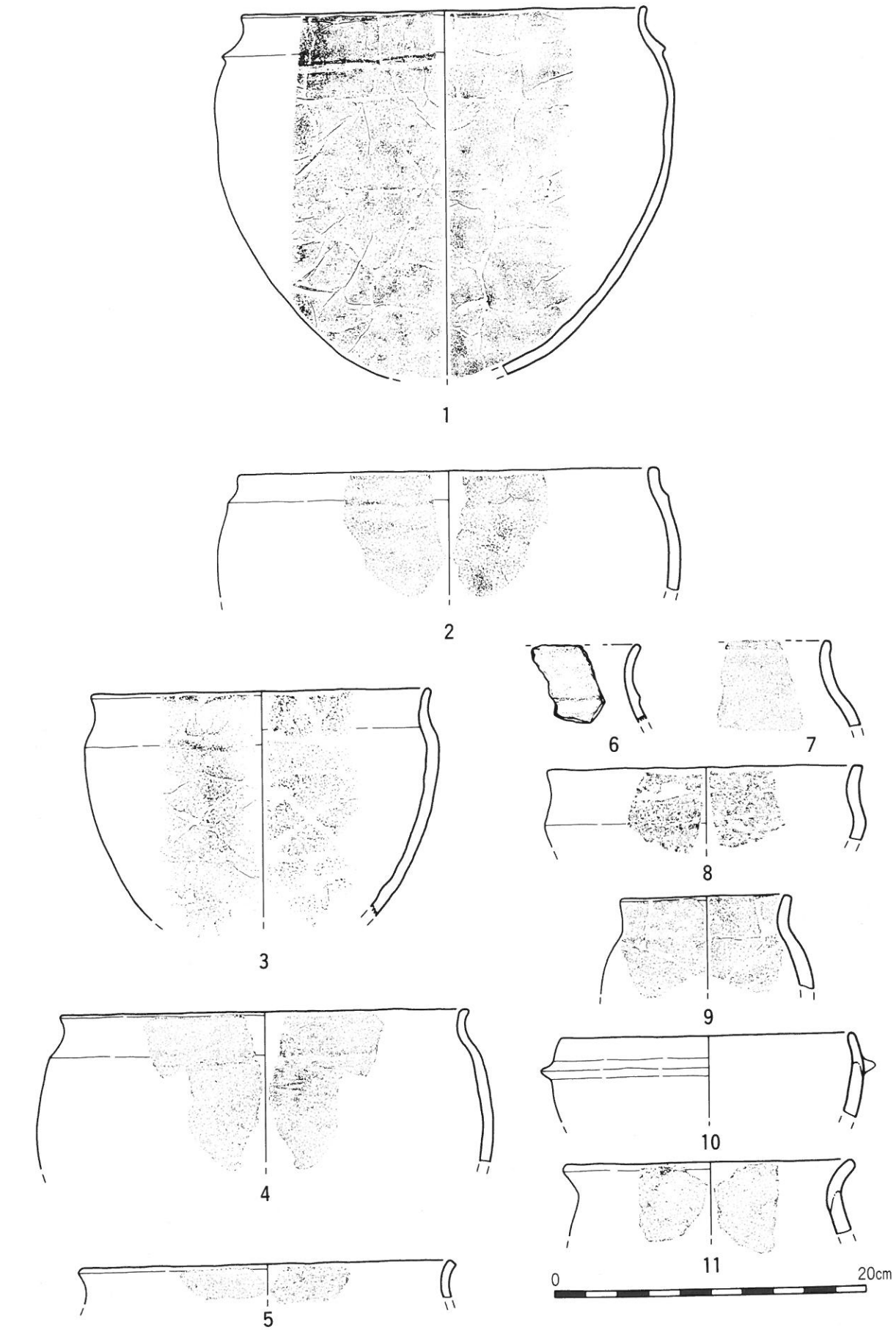
第33図10・11に示したものは鍋形の口縁部資料である。２点とも小破片のため器形や大きさは不明。10は口唇部に接するように瘤状突起が付されており、石鍋模倣土器とされるグループにみられる縦長の瘤状把手が矮小化した感じのものである。11は瘤状の把手が付されたかどうかは不明。いずれも口縁部が内湾するもので、この時期の鍋形の特徴を有している。口唇部は10が尖り気味になり、11はそれよりやや丸味を帯びる。器面は滑らかに仕上げられ、裏面に指頭痕が認められる。両者とも胎土は泥質で、混入物に石灰質砂粒を密に含む。器色は10が暗褐色、11が暗茶褐色を呈す。

12は壺形口縁の資料で、推算口径は約12.6cmを測る。頚部下端から肩部への移行部をみると鉢形になる可能性もある。頚部はゆるやかに外反して立ち上がり（約２cm）、口唇部は丸味を持つ。器面は滑らかであるが、表裏面に指頭痕も見受けられる。頚部下端の裏面では稜がみられる。胎土は泥質で、混入物に赤色粒や石灰質砂粒を含む。混入量はそれほど多くない。器色は暗褐色を呈す。

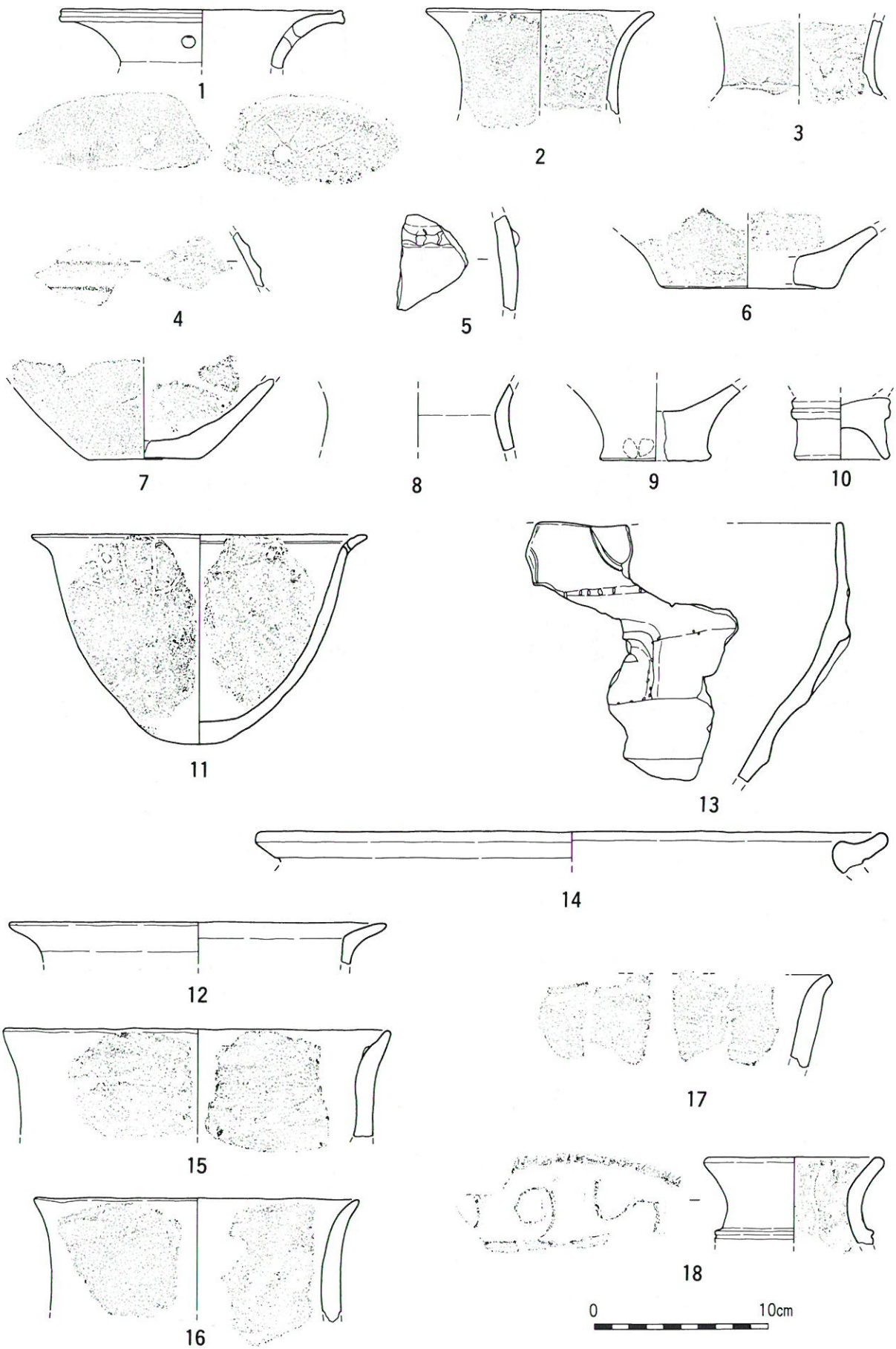
13は鉢形の口縁部資料である。口縁部上端を外側へ摘み出すようにし、口唇部は尖る。器面は滑らかで外面の口縁部や裏面には指頭痕が認められる。また、器面は表裏とも細かなアバタ状を呈す。器色は暗褐色を呈す。



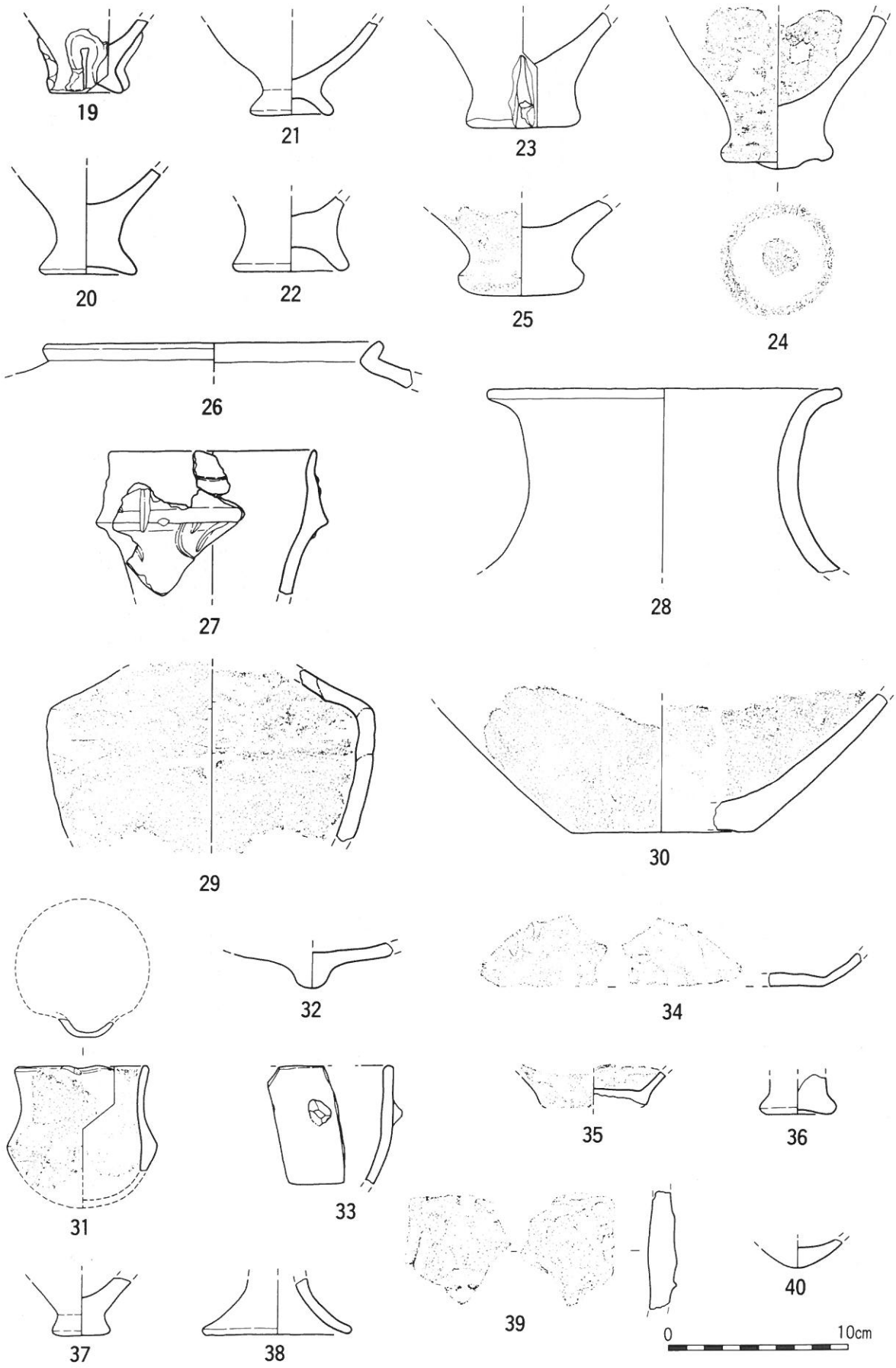
第14図　第１群　神野Ｅ式（１～３）伊波式（４～７）大山式（８・９）室川式（10～12）



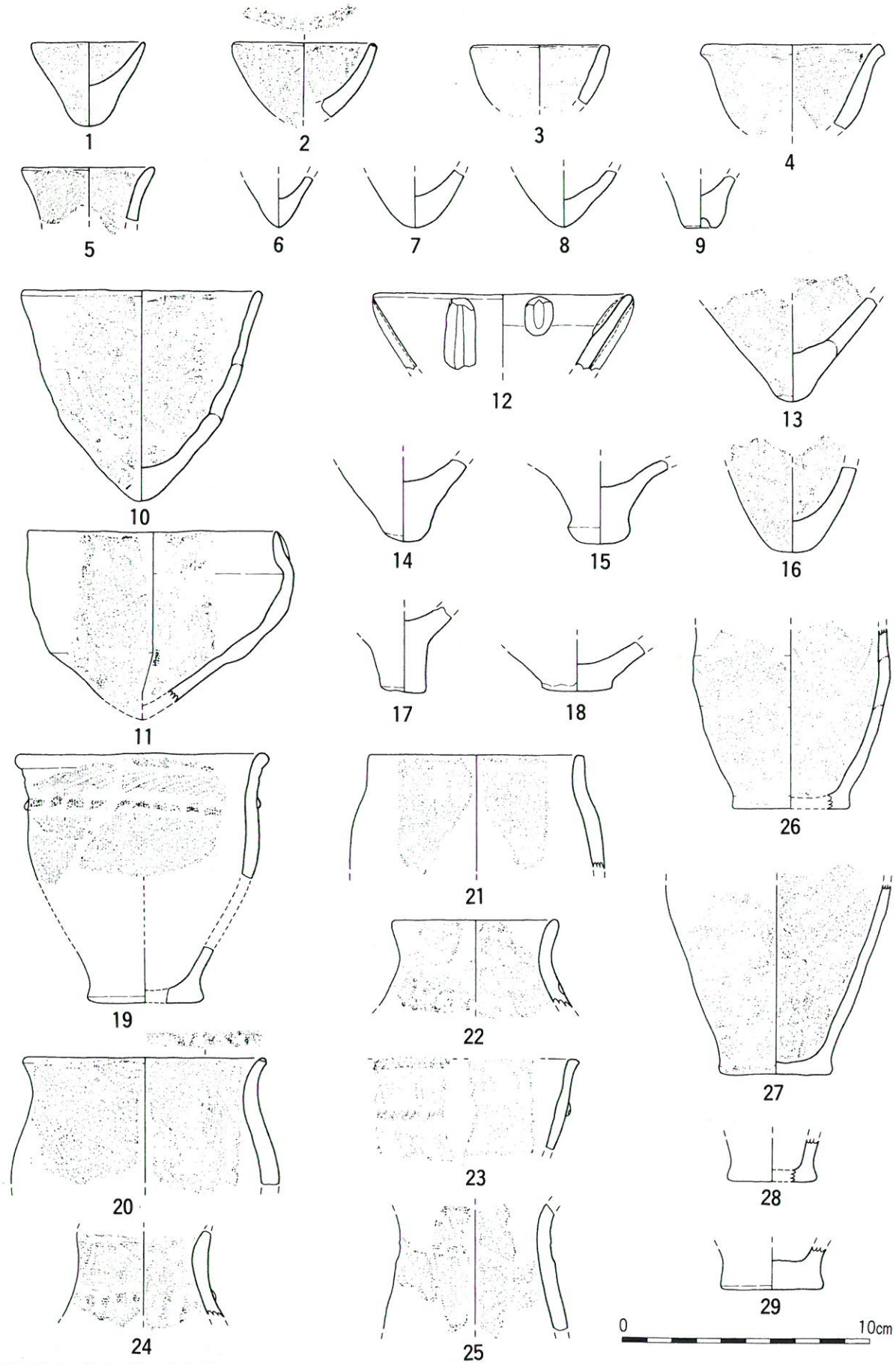
第15図　第２群



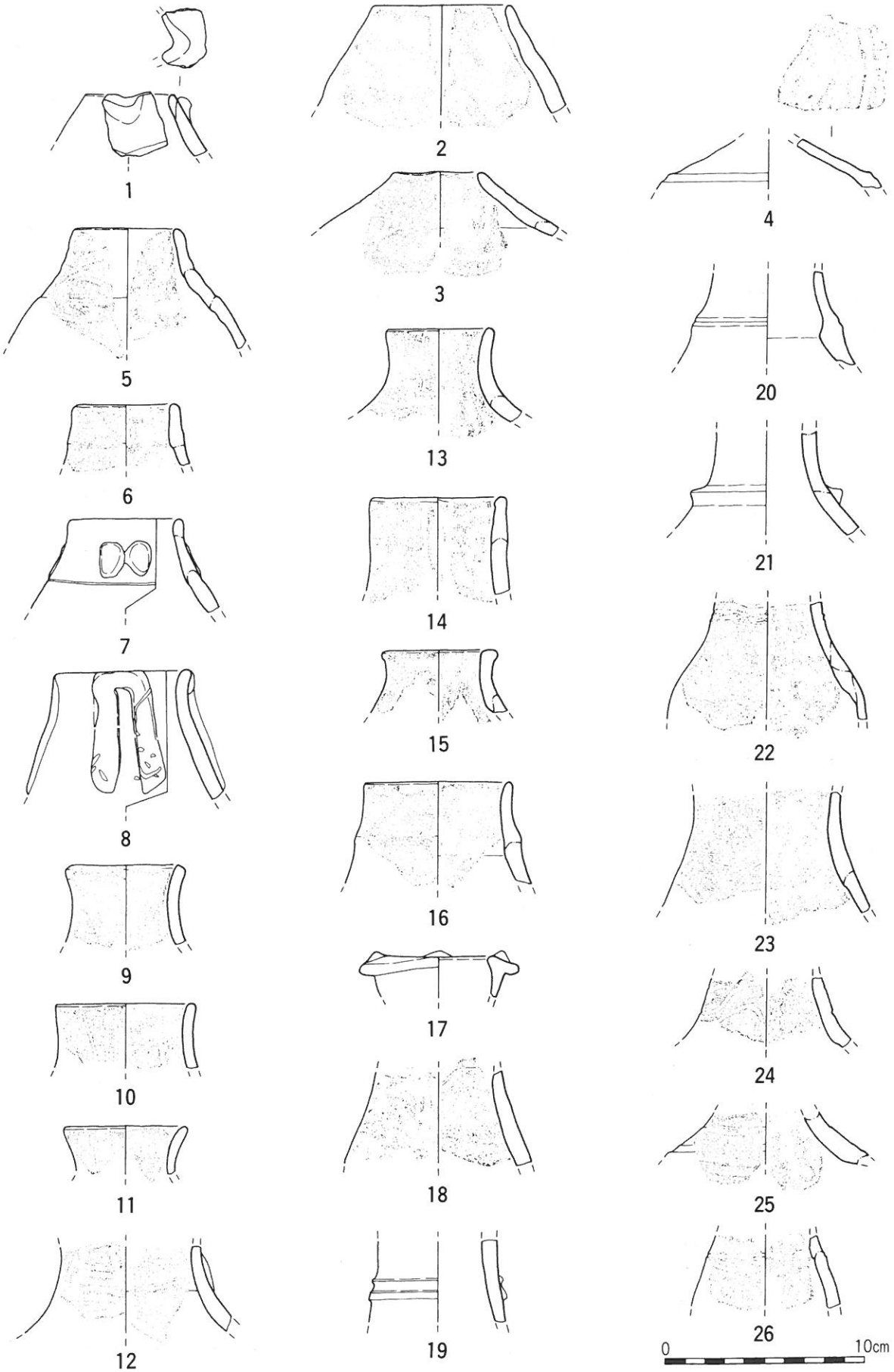
第16図　第３群　第１類（１～10）、第２類（11～18）



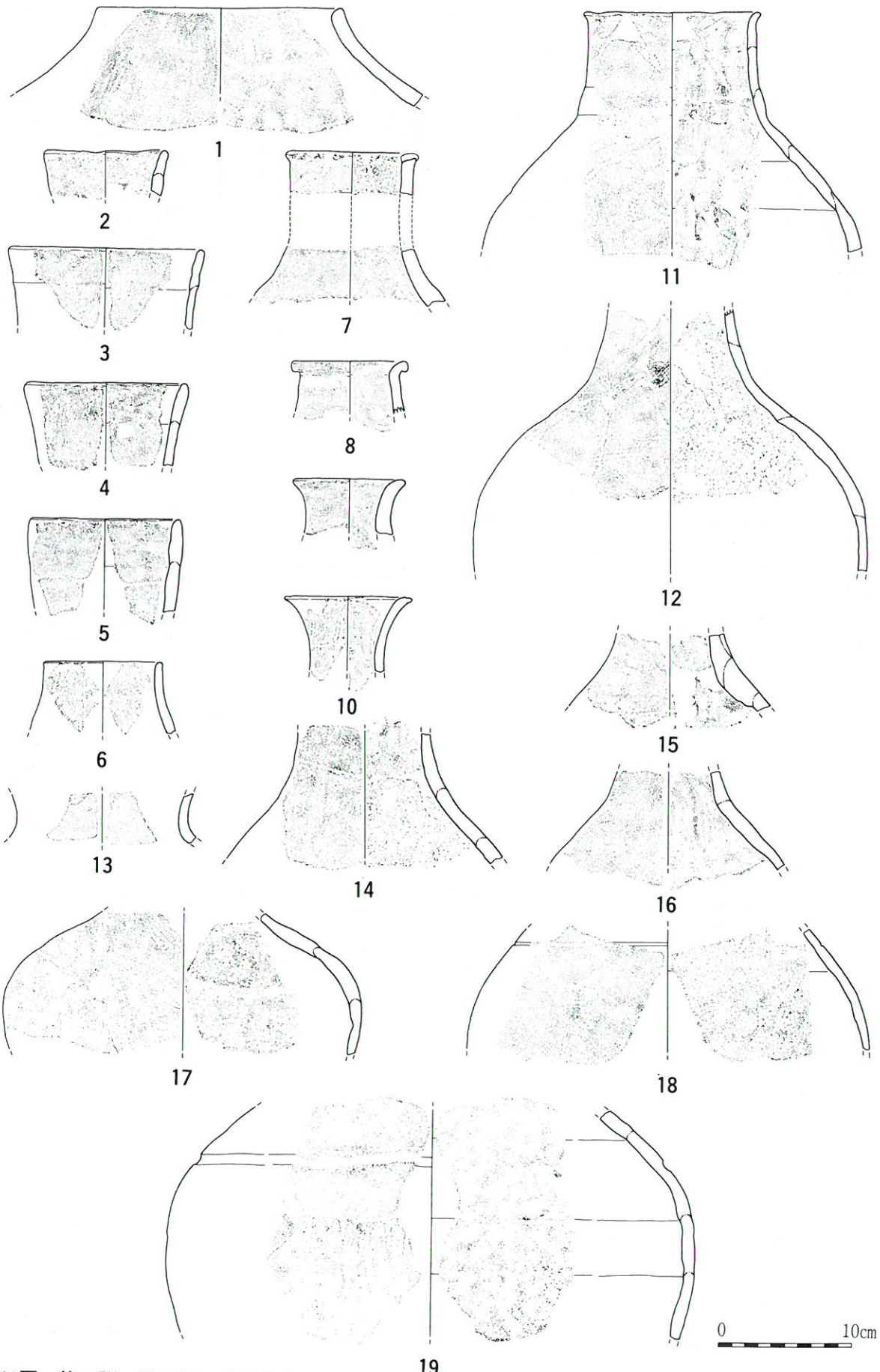
第17図　第３群　第２類



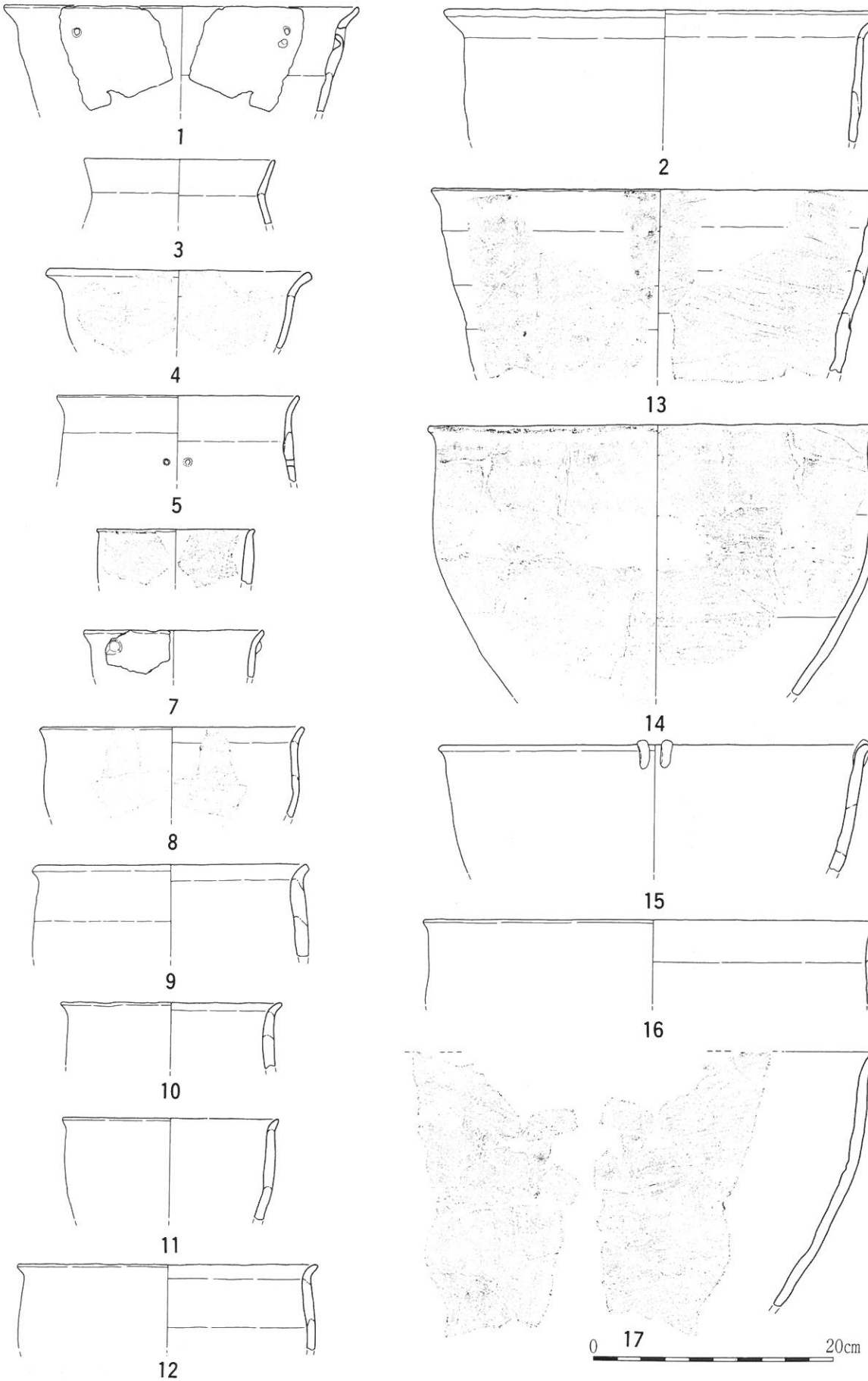
第18図　第３群　第３類　ミニチュア（１～９）、小型（10～29）



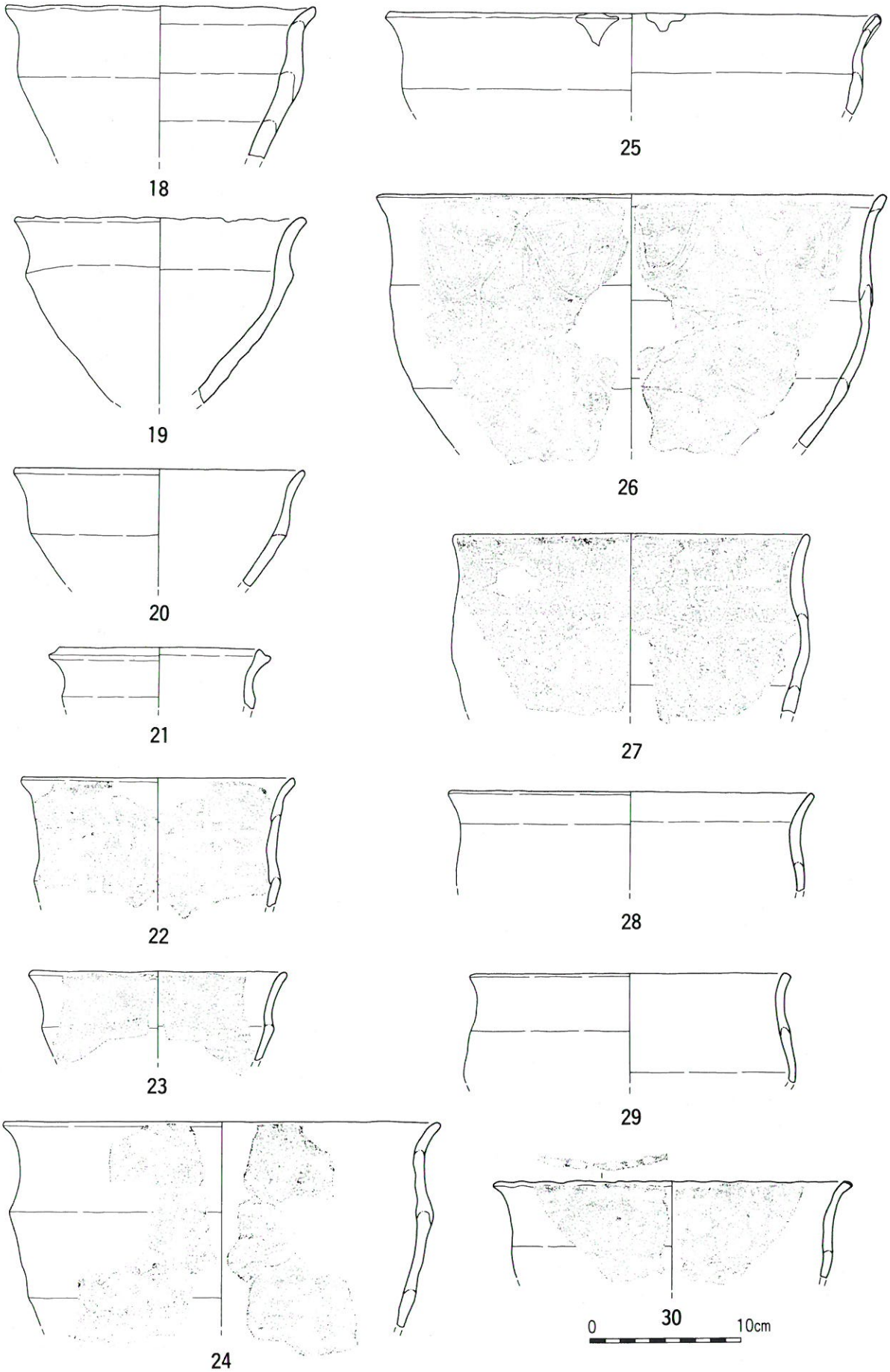
第19図　第３群　第３類　壺形①小型



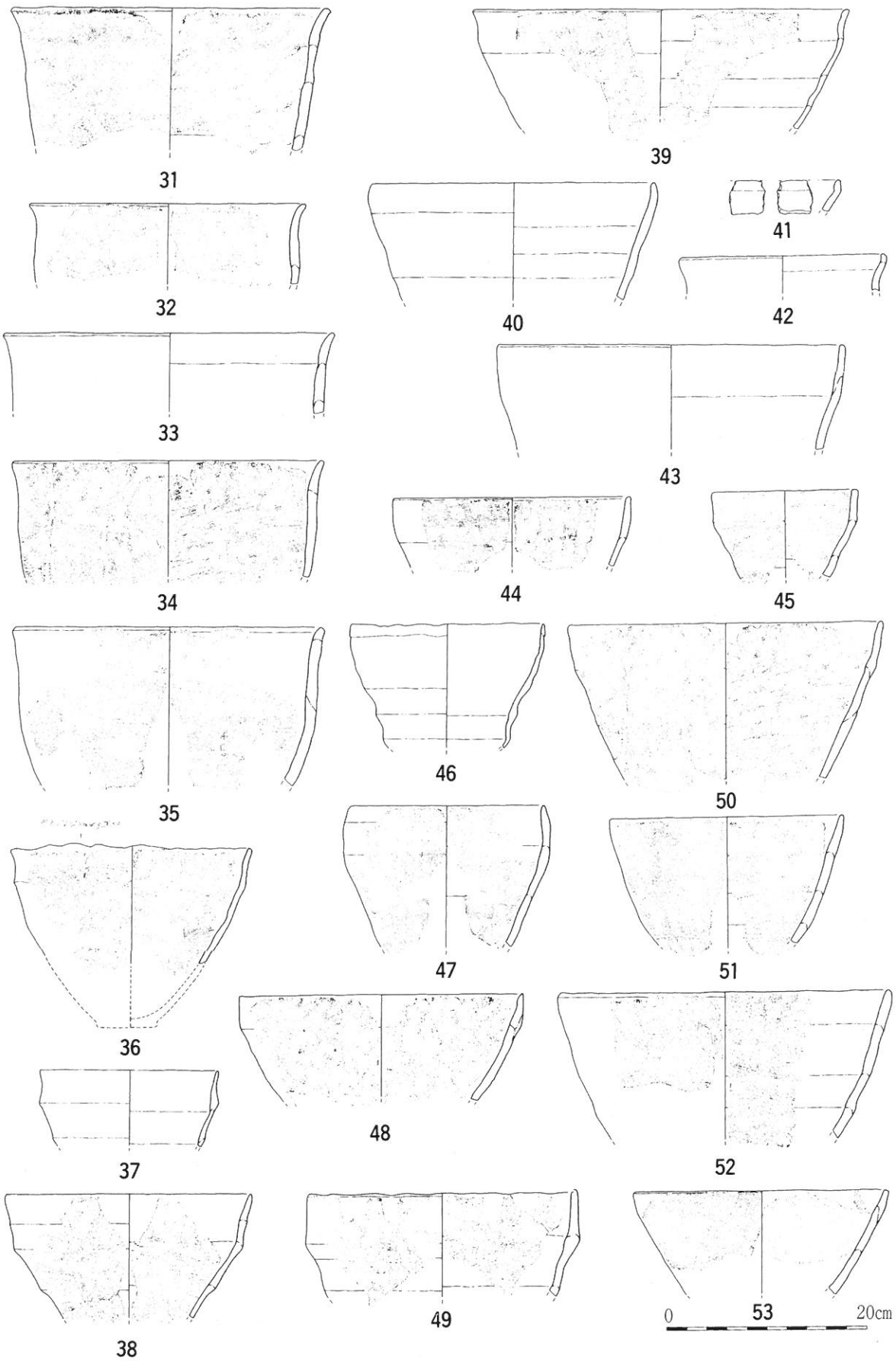
第20図　第３群　第３類　壺形②大型



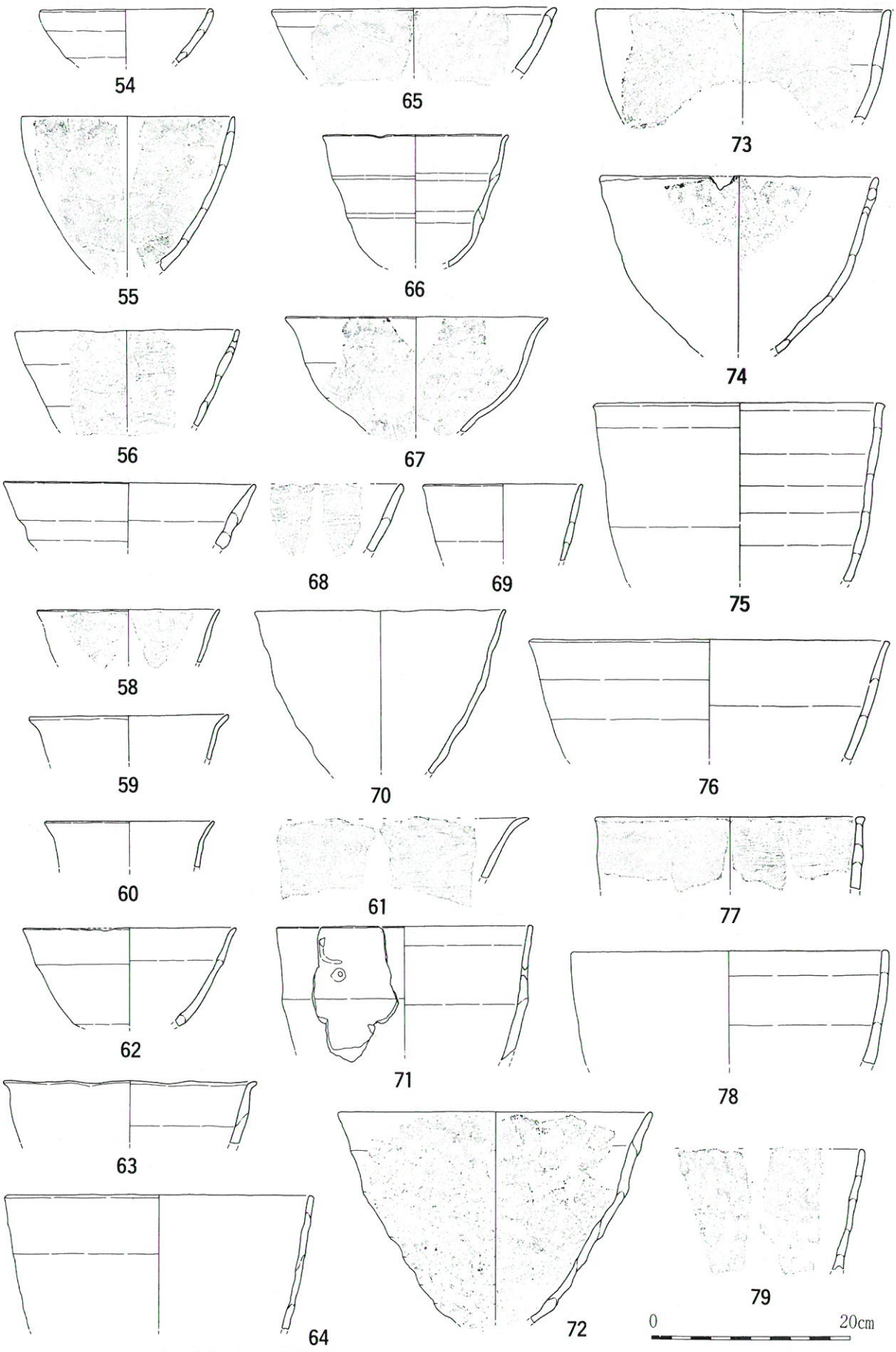
第21図　第３群　第３類　甕・鉢形(1)



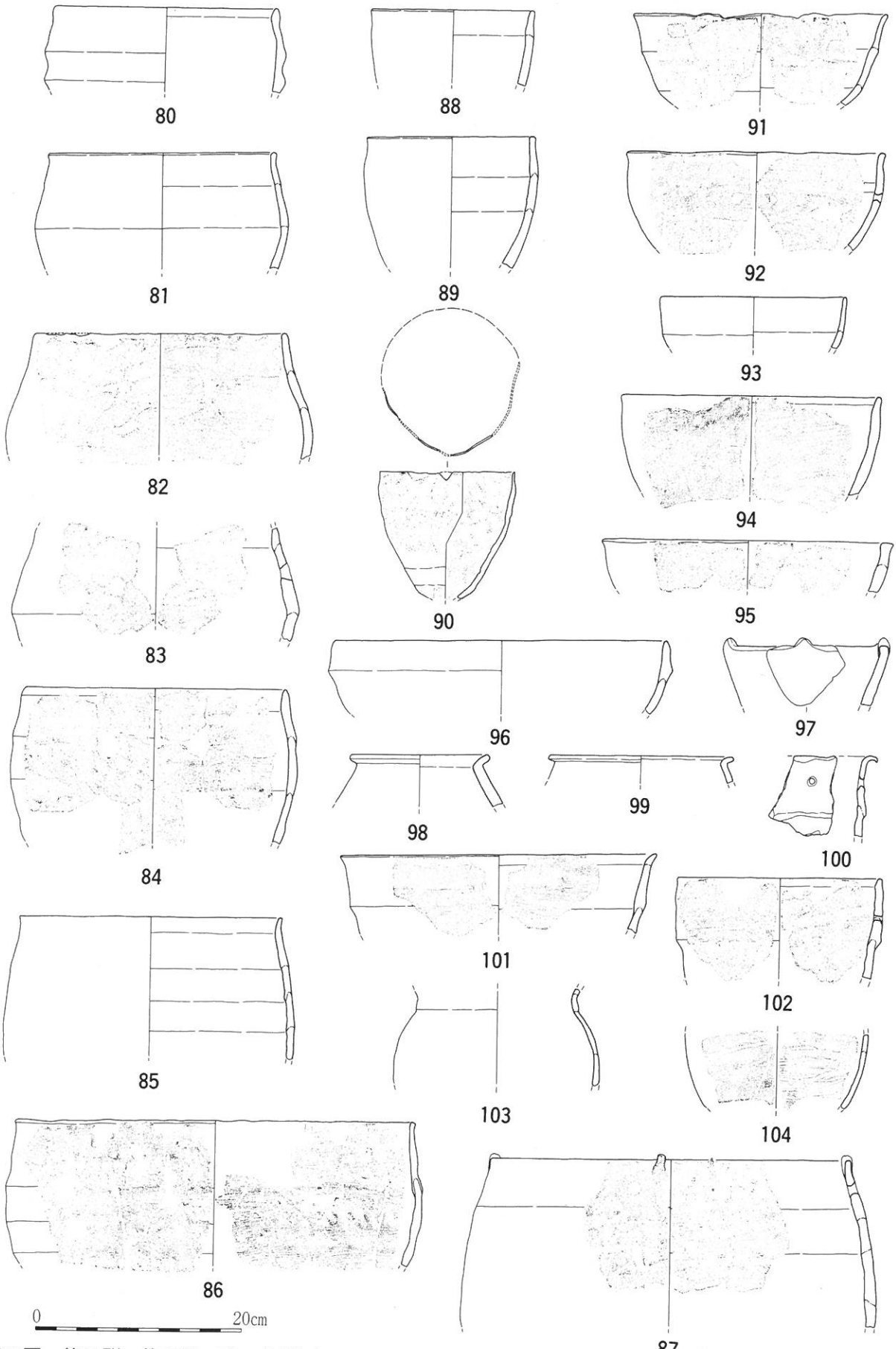
第22図　第３群　第３類　甕・鉢形(2)



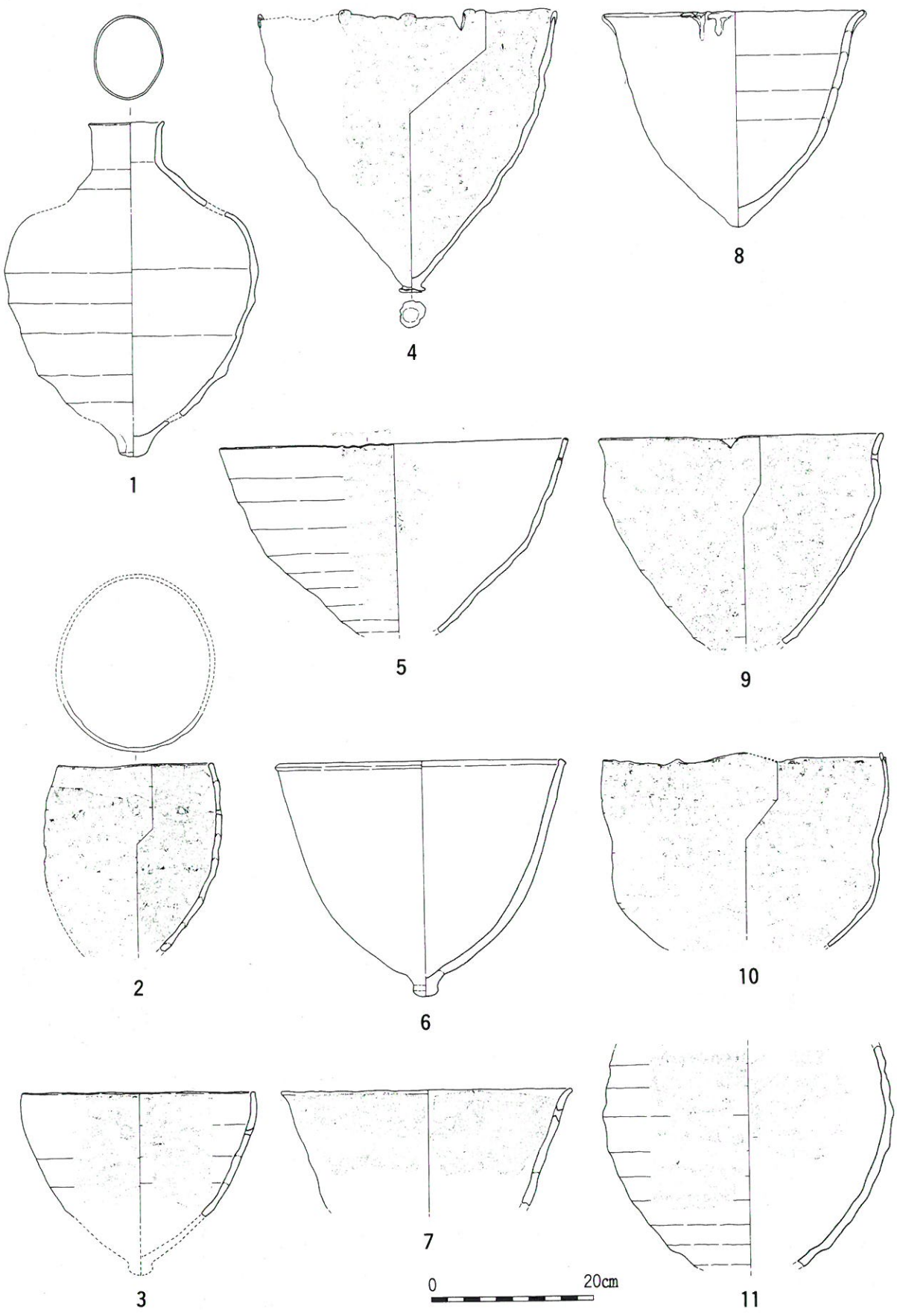
第23図　第３群　第３類　甕・鉢形(3)



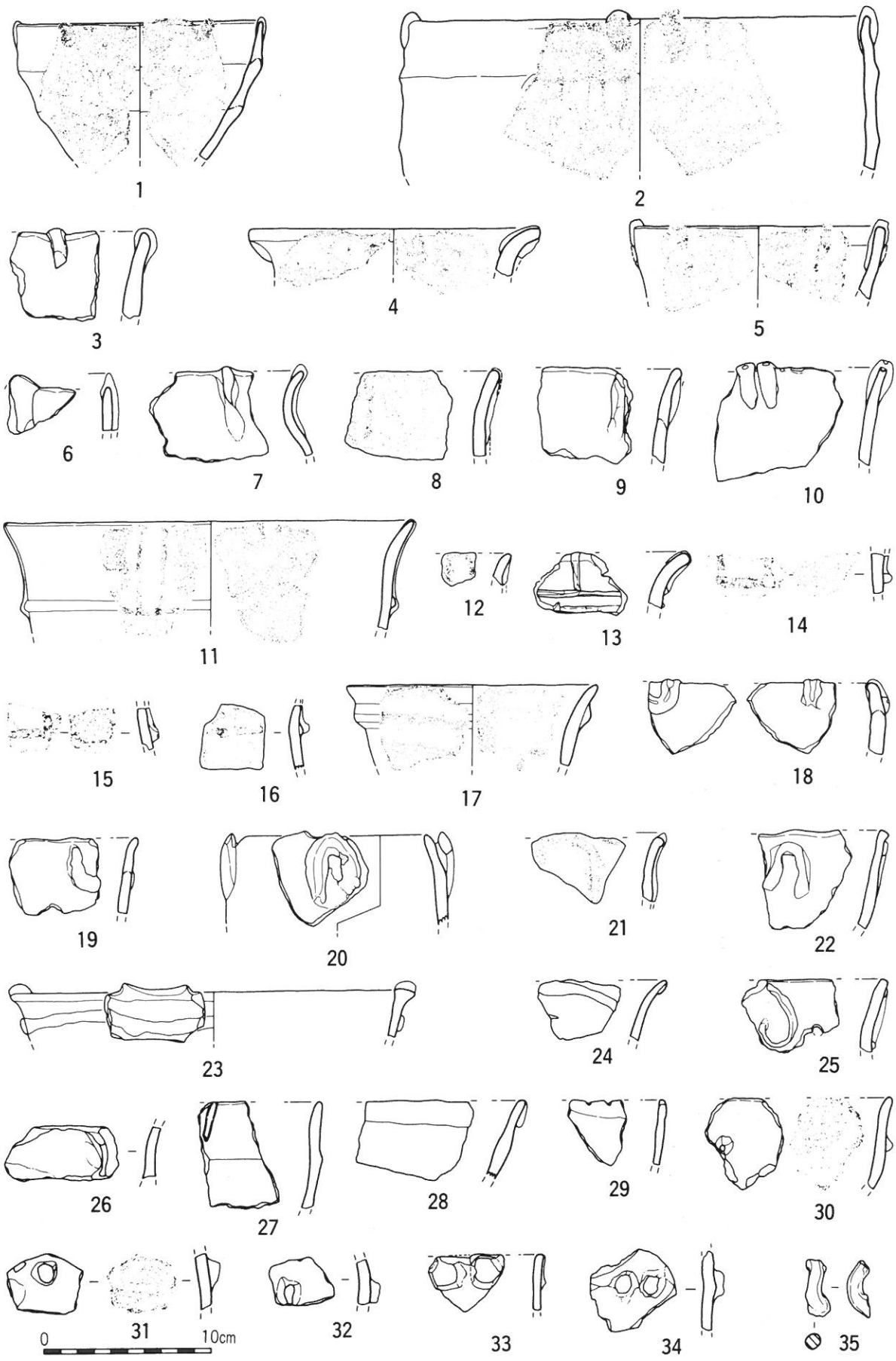
第24図　第３群　第３類　甕・鉢形(4)



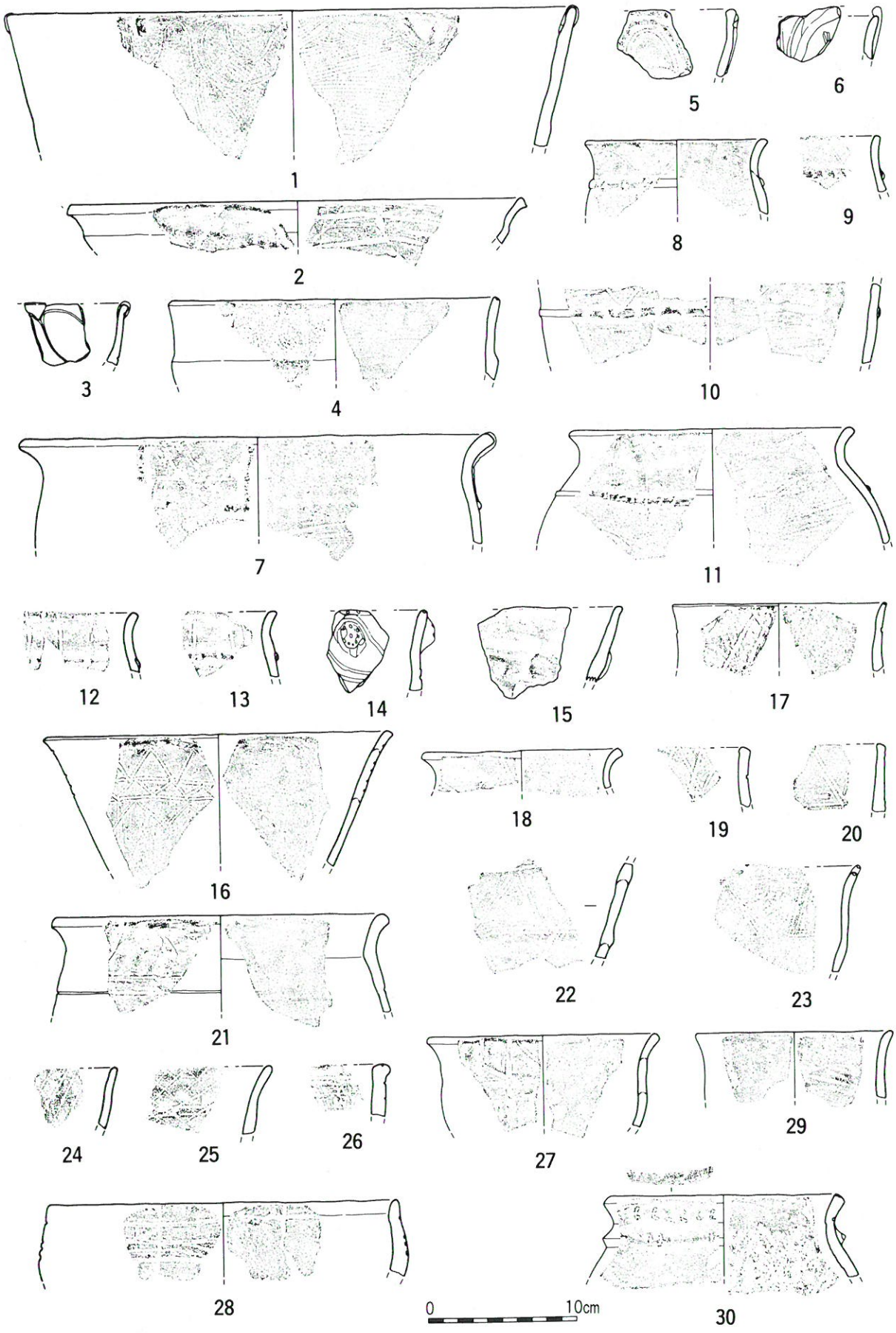
第25図　第３群　第３類　甕・鉢形(5)



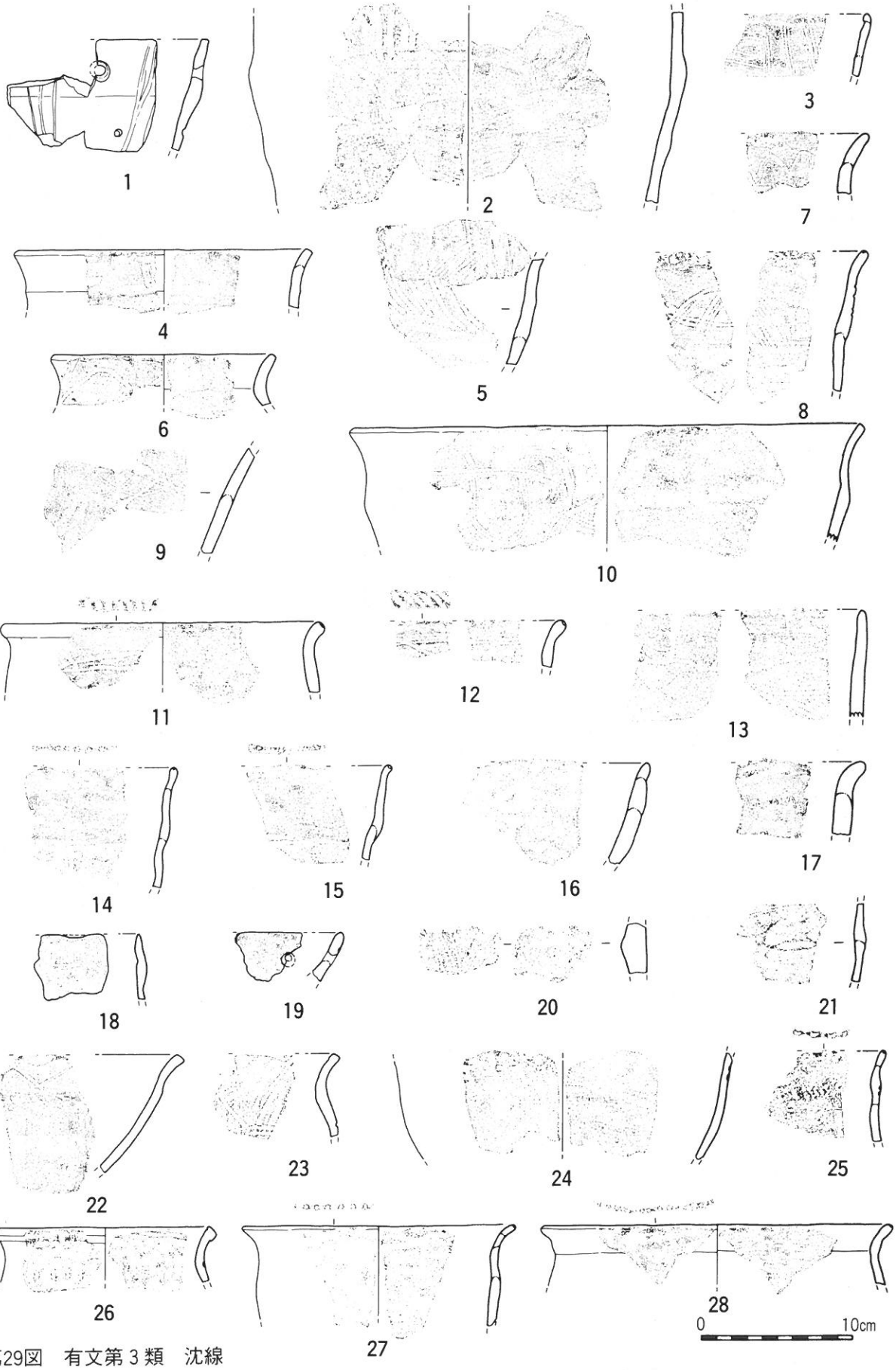
第26図　第３群　第３類　大型土器



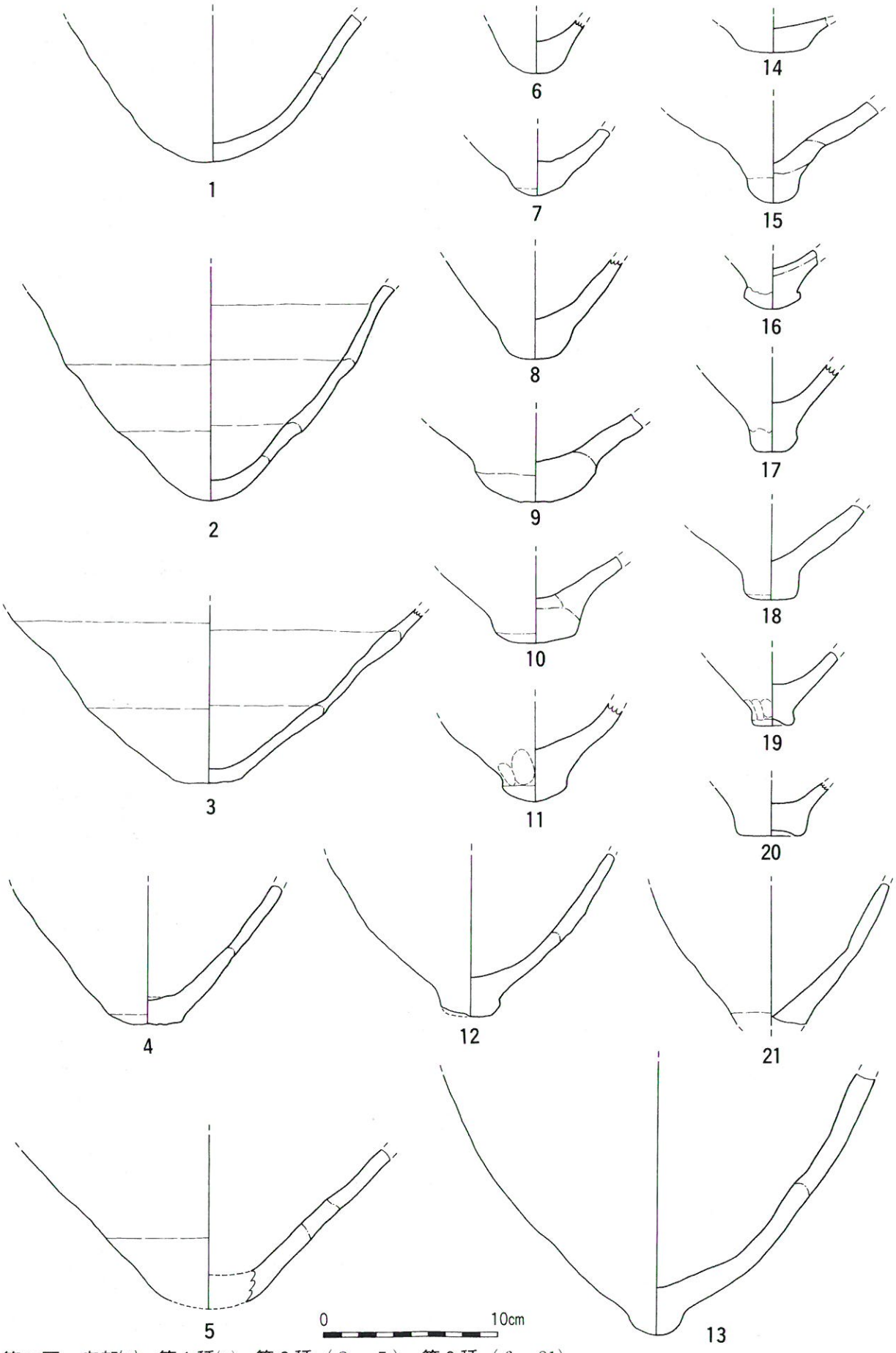
第27図　有文第１類　凸帯



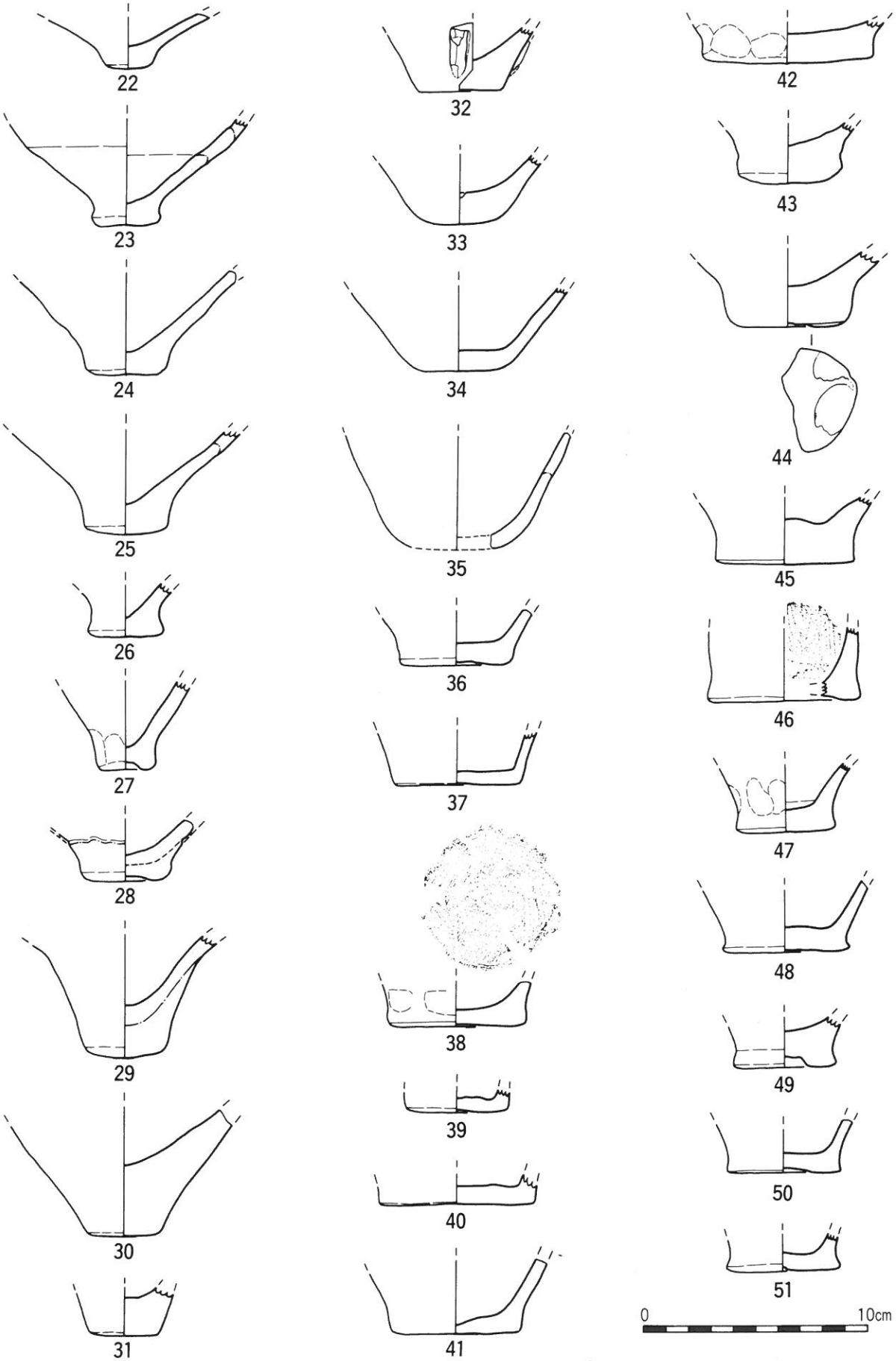
第28図　有文第２類　凸帯十沈文



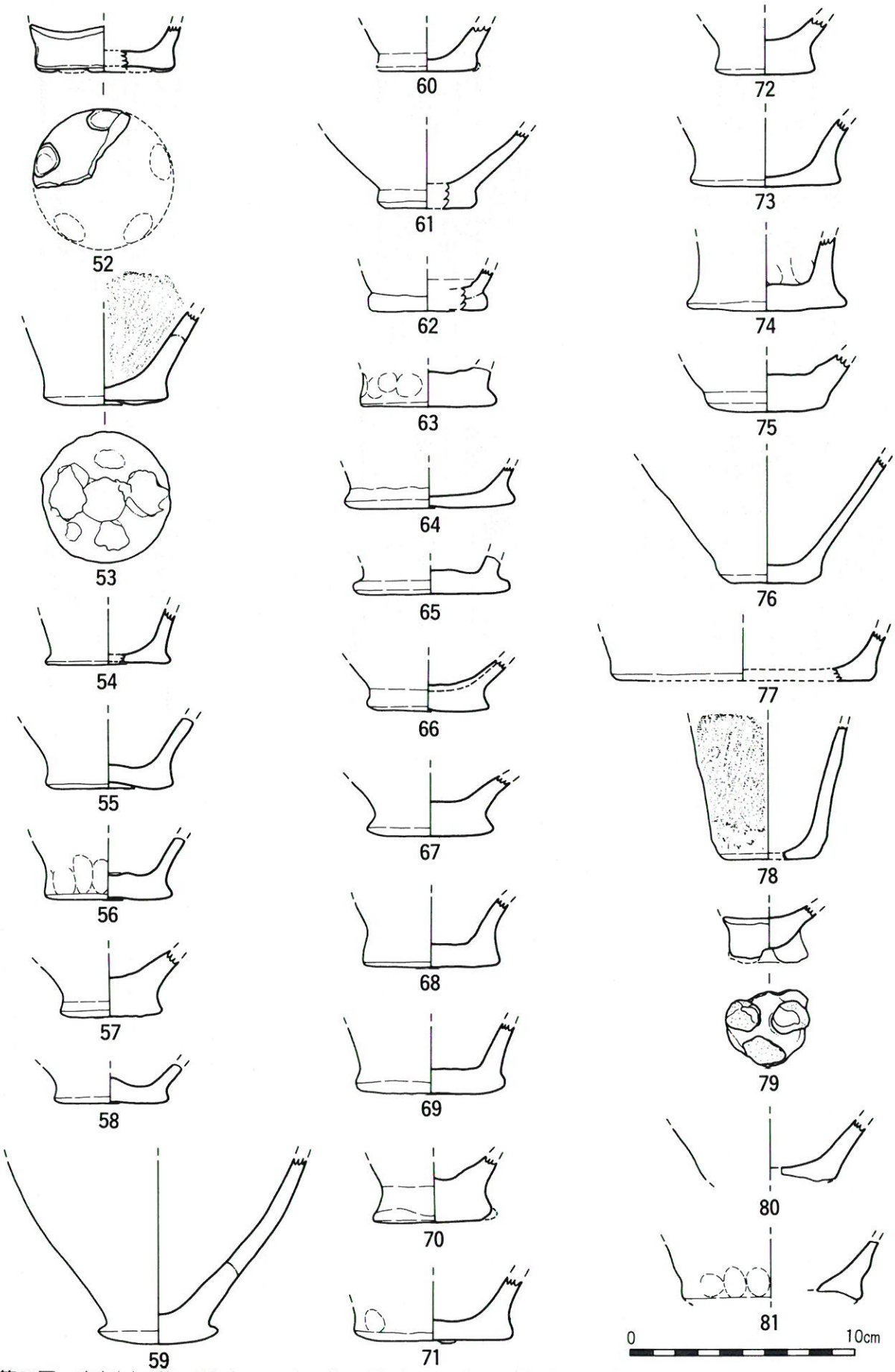
第29図　有文第３類　沈線



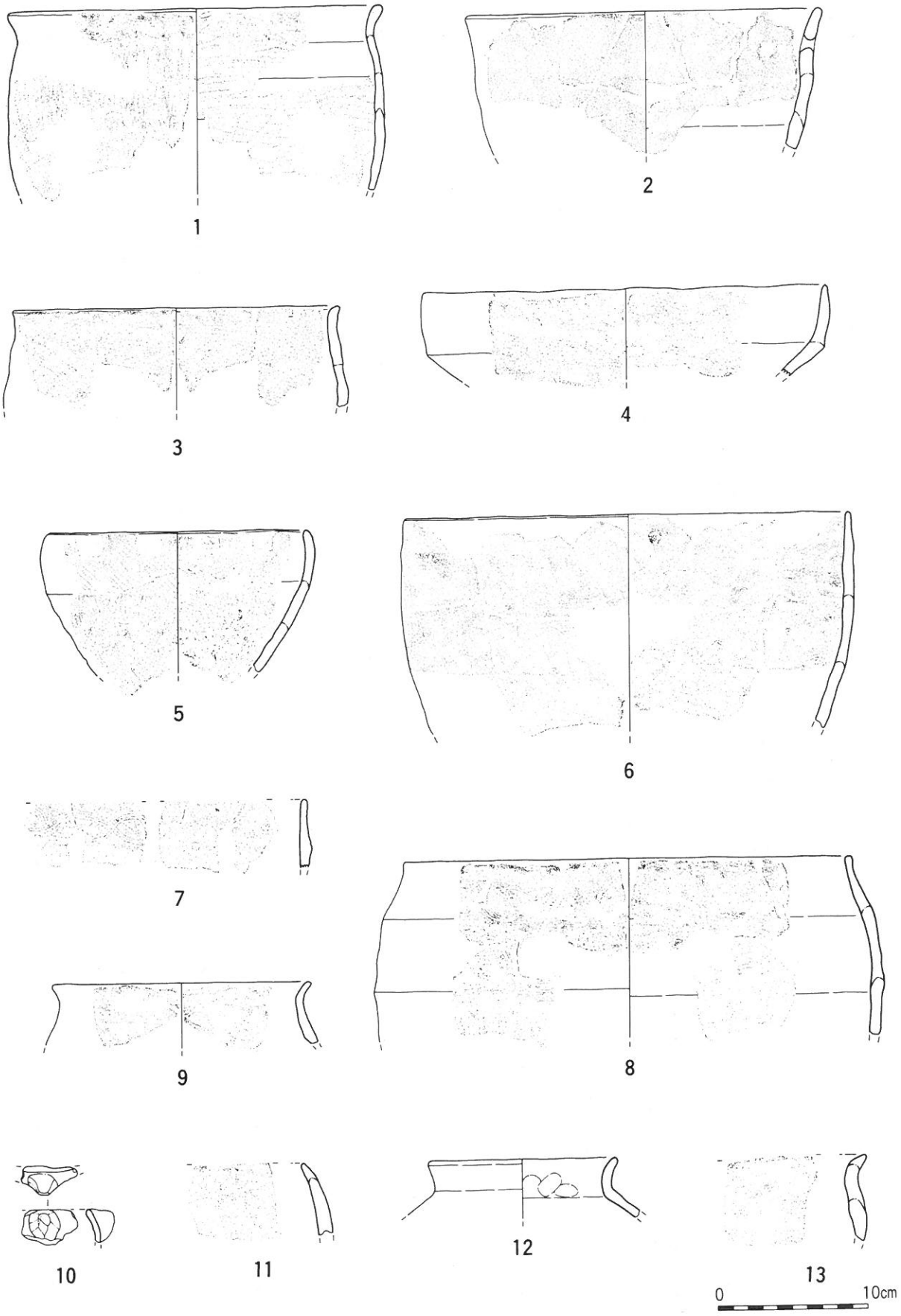
第30図　底部(1)　第１種(1)、第２種（２～５）、第３種（６～21）



第31図　底部(2)　第３種（22～32）、第４種（33～51）



第32図　底部(3)　第４種（52～74）、第５種（75～79）、不明（80・81）



第33図　第３群　第３類（１～９）、第４群（10～13）

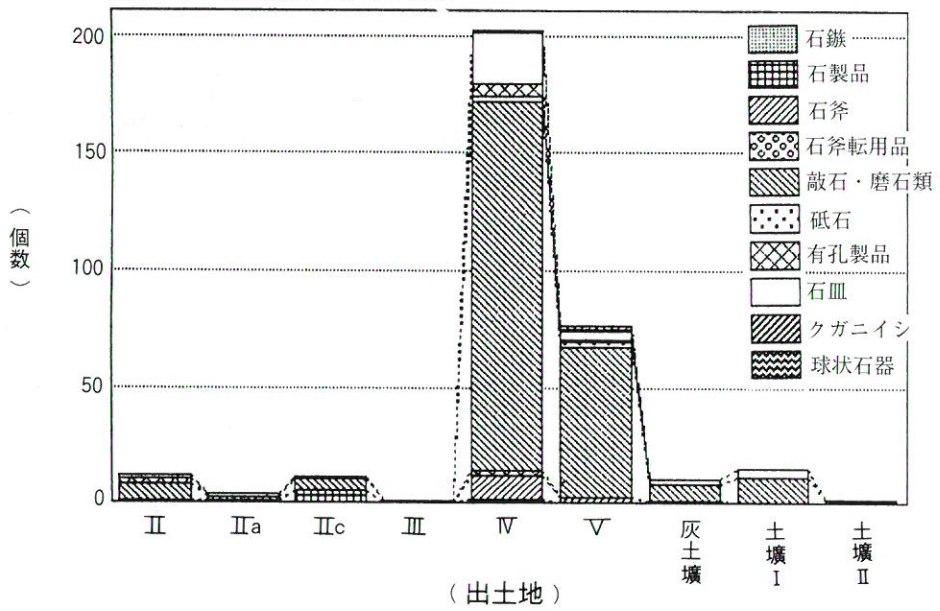
第２節　石器

本遺跡では破損品を含めて379点得られた（第８表）。器種は石鏃、石製品、石斧、石斧転用品、敲石・磨石類、クガニイシ、球状石器、砥石、有孔製品、石皿の10種に分けられ、同時期の遺跡に比べて多種にわたる。出土量では敲石・磨石類が290点（77％）で最も多く、次にセットで使用される石皿が41点（11％）で続く。一方石斧は22点で総数の９％と比率が低く、この傾向は後期遺跡の特徴といえる。

石器の大半は５、６、７地区で出土し、なかでも後期に相当するⅣ、Ⅴ層に集中している。

以下、各器種ごとに述べていく。

第34図　石器層序別出土状況



第８表　石器地区別出土状況

器種	層序		1地区						2地区		3地区					4地区				5地区		6地区		7地区					8地区		地区不明		表採	不明	攪乱	土壙	土壙2	小計	合計
			Ⅱ	a	Ⅱ	c	Ⅳ	Ⅴ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅴ	砂	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅳ	Ⅴ	表	Ⅱ	Ⅳ	Ⅴ	灰	Ⅳ	Ⅴ	Ⅱ	Ⅴ								
石鏃		完																			1															1	
		破																				1															1	2
石製品		破																			1															1	1
石斧	磨製	完										1							1		1		1			1										5	
		破		4	1												1		1	1				2	1		1									13	18
	局部磨製	完																						1													1	1
	未製品			2																				1													3	3
石斧転用品		完	1																		1															3	3
敲石・磨石類	A類	完											2						7	2	4	2	1	13	14	6	3	1				3	1	5		64	
		破					1		1										1	1	7	2		15	6	1	2		1	1		5		3		47	111
	B類	完	1																1		2			3							1					8	
		破							1												1			2	1											5	13
	C類	完								1															1		1									3	
		破																			2			1	1							4	1			9	12
	D類	完		1									3						5	1				11	2		2		2						32	
		破												1					1		3			1	1				1				2		10	42
	E類	完			2							1							2	1	8	5		5	4	1	1	1			1	1				33	
		破	1	4							1	1			1	2			3	1	9	2	1	5	6		9		1	1	1	5		2		56	89
	F類	完								1						1			1		3	1		5	4							1				17	
		破																			1		1				1					2			1	6	23
クガニイシ		完							1																											1	1
球状石器		完																						1	1							1				3	3
砥石		破	1									1									1				1		1			1	1					7	7
有孔製品		完													1		2				1				1		1		1							7	
		破										1																									1	8
石皿		完																						6	1							1		1		9	
		破		1								1			1		1		5		1		1	6	2	2	3					3	1	3	1	32	41
用途不明品		破																			1															1	1
小計		完	2		1	2				2		2	2		1		6		17	3	26	9	1	1	47	27	8	8	2	3		1	7	2	6		187	
		破	2		11	1	1	1	1			3	2		1	1	4	1	11	2	28	6	2	1	32	20	3	17		3	3	2	19	2	10	2	192	
合計			4		12	3	1	1	1	2	3	4	2	2	1	1	10	1	28	5	54	15	3	2	79	47	11	25	2	6	3	3	26	4	16	2	379	

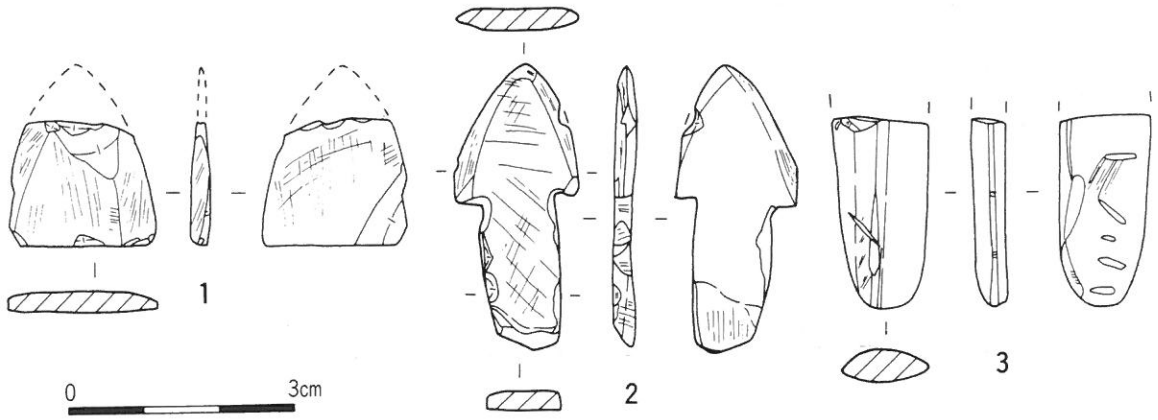
1．石鏃

有茎・無茎の磨製石鏃が各１点ずつ、計２点が得られた（第35図１、２）。個々の詳細は、第９表に示した。

第９表　石鏃観察一覧

挿図 図版	番号	分類	残存	長・幅・厚 cm	重量 g	石質	観察事項	出土地
第35図 図版30	1	無茎鏃	破	長（1.7） 幅　2.0 厚　0.3	重（1.0）	黒色 千枚岩	磨製石鏃。頭部先端及び裏面の右側茎部が破損しているが、平面観は二等辺三角形を呈していたと推察される。基部に抉りは無く、表裏面ともに粗い研磨痕が残る。	６地区 Y－34 Ⅴ層 Pit.12
第35図 図版30	2	有茎鏃	完	長　3.2 幅　1.7 厚　0.3	重　2.0	黒色 千枚岩	磨製石鏃。茎部左下端が僅かに破損しているもののほぼ完形である。平面観は「矢印」の形を呈すが、中心軸で左右対称にはならない。基部には抉りが入り、頭部は表裏面ともに側辺部に沿って稜が入る。表面全体及び裏面の茎部下端には粗い研磨痕が見られる。	６地区 Y－34 Ⅳ層 貝溜まり

※（　）内の数値は残存部の最大値を示す。



第35図　石鏃（１・２）、石製品（３）

2．石製品

６地区Ⅳ層より１点得られた（第35図３）。破損品のため、その形状や用途等は不明である。表裏面に研磨が施されているが、両面ともにキズが見られる。現存の法量は、最大長2.5cm、最大幅1.2cm、最大厚0.5cm、重量2.0ｇ。

3．石斧

石斧は18点得られた磨製が主体を占め、局部磨製１点、未製品３点を含む計22点が得られた。磨製石斧の内訳は、刃部が欠損しているもの４点、片刃１点、両刃14点である。ここでは、刃部の平面観における刃縁の状態で下記のように分類を試みた。図示したのは13点で（第36図１～第37図４）、個々の詳細は第　表に示した。

Ⅰ類……刃縁が円刃をなすもの。４点。

Ⅱ類……刃縁が直刃をなすもの、及び直刃傾向にある円刃も含む。８点（片刃１点を含む）。

Ⅲ類……刃縁が中心軸を境に左右対称でないもの。３点。

4．石斧転用品

石斧を他の製品に転用したもので「敲石」が２点、用途が不明ではあるものの再加工されているもの１点、計３点が得られた（第36図５～７）。個々の詳細は、第11表に示した。

第10表　石斧観察一覧

挿図 図版	番号	器種	分類	残存	長・幅・厚 cm	重量 g	石質	観察事項	出土地
第36図 図版31	1	石斧	Ⅰ	破	長（6.7） 幅（4.4） 厚　4.6	重（100）	輝緑岩	両刃。基部上端及び左側が破損している。表面と比較すると、裏面は成形時の敲打調整痕が残る。刃部は丁寧に研磨が施され、使用痕は判然としない。	1地区 F－12 Ⅱ層最下部
第36図 図版31	2	石斧	Ⅰ	完	長　8.7 幅　5.4 厚　1.7	重　150	輝緑岩	両刃。平面観はバチ形に近い。表裏面及び側面に研磨を施しているが、裏面には成形時の敲打調整痕が残る。刃先がこぼれており、表面に剝離が目立つ。	3地区 R－25 Ⅴ層　Pit
第36図 図版31	3	石斧	Ⅰ	完	長　9.0 幅　5.9 厚　2.4	重　219	石英ヒン岩	両刃。平面観は方形に近い。基端面及び両側面に成形時による敲打調整痕が僅かに残り、右側面にはくぼみが見られる。刃先は全体的にこぼれており、特に右側に剝離が目立つ。また、使用痕は判然としない。	7地区 Z－35 Ⅱ層
第36図 図版31	4	石斧	Ⅱ	完	長　7.1 幅　3.9 厚　2.1	重　100	輝緑岩	両刃。平面観はバチ形を呈し、かなり小型の石斧である。表裏面及び側面は丁寧に研磨が施されている。基端面には敲打調整痕及び剝離も見られる。刃先はこぼれ、剝離した部分から亀裂が入る。また、裏面右側では磨滅している。	6地区 X－35 Ⅳ層最下
第36図 図版31	5	石斧	Ⅱ	完	長 10.2 幅　5.6 厚　2.3	重　160	輝緑岩	両刃。平面観はバチ形を呈する。表面は左側より基部中央から刃縁近くまで打割し、裏面の基部中央にはくぼみが見られる。基端面には敲打痕が見られ、両側面には成形時の敲打調整痕が残り2カ所ずつ僅かなくぼみが見られる。刃部は裏面右側に剝離が見られるだけであるが、刃先は鈍い。また、使用痕は判然としない。	7地区 あ-え 33-36 Ⅴ層 灰集中土壙
第36図 図版31	6	石斧	Ⅱ	破	長（5.0） 幅（7.6） 厚（3.0）	重（140）	輝緑岩	両刃。破損により刃部のみが残るため、平面観は不明である。刃部裏面及び両側面は成形時の敲打調整痕を残す。刃部表面の右側にはすり痕、刃先には剝離や磨滅が見られ、刃部裏面は僅かに凹面を呈する。	7地区 あ－28 Ⅳ層下
第36図 図版31	7	石斧	Ⅱ	破	長（10.7） 幅　5.4 厚　0.8	重（145）	砂岩	両刃。平面観は短冊形。薄手の石斧である。表裏面及び両側面にわたり、丁寧に研磨を施す。さらに剝離した基端部にも再度研磨を施しているため、基端面は研磨面を呈する。刃部は裏面に剝離が見られる。	8地区 Z－17 Ⅳ層下面
第36図 図版31	8	石斧	Ⅱ	破	長（5.8） 幅　4.9 厚　1.9	重（90）	輝緑岩	片刃。基部上端は破損しているが、表裏面及び両側面に丁寧な研磨が施されている。刃先はこぼれており、刃部の裏面にかなりの剝離が見られる。	1地区 F－16 Ⅱc層
第36図 図版31	9	石斧	Ⅲ	破	長（8.3） 幅　5.4 厚　2.0	重(155)	輝緑岩	両刃。基部上端が破損しているものの、平面観は短冊形と推察される。しかし、刃部は中心軸で左右対称にはならず、右側に偏っている。また、表裏面ともに成形時の敲打調整痕が多く残る。刃先がこぼれ剝離している。	7地区 う－30 Ⅳ層
第37図 図版32	1	石斧	刃部なし	破	長（5.5） 幅　4.4 厚　1.3	重（60）	砂質片岩	刃部が破損しているが、平面観は短冊形を呈していたと推察される。表裏面は、破損時によると思われる剝がれが広範囲で見られ、側面及び基端にも多くの剝離がある。基端面は僅かに研磨されている部分が残る。	1地区 D－11 Ⅳ層
第37図 図版32	2	石斧未製品			長　9.4 幅　4.7 厚　2.2	重 170	砂岩	上・下端に剝離調整がみられる。表面には研磨を施すものの、裏面は剝離調整に留まり、両側面同様に自然面も残す。刃部が形成されていないことから制作途上のものと考えられる。	1地区 I－11 Ⅳ層最下部
第37図 図版32	3	石斧	局部磨製	完	長　9.0 幅　3.5 厚　2.5	重　80	輝緑岩	小型で自然石の稜部を利用しており「有稜」（註1）の石斧である。表裏面ともに成形時の敲打調整痕が残る。表面は稜の右側の刃部周辺に研磨を施すのみで、左側は自然面を利用している。また、裏面では刃部から基部中央にかけてくぼみが見られる。左側面には僅かなくぼみが見られ、刃部は表裏面に剝離がみられる。	7地区 ク－8 Ⅳ層上面
第37図 図版32	4	石斧	Ⅱ	完	長　9.1 幅　7.0 厚　2.1	重　200	輝緑岩	両刃。破損した大型の石斧を再利用し、前の刃部を利用せず新たに刃部を形成しているため、平面観は不定形を呈す。表裏面に剝離が見られるが、前段階時での使用によるものと思われる。両側面とも僅かに研磨が施され、刃部は僅かに剝離がみられる。	5地区 V－23 Ⅳ層最下部

※（　）内の数値は残存部の最大値を示す。

第11表　石斧転用品観察一覧

挿図 図版	番号	分類	残存	長・幅・厚 cm	重量 g	石質	観察事項	出土地
第37図 図版32	5	敲石	完	長 9.9 幅 7.1 厚 4.0	重 420	角閃石安山岩	平面観はやや方形を呈す。表裏面とも丁寧に研磨が施され、両側面にはくぼみが見られる。基端は全体にわたって剝離し、基端面には敲打痕や磨り面が見られ、刃部が敲打によって磨滅していることから「敲石」として転用されたものと推察される。	7地区 い－32 Ⅳ層
第37図 図版32	6	敲石	完	長 10.8 幅 4.7 厚 3.2	重 290	輝緑岩	平面観は棒状を呈す。表裏面とも丁寧に研磨が施されているが、右側面は石斧成形時の敲打調整痕が残る。刃部は敲打によってかなり磨滅し、基端面にも敲打痕やすり痕が見られることから「敲石」として転用されたものと推察される。	6地区 X－33 Ⅳ層最下
第37図 図版32	7	用途不明	完	長 4.1 幅 5.6 厚 1.7	重 50	砂岩	基部上端が破損した石斧を再加工したものであるが、その用途は不明である。表面は研磨が施され、裏面は剝離のみで研磨は施されていない。上端部は剝離調整され、僅かに敲打痕が見られる。また、下端部には多くの剝離が見られる。	1地区 J－11 Ⅱ層

5．敲石・磨石類

本項目では、敲打や敲打によるくぼみ、磨面などの使用痕を示す石器を一括して扱った。石器のなかでは最も出土量が多く、全体の77%（290点）を占めている。これを使用痕の性格で下記の6種類に分類した。

A類：敲打痕を有す

B類：敲打によるくぼみを有す

C類：磨面を有す

D類：敲打痕とくぼみを有す

E類：敲打痕と磨面を有す

F類：敲打痕とくぼみ、磨面を有す

敲打痕
- Ⅰ 一面に敲打痕を部分的に有す
- Ⅱ 一面に敲打痕を全体的に有す
- Ⅲ 二面以上に敲打痕を有す

磨面
- a 一面に磨面を部分的に有す
- b 一面に磨面を全体的に有す
- c 二面以上に磨面を有す

くぼみの数を数字で表す
- ① 1個有す
- ② 2個有す
- ③ 3個有す
- ④ 4個有す

次に、完形品を使用頻度により細分し、記号化した。

分類の結果、敲打痕のみを有すA類が全体の4割を占め、他の分類で敲打を有すものも含めると全体の9割にものぼる。なかでもE類、F類は「敲打」と「磨り」の両方の機能を兼ね備えていることから、多目的に利用されていたことが窺える。

以下、A類から順に記述していく。

イ．A類（第38図1～6、第33図1・2）

敲打を有すもので、総数111点（完形品64点、破損品47点）が得られた。うち8点を図示し、詳細は第12表に示す。

本類は、敲打痕の状況および敲打痕のみられる場所によってⅠ（14点）・Ⅱ（8点）・Ⅲ（42点）に分類される。敲打は平面観が三角状などは3つの頂部に、棒状のものでは先端部に形成されるが、楕円状においては確定されないようである。また、面の中央付近にみられる敲打痕は使用頻度が高まるとくぼみを有すようになり、前述したB類やD類になりうる。礫形態は楕円状が主体を占め、他に三角形、長方形、棒状がみられた。しかし、Ⅰ、Ⅱは使用頻度が低いことに起因して、丁寧に整形されていないものがみら

れた。重量別にみると重いものでは３kg程度のものもあったが多くは500ｇ未満にとどまるようである。

第12表　敲石・磨石類（A類）観察一覧

挿図 図版	番号	分類	残存	長・幅・厚 cm	重量 g	石質	観察事項	出土地
第38図 図版33	1	Ⅲ	完	長 7.5 幅 6.5 厚 4.6	重 300	凝灰岩	平面形、断面形ともに楕円状を呈す。上下端、両側面に敲打痕を有すが不明瞭である。	５地区 X－23 Ⅳ層最下
第38図 図版33	4	Ⅲ	完	長 10.9 幅 8.9 厚 5.6	重 800	砂岩	平面形、断面形ともに楕円状を呈す。上下端と両側面に軽微な敲打痕を有す。	７地区 Z－31 Ⅴ層下
第38図 図版33	3	Ⅲ	完	長 8.7 幅 4.2 厚 3.8	重 200	砂岩	断面形が円形状の棒状礫である。上下端に敲打痕を有し、両面とも使用により潰れ、平坦面をなす。打撃による剝離が上端に３カ所、下端に１カ所みられる。	６地区 W－31 Ⅴ層下P-4
第38図 図版33	2	Ⅲ	完	長 15.0 幅 17.2 厚 4.1	重 1,630	砂岩	隅丸の三角状を呈した、偏平な礫である。三カ所の頂部と右側面の一部に軽微な敲打痕を有す。表面は自然面を残すが、裏面には左上から右下にかけて稜がはしる。砥石としての利用も考えられるが、使用痕は判然としない。	７地区 Z－31 Ⅴ層上
第38図 図版33	5	Ⅲ	完	長 17.7 幅 5.8 厚 3.2	重 480	砂岩	断面形が長方形、平面形が細長い二等辺三角形状を呈す。上端は面をなすほどに敲打痕を有し、下端では敲打痕と共に浅いノッチがみられる。	７地区 う－31 Ⅴ層上
第38図 図版33	6	Ⅲ	完	長 17.6 幅 6.9 厚 7.4	重 1,310	砂岩	断面形が三角状を呈す大型の棒状礫である。左側面と上下端にわずかに敲打痕を有す。	７地区 う-え 31-32 層不明
第39図 図版34	1	分類不可	破	長 17.0 幅 13.0 厚 6.5	重 1,830	砂岩	断面形が略三角形をなす比較的大きな礫である。上端を除く周辺に、全周にわたって敲打痕を有す。右側面上部と下端部には打撃による剝離もみられる。	７地区 え－30 Ⅳ層
第39図 図版34	2	分類不可	破	長 (5.9) 幅 (5.8) 厚 (3.4)	重 (140)	砂岩	破損品のため、本来の礫形態は不明である。上端から右側面、さらに下端部にかけて平坦をなすほどに敲打痕を有す。表面には明瞭な敲打痕は認められない。	５地区 ク－５ Ⅳ層上

※（ ）内の数値は残存部の最大値を示す。

ロ．B類

敲打によるくぼみのみを有すものである。総数13点（完形品８点、破損品５点）が得られ、うち１点を図示した。

第39図３は平面形、断面形ともに楕円状を呈す。表裏面中央は、連続した敲打によりくぼみを形成し、分類では②に属する。法量は長さ7.3cm、幅5.3cm、厚さ2.9cm、重量165ｇで、７地区からの表採である。

本類では、１箇所にくぼみを有す①が４点、次に②が３点、③が１点の出土であった。

石器の形態によって使用頻度に差は見あたらなかったが、いずれも面の中央部にくぼみを形成する点で共通している。これは敲石として頻繁に使用する場合、石器の角よりも面の中央部を利用するほうが、確実に対象物をとらえることができるためであろう。重量別では500ｇ未満のものが多く、比較的小さめの礫を好んで使用していたことが推察される。

ハ．C類

磨面のみを有すものである。総数12点（完形品３点、破損品９点）が得られ、うち１点を図示した。

第39図４は平面が円形、断面は楕円形状を呈す。側面の全周に自然面を残す以外は、表裏面の全面に磨面を有すため、磨石として利用されていたと思われる。法量は長さ8.0cm、幅7.4cm、厚さ3.2cm、重量340ｇで３地区Ｒ－28Ⅱ層の出土である。

敲石・磨石類の中では、本類の出土量が最も僅少であった。これは、大抵の磨石が敲石の用途も兼ね備えていたためと考えられる。完形品３点を使用頻度により分類した結果、磨石としての用途が明確なもの

は表裏面に磨面を有すc（第39図４）の一点のみで、他は三角柱の一辺に磨面を有すbが１点、aが１点であった。資料が僅かなため、ここでは平面形態や重量別の観察を省略した。

ニ．D類（第39図５～８、第40図１）

敲打痕と敲打によるくぼみを有すもので、総数42点（完形品32点、破損品10点）が得られた。うち５点を図示し、詳細は第14表に示した。使用痕と個数については第13表にまとめた。

第13表　D類使用痕別分類

敲打痕	Ⅰ			Ⅱ		Ⅲ			
くぼみ	①	②	③	①	②	①	②	③	④
個　数	4	1	1	3	1	13	5	3	1

本項目は「敲く」という目的にのみ使用された石器で、その頻度が高い箇所にくぼみを有す。従って使用頻度により分類を行った場合、敲打痕を２箇所以上に有すⅢに、くぼみの数も多い傾向が見られる（第13表）。平面形態は大半が楕円形で、重量別では1,500ｇ未満のものが殆どであった。

第14表　敲石・磨石類（D類）観察一覧

挿図 図版	番号	分類	残存	長・幅・厚 cm	重量 g	石質	観察事項	出土地
第39図 図版34	5	Ⅲ①	完	長 6.4 幅 5.4 厚 4.7	重 210	凝灰岩	平面形は方形、断面形は三角形を呈す。上端および表面に敲打痕を有し、裏面においてはくぼみを形成する。	７地区 う－32 Ⅳ層最下
第39図 図版34	6	Ⅲ②	完	長 13.1 幅 8.7 厚 5.3	重 1,030	角閃岩	断面形が楕円形、平面形は上下部が張り出し、側面中央部に抉りをいれて握り部をつくりだす特徴をもつ。上下端、両側面では面をなすほどに敲打され、表裏面においては深いくぼみを形成している。表裏面の一部には打撃による剝離がみられる。	７地区 あ－30 Ⅳ層
第39図 図版34	7	Ⅲ③	完	長 17.0 幅 11.2 厚 10.4	重 2,640	石英閃緑岩	厚みのある大型の礫である。平面形は楕円形、断面形が三角形状を呈す、側面の全周にわたり面をなすほどに敲打痕を有し、表裏面においても連続した敲打痕がみられる。使用により上端と裏面ではくぼみが形成され、右側面にいたってはノッチ状をなす。	７地区 え－29 Ⅳ層最下
第39図 図版34	8	Ⅲ①	完	長 6.4 幅 5.5 厚 4.0	重 156	凝灰岩	小型で楕円状の礫である。側面は全周にわたって敲打痕を有し、表裏面も部分的に敲打痕がみられる。裏面の中央部にくぼみを有す。	６地区 Ｙ－33 Ⅳ層最下
第40図 図版35	1	Ⅲ①	完	長 6.8 幅 9.8 厚 2.1	重 165	砂岩	平面形は方形、側面形は下半分がＶ字状になる偏平な礫である。上端、表裏面中央部に敲打痕を有し、表面の中央部では深いくぼみをなす。下端部においては細かい剝離痕がみられる。	７地区 あ－28 Ⅳ層

ホ．E類（第40図２～７、第41図１～８、第42図１）

敲打痕と磨面を有すもので、総数89点（完形品33点、破損品56点）が得られた。うち15点を図示し、詳細は第16表に示した。使用痕と個数については第15表にまとめた。

第15表　E類使用痕別分類

敲打痕	Ⅰ	Ⅲ		
磨　面	a	a	b	c
個　数	1	4	4	24

本類では「敲打」「磨り」を一面あたりの面積の割合でみた場合、面積の小さい面（側面、稜線）には敲打痕、大きい面（表裏面）には磨面を有す傾向がみられた。言いかえると面によって「敲き」と「磨り」を使い分けていたと考えられる。形態的には楕円状が主体を占めるが、Ⅲｃではｄ字型・多角形・半円形などに整形された石器もみられた。重量別では500～1,500ｇ未満のものが多く、手頃なものをよく利用していたと推察される。

第16表　敲石・磨石類（E類）観察一覧

挿図図版	番号	分類	残存	石質	長・幅・厚 cm	重量 g	観察事項	出土地
第40図 図版35	2	Ⅲc	完	砂岩	長 7.4 幅 5.8 厚 4.0	重 180	偏平で小さめの楕円礫である。側面は全周にわたって、軽微な敲打痕を有す。上下端と右側面に打撃による剝離がみられる。表裏面は磨面をなす。	6地区 X－35 Ⅳ層
第40図 図版35	3	Ⅲc	完	砂岩	長 7.6 幅 6.6 厚 4.5	重 360	平面形、断面形ともに楕円形を呈す小ぶりな礫である。敲打痕は側面の全周にわたり、平坦をなすほどに認められるが表面においては軽微である。表裏面は磨面をなす。	8地区 Z－15 Ⅴ層上
第40図 図版35	4	Ⅲc	完	砂岩	長 8.9 幅 6.8 厚 5.9	重 500	平面形が略楕円を呈す三角柱状の礫である。上下端および側面では平坦をなすほどに敲打されているが、表面の稜中央部と裏面中央部においては軽微である。敲打痕が認められない部分は全体に磨面をなす。	6地区 X－31 Ⅳ層
第40図 図版35	5	Ⅲc	完	砂岩	長 9.0 幅 6.9 厚 5.3	重 450	平面形、断面形ともに楕円形を呈す厚手の礫である。側面は全周にわたって敲打痕を有す。下端部は打撃による剝離がみられる。表面および裏面の中央部に磨面を有す。	2地区 E-24，攪乱層 攪乱中採集
第40図 図版35	6	Ⅲc	完	砂岩	長 11.9 幅 8.0 厚 5.5	重 850	平面形、断面形ともに楕円状を呈す。上下端および左右両側面の中央部に軽微な敲打痕を有す。表面の中央部および裏面全体は磨面であり、磨石としての使用も考えられる。	6地区 U－34 Ⅴ層上面
第40図 図版35	7	Ⅲc	完	砂岩	長 13.0 幅 10.7 厚 6.8	重 1,490	平面形、断面形ともに楕円形を呈す。表裏面に磨面を有す。上下端および右側面には極めて軽微な敲打痕が認められる。	6地区 S－34 Ⅴ層
第41図 図版36	1	Ⅲc	完	砂岩	長 9.9 幅 5.6 厚 3.9	重 320	平面形は三角形、断面形は角のとれた台形を呈す。上下端、表面、中央部に敲打痕がみられる。表面の中央では稜が潰れ平坦な面をつくり出している。両側面は磨面をなし、裏面においては打割による剝離がみられる。	6地区 X－34 Ⅳ層
第41図 図版36	2	Ⅲc	完	砂岩	長 17.9 幅 8.4 厚 9.6	重 2,100	断面形は三角状を呈する、大型の礫である。表裏面、上下端、二辺は面をなすほど敲打されているがところによっては敲打痕が磨滅している。下端部を除き全体に磨面をなす。	6地区 X－31 Ⅳ層最下
第41図 図版36	3	Ⅲb	完	砂岩	長 10.8 幅 7.8 厚 5.8	重 665	平面形が三角形、断面形は略台形を呈す。三角形の頂点では敲打により角がとれ、平坦な面をつくり出している。表面は磨面をなしているが、側面および裏面においては石灰分が付着しているため磨面かどうか判然としない。	6地区 W－35 Ⅴ層
第41図 図版36	4	Ⅲc	完	凝灰岩	長 10.0 幅 9.0 厚 4.7	重 710	断面形は長方形、平面形は六角形を呈す。側面は面をなすほど全周にわたって敲打痕を有す。両側面には抉りがみられ、握り部を作り出している。表裏面は磨面をなす。	6地区 Y－29 Ⅴ層上
第41図 図版36	5	Ⅲc	完	砂岩	長 10.2 幅 9.4 厚 6.4	重 880	厚みのある礫で平面形はD字状を呈す。上下端および右側面は敲打痕を全面に有し、一部打撃による剝離がみられる。敲打部は稜線により多面体を形成する。表面および左側面は磨面を呈すが、裏面は石灰分の付着により判然としない。	7地区 え－35 Ⅴ層
第41図 図版36	6	Ⅲc	完	砂岩	長 6.4 幅 9.5 厚 4.1	重 430	断面形は細長い長方形状、平面形は半月形を呈す。上端を除く周辺に全周にわたって軽微な敲打痕を疎に有す。表裏面は磨面をなすが、部分的に溝状の擦痕がみられる。表面は横位に、裏面と下端部は縦位にはしる。	7地区 い－26 Ⅴ層上
第41図 図版36	7	分類不可	破	砂岩	長（9.8） 幅 5.9 厚 3.7	重（340）	断面形が楕円形を呈す細長い礫である。表面上部、裏面下部および両側面に敲打痕を有す。表面は磨面をなす。	8地区 ク－4 Ⅳ層上
第41図 図版36	8	分類不可	破	砂岩	長（8.1） 幅（6.8） 厚（4.2）	重（370）	断面形は略三角状を呈すが、破損品のため本来の礫形態は不明である。下端部左側面部、および表面の右側から下端部にかけて敲打痕を有す。表面および左側面は軽微だが、下端部は使用による稜線がはしる。表面と右側面に磨面が数カ所みられる。	1地区 E-12，Ⅱc層 貝溜まり
第42図 図版37	1	分類不可	破	砂岩	長（13.1） 幅（7.2） 厚（8.8）	重（780）	欠損品のため、本来の礫形態は不明である。表面は磨面であるがその他は全面にかなり顕著な敲打痕を有す。	地区・グリット・層不明 南29-35ﾄﾚﾝﾁ

※（ ）残存部の最大値

へ．F類（第42図２～７）

磨面と敲打痕、敲打によるくぼみを有すもので、総数22点（完形品17点、破損品５点）が得られた。うち６点を図示し、詳細は第18表に示した。

前述のE類と同様、「敲く」「磨る」の両機能を兼ねる石器であるが、くぼみを有すため、敲きの用途においてはE類より使用頻度の高い石器である。分類を試みると、敲打や磨面を２箇所以上に有し、且つくぼみを１箇所に形成するもの（Ⅲ①c）が圧倒的に多い（第17表）。このタイプは敲打痕を全周に、磨面を表裏面に有し、平面形は楕円形を呈するものが大半であった。また、重量別では500ｇ以上1,000ｇ未満のものが殆どであった。

第17表　F類使用痕別分類

敲打	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ					
くぼみ	①	①	①	①	①	②	②	②
磨面	b	b	a	b	c	a	b	c
個数	1	1	1	1	8	1	1	3

第18表　敲石・磨石類（F類）観察一覧

挿図 図版	番号	分類	残存	石質	長・幅・厚 cm	重量 g	観察事項	出土地
第42図 図版37	2	Ⅲ①c	完	砂岩	長 11.6 幅 9.6 厚 4.9	重 960	平面形、断面形ともに楕円形を呈し、ある程度一定した厚みを持つ礫である。側面全周にわたり敲打痕を有す。敲打により表面中央部では浅いくぼみを形成し、左側面においてはノッチ状をなすほどに使用。また、表裏面は磨面をなす。	6地区 T－24 Ⅴ層上面
第42図 図版37	3	Ⅲ②c	完	花崗閃緑岩	長 10.5 幅 8.4 厚 6.7	重 1,070	平面形が楕円形、断面形は隅丸の三角状を呈す厚手の礫である。側面は面をなすほど全周にわたって敲打痕を有す。特に両側面の中央部付近は敲打痕が集中して凹みを形成する。表裏面は磨面をなす。	6地区 Y－31 Ⅳ層
第42図 図版37	4	Ⅲ②b	完	凝灰岩	長 8.1 幅 4.8 厚 3.7	重 160	断面形が隅丸の三角状、平面形は楕円形を呈す。上下端、両側面および表面中央部に敲打痕を有す。表面稜線上中央部および右側面は、連続した潰れ痕でくぼみをなしている。裏面は磨面を呈す。	7地区 Z－33 Ⅳ層
第42図 図版37	5	Ⅲ①b	完	砂岩	長 11.7 幅 7.0 厚 6.1	重 790	断面形が三角形を呈す三角柱状の礫である。上下端および裏面周縁部に敲打痕がみられる。表面中央では敲打により深いくぼみが形成されるが、裏面では軽微。裏面は磨面をなす。	7地区 え－29 Ⅳ層最下
第42図 図版37	6	Ⅲ①c	完	花崗閃緑岩	長 11.5 幅 8.2 厚 5.2	重 790	断面形が隅丸方形、平面形は石鹸状を呈す。上下端、両側面は平坦をなすほどに敲打され、表裏面においては中央部にくぼみを有す。両側面には抉りがみられ、握り部を作り出している。表裏面および側面の一部は磨面をなす。	3地区 P－33 Ⅱ層
第42図 図版37	7	分類不可	破	砂岩	長 11.3 幅 9.3 厚 (4.9)	重 (670)	破損品のため、本来の礫形態は不明である。下端部および両側面に磨面を有す。表面の下端部よりに軽微な敲打痕がみられ、中央部では浅いくぼみを形成する。	8地区 い－19 Ⅳ層上

※（ ）内は残存部の最大値を示す。

６．クガニイシ（第43図１、図版38－１）

本遺跡より１点出土した。両側面は全面に、上辺周辺には疎に敲打痕を有する。側面周縁部においては使用の結果生じた剥離が見受けられる。側面以外は磨面を呈し、特に表裏面は研磨により光沢を有す。クガニイシの外曲部（下端部）は、前後運動により固体を粉末にする磨石の用途を有し、磨面を横走する浅溝は縦に持って石杵として利用する場合の指あてとして、意図的につくりだしたものであることを高宮廣衛氏が指摘している。(註２)このため本標品が外曲部中央に有すくぼみも、敲石として頻繁に使用された痕跡ではなく、指あてとして加工された結果生じたものであることが推測される。

クガニイシは白木原和美氏により、上辺の両側を抉って凸帯をつくりだすA型と、上辺を薄くなるように整形するにとどめてあるB型の２種類に分類されている。(註３)本標品は上辺に凸帯がみられないことから、B型に属すと思われる。

法量は長さ18.2cm、幅10.7cm、厚さ6.3cm、重さ2,220ｇを測る。材質は花崗閃緑岩で、２地区Ⅵ層の出

土である。

7．球状石器（第43図２、図版38－２）

合計３点得られている。そのうち１点は第43図２に示した。全体に打撃による剥離を有し、その上に敲打が加えられている。これらの加工が製作時によるものか、使用の際に生じたものかは判然とせず、機能・用途も不明である。重量は310ｇ、長径6.5cm、短径5.9cmを測る。出土地不明。

8．砥石

砥石はすべて破損品で、７点得られた。その内容は片面使用が５点、両面使用が２点である。各１点ずつを図示し（第43図３、４）、詳細は第19表に示した。

第19表　砥石観察一覧

挿図 図版	番号	分類	残存	長・幅・厚 cm	重量 g	石質	観察事項	出土地
第43図 図版38	3	両面使用	破	長（12.1） 幅　14.1 厚　3.4	重　（760）	砂岩	下端部は破損しているため、本来の形状は判然としない。表裏面ともに研磨面を有する。	８地区 う－22 Ⅳ層上
第43図 図版38	4	片面使用	破	長　26.4 幅（10.3） 厚　4.3	重（1,690）		左側及び下端部が破損しているため、形状は判然としない。表面のみ研磨面を有し、裏面は自然面のままである。	３地区、ｵ-9 Ⅳ層 テストトレンチ

※（　）内の数値は残存部の最大値を示す。

9．有孔製品

人工的に穿孔されている石を有孔製品とした。完形７点、破損品１点の計８点が得られ、そのうち２点を図示した（第43図５、６）。詳細は第20表に示した。

第20表　有孔製品観察一覧

挿図 図版	番号	残存	長・幅・厚 cm	重量 g	孔径	石質	観察事項	出土地
第43図 図版38	5	完	長　4.3 幅　5.1 厚　1.2	重 50	縦　横 0.7×0.8		全体的に磨耗しており、平面観は円形を呈する。孔は表から穿たれている。また、ヒモずれ痕は判然としない。	７地区 い－30 Ⅴ層上
第43図 図版38	6	完	長　8.2 幅　9.8 厚　3.2	重 370	0.9 ×0.9 表 0.7 ×1.5 裏	凝灰岩	自然石をそのまま利用している。孔は表裏面から穿ち素材の内部にある空洞部に貫通するものである。また、ヒモずれ痕は判然としない。側面は全体的に敲打痕やスレが見られ、特に下部周辺で多い。	６地区 Ｗ－35 Ⅴ層

10．石皿

石皿は41点得られ、その内訳は完形９点、破損品32点である。内訳は片面使用28点、両面使用13点である。各１点ずつを図示し（第44図１、２）、詳細は第21表に示した。

第21表　石皿観察一覧

挿図 図版	番号	分類	残存	長・幅・厚 cm	重量 kg	石質	観察事項	出土地
第44図 図版39	1	片面使用	完	長 38.4 幅 32.3 厚　9.0	重 18.0		表面のみ敲打による使用痕がみられる。使用面は２面あり、下端部で最も深い凹面を呈する。	７地区 あ－34 Ⅳ層最下部
第44図 図版39	2	両面使用	完	長 90.8 幅 43.2 厚 11.8	＊ 計測不可	砂岩	移動するのに困難な非常に大型の石皿である。表面全体に敲打による使用痕がみられ、下端及び上端近くは特に凹面を呈する。裏面はすりによる使用痕がみられ、上端近くでは側面に向かって傾斜し、下端近くは僅かに凹面を呈する。左側面には剥離と擦り切り痕らしきものが見られる。また、点線は砂の付着の範囲を示している。	地区・グリット不明 Ⅳ層

小　結

石器は、沖縄後期遺跡に普遍的にみられる敲石・磨石類などが主体を占める。一方、報告例の少ない磨製石鏃や奄美諸島にもみられるクガニイシといった他の地域との交流を示唆する興味深い資料も得られた。石器の種類は、本遺跡と類似する土器組成の宇堅貝塚(註4)、アカジャンガー貝塚(註4)、具志原貝塚(註5)、伊江島ナガラ原西貝塚(註6)などと比較してもバラエティーに富んでいる。

今回出土した磨製石鏃は成川式土器と伴出しており、弥生期の所産と想定できる。沖縄諸島での磨製石鏃の出土はこれまでに3例(註7)あり、時期が確定されているのは具志堅貝塚(註7c)の1例のみである。これは無茎鏃の資料であり、山ノ口式土器と伴出していることから弥生中期と想定されている。本遺跡の無茎鏃と形態を比較すると、抉りの有無で異なる。また、本遺跡の無茎鏃と同じタイプと見られるものに、種子島下剝峯遺跡(註8)の資料がある。こちらは扁平無茎の平基の磨製石鏃で弥生中期の土器と共伴するもので時期的にも本遺跡と符合するものである。奄美諸島における磨製石鏃の報告では、破損品のため茎の有無が不明な宇宿港遺跡(註9)及びあやまる第2貝塚(註10)の資料を除いた3例(註11)が無茎鏃である。サウチ遺跡(註11a)の資料は、時期が弥生前期後半～中期中葉と想定され本遺跡と時期的に符合するものの、その形態は異なる。また、本遺跡の有茎鏃のタイプは沖縄・奄美諸島のこれまでの資料とは異なるものであり、時期が想定されたことからも注目される。

クガニイシ（B型）は、沖縄諸島においては野国海岸および読谷村楚辺(註2)、アカジャンガー遺跡(註12)、清水貝塚(註13)、北原貝塚(註14)などで得られている。なかでも楚辺採集のものは図面上でみる限り、形態的に最も本標品に近い。一方B型に比べてA型は報告例が少なく、高嶺遺跡(註15)の他、実測図から判断できるものとして渡喜仁浜原貝塚(註16)があげられる。奄美諸島においてはA型の出土例が多く、兼久式土器（後期後半）を主体とする長浜金久遺跡(註17)からは、クガニイシ（A型）の他に敲石・磨石類に相当する石器と球状石器が出土している。兼久式土器は本遺跡からも得られており、タイプは異なるが同様にクガニイシを出土する点で注目される。石質の花崗閃緑岩は、奄美大島や渡名喜島、石垣島など、沖縄本島以外から採取可能な石材である。しかし石垣島や渡名喜島からはクガニイシの報告がまだなく、よって本遺跡出土のクガニイシは奄美諸島から持ち込まれた可能性もある。このような周辺地域との交流は、石斧や球状石器の石質からも窺える。

石斧については輝緑岩が主体を占め、その他にも石英ヒン岩、角閃石安山岩などが活用されている。上記の石質は石斧転用品の資料もあることから、貴重な素材であったことが推察される。また、球状石器では角閃岩などが用いられており、これらの石材はいずれも遺跡周辺からは採取不可能であるため、当時の交易や行動範囲を示す貴重な資料といえる。

註

註1．国分直一『南島先史時代の研究』　考古民俗叢書〈10〉慶友社　1972年

註2．高宮廣衛「野国海岸発見の石器について」『沖大論叢』　第一巻一号　1960年

註3．白木原和美「クガニイシ」『法文論叢』　第四十一号　熊本大学法文学会発行　1978年

註4．金武正紀・他『宇堅貝塚群・アカジャンガー貝塚』　沖縄県具志川市教育委員会　1980年

註5．友寄英一郎・高宮廣衛他『伊江島具志原貝塚』　沖縄県伊江村教育委員会　1978年

註6．名嘉真武夫・安里嗣淳他『伊江島ナガラ原西貝塚』　沖縄県伊江村教育委員会　1979年

註7a．岸本義彦・他『野国』　沖縄県文化財調査報告書第57集　沖縄県教育委員会　1984年

b．大城慧・他『牧港貝塚・真久原貝塚』　沖縄県文化財調査報告書第65集　沖縄県教育委員会　1985年

c．岸本義彦・他『具志堅貝塚』　本部町文化財調査報告書第3集　本部町教育委員会　1986年

註8．新東晃一・立神次郎他『県営ほ場整備事業（現和地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査－赤木遺跡、下剝峯遺跡、大四郎遺跡、

内和遺跡－』　西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書　鹿児島県西之表市教育委員会　1978年

註９．白木原和美・他『宇宿港遺跡』　研究室活動報告10　熊本大学文学部考古学研究室　1981年

註10．中山清美・他『あやまる第２貝塚』　笠利町文化財報告No.７　笠利町教育委員会　1984年

註11a．河口貞徳・他「サウチ遺跡」『鹿児島考古』　第12号　鹿児島県考古学会　1978年

b．白木原和美・中山清美他『手広遺跡』　竜郷町教育委員会、奄美考古学会　1984年

c．白木原和美・他『サモト遺跡(1)』　住用村文化財調査報告No.１　住用村教育委員会　1983年

註12．高宮廣衛「具志川村アカジャンガー遺跡調査概報」『文化財要覧』　琉球政府文化財保護委員会　1960年度版

註13．盛本勲・他『清水貝塚』　具志川村文化財調査報告書第１集　具志川村教育委員会　1989年

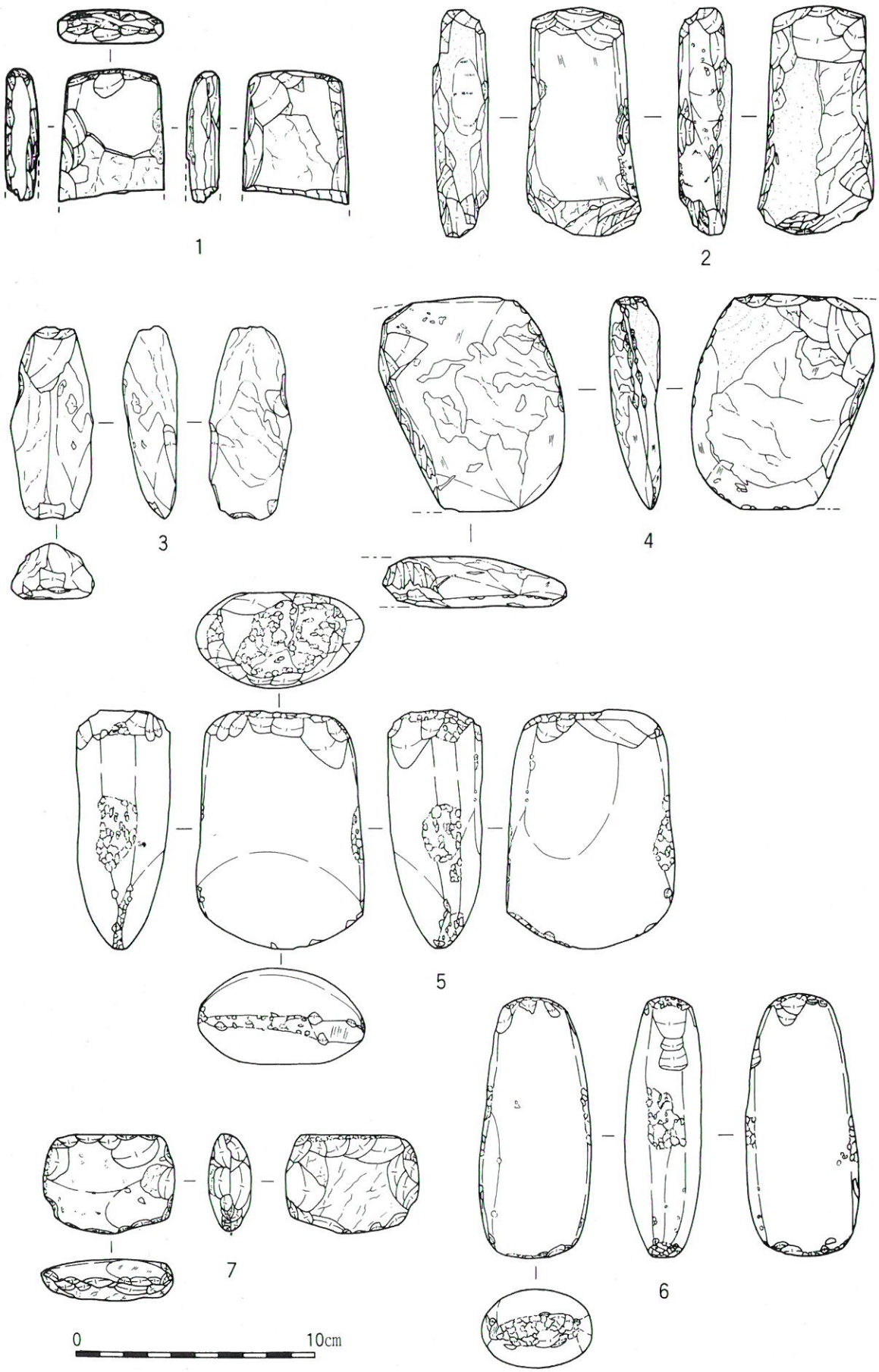
註14．盛本勲・他『北原貝塚』　沖縄県文化財調査報告書第123集　沖縄県教育委員会　1995年

註15．金武正紀・金城亀信他『宮城島遺跡分布調査報告』　沖縄県文化財調査報告書第92集　沖縄県教育委員会　1989年

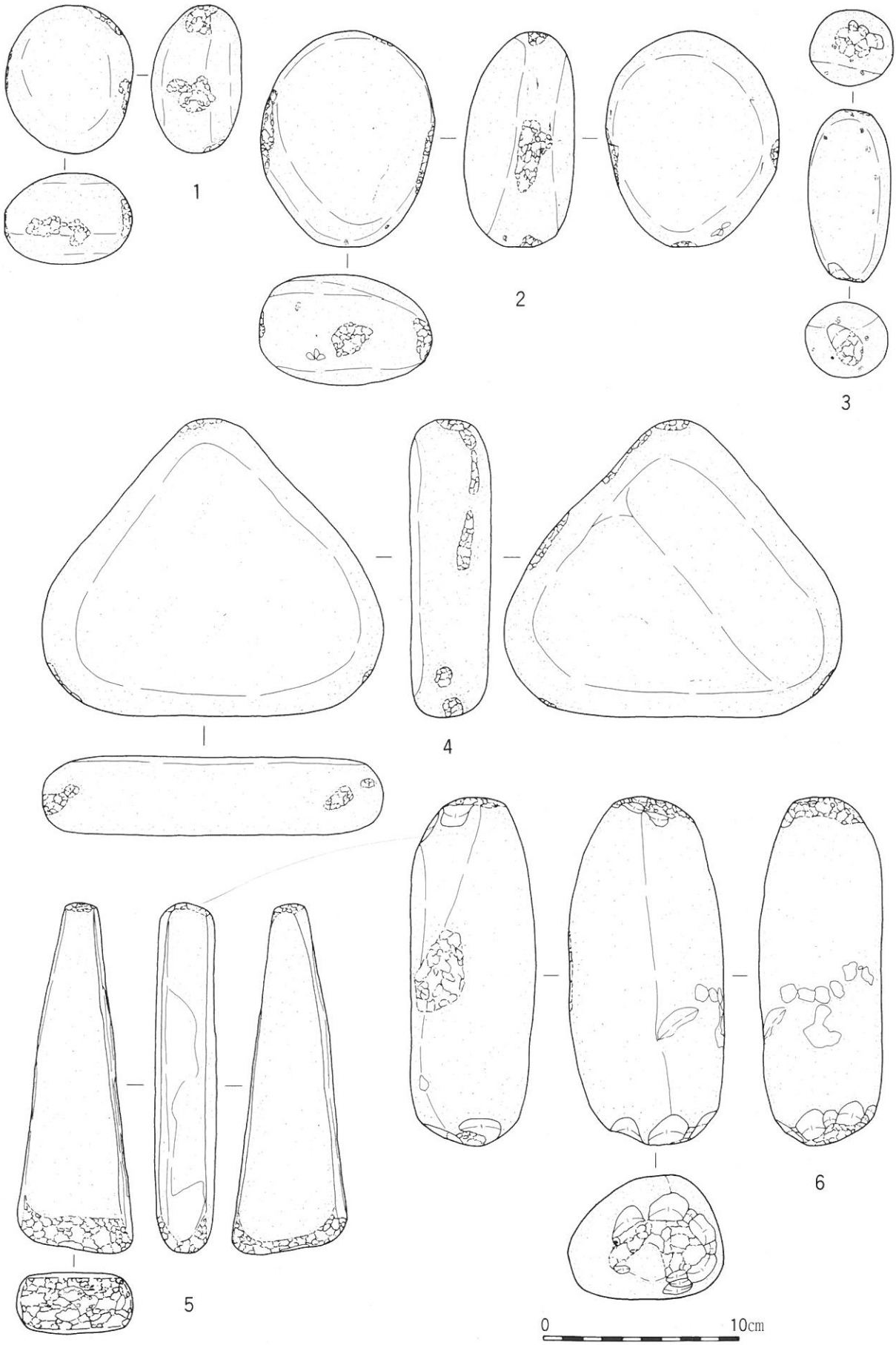
註16．新田重清・他『渡喜仁浜原貝塚』　今帰仁村文化財調査報告　第１集　今帰仁村教育委員会　1977年

註17．弥栄久志・他『長浜金久遺跡』　鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(32)　鹿児島県教育委員会　1985年

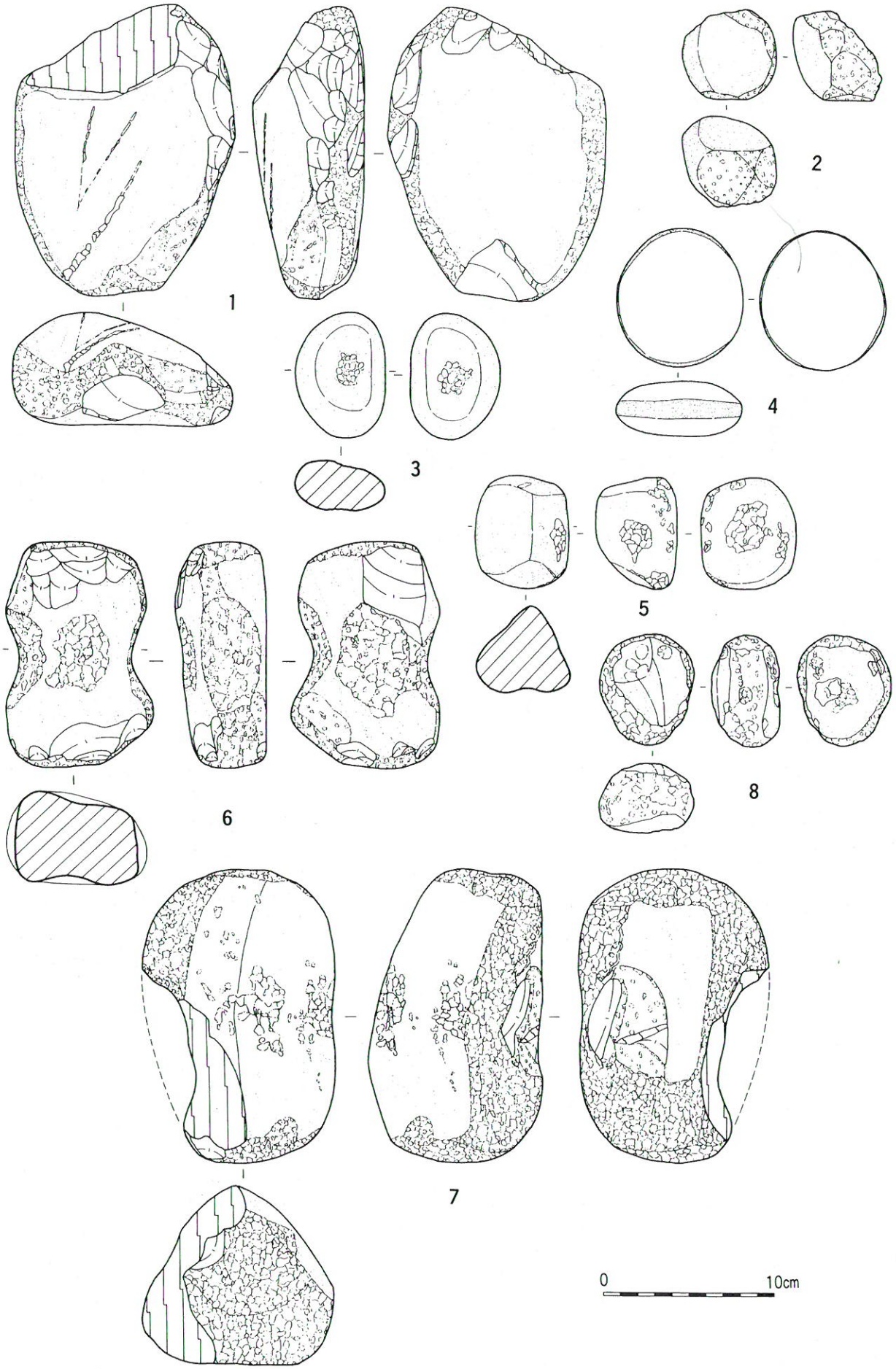
第36図　石斧①



第37図　石斧②　石斧（1・4）、石斧未製品（2）、局部磨製石斧（3）、石斧転用品（5～7）

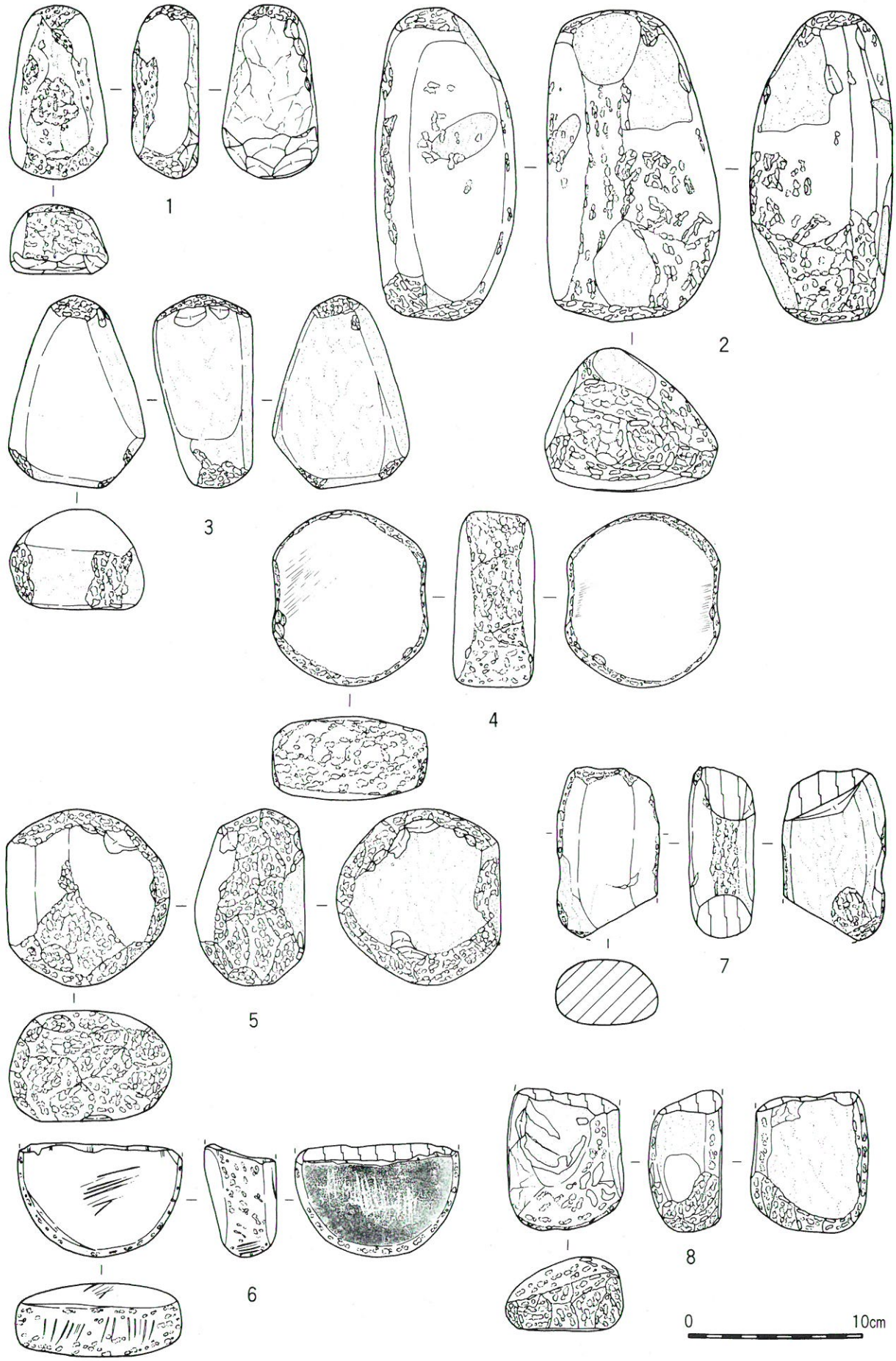


第38図　敲石・磨石類①　A類



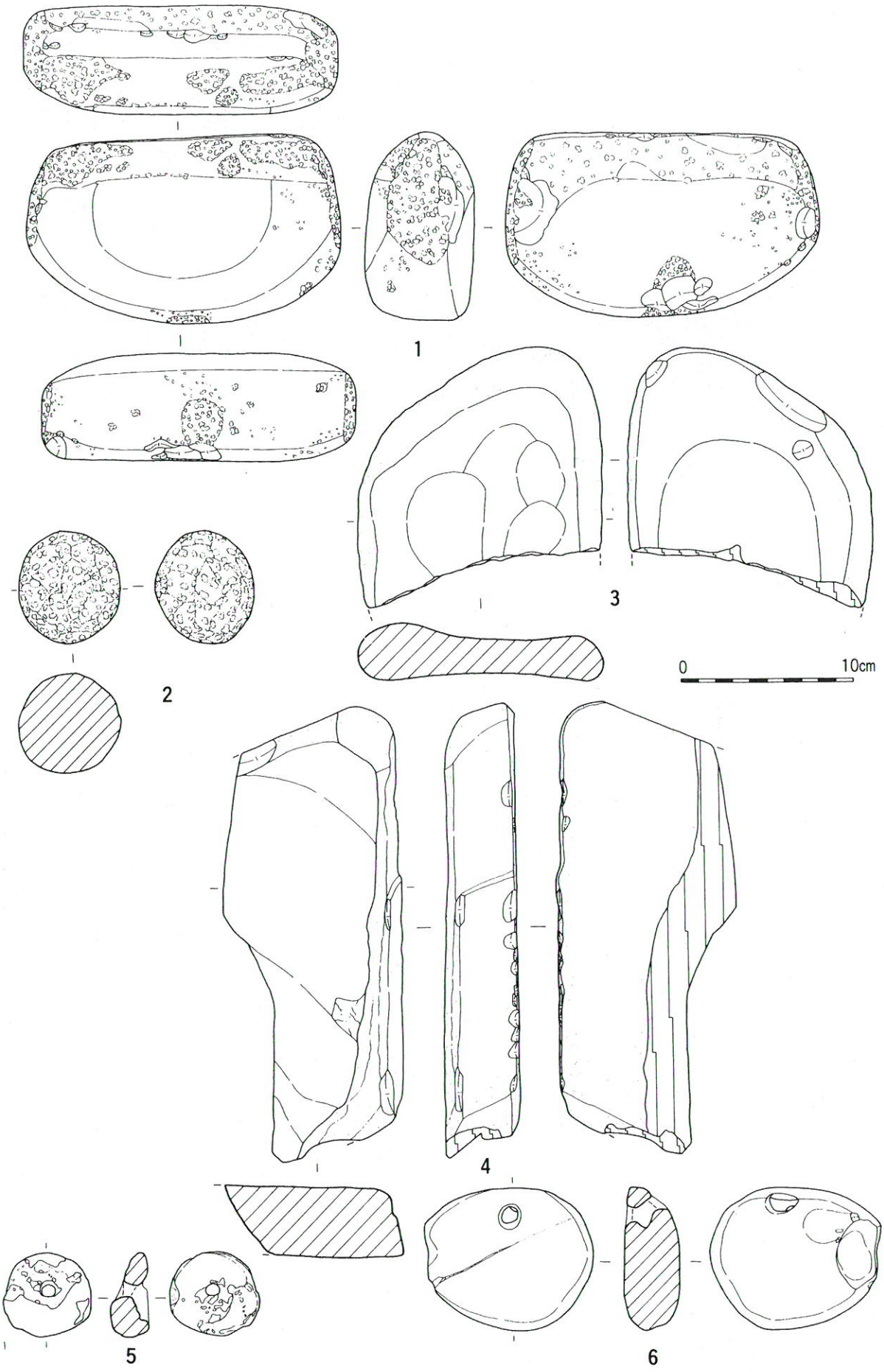
第39図　敲石・磨石類②　A類（1・2）、B類（3）、C類（4）、D類（5～8）

第40図　敲石・磨石類③　D類（1）、E類（2～7）

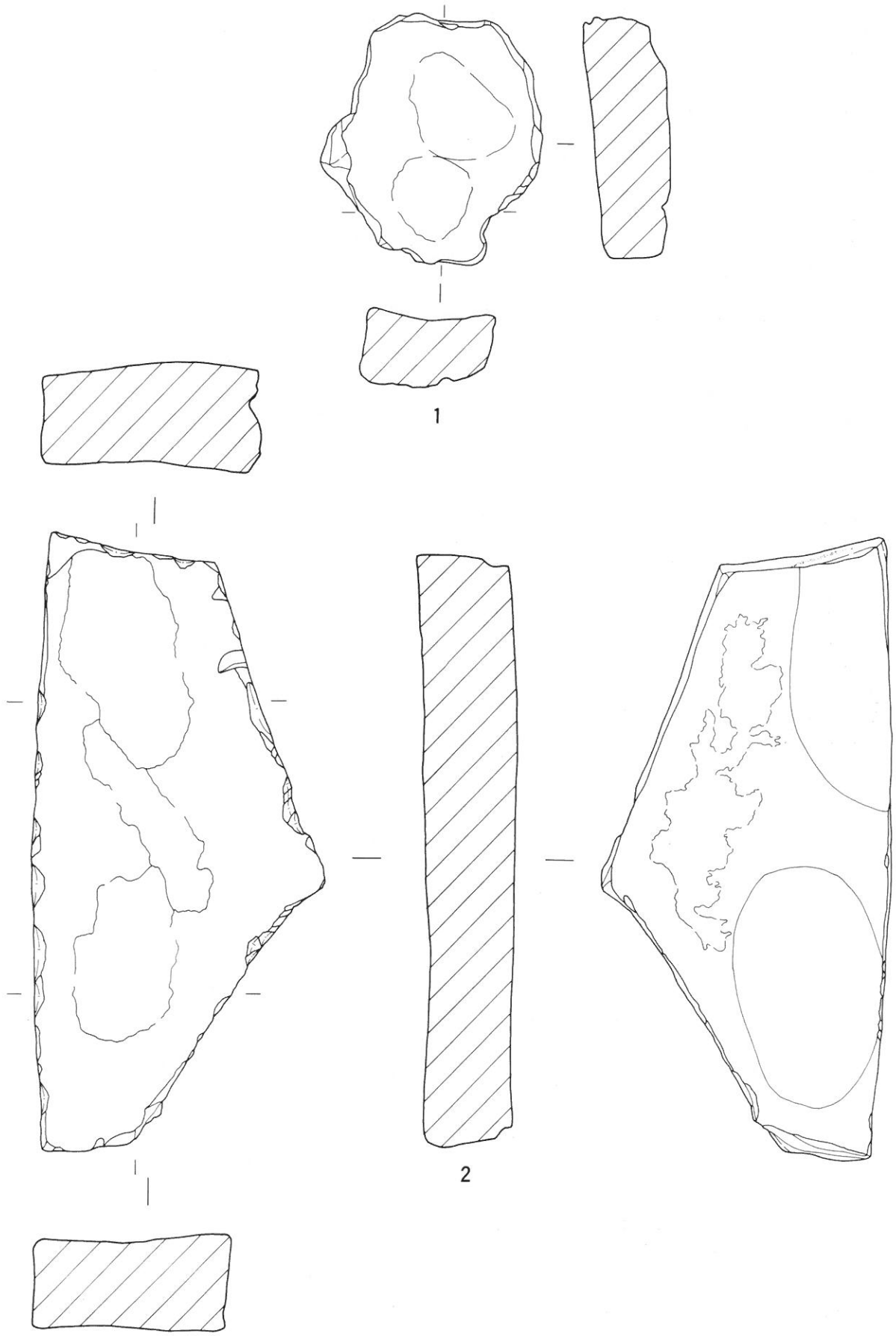


第41図　敲石・磨石類④　E類

第42図　敲石・磨石類⑤　E類（1）、F類（2～7）



第43図　クガニイシ（1）、球状石器（2）、砥石（3・4）、有孔製品（5・6）



第44図　石皿

第３節　貝製品

本遺跡より出土した貝製品は計1108点余である。発掘区の調査の深度や複合遺跡の性格も関連しているが、８区画の内で最も７、８地区に多く検出されている。製品を用途別に実用品と装飾品に大別すると前者が８種1019点、後者が10種88点、不明１点となり、実用品が多く得られている。その内、特に二枚貝有孔製品、貝皿、貝刃が多く認められる。一方、装飾品では貝輪、貝製小玉が多いのが特徴的である。

第22表　貝製品出土状況

種類		出土地	1地区						2地区			3地区						4地区						5地区						6地区			7地区						8地区						地区不明				合計
			I	II	IIc	IV	V	不明	I	IV	V	I	II	IV	V	不明	I	II	IIc	IV	V	不明	II	IIc	IV	V	不明	I	IV	V	不明	I	II	IV	V	不明	I	IIc	IV	V	不明	I	II	IV	不明	
実用品	ホラガイ製品	ホラガイ								1														1					1				1	1												5
		イトマキボラ				1																											1													2
		ヤツシロガイ																																1												1
		その他																															1	1												2
	貝皿	ヒレジャコ		1	10														2	1	1			3	1					9	3			29	29	2			5	1	1			6		104
		ヒメジャコ																																											3		3
		シラナミ			1																									1				1												3
		シャコガイ																																	3										1		4
	貝匙	ヤコウガイ																						2		1								1	1												5
		タカラガイ																												1																	1
		ホラガイ		1																										1				1												3
		ラクダガイ																																	1												1
		メンガイ																																1												1
	貝刃	シレナシジミ																												3				1	5												9
		チョウセンハマグリ			4						1								2					7	7	1				5	1	1	1	1		1						1	1			34
		モチアサキザラガイ																																1												1
	貝包丁様製品	クロチョウガイ																	2	3				5	6					1	2			5	4	1			1	1						31
		ミドリアオリガイ																						1						3				3	5										1	13
	螺蓋製貝斧												1																	1				3												5
	スイジガイ製利器		1										1						2					2						1																7
	二枚貝有孔製品	リュウキュウサルボウ			2					1	1	3							2	1	1			16	2	1				70	1		14	3	127	46	5	1		19	2			1	5		324
		メンガイ			5									1		1	1		6			1	1	11	6			1	16			3	13	24	1	3	2		19	2				4		121
		ヒメジャコ			3							2		1					8					14	2			1	49	7		8	10	94	30	11	1		23	1			3	8		276
		シラナミ													1				1										1					2												5
		ハイガイ																												1				1												2
		チヂラガイ																																	1												1
		ソメワケグリ																																2												2
		リュウキュウマスオガイ																												1				2	2											5
		リュウキュウザルガイ			1										1			1						1			1					1	1	1	5	1			3					2		19
		ウチワガイ																																						1					1		2
		カワラガイ																						2						7	1		2		6	1											19
		イタヤガイ																																	1												1
		ケイトウガイ?																																						1							1
		チョウセンハマグリ																												1																	1
		シレナシジミ																																						1							1
		ヒレジャコ			1																																										1
		リュウキュウカガイ																																						1							1
		ホラガイ																							1					1																	2
装飾品	巻貝有孔製品	フデガイ科																																													0
		イモガイ科																												1																	1
		タカラガイ科																																						1							1
		マクラガイ科																																		1											1
	貝製小玉	イモガイ科		1	2								1						1					1					1	1				2					1							11
		マガキガイ						1											2					1					5		1			1		2		1								14
		マノガイ科	1																																											1
	半輪状製品	ウラシマガイ																																													0
		テングガイ																												1																1	2
	貝輪	オオベッコウガサガイ												1																																	2
		メンガイ																																1													1
		ジャコガイ																																1												1
		オオツタノハ Ia類																																4	1												5
		オオツタノハ Ib類																																1													1
		オオツタノハ II類																												2				1													3
		オオツタノハ III類																												1				2	2												5
		オオツタノハ IV類																																	1												1
		ゴホウラ I型 A																	1											1	2				1												5
		ゴホウラ I型 B																																				1									1
		ゴホウラ I型 C													1																																	1
		ゴホウラ I型 D																																				1									1
		ゴホウラ I型 E																						1						1						1											3
		ゴホウラ II型 A																																		2		1									4
		ゴホウラ II型 C																													1																1
		ゴホウラ II型 D													1					1																												2
		ゴホウラ II型 F																						1																							1
		イモガイ I類																						2							2																4
		イモガイ II類																						1						1																	2
		イモガイ III類 a																													1																1
		イモガイ III類 b																													1																1
		イモガイ III類 c																													1																1
	符状製品	イモガイ a																																													0
		イモガイ b																																														0
		イモガイ c																																															0
		サラサバテイラ																												1																	1
		その他																																														0
	円盤状製品	イモガイ																																														1
	有孔製品	イモガイ																													1																	1
	垂飾品	ヒメゴホウラ					1																																									1
	貝札	イモガイ I型																												1																	1
		イモガイ II型 A																												1																	1
		イモガイ II型 B																												1					1												2
		イモガイ III型																													1																1
	鉤状製品	ゴホウラ																													1																	1
その他	用途不明	イモガイ																																											1		1
合計			2	3	29	2	1		0	2	2	5	3	2	4	2	1	0	1	27	8	2	1	1	71	26	2	2	190	30	3	28	28	326	146	28	4	1	75	7	2	1	4	1	35	1108

1．利器

イ．貝刃

二枚貝の腹縁に敲打ないし押圧剥離を加えて、細かい鋸歯状の刃を付した製品で、総数50点と比較的まとまった量がえられた。貝殻の種類はチョウセンハマグリ（24点）、シレナシジミ（５点）、チョウセンハマグリ（13点）、ヌノメガイ（１点）、モチヅキザラガイ（１点）、不明貝（６点）などの５種類からなる。

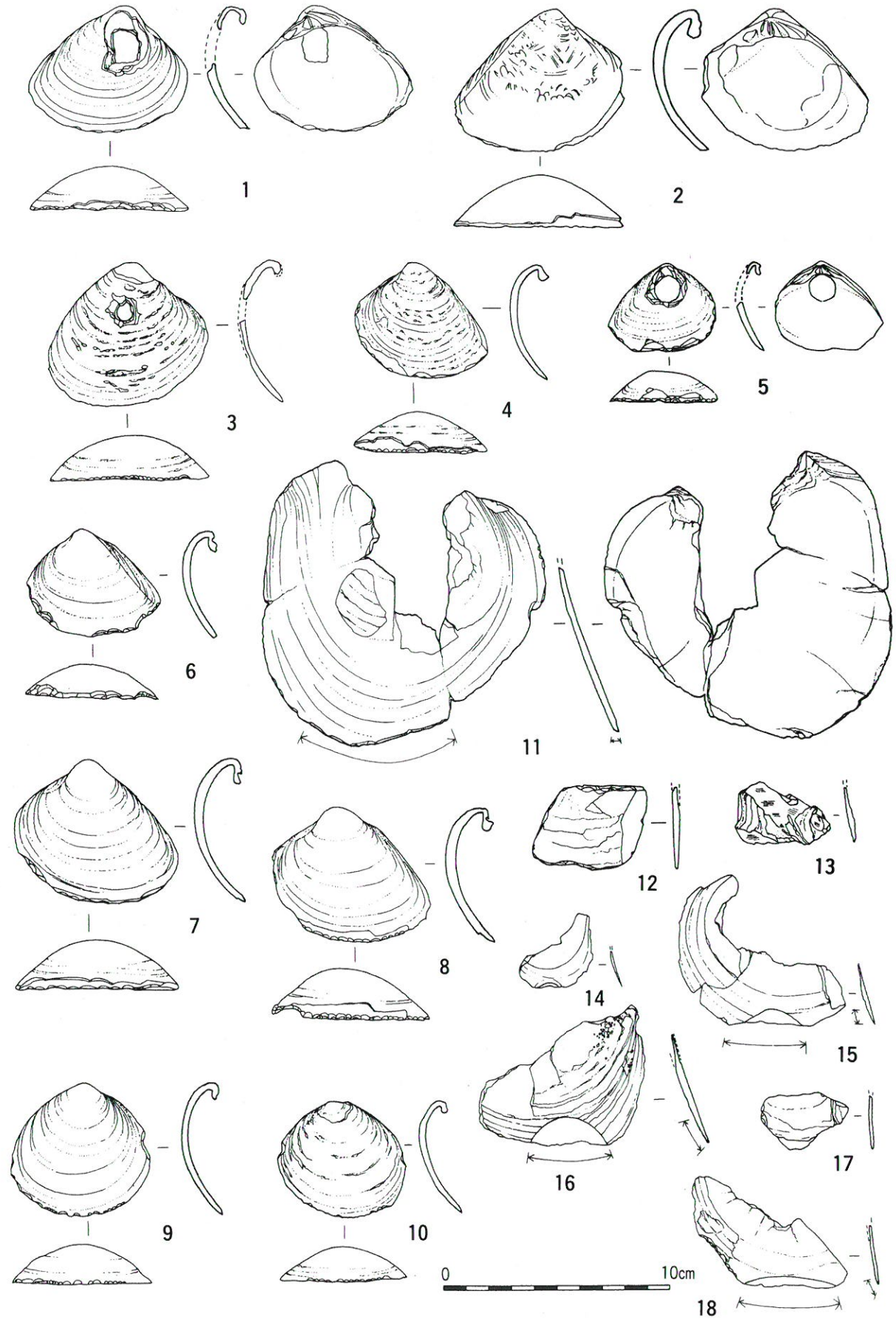
またその他の人為的な加工した点では、殻の中央に孔を穿ったチョウセンハマグリの製品２点がある。これは後述の貝包丁様製品にもみられる仕様で利器として共通点が認められる。貝刃は量的には多いため代表的な製品を図化し、残りは表化した。

参考文献

後藤勝彦　仙台湾沿岸諸貝塚出土の貝刃　東北歴史資料館研究紀要　第６巻　昭和55年

第23表　貝刃観察一覧　　単位：mm/g

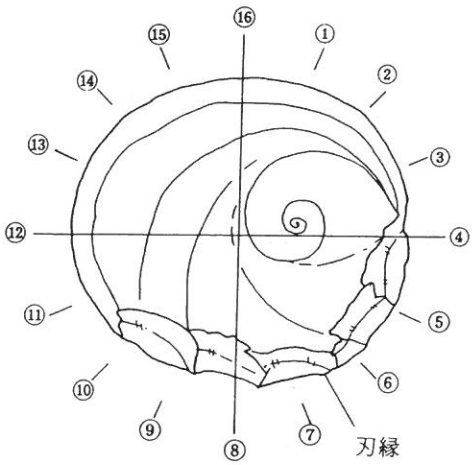
第図	No.	計no	貝種	殻長	殻高	重量	版	グリット	層	層備考
	1	61	チョウセンハマグリ	7.1	5.6	26.2	2	F-36	V	
	2	214		7.5	6.3	51.9	5	W-22	V	上面
	3	413	シレナシジミ	7.2	6.3	29	7	あ～え34～36	V	灰集中土壙
	4	80		6.0	5.15	20.3	5	S-22	V	
	5	83		4.9	4.0	10.2		無し	氾	
	6	64	チョウセンハマグリ	6.0	4.75	17.9	5	V-17	V	上面
	7	341		7.3	6.4	36.7	1	D-11	Ⅱc	下部
	8	68		7.2	6.0	37.1	5	V-22	Ⅳ	上面
	9	65	シレナシジミ	6.3	5.9	22.2	6	V-29	Ⅳ	pit7
	10			6.3	5.9	21	6	V-29	Ⅳ	pit7
		81				19.9		無し	Ⅳ	
		70		5.6	5.3	19.6		F-15	Ⅱ	pit10
		76		7.0	6.3	43	1	F-16	c	pit3
		73		7.0	5.6	30.1		G-16		
		346			5.16	21.8	4	Q-14	Ⅳ	
		350		*	*	*		R-15		
				6.0	5.2	20		S-22	V	
		323		6.6	5.2	24.7		T-19	Ⅳ	下面
				6.0	4.75	18		V-17	V	上面
				7.2	6.0	37		V-22		上面
第		74	チョウセンハマグリ	5.9	4.7	16.6		V-23	Ⅳ	
45		215				19.7	5	W-22		
図		78		7.8	6.3	37.1		W-22	V	上面
				7.5	6.3	51		W-22		上面
		79		5.0	4.7	16.9		W-22	不明	上面
		69		8.0	6.2	46.6		X-22	Ⅳ	下面
		71		7.2	6.2	38.9		Y-18		
		325				10.2		T-24	氾	南北トレンチ
		77		6.9	5.6	29.9	6	T-35	V	
		72		7.5	6.3	38.2		V-34	Ⅳ	
		324		6.4	5.2	27.7		X-36		最下部
		405	シレナシジミ	5.7	5.15	16	6	Y-33	Ⅳ	
		75		7.4	5.9	43		Y-33		
		348	チョウセンハマグリ	6.85	5.65	36.6	6	キ-6	Ⅳ	
		349		*	*	*		キ-6		
				6.22	5.83	23.1	7	Z-27	Ⅳ	
		82	モチヅキザラガイ	6.2	5.85	23.1	7	Z-27	Ⅳ	
		355	チョウセンハマグリ	*	*	*	7	Z-35	不明	
		66		8.95	7.55	59.1		あ～え33～36		土坑
		63		9.1	8.0	53.9		あ～え34～36	V	灰集中土壙
		351	シレナシジミ	5.3	4.9	19.9	7	あ～え34～36		灰集中土壙
		67		10.3	9.1	87		い-28		
		62		7.6	6.7	32.3		う-35	Ⅳ	最下
		257	モチヅキザラガイ	5.9	4.7	17.4	7	無し	Ⅱ	T.T.7



第45図　貝刃（1～10）、貝包丁様製品（11～18）

ロ．螺蓋製貝斧

第48図３～５はヤコウガイの蓋を素材にした製品で、本項目で取り上げた名称以外に貝斧、貝刃、螺蓋製敲打器などと呼称されているものである。成形は当初から縁部の薄い箇所が選ばれ敲打による付刃が認められる。検出された資料は５点と極めて微量で、図化したものは３点である。説明の便宜上、腹縁の付刃された位置についてはシヌグ堂遺跡調査報告に準じてある。



第46図　附刃範囲の模式

「シヌグ堂遺跡報告書」より

参考文献

1．三島格「螺蓋製貝斧」『賀川光夫先生還暦記念論集』　1982年

2．沖縄県教育委員会「シヌグ堂遺跡調査報告」　沖縄県文化財調査報告書第67集　1985年

第24表　螺蓋製貝斧観察一覧

単位：mm/g

図	番号	縦	横	重	附刃の範囲	加工状況	地区	グリット	層	層備考
第48図	3	8.35	9.1	235	④～⑪	５点の資料中最も貝そのものに光沢がある。	7	え-31	Ⅳ	
	4	6.7	7.35	112	④～⑪	⑭～⑮の範囲は剥離のみ。	6	Z-34	Ⅳ	
	5	5.8	6.4	81	⑤～⑩	小型で、器面は風化が進んでいる。	7	Z-30	Ⅳ	
	図なし	7.34	7.92	152	⑥～⑦⑨～⑩	⑦～⑨は附刃なし。①～②⑫～⑭は剥離のみ	3	R-26	Ⅱ	
		7.44	8.24	154	④～⑩	⑬～⑭の範囲は剥離のみ。	7	う-27	Ⅳ	下

ハ．貝包丁様製品

第45図11～18、第47図は貝の薄い二枚貝の腹縁を研磨し附刃した製品である。貝種および製品の内訳はクロチョウガイ（23点）とその破片（10点）、シュモクアオリガイ（１点）、ミドリアオリガイ（14点）とその破片（５点）の総数53点と貝製品では比較的多く出土している。付刃の状況により、a刃部が鋭く鋭利な薄い刃をもつものと、b刃部全体が厚く、角度が約30度をなしその研ぎ面がほぼ平面を有するもの、c刃部に細かい刻みがあるものがある。器形状の分類は既報告の盛本・比嘉分類[註1]に当面準じ、該当しない新たな資料については項目を設定した。結果次のようになる。当該製品の付刃や有孔加工について、部分的に貝刃や貝製掻器との共通性が認められ注目される。

A．有孔タイプ　円形の粗孔を有するもの。　第47図１～３　３点　AⅢa…１　AⅢ…２　A…３

B．無孔タイプ

Ⅰ　扁平隅丸方形のもの。　得られていない。

Ⅱ　刃部と頭部のみ整形、加工されたもの。　第47図12.13.16　第45図４．６．14.15.17

Ⅲ　刃部のみ加工付刃したもの。　第47図５．７～13.19

その他　上記Ⅰ以外の不定形のもの。　第47図20～26

C．不明　付刃されていない製品。　得られていない。

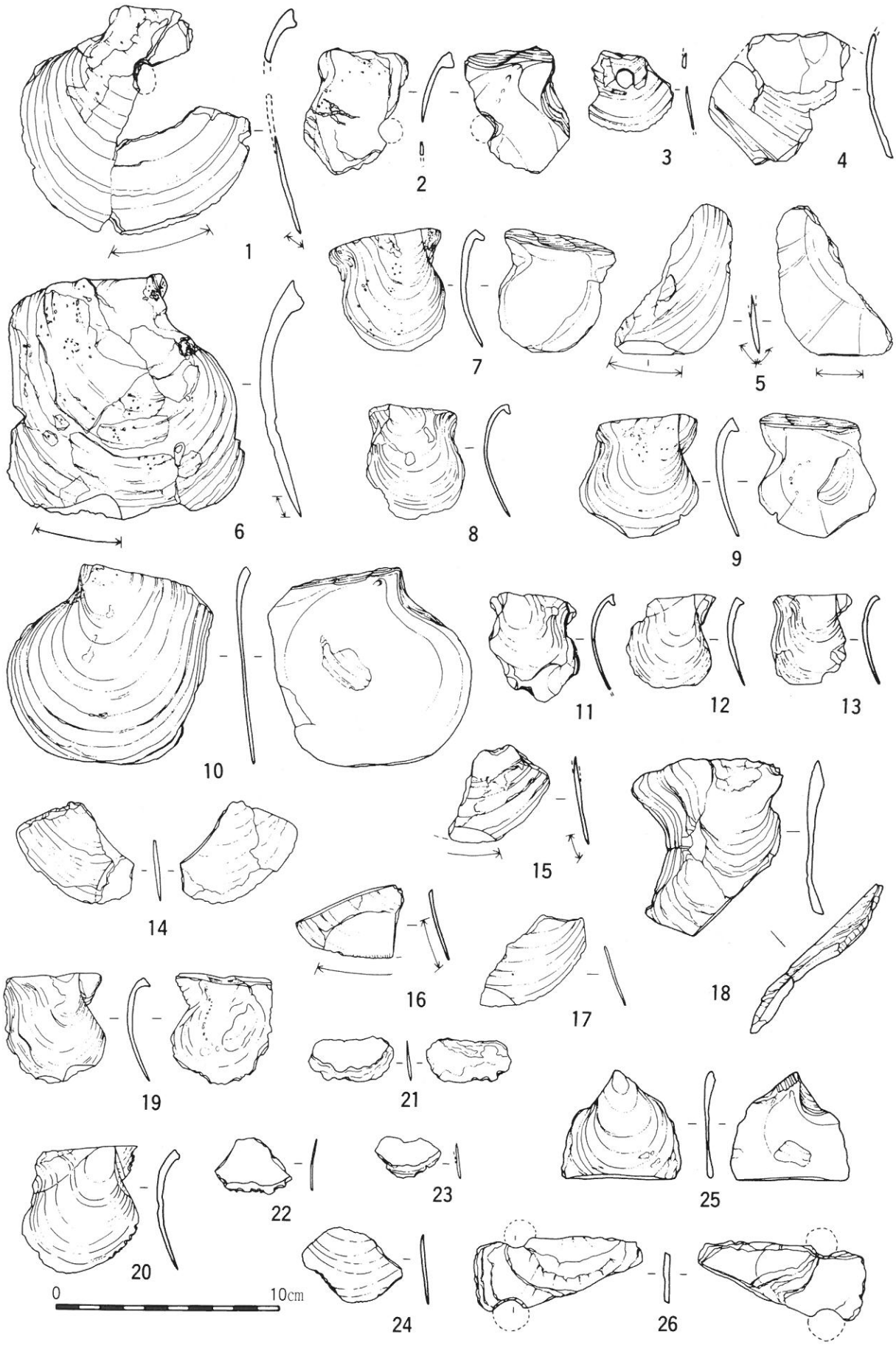
註

註１．盛本勲・比嘉優子「貝包丁様製品」『南島考古』　第14号　1994年

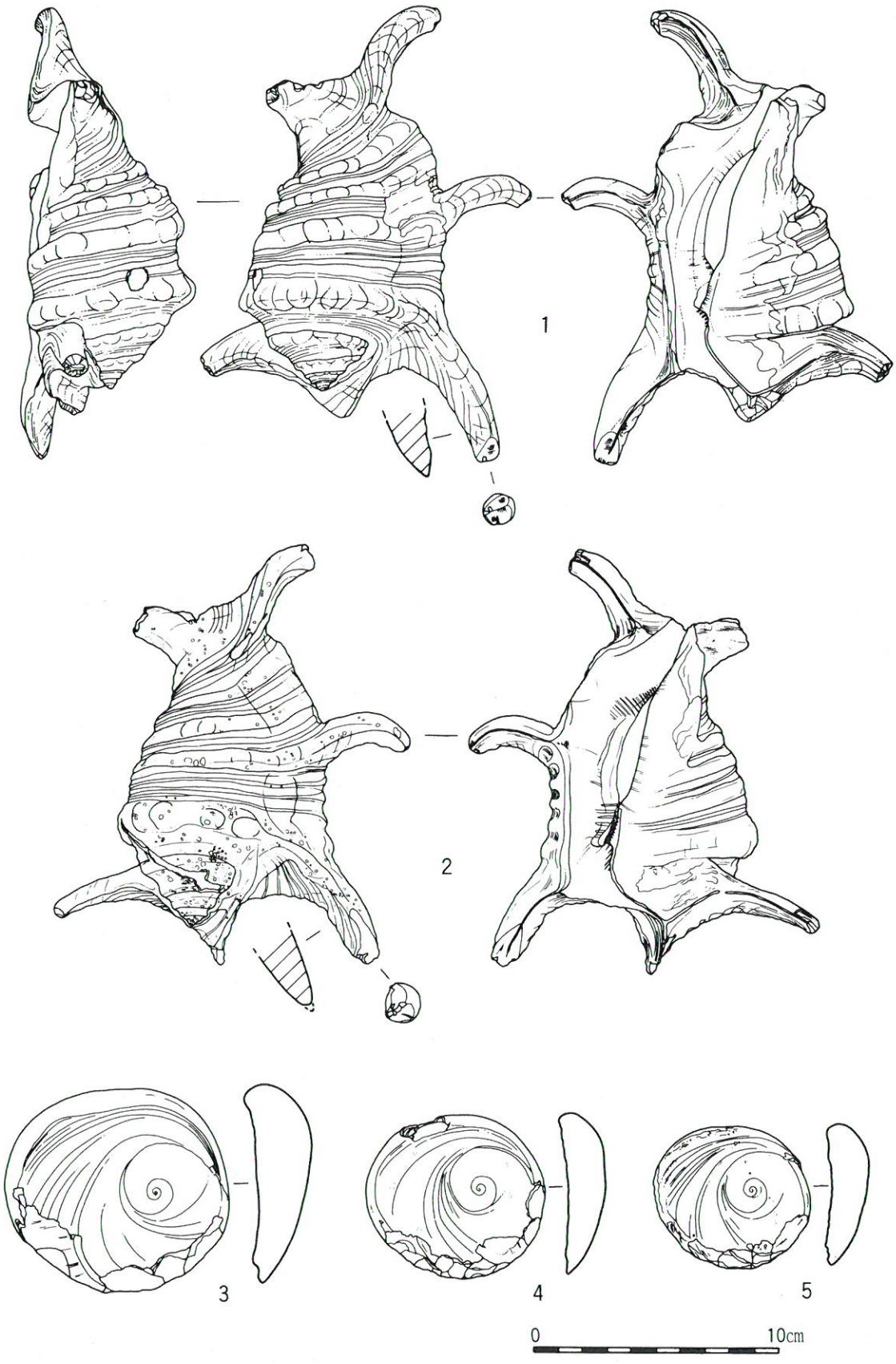
註２．神澤勇一「貝包丁の再検討」『神奈川県立博物館研究紀要』　第９号　1981年

第25表　貝包丁様製品観察一覧　　単位：㎜/g

第図	No.	計no	貝種	殻長	殻高	重量	版	グリット	層	層備考
	11		ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	12.7	12.6	73		平ﾄｳ		
	12	167		5.1	3.7	8.2	7	う-35	Ⅳ	最下
第	13	126	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	4.2	2.7	4		無し	無し	pit1
45	14	137		3.3	3.3	1.4	6	V-32	Ⅳ	
	15	146		7.5	6.7	8.5	7	あ～え34～36	Ⅴ	灰集中土壙
図	16	138	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	7.5	6.15	15.5	4	O-21	Ⅴ	上面
	17			3.95	2.55	2.5	5	U-22	Ⅴ	上面
	18	163		7.0	4.9	7	4	Q-19	Ⅳ	下面
	1	144		10.2	10.1	36.2	6	Y-34	Ⅴ	pit13
	2			4.75	5.6	18.2	5	X-22	Ⅴ	上面
	3	119	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	3.75	3.65	2.2	7	Z-31	Ⅳ	
	4	169		6.4	5.8	12	5	S-14	Ⅳ	下面
	5	147		5.2	6.7	9.6	7	あ～え34～36	Ⅴ	土壙
	6	158		10.5	10.8	93.6	8	Z-15	Ⅴ	上面
	7	120	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	5.2	5.4	9.9	7	あ～え33～36	Ⅴ	土壙
	8	140		5.3	4.85	8.4	4	R-15	Ⅴ	上面
	9		ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	3.4	2.5	1.3	5	W-21	Ⅴ	上面
	10	153		9.15	8.8	22.2	7	Z-32	Ⅴ	pit13
	11			4.1	4.8	5.3	5	X-22	Ⅴ	上面
	12	123	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	3.9	4.1	5.1	7	う～え33	Ⅴ	土壙
	13	125		3.55	3.95	4.1	7	あ～い33	Ⅴ	
	14	162		5.3	4.5	6	4	Q-19	Ⅳ	下面
	15	166		4.5	4.3	4.4	6	W-33	Ⅳ	
	16	141	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	4.8	3.2	3	4	Q-20	Ⅴ	上面
第	17	150		4.7	4.1	4.1	7	あ-33	Ⅳ	
	18			8.8	6.75	32.4	7	え-34	Ⅳ	最下
47	19	131	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	4.6	4.9	7.9	7	Z-31	Ⅴ	上面
	20			5.25	5.8	13.6	5	W-21	Ⅴ	上面
図	21			3.8	2.0	1.8	5	X-22	Ⅳ	下面
	22	143		5.3	5.5	13.9	6	W-31	Ⅴ	下、pit4
	23		ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	2.95	1.8	0.7	5	X-22	Ⅳ	下面
	24			4.5	3.4	3.5	5	X-35	Ⅳ	最下部
	25			4.4	5.1	6.5	7	Z-35	Ⅳ	最下部
	26			7.6	3.4	8.7	5	U-22	Ⅴ	上面
		402	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	6.4	4.9	18.8	5	W-21	Ⅳ	
			ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	2.1	1.95	0.6	5	X-22	Ⅳ	下面
		128		5.25	4.7	11.5	6	X-27	Ⅳ	最下
		121	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	5.3	5.7	12.4	7	Z-34	Ⅳ	最下
		122		4.9	5.5	11.3		あ-35		最下
		160	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	3.6	2.2	1.75	7	あ～え33～36	Ⅴ	
			ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	10.8	9.8	104.	7	あ～え33～36	Ⅴ	土壙
		142	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	4.1	2.1	1.3	7	あ～え34-36	無し	土壙
		409	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘｶﾞｲ	8.9	11.1	163	7	え-28	Ⅳ	最下
		159	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	9.4	10.9	65	8	Z-16	Ⅳ	下面



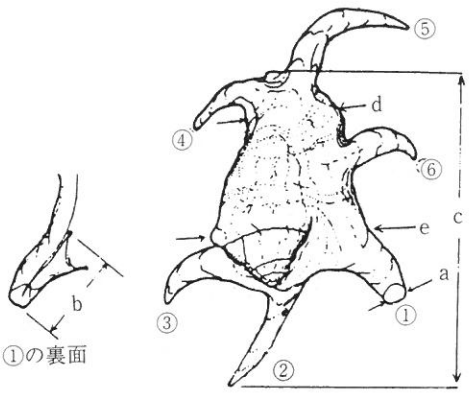
第47図　貝包丁様製品



第48図　スイジガイ製利器（1・2）、螺蓋製貝斧（3～5）

ニ．スイジガイ製利器

第48図１、２は突起の先端に付刃した利器で、製品として確認されたのは７点である。その内３点は付刃がみられ、他３点は付刃部が潰れ刃の有無そのものは確認されないが、その他の残存する突起の遺存状況が意図的になっているものと判断されるものについては製品として解釈し選んだ。特に内１点は突起部が全て欠落してその判断も困難なものもあるが腹部に粗孔が存在することから、とりあえず本項目で報告する。出土層はいずれもⅣ～Ⅴ層に集中する傾向がある。付刃部の分類では平刃型を中心とするものである。(註)



第49図　スイジガイ製利器模式

註

註．上原　静「いわゆる貝製利器について」『南島考古』　第７号1981年

〃　「スイジガイ製利器とその刃こぼれ」　文化課紀要　第２号　『沖縄県教育委員会』　1985年

〃　「続・スイジガイ製利器について」　読谷村歴史民俗資料館紀要　第14号　読谷村教育委員会　1980年

第26表　スイジガイ製利器観察一覧

単位：mm/g

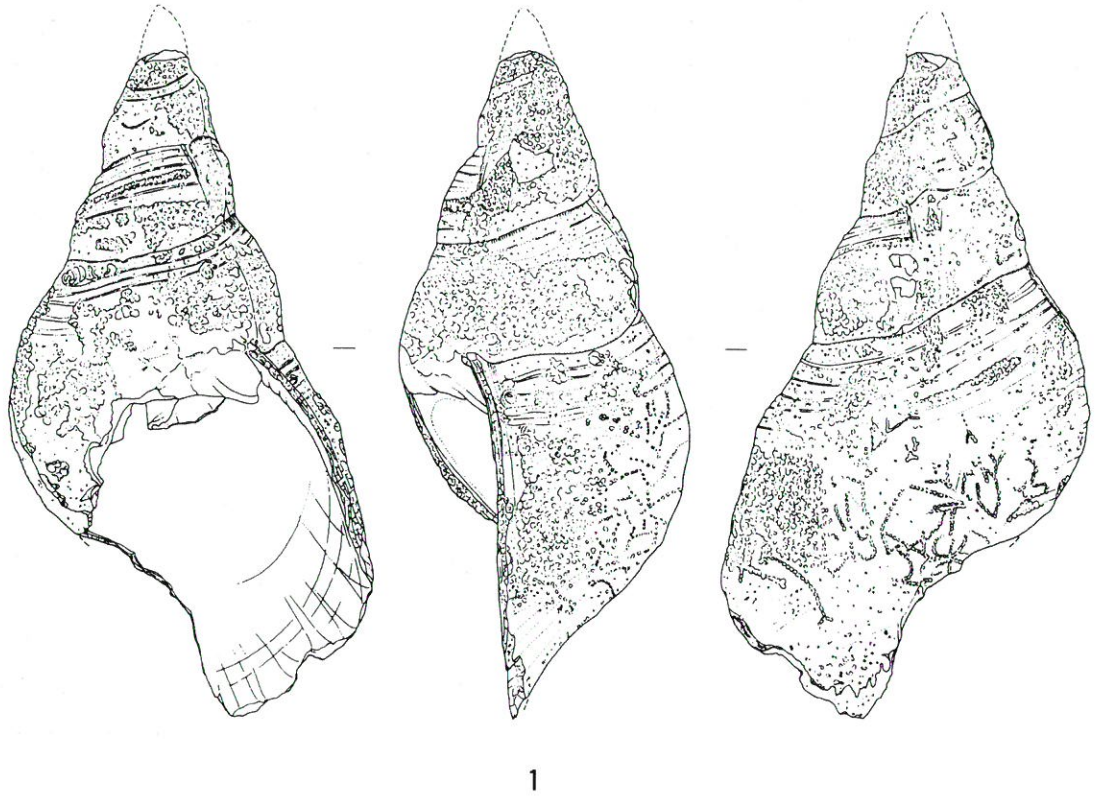
図	番号	①	②	③	④	⑤	⑥	平面形	側面形	体部と刃縁の位置	a	b	c	d	e	重量	状況	地区	グリット	層
48	1	▲	×	△	△	○	○	平刃	両刃	横位置	9.7	4.26	8.79	5.36	13.5	470	体層部に0.9×0.8cmの粗孔あり5、6突起先端のみ欠損。左縁の刃部剥離あり。	6	V-26	Ⅳ
	2	▲	×	○	×	×	○	平刃	両刃	横位置	6.3	3.88	9.01	5.47	13.98	400	体層部の線状の割れは発掘調査時にあやまってキズをつけたものである。	5	X-13	Ⅳ下
	なし	×	×	×	×	△	×						8.55	5.42	13.94	350	①番突起は根元より欠落するがその他の突起の状況が附刃製品と共通しているため取り上げた。腹面に1.5×1.6cmの粗孔有り。	1	F-22	攪乱
		○	×	×	○	△	△	先端破損	両刃	横位置		5.03	10.23	5.61	11.59	340	全体の突起の状況は附刃製品と共通するが、残念ながら附刃部先端を欠損。体層の背面が打割されている。全体に風化が著しい。	3	P-33	Ⅱ C
		△	×	×	×	△	△	①⑤先端破損	両刃	横位置	7.9	5.19	9.69	5.48	13.77	535	①は欠損しているもののポイント状を呈している。⑤は片面研磨の可能性を有しているが風化が著しくあいまいの 状況である。いずれも先端を破損。	4	Q-15	Ⅴ上
		△	×	×	○	△	○	先端破損	両刃	横位置		3.85	8.78	4.73	10.86	320	突起の状況が附刃製品と、共通するため取り上げた。風化が進み器面の保持は悪い。		P-15	
		▲	×	○	×	○	○	平刃orポイント	両刃	横位置	4.7	4.13	9.69	6.79	16.48	710	附刃部は風化が著しく研磨面があいまいになっている。刃部部の左縁を大きく欠落。ポイント様にもなる。	5	V-17	Ⅳ

凡例　▲附刃突起、○完全保存突起、△半欠突起、×欠落突起（１cm前後を残すものも含めた）

２．容器

イ．ホラガイ製品

ホラガイを素材とした製品で、貝殻の利用部位や加工状況により、機能が異なることから、製品にもバリエーションが認められた。以下に分類し報告する。



第50図　ホラガイ製品

第27表　ホラガイ製品観察一覧

単位：㎝／g

図	番号	殻長	殻径	重さ	縦	横	加工状況	地区	グリット	層	層備考
50	1	30.7	16	850	孔なし		ホラガイ製容器	5	W-17	V	
50	2	23.65	17.75	480	1.78	1.69	ホラガイ有孔製品（1孔品）	6	X-32	Ⅳ	
50	3	19	7.1		0.2 1.2	2.5 1.35	ホラガイ有孔製品（1孔品）	7	い-26	V	上
50	4	13.8	6	84	1.93	1.4	ホラガイ有孔製品（1孔品）殻口の大層部を大きく欠損。破損面が磨耗しているため二次使用がうかがわれる。	7	あ-30	Ⅳ	
	図なし	11.69	4.6	44	1.64	1.59	イトマキボラ、有孔製品殻口側と逆体層面に計2孔を穿つ。	1	D-16	Ⅳ	試トレンチ
		12.07	6.3	52	1.86	1.98	ホラガイ有孔製品（1孔品）風化が著しく対層部を大きく欠損。	2	D-34	Ⅳ	
		10.21	5.7	95	2.07	1.42	イトマキボラ、有孔製品殻口のと逆の体層面に1孔を穿つ。	7	え-25	Ⅳ	下部
		13.02	6.2	107	2.43	2.14	殻口側の体層面に1孔穿たれている。		Z-30		
		7.41	5.4	38	2.17	1.33	ヤツシロガイ、殻口の逆の大層面に1孔穿たれている。		あ-31	V	土壙
		14.94	5.6	82	2.68	2.42	ホラガイ、有孔品		ぁ-31・32		灰集中土壙
		9.6	8.84	135.7	—	—	シロニシ、殻口縁部や螺軸を打割により除去してある。体層部は加熱を受け一部破損している。	7	Z-34	Ⅳ	最下

ロ．容器状製品

第50図1は内部の螺軸をくりぬき、器状をした製品である。殻頂は欠落し磨滅しているが内部と貫通せず水漏れはしない。ただ器の保存状態は悪く、器面は風化し細かい孔が多数見られる。殻口部分は図の様に大きく欠損しているが、破損面は磨滅がみられ、殻口の先端面に僅かな研磨面が認められることから、その後の器以外の二次的な使用がうかがわれる。5地区Ⅴ層より出土。

1．有孔製品

体層部に孔を穿った製品で体層の大きさ、孔の部位や数によりその機能が異なることが考えられるため資料をさらに分類して記述をする。

①殻口側の体層部に孔を1つないし2つ穿つもの。いずれも孔を穿つ方法は敲打によるもので研磨はみられない。

・大型製品

第50図2は殻口側の体層部に円孔が1つあり、また同面の体層部には不規則な小孔があるが、後の破損で人工的なものではない。先端の殻口部分と殻頂を打割整形されている。殻頂は内部と貫通はしていない。器面は風化し、本来ある斑点が薄く白色化している。明確な火熱の痕跡はみられない。6地区Ⅳ層より出土。

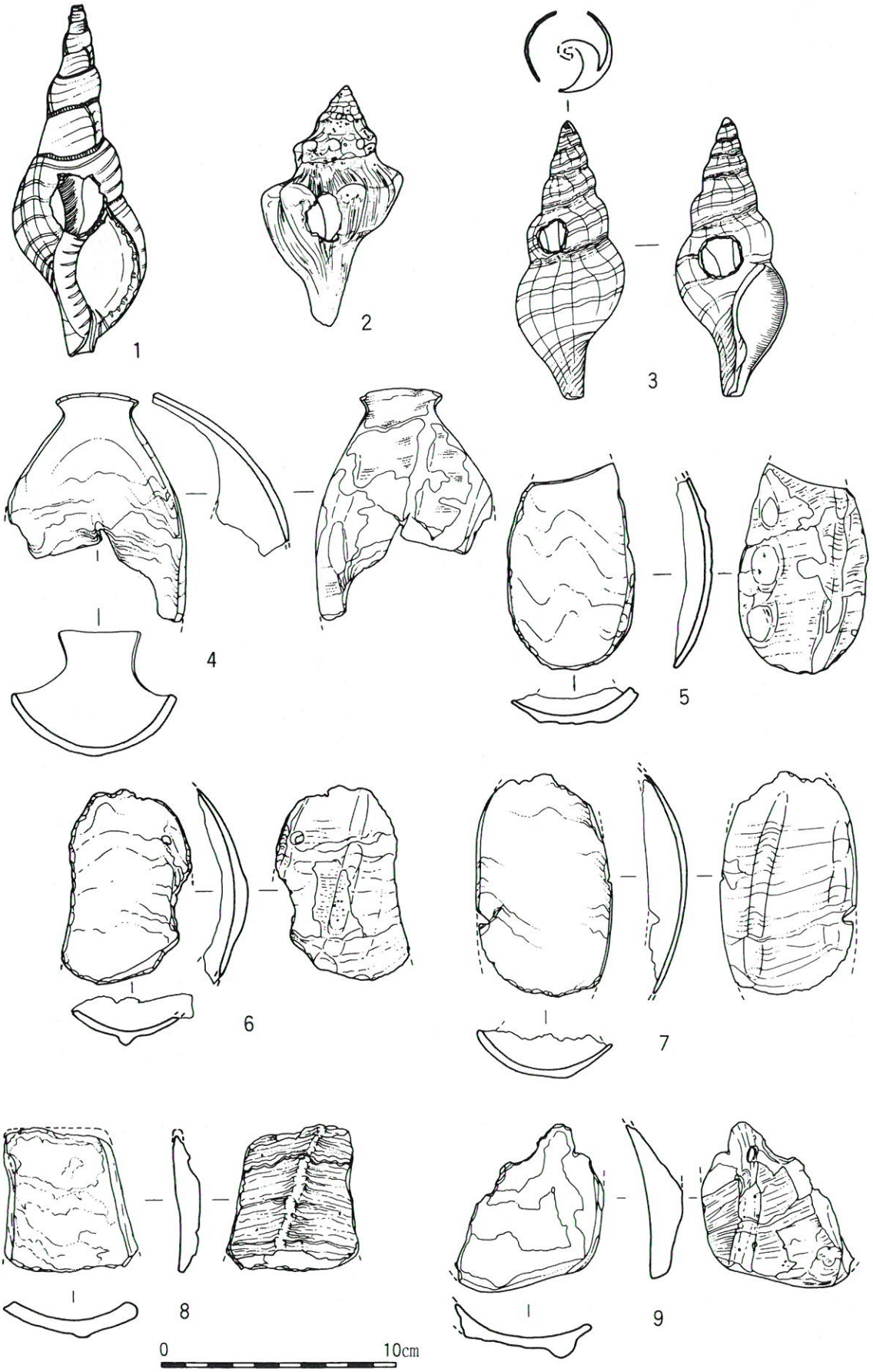
・小型製品

第51図1は殻高が14.9cm、殻径5.8cmのホラガイ資料である。1孔製品で、殻の大きさに比して孔が2.6×2.3cmと大きい。7地区灰集中土壙より出土。

②殻口面の体層部以外に孔が穿たれたもので、整形は敲打によるものである。この項目に入れたのは2例である。

同図3はナガイトマキボラを素材とした資料で、殻口側の体層部と逆側の体層部に円孔を穿った資料である。1地区試掘トレンチⅣ層より出土。

同図2はイトマキボラで殻口の裏側の体層に孔が穿たれた例である。7地区Ⅳ層下部より出土。



第51図　巻貝有孔製品（1～3）、貝匙（4～9）

ハ．貝匙

・ヤコウガイ製品

精巧品と粗製品に区別される。

第51図４は抉りが施され取手を有する精巧資料である。受け部分は欠落している。受けの底から縁までが深いタイプである。７地区Ｖ層灰集中土壙より出土。

同図５は受け部分のみを残す資料で、受けは浅いタイプになる。５地区Ⅳ層下部より出土。

第51図４は加熱を受け黒真珠色に変化し、器面の剝離が進行している。６地区Ｖ層上部より出土。

自然殻の節のある太い螺肋がまだ残り、側縁の打割面の調整が十分になされていない製品で多数出土した。遺存状況の良好な４点を図化した。第51図６は両側に抉りの整形面を残す破片資料である。５地区Ⅳ層。同図７は７地区Ⅳ層下より出土。

同図８は４地区Ⅳ層、同図９は４地区Ⅳ層炉跡より出土。

第51図８は製品の素材となり、核として残されたヤコウガイの殻資料である。匙などの製品を欠きとった残欠資料にあたるものと考えられる。内部の真珠層面は風化のための光沢はみられない。殻口から螺肋に沿うように体層部が取られている。殻の欠きとられた縁に細かいチップ痕が残っている。南西トレンチ７地区b′砂層　殻高16cm。

・タカラガイ製品

第52図７はタカラガイの背にあたる湾曲した殻部を割り取り、器状にした小形の製品である。整形時の打割面は、とくに研磨をした様子はみられず、手ずれ様の磨滅面になっている。６地区Ⅳ層より出土。

・ホラガイ製品

第52図１はホラガイの体層部に沿って欠きとり匙状にみられる製品である。形状は巨視的にはヤコウガイ製品に類似するが、研磨は入念にはされず受け部分と柄の区別が明確ではなく、精巧なものではない。Ｊ－７Ⅱ層出土。小形で柄に相当する頂部は三角状に尖り、受け部分の先は平坦になる比較的扁平の資料である。７地区Ⅳ層上部より出土。

同図２は長軸に細くなるもので、端部および側面が丁寧に整えられている。６地区Ⅳ層より出土。

・ラクダガイ製品

前述の７に類似するもので、６は貝そのものがラクダガイを素材としている。自然の背面のみを打ちかいて皿状にした製品である。打面は特に丁寧な研磨はされていないが手触りはスムーズになっている。７地区　層上部より出土。

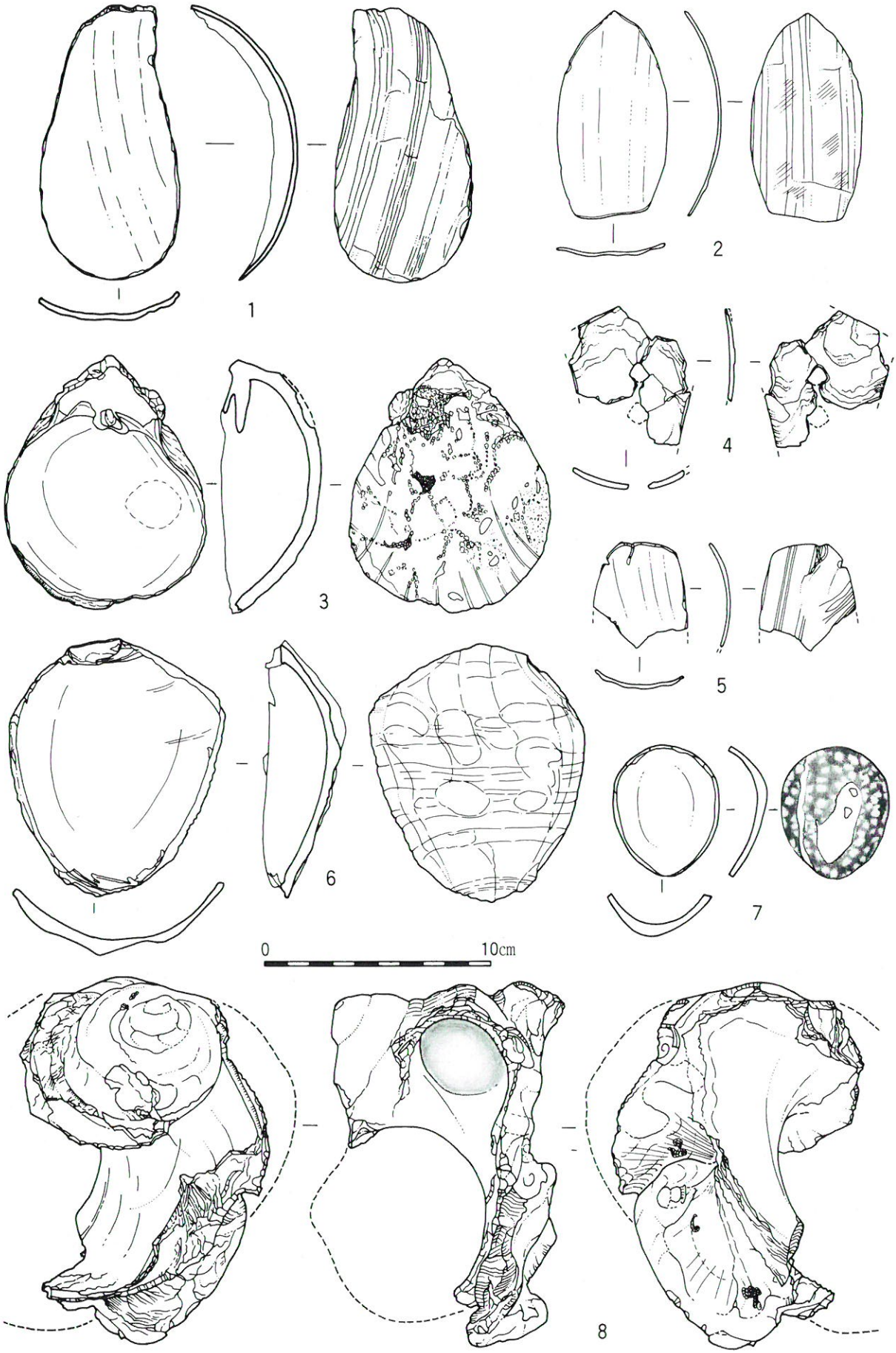
・メンガイ製品

第52図３は深みのある自然貝のメンガイが選択され、加工部はわずかに腹縁部を水平に打ちかいたのみの器形の資料である。殻高11cm、殻長8.7cm、重さ163.7ｇ。７地区Ⅳ層最下部より出土。

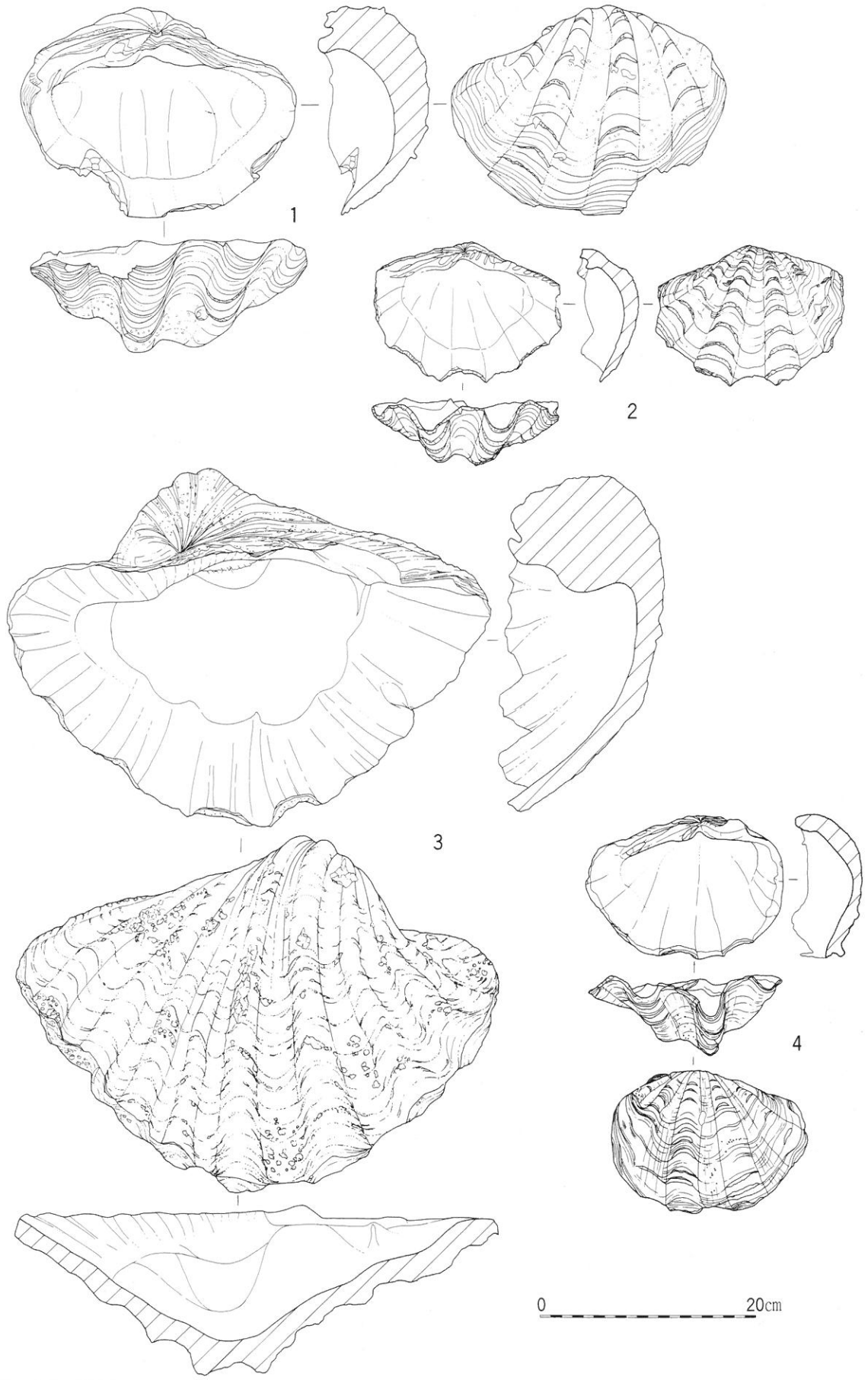
ニ．貝皿

貝殻の腹縁部をほぼ水平に打ち欠き、また腹面のヒレをカット調整したもので、打割面の研磨がみられないものが一般的な製品である。加工および形態から器の機能があったものと考えられる。資料総数122点と貝殻製品では多く出土している部類にはいる。貝種別にはシャゴウ（４点）、シラナミ（３点）、ヒメジャコ（７点）、ヒレジャコ（105点）、メンガイ科（３点）などの５種類が認められ、その内でヒレジャコ製品が最も多く検出されている。

地区別には１地区12点、４地区４点、５地区４点、６地区13点、７地区61点、８地区７点と６地区から検出されているが７地区に著しく偏在している。層位的にはⅣ～Ⅴ層に集中している状況にある。



第52図　貝匙（1～7）、夜光貝の殻（製品加工の残欠資料）（8）



第53図　貝皿

第28表　貝皿観察一覧

単位：mm/g

番号	貝種	殻	最大長	最大幅	重量	備考	区	グリット	層	層備考
34	ヒレジャコ	R	19.	25.	2.4	◎カット強い		拾土		
98	シャコガイ	L	23.	29.	4.0	○		不明		
105		R	11.	15.	0.3	△				
106	ヒメジャコ	R	17.	16.	0.8	△		不明		
107		R	13.	17.	0.6	○				
91		L	13.	20.	0.7	○				
93		L	15	23	1.1	△				
29		R	19.	27.	2.3	カット3		不明		
56		L	16.	27.	2.3	○ヒレカット				
57	ヒレジャコ	L	23.	33.	3.6	○ヒレカット				
20		L	16.	27.	1.7	○ヒレカット		E-11	II	最下部
32		R	15.	23.	1.0	◎	1	D-12	II	
39		L	20.	27.	2.4	◎		E-13	c	
21		L	14.	19.	0.8	○脆い		F-15		
103	シラナミ	R	9.3	14.	0.1	×	1	F-16	IIc	
76		L	10.	15.	0.2	○				
92		L	13.	20.	1.5	△		F-16		
86		R	15.	29.	1.0	◎ヒレカット			II	
3		L	15.	30.	2.3	○ヒレカット	1		c	
80		L	17.	31	1.8	△風化		G-16		
85		L	23.	31.	4.5	○厚手		J-14		
40		R	23.	32.	5	◎厚手				
110		R	17	22.	1.1	◎ヒレカット		Q-14		
38	ヒレジャコ	L	19.	32.	2.7	◎	4	Q-14	IV	上
108		R	19.	25.	2.6	◎ヒレカット		R-15		下
50		L	19.	24.	2.5	○ヒレカット		R-15	V	上
7		L	18.	25	1.6	○		V-22		下
72		L	11.	17.	0.4	○ヒレカット	5	W-19	IV	下面
54		L	16.	21.	1.8	○ヒレカット		Y-16		上
51		R	24.	35.	4.5	△		U-23	V	上
79		L	13.	22.	0.9	△		U-33		最下部
65		R	12.	18.	0.6	○ヒレカット	6	U-34	IV	
27		L	14.	20	0.5	◎ヒレカット		V-24		最下部
102	シラナミ	R	12.	19.	0.6	×	6	V-32	IV	
77		R	19.	24.	2.3	○		V-35		
8		R	42.	29.	3	◎ヒレカット		W-29		
95		L	24.	33.	4.0	○		W-35	IV	
17		L	15.	23.	0.8	◎ヒレカット		W-36		
90		R	14.	21.	1.9	△	6	X-29		
33		L	16.	22.	1.4	◎		Y-33		最下部
82	ヒレジャコ	R	19.	21.	2.4	○ヒレカット		S-24		下
10		R	24.	34.	4.5	○厚手		V-34	V	
9		R	12.	20.	0.7	○ヒレカット		X-34		
87		R	16.	22.	1.0	○ヒレカット		T.T7		
23		R	21.	28.	3.5	○ヒレカット	7	え-35		
83		L	19.	26.	2.4	○ヒレカット		Z-28	IV	
35		R	19.	27.	1.8	カット2荒い				
104	シラナミ	R	10.	17.	0.5	×	7	Z-30	IV	
6-①		R	15.	20.	0.8	○		Z-30		
6		L	14.	22.	1.0	○				
41		R	16.	25	1.4	◎		Z-30		最下部
12		L	17.	25.	1.4	◎ヒレカット		Z-30		
53	ヒレジャコ	L	18	26.	1.4	○ヒレカット	7		IV	
97		R	22.	30.	2.7	○ヒレカット		Z-30		最下部
12-①		R	23.	32.	3.3	○		Z-30		
42		R	15.	21.	0.8	カット2		Z-33		最下部
71		L	13.	21.	0.9	○ヒレカット				

番号	貝種	殻	最大長	最大幅	重量	備考	区	グリット	層	層備考
2		R	23.	27.	2.2	カット3		あ-32		
94		R	15.	23.	1.0	○		あ-35		
16		L	16.	21.	1.1	○		い-32		
73		R	14.	19.	0.7	△		い-34		最下部
45		L	20	35.	2.6	◎				
14		L	16.	27.	1.7	◎ヒレカット		う-28		下
5		L	19.	30.	2.3	◎ヒレカット		う-31		
69		L	19.	22.	1.7	○カット1		う-33		最下部
63		R	18	22	1.3	○ヒレカット		え-26	IV	下
111		R	13	17.	0.4	◎ヒレカット				
30		R	17.	25.	1.5	◎		え-29		最下部
15		R	19.	30	2.2	△				
46		L	22.	33.	2.8	カット3				
22	ヒレジャコ	L	13	20	0.6	◎	7	え-31		
47		R	16.	23.	1.1	カット1				
28		L	15.	23.	1.0	○		え-31		最下部
67		R	12.	20.	0.4	○ヒレカット		え-32		
25		L	15.	22.	0.9	◎ヒレカット		え-35		
109		R	13.	18.	0.6	◎ヒレカット		T.T7		
55		L	18.	23.	1.6	○ヒレカット		Z-28		
18		R	14.	22.	0.9	◎ヒレカット		Z-29		
36		L	17.	22.	1.9	カット4荒い				
58		L	23	35.	3.6	○		Z-30	V	
78		L	18.	23.	1.7	○ヒレカット		Z-31		上
11		L	15.	24.	1	◎				
84		R	22.	33.	3.0	○ヒレカット		Z-32		
66		R	21	30.	2.9	○ヒレカット		あ-28		
70		R	12.	19	0.4	△ヒレカット		あ-32		
99	シャコガイ	R	28.	32	5	○	7	あ・い33-34	V	
81		L	20.	30.	2.9	△		あ～え		
13		R	17.	23.	1.4	○		あ～え33～		土壙
31		L	18.	24.	2.1	カット4		36		
75		L	19.	31	2.0	○ヒレカット		い-30		上
52	ヒレジャコ	R	38	35.	5.1	○ヒレカット	7	い-34	V	
4		L	18.	27.	1.8	◎ヒレカット		う-25		最下部
89		R	19.	22.	1.6	○ヒレカット				
68		R	21.	23.	3.3	△		う-28		
88		L	21.	24.	2.8	△				
101	シャコガイ	R	28.	39	4.5	○	7	う-29	V	下
44		R	15.	22.	0.7	カット1		う-31		上
1	ヒレジャコ	L	41.	34.	2.2	○	7		V	
62		R	15.	23.	1.5	○ヒレカット		う・え33		土壙
100	シャコガイ	L	33.	45	8	◎	7	う・え33-34	V	灰土壙
24		L	16.	26	1.2	◎カット		う~え33~36		土壙
74		R	16.	22.	1.8	△		え-31		
96		R	21.	32.	3.4	○ヒレカット		え-33		上
60		R	20	21.	2.1	○ヒレカット	7		V	
61		R	15.	23.	1.1	○ヒレカット		え-35		
26		L	20.	32.	3.2	◎				
26-①	ヒレジャコ	R	26.	34.	3.5	◎				
49		L	20.	27	2.2	○		え-21		下
37		R	17	24.	2.1	カット2		Z-22		下
64		R	18	24.	1.5	○ヒレカット		あ-19		上
19		R	18.	28.	2.0	○	8	う-18	IV	
59		L	21.	32	2.8	◎ヒレカット		う-21		下
43		R	19	30.	2.1	◎		え-21		上
48		L	19	26	1.3	○ヒレカット		Z-15	V	上

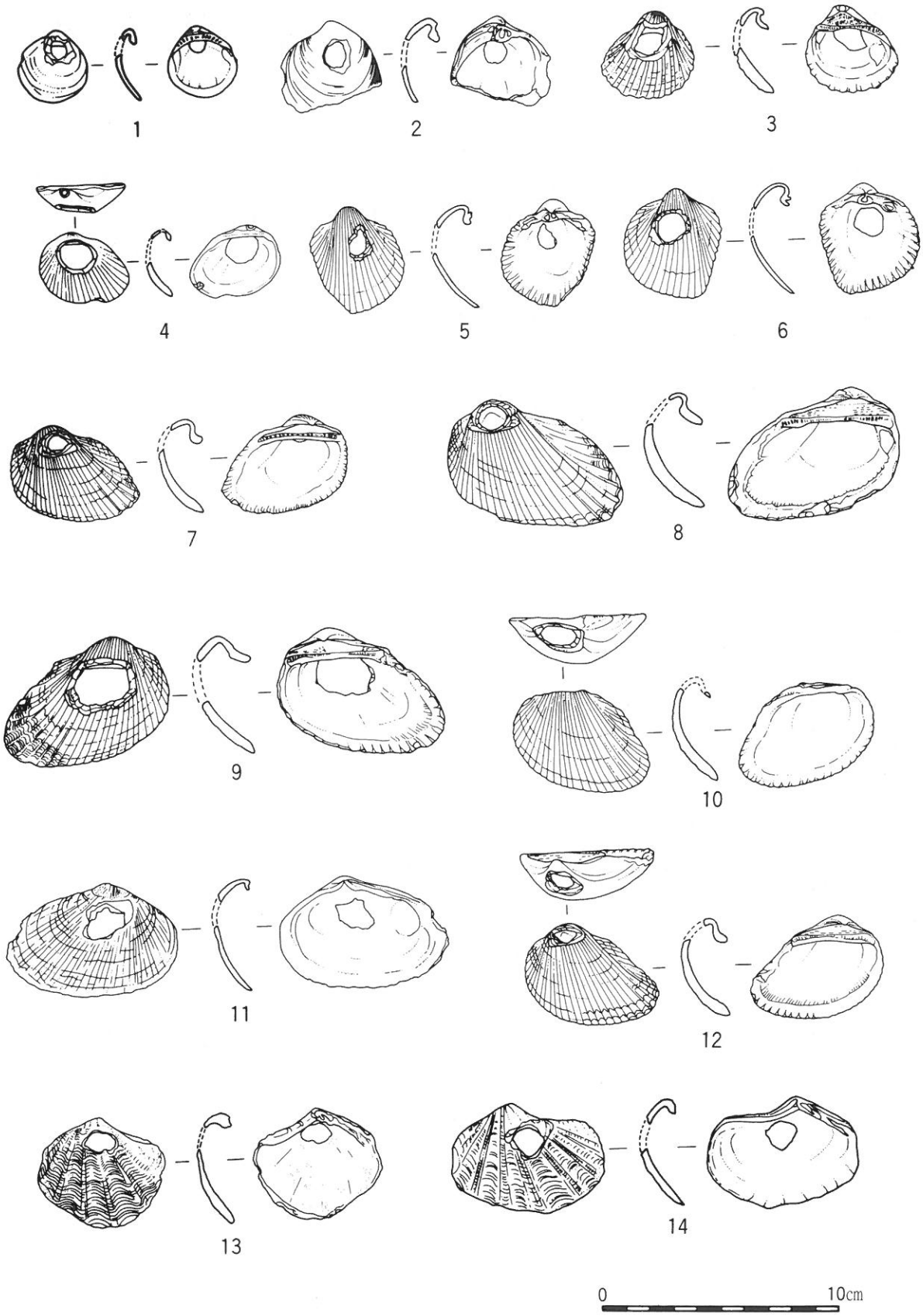
凡例　◎：腹縁のカットがとくに顕著、○：腹縁のカットが顕著、△：腹縁のカットが若干みられる。

×：カットがなく、自然の感を受ける。

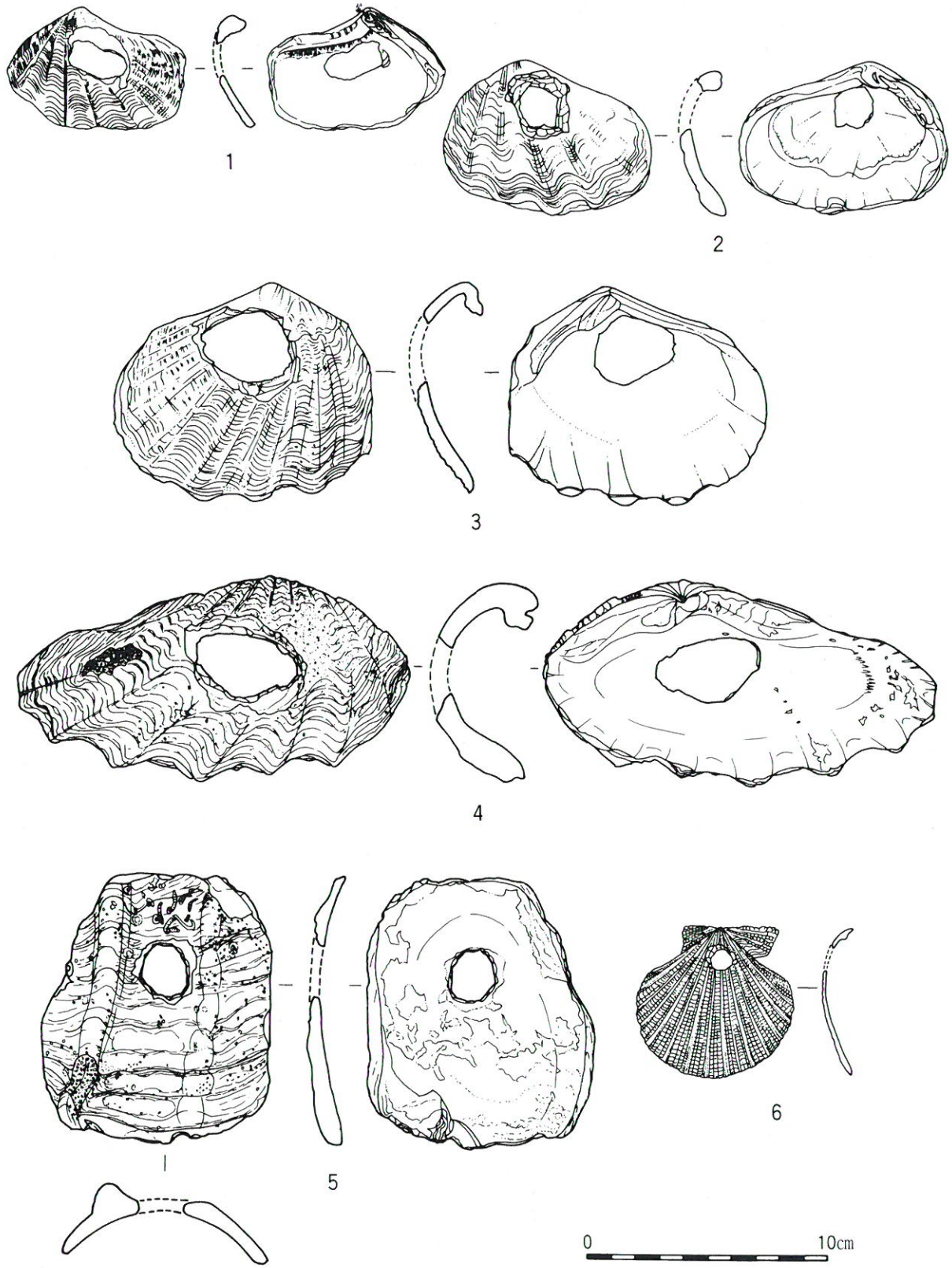
3．その他

イ．二枚貝有孔製品（貝錘）

二枚貝の殻頂部や腹部に敲打により孔を穿った製品である。総数788点検出されている。その内訳の貝



第54図　二枚貝有孔貝製品　ソメワケグリ（1）、シレナシジミ（2）、ハイガイ（3）、カワラガイ（5・6）、リュウキュウサルボウ（7～10・12）リュキュウマスオガイ(11)、ヒメジャコ（13・14）



第55図　有孔貝製品　ヒメジャコ（1～3）、シラナミ（4）夜光貝（5）オオギガイ（6）

第29表 a 二枚貝有孔製品（貝錘）

No.	貝種	殻	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
77	ウチワガイ	R	完	2.8	2.6	0.66	0.68	3.9		T.T		
66	ヒメジャコ	L	完	4.6	6.8	0.78	1.06	28.0		不明		
33	Rサルボウ	L	完	4.3	5.7	0.83	1.44	22.7		Z-13	IV	
748				5.2	8	1	1.5	29.5				
746		L	完	6.9	11.8	1.7	1.8	101.6				
747				7	9.4	1.5	2.8	58.3			不	
749	ヒメジャコ			4.6	6.9	1.1	1.1	*		不明	明	
751		R	完	5.2	6.8	1.2	0.9	27.7				
750				6.7	8.7	1.2	1.4	55.9				
752				7.8	10.5	2.8	3.5	105.9				
763			完	6	5.9	2.5	2.2	18.0				
762	メンガイ	L		6.4	6	1.9	1.2	20.6		不明	不	
761			破	*	*	1.5	1.8	*			明	
760		R	完	6.1	4.6	1.7	1.1	18.2				
757			完	3.9	5.6	0.6	0.8	18.6				
754	リュウキュウ	L		4.2	6	1.2	1	22.3			不	
756	サルボウ		破	*	*	*	1.7	*		不明	明	
755		R	完	4.3	5.9	1.3	2.2	31.3				
753				4.8	7	1	1	33.1				
758	Rサルボウ	R	完	5.3	5.2	1	0.8	24.7		不明	不	
759	ザルガイ		破	*	4.5	1.7	1	*			明	
768	ヒメジャコ	R	完	4.5	6.3	1.7	2.1	16.6	1	D-11	Ⅱc	11
589	メンガイ	L	完	5	4.9	1.7	1.5	12.1	1	D-11	Ⅱc	最下部
588	Rサルボウ	R	完	4.7	7.1	2	1.2	31.4	1	D-11	Ⅱc	最下部
769	メンガイ	L	完	5.1	4.5	3.2	2.6	*	1	D-12	Ⅱc	4
765	ヒメジャコ	R	完	4.6	6.7	1.4	2	13.3	1	D-12	Ⅱc	風化貝溜り
773	メンガイ	L	完	5.2	4.9	1.9	1.7	9.9	1	F-15	Ⅱc	12
774	Rザルガイ	R	完	2.8	2.4	0.3	0.3	*	1	F-15	Ⅱc	12
772	ヒレジャコ	L	破	12.5	*	3.3	3.2	*	1	F-15	Ⅱc	⑧
771	Rサルボウ	L	完	4.9	6.9	1.5	1.6	25.1	1	F-15	Ⅱc	⑧
590	メンガイ	L	完	5.9	5.3	1.1	1	17.3	1	F-16	Ⅱc	⑧
591	ヒメジャコ	L	破	*	*	*	*	*	1	F-16	Ⅱc	⑬
770	メンガイ	L	完	7	5.5	2	1.9	17.7	1	G-16	Ⅱc	①
592	リュウキュウ	R	完	5.1	7.8	0.7	0.8	35.9	2	F-36	V	
783	サルボウ	R	完	4.5	6.9	0.3	0.4	29.0		F-33	VI	
596	メンガイ	L	完	4.1	3.7	1	1.2	*	3	R-28		
599	シラナミ	L	破	10.5	*	*	*	*	3	R-30		pit5
597	ヒメジャコ	R	完	3.9	6	1.5	1.6	9.3	3	P-35	I	
598		R	完	5.1	6.6	1.1	1.3	20.8		Q-25		
593	リュウキュウ	R	完	3.8	5.9	1.7	2.1	11.0		Q-31		
594	サルボウ			3.8	6.2	1.8	1.7	13.9	3		I	
595		R	完	4	6.5	1.2	1.2	18.3		R-31		
707	メンガイ	L	完	5.2	5.4	2.6	1.8	12.5	3	O-24～29	IV	砂まじり
600	Rザルガイ	R	完	3.5	3.1	0.5	0.5	4.8	3	P-28	V	上
703	ヒメジャコ	L	完	8.5	12.6	2.6	2.1	211.7	3	P-32	V	pit1
610	Rサルボウ	R	破	*	*	1.1	1.1	*	4	P-15		P-2'
609	メンガイ	L	破	5.1	*	*	2.0	*	4	R-14		攪乱
613	Rザルガイ	L	破	*	*	0.6	0.7	*	4	オー4	Ⅱc	
605	ヒメジャコ	L	破		9	1.9		*	4	O-21	IV	上③
608	ヒメジャコ	L	破	*	*	*	*	*	4	O-21	IV	上面⑪
603		R	完	9.6	10.8	1.8	1.8	*				上面⑫
31	シラナミ	R	完	8.3	16.5	2.46	3.89	248.6	4	O-22	IV	
604		R	完	8	11	1.9	1.9	95.8		O-22		上⑧
764	ヒメジャコ	L	完	6.9	10.1	3	4.3	50.8	4		IV	上⑩
602		L	完	5.2	7.5	1.2	1.5	△25.4		P-20		上①
601		R	完	6.8	9.2	2	2.2	61.0				上①
612	メンガイ	L	破	6.6	*	2.3	*	*	4	Q-14	IV	
767	Rサルボウ	L	破	3.7		1.5	1	*	4	Q-14	IV	
60	サルボウ	R	完	4.7	6.5	0.96	0.79	28.8				
784	メンガイ	L	完	5	4.7	2.6	1.6	7.8	4	Q-15	IV	上
611			破	*	5.9	1.5	2.1	*				上
607	ヒメジャコ	R	完	7.7	11.4	2.2	3.2	91.9	4	R-17	IV	最下部
606	リュウキュウ	R	完	4.7	7.7	1.2	1.7	34.1	4	R-21	V	上
172	サルボウ	L	完	4.3	6.5	1.1	1.9	21.9	5	T-16		
201	メンガイ	L	完	7	6.2	1.7	1.5	29.1	5	W-23	II	下
189	カワラガイ	L	破	5.5	*	0.9	0.9	*	5	カ-2	Ⅱc	
193	Rザルガイ	R	完	3.7	3.2	0.3	0.3	6.6	5	カ-2	Ⅱc	
196	Rサルボウ	R	完	3.4	5.5	1.7	1.8	11	5	キ-3	Ⅱc	
191	メンガイ	L	完	5.4	4.6	1.5	1.3	13.5	5	キ-4	Ⅱc	
175	リュウキュウ	L	完	4.8	7.3	2.6	1.8	28.8	5	キ-5	II	
174	サルボウ			4.9	6.5	1	1.2	30.6			c	
699	ヒメジャコ	L	完	9.4	14	1.4	2.7	258.8	5	S-13	IV	上
700		L	完	6.7	5.8	1.6	2.2	*		S-21		下
195	メンガイ	L	完	5.8	5	1.3	1.4	14	5	T-13	IV	上
210		R	完	8.7	7.1	2.6	2.4	59.2		T-16		
179	ヒメジャコ	R	完	3.6	5.4	0.6	0.7	8.1	5	T-19	IV	下
214	メンガイ	R	完	6	5.2	1.1	1.1	25.9	5	U-22	IV	
188	Rザルボウ	R	完	5.2	7.2	1.5	1.4	26.6	5	V-14	IV	上
169	ヒメジャコ	R	完	6.5	9	1.2	1.3	53.7	5	V-16	IV	
180	リュウキュウ	L	完	5.5	8	1.1	2	51.8	5	V-16	IV	上
181	サルボウ	R	破	*	*	*	*	*				上
163	ヒメジャコ	R	破	5.7	*	1.2	1.58	*	5	V-19	IV	下
209	メンガイ	L	完	5.6	5.7	1.4	1.4	22.1	5	W-15	IV	
165	ヒメジャコ	L	完	5.6	8.4	1.8	3	32.6	5	W-17	IV	上
161		L	完	4.5	6.9	1.82	1.81	30.5				上
164	リュウキュウ			5	8.5	1.2	1.6	49.3	5	W-17	IV	上
166	サルボウ	R	完	4.3	6.3	0.4	0.6	19.7				上
206		R	完	4.9	7.2	0.8	1.1	41.3		W-20		下
182	ヒメジャコ	R	完	6.6	9.7	2	2.5	53.8	5	W-21	IV	下
162	リュウキュウ	R	完	5.1	8	0.7	1.17	65.7		X-13		上
177	サルボウ	R	完	3.9	5.9	0.6	1.1	16.3	5	Y-13	IV	上
212		R	破	*	7	1.7	1.8	*		Y-15		
205				6	9.1	1.7	2.9	42.6				
167	ヒメジャコ	L	完	5.1	7.8	1.7	2.5	27.5	5	Y-16	IV	上
200				5.9	7.7	2.2	2.2	37.9				上
190		R	完	4.8	7.8	1	0.5	25.5				上
178	メンガイ	L	完	6.7	6	0.9	1.2	24.4	5	Y-16	IV	上
173	Rサルボウ	R	完	4	5.7	1.9	2.4	13.7	5	Y-16	IV	上
184	メンガイ	L	完	5.7	5.2	1.1	1.9	13.2	5	Y-17	IV	
185	Rサルボウ	L	破	*	*	*	1.3	*	5	Y-17	IV	
171	ヒメジャコ	R	完	7	11	1.2	1.7	90.6	5	Y-18	IV	下
208		L	完	4.4	4.2	1.5	1.2	6.5		Y-22		下
204	メンガイ	L	完	4.4	4	1.1	1.1	5.8	5	カ-5	IV	上
203		R	完	5.7	5.6	2	2	24				上
213	カワラガイ	L	完	4.9	4.4	1	0.8	12.2	5	キ-3	IV	
211		R	完	5.1	8	0.8	2.4	29.4		キ-3		
186	ヒメジャコ			6.1	8.6	2.2	2.7	36.4	5		IV	
176		L	完	4.1	5.3	0.6	0.8	13.6		キ-5		
192	Rサルボウ	R	完	4.7	6.4	0.9	1.4	24.8	5	キ-5	IV	
168		R	破	*	5.8	*	1.6	*		ク-5	IV	上面
698	メンガイ	L	完	6.1	5.7	1.1	1.4	*	5	S-13	V	上
199		L	完	4.4	4.2	0.7	0.8			T-12		上
187	Rサルボウ	R	完	4.4	6.8	1.9	2.3	26.9	5	T-23	V	上
202	メンガイ	L	完	5.5	5.2	1	1.4	12.3	5	V-13	V	上
197	ヒメジャコ	R	完	4.2	6.8	0.5	0.5	16.8	5	V-14	V	上面
198	メンガイ	L	完	4.8	4.9	1.5	1.3	11.9	5	V-14	V	上面
194	Rサルボウ	R	完	4.5	7	0.9	1.4	49.3	5	V-18	V	上
207	ヒメジャコ	L	完	4.8	6.2	1.4	1.1	13.4	5	V-3	V	上
766	メンガイ	L	完	5.1	4.3	1.1	1.4	△11.6	5	W-12	V	
183		R	完	6.8	5.8	2.4	1.9	26.3		W-22		上
706	Rザルガイ	R	完	3.7	3.4	0.5	0.5	4.4	6	W-33		pit2
325	ヒメジャコ	L	完	5.8	8.8	1.5	1.3	29.9	6	キ-9		攪乱
345		L	破	3.2	*	0.9	1	*		X-32	I	
701	メンガイ	L	完	6.3	5.2	1.7	1.7	31.1	6	S-31	IV	最下部
702		L	破	*	*	*	*	*		S-34		最下部
334	ヒメジャコ	L	完	4.7	7.2	1	1.3	19.4	6	U-30	IV	最下部
333		R	完	4.7	6.7	0.9	1.3	20.7				最下部
38	Rマスオガイ	R	完	4.7	7.2	1.07	1.31	17.4	6	U-32	IV	最下
304	リュウキュウ			4.6	6.2	2	1.5	28.2				
705	サルボウ	R	完	4.7	7	1	1.1	27.4	6	V-30	IV	pit3
299				4	5.7	0.9	0.9	19.5				最下
272	ヒメジャコ	R	完	7.9	11.6	1.2	1	90.3	6	V-31	IV	
704	Rサルボウ	L	完	3.8	5.5	0.5	0.7	14.9	6	V-31	IV	pit17
283	メンガイ	L	完	6.8	5.7	1.7	2.2	17.8	6	V-32	IV	
307	ヒメジャコ	R	完	5.7	7.6	1.3	1.4	42.9	6	V-33	IV	
338	Rサルボウ	L	完	4.8	6.8	0.5	0.8	41.2	6	V-33	IV	
308	カワラガイ	L	破	*	4.8	1.7	1.2	*	6	V-34	IV	
216	リュウキュウ	L	完	4.8	7.2	0.9	0.9	39.8	6	V-34	IV	
245	サルボウ	R	完	4.9	7.2	0.9	1.1	45.6				
280		R	完	4.7	7.6	1.1	1	22.4		W-24		
780		R	破	3.2	*	0.9	1.2	*		W-25		
220		L	完	5.8	7.9	0.9	0.7	29.7				
271	ヒメジャコ			6.4	9.3	2	1.6	50.9	6	W-30	IV	
219		R	完	7	10.4	1	1.9	61.8				
332		L	完	6.9	10.7	2.3	2.1	95.9		W-31		
331		R	完	6.4	10.4	1.8	2.4	113.8				
235		R	完	8.2	11.1	2.2	3.6	148.1		W-32		

注　※は計測不可　△：残存部の計測値　「孔径（長」→ 孔径（長径）、「孔径（短」→「孔径（短径）」

※は計測不可、単位：㎜/g

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
608	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	*	*	*	*	*	4	O-21	IV	上面⑪
603		R	完	9.6	10.8	1.8	1.8	*				上面⑫
31	ｼﾗﾅﾐ	R	完	8.3	16.5	2.46	3.89	248.6	4	O-22	IV	
604		R	完	8	11	1.9	1.9	95.8		O-22		上⑧
764	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	6.9	10.1	3	4.3	50.8	4		IV	上⑩
602		L	完	5.2	7.5	1.2	1.5	△25.4		P-20		上①
601		R	完	6.8	9.2	2	2.2	61.0				上①
612	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	6.6	*	2.3	*	*	4	Q-14	IV	
767	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	破	3.7		1.5	1	*	4	Q-14	IV	
60	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.7	6.5	0.96	0.79	28.8				
784	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5	4.7	2.6	1.6	7.8	4	Q-15	IV	上
611			破	*	5.9	1.5	2.1	*				上
607	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.7	11.4	2.2	3.2	91.9	4	R-17	IV	最下部
606	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4.7	7.7	1.2	1.7	34.1	4	R-21	V	上
172	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.3	6.5	1.1	1.9	21.9	5	T-16		
201	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	7	6.2	1.7	1.5	29.1	5	W-23	II	下
189	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	5.5	*	0.9	0.9	*	5	ｶ-2	IIc	
193	Rｻﾙｶﾞｲ	R	完	3.7	3.2	0.3	0.3	6.6	5	ｶ-2	IIc	
196	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.4	5.5	1.7	1.8	11	5	ｷ-3	IIc	
191	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.4	4.6	1.5	1.3	13.5	5	ｷ-4	IIc	
175	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.8	7.3	2.6	1.8	28.8	5	ｷ-5	II	
174	ｻﾙﾎﾞｳ			4.9	6.5	1	1.2	30.6			c	
699	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	9.4	14	1.4	2.7	258.8	5	S-13	IV	上
700		L	完	6.7	5.8	1.6	2.2	*		S-21		下
195	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.8	5	1.3	1.4	14	5	T-13	IV	上
210		R	完	8.7	7.1	2.6	2.4	59.2		T-16		
179	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	3.6	5.4	0.6	0.7	8.1	5	T-19	IV	下
214	ﾒﾝｶﾞｲ	R	完	6	5.2	1.1	1.1	25.9	5	U-22	IV	
188	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	5.2	7.2	1.5	1.4	26.6	5	V-14	IV	上
169	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.5	9	1.2	1.3	53.7	5	V-16	IV	
180	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	5.5	8	1.1	2	51.8	5	V-16	IV	上
181	ｻﾙﾎﾞｳ	R	破	*	*	*	*	*				上
163	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	破	5.7	*	1.2	1.58	*	5	V-19	IV	下
209	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.6	5.7	1.4	1.4	22.1	5	W-15	IV	
165	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.6	8.4	1.8	3	32.6	5	W-17	IV	上
161		L	完	4.5	6.9	1.82	1.81	30.5				上
164	ﾘｭｳｷｭｳ			5	8.5	1.2	1.6	49.3	5	W-17	IV	上
166	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.3	6.3	0.4	0.6	19.7				上
206		R	完	4.9	7.2	0.8	1.1	41.3		W-20		下
182	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.6	9.7	2	2.5	53.8	5	W-21	IV	下
162	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	5.1	8	0.7	1.17	65.7		X-13		上
177	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.9	5.9	0.6	1.1	16.3	5	Y-13	IV	上
212		R	破	*	7	1.7	1.8	*		Y-15		
205				6	9.1	1.7	2.9	42.6				
167	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.1	7.8	1.7	2.5	27.5	5	Y-16	IV	上
200				5.9	7.7	2.2	2.2	37.9				上
190		R	完	4.8	7.8	1	0.5	25.5				上
178	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.7	6	0.9	1.2	24.4	5	Y-16	IV	上
173	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4	5.7	1.9	2.4	13.7	5	Y-16	IV	上

」

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
184	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.7	5.2	1.1	1.9	13.2	5	Y-17	IV	
185	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	破	*	*	*	1.3	*	5	Y-17	IV	
171	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7	11	1.2	1.7	90.6	5	Y-18	IV	下
208		L	完	4.4	4.2	1.5	1.2	6.5		Y-22		下
204	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.4	4	1.1	1.1	5.8	5	ｶ-5	IV	上
203		R	完	5.7	5.6	2	2	24				上
213	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	4.9	4.4	1	0.8	12.2	5	ｷ-3	IV	
211		R	完	5.1	8	0.8	2.4	29.4		ｷ-3		
186	ﾋﾒｼﾞｬｺ			6.1	8.6	2.2	2.7	36.4	5		IV	
176		L	完	4.1	5.3	0.6	0.8	13.6		ｷ-5		
192	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.7	6.4	0.9	1.4	24.8	5	ｷ-5	IV	
168		R	破	*	5.8	*	1.6	*		ｸ-5	IV	上面
698	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.1	5.7	1.1	1.4	*	5	S-13	V	上
199		L	完	4.4	4.2	0.7	0.8			T-12		上
187	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.4	6.8	1.9	2.3	26.9	5	T-23	V	上
202	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.5	5.2	1	1.4	12.3	5	V-13	V	上
197	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.2	6.8	0.5	0.5	16.8	5	V-14	V	上面
198	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.8	4.9	1.5	1.3	11.9	5	V-14	V	上面
194	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.5	7	0.9	1.4	49.3	5	V-18	V	上
207	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.8	6.2	1.4	1.1	13.4	5	V-3	V	上
766	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.1	4.3	1.1	1.4	△11.6	5	W-12	V	
183		R	完	6.8	5.8	2.4	1.9	26.3		W-22		上
706	Rｻﾙｶﾞｲ	R	完	3.7	3.4	0.5	0.5	4.4	6	W-33		pit2
325	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.8	8.8	1.5	1.3	29.9	6	ｷ-9		攪乱
345		L	破	3.2	*	0.9	1	*		X-32	I	
701	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.3	5.2	1.7	1.7	31.1	6	S-31	IV	最下部
702		L	破	*	*	*	*	*		S-34		最下部
334	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.7	7.2	1	1.3	19.4	6	U-30	IV	最下部
333		R	完	4.7	6.7	0.9	1.3	20.7				最下部
38	Rﾏｽｵｶﾞｲ	R	完	4.7	7.2	1.07	1.31	17.4	6	U-32	IV	最下
304	ﾘｭｳｷｭｳ			4.6	6.2	2	1.5	28.2				
705	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.7	7	1	1.1	27.4	6	V-30	IV	pit3
299				4	5.7	0.9	0.9	19.5				最下
272	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.9	11.6	1.2	1	90.3	6	V-31	IV	
704	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	3.8	5.5	0.5	0.7	14.9	6	V-31	IV	pit17
283	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.8	5.7	1.7	2.2	17.8	6	V-32	IV	
307	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	5.7	7.6	1.3	1.4	42.9	6	V-33	IV	
338	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.8	6.8	0.5	0.8	41.2	6	V-33	IV	
308	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	*	4.8	1.7	1.2	*	6	V-34	IV	
216	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.8	7.2	0.9	0.9	39.8	6	V-34	IV	
245	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.9	7.2	0.9	1.1	45.6				
280		R	完	4.7	7.6	1.1	1	22.4		W-24		
780		R	破	3.2	*	0.9	1.2	*		W-25		
220		L	完	5.8	7.9	0.9	0.7	29.7				
271	ﾋﾒｼﾞｬｺ			6.4	9.3	2	1.6	50.9	6	W-30	IV	
219		R	完	7	10.4	1	1.9	61.8				
332		L	完	6.9	10.7	2.3	2.1	95.9		W-31		
331		R	完	6.4	10.4	1.8	2.4	113.8				
235		R	完	8.2	11.1	2.2	3.6	148.1		W-32		

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
317	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.7	7.2	0.9	1.3	44.4	6	W-32	IV	
252	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	3.9	5.3	0.7	1.2	10.3	6	W-33	IV	
251		L	完	2.9	4.2	1.1	0.8	5.7				
223				4.7	7.1	1	0.7	46.5		W-33		
275	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4.1	6.1	0.5	0.8	23.6	6		IV	
309	ｻﾙﾎﾞｳ			4.3	6.5	1.7	1.8	30.2				
233		L	完	4.8	7.4	1.5	2.1	40.9		W-34		
228			破	*	5	0.8	0.9	*				
262	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.7	5.3	1.8	2.3	11.8	6	W-34	IV	最下部
254		L	完	3.7	5.2	1	0.7	7.2				
41				5.1	7.3	1.33	2.09	32.0				
238	ﾋﾒｼﾞｬｺ			4.7	7.4	0.9	1.2	33.5	6	W-35	IV	
342		R	完	5.1	6.5	1	1.3	21.9				
255				6.6	8.8	1.3	1.5	54.6				
296				6.8	9.3	1.9	2.5	60.3				
276	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	*	*	*	*	*	6	W-35	IV	
312				4	6.5	1	1	*				
241		L	完	4.2	6.6	2	1.5	21.3				
53				4.5	6.1	1.04	0.89	26.3				
277			破	3.6	*	1.2	1.1	*				
257				3.5	4.8	1.4	1.4	11.4				
281				4	6.6	1.6	2.6	24				
306	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4.4	7.4	0.5	0.5	37.4	6	W-35	IV	
256	ｻﾙﾎﾞｳ			4.6	6.6	1.1	1.2	31.8				
305				4.8	6.9	0.8	1	32.4				
34				5.1	7.1	1.68	2.21	34.5				
56				4.4	5.8	1.46	1.15	18.2				最下
63		L	完	4.4	6.6	1	1.06	30.8				最下
62				5.1	6.4	0.94	1.28	40.0				最下
65		R	完	4.6	6.9	0.69	0.81	35.6				最下
287	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	*	*	*	1.4	*	6	W-36	IV	
236	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.4	10.2	1.7	2.5	61.2	6	X-27	IV	
237	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	3.5	5.3	0.9	1.1	15.5	6	X-27	IV	
426	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.2	6.8	1.3	1.9	24.5		X-28		
249	ｶﾜﾗｶﾞｲ	R	破	*	4.6	1.3	0.7	*	6	X-30	IV	
239		L	完	4.6	7.5	1.9	2.2	28.2				
327	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4	5.9	0.8	0.7	16.7	6	X-30	IV	
240	ｻﾙﾎﾞｳ			4.9	7.7	0.6	0.6	36				
247		R	破	*	4.9	*	*	*		X-31		上面
267	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.8	7	1	1.1	24.6	6	X-32	IV	
286	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4	6.2	1	1.2	21.2	6	X-32	IV	
775	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	*	*	2.2	2.1	*	6	X-33	IV	
28				*	5.2	2.2	1.9	*				
244	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.1	6.5	0.9	1.5	23.5	6	X-33	IV	最下部
778	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.8	8.5	1.3	1.8	44.2	6	X-34	IV	
779				7.1	10.5	1.5	1.8	64.3				
273	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.4	4.5	1.2	0.12	10.3	6	X-34	IV	
311	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.1	5.6	1.5	1.2	23.8	6	X-34	IV	
298	ｻﾙﾎﾞｳ			4.9	6.8	0.9	0.8	36.8				

第29表ｂ二枚貝有孔製品（貝錘）

No.	貝種	欠	残存	殻高	殻長	孔径(長径)	孔径(短径)	重量	地区	グリット	層	層備考
58			完	5.5	7.4	1.02	1.3	33.7				最下
67		L		5.6	7.8	0.71	0.76	46.7				最下
518			破	*	*	1.2	1	*				最下
64	ﾋﾒｼﾞｬｺ		完	4.5	6.6	1.05	1.31	20.7	7	え-32	IV	最下
57		R		5.3	7.3	0.8	0.91	31.0				最下
509			破	4.5	*	0.9	1.2	*				最下
141				6.2	9.9	*	3.11	*				最下
369			完	4.5	4.3	1.1	1.1	8.9				最下
368	ﾒﾝｶﾞｲ	L		6.4	5.2	3.2	2.3	17.9	7	え-32	IV	最下
94			破	*	*	2.3	*	*				最下
85			完	4.5	7.3	2.1	2.84	32.2				最下
96	ﾘｭｳｷｭｳ	L		4.5	5	2.09	1.95	15.3				最下
471	ｻﾙﾎﾞｳ		破	*	4.8	0.9	0.9	*	7	え-32	IV	最下
128		R	完	5.6	7.5	0.91	0.74	51.4				最下
472			破	*	6	*	2	*				最下
348	Rﾏｽｵｶﾞｲ	L	完	4.5	6.8	1.5	1.4	17.1	7	え-32	IV	最下
515	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.9	7.4	1.1	1.2	*	7	え-33	IV	最下
401	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.7	6.3	2	1.7	46.3	7	え-33	IV	最下
14	ｻﾙﾎﾞｳ			5	7.7	1.23	1.87	48.5				最下
357		L	完	7.6	9	2	3	79.1		え-33		最下部
532		L	完	5.3	7.1	1.3	1.6	*				
110	ﾋﾒｼﾞｬｺ			5.1	7.2	0.75	1.23	29.7	7		IV	最下
111			完	6.8	9.1	1.41	1.95	58.6		え-34		最下
109		R	破	*	10	*	*	*				最下
511				*	*	*	4.4	*				最下
390	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.8	5.1	0.9	0.7	17.9	7	え-34	IV	最下
122	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.7	6.8	5.7	1.05	35.5	7	え-34	IV	最下
19	ｻﾙﾎﾞｳ			5.2	6.3	1	0.99	32.3				最下
565	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.6	6.2	0.5	0.8	21.7	7	え-35	IV	
564	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.5	6.8	1.2	1.3	29.7	7	え-35	IV	
416	ｻﾙﾎﾞｳ			3.1	5.2	1.8	2.2	*				最下部
717	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.8	7.4	1.1	1.2	23.6	7		V	T.T.7
719	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	3.5	3.1	1	1.3	4.9	7		V	T.T.7
718	ｻﾞﾙｶﾞｲ	R	完	3.1	2.8	0.7	1.2	3.5				T.T.7
720	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.7	7.6	0.6	1.2	37.1	7		V	T.T.8
450	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	5.1	6.4	0.8	0.9	31.5	7	27～30	V	上
451	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.8	7	0.9	0.9	30.3				上
531		R	完	7.1	9.9	1.7	2.3	73.2		Y～Z33		
376	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	8.2	*	*	*	*	7	Z-31	V	上
541		R	完	4.3	7.8	0.8	1.3	38.2				上
432		R	完	4.4	6.4	0.8	0.9	32.0		あ-28		上
352		R	完	3.7	5.4	1.1	1.2	15.9		あ-30		
124	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	5.2	8	0.79	0.94	58.6	7	あ-31	V	土擴
566	ｻﾙﾎﾞｳ			4.9	7.4	0.7	0.8	41.9				土擴
151		R	完	4.7	6.5	0.49	1.03	39.7		あ-33		
458		R	破	3.9	*	1.4	1.9	*		あ-34		
652				6.3	9	1.2	1.7	△74.4				上
651	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	6.5	9.3	1.7	2.3	77.7	7	あ-34	V	上
649				6.7	9.5	1.8	2.5	79.4				上

No.	貝種	欠	残存	殻高	殻長	孔径(長径)	孔径(短径)	重量	地区	グリット	層	層備考
650	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.2	9.4	1.5	1.6	82.2	7	あ-34	V	上
581	Rｻﾙｶﾞｲ	L	完	2.5	2.4	0.3	0.3	2.2	7	あ-34	V	上
27	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.3	6.3	0.32	0.59	23.3	7	あ･い34	V	
12	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.4	6.4	1.01	1.3	24		あ･ぇ33･36		土擴
76	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	3	2.6	1.05	0.68	3.3	7	あ～え33	V	土擴
93	ｻﾞﾙｶﾞｲ			3.6	3.2	1.73	1.42	3.7		～36		土擴
655	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.6	7.2	0.5	0.5	28.4	7	あ～え33	V	土擴
405	ｻﾙﾎﾞｳ			5.1	7.2	0.5	0.7	45.3		～36		土擴
81	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	7	10.2	2.11	3.25	67.8	7	あ~ぇ34~36	V	
61	Rﾊｶｶﾞｲ	L	破	4.4	*	1.73	1.74	9.0	7	あ~ぇ34~36	V	灰集中土擴
572		L	完	6.7	9.2	2.7	3.4	38.2				灰集中土擴
573	ﾋﾒｼﾞｬｺ		完	6.2	8.7	1.1	1.5	39.3	7	あ～え34	V	灰集中土擴
504		R		6.3	9.1	1.6	2.6	55.0		～36		灰集中土擴
654			破	*	*	0.9	*	*				灰集中土擴
653	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	5.6	8.9	0.9	1.1	56.6		あ～え34		灰集中土擴
460	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.3	6.2	0.7	0.9	24.8	7	～36	V	灰集中土擴
417			破	*	6.1	*	*	*				灰集中土擴
530	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.9	6.8	1.2	1.7	20.8	7	あ～え34	V	土擴
537				6	7.1	1.2	2.2	42.4		～36		土擴
364	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	2.8	4	0.8	0.7	5.5	7	あ~ぇ34~36	V	土擴
433	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.4	6.7	1.1	1.5	26.4		あ~ぇ34~38		土擴
491	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	破	7.6	10.3	*	3.2	66.3	7	い-26	V	上
84	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4.4	5.9	0.96	1.44	25.4	7	い-27	V	下
397	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.5	6.8	0.9	1	29.9		い-35		
512	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	6	9.1	1.2	1.6	45.0	7	う-26	V	
92		L	完	5.2	7.3	0.75	1.05	50.6		う-27		
100	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	5.1	7.6	0.97	1.32	45	7		V	最下
102	ｻﾙﾎﾞｳ		破	4.9	*	*	1.15	*		う-28		最下
101		R	完	4.9	6.8	0.87	1.1	33				最下
35		R	完	8.8	10.8	2.69	3.16	111.8		う-31		最下
11	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	7.4	10.6	1.29	1.36	65.2	7	う･ぇ33･34	V	灰土擴
574		R	完	3.9	5.3	0.9	1.9	11.1		う~ぇ31~32		
409	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.6	6.2	0.7	1.4	42.7		う～え31		
658	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.3	3.1	0.3	0.4	5.2	7	～32	V	
410				4.7	7.2	0.6	0.8	35.3				
514	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.5	7	0.6	0.6	△25.9	7	う～え32	V	
78	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	5.1	7.3	0.65	0.82	46.8	7	う～え32	V	
346	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	6	*	1	1.3	36.4	7	う～え32	V	
347		R	完	4	6.2	1.4	1.2	*		～33		
579	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.4	6.8	0.6	0.9	21.1	7	う～え33	V	
123	ｻﾙﾎﾞｳ			4.5	5.8	0.79	1.28	20.9				
475	Rﾏｽｵｶﾞｲ	L	完	5.4	7.9	1.9	2	27.2	7	う～え33	V	
119	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.1	5.7	0.43	0.69	20.2	7	う～え33	V	土擴
656	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.2	8.9	1.5	1.9	37.7	7	う～え33	V	土擴
657			破	5.4	8.1		1.9	*				土擴
415	ﾘｭｳｷｭｳ	R	破	4.9	*	1.5	1.8	△39.8	7	う～え33	V	土擴
374	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.1	6.1	2.4	1.3	19.0		え-24		
69	Rﾏｽｵｶﾞｲ	L	破	*	5.8	1.16	1.4	14.5	7	え-29	V	
559	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.6	7.4	0.8	1.3	34.4	7	え-30	V	上

No.	貝種	欠	残存	殻高	殻長	孔径(長径)	孔径(短径)	重量	地区	グリット	層	層備考
584	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	3.7	5.9	0.5	1	17.2		え-31		土擴
583	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.5	5	1.1	1.1	11.5	7		V	土擴
147		R	完	4.9	6.8	0.51	0.67	36.5		ぇ-31~32		
476	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6	6.1	3.1	3.3	17.7	7	え-34	V	
148	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.1	5.8	0.81	0.85	24.3	7	え-34	V	
40	ﾅｻﾗｶﾞｲ	R	完	6.2	6.6	0.9	0.98	15.9	7	え-35	V	
381				5.8	8.3	1	1.3	39.0				
129		L	完	7.2	9.4	1.4	2.11	74				
490	ﾋﾒｼﾞｬｺ			7.7	10.4	0.9	1.1	96.0	7	え-35	V	
521		R	完	3.1	5.5	0.9	1.5	△9.9				
422			破	7.8	*	1.4	2	98.8				
436		L	完	3	4.1	0.8	1.1	7.9				
453				4	5.5	1.6	1.4	18.0				
437				3.1	5	1	1.2	*		え-35		
438	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	3.1	4.6	1	0.9	8.6				
454	ｻﾙﾎﾞｳ			4	6.6	1	1.3	32.1	7		V	
421				4.5	6.7	1.3	1.8	29.8				
446				3.8	5.6	0.8	1.5	15.9				
445		L	完	3.9	6	1.5	1.8	17.3		東側		
447				4.2	6.2	0.5	1	21.8				
42	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.7	6.4	1.19	1.19	21.8	7	Z-35	不明	
70	Rｻﾙｶﾞｲ	L	完	3.7	4	1.21	1.05	5.3	7	Z-35	不明	
694	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.5	4.8	1	1.4	10.3	8	ｸ-4		攪乱
687	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	3.9	3.7	1	1.4	6.5	8	ｸ-5		攪乱
686	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	5.1	6.9	1	1.1	41.0	8	ｸ-5		攪乱
640	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.6	5.1	1.4	1.8	14.1	8	ｹ-4		攪乱
666	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	破	3.1	*	0.7	1.5	*	8	Z-13	IV	
659	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.3	6.5	0.9	1	31.7	8	Z-13	IV	
679	ﾒﾝｶﾞｲ		破	*	*	0.9	0.9	*	8	Z-13	IV	下
667		R	完	4.6	6.9	0.9	2	*		Z-14		上
668		L	破	5.9	*	1.5	2.5	△42.1				
671				5	7.5	1.3	1.7	△27.5		Z-15		下
669	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.7	10.1	1.4	1.6	59.4	8		IV	下
670				7.7	10	2.1	2.2	90.0				下
676		L	完	7.9	11.9	1.7	2.5	133.9				下面
673				3	4.4	0.6	0.7	5.5		Z-16		上
674		R	完	5.3	7.5	1	0.9	30.4				上
675	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6	5.3	1.6	1.5	18.6	8	Z-16	IV	上
661	ﾘｭｳｷｭｳ	L	破	4.4	*	1.5	1.9	△32.2	8	Z-17	IV	
662	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.5	7.1	1.6	3.5	36.0				下
681	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.8	6.3	1.8	1	23.5	8	Z-18	IV	下
677	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.8	7.3	1.2	1.7	21.2	8	Z-18	IV	上
685	ｼﾚﾅｼｼﾞﾐ	R	完	6.5	7.6	1.4	1.1	40.8	8	Z-19	IV	上
663	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.8	7.3	1.2	1.8	54.7	8	Z-20	IV	
678	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	9.5	11.5	1.7	1.8	158.7	8	Z-21	IV	上
682	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.5	4.7	1.4	1	14.9	8	Z-21	IV	上
664	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	破	4.9	*	0.8	0.7	*	8	Z-22	IV	
684	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.3	5.5	2.2	1.6	22.9	8	Z-22	IV	上
665	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.3	8.6	2	3	△54.1	8	Z-23	IV	下

注　※は計測不可　△：残存部の計測値　「孔径（長」→孔径（長径）、「孔径（短」→「孔径（短径）」

※は計測不可、単位：mm/g

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長径)	孔径(短径)	重量	地区	グリット	層	層備考
650	ヒメシャコ	R	完	7.2	9.4	1.5	1.6	82.2	7	あ-34	V	上
581	Rザルガイ	L	完	2.5	2.4	0.3	0.3	2.2	7	あ-34	V	上
27	リュウキュウ	L	完	4.3	6.3	0.32	0.59	23.3	7	あ・い34	V	
12	サルボウ	R	完	4.4	6.4	1.01	1.3	24		あ・え33・36		土擴
76	リュウキュウ	R	完	3	2.6	1.05	0.68	3.3	7	あ～え33	V	土擴
93	ザルガイ			3.6	3.2	1.73	1.42	3.7		～36		土擴
655	リュウキュウ	L	完	4.6	7.2	0.5	0.5	28.4	7	あ～え33	V	土擴
405	サルボウ			5.1	7.2	0.5	0.7	45.3		～36		土擴
81	ヒメシャコ	L	完	7	10.2	2.11	3.25	67.8	7	あ~え34~36	V	
61	Rバカガイ	L	破	4.4	*	1.73	1.74	9.0	7	あ~え34~36	V	灰集中土擴
572		L	完	6.7	9.2	2.7	3.4	38.2				灰集中土擴
573	ヒメシャコ		完	6.2	8.7	1.1	1.5	39.3	7	あ～え34	V	灰集中土擴
504		R		6.3	9.1	1.6	2.6	55.0		～36		灰集中土擴
654			破	*	*	0.9	*	*				灰集中土擴
653	リュウキュウ	L	完	5.6	8.9	0.9	1.1	56.6		あ～え34		灰集中土擴
460	サルボウ	R	完	4.3	6.2	0.7	0.9	24.8	7	～36	V	灰集中土擴
417			破	*	6.1	*	*	*				灰集中土擴
530	ヒメシャコ	L	完	4.9	6.8	1.2	1.7	20.8	7	あ～え34	V	土擴
537				6	7.1	1.2	2.2	42.4		～36		土擴
364	リュウキュウ	L	完	2.8	4	0.8	0.7	5.5	7	あ~え34~36	V	土擴
433	サルボウ	L	完	4.4	6.7	1.1	1.5	26.4		あ~え34~38		土擴
491	ヒメシャコ	R	破	7.6	10.3	*	3.2	66.3	7	い-26	V	上
84	リュウキュウ	R	完	4.4	5.9	0.96	1.44	25.4	7	い-27	V	下
397	サルボウ	L	完	4.5	6.8	0.9	1	29.9		い-35		
512	ヒメシャコ	L	完	6	9.1	1.2	1.6	45.0	7	う-26	V	
92		L	完	5.2	7.3	0.75	1.05	50.6		う-27		
100	リュウキュウ	L	完	5.1	7.6	0.97	1.32	45	7		V	最下
102	サルボウ		破	4.9	*	*	1.15	*		う-28		最下
101		R	完	4.9	6.8	0.87	1.1	33				最下
35		R	完	8.8	10.8	2.69	3.16	111.8		う-31		最下
11	ヒメシャコ	L	完	7.4	10.6	1.29	1.36	65.2	7	う・え33・34	V	灰土擴
574		R	完	3.9	5.3	0.9	1.9	11.1		う~え31~32		
409	リュウキュウ	L	完	4.6	6.2	0.7	1.4	42.7		う～え31		
658	サルボウ	R	完	3.3	3.1	0.3	0.4	5.2	7	～32	V	
410				4.7	7.2	0.6	0.8	35.3				
514	ヒメシャコ	L	完	5.5	7	0.6	0.6	△25.9	7	う～え32	V	
78	Rサルボウ	R	完	5.1	7.3	0.65	0.82	46.8	7	う～え32	V	
346	ヒメシャコ	L	破	6	*	1	1.3	36.4	7	う～え32	V	
347		R	完	4	6.2	1.4	1.2	*		～33		
579	リュウキュウ	L	完	4.4	6.8	0.6	0.9	21.1	7	う～え33	V	
123	サルボウ			4.5	5.8	0.79	1.28	20.9				
475	Rマスオガイ	L	完	5.4	7.9	1.9	2	27.2	7	う～え33	V	
119	Rサルボウ	R	完	4.1	5.7	0.43	0.69	20.2	7	う～え33	V	土擴
656	ヒメシャコ	R	完	6.2	8.9	1.5	1.9	37.7	7	う～え33	V	土擴
657			破	5.4	8.1		1.9	*				土擴
415	リュウキュウ	R	破	4.9	*	1.5	1.8	△39.8	7	う～え33	V	土擴
374	サルボウ	L	完	4.1	6.1	2.4	1.3	19.0		え-24		
69	Rマスオガイ	L	破	*	5.8	1.16	1.4	14.5	7	え-29	V	
559	Rサルボウ	R	完	4.6	7.4	0.8	1.3	34.4	7	え-30	V	上

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長径)	孔径(短径)	重量	地区	グリット	層	層備考
584	リュウキュウ	L	完	3.7	5.9	0.5	1	17.2		え-31		土擴
583	サルボウ	R	完	3.5	5	1.1	1.1	11.5	7		V	土擴
147		R	完	4.9	6.8	0.51	0.67	36.5		え-31~32		
476	メンガイ	L	完	6	6.1	3.1	3.3	17.7	7	え-34	V	
148	Rサルボウ	L	完	4.1	5.8	0.81	0.85	24.3	7	え-34	V	
40	チサラガイ	R	完	6.2	6.6	0.9	0.98	15.9	7	え-35	V	
381				5.8	8.3	1	1.3	39.0				
129		L	完	7.2	9.4	1.4	2.11	74				
490	ヒメシャコ			7.7	10.4	0.9	1.1	96.0	7	え-35	V	
521		R	完	3.1	5.5	0.9	1.5	△9.9				
422			破	7.8	*	1.4	2	98.8				
436		L	完	3	4.1	0.8	1.1	7.9				
453				4	5.5	1.6	1.4	18.0				
437				3.1	5	1	1.2	*		え-35		
438	リュウキュウ	R	完	3.1	4.6	1	0.9	8.6				
454	サルボウ			4	6.6	1	1.3	32.1	7		V	
421				4.5	6.7	1.3	1.8	29.8				
446				3.8	5.6	0.8	1.5	15.9				
445		L	完	3.9	6	1.5	1.8	17.3		東側		
447				4.2	6.2	0.5	1	21.8				
42	ヒメシャコ	L	完	4.7	6.4	1.19	1.19	21.8	7	Z-35	不明	
70	Rザルガイ	L	完	3.7	4	1.21	1.05	5.3	7	Z-35	不明	
694	ヒメシャコ	L	完	4.5	4.8	1	1.4	10.3	8	ク-4		攪乱
687	メンガイ	L	完	3.9	3.7	1	1.4	6.5	8	ク-5		攪乱
686	Rサルボウ	L	完	5.1	6.9	1	1.1	41.0	8	ク-5		攪乱
640	メンガイ	L	完	5.6	5.1	1.4	1.8	14.1	8	ケ-4		攪乱
666	ヒメシャコ	R	破	3.1	*	0.7	1.5	*	8	Z-13	IV	
659	Rサルボウ	L	完	4.3	6.5	0.9	1	31.7	8	Z-13	IV	
679	メンガイ		破	*	*	0.9	0.9	*	8	Z-13	IV	下
667		R	完	4.6	6.9	0.9	2	*		Z-14		上
668		L	破	5.9	*	1.5	2.5	△42.1				
671				5	7.5	1.3	1.7	△27.5		Z-15		下
669	ヒメシャコ	R	完	7.7	10.1	1.4	1.6	59.4	8		IV	下
670				7.7	10	2.1	2.2	90.0				下
676		L	完	7.9	11.9	1.7	2.5	133.9				下面
673				3	4.4	0.6	0.7	5.5		Z-16		上
674		R	完	5.3	7.5	1	0.9	30.4				上
675	メンガイ	L	完	6	5.3	1.6	1.5	18.6	8	Z-16	IV	上
661	リュウキュウ	L	破	4.4	*	1.5	1.9	△32.2	8	Z-17	IV	
662	サルボウ	R	完	4.5	7.1	1.6	3.5	36.0				下
681	メンガイ	L	完	6.8	6.3	1.8	1	23.5	8	Z-18	IV	下
677	ヒメシャコ	R	完	4.8	7.3	1.2	1.7	21.2	8	Z-18	IV	上
685	シレナシジミ	R	完	6.5	7.6	1.4	1.1	40.8	8	Z-19	IV	上
663	Rサルボウ	R	完	4.8	7.3	1.2	1.8	54.7	8	Z-20	IV	
678	ヒメシャコ	L	完	9.5	11.5	1.7	1.8	158.7	8	Z-21	IV	上
682	メンガイ	L	完	6.5	4.7	1.4	1	14.9	8	Z-21	IV	上
664	Rサルボウ	L	破	4.9	*	0.8	0.7	*	8	Z-22	IV	
684	メンガイ	L	完	6.3	5.5	2.2	1.6	22.9	8	Z-22	IV	上
665	Rサルボウ	L	完	4.3	8.6	2	3	△54.1	8	Z-23	IV	下

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長径)	孔径(短径)	重量	地区	グリット	層	層備考
690	ヒメシャコ	L	完	6.3	9	1.8	1.9	51.5	8	ク-3	IV	上面
693	ケイトウガ	L	完	5	4.1	1	1.1	29.9	8	ク-4	IV	上面
639	メンガイ	L	破	*	6.3	1.9	1.5	*	8	ク-4	IV	上面
697	ウチワガイ	L	完	3.9	3.7	1.1	1	10.4	8	ク-5	IV	上面
692	ヒメシャコ	L	完	3.7	4	0.6	1	6.1	8	ク-5	IV	上面
691				4.5	7.4	1.5	2.5	△24.6				上面
696	メンガイ	L	完	3.6	3.2	1	0.9	6.6	8	ク-5	IV	上面
695				6.6	5.9	1.7	1.4	27.1				上面
689	リュウキュウ	L	完	5	7.1	0.9	1.4	41.5	8	ク-5	IV	上面
688	サルボウ	R	完	4.4	6.5	1.4	2.1	29.2		ク-8		上面
632		L	完	4.8	6.9	0.8	1.1	29.1				
633	ヒメシャコ		破	*	*	0.6	1.1	*	8	ケ-4	IV	
629		R	完	5.6	8.2	1	1	42.5				
630			完	4	4.6	1	1.4	7.3				
637				4.7	4.3	1.9	1.2	*				
631	メンガイ	L		*	*	3.1	*	*	8	ケ-4	IV	
634			破	*	5.8	1	1	*				
638				*	5	1.4	1.6	△21.7				
615	リュウキュウ	L	完	4.3	7.1	0.9	1.8	33.9	8	ケ-4	IV	
622	サルボウ	R	破	4.2	*	1.6	*	*				
625	ヒメシャコ	L	完	7.9	10.4	1.6	2.3	103.5	8	ケ-4	IV	上面
636	メンガイ	L	完	9	7.8	4	2.9	*	8	ケ-4	IV	上面
627	ヒメシャコ	R	完	7	9.7	0.9	1.6	79.3	8	ケ-5	IV	上面
643	メンガイ	L	完	5.4	6.8	1	1.3	18.6	8	ケ-5	IV	上面
628	リュウキュウ	L	完	4.1	5.6	0.7	1.5	22.0	8	ケ-5	IV	上面
644	サルボウ	L	完	4.1	6.6	0.8	0.8	26.6		あ-16		
645	ヒメシャコ	L	完	4.4	6.4	0.4	1.2	16.7	8	あ-17	IV	下
619	Rサルボウ	R	完	3.8	5.9	1.5	1.1	14.0	8	あ-17	IV	上
626	ヒメシャコ	R	破	*	7.4	*	*	*	8	あ-19	IV	上
614	リュウキュウ	R	完	4.5	6.1	0.7	1.3	32.2		あ-22		下
620	サルボウ	R	完	4.3	5.8	1.6	1.3	19.4	8	あ-23	IV	
45		L	完	2.9	3.7	1.16	1.37	6.2		い-21		
648	リュウキュウ	L	完	2.3	2.1	0.4	0.4	*				
647	ザルガイ			3	2.8	0.5	0.6	2.8	8	い-21	IV	
646		R	完	3.3	2.8	0.5	0.5	5.1				
642		L	完	3.4	3.3	0.9	1.1	7.3				上
641	メンガイ			4	3.1	0.7	0.7	7.5	8	う-19	IV	上
618		R	完	3.9	3.1	0.7	0.8	10.0				上
617	リュウキュウ	L	完	4.7	6.6	1.5	1.9	36.6	8	う-19	IV	上
616	サルボウ			4.8	7.1	1.7	2.5	52.8				上
624	ヒメシャコ	L	完	8.3	11.6	2	3.4	149.8	8	う-20	IV	上
623		R	完	6.3	9.1	1.9	2.5	62.4		う-21		下
635	メンガイ	L	完	5.7	4.9	1.5	1.6	12.7	8	え-22	IV	上
680		L	破	*	*	*	*	*		Z-14	V	黒色砂層
672	ヒメシャコ	R	完	6.4	9.1	2	2.9	67.5	8	Z-15	V	上
660	Rサルボウ	R	破	3.6	*	0.9	1.1	13.8	8	Z-16	V	上
683	メンガイ	L	完	4.8	4.3	1	1.5	8.2	8	Z-19	V	上面
621	Rサルボウ	R	完	4.6	7.4	1.4	2.2	40.2	8	あ-17	V	

第29表ｃ二枚貝有孔製品（貝錘）

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
387	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	7	9.8	1.3	2.1	78.2	7	Z-32	IV	
465	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6	5.4	1.6	1.3	17.4	7	Z-32	IV	
120				6.6	6.1	3.58	3.34	29.7				
464	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.3	5.4	1.4	1.3	18.2	7	Z-32	IV	
394	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	2.8	4.1	0.7	0.8	*				
543		L	完	4	5.9	0.8	0.9	12.4		Z-33		
74	ﾋﾒｼﾞｬｺ		完	4.3	6.3	0.7	0.98	18.6	7		IV	
39		L		4.5	5.3	0.77	1.2	17.4		Z-34		
71			破	5.7	*	1.39	1.48	*				
75	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	3.2	4.6	1.11	0.91	8.4	7	Z-34	IV	
130	ｻﾙﾎﾞｳ			4.6	5.8	0.91	1.82	30.9				
149	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	8.1	10	2.15	2.44	94.1	7	Z-34	IV	最下
555	ﾒﾝｶﾞｲ		破	*	*	*	*	*	7	Z-35	IV	
406	ﾘｭｳｷｭｳ			3.3	4.7	1.5	0.9	13.0				
36	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	3.9	5.4	0.82	0.92	18.9	7	Z-35	IV	
126				4.5	5.9	1.09	0.91	26.3				最下
363	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.8	5	1.2	1.7	19.9	7	ｸ-6	IV	
561		L	完	4.2	6	0.6	0.9	21.5		ｸ-6		
562	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4.6	7.7	0.8	0.9	34.2	7		IV	
5	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.7	6.6	1.09	1.95	43.4		ｸ-8		
456		R	完	4.5	6	1.1	1.5	22.2				上面
118	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.1	7.4	0.89	1.54	37.4	7	ｸ-9	IV	
462	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	*	4.8	*	1.9	△24.4	7	ｸ-9	IV	上面
529	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.5	7.8	1.1	1.4	30.2	7	ｸ-9	IV	上面
441		L	完	3.9	5	1	0.8	14.8		ｸ-9		上面
461	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4.1	6.3	1	1.1	*				上面
97	ｻﾙﾎﾞｳ			3.3	4.6	1.38	1.91	9.6	7		IV	
98		R	完	3.5	5.1	0.76	1.22	10.1		あ-26		
107				4.8	6.6	0.83	1.09	31.5				
554	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.5	4.1	1.1	1.4	8.2	7	あ-26	IV	下
1	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.2	6.5	1.28	1.78	32.1	7	あ-27	IV	
88		L	完	4.8	7.8	1.82	2.25	35.9		あ-27		
135	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	5.2	7	0.59	1.06	34.9	7		IV	
570	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	5.3	8.5	0.5	1	58.4		あ-28		
366		R	完	3.6	6	0.8	1.1	15.7				下
49	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	4.6	4.1	1.18	1.18	10.9	7	あ-29	IV	
548	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	4.7	*	1.7	2.3	*	7	あ-29	IV	
580	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.3	4.9	1.4	1.5	*	7	あ-29	IV	下
474	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	5.4	4.9	0.4	0.8	△19.7	7	あ-30	IV	
395		L	完	4.9	7.9	1	1.5	29.0				
150	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.7	6.5	1.7	2.15	18.7	7	あ-30	IV	
396				5.4	7.9	0.7	0.9	38.8				
467				4.9	5.5	1.8	1.6	21.4				
468	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.3	5.1	1.2	1.1	18.6	7	あ-30	IV	
481				5.6	4.9	1	1.5	*				
484		R	完	5.4	5.4	1.4	2	26.6				
59	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.2	6	0.98	1.03	23.6	7	あ-30	IV	
466	ｻﾙﾎﾞｳ			5.5	8.2	1.6	1.5	46.3				
493	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	8.1	11.3	2.4	2.7	110.6	7	あ-30	IV	下

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
419	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4	6	0.8	1.3	18.3	7	あ-30	IV	最下部
418	ｻﾙﾎﾞｳ			4.1	6.9	1.3	0.9	30.7				最下部
380	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	5.7	5.1	*	0.6	*	7	あ-31	IV	
524		L	完	3.1	4.5	0.6	1	5.6				
546				4.3	6.3	1.3	1.5	14.4				
523	ﾋﾒｼﾞｬｺ			3.8	7.2	1.3	1.7	19.5	7	あ-31	IV	
542		R	完	4.4	6.5	0.7	0.7	20.5				
547				4.4	5.8	1.2	1.2	14.9				
538				4.9	7.8	1	1.5	29.0				
482	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	4.1	*	1.2	1	*	7	あ-31	IV	
389	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	3.5	5	1.1	1.2	11.2	7	あ-31	IV	
388	ｻﾙﾎﾞｳ			4.7	7.2	0.8	1.2	40.0				
516	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.1	7.2	1.4	1.3	29.5	7	あ-31	IV	最下部
539			破	6.3	*	0.9	1.6	△62.6				最下部
569	ﾘｭｳｷｭｳ			3.7	5.3	0.9	0.7	16.2				
568	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.1	5.5	1	0.9	24.9	7	あ-32	IV	
567				4.2	6.5	0.9	1.2	27.4				
571		R	完	5.9	8.2	0.9	1.2	50.6		あ-32		最下
549	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	3.3	4.6	1.3	1.8	7.3	7	あ-33	IV	
550			破	*	*	0.7	0.7	*				
414	ﾘｭｳｷｭｳ	R	破	*	6	1.2	0.8	△25.1	7	あ-33	IV	
411	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.4	6.5	0.7	0.9	28.4				最下部
483	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	*	5	2.1	2.1	*	7	あ-34	IV	
412				4	5.4	1	0.9	19.1				
457		L	完	4.6	6.5	0.8	1.6	37.0				
385	ﾘｭｳｷｭｳ			4.8	6.5	1.1	1.5	39.2	7	あ-34	IV	
425	ｻﾙﾎﾞｳ			3.6	3.9	0.9	0.9	△18.2				
413		R	完	4.2	7.5	0.8	1.3	43.9				
386				4.7	9.2	1.5	2.3	36.7				
158			完	5.7	8.4	1.55	2.05	35.6				最下
152	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R		6.4	9.3	1.92	2.73	46	7	あ-34	IV	最下
155			破	*	*	0.94	1.12	*				最下
153	ﾘｭｳｷｭｳ			4.1	6.2	0.6	1.25	19.6				最下
154	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.1	5.6	0.54	0.79	22	7	あ-34	IV	最下
365				3.4	5.1	0.7	0.8	12.3				上
544	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.2	6	0.7	0.7	17.2	7	あ-35	IV	
587		L	完	3	3.9	0.4	0.7	7.6				
403				4.2	5.8	0.9	1.1	22.7		あ-35		
404		R	完	3.9	6.2	0.9	1.3	24.6				
55	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	5.1	7.5	1.4	1.23	45.0	7	い-25	IV	最下
125	ｻﾙﾎﾞｳ			4.7	6.5	1.19	1.12	23.9				
392		R	完	4	6.8	1.2	2	21.0		い-28		最下
391				4.1	6.2	0.7	0.9	32.0				最下
393				4.2	6.4	1	1.4	*				最下
535	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	5.6	8.2	1	1.8	38.5	7	い-29	IV	
399				7.2	1	1.5	1.6	91.3				
576	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.5	6.6	0.5	0.9	28.5				
575	ｻﾙﾎﾞｳ			5	7.2	1	1.9	47.0	7	い-29	IV	
578		R	完	3.6	5.5	0.5	0.5	14.1				

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
459		L	完	3.5	5	0.8	1	11.6				
373	ﾘｭｳｷｭｳ			3.9	5.5	1.1	1	15.7				
25	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.3	6.3	1.51	0.13	22.3	7	い-30	IV	
24				4.6	6.8	0.12	1.51	27.5				
26				4.9	6.7	0.59	0.55	41.8				
498		L	完	5.8	7.9	1.7	2.5	*				
499	ﾋﾒｼﾞｬｺ		破	*	9.4	*	*	*	7	い-31	IV	
497		R	完	6.9	9	1.7	1.3	58.1				
496				7.3	11	2	2.7	98.7				
72	ﾒﾝｶﾞｲ		破	*	6	*	3.58	*	7	い-31	IV	
424	ﾘｭｳｷｭｳ			3.7	5.9	0.9	0.9	19.8				
563	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.9	6.3	0.9	0.9	23.3	7	い-31	IV	
18				4.3	5.3	0.7	0.8	22.7				
503	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	破	6.8	*	1.3	2	*	7	い-31	IV	最下
367	ﾘｭｳｷｭｳ	L	破	4.7	*	0.7	0.9	33.9	7	い-32	IV	最下部
558	ｲﾀﾔｶﾞｲ	L	完	5.2	4.7	0.7	0.6	4.6	7	い-33	IV	
4	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	3.9	5.8	0.64	1.15	10.5	7	い-33	IV	
89		L	完	4.3	5.9	1.13	1.23	14.3				
90		R	完	3.8	4.9	1.13	1.37	15.1		い-33		
17	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	3.7	4.9	0.96	1.08	12.1	7		IV	最下
16	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.7	4.6	0.91	1.01	15.4				最下
371		L	完	3.8	5.8	0.9	1.1	17.1		い-34		
470		R	完	3.6	5.1	1	2.1	12.8				
372	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	4	6.2	0.8	1.1	10.7	7	い-34	IV	
106		R	破	6	*	*	*	*				最下
525	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	*	10.5	1.3	2.1	*	7	い-34	IV	最下部
510				3.7	*	1	1.2	△10.2				最下部
370		L	完	4.4	5.8	1.3	1.2	30.9		い-34		最下部
586	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	3.6	5.4	1	0.9	12.8	7		IV	
134	ｻﾙﾎﾞｳ	L	破	4.8	*	1.24	1.01	*		い-35		最下
133		R	完	4	6	0.53	0.75	26.4				最下
479	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6	6.3	4	3.6	18.4	7	い-35	IV	最下部
485		R	完	4.8	4.3	0.8	0.9	15.8		い-38		最下
557	Rザルガイ	L	完	2.8	2.5	0.7	0.7	2.1	7	う-25	IV	下
358	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.7	9.6	1.6	1.7	55.4	7	う-25	IV	最下部
99		L	完	4.3	5.5	1.34	1.34	26.6				下
22				4.2	6	1.14	1.43	27.6				最下
20	ﾘｭｳｷｭｳ			4.3	6.4	1.07	1.19	23.5	7	う-26	IV	最下
112	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.6	7.3	0.87	1.39	43.4				最下
21				5.2	7.7	0.84	1.35	56.2				最下
23				5.5	8.2	1.42	0.21	68.6				最下
3	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.7	10.2	1.63	2.02	85.4	7	う-28	IV	
32		L	完	6.3	8.6	1.74	1.57	79.0				最下
427				4.3	6.5	0.8	1.2	△29.9				最下
127	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	5	7.1	1.01	1.11	37.9	7	う-28	IV	最下
452	ｻﾙﾎﾞｳ			5.2	7.1	0.7	1.3	47.9				最下
407		L	完	4	6.4	1.5	1.7	23.7		う-29		最下
356	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	5.7	7.7	1.1	1.6	33.2	7	う-29	IV	最下部
492				9.4	12.5	2.4	3.1	123.6				最下部

注　※は計測不可　△：残存部の計測値　「孔径（長」→孔径（長径）、「孔径（短」→「孔径（短径）」

※は計測不可、単位：㎜/g

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
419	リュウキュウ	R	完	4	6	0.8	1.3	18.3	7	あ-30	IV	最下部
418	サルボウ			4.1	6.9	1.3	0.9	30.7				最下部
380	カワラガイ	L	破	5.7	5.1	*	0.6	*	7	あ-31	IV	
524		L	完	3.1	4.5	0.6	1	5.6				
546				4.3	6.3	1.3	1.5	14.4				
523	ヒメジャコ			3.8	7.2	1.3	1.7	19.5	7	あ-31	IV	
542		R	完	4.4	6.5	0.7	0.7	20.5				
547				4.4	5.8	1.2	1.2	14.9				
538				4.9	7.8	1	1.5	29.0				
482	メンガイ	L	破	4.1	*	1.2	1	*	7	あ-31	IV	
389	リュウキュウ	L	完	3.5	5	1.1	1.2	11.2	7	あ-31	IV	
388	サルボウ			4.7	7.2	0.8	1.2	40.0				
516	ヒメジャコ	L	完	5.1	7.2	1.4	1.3	29.5	7	あ-31	IV	最下部
539			破	6.3	*	0.9	1.6	△62.6				最下部
569	リュウキュウ			3.7	5.3	0.9	0.7	16.2				
568	サルボウ	R	完	4.1	5.5	1	0.9	24.9	7	あ-32	IV	
567				4.2	6.5	0.9	1.2	27.4				
571		R	完	5.9	8.2	0.9	1.2	50.6		あ-32		最下
549	ヒメジャコ	L	完	3.3	4.6	1.3	1.8	7.3	7	あ-33	IV	
550			破	*	*	0.7	0.7	*				
414	リュウキュウ	R	破	*	6	1.2	0.8	△25.1	7	あ-33	IV	
411	サルボウ	L	完	4.4	6.5	0.7	0.9	28.4				最下部
483	メンガイ	L	破	*	5	2.1	2.1	*	7	あ-34	IV	
412				4	5.4	1	0.9	19.1				
457		L	完	4.6	6.5	0.8	1.6	37.0				
385	リュウキュウ			4.8	6.5	1.1	1.5	39.2	7	あ-34	IV	
425	サルボウ			3.6	3.9	0.9	0.9	△18.2				
413		R	完	4.2	7.5	0.8	1.3	43.9				
386				4.7	9.2	1.5	2.3	36.7				
158			完	5.7	8.4	1.55	2.05	35.6				最下
152	ヒメジャコ	R		6.4	9.3	1.92	2.73	46	7	あ-34	IV	最下
155			破	*	*	0.94	1.12	*				最下
153	リュウキュウ			4.1	6.2	0.6	1.25	19.6				最下
154	サルボウ	L	完	4.1	5.6	0.54	0.79	22	7	あ-34	IV	最下
365				3.4	5.1	0.7	0.8	12.3				上
544	ヒメジャコ	L	完	4.2	6	0.7	0.7	17.2	7	あ-35	IV	
587		L	完	3	3.9	0.4	0.7	7.6				
403				4.2	5.8	0.9	1.1	22.7		あ-35		
404		R	完	3.9	6.2	0.9	1.3	24.6				
55	リュウキュウ	R	完	5.1	7.5	1.4	1.23	45.0	7	い-25	IV	最下
125	サルボウ			4.7	6.5	1.19	1.12	23.9				
392		R	完	4	6.8	1.2	2	21.0		い-28		最下
391				4.1	6.2	0.7	0.9	32.0				最下
393				4.2	6.4	1	1.4	*				最下
535	ヒメジャコ	R	完	5.6	8.2	1	1.8	38.5	7	い-29	IV	
399				7.2	1	1.5	1.6	91.3				
576	リュウキュウ	L	完	4.5	6.6	0.5	0.9	28.5				
575	サルボウ			5	7.2	1	1.9	47.0	7	い-29	IV	
578		R	完	3.6	5.5	0.5	0.5	14.1				

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
459		L	完	3.5	5	0.8	1	11.6				
373	リュウキュウ			3.9	5.5	1.1	1	15.7				
25	サルボウ	R	完	4.3	6.3	1.51	0.13	22.3	7	い-30	IV	
24				4.6	6.8	0.12	1.51	27.5				
26				4.9	6.7	0.59	0.55	41.8				
498		L	完	5.8	7.9	1.7	2.5	*				
499	ヒメジャコ		破	*	9.4	*	*	*	7	い-31	IV	
497		R	完	6.9	9	1.7	1.3	58.1				
496				7.3	11	2	2.7	98.7				
72	メンガイ		破	*	6	*	3.58	*	7	い-31	IV	
424	リュウキュウ			3.7	5.9	0.9	0.9	19.8				
563	サルボウ	R	完	3.9	6.3	0.9	0.9	23.3	7	い-31	IV	
18				4.3	5.3	0.7	0.8	22.7				
503	ヒメジャコ	R	破	6.8	*	1.3	2	*	7	い-31	IV	最下
367	リュウキュウ	L	破	4.7	*	0.7	0.9	33.9	7	い-32	IV	最下部
558	イタヤガイ	L	完	5.2	4.7	0.7	0.6	4.6	7	い-33	IV	
4	ヒメジャコ	L	完	3.9	5.8	0.64	1.15	10.5	7	い-33	IV	
89		L	完	4.3	5.9	1.13	1.23	14.3				
90		R	完	3.8	4.9	1.13	1.37	15.1		い-33		
17	リュウキュウ	L	完	3.7	4.9	0.96	1.08	12.1	7		IV	最下
16	サルボウ	R	完	3.7	4.6	0.91	1.01	15.4				最下
371		L	完	3.8	5.8	0.9	1.1	17.1		い-34		
470		R	完	3.6	5.1	1	2.1	12.8				
372	リュウキュウ	R	完	4	6.2	0.8	1.1	10.7	7	い-34	IV	
106		R	破	6	*	*	*	*				最下
525	ヒメジャコ	L	破	*	10.5	1.3	2.1	*	7	い-34	IV	最下部
510				3.7	*	1	1.2	△10.2				最下部
370		L	完	4.4	5.8	1.3	1.2	30.9		い-34		最下部
586	リュウキュウ	R	完	3.6	5.4	1	0.9	12.8	7		IV	
134	サルボウ	L	破	4.8	*	1.24	1.01	*		い-35		最下
133		R	完	4	6	0.53	0.75	26.4				最下
479	メンガイ	L	完	6	6.3	4	3.6	18.4	7	い-35	IV	最下部
485		R	完	4.8	4.3	0.8	0.9	15.8		い-38		最下
557	Rザルガイ	L	完	2.8	2.5	0.7	0.7	2.1	7	う-25	IV	下
358	ヒメジャコ	R	完	6.7	9.6	1.6	1.7	55.4	7	う-25	IV	最下部
99		L	完	4.3	5.5	1.34	1.34	26.6				下
22				4.2	6	1.14	1.43	27.6				最下
20	リュウキュウ			4.3	6.4	1.07	1.19	23.5	7	う-26	IV	最下
112	サルボウ	R	完	4.6	7.3	0.87	1.39	43.4				最下
21				5.2	7.7	0.84	1.35	56.2				最下
23				5.5	8.2	1.42	0.21	68.6				最下
3	ヒメジャコ	R	完	7.7	10.2	1.63	2.02	85.4	7	う-28	IV	
32		L	完	6.3	8.6	1.74	1.57	79.0				最下
427				4.3	6.5	0.8	1.2	△29.9				最下
127	リュウキュウ	R	完	5	7.1	1.01	1.11	37.9	7	う-28	IV	最下
452	サルボウ			5.2	7.1	0.7	1.3	47.9				最下
407		L	完	4	6.4	1.5	1.7	23.7		う-29		最下
356	ヒメジャコ	R	完	5.7	7.7	1.1	1.6	33.2	7	う-29	IV	最下部
492				9.4	12.5	2.4	3.1	123.6				最下部

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
353	リュウキュウ	L	完	3.9	5.5	0.9	0.9	17.3				最下部
355	サルボウ	L	破	*	*	0.8	1.5	*	7	う-29	IV	最下部
354		R	完	4.5	6.9	0.9	1.2	34.1				最下部
527	ヒメジャコ	L	破	7	*	1.3	1.8	*	7	う-30	IV	
528	メンガイ	L	完	4.5	4.6	2.4	1.7	7.0	7	う-30	IV	
10				4.4	6.1	0.94	1.44	17.1				
9		L	完	4.9	6.7	0.92	1.54	21.4				
8	ヒメジャコ			6.5	8.6	1.44	1.71	58.2	7	う-31	IV	
500				6.6	8.8	0.9	1.6	△45.2				
501		R	完	3.6	5	0.5	0.7	9.9				
502			破	4	*	1.1	1	*				
47	カワラガイ	R	完	4.4	4	0.99	0.74	9.8	7	う-31	IV	最下
48	ソメワケグリ	L	破			1.02	0.88	11.9	7	う-31	IV	最下
157		L	完	5.9	8.1	1.19	1.27	36.8				最下
534	ヒメジャコ			6.1	9	1.1	1.4	48.0	7	う-31	IV	最下
489		R	完	7.3	10.4	1.6	1.7	114.3				最下
104	リュウキュウ	L	完	4.5	6	1.57	1.39	24.5				最下
105	サルボウ			4.8	7.7	0.64	1.47	38.2	7	う-31	IV	最下
103		R	完	5.3	7.4	0.72	1.33	67.1				最下
553	ヒメジャコ	L	完	3.1	4.6	0.9	1.4	*	7	う-32	IV	最下
536		R	完	3.8	5.4	0.8	0.8	14.4				最下
434	リュウキュウ	R	完	4.4	7.3	0.9	1.3	32.8		う-32		最下
82	サルボウ	L	完	3.4	4.4	0.78	0.71	10.8	7	う-34	IV	最下
83		R	完	4.8	6.5	0.81	1.07	33.8				最下
350	ヒメジャコ	L	完	6.1	7.4	0.6	0.8	30.3	7	う-35	IV	最下
349			破	*	*	1	1	*				最下
7	リュウキュウ	R	完	4.9	5.4	0.85	0.92	17.3	7	う-35	IV	最下
402	サルボウ	R	完	4.1	5.7	1.5	1.4	19.7		え-24		最下部
156	ヒメジャコ	R	完	4.5	6.9	1.09	1.22	19.3	7	え-28	IV	
585	Rサルボウ	L	破	*	7.2	0.6	0.9	*	7	え-29	IV	
488	メンガイ	L	完	4.7	4.4	1.7	2.1	13.8	7	え-29	IV	最下
487		R	完	5.8	5.4	1.1	0.9	23.7				最下
132	リュウキュウ	L	完	3.7	4.4	1.15	1.05	13.6				最下
420	サルボウ			4.8	7.5	2.3	2.3	35.3	7	え-29	IV	最下
131		R	完	4.2	5.7	1.46	1.64	15.5				最下
463	カワラガイ	R	破	4.5	*	1	0.7	*	7	え-30	IV	
80	リュウキュウ	R	完	4.3	5.9	1.25	1.36	18.1				
143	サルボウ	L	完	3.9	5.3	1.02	0.91	16.6	7	え-30	IV	最下
442		R	完	3.1	4.7	1	1.3	*				最下
2		R	完	4.4	6.8	1.04	1.56	22				
136	ヒメジャコ	L	完	7.2	8.9	1.77	1.79	92.3	7	え-31	IV	最下
506		R	完	4.6	6.5	1	1.8	17.9				最下
137	リュウキュウ	L	完	4.1	5.8	0.76	0.93	22	7	え-31	IV	最下
30	サルボウ	R	完	4.1	5.3	1.12	1.18	21.4				最下
383	ヒメジャコ	L	完	6.5	9.4	1.9	2.5	82.3	7	え-32	IV	
513	シラナミ	R	破	*	9.6	*	*	*	7	え-32	IV	最下
79	ハイガイ	R	完	3.2	3.5	0.76	1.21	10.0	7	え-32	IV	最下
95	ヒメジャコ	L	完	4.4	6	0.6	0.83	17.7	7	え-32	IV	最下
68				4.6	6	0.89	1.24	18.9				最下

短」→「孔径（短径）」

第29表ｄ二枚貝有孔製品（貝錘）

No.	貝種	ﾘﾄ	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
253	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	6.9	*	2.1	2.4	*	6	X-34	IV	最下部
284	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	4.8	4.3	0.6	0.7	12.4	6	X-35	IV	
288	ﾁｮｳｾﾝﾊﾏｸﾞﾘ	L	完	2.9	3.5	0.9	0.8	3.9	6	X-35	IV	
340		L	完	3.9	5.6	1.2	0.9	12.0				
344	ﾋﾒｼﾞｬｺ		破	*	8	*	*	*	6	X-35	IV	
324		R	完	4.4	6	0.8	1.2	14.5				
274				5.8	8.9	1.5	2.3	39.7				
229		L	完	4.5	7.7	0.7	0.7	*				
215	ﾘｭｳｷｭｳ			4.5	6.7	1.8	1.9	26.2	6	X-35	IV	
782	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.3	4.9	0.8	1.3	14.7				
226				3.7	5.1	1.2	1.4	15.2				
231	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	3.6	5.6	1	1	11.9	6	X-35	IV	最下部
230	ﾒﾝｶﾞｲ	R	完	6.6	8.8	0.8	1.2	60.7	6	X-35	IV	最下部
341	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.7	5.5	0.7	0.8	18.1	6	X-35	IV	最下部
329	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.4	7.2	0.5	0.6	20.4	6	Y-28	IV	
278	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6.8	5.9	1.4	0.9	33.6	6	Y-28	IV	最下部
282		L	完	6.5	9.7	2.5	2.7	61.1		Y-30		
268	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.3	11.6	2.1	2.6	92.1	6	Y-31	IV	
316		L	完	7	10.8	1.4	1.8	90.4		Y-32		
781	ｼﾗﾅﾐ	R	完	8	11.8	1.9	2.8	116.0	6	Y-32	IV	最下部
218			完	4	5.7	1	1.2	14.2				
291	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L		4.6	5.7	1.4	1.7	18.6	6	Y-33	IV	
246			破	*	8.8	*	2.6	*				
290		L	完	4.4	6.2	1.4	1.6	25.8				
285	ﾘｭｳｷｭｳ			4.6	6.9	0.6	0.8	28.8	6	Y-33	IV	
339	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.6	4.9	1	1.3	13.1				
258				5.1	7.3	0.8	1	35.7				
292	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.2	6.8	0.8	1.1	18.2	6	Y-34	IV	
301			破		5		1	*				
294	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5	5.2	1.1	1.9	11.5	6	Y-34	IV	
43	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.2	5.6	0.85	0.81	23.4				
46	ｻﾙﾎﾞｳ			5.2	7.3	1.28	1.28	53.2	6	Y-34	IV	
293		R	完	4.3	6.2	1.5	1.3	30.7				
297		L	完	7.3	10	2	2.1	88.1				
315				3.7	5.7	0.8	1.3	14.5				
323	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	5.3	7.3	1.1	1.6	26.3	6	Y-35	IV	
243				5.4	7	1.6	1.6	34.6				
234				5.5	8.3	0.8	1.3	38.8				
322	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.8	4.3	1	1.1	6.6	6	Y-35	IV	
269				3.1	4.6	1.1	1.2	11.1				
313		L	完	4.2	5.7	0.9	1	22.5				
319				4.7	7.9	1.8	1.8	48.4				
217				4.9	8.5	1.5	3	51.1				
321	ﾘｭｳｷｭｳ			3.4	5.2	1.5	1.6	10.7	6	Y-35	IV	
270	ｻﾙﾎﾞｳ			3.5	4.5	1.1	0.8	13.4				
314		R	完	3.6	5.1	1	1.1	13.9				
320				3.7	5.2	1.1	1.1	14.5				
242				4.3	6.3	0.6	0.8	22.4				
318				4.7	7.1	1.8	1.8	33.4				

No.	貝種	ﾘﾄ	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
310	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5	4.2	0.9	0.7	10.5	6	ｶ-6	IV	
336	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	破	4.8	*	0.7	0.7	45.9	6	ｶ-6	IV	上面
266	ｶﾜﾗｶﾞｲ	R	完	3.1	3.3	1	0.6	6	6	ｷ-6	IV	
330	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.2	6.6	0.9	0.8	*	6	ｷ-6	IV	
263	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4	3.6	1	1.2	7.2	6	ｷ-6	IV	
326				5.4	4.6	1.2	1.2	12.9				
232		L	完	4	6.1	0.7	1.3	20.7				
261	ﾘｭｳｷｭｳ			4.1	7.3	1.4	0.9	35	6	ｷ-6	IV	
289	ｻﾙﾎﾞｳ	R	破	4.2	*	0.5	0.7	*				
328		L	完	4	5.4	1.5	1.1	14.2		ｷ-7		上面
343	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	*	4.3	0.6	0.9	*	6	ｷ-8	IV	
337		R	破	*	3.6	0.4	0.4	*				
300		L	完	3.7	4.7	1	1	6.5				
221	ﾋﾒｼﾞｬｺ			3.8	5.3	1.5	2	3.7	6	ｷ-8	IV	
264		R	完	5	7	0.5	0.7	20.4				
265				5	6.6	1.2	1.4	25.6				
222		L	完	4.4	5.1	1.4	1.2	27.7				
225	ﾘｭｳｷｭｳ		破	*	*	0.7	0.9	*				
224	ｻﾙﾎﾞｳ		完	3.7	5.1	1.2	1.3	12.9	6	ｷ-8	IV	
227		R	破	*	*	0.9	0.9	*				上面
279				*	*	0.9	0.9	*				上面
248	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.1	3.3	0.9	0.8	5.2	6	ｷ-9	IV	上面
295	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7	9.3	2.1	2	59.2	6	ｷ-7	IV	
302	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	5.9	5	1.5	1	18.8	6	U-33	V	上
259	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	7.1	*	1.5	0.19	*	6	V-32	V	上
37	ﾊｲｶﾞｲ	R	完	3.5	3.8	1.15	1.14	11.4	6	V-35	V	
777	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6	9.6	1.7	2.4	57.2	6	W-35	V	
335	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	5	7.6	1	0.9	48.5	6	X-30	V	上
303		L	完	5	7.2	1	2	23.5		X-33		Pit5
29		L	完	5.3	9	1	1.5	*	6		V	
776				5.5	8.9	1	1.7	38.0		X-35		
260		R	完	5.3	7.1	0.7	1.2	24.4				上
745	ﾋﾒｼﾞｬｺ			5.8	9.3	1.7	2.5	34.9				南西トレンチ
744				6	7.8	1.2	2	24.5				南西トレンチ
741		R	完	4.3	6.1	0.7	0.9	15.4	7			南西区廃土
742				6.1	9	0.8	0.7	43.5				南西区廃土
743				8.1	12.8	1.3	1.9	157.7				廃土
526		R	完	6.9	10	1.3	2.1	68.0		Z-29		
375	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	3.8	3.6	1.1	0.9	*	7	Z-31		攪乱
533		L	完	4.4	6.6	0.9	1.3	17.0				
117	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.2	8.3	1.06	1.67	40.8	7	Z-35		
540			破	*	*	1	1.7	*				
73	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.2	5.2	1.01	0.96	22.7	7	Z-35		
486		R	完	5.7	4.5	1.4	1.5	20.5				
351	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.5	7.3	1.5	1.9	29.4				
439	ｻﾙﾎﾞｳ		破	*	*	1.3	1.6	*	7	Z-35		
108		R	完	3.8	4.8	0.7	0.67	12.7				
384	ｶﾜﾗｶﾞｲ	R	破	*	*	0.9	1	*	7	Z-35		黒色砂まじり
477	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.9	5.1	2.1	1.6	18.0	7	Z-35		南西トレンチ

No.	貝種	ﾘﾄ	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
449	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	5	8	1.8	2.9	28.3	7	あ~え31~32		
473	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	*	*	1	0.8	*	7	い-26		攪乱
505	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.4	9.4	1.2	1.4	71.9	7	い-27		攪乱
382	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.1	6.2	0.9	1.4	24.2	7	う-26		
740	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	*	4.2	*	1.6	*	7	南29-35		南西トレンチ
250	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	3.3	3.2	0.8	0.8	3.9	7	T.T.7	I	
508	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	4.5	*	0.7	0.6	*	7	い-25	I	
54	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	5.8	7.7	0.65	0.84	74.5	7	い-33	I	
142	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.6	9.1	2.28	2.53	66.2	7	う-27	I	
480	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6	5.6	3.1	2.2	15.8	7	う-28	I	
469	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.5	6.4	0.4	0.8	28.5	7	う-28	I	
444	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	5	7	1	1.3	33.4	7	う-32	I	
455	ﾘｭｳｷｭｳ		完	3.9	5.3	1.1	1.9	12.5				
443	ｻﾙﾎﾞｳ	L	破	*	*	1.7	2.1	*	7	う-32	I	
582				*	*	0.5	0.5	*				
520	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	*	*	1.9	*	*	7	う-33	I	
140		R	完	3.7	4.8	0.74	0.92	13.3		う-33		
440	ﾘｭｳｷｭｳ	R	破	*	*	0.8	1.1	*	7	え-26	I	
87	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.1	5.3	1.44	1.24	14		え-28		
86				4.2	5.9	0.61	1.28	26.7				
560	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	4.6	3.8	1	1.1	11.3	7	え-30	I	
577	Rｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.1	6	1.9	1.3	24.7	7	え-30	I	
507	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.7	7	1.2	1.4	20.7	7	え-31	I	
160		R	破	4.7	*	0.43	1.02	*		え-33		
478	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.4	5.3	3.1	2.9	11.8	7	え-33	I	
423	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	3.1	4.9	0.8	0.9	10.3		え-33		
159	ｻﾙﾎﾞｳ			3.9	4.9	2.06	1.89	14	7		I	
6		R	完	4.8	7.4	1.61	1.83	26.5		え-34		
545	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4	5.7	0.8	0.7	14.2	7	え-35	I	
121	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.5	5.4	0.93	0.95	26.5	7	え-35	I	
734	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	6	9.2	1.6	2.5	35.7	7		II	T.T.
725				4.2	4	1.1	1.3	6.4				T.T.7
723				4.9	4.6	1.9	1.4	14.5				T.T.7
724				5	4.6	1.9	2.1	12.1				T.T.7
722				5.2	5.7	1.7	2	23.0				T.T.7
721			完	5.5	5.2	1.9	1.9	20.1				T.T.7
727	ﾒﾝｶﾞｲ	L		5.6	5.6	1.6	2	22.7	7		II	T.T.7
729				6	4.5	0.6	1	*				T.T.7
730				6.1	5.5	1.7	1.7	30.1				T.T.7
731				6.2	5.7	1.5	1.5	20.5				T.T.7
726				6.4	6.8	3	2.6	36.6				T.T.7
728			破	*	5.5	1.3	1.4	*				T.T.7
732	Rｻﾙﾎﾞｳ	L	完	3.5	4.9	1.1	1.4	9.6	7		II	T.T.7
736	Rｻﾙｶﾞｲ	R	完	4.6	4.1	0.5	0.6	11.9	7		II	T.T.7
739	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.8	5.6	1.1	1.1	17.6	7		II	T.T.9
733				6	5.6	1.6	1.8	16.7				T.T.9
494	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	7.9	11.1	1.9	1.4	11.5	7		II	溝状攪乱
495		R	完	7.5	10.9	2.2	2.9	*				溝状攪乱
378	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.8	4.8	1.2	1.5	11.7	7		II	溝状攪乱

注　※は計測不可　△：残存部の計測値　「孔径（長」→孔径（長径）、「孔径（短」→「孔径（短径）」

※は計測不可、単位：mm/g

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
310	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5	4.2	0.9	0.7	10.5	6	カ-6	Ⅳ	
336	Rサルボウ	L	破	4.8	＊	0.7	0.7	45.9	6	カ-6	Ⅳ	上面
266	ｶﾜﾗｶﾞｲ	R	完	3.1	3.3	1	0.6	6	6	キ-6	Ⅳ	
330	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	5.2	6.6	0.9	0.8	＊	6	キ-6	Ⅳ	
263	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4	3.6	1	1.2	7.2	6	キ-6	Ⅳ	
326				5.4	4.6	1.2	1.2	12.9				
232		L	完	4	6.1	0.7	1.3	20.7				
261	ﾘｭｳｷｭｳ			4.1	7.3	1.4	0.9	35	6	キ-6	Ⅳ	
289	ｻﾙﾎﾞｳ	R	破	4.2	＊	0.5	0.7	＊				
328		L	完	4	5.4	1.5	1.1	14.2		キ-7		上面
343	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	＊	4.3	0.6	0.9	＊	6	キ-8	Ⅳ	
337		R	破	＊	3.6	0.4	0.4	＊				
300		L	完	3.7	4.7	1	1	6.5				
221	ﾋﾒｼﾞｬｺ			3.8	5.3	1.5	2	3.7	6	キ-8	Ⅳ	
264		R	完	5	7	0.5	0.7	20.4				
265				5	6.6	1.2	1.4	25.6				
222		L	完	4.4	5.1	1.4	1.2	27.7				
225	ﾘｭｳｷｭｳ		破	＊	＊	0.7	0.9	＊				
224	ｻﾙﾎﾞｳ		完	3.7	5.1	1.2	1.3	12.9	6	キ-8	Ⅳ	
227		R	破	＊	＊	0.9	0.9	＊				上面
279				＊	＊	0.9	0.9	＊				上面
248	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.1	3.3	0.9	0.8	5.2	6	キ-9	Ⅳ	上面
295	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7	9.3	2.1	2	59.2	6	キ-7	Ⅳ	
302	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	5.9	5	1.5	1	18.8	6	U-33	Ⅴ	上
259	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	7.1	＊	1.5	0.19	＊	6	V-32	Ⅴ	上
37	ﾊｲｶﾞｲ	R	完	3.5	3.8	1.15	1.14	11.4	6	V-35	Ⅴ	
777	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6	9.6	1.7	2.4	57.2	6	W-35	Ⅴ	
335	Rサルボウ	L	完	5	7.6	1	0.9	48.5	6	X-30	Ⅴ	上
303		L	完	5	7.2	1	2	23.5		X-33		Pit5
29		L	完	5.3	9	1	1.5	＊	6		Ⅴ	
776				5.5	8.9	1	1.7	38.0		X-35		
260		R	完	5.3	7.1	0.7	1.2	24.4				上
745	ﾋﾒｼﾞｬｺ			5.8	9.3	1.7	2.5	34.9				南西トレンチ
744				6	7.8	1.2	2	24.5				南西トレンチ
741		R	完	4.3	6.1	0.7	0.9	15.4	7			南西区廃土
742				6.1	9	0.8	0.7	43.5				南西区廃土
743				8.1	12.8	1.3	1.9	157.7				廃土
526		R	完	6.9	10	1.3	2.1	68.0		Z-29		
375	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	3.8	3.6	1.1	0.9	＊	7	Z-31		攪乱
533		L	完	4.4	6.6	0.9	1.3	17.0				
117	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.2	8.3	1.06	1.67	40.8	7	Z-35		
540			破	＊	＊	1	1.7	＊				
73	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.2	5.2	1.01	0.96	22.7	7	Z-35		
486		R	完	5.7	4.5	1.4	1.5	20.5				
351	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.5	7.3	1.5	1.9	29.4				
439	ｻﾙﾎﾞｳ		破	＊	＊	1.3	1.6	＊	7	Z-35		
108		R	完	3.8	4.8	0.7	0.67	12.7				
384	ｶﾜﾗｶﾞｲ	R	破	＊	＊	0.9	1	＊	7	Z-35		黒色砂まじり
477	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.9	5.1	2.1	1.6	18.0	7	Z-35		南西トレンチ

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
449	Rサルボウ	R	完	5	8	1.8	2.9	28.3	7	あ~え31~32		
473	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	破	＊	＊	1	0.8	＊	7	い-26		攪乱
505	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.4	9.4	1.2	1.4	71.9	7	い-27		攪乱
382	Rサルボウ	R	完	4.1	6.2	0.9	1.4	24.2	7	う-26		
740	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	*	4.2	*	1.6	＊	7	南29-35		南西トレンチ
250	Rサルボウ	R	完	3.3	3.2	0.8	0.8	3.9	7	T.T.7	Ⅰ	
508	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	4.5	＊	0.7	0.6	＊	7	い-25	Ⅰ	
54	Rサルボウ	L	完	5.8	7.7	0.65	0.84	74.5	7	い-33	Ⅰ	
142	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	6.6	9.1	2.28	2.53	66.2	7	う-27	Ⅰ	
480	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	6	5.6	3.1	2.2	15.8	7	う-28	Ⅰ	
469	Rサルボウ	R	完	4.5	6.4	0.4	0.8	28.5	7	う-28	Ⅰ	
444	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	5	7	1	1.3	33.4	7	う-32	Ⅰ	
455	ﾘｭｳｷｭｳ		完	3.9	5.3	1.1	1.9	12.5				
443	ｻﾙﾎﾞｳ	L	破	＊	＊	1.7	2.1	＊	7	う-32	Ⅰ	
582				＊	＊	0.5	0.5	＊				
520	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	＊	＊	1.9	＊	＊	7	う-33	Ⅰ	
140		R	完	3.7	4.8	0.74	0.92	13.3		う-33		
440	ﾘｭｳｷｭｳ	R	破	＊	＊	0.8	1.1	＊	7	え-26	Ⅰ	
87	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.1	5.3	1.44	1.24	14		え-28		
86				4.2	5.9	0.61	1.28	26.7				
560	ｶﾜﾗｶﾞｲ	L	完	4.6	3.8	1	1.1	11.3	7	え-30	Ⅰ	
577	Rサルボウ	R	完	4.1	6	1.9	1.3	24.7	7	え-30	Ⅰ	
507	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4.7	7	1.2	1.4	20.7	7	え-31	Ⅰ	
160		R	破	4.7	＊	0.43	1.02	＊		え-33		
478	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.4	5.3	3.1	2.9	11.8	7	え-33	Ⅰ	
423	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	3.1	4.9	0.8	0.9	10.3		え-33		
159	ｻﾙﾎﾞｳ			3.9	4.9	2.06	1.89	14	7		Ⅰ	
6		R	完	4.8	7.4	1.61	1.83	26.5		え-34		
545	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	4	5.7	0.8	0.7	14.2	7	え-35	Ⅰ	
121	Rサルボウ	L	完	4.5	5.4	0.93	0.95	26.5	7	え-35	Ⅰ	
734	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	6	9.2	1.6	2.5	35.7	7		Ⅱ	T.T.
725				4.2	4	1.1	1.3	6.4				T.T.7
723				4.9	4.6	1.9	1.4	14.5				T.T.7
724				5	4.6	1.9	2.1	12.1				T.T.7
722				5.2	5.7	1.7	2	23.0				T.T.7
721			完	5.5	5.2	1.9	1.9	20.1				T.T.7
727	ﾒﾝｶﾞｲ	L		5.6	5.6	1.6	2	22.7	7		Ⅱ	T.T.7
729				6	4.5	0.6	1	＊				T.T.7
730				6.1	5.5	1.7	1.7	30.1				T.T.7
731				6.2	5.7	1.5	1.5	20.5				T.T.7
726				6.4	6.8	3	2.6	36.6				T.T.7
728			破	*	5.5	1.3	1.4	＊				T.T.7
732	Rサルボウ	L	完	3.5	4.9	1.1	1.4	9.6	7		Ⅱ	T.T.7
736	Rザルガイ	R	完	4.6	4.1	0.5	0.6	11.9	7		Ⅱ	T.T.7
739	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.8	5.6	1.1	1.1	17.6	7		Ⅱ	T.T.9
733				6	5.6	1.6	1.8	16.7				T.T.9
494	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	7.9	11.1	1.9	1.4	11.5	7		Ⅱ	溝状攪乱
495		R	完	7.5	10.9	2.2	2.9	＊				溝状攪乱
378	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	4.8	4.8	1.2	1.5	11.7	7		Ⅱ	溝状攪乱

No.	貝種	R/L	残存	殻高	殻長	孔径(長	孔径(短	重量	地区	グリット	層	層備考
379	ﾒﾝｶﾞｲ	L	破	6.1	＊	2.6	2.8	＊	7		Ⅱ	溝状攪乱
408	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	3.4	4.7	0.8	0.9	12.6	7		Ⅱ	溝状攪乱
448	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	5.5	7.7	0.9	0.9	52.3				溝状攪乱
146		L	完	4.5	6.7	0.71	0.91	26.4				溝状攪乱
144	ﾋﾒｼﾞｬｺ			5.2	7.8	1.07	1	29.9	7	不明	Ⅱ	溝状攪乱
145		R	完	4.7	7.2	0.91	1.02	25				溝状攪乱
139	Rサルボウ	R	完	4.5	6.1	0.71	0.74	30.3	7	不明	Ⅱ	溝状攪乱
709				4.5	6.9	1.5	2.1	18.2				T.T.6
712		L	完	5.3	8.6	1.4	2.2	＊				T.T.6
710	ﾋﾒｼﾞｬｺ			5.4	8.4	1.7	1.7	△34.5	7		Ⅳ	T.T.6
711				7.1	9.4	1.5	1.8	57.7				T.T.6
708		R	完	5.5	9	1.4	2.7	39.2				T.T.6
713	ﾘｭｳｷｭｳ	L	完	4.3	6.9	1.2	2	29.8	7		Ⅳ	T.T.6
735	ｻﾙﾎﾞｳ	R	完	4.4	7.4	0.8	1.9	30.2				T.T.6
714			完	4.6	6.5	1.6	2.4	17.6				T.T.7
715	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	破	＊	7.9	2	1.9	＊	7		Ⅳ	T.T.7
716				＊	8.2	＊	＊	＊				T.T.7
737	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	3.5	4.9	0.9	1.4	14.7				T.T.8
738	ｻﾙﾎﾞｳ	L	完	4.3	6.5	1.9	1.9	22.1	7		Ⅳ	T.T.9
113		R	完	4.9	6.8	1.65	1.76	22.7		Z-25		
361	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	破	＊	＊	1.5	2	＊	7	Z-27	Ⅳ	
44	ソメワケグリ	L	完	3	2.8	0.72	0.63	4.6	7	Z-28	Ⅳ	
398	Rサルボウ	L	完	4.9	7.2	0.7	1.2	23.8	7	Z-28	Ⅳ	下
551	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	破	3.9	＊	1	1	△15.0	7	Z-29	Ⅳ	
552				4.3	＊	0.9	0.9	＊				
556	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.2	4.3	2	2.1	＊	7	Z-29	Ⅳ	
435	Rサルボウ	L	完	5	7.4	2.4	2.4	40.5	7	Z-29	Ⅳ	
91		L	完	5.9	7.3	1.36	1.44	38.9				
522	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	3.6	5.3	0.9	1.1	9.4	7	Z-30	Ⅳ	
428				8	10.9	2.2	2.5	148.5				
138				4.5	6.6	0.92	1.15	29.7				
430		L	完	4.6	6.9	0.9	0.9	27.7				
116	ﾘｭｳｷｭｳ			4.7	6.9	0.62	1.08	39	7	Z-30	Ⅳ	
400	ｻﾙﾎﾞｳ		完	4.1	6.8	1.6	3.2	28.4				
429		R		5.3	6.9	0.7	1.2	42.2				
431			破	＊	7.5	＊	2.1	＊				
51	ﾋﾒｼﾞｬｺ	R	完	7.8	10.8	1.2	1.5	190	7	Z-30	Ⅳ	下
115	ﾘｭｳｷｭｳ	R	完	3.9	5.6	0.92	1.18	17.1	7	Z-30	Ⅳ	下
114	ｻﾙﾎﾞｳ			4.1	5.4	0.81	1.04	18.4				下
360	ｼﾗﾅﾐ	L	破	＊	＊	＊	2.3	＊	7	Z-31	Ⅳ	
50			完	4.1	6.3	1.17	1.55	15.4				
377	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L		4.1	5.6	1	1.3	15.9	7	Z-31	Ⅳ	
359			破	＊	＊	＊	＊	＊				
517				＊	9.4	＊	＊	＊				
362	ﾒﾝｶﾞｲ	L	完	5.6	4.5	1.1	1.2	17.9	7	Z-31	Ⅳ	
15	Rサルボウ	R	完	4.7	6.6	1.3	1.73	24.4	7	Z-31	Ⅳ	最下
519		L	破	＊	9	＊	2.4	＊		Z-31		最下部
52	ﾋﾒｼﾞｬｺ	L	完	4.4	6.3	0.84	0.85	17.1	7	Z-32	Ⅳ	
13				6.1	9.2	1.02	1.74	61.8				

種はカワラガイ（８点）とその破片（11点）、シラナミ（２点）、チョウセンハマグリ（１点）、シレナシジミ（１点）とその破片（３点）、ヒメジャコ（227点）とその破片（50点）、チサラガイ（１点）、ソメワケグリ（１点）とその破片（１点）、メンガイ（97点）とその破片（24点）、リュウキュウサルボウ（292点）とその破片（35点）、イタヤガイ（１点）、ウチワガイ（２点）、ケイトウガイ（１点）、ハイガイ（２点）、ヒレジャコ破片（１点）、リュウキュウザルガイ（17点）とその破片（２点）、リュウキュウバカガイ破片（１点）、リュウキュウマスオガイ（４点）とその破片（１点）、その他の不明貝（２点）など17種類がみられた。

地区別では、４地区が529点と最も多く得られ、続いて５地区が113点、２地区が56点、６地区１点、１・３地区が出土していない状況がある。他は表土や撹乱層から90点余り出土している。

４．装飾品

装飾品として考えられるものには貝製小玉、巻貝有孔製品、半輪状製品貝輪47点（オオツタノハ製貝輪15点、オオベッコウガサガイ製貝輪２点、メンガイ製貝輪１点、シャコガイ製貝輪１点、ゴホウラ製貝輪19点、イモガイ製貝輪９点）、（イモガイ製円盤状製品１点、サラサバテイラ製有孔製品１点、貝札５点）であった。貝輪の47点の中には未成品や失敗品も含めてある。また、イモガイ製貝輪については粗割りから完成品までの流れを窺い知ることの出来る資料が得られたのでこれをイモガイ製貝輪の点数に含めてあり、これを図化した。

装飾品の中では貝輪が最も多く、使用した貝種も６種類におよんでいる。

イ．貝製小玉

マガキガイ、イモガイなどの自然の丸い螺塔部を素材とし、当該円盤の中央に孔を穿った製品である。大きさは大小認められバリエーションがある。総数26点出土している。地区別にはイ地区のⅢ層に集中して検出された。代表的なものを第56図１～６に図化した。

ロ．巻貝有孔製品

・イモガイ科

第56図８はゴマフイモを材料に体層に貫通する粗孔を穿っている。全体に水磨を受けたように磨滅がすすみ手触りではスムーズになる。殻長5.1cm、殻径3.1cm、重量26ｇ。表裏に対応するように2.0×1.4cmと1.4×0.7cmの孔が穿たれている。６地区Ⅳ層より出土。

同図９は体層部に敲打により粗孔が穿たれて、製品としてはやや粗製品であるが、殻頂部に貫通する小孔がみられる。殻は全体に風化している。殻長6.0cm、殻径4.1cm、重量32ｇ。粗孔3.6×1.9cm、小孔0.4×0.4cm、４地区Ⅳ層出土。

同図10はユキゲイモを素材としてた製品で、対応する体層面を砥磨し孔を穿っている。ただ特に孔に集中して整形してはいない。殻長3.9cm、殻径2.3cm、重量4.5ｇ、大きい孔が1.8×0.8cm、小さい孔が1.4×0.5cm。６地区Ⅳ層より出土。

同図12はクロミナシを使用し、対応する体層面と殻頂部に砥磨による孔を穿った製品である。殻長4.3cm、殻径2.8cm、重量7.7ｇ、側面の大きい孔が2.8×1.3cm、小さい孔が2.9×1.2cm。殻頂部の孔径0.7×0.7cm。７地区Ⅴ層より出土。

同図13はマダライモの殻頂を砥磨し孔を穿った製品である。殻長2.7cm、殻径1.8cm、重量3.1ｇ。より出土。

・タカラガイ科

同図11はタカラガイの背面部に粗孔を穿った製品で、長軸の両端にあり視線で貫通している。殻長

第30表　貝製小玉観察一覧　　単位：㎜

図	no	計n	貝種	長径	短径	最大厚	重量	孔長径	孔短径	地区	グリット	層	層備考
第	1	6	マガキガイ	2.29	2.06	0.73	3.5	0.45	0.4	8	ク-4	Ⅱc	
	2	4	マガキガイ	2.18	1.93	0.61	2.9	0.52	0.5	6	キ-9	Ⅳ	
56	3	5	マガキガイ	2.09	2	0.9	4.3	0.52	0.46	7	Z-35		
図	4	3	イモガイ科	1.39	1.29	0.44	1.1	0.33	0.29	6	キ-9	Ⅳ	上
	5	2	イモガイ科	1.24	1.1	0.45	0.4	0.1	0.1	1	F-16	Ⅱc	
	6	1	イモガイ科	0.91	0.85	0.14	0.3	0.2	0.2	5	V-14	Ⅳ	
		7	マガキガイ	2.4	2.15	0.97	5.3	0.35	0.3	6	キ-9	Ⅳ	
		8		2.13	1.83	0.78	3.6	0.79	0.77	7	い-31	Ⅳ	
		9		1.98	1.95	0.73	1.9	0.47	0.47	1	E-11		最下
		10	イモガイ科	1.99	1.83	0.75	1.6	0.31	0.26	3	P-25	Ⅱ	
		11	マガキガイ	2.08	1.76	0.9	2.6	0.53	0.47	6	キ-9	Ⅳ	上
		12		1.82	1.62	0.63	2	0.58	0.52	7	Z-35		
		13		1.74	1.59	0.76	2.1	0.5	0.46	6	キ-7	Ⅳ	
		14		1.69	1.44	0.71	1.8	0.57	0.52		U-33		
		15	イモガイ科	1.56	1.48	0.59	0.8	0.44	0.39	1	D-11	Ⅱ	下部
		16		1.5	1.41	0.59	0.6	0.29	0.26	4	O-21	Ⅳ	上
		17		1.57	1.45	0.43	1.3	0.38	0.35	7	ク-9	Ⅳ	
		18	マガキガイ	1.33	1.26	0.71	1	0.26	0.24	6	X-34	Ⅳ	
		19	イモガイ科	1.32	1.2	0.62	0.9	0.34	0.34	6	U-34	Ⅴ	上
		20		1.3	1.09	0.39	0.6	0.37	0.34	7	ク-8	Ⅳ	上
		21		0.82	0.78	0.44	0.4	0.14	0.11		?-18	Ⅳ	下
		22	マガキガイ	0.75	0.65	0.44	0.3	0.07	0.07	5	V-13	Ⅳ	
		23	イモガイ科	0.88	0.84	0.31	0.1	0.26	0.23	1	E-11	Ⅱc	p-3
		24	マガキガイ?	0.83	0.72	0.45	0.3	0.15	0.14	4	R-18	Ⅳ	下
		25		0.53	0.5	0.26	0.1	0.07	0.07		O-22		最下
		26	ツノガイ科	1.28	0.4		0.2	0.26	0.26	1	H-12	Ⅱ	最下

6.3cm、殻径4.2cm、重量48ｇ。大きい孔が1.1×1.7cm、小さい孔が1.1×0.9cm。８地区Ⅳ層より出土。

・マクラガイ科

同図15はサツマビナの殻長に孔があり、また殻口部分にも研磨痕がある資料で、全体観は管玉状を呈する。殻長3.1cm、殻径1.7cm、重量7ｇ。孔径0.7×0.7cm。７地区Ⅴ層より出土。

同図16は小形のイモガイの螺頭部を水平方向に砥磨し、管玉状にした製品である。殻長1.4cm、殻径1.3cm、重量1.1ｇ。孔径0.6×0.7cm。

・二枚貝製品

同図７は小形の二枚貝を素材に、腹面に孔を穿った製品である。形状や大きさから前述の貝小玉と同様の用途が推測される。殻長1.4cm、殻高1.2cm、重量0.3ｇ。孔径0.2×0.3cm。１地区E-11Ⅱ層より出土。

・フデガイ科

第56図17はチョウセンフデガイを素材とした製品で、長軸方向に砥磨された二本の溝が施されている。溝の断面はＵ字状になり、各節ごとに結果として孔がみられる。なお器面は風化しているため白色化している。殻長8.2cm、殻幅2.3cm、重量29ｇ。Ｃ－21、Ⅳ層より出土。

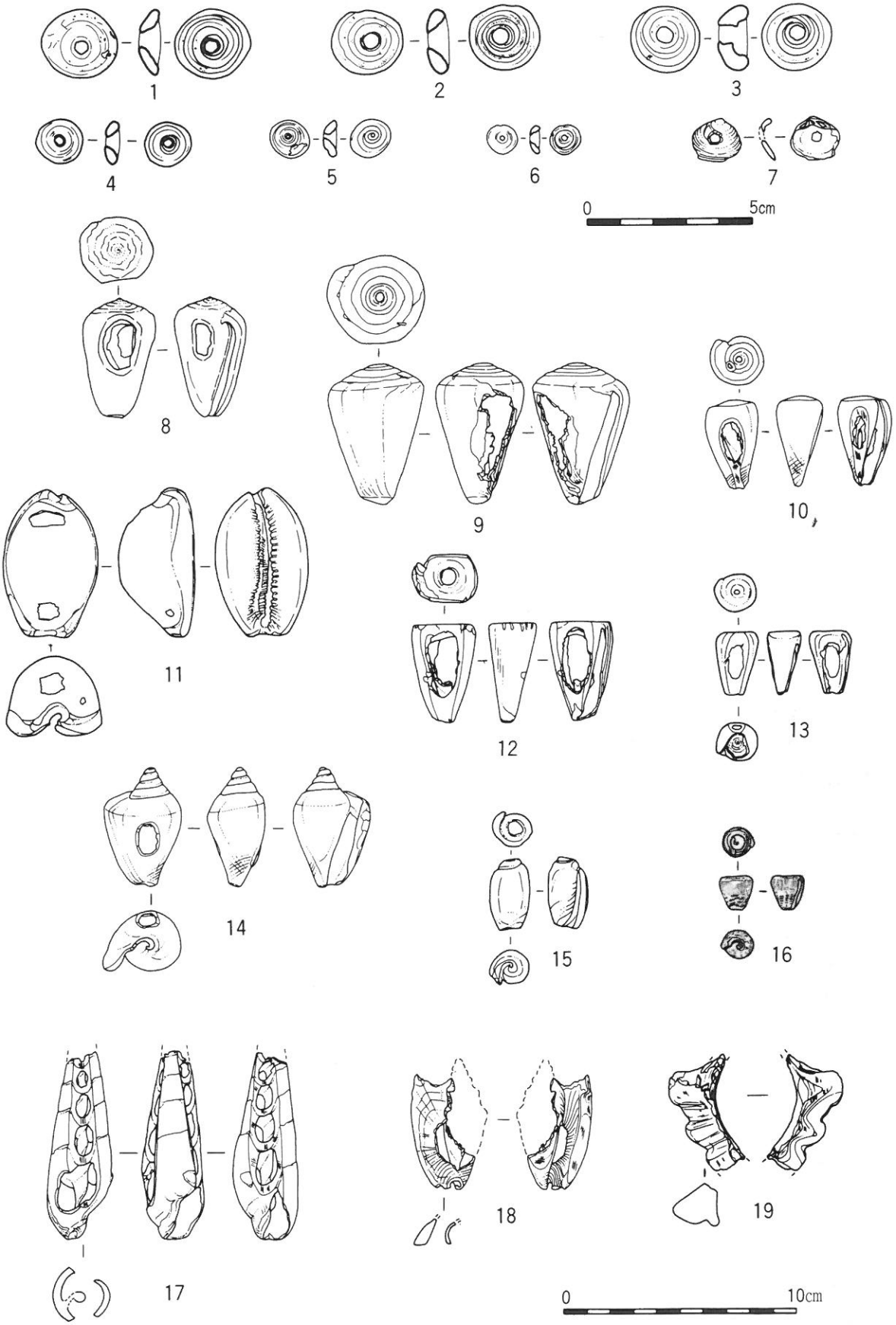
・スイショウガイ科

第56図14は殻口の背面側にあたる体層面に粗孔が穿たれている。孔は平面形が楕円形で、孔径0.7×1.2cm、殻長50.7cm、殻径35.7cm、重量21.0ｇになる、６地区Ｙ－35Ⅴ層出土。

ハ．半輪状製品

同図18はウラソデマイノソデガイの外唇部に砥磨面がみられる資料で、残念ながら破損しているため全体の形状については不明である。残存長5.2cm、残存幅2.1cm、残存厚1.6cm、重量6.1ｇ。１地区E-11Ⅱ層より出土。

同図19はテングガイの外唇部のみ資料で破損しているため全体観は不明であるが、明らかに砥磨痕がみられる製品である。殻長4.9cm、殻高1.9cm、殻幅1.1～2.1cm、重量18ｇ。６地区Ⅴ層より出土。



第56図　巻貝有孔貝製品

二．貝輪

a．オオツタノハ製貝輪（第57図１～15・図版50－１～15）

総数15点が得られている。完形品は３点、ほぼ完形のもの１点、他の11点は破損品である。いずれもオオツタノハガイの背面部を打ち欠いて、背面を除去した後に、表面や周縁部に研磨を加えて仕上げるものを基本とする。孔の平面観は、卵形もしくは楕円形を呈するものと亀甲状を呈するものがある。

加工や研磨の状況と鍔の幅などから便宜的にⅠ類からⅣ類までの４種類に分けた。Ⅰ類～Ⅳ類の４種類の中で細分が可能なものについては、各類の後にa・b・cを冠して、Ⅰ類a・Ⅰ類bとして記することにした。個々の特徴等については観察表に呈示することにした。ここでは分類概念のみを以下に記述することにする。

・Ⅰ類

Ⅰ類として取り扱ったものは、外面の孔周辺と周縁部への研磨がやや丁寧に加えられたものである。その他に鍔の幅が8.0㎜～20㎜の範囲内に納まる幅広のものを含めた。表面の研磨の状況から研磨が徹底せず表面の放射肋が残っているものと研磨が入念に施され表面の放射肋が消失するものの二者がある。前者をⅠ類a後者をⅠ類bとして細分した。Ⅰ類aは第57図１～５に図化した５点である。Ⅰ類bは同図６に示した１点のみである。

・Ⅱ類

Ⅱ類としたものは、外面の孔周辺の研磨がⅠ類よりも丁寧である。周縁部への研磨はⅠ類よりもやや丁寧である。鍔の幅が6.8㎜～11.3㎜の範囲内に納まり、鍔の幅はⅠ類より狭い。表面の研磨はⅠ類bと同様に放射肋が消失するほど入念に加えられている。Ⅰ類bとの違いは、外面の孔周辺の研磨がⅡ類に於いては丁寧である点と鍔の幅がⅠ類bよりも狭いという点にある。Ⅱ類は同図７～９に図示した３点である。

・Ⅲ類

Ⅰ類と同様に外面の孔周辺と周縁部へ研磨を雑に加えるが、Ⅰ類aと同様に研磨が徹底せず表面の放射肋が残っている。鍔の幅が6.9㎜～12.6㎜の範囲内にあり、鍔の幅のみを考えた場合、Ⅱ類に近い。Ⅲ類は同図10～14に示した４点である。

・Ⅳ類

Ⅳ類として取り扱ったものは、素材の形態を尊重した為、平面観が亀甲状となるもので放射肋と鱗片突起部を巧みに利用して亀甲状に成形したものとみられる。外面の孔周辺と周縁部への研磨は丁寧である。表面の研磨は放射肋の部分を他面よりも丁寧に加えて、放射肋を強調する為、同部位は光沢を帯びている。同図15に示した１点である。

b．オオベッコウガサガイ製貝輪

総数２点が得られている。内訳は完成品が１点と穿孔したのみの未製品が１点であった。

オオベッコウガサガイの背面部を内側からの打撃と押圧剥離で除去した後に孔周辺に研磨を施して仕上げている。周縁部および表裏面への研磨や加工はない。以下に特徴を記すことにする。

①　完成品

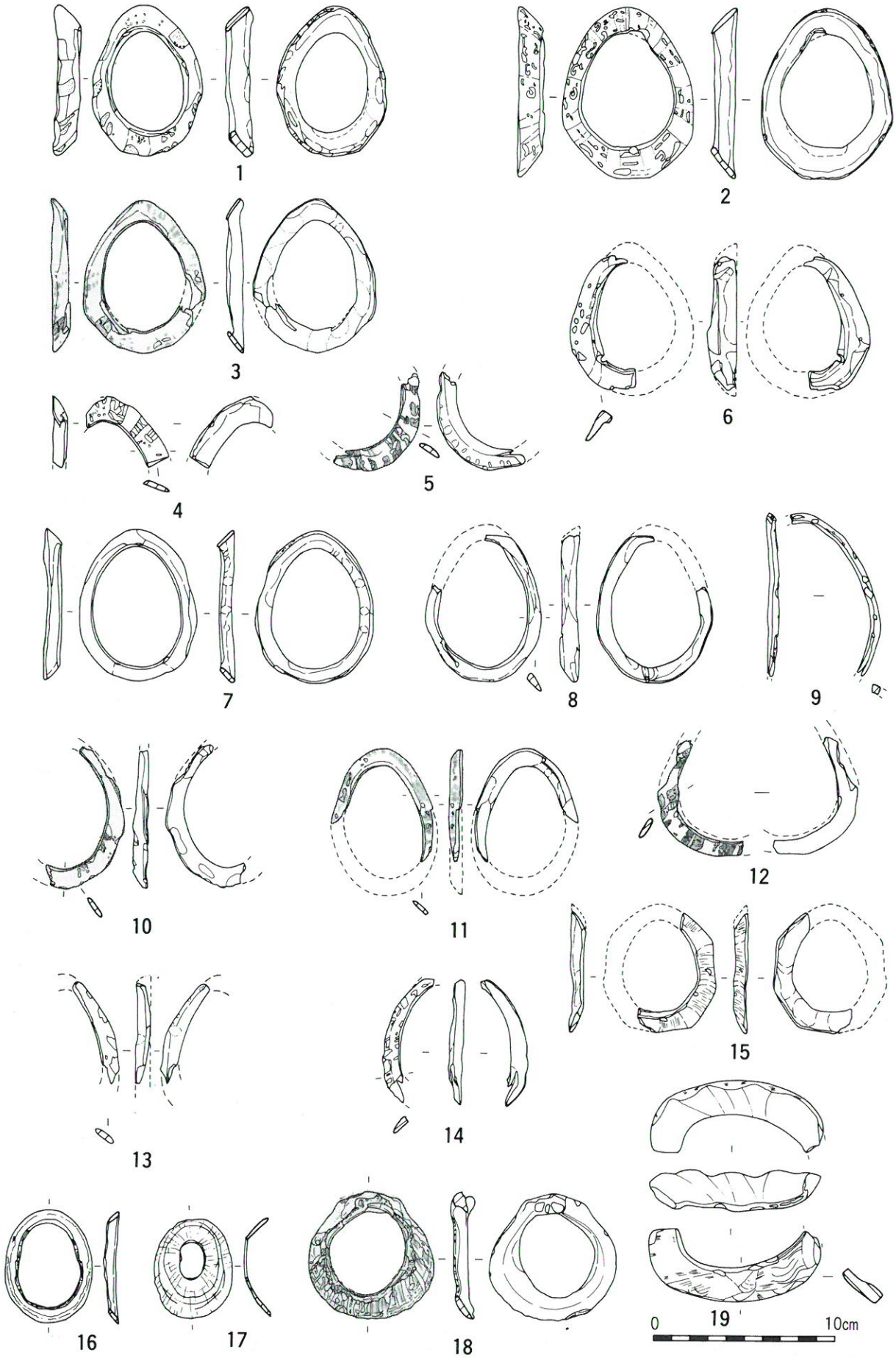
第57図16は完成品で孔周辺に成形時の打痕が認められる。研磨は僅かに認められる程度である。他の面への研磨はない。サイズおよび重量は、縦長6.11cm、横長4.78cm、孔径縦長4.65cm、孔径横長3.51cm、重量6.5ｇ。出土地点と出土層は３地区Ｐ－33Ⅳ層下部より出土。

②　未製品

同図17は背面の内側より打撃を加えて粗孔とする。この粗孔の縁から周縁部の向って二本の罅が入っている状況から判断すると製作途中で罅が生じた為、未製品のまま廃棄されたものとみられる。他の面への

第31表　オオツタノハ製貝輪観察一覧

挿図番号	出土地点 出土層	縦長 (cm)	横長 (cm)	孔径 (cm) 縦長	孔径 (cm) 横長	鍔 (mm) 幅	鍔 (mm) 厚さ	重量 (g)	分類	観察事項
第57図 1	7地区 う－31 Ⅴ層	8.21	6.00	5.48	4.01	12.4～18.3	3.8～4.5	28.0	Ⅰ類a	完成品。完形品で孔周辺と周縁部に比較的雑な研磨を施す。
〃 2	7地区 え－24 Ⅳ層下部	9.27	7.17	6.22	5.11	12.3～20.8	3.2～3.8	27.3	Ⅰ類a	完成品。完形品。孔の周辺を一部欠く以外は破損はない。孔周辺の研磨は周縁部より丁寧である。
〃 3	7地区 え－28 Ⅳ層下部	8.21	(6.64)	6.00	(4.5)	8.0～14.2	2.6～2.9	13.3	Ⅰ類a	完成品。ほぼ完形品。孔の周辺と周縁部を一部欠く。孔周辺と周縁部の研磨は比較的に丁寧である。
〃 4	7地区 え－29 Ⅳ層	－	－	－	－	13.7～15.3	2.7～3.0	(4.5)	Ⅰ類a	完成品。破損品。周縁部には明瞭な研磨はないが、孔周辺の研磨は丁寧である。
〃 5	7地区 あ－33 Ⅳ層	－	－	－	－	10.9～13.8	3.5～3.9	(6.7)	Ⅰ類a	完成品。破損品。周縁部の研磨より孔周辺の研磨は丁寧である。
〃 6	7地区 あ－34 Ⅴ層上部	－	－	－	－	14.7～20.0	3.3～6.4	(12.9)	Ⅰ類b	完成品。破損品。表面の放射肋を消失するほど入念な研磨を加えて仕上げている。
〃 7	6地区 X－26 Ⅳ層下部	8.13	6.30	6.52	4.84	6.8～11.3	2.3～3.7	12.9	Ⅱ類	完成品。ほぼ完形品。周縁部の一部を欠く。表面の放射肋を消失するほど入念な研磨を加える。
〃 8	6地区 X－26 Ⅳ層下部	－	6.35	－	5.07	7.6～10.9	2.8～3.0	(10.2)	Ⅱ類	完成品。破損品。成形手法や研磨の手法は上述の7と同一である。7と重なって出土している。
〃 9	7地区 う－28 Ⅴ層下部	－	－	－	－	(3.7～5.2)	2.5～4.2	(3.8)	Ⅱ類	完成品。破損品。孔に沿うように破損する。孔周辺と表面には入念な研磨を施す。
〃 10	7地区 う・え －33 Ⅴ層 土壙内	－	－	－	－	8.9～12.6	2.5～3.0	(6.6)	Ⅲ類	完成品。破損品。孔周辺の研磨は周縁部より丁寧である。
〃 11	7地区 Z－31 Ⅳ層	－	－	－	－	7.1～10.4	2.6～2.9	(5.6)	Ⅲ類	完成品。破損品。孔周辺の研磨は周縁部より丁寧である。
〃 12	7地区 う－32 Ⅳ層下部	－	－	－	－	11.9	2.6～3.1	(4.8)	Ⅲ類	完成品。破損品。孔周辺の研磨は周縁部より丁寧に加えて仕上げる。
〃 13	7地区 う・え－31・32 Ⅴ層	－	－	－	－	10.2～10.8	2.9～3.0	(3.3)	Ⅲ類	完成品。破損品。孔周辺の研磨は周縁部より丁寧である。
〃 14	6地区 W－35 Ⅳ層	－	－	－	－	6.9～12.2	3.2～3.7	(4.6)	Ⅲ類	完成品。破損品。孔周辺の研磨は成長線と一致した為、平坦な研磨面を形成する。周縁部の研磨は雑で徹底していない。
〃 15	7地区 い－30 Ⅴ層上部	－	－	－	－	10.0～12.7	2.2～2.8	(5.3)	Ⅳ類	完成品。破損品。素材の形を尊重し亀甲状に仕上げる。表面の放射肋は研磨が他よりも集中的に施された為、光沢を帯びる。本品は破損した後に廃棄され、火を受けて灰色に変色している。



第57図　オオツタノハ、オオベッコウガサガイ、メンガイ、シャコガイ製貝輪

研磨は認められない。法量は、縦長5.35cm、横長4.26cm、孔径縦長2.06cm、孔径横長1.49cm、重量8.9ｇ。出土地点と出土層は７地区あ－35Ⅳ層より出土。

ｃ．メンガイ製貝輪

完成品が１点のみ出土していたので、これを図化し、以下に特徴を記述する。

第57図18はメンガイの腹縁を輪状に加工したもので、主に内殻面より穿孔する。研磨は周縁部に僅かに残っている程度である。孔周辺への研磨はない。法量は縦長6.87cm、横長6.86cm、孔径縦長4.87cm、孔径横長4.15cm、重量22.4ｇ。出土地点と出土層は７地区え－35Ⅴ層より出土。

ｄ．シャコガイ製貝輪

シャコガイ科の縁辺部と孔を穿って研磨を加えた破損品が１点出土していたので、以下に記述する。

第57図19はシャコガイ科のシラナミと推察されるものを素材としていて、周縁部の鱗片突起と放射肋を研磨で削り落して丁寧な研磨仕上げとしている。孔周辺の研磨は周縁部より雑である。外面への研磨は徹底しない為か成長線が若干残っている。法量は残存長9.06cm、残存孔径長7.02cm、幅2.21cm、残存重量36.3ｇ。出土地点及び出土層は７地区え－28Ⅳ層最下部より出土。

ｅ．ゴホウラ製貝輪

スイショウガイ科のゴホウラの腹面や背面を利用して加工された貝輪である。腹面使用のものを腹面加工型、背面を使用したものは背面加工型の二者に大きく大別出来る。腹面加工型と背面加工型の二型式には完成品以外に腹面加工型には上唇・外唇を除去した後に螺塔内部の螺階・殻軸を腹面に打割で粗孔を穿っている製作途中のものがある。また、背面加工型にも製作途中のものがあり、背面に大小の違いのある粗孔を穿ったものや背面の打割による穿孔以前に体層部を除去したものがある。腹面加工型と背面加工型の両タイプを便宜的に前者をⅠ型・後者をⅡ型とする。さらに使用部位（完成品の部位）などの状況からⅠ型Ａ・Ⅰ型Ｂ・Ⅰ型Ｃなどに細分することにした。以下に分類概念を記述することにする。個々の特徴等については観察表に表すことにする。

①　腹面加工型　Ⅰ型

このタイプには完成品以外に製作途中の未製品のものがある。Ⅰ型は未製品も含めるとＡ～Ｆまでの６種類に細分出来るので、Ⅰ型についてはⅠ型Ａ～Ⅰ型Ｆとして以下にその特徴を記して、分類概念としたい。

・Ⅰ型Ａ

本タイプはいわゆる立岩型(註１)と称される貝輪の範疇に納まるものであるが完形品はなく、全て破片である。残存部位は前溝近くで磨り落され、体層左側腹部が残るもの２点（第58図20・21）、螺塔側部の磨り落しと螺塔内部の螺階が除去されたもの１点（同図22）、体層左側部と肩角の大結節が残るもの１点（同図23）。その他に同タイプの破片を一例図化した（同図24）。Ⅰ型Ａの鍔の幅は6.9㎜～16.8㎜を測る。

・Ⅰ型Ｂ

本タイプ前溝の先端を僅かに磨り落したもので、利用部位は体層内部の内唇・前溝・殻軸を取り込んでいる。１点のみ出土している。鍔の幅が17.8㎜とⅠ型Ａよりも幅広であり、内唇部や体層左側腹部などへの研磨は徹底し平坦面となるところもある。同図25に図化した。

・Ⅰ型Ｃ

利用部位は肩角の大結節を避けて螺塔の次体層部を利用している。鍔の幅は6.2㎜～7.3㎜と狭く、厚さもⅠ型Ａ・Ｂよりも薄造りである。同図26に図示した。

・Ⅰ型Ｄ

腹面加工型の製作途中のもので腹面の粗孔周辺に研磨が入り、殻軸が除去される。体層から螺塔方向へ

縦に粗割した段階で、体層左側腹部と螺塔の次体層及び内唇前溝寄りに僅かに研磨を加えている。肩角の大結節が避けられている点と上層の螺塔側部が除去されている状況から完成品の形はⅠ型Aの立岩型[註2]から外れる。仮りにこの状況で製作を進行させた場合、螺塔が残り歪な隅丸の菱形状となる可能性が考えられる。同図27に呈示する。

・Ⅰ型E

Ⅰ型Dと同様に製作途中のもので3点得られている。基本的に前溝を残す点と殻軸を除去する点で共通している。研磨の状況などから観察すると腹面の粗孔周辺に研磨と体層を縦割した部分に僅かに研磨を施したもの（同図28）、腹面の粗孔周辺に沿うように雑な研磨を施すもの（同図29）、体層左側腹部と螺塔左側腹部が破損した為研磨が全く存在しないもの（同図30）の3点がある。

・Ⅰ型F

本タイプは背面に大きな粗孔を穿っていて、孔のサイズが縦8.5cm、横7cmを測る。孔が大きい為、背面加工型（Ⅱ型）の貝輪を製作するには困難な状況にあり、寧ろ腹面加工型（Ⅰ型）の貝輪製作を目的としたタイプとみられ、腹面加工型（Ⅰ型）のストックかあるいは②型貝輪への加工の初期段階のものとみられる。第59図38に示すものである。

② 背面加工型 Ⅱ型

このタイプも腹面加工型（Ⅰ型）と同様に完成品以外に製作途中のものが含まれている。この製作途中のものを含めるとⅡ型はA～Cまでの3種類に細分出来るので、Ⅱ型はⅡ型A～Ⅱ型Cとして分類し、以下にその特徴を記して分類の概念とする。

・Ⅱ型A

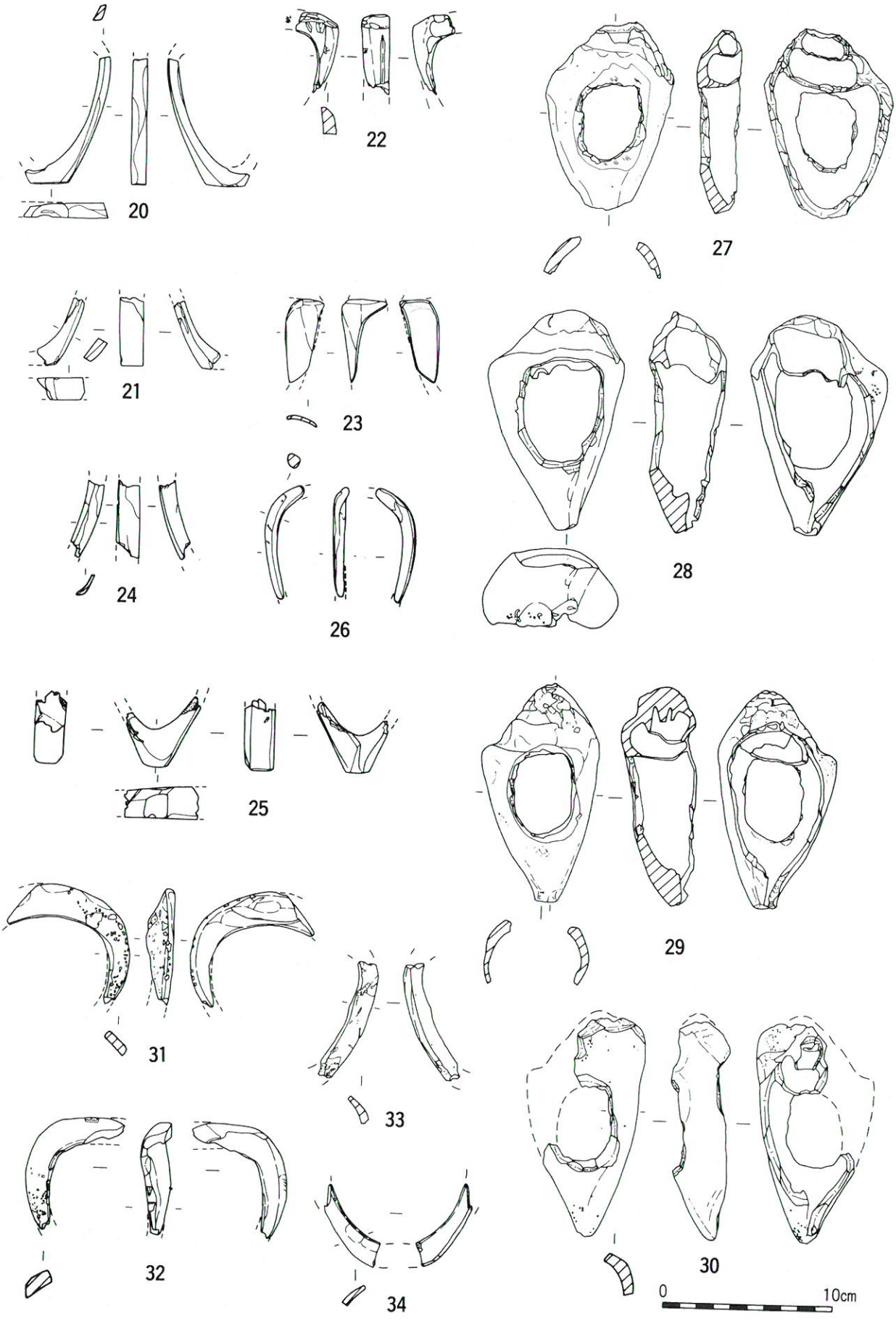
本タイプは殻口面に対してほぼ平行に殻背部を利用した為に内側に螺階の一部が残るものである。完形

第32表a ゴホウラ製貝輪観察一覧

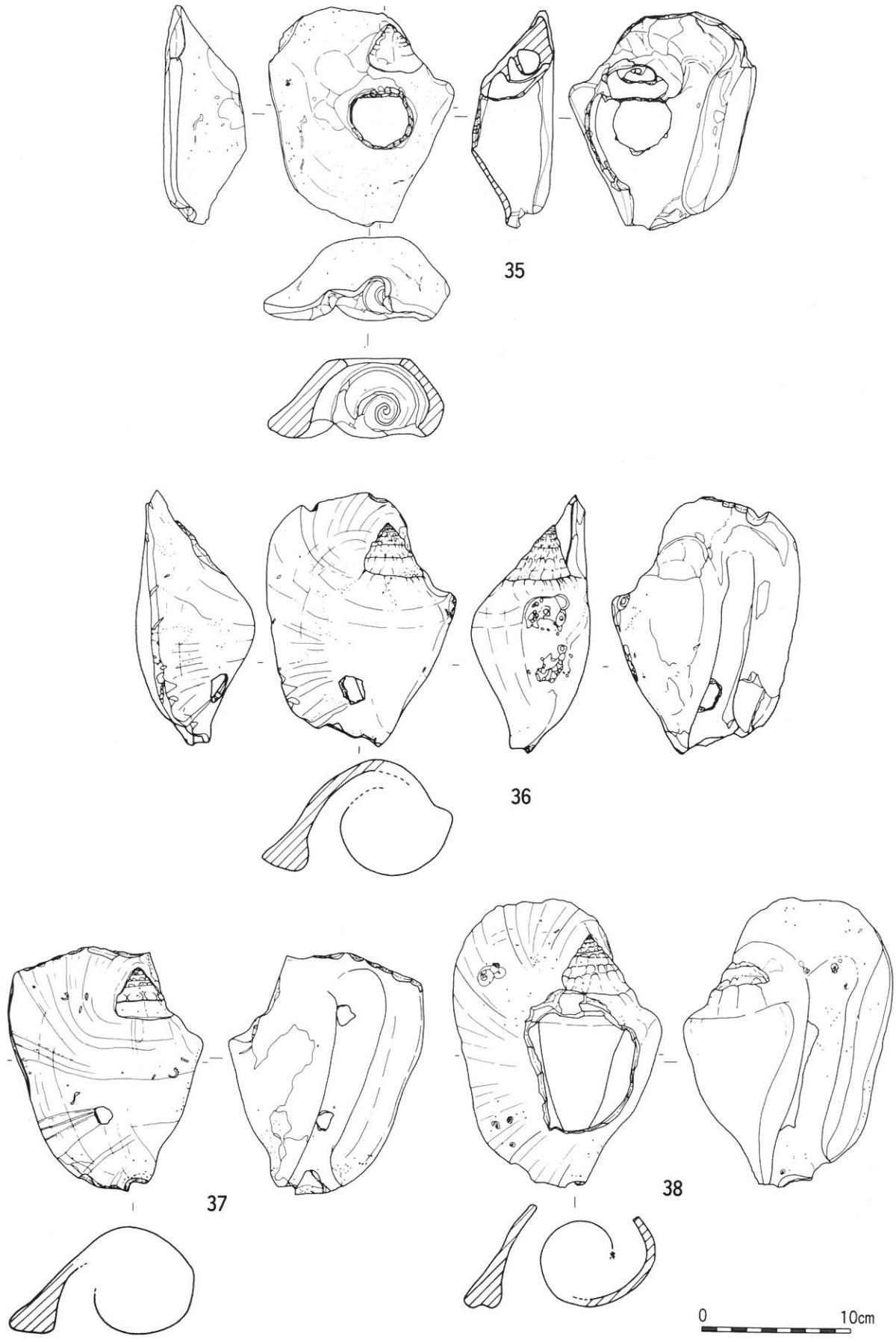
挿図番号	出土地点 出土層	高さ（cm）	孔径（cm） 縦	孔径（cm） 横	鍔幅（mm）	重量（g）	分類	観察事項
第58図 20	6地区 T－34 Ⅴ層上部	(7.18)	－	－	6.9～8.8	(10)	Ⅰ型A	完成品。破損品である。前溝近くを殻口面に対し水平に磨り落す。両面の研磨は丁寧である。体層内側は大部分が自然面とみられる。
〃 21	4地区 R－14 Ⅳ層	(3.5)	－	－	12.6～14.2	(8.6)	Ⅰ型A	完成品。破損品である。前溝近くを殻口面に対し水平に磨り落す。両面の研磨は丁寧である。体層内側は大部分が自然面とみられる。内側の体層部に生物の穿孔痕が観察される。
〃 22	6地区 S－28 Ⅴ層上部	(4.3)	－	－	12.2～15.8	(13.1)	Ⅰ型A	完成品。破損品。螺塔側部を保持した破片で、殻軸を避けて磨り落して貝輪とする。
〃 23	7地区 あ～え－34～36 Ⅴ層灰集中土壙	(5.2)	－	－	12.9～16.8	(6.9)	Ⅰ型A	完成品。破損品。肩角の大結節および体層左側部の破片である。外面の研磨は徹底。肩角の大結節は原形を尊重した為、大結節に面を取るように研磨を複雑に加える。
〃 24	6地区 キ－8 Ⅳ層上部	(4.36)	－	－	13.9～15.0	(3.5)	Ⅰ型A	完成品。破損品。体層部分の破片。内外面の研磨は丁寧に施しているが、研磨は外面が斜位方向に施された為、外面は斜面となる。
〃 25	8地区 試掘	(4.0)	－	－	16.6～18.1	(25.4)	Ⅰ型B	完成品。破損品。体層部の内唇・前溝・殻軸を取り込んで加工した資料である。各面の研磨は徹底して施されている。特に前溝と体層の曲りを意識した研磨加工とみられる。外面左側面は曲りに沿うように面取りの研磨を加える。

第32表b　ゴホウラ製貝輪観察一覧

挿図番号	出土地点・出土層	高さ（cm）	孔径（cm） 縦	孔径（cm） 横	鍔幅（mm）	重量（g）	分類	観察事項
第58図 26	7地区 Z－35	(6.5)	－	－	6.2～7.3	(5.8)	Ⅰ型C	完成品。破損品。利用部位は肩角の大結節を避けて螺塔の次体層部を使用した貝輪の破片。両面への研磨は丁寧である。外面の縁辺にも研磨を加える為、角が取れている。体層内部の螺塔部を除いて研磨を加えている。
〃 27	7地区 Z－32 Ⅳ層	縦10.8 横 7.5	4.2	3.5	－	102.5	Ⅰ型D	未成品。表面（腹面）は粗孔を穿ち、孔の周辺に研磨を加えている。裏面の体層および螺塔の割れ面には部分的に研磨を加えている。殻軸を完全に除去している。
〃 28	7地区 Z－35	縦12.7 横 7.8	6.0	4.5	－	156.3	Ⅰ型E	未成品。表面（腹面）に隅丸方形状の孔を成形する。孔の上半分程度に研磨を加えている。裏面の体層部割れ面には半分近く研磨を施している。
〃 29	5地区 W－18 Ⅳ層下部	縦12.7 横 7.0	4.8	3.5	－	154.1	Ⅰ型E	未成品。表面（腹面）は縦長の楕円形状の孔を穿孔する。孔の周辺には雑な研磨を施している。裏面の体層および螺塔の割れ面には成長線で割れている箇所が多く、研磨が実施されたかどうかは判らない。
〃 30	6地区 Y－34 Ⅳ層最下部	縦12.7 横 (5.1)	4.37	－	－	(116.0)	Ⅰ型E	未成品。破損品。体層部の一部を欠く失敗品。表面（腹面）に孔のみを穿っている。研磨はない。裏面は粗割りのままであり、研磨は実施されていない。
〃 31	出土地点及び出土層不明	(6.9)	－	－	2.0～2.1	(23.1)	Ⅱ型A	完成品。破損品。背面には生物による虫食いでアバタ状を呈する。背面を利用したもので、内面に螺階部の根元が残る。螺階部にも丁寧な研磨を加えている。研磨は体層の大部分を除いて丁寧に実施されている。
〃 32	7地区 え－28 Ⅳ層最下部	(6.5)	－	－	1.7～1.8	(21.1)	Ⅱ型A	完成品。破損品。背面を利用したもので、内面に螺階部の根元が残り、その面にも研磨を加えている。鍔上面の割れ面の研磨は雑ではあるが、割れ面にも軽く研磨を加えている。
〃 33	7地区 ク－8 Ⅳ層上面	(6.7)	－	－	(1.6)	(11.7)	Ⅱ型A	完成品。破損品。背面を利用したものとみられ、鍔上面が破損している。鍔下面は体層の曲りに合うように面取り気味の研磨を丁寧に施す。表面の研磨は雑である。
〃 34	7地区 Z－35	(5.4)	－	－	(1.3～1.9)	(5.0)	Ⅱ型A	完成品。破損品。背面を利用したもので、背面の研磨は徹底し、丁寧である。鍔の幅が2～3㎜と薄く仕上げられている。鍔の上面の研磨も丁寧である。鍔下面は破損面となっている。
第59図 35	6地区 V－36 V層	縦 (14.6) 横 12.5	3.57	3.9	－	415.0	Ⅱ型C	未成品。背面に円形状の孔を穿つ。孔の周辺に研磨を施す。内面は体層と螺階・殻軸が除去され割れ面は敲打で潰されている。内面の螺階の一部に僅かながら研磨を加えている。上唇端部が打ち欠かれている。
〃 36	3地区 Q－28 V層	縦 (17.0) 横 (12.5)	1.97	1.73	－	870.0	Ⅱ型D	未成品。背面に五角形状の粗孔を穿つ。上唇端部の一部が打ち欠かれている。研磨はない。
〃 37	4地区 R－21 V層下	縦(16.0) 横 12.0	1.19	1.37	－	705.0	Ⅱ型D	未成品。背面に歪な粗孔を穿つ。上唇端部は大部分が打ち欠かれている。研磨はない。
〃 38	5地区 Y－16 Ⅳ層上部	縦(20.4) 横 13.4	8.0	6.98	－	805.0	Ⅰ型F	未成品。背面に大きな粗孔を穿った為、背面を利用する貝輪の製作は困難な状況にある。寧ろ腹面加工型の貝輪製作の為に背面へ穿孔したものとみられる。



第58図　ゴホウラ製貝輪



第59図　ゴホウラ未製品

品はないが残存部位からⅡ型Aの平面観を推定すると略三角形状の貝輪とみられる。Ⅱ型Aのゴホウラ利用部などから所謂、広田型[註3]と称されるものに含まれる。本タイプに含まれるものを4点（第58図31～34）図化した。

・Ⅱ型B

背面加工型の製作途中のもので背面に3.7cm～4.0cmの円形状の粗孔を穿ち体層と殻軸を除去し、上唇の端部を打ち欠いているものである。研磨は部分的に残存し、背面の孔の周辺・腹面の体層前溝や螺塔・外唇に施されている。研磨などによる磨り落し作業の初期段階のものとみられる（同図35）。

・Ⅱ型C

本タイプは背面の前溝寄りに歪な粗孔を穿ち、上唇の端部を打ち欠いているものである。歪な粗孔は紐や縄で緊縛する目的で穿孔されたものとみられる。貝輪の材料となるゴホウラをストックする目的（持ち運びや管理面）で孔を穿ったものと理解出来るタイプである。2点出土していたので同図36・37に示した。

f．イモガイ製貝輪

大型のイモガイ科であるクロフモドキやアンボンクロザメ等の螺塔部や体層部を利用したものである。螺塔部を利用するものは螺塔部とほぼ水平に体層部・殻軸・螺階へ打割を実施した後に体層の打割面（破損面）と殻頂部を研磨で擦り落しを行ない最終的に貝輪として利用されるものである。本貝輪の製作過程を窺い知ることのできる未成品や製作途中のものが出土したのでこれも含めることにする。分類に際しては形態などからⅠ類からⅢ類の3類に分類した。Ⅰ類以下の主な分類基準は次のとおりである。鍔の幅が10mm～25mmの範囲内にあるものをⅠ類とし、25mm～50mmの範囲内にあるものをⅡ類とした。未成品及び製作途中のものをⅢ類とした。また、必要に応じて各類の中にa・b・c等の種類に細分した。以下に分類概念を記述することにする。個々の特徴等については観察表に表すことにした。

・Ⅰ類

Ⅰ類貝輪として取り扱ったものは、鍔の幅が10mm～25mmの範囲内に納まるもので、後述するⅡ類よりも鍔の厚さもⅡ類よりも厚い。本タイプはⅢ類とした未成品及び製作途中のものから貝輪として完成された最終的な形であり、素材を生かした加工により外唇の後溝もデザイン（意匠）のひとつに取り込んでいるようである。本タイプは4点（第60図39～42）が出土しているが、完形品はなかった。素材の利用箇所は螺塔部と外唇の後溝の部位である。

・Ⅱ類

Ⅱ類貝輪として取り扱ったタイプは、鍔の幅が25mm～50mmの範囲内に納まるものである。鍔の厚さはⅠ類よりも薄い。素材の利用箇所は残存部位から推定すると体層を使用するものが主要部位として考えられる。本タイプは3点（同図43～45）が出土している。完形品はなかった。

・Ⅲ類

本タイプはⅠ類貝輪の製作過程で、何らかの理由により製作が中断されたものである。一応、製作工程を想定して、a・b・cまでの3種類（3工程）に細分することにし、以下に記す。

a（第1工程）…素材の体層の大半を打割し、殻軸を除去したものである。3点出土していてその内の1点を図示した。（同図46）。

b（第2工程）…aの第1工程を終了した後に体層打割面に研磨を加える。この作業と同時に殻頂と螺塔の擦り落しを研磨で実施し、螺塔を平坦に仕上げて螺塔の厚みが薄くなった中央付近から9.2mm～10.2mmの円形状の孔を穿つものである。（同図47）。

c（第3工程）…bの第2工程をそのまま踏襲し、引き続き体層打割面の研磨と螺塔の擦り落しを研磨で実施している。螺塔の平坦面を継続して研磨による擦り落しを行なう為、螺塔の厚みは漸次薄くなる

第33表　イモガイ製貝輪観察一覧

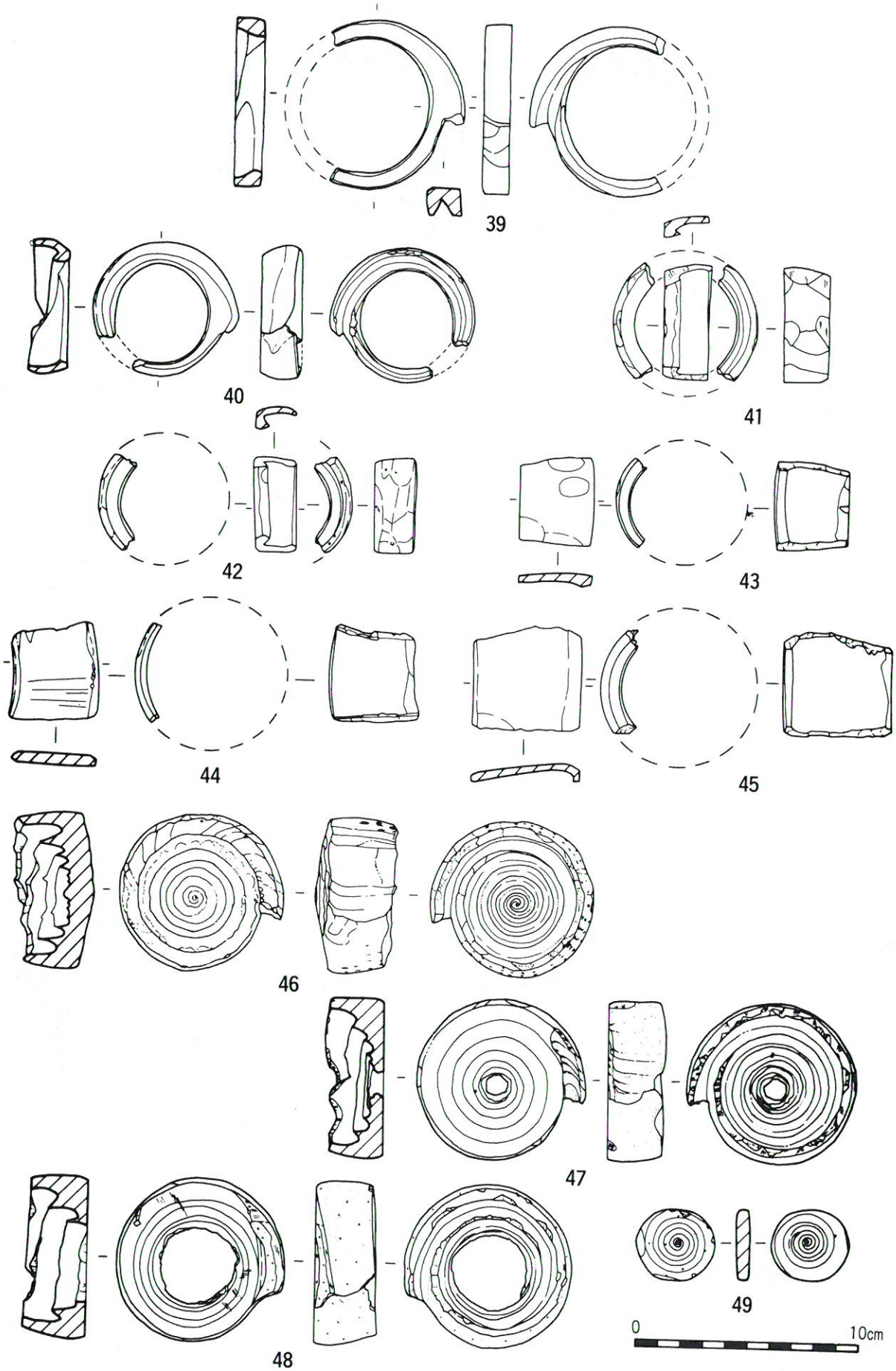
挿図番号	出土地点・出土層	縦長(cm)	横長(cm)	孔径(cm) 縦長	孔径(cm) 横長	鍔(mm) 幅	鍔(mm) 厚さ	重量(g)	分類	観察事項
第60図 39	6地区 V－32 V層上面 pit内	7.4	(6.1)	5.9	－	11.3～11.6	3.8～11.7	(30.8)	Ⅰ類	完成品。破損品。螺塔と体層の一部を研磨でほぼ水平に擦り落とす為、鍔に角が出来る。外唇の後溝端部は欠落する。
〃 40	5地区 キ－3 Ⅳ層	6.3	6.0	4.37	4.13	14.5～18.2	2.8～13.3	(31.8)	Ⅰ類	完成品。破損品。外唇の後溝端にも研磨を加え丸味を持たせている。また、鍔の上下端の縁も研磨で丸味を持たせて仕上げる。
〃 41	6地区 V－34 V層上面	(5.1)	－	－	－	19.5～20.3	3.6～8.0	(12.7)	Ⅰ類	完成品。破損品。螺塔と体層の一部を研磨で螺塔面と水平に擦り落とす為、鍔に角が生じている。
〃 42	5地区 W－17 Ⅳ層下部	(4.2)	－	－	－	17.6～18.8	3.3～11.1	(8.7)	Ⅰ類	完成品。破損品。鍔の上下端の縁は研磨で丸味を持たせて仕上げる。
〃 43	6地区 V－35 Ⅳ層	(3.9)	－	－	－	30.8～31.6	2.9～6.4	(12.3)	Ⅱ類	完成品。破損品。螺塔と体層の一部を研磨でほぼ水平に擦り落とす。鍔の上下端の縁に角が生じている。
〃 44	5地区 W－19 Ⅳ層	4.1	－	－	－	35.5～37.8	3.9～4.4	(17.0)	Ⅱ類	完成品。破損品。螺塔を内側より擦り落として体層のみを利用する。鍔の上下端近くに鍔面に向って斜位に研磨を入れ面を取る。鍔面の幅が1.4~3.0㎜と狭くなる。
〃 45	テスト・トレンチ Ⅱ層	(4.5)	－	－	－	47.3～47.7	2.7～4.2	(21.3)	Ⅱ類	完成品。破損品。体層上の鍔縁辺に研磨を加え丸味を持たせている。
〃 46	6地区 V－35 V層上面	7.3	6.7	－	－	－	－	155.5	Ⅲ類a	未加工品。体層の大半と殻軸を除去したもので研磨はない。
〃 47	6地区 V－35 V層上面	7.5	7.0	10.9	9.3	24.0～24.3	－	133.6	Ⅲ類b	未成品。体層の割れ面に研磨を加える。螺塔を擦り落として平坦な面に仕上げる。孔は外面より穿つ。
〃 48	6地区 V－35 V層上面	7.5	7.1	35.8	32.4	24.4～26.3	－	133.1	Ⅲ類c	未成品。体層の割れ面に研磨を加える。螺塔を擦り落として平坦な面に仕上げる。孔は外面より穿つ。

ので、薄くなった箇所から打ち欠いて孔を大きく広げていくものである。(同図48)。

なお、本タイプのb（第2工程）とc（第3工程）の遺物は接続したような状況で出土している点から2点（同図47・48）とも孔に紐や縄を通して緊縛された状態でストックされたものとして考えられるところである。また、a（第1工程）も上述したストック品2点とかなり近接して出土しているようである。

ホ．垂飾品

垂飾品としたものの素材は巻貝のイモガイ・サラサバテイラ・クロフモドキ・ヒメゴホウラの4種類を利用したものである。形態としては円盤状、半環状、符状、鉤状などと豊富である。この中には貝札（蝶形など）が含まれている。以下に素材名を前に冠して形態の名称とし、以下に記述するが、貝札について



第60図　イモガイ製貝輪

は形態や点数も多い為、分類概念を記し、個々の特徴は観察表に表すことにする。

① イモガイ製円盤状製品

第60図49はイモガイの体層や螺塔を研磨によって擦り落して螺塔を平坦に薄く仕上げたものであり、完成品とみられる。平面観の状況などから円盤状製品とした。表面には生物による虫食いでアバタ状となるが、研磨は丁寧である。表面が僅かに盛り上がっている。裏面は螺塔内部の螺階部分で表面よりも幾分か丁寧に研磨を加えている。縁辺の側面は外唇後溝や体層の一部であり、外唇後溝を擦り切って体層と馴染ませている。サイズは長径34.5㎜、短径31.7㎜、厚さ5.6㎜、重量12.4ｇ。表土層より出土。

② サラサバテイラ符状製品

第61図50はサラサバテイラの殻底を半環状に打ち欠いたもので、側面観は三角形状を呈する。ペンダントなどの用途が考えられる。古宇利原遺跡(註4)で「符状製品」として名付けられたものである。側面に2.5㎜の孔を両面から穿っている。研磨は殻底の一部と上縁の側面に認められる。サイズは最大長46.4㎜、最大幅19.3㎜、最大厚9.2㎜、重量7.2ｇ。出土地点は６地区キ－８Ⅳ層より出土。

③ イモガイ製有孔製品

同図51はイモガイの螺塔の縁辺を利用したもので貝輪の破片の両端に孔を穿ち垂飾品への転用品かあるいは同じタイプの貝輪の破片に孔を穿ち２～３個連結した貝輪として再利用したものとしても考えられる。本品の平面観は半環状を呈する。表面の両端部近くには外側から2.8㎜の孔を穿つ。両面及び上・下の側面への研磨は丁寧である。両端面は破損面であり研磨は徹底せず雑である。サイズは最大長65.1㎜、最大幅9.4㎜、最大厚６㎜、重量5.9ｇ。出土地点および出土層は６地区Ｔ－34Ｖ層上面より出土。

④ ヒメゴホウラ製垂飾品

同図52はヒメゴホウラの外唇部を利用したもので垂飾品とみられる。外唇部を水平に殻口面と殻背を磨り落している。破損品であり両端上縁を欠く。外唇の周縁部に丸彫り様の沈線を２～３本一組の単位で３箇所に施している。研磨は背面の上側面と外唇に主に施されているが、外唇内面と外唇縁辺の研磨は丁寧である。外唇は素材に沿うように研磨が実施されている状況から素材の形を尊重した研磨（手法）とみられる。サイズは残存最長8.5cm、最大幅3.5cm、外唇の最大厚1.1cm、残存重量41.1ｇ。出土地点・出土層は１地区Ｄ－11試掘トレンチⅣ層（伊波式土器と共伴する層）。

⑤ イモガイ製貝札

貝札の完成品および未成品が６点出土している。貝札の中には蝶形のものと広田遺跡(註3)上層出土のタイプが含まれている。個々の特徴については第34表に呈示し、ここでは貝札の形態などから完成品以外に未製品も含めて大きくⅠ～Ⅲ型までの３タイプに分類し、必要に応じてＡ・Ｂの２種類に細分した。以下に分類概念を記すことにする。

・Ⅰ型

Ⅰ型としたものは伊江島ナガラ原西貝塚(註5)・具志原貝塚(註6)で出土した蝶形の貝札である。本遺跡の例は孔を穿つタイプであり、具志原貝塚の例に近似するものであり、１点のみ出土している（第61図53）。

・Ⅱ型

Ⅱ型と分類したものの中には広田遺跡の上層から主に出土した有文タイプが１点ある。このタイプをⅡ型Ａとし（同図54）、無文のものをⅡ型Ｂとした。Ⅱ型Ｂには角近くに孔を穿ったものと角に抉りを入れたものなどが含まれているものが３点（同図55～57）得られている。

・Ⅲ型

本タイプはⅠ型や・Ⅱ型の貝札を製作する目的で研磨を縁辺に加えたものとして考えられたものである。素材はクロフモドキであり、体層と螺塔の一部を縦方向に打ち欠いた破片を利用したものである。１点の

第34表　イモガイ製貝札観察一覧

挿図番号	出土地点・出土層	長さ（cm）	高さ（cm）	厚さ（mm）	重量（g）	孔径（mm）	分類	観察事項
第61図 53	6地区 X－35 Ⅳ層 貝溜り	5.1	2.3	2.3～3.8	7.5	1.3～2.1	Ⅰ型	完成品。イモガイ科の体層下部から螺塔近くの部位を縦割りした破片を利用したものである。両側辺に左右が対称となるようにW字形の刻みを施している。中央上端には凸状に突出した部位を造り出している。更に凸状突出部の両脇に抉りを入れて凸状突出部を強調する。中央には横方向に稜が走っていて、研磨による稜が造られているようである。孔は5箇所に穿たれていて中央付近の孔が1.3㎜と小さい。両側の上下には2㎜前後の孔を4個穿っている。孔は両面より穿たれている。
〃 54	6地区 X－31 Ⅳ層 貝溜り	3.2	2.2～2.8	1.6～4.0	4.7	2.5	Ⅱ型A	完成品。イモガイ科の体層下部を利用したものである。全体的に磨滅傾向にある。文様は片彫りや丸彫り気味の工具で上下の縁と平行に細目の沈線を彫り込んでいる。上下の文様の中に太目の沈線をほぼ平行に二列彫り込んでいる。上位の太目沈線と下位の細目沈線の隅角は上下が対称となるような鉤を短かく入れている。文様がかなり簡素化された感じを受ける。孔は右上隅に外面から穿たれている。文様や孔の穿孔状況から貝札の半欠品の破損側面に研磨を加え、孔を穿ち再び貝札として再使用したことが考えられる。
〃 55	7地区 Z－30 Ⅳ層	3.2	3.1	1.2～3.3	6.9	－	Ⅱ型B	完成品。イモガイ科の体層下部から螺塔近くの部位を利用したもので平面観が角欠きの方形状を呈する。研磨は入念に外面や各側面に施されている。内面の上端近くも下端に研磨が集中的に施されている。
〃 56	A－38 Ⅳ層最下部	(2.8)	2.9	3.1～6.4	(8.1)	－	Ⅱ型B	完成品。破損品。体層下部から螺塔近くの部位を利用。貝輪からの転用品とみられる。貝輪破片の破損面に研磨を入れて角を丸く仕上げたものとみられる。左下寄りに孔を両面から穿っているが孔がズレている。
〃 57	6地区 キ－9 Ⅳ層上面	(2.7)	(2.7)	2.8～4.6	(4.5)	2.2～2.3	Ⅱ型B	完成品。破損品。ゴホウラの背面とみられるものを利用したものである。右側面は直線的な研磨であるのに対し、下位の側面は湾曲気味に研磨を施している。孔は両面から穿たれている。
〃 58	6地区 Y－35 Ⅴ層上面 pit	5.2	(5.0)	3.3～9.2	(4.5)	－	Ⅲ型	未成品。破損品。イモガイ科のクロフモドキの体層下位から螺塔近くの部位を利用。上端部は破損で欠落、他の三辺は研磨で擦り落されている。

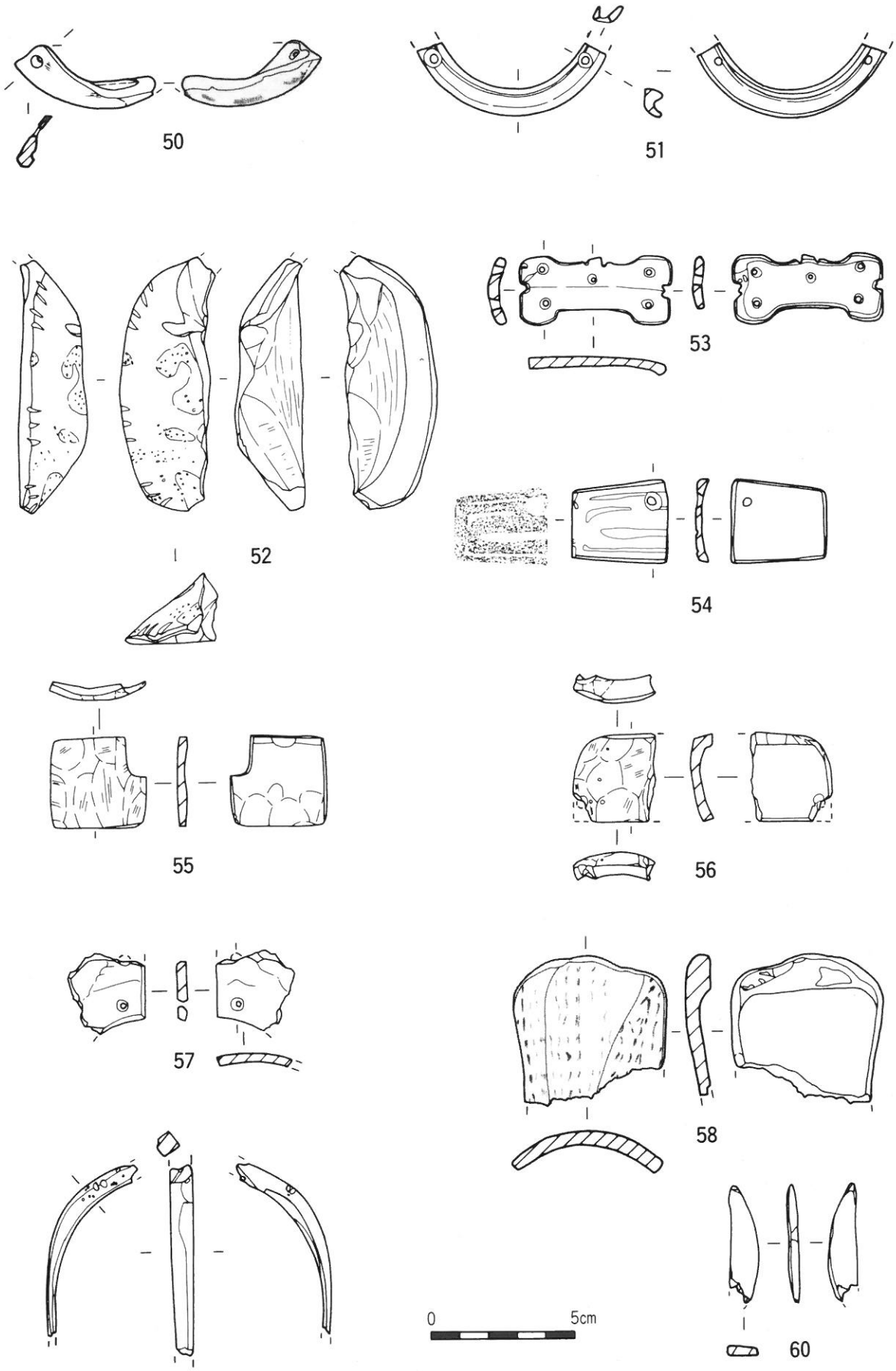
み出土している（同図58）。

⑥　ゴホウラ製鉤状製品

ゴウホラの貝輪の破片を利用したものとみられるもので第61図59に示した1点である。本品は貝輪の破片の両端に入念な研磨を加えて丸味を持たせて仕上げて完成させている。用途については判然としないが垂飾品として取り扱った。サイズは最大長6.6cm、最大幅9.4㎜、最大厚6㎜、重量4.3g。出土地点・出土層は6地区Ⅴ－34Ⅴ層上部より出土。

⑦　用途不明

同図60はイモガイの体層部の破片を利用したものとみられるものである。下端を欠落しているが平面観が縦に長い半月状を呈するものが推定される。側面観は僅かに湾曲している。両側面の研磨は表面よりも



第61図　イモガイ製品

第35表　県内主要遺跡出土の貝製装飾品との比較状況

時期・遺跡名・文献番号 ＼ 器種・素材		貝輪									垂飾品										用途不明	合計
		オオツタノハ	オオベッコウガサガイ	メンガイ	シャコガイ	ゴホウラ（完製品）I型	ゴホウラ（完製品）II型	ゴホウラ（未製品）	イモガイ（完成品）	イモガイ（未製品）	イモガイ製円盤状製品	サラサバテイラ符状製品	イモガイ製有孔製品	ヒメゴホウラ製垂飾品	貝札 I型	貝札 II型 A	貝札 II型 B	貝札 III型	ゴホウラ鉤状製品		
中期	シヌグ堂遺跡 ①						3															3
中期	高嶺遺跡 ②		4	1				1														6
中期	地荒原貝塚 ③			2	2		15		14	5		11										49
中期	知場塚原遺跡 ④			1																		1
中期	熱田第二貝塚 ⑤							13														13
後期	具志原貝塚 ⑥	4				2	1	1							1	2						11
後期	ナガラ原西貝塚 ⑦	6	9	4			1	197							1		2					220
後期	阿良貝塚 ⑧							2	2	1												5
後期	具志堅貝塚 ⑨						1	10														11
後期	備瀬貝塚 ⑩			1			1															2
後期	宇堅貝塚 ⑪・⑰		3			1																4
後期	アカジャンガー貝塚⑫														2							2
後期	木綿原遺跡 ⑬		3	4		1	3	4														15
後期	北原貝塚 ⑭	3					2			1												6
後期	清水貝塚 ⑮	12	10		2		6	9	2						6							47
後期	米須貝塚 ⑯														1							1
小計		25	29	13	4	4	33	237	18	7	0	11	0	0	11	2	2	0	0	0		396
合計		370													15							

入念に施されていている。裏面の研磨は他面よりも雑であるが周縁部に研磨が集中する傾向にある。サイズは残存長4.02cm、最大幅9.7mm、最大厚3.2mm、残存重量4.5ｇ。出土地点と層は不明である。

小　結

本遺跡出土の貝製装飾品の類似例を県内の主要遺跡と比較を試みたのが第35表に呈示したものである。貝輪の中でオオツタノハ製貝輪が中期の遺跡から出土していないことが今のところ傾向として窺い知ることが出来る。また、ゴホウラ製貝輪のＩ型と貝札も中期の遺跡から出土していないことが改めて再確認できるとともに弥生時代相当期に所属する時期のものであることが推察認識出来る。

本遺跡のゴホウラ製貝輪の未成品については、腹面加工型のＩ型Ｄ～Ｉ型Ｆ３タイプであり、島袋春美[註7]分類のⅡ類の範疇に入るものである。背面加工型の未成品はⅡ型Ｂ・Ⅱ型Ｃの２タイプが島袋分類のＩ類に所属するようである。Ⅱ型と仮称したところのゴホウラ製貝輪については、木下尚子教授は次のような見解を[註8]述べている「この地域は、縄文時代晩期末～弥生時代前期前半頃、最も早く南海産貝輪を入手する。それらはゴホウラ・イモガイ・オオツタノハを用いたまる型貝輪であった。いずれも沖縄諸島で古くから用いられていた貝輪と同じ形態をなす。……中略……南海産まる型貝輪を九州と南島で比べてみると、貝の利用部位や細部の造形に、わずかではあるが明瞭な相異が見出せる。九州人の南海産貝輪は、

使用開始期から九州製であったといえる。」。木下教授は県内外の遺跡から出土する貝輪を時代別に系統的に分類を試みて立証している。

その他に安里嗣淳氏は腹面型の未成品(註9)（製作途中）については『南島は「素材の提供者」としての立場にあった。……中略……素材を入手する例としては、遠くからもたらされたゴホウラ貝から腕輪を造るにあたっては、その成功度（完成品の歩留り）を高める必要があるため、自然貝そのままではなく、最初の打割穿孔工程を経たものを求めた。一方、提供者にとってもそれは軽量化・堅持の合理化につながった』と述べている。県内の遺跡の出土状況からも今のところ安里氏の上述の見解は有力な説として考えられ、納得できるようである。安里氏の見解を具体的に県内出土の貝の集積遺構を検証した岸本義彦・島弘の両氏はゴホウラの集積遺構は、住居址との関わりで把握できたことを見解とし述べ(註10)ている。さらにゴホウラの集積遺構は交易品としてのストックであること公算が大きいとの見解を示している。

イモガイ製貝輪については、完成品が最も多く出土した遺跡として地荒原貝塚(註11)があり、完成品（完形品・破損品）14点得られていたが、製作途上のものがイモガイ円盤状製品（５点）が貝輪から除外されていたが、本遺跡の出土例から地荒原貝塚のイモガイ円盤状製品が貝輪製作工程の中にあることが今回、初めて確認されたことは貴重な発見であった。

最近になって、ゴホウラ製貝輪の製作工程に関する資料として、読谷村の大久保原遺跡（腹面利用タイプ）と高知口原貝塚（背面利用タイプ）の例から製作工程のモデルのひとつとして仲宗根求氏は検討(註12)を行っている。

註

註１．三島　格・橋口達也　Ⅲ　南海産貝輪に関する考古学的考察と出土地名表『立岩遺跡』　福岡県飯塚市立岩遺蹟調査委員会編　河出書房　1977年。

註２．註１に同じ。

註３－a．国分直一・盛国尚孝「種子島広田の埋葬遺跡調査概報」『考古学雑報』　第43巻３号　日本考古学協会　1958年。

b．国分直一『南島先史時代の研究』　慶友社　1972年。

註４．上原　静ほか『古宇利原遺跡発掘調査報告書』　今帰仁村教育委員会　1983年。

註５．安里嗣淳ほか『伊江島ナガラ原西貝塚緊急発掘調査報告書』　伊江村教育委員会　1979年。

註６．安里嗣淳・盛本　勲ほか『伊江島具志原貝塚の概要』　沖縄県教育委員会　1985年。

註７．島袋春美「南島からみた貝の交易－弥生時代を中心に－」　特集　貝の交流〈シェルロード〉考古学ジャーナル　No311　1989年。

註８．木下尚子「南海産貝輪交易考」　横山浩一先生退官記念論文集Ⅰ『生産と流通の考古学』　横山浩一先生退官記念事業会　1987年。

註９．安里嗣淳ほか『伊江島阿良貝塚発掘調査報告』　沖縄県教育委員会　1983年。

註10．岸本義彦・島　弘「沖縄における貝の集積遺構－ゴホウラ・イモガイを中心に－」『紀要』　第２号　沖縄県教育委員会文化課　1985年。

註11．大城　慧・島袋春美ほか『地荒原貝塚－個人住宅建築工事に係る発掘調査報告－』　具志川市教育委員会　1986年。

註12．仲宗根　求『ゴホウラ製腕輪』　の製作工程に関する資料　南島考古だより　沖縄考古学会　第53号　1995年11月15日。

表中の註文献

① 金武正紀・比嘉春美『シヌグ堂遺跡』　沖縄県教育委員会　1985年。

② 金武正紀・島袋春美ほか『宮城島遺跡分布調査報告（高嶺遺跡）』　沖縄県教育委員会　1989年。

③ 大城　慧・島袋春美ほか『地荒原貝塚－個人住宅建築工事に係る発掘調査報告－』　具志川市教育委員会　1986年。
④ 岸本義彦ほか『知場塚原遺跡』　本部町教育委員会　1988年。
⑤ 金武正紀・阿利直治ほか『恩納村熱田第２貝塚発掘調査報告書』　日本電信電話公社沖縄電信電話管理局・沖縄県教育委員会　1979年。
⑥ 安里嗣淳・盛本　勲ほか『伊江島具志原貝塚の概要』　沖縄県教育委員会　1985年。
⑦ 安里嗣淳ほか『伊江島ナガラ原西貝塚緊急発掘調査報告書』　伊江村教育委員会　1979年。
⑧ 安里嗣淳ほか『伊江島阿良貝塚発掘調査報告』　沖縄県教育委員会　1983年。
⑨ 岸本義彦・島　弘ほか『具志堅貝塚発掘調査報告』　本部町教育委員会　1986年。
⑩ 島　弘ほか『備瀬貝塚－下水道工事に伴う緊急発掘調査報告－』　本部町教育委員会　1986年。
⑪ 金武正紀・比嘉春美ほか『宇堅貝塚群－アカジャンガー貝塚発掘調査概報』　具志川市教育委員会　1980年。
⑫ ⑪に同じ。
⑬ 当真嗣一・上原静ほか『木綿原』　読谷村教育委員会・読谷村立歴史民俗資料館　1978年。
⑭ 盛本　勲ほか『北原貝塚発掘調査報告書』　具志川村教育委員会　1995年。
⑮ 盛本　勲ほか『清水貝塚発掘調査報告書』　具志川村教育委員会　1989年。
⑯ 湖城　清ほか『米須貝塚』　糸満市教育委員会　1985年。

第４節　骨製品

第62図は本遺跡出土の骨製品で、大別すると実用品と装飾品、用途不明、未製品に分けられる。出土状況は第36表に示した。これによると実用品が多い。紙面の都合上主なものを図示した。

第36表　骨製品出土状況

製品		地区／層	1		6	7				8	不明	合計
			Ⅱc	Ⅳ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅴ土壙Ⅱ	Ⅳ		
実用品	骨針	イノシシ	1		1	1	3		1			7
	骨銛	イノシシ						1				1
	骨鏃	イノシシorトリ	1									1
	ヘラ状製品	ジュゴンorクジラ					1					1
	骨錐	クジラ						1				1
		ジュゴン			1							1
装飾	サメ脊椎有孔		2									2
	ジュゴン有孔（未製品）			1						1		2
用途不明	板状製品	イノシシ	4									4
		ウミガメ			3							3
	キズ有り	イノシシ	2									2
		ジュゴン	1				1	2			1	5
		ウミガメ			1							1
合計			11	1	6	1	5	4	1	1	1	31

１．実用品

イ．骨針

骨針は７点出土した。出土状況をみると１地区Ⅱc層、６、７地区のⅢ層で１個、Ⅳ層で４個、Ⅴ層（土壙２）で１個の計７個である。いずれもイノシシの腓骨の端をカットし尖らしたもので、先端は平刃のものとポイント状のものがある。本品は沖縄貝塚時代前Ⅳ、Ⅴ期に多く見られるが、後期のアカジャンガー貝塚、宇堅貝塚(註１)、具志原貝塚(註２)からも出土し、刃の部分にバリエーションがあるようにおもわれる。

第37表　骨針観察一覧

△残存部　単位：㎜

第図	番号	骨	部位	完形	観察事項	最大長	最大幅	最大厚	地区	グリット	層	層備考
第62図 図版55	1	イノシシ	脛骨	破	先端部は尖らすが、片刃的である	△66.9	6.3	4.3	7	キ-9	Ⅳ	
	2			破	焼けている。黒褐色～褐色、針先は残る。研磨も明瞭でつやがある。刃は片刃、頭部欠損。	△70.0	5.7	3.5	7	z-35	Ⅳ	
	3			破	近位部利用、先端部残存する。刃こぼれはみられない。	△35.4	5.5	3.5	6	x-34	Ⅳ	
	4			破	先端は粗く削るが、鋭くなく、軸頂部の可能性も考えられる。	△40.0	6.4	3.6	7	キ-9	Ⅳ	
	4a			破	偏平刃、横に研磨痕、先に刃こぼれ有り。	△37.7	6.3	3.6	1	F-15	Ⅱ	30～35
	4c			破	研磨痕が顕著に尖る。	△28.3	4.6	2.8	7	あ～え 34～36	Ⅴ	土壙
	4b			破	調整は他に比べて粗いが、刃先は鋭く仕上げている。刃こぼれはみられない。	△35.4	4.3	3.1	7	T・T-6	Ⅲ	

ロ．骨銛

同図５はイノシシの下顎の左切歯の両端を鋭く尖らし、ポイント状にしたものである。エナメル質部分もかなり削りこんでいる。下部も削り込んでるため、空洞になっている。完形品で最大長43.2㎜、最大幅6.1㎜、最大厚4.3㎜を測る。７地区あ～え-34～36Ⅴ層灰集中部の出土である。類例は見られないが形状から利器的要素が強い。

同図６はイノシシの四肢骨の反った部分を用いたもので、一端は舌状に加工し、他の端は柄の部分に当たり、ゆるやかに細くなる。厚さは柄の部分で2.2㎜、刃先の部分で1.6㎜とかなり薄い。全体に研磨調整が顕著で光沢がある。残存部の最大長△33.2㎜、幅10.1㎜（柄の部分8.3㎜）を測る。１地区Ｄ－11Ⅱ層最下部の出土である。

ハ．ナイフ状製品

同図10はクジラの肋骨と思われるがはっきりしない。おそらく肋骨を両面から削り、幅20㎜の板状にしたもので、横断面は先端部が長楕円、軸長側が長方形状を呈する。頭部から63㎜の所に３箇所程抉りを施す。残存部の最大長△159.8㎜、幅15.4㎜～20㎜、厚さ7.2㎜～10.5㎜を測る。７地区Ｚ－34Ⅳ層最下部の出土である。

ニ．骨錐

ジュゴンとクジラの２点が出土した。

同図９はジュゴンの肋骨を用いたもので先端部は43.3㎜の刃面をもち、片刃状に削る。軸頂部は若干破損するが粗削りのままである。全体に仕上げは雑である。最大長99.2㎜、幅24.7㎜、厚さ18.1㎜を測り、６地区Ｗ－30Ⅳ層の出土である。

同図21はクジラの肋骨を縦に半裁し、先端部を尖らしたものである。全体形は肋骨の特色をいかし、ゆるやかに湾曲する。軸頂部は横位に切り痕が囲繞し、尖端部は丸味を帯びる。最大長１㎜、最大幅45.0㎜、厚さ24.3㎜を測る。７地区Ｚ－34Ｖ層下部の出土である。クジラの骨は他に径25㎝、厚さ7.2㎝の椎体がある。１個体を解体したのが別のところから手にいれた可能性も考えられる。かなり大きい資料で錐としてよいか疑問も残る。クジラの製品は渡喜仁浜原貝塚[註3]、古宇利原遺跡[註4]、古我地原貝塚[註5]、沖縄貝塚時代前Ⅳ、Ⅴ期から主に出土している。後期の遺跡では清水貝塚[註6]などでみられるが材料自体が手に入りにくいものだと思われる。

2．装飾品

イ．サメ脊椎有孔製品

2個出土した。同図12はその1つで最大径23.2㎜、最大厚10.9㎜を測る。縁は一部破損し、孔は3.1㎜を測る。1地区E－12Ⅱc層の出土である。製品は大きい方である。また、同じ半損しているが推算径は21.9㎜のものが同じ場所から出土している。

ロ．ジュゴン有孔製品（未製品）

同図11はジュゴンの肋骨をかなり削り込んで加工したのものである。平面形は緩やかに湾曲し、イノシシの下顎犬歯を想起させる。一端に穿孔の痕があり、径は片側が6.1㎜、他方が4.6㎜を測り貫通しない。孔のあけ方のわかる好資料である。本品は最大長50.4㎜、幅は11.4㎜～7.8㎜、厚さは11.4㎜～10.4㎜を測り、横断面は上辺が隅丸の台形を呈し、下方に徐々に太くなる。出土地は1地区でD－16のⅡ層とⅣ層のものが接合出来た。

同図13はジュゴン肋骨を横位に切断し、研磨加工を施したものである。切断面に削り痕、側面に切断痕が2か所確認出来る。また、片面に穿孔の跡あるが貫通しない。7地区Z-23Ⅳ層の出土である。径26㎜×23㎜、厚さ20.4㎜、重さ11.1gを測る。

同図14はイノシシの四肢骨を半裁し、両面からていねいに研磨加工する。形状から中央に幅10.0㎜の方形の孔を2個配する。孔は平行四辺形を想起させる。形状から装飾品の類と考えられる。残存部の最大長は35.1㎜、最大幅9.1㎜、厚さ3.3㎜を測る。1地区D－11Ⅱ層20/25㎝から出土した。

3．用途不明

ここにまとめたものは形状から用途を推測するのは不可能なもので従って材質別にまとめた。

イ．イノシシ？

同図7はイノシシの右尺骨の近位部を縦に半裁し、両面を研磨したもので、他に加工痕はなく、裏面は随空が残る。最大長△33.0㎜、最大幅19.6㎜、厚さ5.3㎜を測る。1地区F－16Ⅱc層の出土である。

同図15はやはりイノシシの右脛骨を一部半裁し、さらに研磨加工したもので両端は欠損する。縦に研磨痕がみられる。最大長△43.5㎜、幅13.2～11.1㎜、厚さ2.7～3.7㎜を測る。1地区D－15＋F－15Ⅱc層（接合）の出土である。

ロ．ウミガメ

同図16はウミガメの背甲板を用いたもので破損品である。周縁部は上部と側縁部に2㎜ほどの抉りを施す。また、周縁の加工は削り込んだあとさらに、角に丸味を持たせている。色調は白～黒褐色を呈し、焼けたものとおもわれる。残存部の最大長42.6㎜、最大幅47.3㎜、厚さ10.6㎜を測る。6地区X－35Ⅳ層最下部から出土。抉りを入れるのは、夜光貝製匙にもみられるように、沖縄先史時代の骨・貝製品に見られる製作法である。

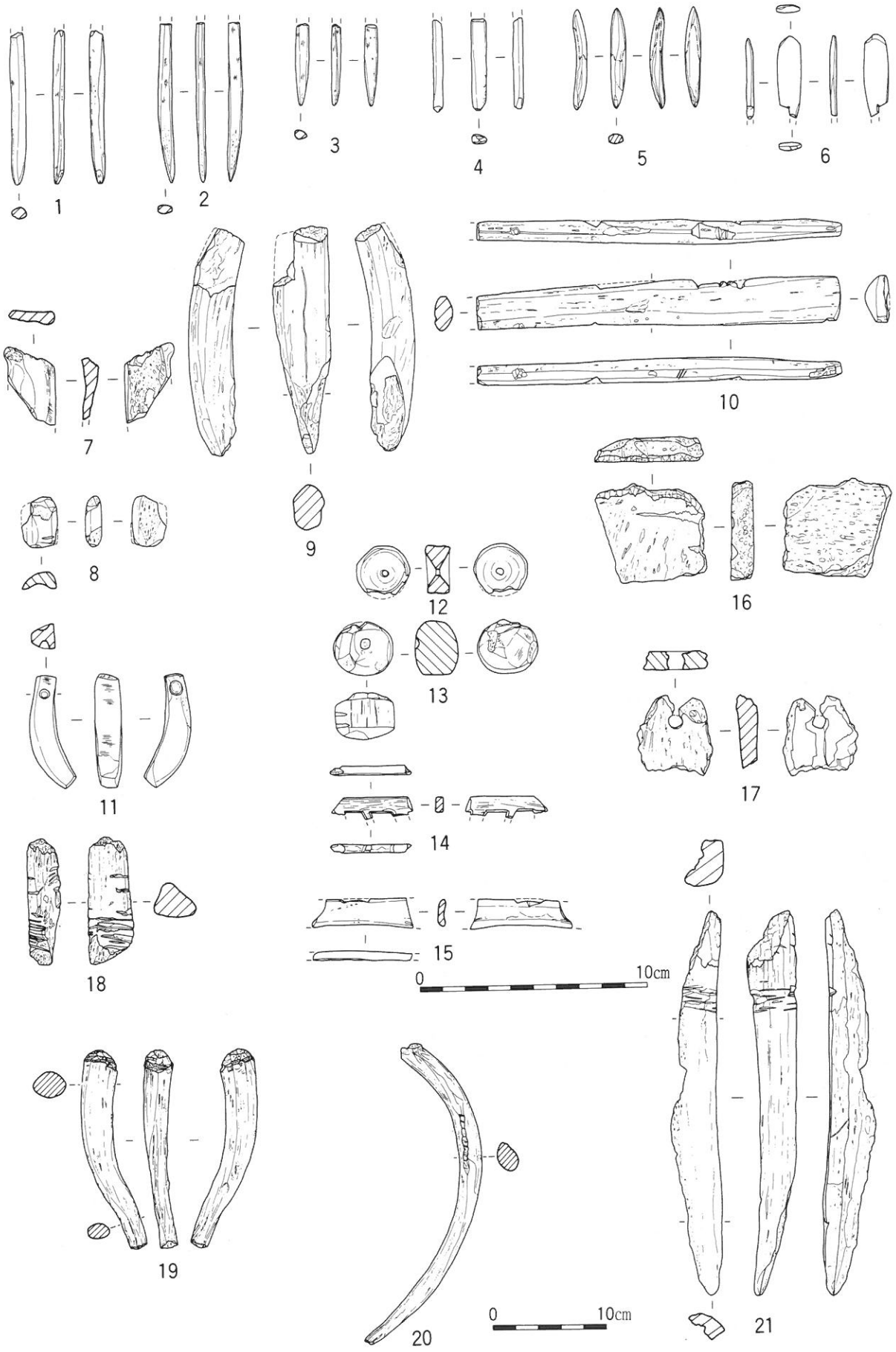
同図17はウミガメの背甲板に径5.7㎜の孔を施す。周縁は破損しているため、詳細は不明である。裏面は褐色を呈する。残存部の最大長32.0㎜、幅33.0㎜、厚さ6.0㎜を測る。6地区Y－31Ⅳ層の出土である。また、同様の製品が同地区X－35Ⅳ層からも出土している。最大長△3.26㎜、最大幅3.29㎜、最大孔は径4.6㎜を測る。

4．キズ有り

ジュゴン、イノシシ、ウミガメの骨に溝状の切り痕がみられるものである。食するためか、製品にするためか不明であるのでここにまとめた。

小　結

本遺跡出土の骨製品は種類、量とも他の遺物に比べて非常に少ない。また、ジュゴンも大量に捕獲して



第62図　骨製品

第38表　キズあり観察一覧

単位：㎜/g

第図	番号	骨	部位	観察事項	最大長	最大幅	最大厚	地区	グリット	層	層備考
第62図 図版55	18	ウミガメ	右橈骨	6箇所の溝状の切痕、溝の幅は1.6㎜を測る。食するためのキズか、製品をつくるためかは不明。	55.5	19.4	14.5	6	X-31	Ⅳ	
	19	ジュゴン	肋骨	骨体～遠位端。焼けたためか黒褐色～褐色を呈する。横位に切断、切断面はほぼ囲繞する。	179.0	29.9	24.4	7	あい-34、35	Ⅴ	集中土壙
	19a			骨体～遠位端。骨体側横位に切痕、5箇所以上見られ、切断痕は囲繞する。	145.0	18.4	17.5	7	う～えー33	Ⅴ	上
	19b			近位部～骨体。若干細い、骨体部を横位に切断。切断痕は囲繞する	142.5	19.5	17.9	7	あ-35	Ⅳ	最下部
	20			近位端～遠位端。肋骨の稜の所に削り痕が確認される。小さいがほぼ完形。	268.0	20.8	18.5	無し	不明		

いるが、製品としてはさほど使用されていないのは時代的なものが背景にあるのだろうか。クジラの製品は沖縄の先史時代の中でも出土量の少ないものである。その中でイノシシの骨を半裁したものは初めての出土である。用途については今後の資料の追加を待って検討したい。ウミガメは3点の出土があるが、抉り入りは夜光貝の影響か。

註

註1．沖縄県具志川市教育委員会「宇堅貝塚群・アカジャンカー貝塚発掘調査報告」　1980年3月

註2．沖縄県教育委員会「伊江島具志原貝塚の概要」『沖縄県文化財調査報告書　第61集』　1985年2月

註3．沖縄県今帰仁村教育委員会「渡喜仁浜貝塚調査報告書〔Ⅰ〕」『今帰仁村文化財調査報告　第1集』　1977年3月

註4．沖縄県今帰仁村教育委員会「古宇利原遺跡発掘調査報告書」『今帰仁村文化財調査報告書　第8集』　1983年3月

註5．沖縄県教育委員会「石川市古我地原貝塚―沖縄自動車道（石川～那覇間）建設工事に伴う緊急発掘調査報告書（6）―」『沖縄県文化財調査報告書　第84集』　1987年12月

註6．沖縄県具志川村教育委員会「清水貝塚　発掘調査報告書」『具志川村文化財調査報告書第1集』　1989年3月

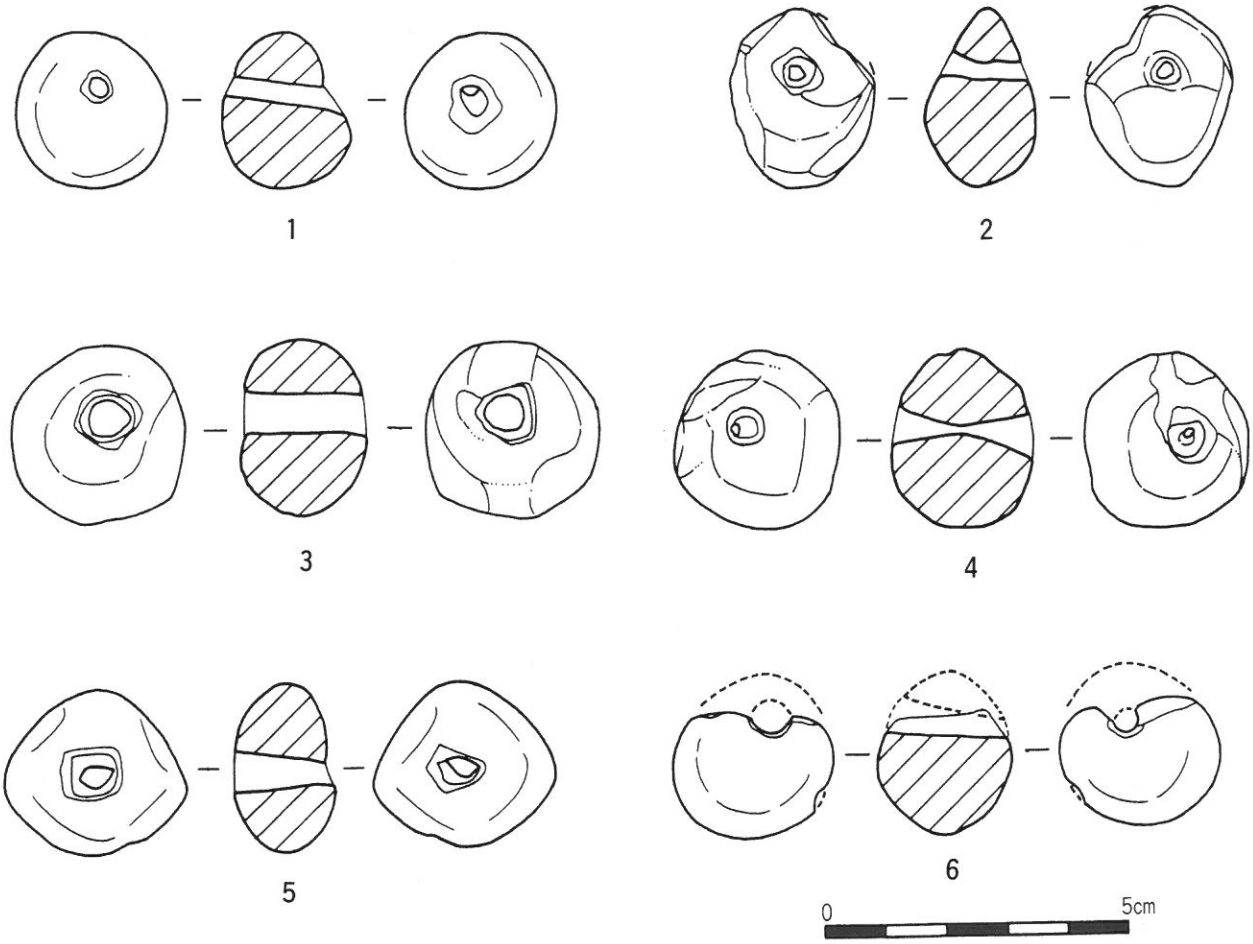
第５節　土玉製品

大きさが約３cm台の土玉製品で計６点得られた。内５点は完形品。残る１点が欠損品からなる。土器と同じく焼成によるもので赤褐色をおびる。胎土には多量の白砂、石英、黒色鉱物の微砂粒が混ざる。出土地は６地区Ｗ－27～28のⅣ層を中心に検出され、ほぼまとまった状況を呈している。

第39表　土玉製品観察一覧

単位：mm/g

図	番号	長径	短径	厚さ	孔径	重さ	備考	地区	グリット	層	層備考
第63図	1	2.92	2.78	2.01	6.7	16.7	平面形は円形。孔は比較的大きく貫通している。孔は中央よりはやや片側にずれた位置にある。色調は褐色。	6	W-27 東	Ⅳ	
	2	2.77	2.21	1.72	3.1	10.1	平面形は楕円形。孔は小さく、位置が片側による。また孔とは逆の部分が厚く丸くなる。一部欠損箇所がある。		V-28		
	3	2.45	2.33	2.03	2.3	12.7	平面形は円形。孔の位置が片側により、球体も一方が厚くなる。孔径は小さい。赤褐色をおびる。		W-25		
	4	2.88	2.56	2.15	3.6	18.4	平面形は円形。孔の位置はほぼ中央にあり丸球状をなす。		W-27		
	5	2.78	2.51	16.4	5.7	12.6	平面形は一方がやや尖る円形、孔は大きく中央に位置する。赤褐色を呈する。		W-27	Ⅴ	上面検出Pit中
	6	2.49	1.84	1.95	3.6	10.6	半欠落している。孔の位置は中心よりはややずれる。		W-28	Ⅳ	



第63図　土玉製品

第6節　青　磁

青磁片が5片得られていたので、これを図化することにした。内訳は碗2片（口縁・底部）、盤2片（口縁・胴部）、杯1片（口縁）、皿（口縁）の4器種であった。以下に個々の特徴を記す。

1．碗

第64図1は厚手の内彎するタイプの碗で、内面口縁端部に明瞭な稜が走っている。外面口縁に三本単位の櫛描きによる波頭文を施している。波頭文の直下には線彫りによる蓮弁文を描いている。素地は灰白色の粗粒子で微細な白色鉱物や灰黒色の鉱物を多く含んでいる。釉は厚く、両面に施している。釉色は黄緑色で、透明である。貫入はない。器厚は6㎜を測る。推算口径は14.2cmを求めた。1地区Ⅰ－17採集。

同図2は碗の底部近くの破片で、高台際での推算直径は6.2cmと求められた。見込みに圏線と印花文を施している。素地は灰色の細粒子である。釉はやや薄く、高台脇まで施している。釉色は淡青色を呈している。貫入はない。1地区C－13Ⅰ層60～70cmより出土。

2．盤

同図3は鍔縁盤の口縁破片で、鍔端を軽くつまみ上げている。内体面に3本の櫛目で蓮弁文を描いている。櫛目の単位は3～5本が考えられる。素地は灰白色の細粒子である。釉は厚く、両面に施している。釉色は黄緑色の釉で、両面に粗い貫入がみられる。1地区Ⅰ－14の畦の東壁より採集。

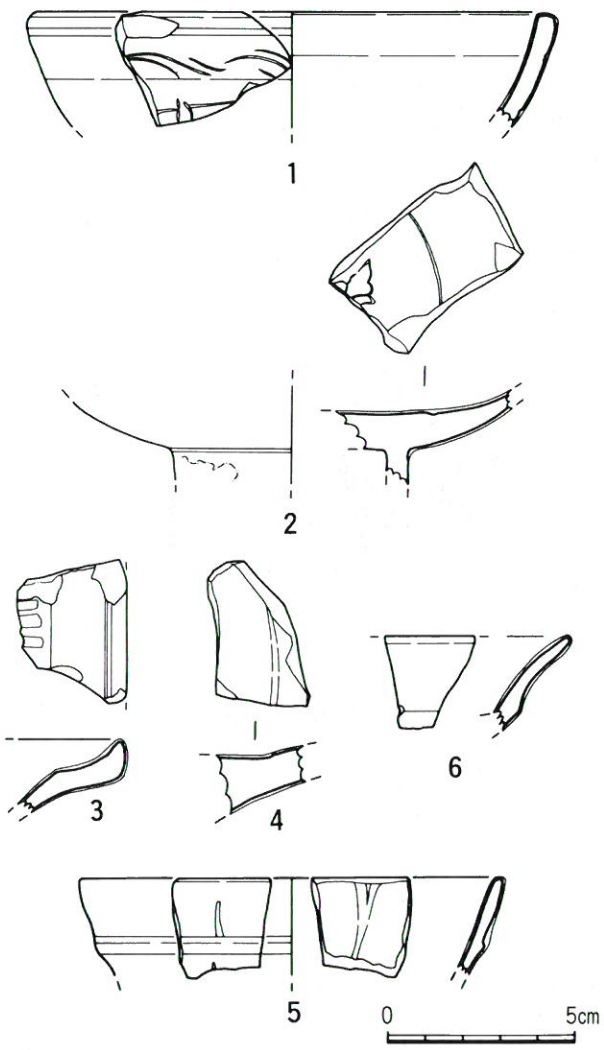
同図4は高台に近い箇所で破損した胴部片で、内面に陽圏線がみられる。素地は灰白色の微粒子である。釉はやや厚く、両面に施している。釉色は淡青緑色を帯びている。両面に粗い貫入が観察出来る。表採資料である。

3．杯

同図5は外面に陽圏線を施し、圏線の上下に弁先のない線刻蓮弁を描いている。内面は幅広の丸筥で蓮弁を描いている。素地は灰白色の細粒子である。釉色は明青緑色を呈し、釉を両面に施している。両面に粗い貫入が認められる。推算口径は11.5cmを測った。8地区ク－2より採集。

4．皿

同図6は無文の外反口縁皿の口縁資料で、腰部で「く」の字状に屈曲する。素地は灰白色の細粒子である。釉色は明青緑色を呈し、両面に施している。両面に釉が施されている。貫入はない。出土地点と層はⅡ層のPit.440より出土。



第64図　青磁

小　結

波頭文と線彫り蓮弁文を施した碗は、今のところ首里城跡[(註1)]にその類似例をみることが出来る。首里城

跡の出土状況を検討した場合、首里城跡では雷文帯碗や線刻細蓮弁碗などと共伴していることが確認されていたので、この種の碗は今のところ15世紀中頃～16世紀に位置付けられるものとして考えられるようである。

杯の類例は、今のところ今帰仁城跡(註2)の出土品に認められ、蓮弁文杯として分類されているものに類似するようである。

註

註1．上原　静「首里城城郭、西のアザナの調査」『文化課紀要』　第10号　沖縄県教育庁文化課　1994年3月。

註2．金武正紀・宮里末廣ほか『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ』　今帰仁村教育委員会　1983年。

第7節　白　磁

白磁の胴部破片が2片出土している。1点は白磁玉縁碗もしくは端反碗の胴部片とみられるものである。他の1点は白磁外反碗の胴部である。以下に個々の特徴を記すことにする。

1．白磁玉縁碗か端反碗

第65図1は薄手の胴部片で、内面腰下部に片切り彫りによる圏線を施している。素地は白色の微粒子である。釉は薄く、外面の腰下部まで施す。内面は総釉。釉色は淡灰白色で透明である。貫入はない。外面の調整は削りを丁寧に施して仕上げるが、部分的に雑な削りが入っている。内面は轆轤痕が丁寧に施されて仕上げるが、一部分盛り上がっている箇所が認められる。器厚は3～4㎜を測る。胴上部の最大径は15cmを測る。8地区クー3Ⅳ層面より出土。本資料は白磁玉縁碗の可能性が強い。

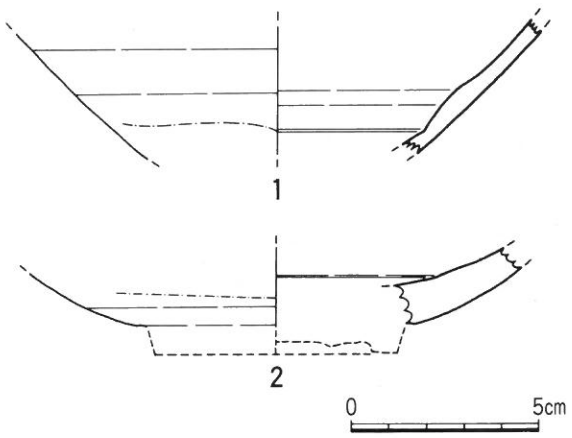
2．白磁外反碗

同図2は内面に浅目の片切り彫りの圏線を施す厚手の碗である。素地は灰白色の微粒子である。釉は厚く、外面の腰下部まで施している。内面は総釉する。釉色は淡灰白色で、不鮮明な色合いとなっている。貫入はない。高台際に削りを入れている。推定高台径は7cmを測る。出土地点と出土層は不明。

小　結

白磁玉縁碗か端反碗の胴部片とみられるものは、金武正紀氏編年(註1)に順じるとすれば、本資料を白磁玉縁碗として考えるならば玉縁碗の碗Ⅰに該当するようである。時期的には11世紀末～12世紀前に所属するようである。端反碗の胴部として取り扱った場合、時期的には玉縁碗と平行する時期であり、時期的な差においては、問題は生じない。

白磁外反碗として取り扱った胴部片は、今帰仁城跡の白磁碗Ⅲ類(註2)に相当し、発掘担当者の金武正紀氏は次のような時期を設定している「山北（今帰仁）王が中国交易を行った1383～1415年を中心に将来(註3)されたと考えられる。」この種の碗は、勝連城跡(註4)からも出土しているようである。



第65図　白磁

註

註１．金武正紀「沖縄における12・13世紀の中国陶磁器」『沖縄県立博物館紀要』　第15号　沖縄県立博物館　1989年。

註２．金武正紀・宮里末廣ほか『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ』　今帰仁村教育委員会　1983年。

註３．金武正紀「沖縄の中国陶磁器」『月間考古学ジャーナル』　特集・琉球王朝の考古学　第320号　ニュー・サイエンス社　1990年６月号。

註４．安里嗣淳・大城秀子ほか『勝連城跡―南貝塚および二の丸北地点の発掘調査―』　勝連町教育委員会　1984年。

第８節　染　付

明代～清代の染付片が７点得られている。器種は碗と杯の２器種のみであった。以下に個々の特徴を記述することにする。

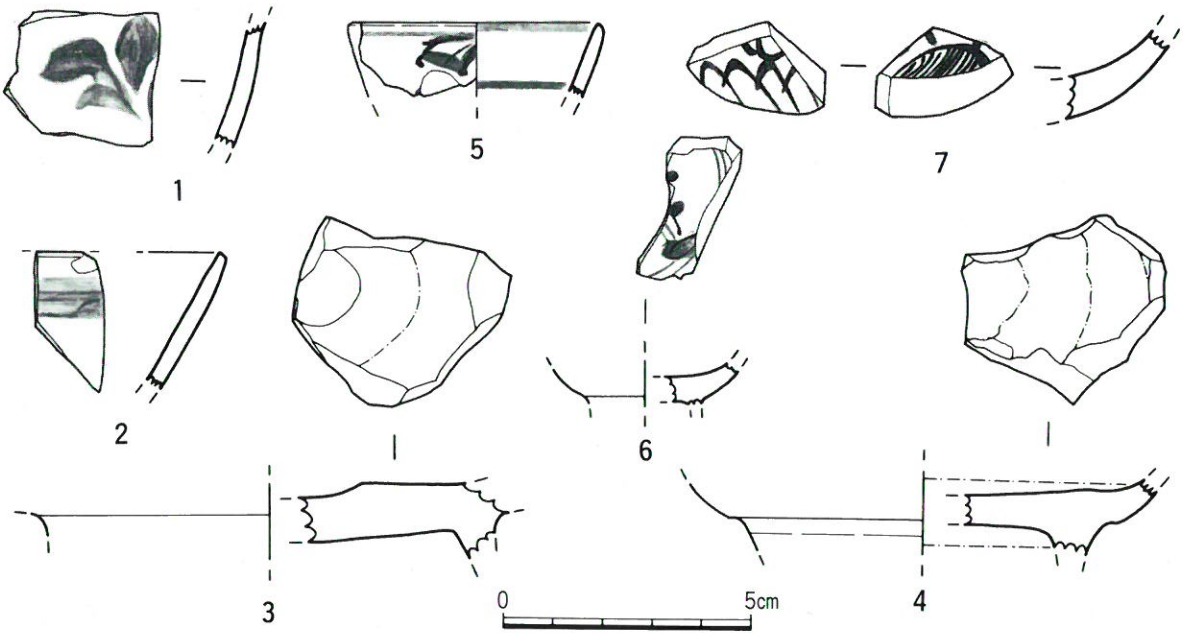
１．碗

第66図１は口縁を欠くが、頸部の状況から口縁が僅かに端反るタイプの碗とみられる。外面のみに文様が残存し、淡青色の呉須で葉文を描く。釉色は淡青白色を帯びる。素地は淡灰白色の微粒子。貫入はない。表土より採集。

同図２は口縁が直口するタイプの碗である。文様は外面のみに施していて、淡灰緑色の呉須で幅広の圏線で描いている。釉色は淡灰白色で、両面に施している。素地は灰白色の粗粒子で、微細な黒色鉱物を多く含んでいる。７地区Ｚ－26攪乱層より出土。

同図３は碗の底部破片で、高台の大半を欠いている。文様はなく、淡青白色の釉を総釉した後に見込みの釉を輪状に掻き取っているようである。見込みの中央の窪みは成形時の指押えによるものである。素地は淡灰白色の微粒子である。高台際での復元直径は９cmを測る。表採品である。

同図４も碗の底部資料である。高台際に削りを入れている為、高台外面の稜線が削りで明瞭となる。淡灰白色の釉を総釉した後に見込みの釉を掻き取っている。素地は淡灰白色の細粒子である。高台際での復



第66図　染付

元直径は7.2cmを測る。表土層より出土。

2．杯

同図５は小杯の破片で、口径の推算が5.1cmを求めた。外面の呉須で圏線と草花文を描き、内面の口縁と胴下部に圏線を施している。釉色は淡青白色を呈している。素地は白色の微粒子である。pit. 6 より出土。

同図６は杯の腰下部の破片である。文様は内面に二本の圏線と草花文を描く。外面の釉色は茶褐色の透明釉を施し、内面は淡青白色の釉を施している。素地は白色の微粒子である。高台際での推算直径は2.4cmを測った。７地区Ｚ－24 A′・B′ 砂層より出土。

3．碗胴部

碗の胴部片を同図７に図化した。外面に呉須で蓮弁文と波状文を描く。内面は構図が不明である。釉色は淡青白色を帯びている。素地は白色の微粒子である。表採品である。

小　結

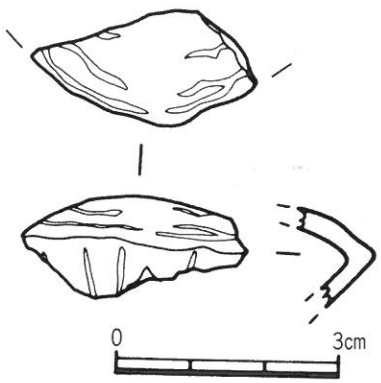
報告した染付の中で、同図２は素地や呉須などから中国南部もしくはベトナムのものとみられる。なお同図２・３・４は阿波根古島遺跡[註1]の例からすると16世紀後半～17世紀中以降の時期に位置付けられるようである。また、外面に茶色の釉を施した杯も阿波根古島遺跡などからも出土していて、時期的には上記した16世紀後半～17世紀に納まるようである。

註

註１．金城亀信・照屋　孝ほか『阿波根古島遺跡』　沖縄県教育委員会　1990年

第９節　緑釉陶器

緑釉の小壺とみられる胴部片が１点出土していたので、これを図化した。以下にその特徴を記述する。



第67図　緑釉陶器

1．小壺

第67図１は側面観が「く」の字状に屈曲し、丁度算盤玉のような形態となっている。文様は屈曲部の上に波状文を施し、同部の下には蓮弁文を施している。素地は、淡桃白色の細粒子で、軟質である。淡い緑色の釉を施す前に下地に白化粧を行っている。内面の調整は判然としないが、外面の蓮弁文と一致するように内面が窪んでいる状況から指ナデや幅広の丸篦などを使用した可能性が高い。文様や調整方法などから型物の小壺とみられる。T.T. ８のⅤ層より出土。

小　結

緑釉の報告例として今帰仁城跡[註1]（瓶）・阿波根古島遺跡[註2]（水注）・糸数城跡[註3]（壺）などで出土していてグスクやグスク相当期の遺跡からしか報告されていないようである。糸数城跡の資料は13世紀中頃～14世紀中頃の時期に位置付けられていて、阿波根古島遺跡の資料は16世紀に比定されている。

本遺跡の資料は須恵器・石鍋・白磁玉縁口縁碗などの出土するⅡ層～Ⅳ層より下のⅤ層より出土していて、本資料が安定した層から出土しているのであれば、11世紀末～12世紀以前の小壺となる可能性が高い。もしそうであるのであれば、県内最古の緑釉陶器となるが、今後の類例資料との検討や本格的な鑑定が

必要であろう。また、ここでは緑釉として報告してあるが、二彩や三彩となることも予想されるので、一応、釉の残存状態から判断して緑釉として取り扱った。仮りに国産や中国産の緑釉であれば、8～9世紀前半頃(註4)の資料となる可能性が高い。本資料の正式な鑑定結果については、将来報告したいところである。

註

註1．金武正紀・宮里末廣ほか『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ』　今帰仁村教育委員会　1983年。

註2．金城亀信・照屋　孝ほか『阿波根古島遺跡』　沖縄県教育委員会　1990年。

註3．金城亀信ほか『糸数城跡』　玉城村教育委員会　1991年。

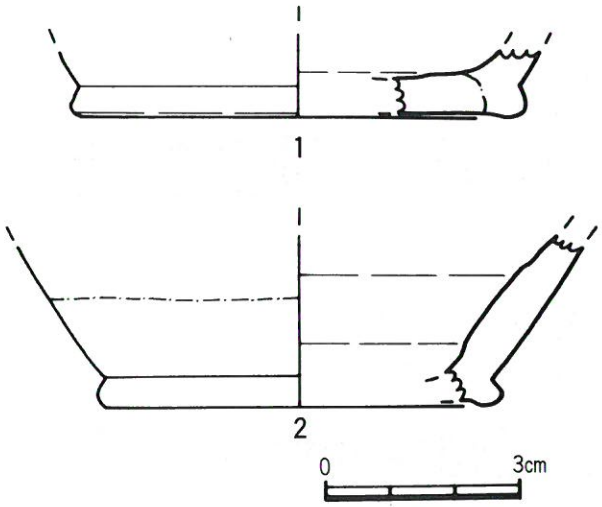
註4．財団法人　千葉県文化財センター『房総考古学ライブラリー7　歴史時代(1)』　弘文社　1993年。

第10節　黄釉陶器

黄釉陶器の壺の底部片が2片得られている。以下にその特徴を記すことにする。

1．壺

第68図1・2は素地や底造りの成形が一致している為、同一の個体である可能性が考えられた。一応、個別に特徴を記述する。1は推算底径が7.1cmを測った資料で、底部がくびれた平底気味の器形となっている。くびれの成形は回転篦削りで調整され、突出部は丸味を持たせて調整する（回転篦削り後に回転擦痕）。外底面の調整は、雑なナデや指圧が残っている。外底面や劈開面の状況から胎土を円盤状に押し付けた後に身となる陶土を継ぎ合わす方法で実施されている。内底面は雑な轆轤成形で仕上げている。内底面には黄色の釉が垂れている。素地は軟質で、桃白色の粗粒子である。1地区H－14Ⅱ層35～45cmより出土。



第68図　黄釉陶器

2は推算底径が6.3cmを測った資料で、底面の大半を欠いている。成形技法及び素地は1と同一である。釉は胴下部まで施しているが、釉は禿げ落ちていて、淡い黄白色となっている。1地区H－13Ⅱ層30～35cmより出土。

小　結

本資料については、東京国立博物館陶磁室長の矢部良明氏に鑑定(註1)をお願いした。鑑定の結果、12世紀前半の資料であることが判明した。県内遺跡で黄釉陶器がこの時まで遡った資料はなく報告例もない。褐釉水注の例では新里村遺跡から出土したものが最古であり、12世紀末(註2)～13世紀に比定されている。今後の県内陶磁器を編年する上で貴重な資料となることについては間違いはないものとして判断したいところである。

註

註1．1994年10月18日に矢部良明氏に実物を現場で鑑定して戴いた。記して謝意を表わしたい。

註2．金武正紀「沖縄における12・13世紀の中国陶磁器」『沖縄県立博物館紀要』　第15号　沖縄県立博物館　1989年。

第11節　本土産陶磁器

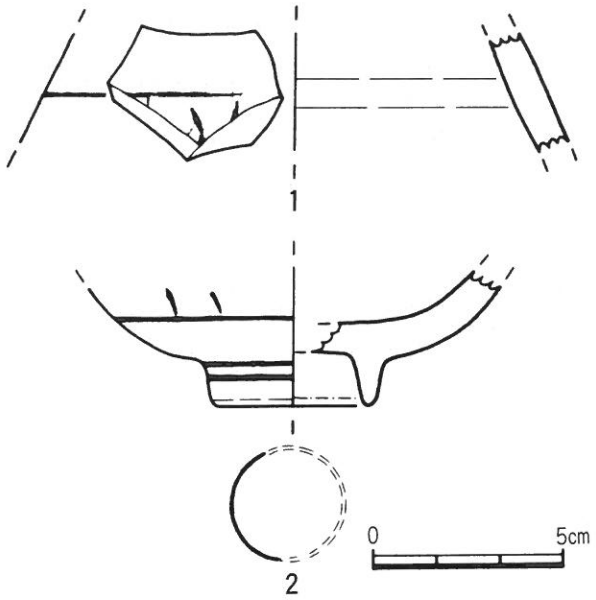
本土産陶磁器として取り扱ったのは伊万里系の瓶と近・現代の茶碗である。いづれも２点のみ出土していて細片化した資料である。以下にその特徴を記述する。

１．伊万里系の瓶

第69図１は染付瓶の頸下部の破片で、呉須で圏線と鋸歯文を描いている。釉色は淡青白色で、外面のみ施し、内面は露胎のままである。素地は淡灰白色の微粒子である。表採品である。

２．近・現代の茶碗

同図２は茶碗の底部片で、高台径が2.5cmを測る。外面の腰中央には、呉須で斜線と圏線を施し、高台外面には二本の圏線を施している。外底面にも圏線を施している。釉色は青白色で、両面に総釉した後に畳付と高台内端の釉を掻き取っている。廃土より採集。



第69図　本土産陶磁器

第12節　須恵器

総数20点が得られていて、全て小破片である。須恵器としたものは、白木原和美氏が類須恵器[註1]と提唱されたものである。この須恵器の窯は10年程前に徳之島で発見され、カムイヤキ[註2]で焼成されたものが持ち込まれたかと考えられるところである。県内の多くのグスク時代遺跡から出土し、報告されている。カムイ焼き（須恵器）は日本最南の有人島である波照間島の大泊浜貝塚[註3]や最西端の与那国島の慶田崎遺跡[註4]からも出土している。本遺跡で確認された器種で明確なものは壺である。他に胴部片ではあるが薄手の腰折皿か杯などに該当する資料が得られている。これについては器種不明として取り扱うことにする。以下、壺・器種不明の順に記述することにする。また、胴部の２・３点は壺と判断されたので壺で取り扱うことにした。

１．壺

第70図１は外反のきつい壺の口縁破片である。口縁内面を窪ませて、口唇を尖り気味に成形する。外面口縁は若干、丸味を持たせて成形し、口縁下端に篦削りを深めに入れて肥厚を造る。外面は回転篦削りを回転擦痕で消した感じを受ける。内面は回転擦痕が認められる。器色は外面が灰黒色を主体とし、口縁部は灰褐色を帯びている。内面は灰褐色を帯びる。芯部は茶紫色を帯びる。素地に石灰質の微砂粒が少量混入する。口径の推算は12cmを求めた。５地区カー４ Ⅱc層の出土。

同図２も外反のきつい壺の口縁破片で、図１と基本的に口縁形態と成形が一致していて図１と同一個体である可能性もあるが、一応、特徴を記述する。外面口縁に篦削りを入れた為、この部分に角が生じ「く」の字状となっている。また、肥厚帯直下に篦削りを入れて削り取って成形している点も図１と共通している。器面調整は外面の口縁に回転篦削り、頸部に回転擦痕が観察出来る。内面は回転擦痕のみが観察される。器色は両面とも灰褐色を帯びているが、外面が幾分か濃い色合いとなっている。芯部は茶紫色を帯びる。素地に石灰質の微砂粒を少量含んでいる。口径の推算は11.8cmを求めた。

同図３は壺の頸下部から肩部にかけての資料である。外面の頸下部に格子状の叩きの痕跡が認められる。叩きを回転擦痕やナデで消したようである。内面には回転擦痕が観られる。器色は外面が灰褐色、内面は灰色を帯びている。芯部は茶紫色を呈している。素地に石灰質微砂粒が少量含まれている。頸部の最も締るところで10.2cmと求めることができた。８地区ク－４Ⅳ層上面より出土。

同図４は外面に平行叩きを入れた胴部片である。外面の叩きは篦で削られ滑らかとなった部分が認められる。内面は目の粗い格子様の当て具を当てた後に刷毛目状の工具でナデ消しているようである。器色は外面は淡灰色を帯びている。内面は明灰色を呈している。芯部は茶紫色を呈し、素地に微細な石英を僅かに含んでいる。１地区Ｆ－12Ⅱ層30～35cmより出土。

同図５も外面に平行叩きを施した破片である。内面の当て具は目の粗い格子状の当て具を当てた後に刷毛目状の工具でナデ消すが消え切っていない。器色は両面とも青灰色を帯びている。芯部は明茶色を呈している。素地は肉眼では観察できないが25倍ルーペを使用すると微細な石英が僅かに含まれていることが確認できた。１地区Ｅ－11Ⅱ層25～30cmより出土。

２．器種不明

同図６は器厚が２～2.5㎜と薄手の資料である。外面は篦による削り調整で仕上げられている。内面は回転擦痕で仕上げの調整とする。器色は外面が灰黒色、内面は灰色を呈している。芯部は茶紫色を帯びる。素地に微細な石灰質砂粒を少量混入している。表採資料である。

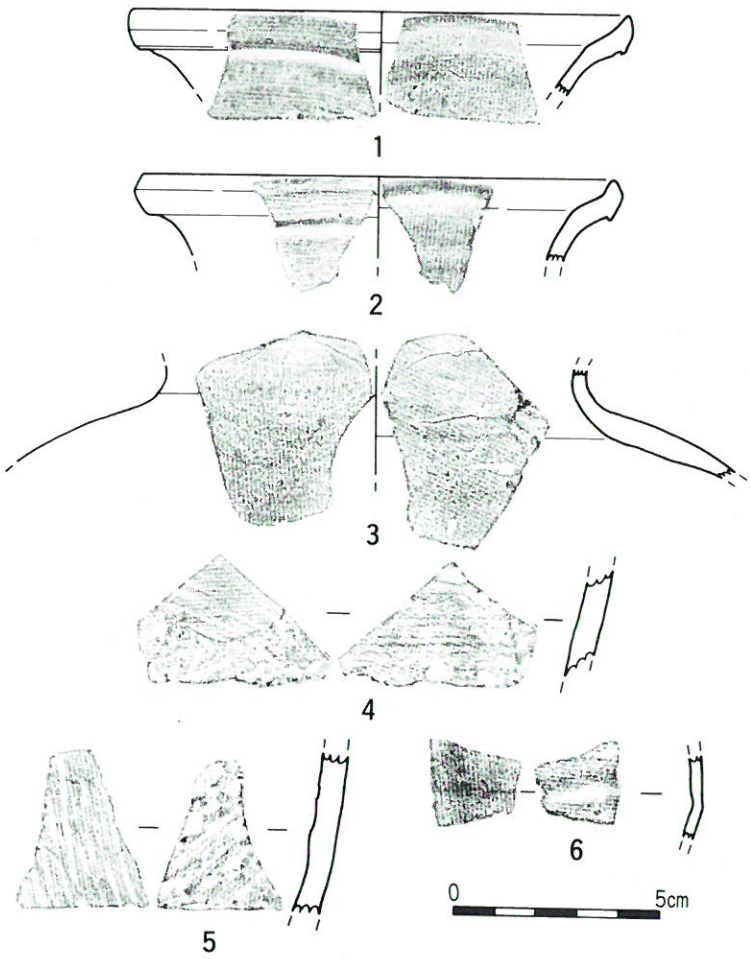
註

註１．白木原和美「類須恵器の出自について」法文論叢　第36号　熊本大学法文学会　1975年。

註２．伊仙町教育委員会『カムイヤキ古窯跡群Ⅱ』　伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)　1985年。

註３．沖縄県教育委員会『下田原貝塚・大泊浜貝塚』　1986年。

註４．与那国町教育委員会『慶田崎遺跡』　1986年。

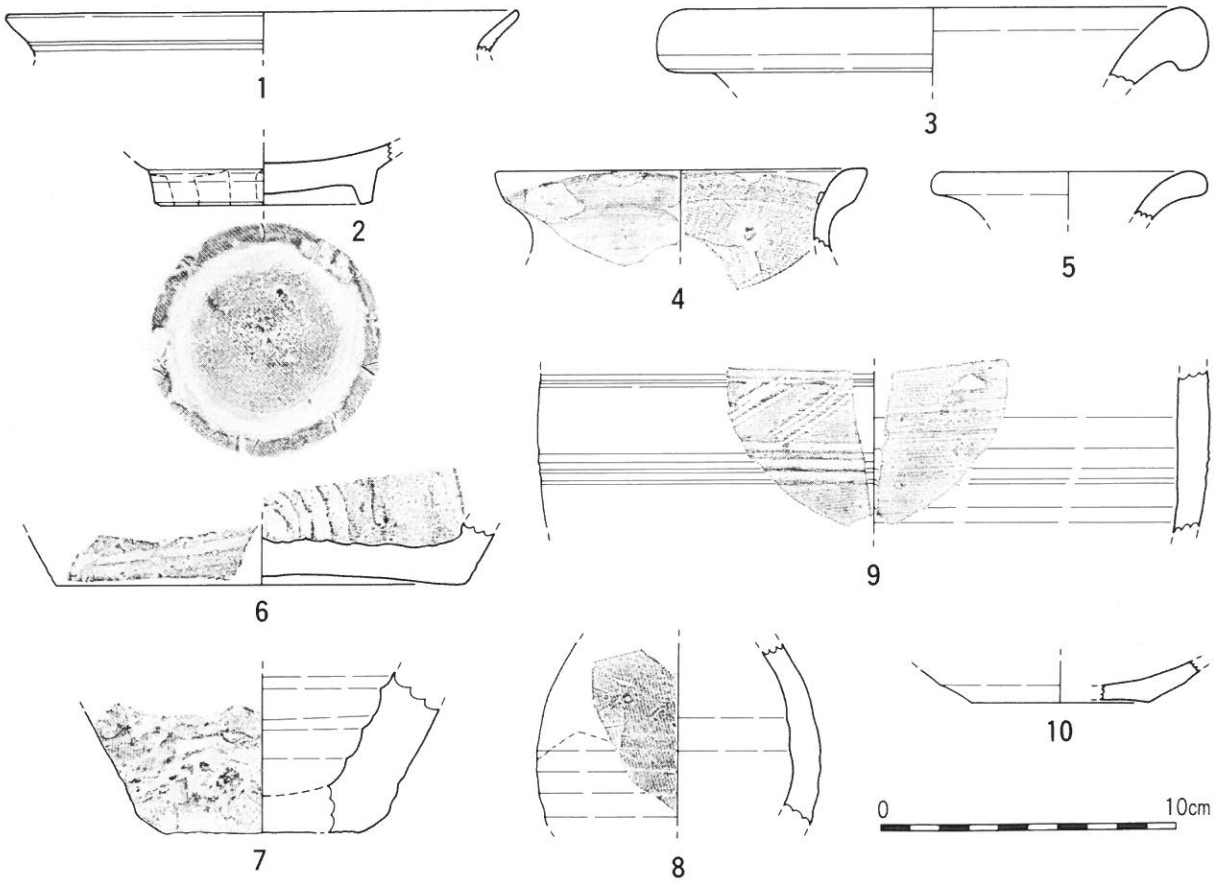


第70図　須恵器

第13節　沖縄産無釉陶器

沖縄産無釉陶器で確認された器種は、壺・瓶・甕（水甕か厨子甕）・炉・小皿の５種類であった。個々の特徴については第41表に呈示し、図は第70図の２～10に示した。

ここでは本遺跡出土の沖縄産無釉陶器について、１・２点注目される資料について考えてみることにする。第70



第71図　沖縄産無釉陶器

図７の瓶の資料は、底部近くに皺などが認められる状況から焼成中に窯内で傾いた状態で焼かれた際に皺の発生や粘土が付着したものである。本来ならば窯出しの段階で廃棄されるかあるいは著しく商品価値の低い瓶として売買されていた資料として考えられ、当時の窯業生産と流通（生産地と消費地）のあり方を検討する上で注目される資料である。単純に歪な形をした瓶であってもその機能を十分に満たせば、商品として流通していたのであろうか。

同図10の小皿の類例は、湧田古窯跡(註１)の例があり、灯明皿として使用されるものと銘々皿として使用されるものが存在するようであるが、両者の区別は口縁資料がない限り困難である。今回は小皿の底部として報告してある。器形は類例資料などから内彎の小皿が考えられる。

註

註１．島袋洋・金城亀信ほか『湧田古窯跡（Ⅱ）—県庁舎議会棟建設に係る発掘調査—』　沖縄県教育委員会　1995年。

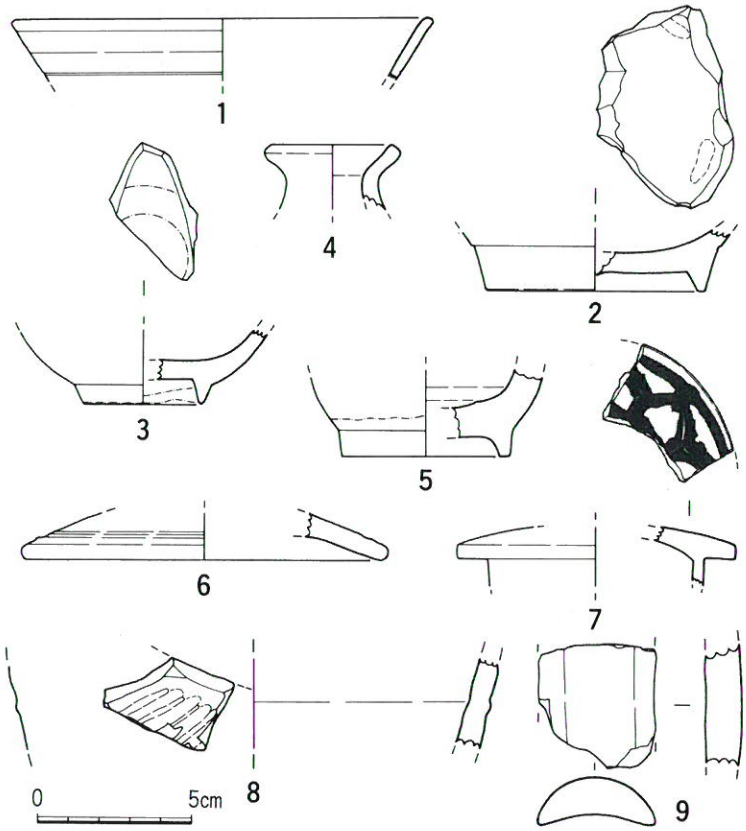
第14節　沖縄産施釉陶器

沖縄産施釉陶器で確認された器種としては、碗（灰釉碗）・小碗（鉄釉小碗）・袋物・油壺（蓋）・急須（蓋）・火炉・大型急須（把手）があり、その他に酒器の口縁とみられるものが出土している。これを含めると８器種となる。個々の特徴については第40表に表わした。図化は第71図に呈示してある。

ここでは本遺跡出土の陶器の特徴について概略的に述べることにする。

前述した８器種（酒器？を含む）の器に釉掛された釉の種類として、灰釉・鉄釉の２種類を基本としている。その他に素地に白化粧土を塗付した後に呉須で亀甲文を描いて仕上げに透明釉を施した釘彫り染付[註1]や白化粧土に透明釉を釉掛けしたものがある。飴釉・緑釉などの資料は未発見であった。主なものを以下に記す。

第71図１・２は灰釉碗で施釉の手法は「フィガキー」[註2]によるものである為、腰下部から高台は露胎のままである。２の資料の見込みに重ね焼きの目痕が観察される。３は外面に鉄釉、内面に透明釉（白化粧土）を施したもので類例として湧田古窯跡[註3]で出土していて、湧田古窯跡の小碗Ⅱ類に相当する。内底面は他の小碗を重ねて焼成する目的で輪状に掻き取っている。５の袋物については釉薬に灰緑色を帯びた透明釉を用いる点に注目される。内面にも釉を施している点や釉色の状況などから検討される器種は花瓶が考えられるところであるが、今後の類似資料等に期待される。



第72図　沖縄産施釉陶器

註

註１．多和田真淳「琉球陶器の分類学的考察」『琉球の文化』　創刊号　1972年。

註２．釉薬に器を浸して掛ける手法であり、見込みと高台は露胎したままである。

註３．沖縄県教育委員会『湧田古窯跡（Ⅰ）―県庁舎行政棟建設に係る発掘調査―』　1993年。

第15節　その他の陶器

その他の陶器として取り扱ったものは、産地が不明なもので本土の須恵器か陶器。あるいはタイ・ベトナムなどの東南アジア諸国の陶器などの可能性が考えられる。将来の鑑定結果に委ねることとしたい。

ここでは特徴を以下に記述することにする。

第72図は推算口径が15.1cmと求められたものである。残存部位から腰折れの皿もしくは蓋が考えられるが、ここでは皿として図示してある。腰部は「く」の字状に屈曲し、頸部で軽く締まらせた後に口縁を外反させている。口唇は幅広で9.5㎜を測る。口唇の外端は丸味を持たせて成形している。器厚は５～７㎜を測る。外面の調整は腰部から上が右から左方向に回転擦痕を加えているが不鮮明である。腰部から下は

第40表　沖縄産施釉陶器観察一覧

図 図版 番号	器種 分類	口径 底径 器高 (cm)	釉（外面）	釉（内面）	素地	施釉範囲 （外面）	施釉範囲 （内面）	特徴など	出土地点 出土層
第72図 図版60 1	灰釉碗	13.6 － －	淡灰色。透明釉。	同左。	灰白色の微粒子。	口縁は総釉。	同左。	直口気味の碗が予想される。口唇に鉄釉が付着。口縁直下に箆削りを加え口縁を強調している。胴部に細く浅目の圏線とみられるものが施されている。	T.T. 1 Ⅰ層
〃 〃 2	灰釉碗	－ 7.3 －	無釉。	同左。	淡灰白色の微粒子。	無釉。	同左。	灰釉碗の高台破片。畳付けが2.5㎜と幅が狭い。高台は両面とも斜位に削り出して成形されている。内面に重ね焼きの際の胎土目の目痕が見られる。	8地区 ク－3 Ⅳ層上部
〃 〃 3	小碗	－ 3.8 －	鉄釉。失透釉。	白化粧と透明釉。	灰白色の細粒子。	高台外面まで施釉。高台内面途中まで施釉。	総釉後に見込みの釉を輪状に掻き取る。	腰部で丸味を持った小碗。釉は高台内面途中まで施した後に畳付けの釉を掻き取っている。内刳りは深く丁寧に削り出している。	
〃 〃 4	酒器？	4.4 － －	鉄釉。失透釉。	同左。	茶褐色の細粒子。	口縁は総釉。	同左	口縁部で「ハ」の字状に開く。口縁内面を僅かに窪ませている。内面の頸部と口唇内端に稜線が認められる点などから酒器の可能性が高い。	1地区 C－13 Ⅰ層 60～70cm
〃 〃 5	袋物	－ 5.4 －	灰緑色。透明釉。細かい貫入あり。	同左。 粗い貫入あり。	灰白色の微粒子。	高台際まで施釉。	総釉。	腰部で丸味を帯びた袋物。内面の轆轤痕は起伏が著しく、雑である。	7地区 い－26 攪乱
〃 〃 6	油壺の蓋	11.8 － －	灰茶色。透明釉。	無釉。	灰白色の微粒子。	残存部は総釉。	無釉。	蓋上面に丸彫りの浅い圏線を施す。蓋上面の釉が輪状に禿げ落ちている（重ね焼きによるものとみられる）。	7地区 あ－35 溝状攪乱
〃 〃 7	急須蓋 （釘彫染付）	9.0 － －	淡黄白色。透明釉。白化粧。	無釉。	白色の細粒子。半磁胎	総釉。	無釉。	蓋甲に叉状工具による圏線と亀甲文を施した後に文様上に呉須を雑に施している。釘彫りの染付である。	7地区 表採
〃 〃 8	火炉	－ － －	鉄釉。失透釉。	無釉。	灰白色の細粒子。	総釉。	無釉。	内彎気味の器形が予想される。口唇を弧状に抉って成形する。口縁に丸彫りの斜沈線文を施す。胴径16cm。	8地区 ク－4 攪乱
〃 〃 9	大型急須の把手	－ － －	黒褐色。	同左。	淡灰白色の細粒子。微細な黒色鉱物が少量混入。	残存部は総釉。	同左。	急須の把手破片で幅3.7 cmを測る。横断面は扁平な半円形状を呈する。	表採

第41表　陶質土器及び沖縄産無釉陶器

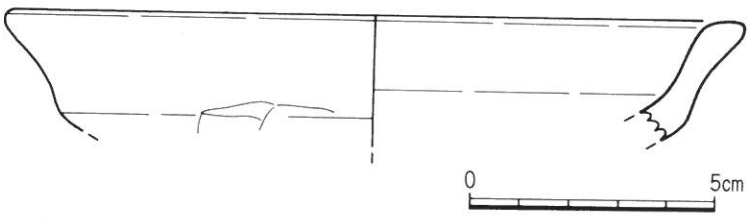
図 図版 番号	器種 分類	口径 底径 器高 (cm)	器色	素地	器面調整	特徴など	出土地点 出土層
第71図 図版60 1	陶質土器 鍋	17.0 － －	外面は黄褐色を呈す。 内面は淡橙色を帯びる。	細かい。焼成は脆弱。微細な雲母・有色物質を多く混入させる。 軟質の胎土。	外面，回転篦削り後に回転擦痕でナデ消す。 内面，回転擦痕。	口縁内面が僅かに窪む。外面の頸部に回転篦削りが顕著に認められる。回転篦削りは頸部を成形する際に生じたものである。手に粉末が付着する。	1地区 J－23 南壁の壁面より採集
〃 〃 2	陶質土器 炉底部	－ 7.2 －	両面とも淡橙色を呈する。淡黄色の変色した釉が高台際まで施されている。	淡橙色の細粒子。石灰質微粒子・雲母の細片を少量含む。焼成は良く硬い。硬質の胎土。	両面とも回転擦痕。高台の内外面と外底面は回転篦削り。畳付は斜位に篦削りで成形して仕上げる。	炉の底部資料で、高台際に火を受けて変色した淡黄色の釉が施されている。高台の高さは1cmと高く、削り出しで成形されている。畳付は使用によって大半が摩滅している。外底面の内刳りは時計回りに抉り取られている。	7地区 ウ－34 攪乱層。
〃 〃 3	無釉陶器 壺	18.4 － －	両面とも灰茶色の釉。	茶紫色の粗粒子。細かい石英が僅かに混入。	両面とも回転擦痕による調整とみられる。	口縁がラッパ状に開かせた後に玉縁状の肥厚を造っているようである。肥厚帯下端は抉れている。劈開面に縞文様の白色陶土がサンドイッチ状に入っている。大型の壺の口縁とみられる。	3地区 ウ－8 Ⅱa層
〃 〃 4	無釉陶器 瓶子	12.4 － －	外面は茶黒色。 内面は明茶色。	茶褐色の細粒子。石灰質の細砂粒が少量混入する。	外面は回転擦痕。 内面は水ナデ。 口唇は回転擦痕。	肥厚部の側面観は歪な菱形を呈し、口唇を尖らせている。内面に轆轤成形の際に生じた締り目と3～4㎜の陶土が付着している。	4地区 O－22 攪乱層より出土。
〃 〃 5	無釉陶器 瓶子	9.2 － －	両面とも光沢のある茶紫色の釉。	茶紫色の微粒子。粗い石灰質砂粒を僅かに含んでいる。	釉が施されていて判然としないが、回転擦痕か。	口縁がラッパ状に大きく開く為、口唇が外向きとなる。器厚は口唇部で9㎜、頸部で5㎜の厚さを測る。釉に 1.2㎜程度の気泡が認められる。	1地区 C－13 Ⅰ層 60～70cm。
〃 〃 6	無釉陶器 壺底部	－ 13.6 －	外面と外底面は茶黒色の器面に光沢のある灰黄色の釉を施す。内面は茶褐色。	茶褐色の細粒子。石灰質粗砂粒と粗い有色鉱物を僅かに含んでいる。	外面と外底面に雑な篦削りを加えている。内面は雑な轆轤痕が観察できる	底面が浅く盛り上っている。底面からの立ち上りは、やや内側に閉じ気味に立ち上らせ、その後に底面近くに削りを加え、底部を強調している。	7地区 溝状遺構
〃 〃 7	無釉陶器 瓶底部	－ 8.4 －	外面に茶紫色の釉を施す。内面は灰茶色を帯びる。	茶褐色の粗粒子。石灰質粗砂粒と橙色の粗い鉱物を少量含んでいる。	外面は釉が施されていて判然としない。内面は起状のある轆轤痕。	焼成中に窯内で傾いた為、外底近くに皺が発生し、ハマの粘土が付着している。底面は剥離が目立ち平坦面が少ない。	7地区 溝状遺構
〃 〃 8	無釉陶器 瓶胴部	－ － －	外面は灰褐色を呈し、その上から茶紫色の釉を施す。 内面は明橙色の釉を施す。	茶褐色の細粒子。細かい砂粒と粗い石灰質の砂粒を少量混入する。	外面の胴下部は轆轤痕で胴上部が回転擦痕。内面は轆轤痕と回転擦痕。	瓶子の胴部片で、胴上部に「フ」の字状のヘラ記号を入れている。胴の最大径は9.4cmを削る。	7地区 Z－34 Ⅴ層 Pit.2
〃 〃 9	無釉陶器 水甕か 厨子甕	－ － －	外面は灰黒色を呈する。 内面は橙褐色。	橙褐色の細粒子。石灰質細砂粒が僅かに混入する。	外面はやや左上がりの擦痕がみられる。内面は轆轤痕と回転擦痕。	外面に叉状工具による斜沈線文を施し、その上下端に丸彫りの圏線を施す。上位の圏線は3本まで確認される。最大胴径は22.4cmを測る。サイズなどから厨子甕の可能性が考えられる。	6地区 W－30 Ⅴ層
〃 〃 10	無釉陶器 小皿底部	－ 6.0 －	外面は茶褐色を呈する。 内面は灰褐色を呈している。	茶褐色の微粒子。混入物は観察出来ない。	外面及び外底面は回転篦削り。内面は回転擦痕。	ベタ底の小皿で外底面が上方向に僅かに盛り上がっている。外面及び外底面の回転篦削りで外面は轆轤の回転が遅い段階に実施されている為、削りがやや右上がりに施されている。外底面の縁端部と底面の篦削りにもズレが生じている。	6地区 カ－7 攪乱層

篦削りである。内面及び口唇部は外面よりも丁寧な回転擦痕を加えている。素地は灰白色の粗粒子で、粗い石英や灰茶色と黒色の鉱物を多量に含んでいる。器色は両面とも灰白色を呈している。劈開面には亀裂様の気孔が一本観察出来る。１地区Ｊ－11Ⅱ層より出土。

第16節　瓦質土器

一例のみ瓦質土器が得られている。壺の胴上部の破片とみられるものである。以下に特徴を記す。

第73図は外面の肩部付近に格子目状の叩きを右から左方向に叩いている。頸部付近にも格子目状の叩きを加えているが、雑な削り（縦方向）で消されている。内面には縦位に長い楕円形状の当て具を用いているようである。胎土は粗く、粗い石灰質砂粒・明茶色の物質・粗い石英・微細な雲母が混入している。器厚は1.0～1.4cmを測る。器色は外面が黄白色、内面が淡い橙色を帯びている。表採資料である。



第73図　その他の陶器

第17節　陶質土器

陶質土器の破片２点を図化した。器種は鍋と炉の２種類であった。図は第71図の１・２に示したものである。個々の観察は第42表に図化した。陶質土器の素地などについて若干、述べることにする。軟質の素地を用いたものは鍋に、硬質の素地は炉に使用されている。軟質陶土の鍋は手や指先に粉末化した陶土が付着する。硬質のものは陶器質に近いが、陶土に含まれている混入物は軟質のものと一致している。器種による陶土の区別（使い分け）を意図的に実施されているようである。以上の特徴などについては、湧田古窯跡[(註１)]でも確認されている。

今回、注目された点は、炉の高台に火を受けて変色した淡黄色の釉が施されている点にある。従来、炉などに施すものと言えば、白化粧土を塗付する程度であったが、釉を施す例は今のところ報告がされていないようである。今後の類似資料に注目したいところである。

註

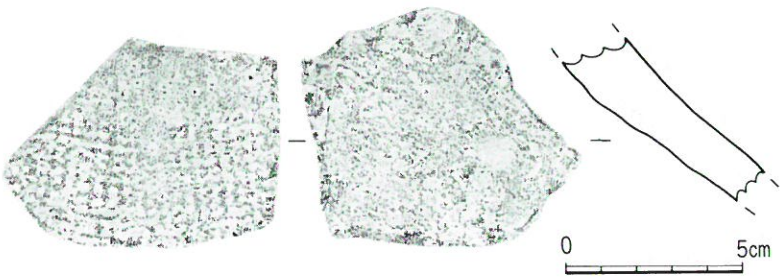
註１．島袋洋・金城亀信ほか『湧田古窯跡（Ⅱ）―県庁舎議会棟建設に係る発掘調査―』　沖縄県教育委員会　1995年。

第18節　滑石製石鍋

滑石製石鍋の破片が５点得られている。内訳は口縁１点、胴部３点、底部１点であった。以下に個々の特徴を記すことにする。

1．口縁

第74図１は唯一の口縁資料である。口径の推算は22cmを求めた。口唇は斜位に削って平坦に成形した為、口唇内端が尖り気味となるが、使用によって口唇内端は磨滅している。口唇外端と口縁端部近くに横方向の削りを入れた為、角が取れ内彎気味の形態となっている。口縁の削りはやや斜め方向から実施されたものとみられる。内面は外面よりも丁寧に仕上げられていて、調整の方向は判然としない点などから研磨仕上げとみられる。器厚は16㎜を測る。器色は内面と口唇部が茶灰色、外面は灰褐色の煤けた色合いとなっている。３地区オ－８Ⅱ層より出土。



第74図　瓦質土器

2．胴部

同図２は削りをやや斜め方向から加えられたとみられる胴部片である。内面は丁寧に仕上げていて調整の方向は判らない（研磨仕上げか）。器厚は16㎜を測った。器色は外面が茶灰色、内面は灰白色を帯びている。５地区Ｕ－20Ⅳ層より出土。

同図３は底部近くの破片とみられ、外面の削りが横位方向に入る。内面は研磨により丁寧に仕上げられているが、削りや使用の際に生じたとみられる条痕と傷が斜位に10数本認められる。器厚は13～15㎜を測る。器色は外面が黒色、内面は灰白色を呈する。１地区Ｊ－12Ⅱ層より出土。

同図４は外面に縦方向の削りを入れたものとみられるものである。内面は外面より丁寧に仕上げていて調整の方向は不明である（研磨仕上げか）。器厚は９～13㎜を測る。器色は外面が褐色、内面は灰白色を呈している。１地区Ｈ－11Ⅱ層25～30cmより出土。

同図５は両面とも器面の保持が悪く、削りの加工面が観察出来ない。器厚は13㎜を測る。器色は外面は灰黒色、内面は灰白色を呈している。８地区ク－４Ⅱc層より出土。

3．底部

同図６は底面から丸味を保持しながら内側に閉じ気味に立ち上ってくる。外面はやや斜位の方向に削りを加えたとみられる。内面は研磨仕上げとみられるが他と比較して雑な感じを受ける。底面は剝離面が目立ち調整は不明である。器厚は胴部および底面部分とも11㎜を測った。器色は外面および底面は茶灰色を主体とし、外面が部分的に灰褐色を帯びている。内面も茶灰色を呈している。１地区Ｇ－12Ⅱ層35～40cmより出土。

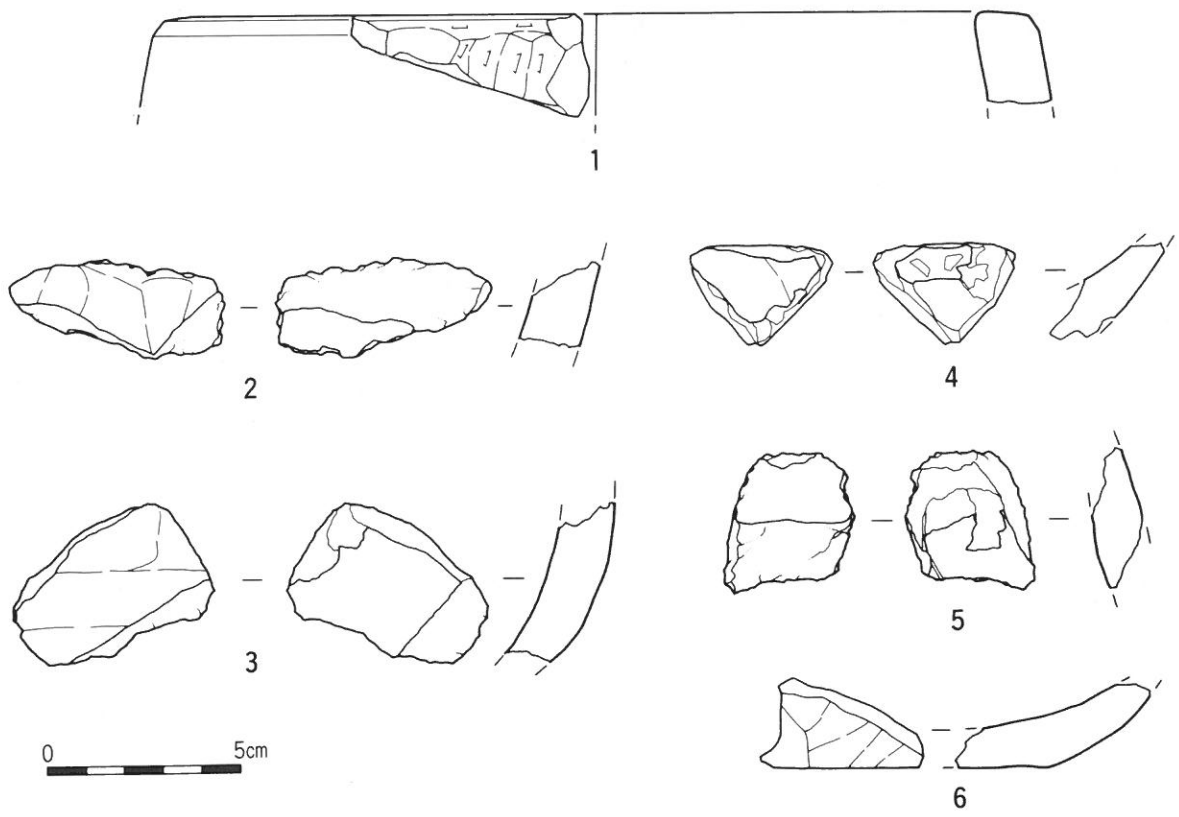
小　結

滑石製石鍋の口縁破片の耳や鍔は出土していないが、口縁の成形や形態などから今のところ森田勉氏の石鍋Ａ群[(註1)]の耳付き（縦位の把手）に相当するものとみられる。県内では耳付き（把手）の石鍋が熱田貝塚[(註2)]・大泊浜貝塚[(註3)]で出土していて、鍔付きの石鍋は未だ検出されていない。熱田貝塚・大泊浜貝塚から出土した把手のある石鍋は共伴した遺物などから12世紀[(註4)]に位置付けられている。本貝塚の石鍋との共伴遺物を検討した場合、Ⅳ層で白磁玉縁碗か端反碗の胴部片とみられるものと須恵器が共伴しているようである。

註

註１．森田勉「滑石製容器－特に石鍋を中心として－」『仏教芸術』　148　1983年。

註２．沖縄県教育委員会『熱田貝塚発掘調査ニュース』　1978年。



第75図　滑石製石鍋

註３．金武正紀ほか『下田原貝塚・大泊浜貝塚』　沖縄県教育委員会　1986年。

註４．註３に同じ。

第19節　鉄製品

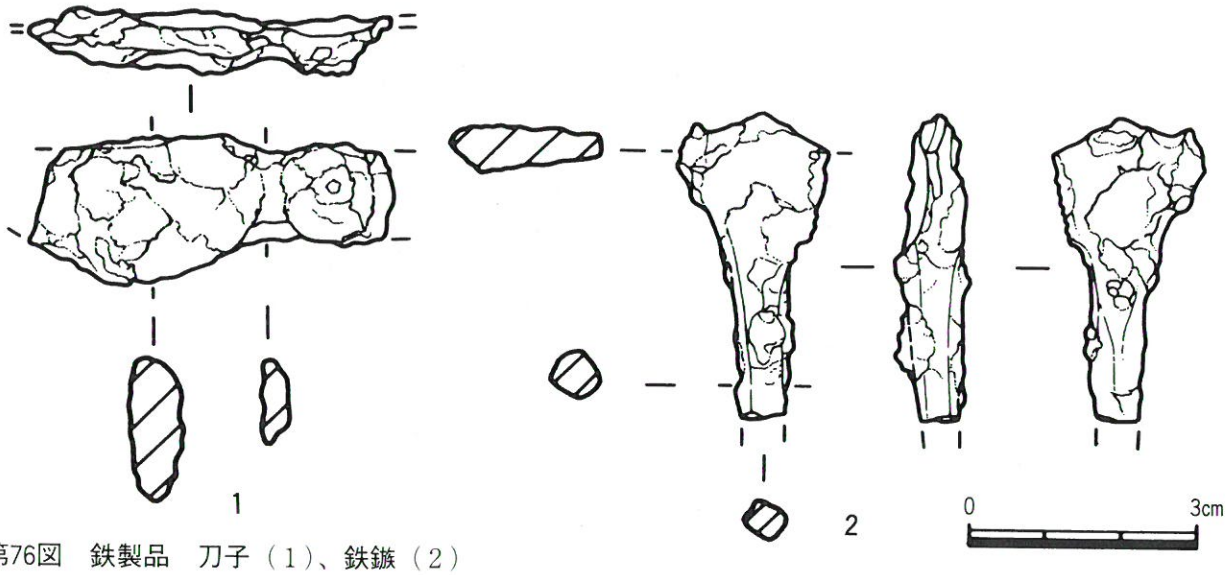
鉄製の刀子と鏃が各１点ずつ出土していたので、以下に特徴を記すことにする。

１．刀子

第75図１は残存長4.7cm、身部約2.5cm、茎部約２cm、最大刀身幅2.8cm、厚さ2.2cm、残存重量は8.2ｇを測る。切先部は欠けている。身部と茎部の両端で曲る為、峯の部分からの上面観がゆるく曲った状態となる。茎部と身部の境に僅かばかりの刃区が認められる。全体的に錆でふくらんでいる。出土地点及び出土層は不明である。

２．鉄鏃

同図２は鏃身が短かい変形菱形を呈するタイプのもので茎部を欠いてる。茎部と身部の間には抉りがなく、身からスムーズに茎部へ移行する。全体的に錆でふくらんでいて、裏面の半分程度に錆汁が発生している。茎部の横断面は隅丸方形状を呈する。残存長４cm、刃幅２cm、刃の厚さ1.5㎜、茎部の厚さ５㎜、残存重量5.7ｇ。出土地点及び出土層は１地区Ｇ－13Ⅱ層より出土。



第76図　鉄製品　刀子（1）、鉄鏃（2）

第20節　青銅製品

青銅製品として取り扱ったものは、太刀の鐔と板状に破損した製品である。鐔は2片得られているが、同一個体として判断出来たので図上復元を試みた。板状の製品は1片のみ出土している。これらの青銅製品の名称や分類等に際しては、鐔と板状製品として名称を冠して以下に個々の特徴を記述することにした。なお、太刀の鐔に関しては、東京国立博物館学芸課の小笠原信夫課長、池田宏主任研究官、原田一敏主任研究官より各氏の鑑定所見を戴いたので、これも紹介した。

1．鐔

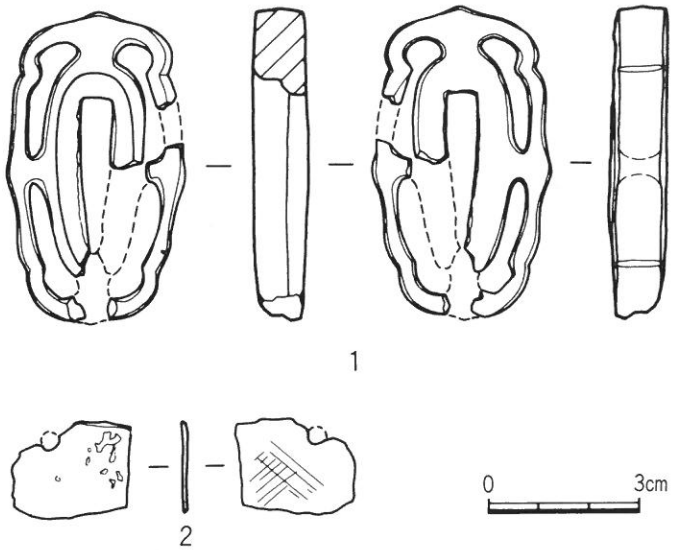
第77図1は太刀の鐔で図上復元を試みた資料である。鐔のサイズや重量については後述するとおりである。復元幅（短軸）は3.54cm、復元長（長軸）6.08cm、厚さ1.03cm、残存重量50.1gであった。鐔の形態としては葵葉形に分類出来るものとして考えられる。鐔の耳に沿うように装飾の為の透孔を4個空けている。耳の形態は角耳のタイプに近いようである。茎孔は楔形が今のところ予想される。鐔中央の扁楕円形の凹みは柄の縁金物である鎺が挿入される部分であり、鐔・柄・茎を鎺で安定させる目的で凹みを設けたものとして考えられた。鐔の錆の状況は柄側の面で淡青緑色の錆が全体的に認められる。この淡青緑色の部分が地金とみられる。刃側の面は濃青色の錆が全体的に付着し、部分的に地金の淡青緑色の錆が認められる。出土地点は4地区O・P－21のⅡcの層より出土している。なお、茎孔が楔形であるのであれば、平造の太刀などが予想できるところでもある。

2．板状製品

同図2は板状に破損した青銅製品で用途は不明である。表面の左上寄りに4㎜程度の粗孔が穿たれていたものとみられる。表面には明緑色の錆が部分的に付着している。内面には鑢による擦り目が交差している状況が窺える。残存幅2.25cm、残存長1.82cm、厚さ1㎜、残存重量2.3g。出土地点は7地区Z－30のⅣ層上部より出土。

○平敷屋トウバル遺跡出土の鐔について（鑑定の所見）

平敷屋トウバル遺跡出土の鐔に関する鑑定所見（上原静史跡整備係長のメモ）を以下に記述することにする。鑑定年月日は平成6年2月28日午後4時に東京国立博物館学芸部工芸課にて、陶磁室長の矢部良明氏の御厚意により同館の学芸課の小笠原信夫課長、池田宏主任研究官、原田一敏主任研究官の三氏に鑑定



第77図　青銅製品　刀の鐔（1）板状製品（2）

を依頼する。

〔鑑定の所見〕

○太刀の鐔である。

○儀礼用ではなく実用の太刀である。

○鐔の特徴、幅（短軸）が狭く、縦（長軸）に細長い。これは古い様式をそなえている。（第78図）。

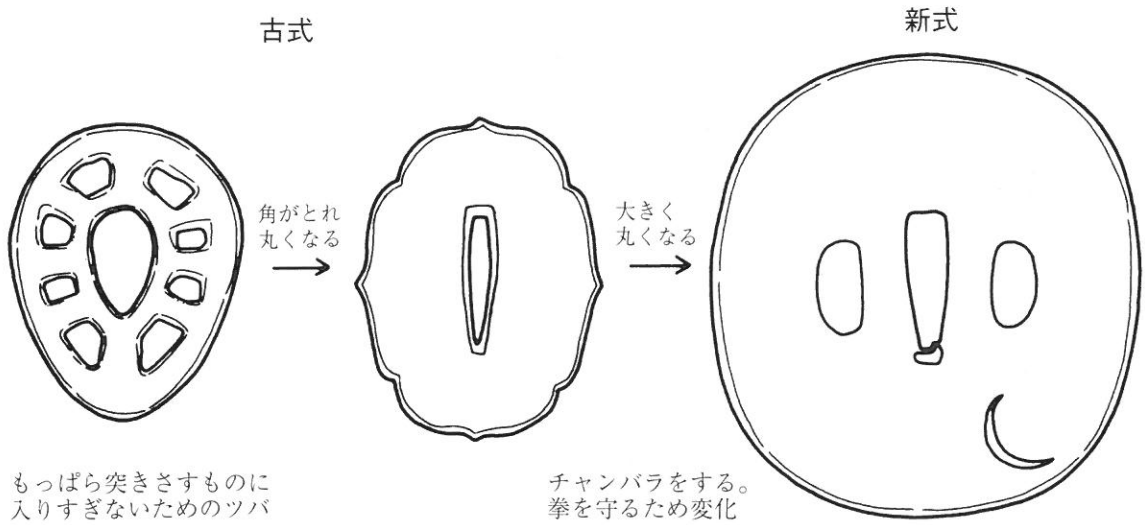
○こしらえから鎌倉～平安時とみていい。（第78図）。

○正倉院（760年代）のものに似ているが、透しがある点で異なる。様式的には近い。

○伊勢神宮（794～1184年）のものに透しがある点で類似しているが、伊勢は丸くなり、新しい。

○10世紀相当で日本のものとみる。（原田研究官）

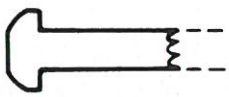
○12世紀頃のものに比較すると古い要素をもっている点で確実にさかのぼる。



第78図　刀の鐔模式

現在日本のこの時期（８～12世紀）の類例がきわめて少ないため日本のものかどうか速断できない。（小笠原課長・池田研究官）

○矢部良明氏紹介　京都市埋文センター　永田信一（戦闘具研究者）



第79図　鐔断面模式

小　　結

太刀の鐔については、その所属する時期が８～12世紀と位置付けられた点については、非常に重要な成果であり、当該期の太刀の鐔の出土例は、全国的にみても類例が少ない。この種の鐔の出土例は、今日まで県内遺跡からの報告はなかった。貴重な出土資料であり、今後、県内遺跡からの発見に期待したいところである。本遺跡出土の鐔と板状製品については将来、素材の分析などを実施したいところである。

太刀の出土から今のところ考えられる点は、中国や日本の商船の来島があり、何らかの交易を行ない、その結果として太刀や開元通宝などが持ち込まれた。あるいは、太刀を所有していた中国人や日本人の商船が漂流し、遺跡のある海岸に船員が漂着し、住みついたのかも知れない。

時代は下るが、勝連町内には船の遭難による漂着事例が２件ほど確認されている。字内間で1876（明治９年）に漂着した支那人死亡者の墓である。唐人墓[(註１)]がある。字浜では天保10年に水戸藩廻船の漂流で字浜の東海に漂着した水戸藩の死亡者の石碑[(註２)]が発見され、乗組員５名が埋葬されたようである。

註

註１．勝連村役所『勝連村誌』　1966年。（391Pに記載）。

註２．勝連町役場『勝連町史二』　1984年。（676P～687Pに記載）。

参考資料

○　飯村嘉章『刀剣要覧』　刀剣美術工芸社　1969年。

○　佐藤寒山編『日本の美術　刀剣』　第６号　至文堂　1966年。

○　末永雅雄・本間順治・佐藤貫一監修『日本刀大鑑』　第六回配本　刀装　大塚巧藝社　1971年。
（重要文化財　錦包毛抜形太刀　鐔　葵葉形透、小切羽付。　時代平安時代（794年～1184年）。

○　宮内庁　正倉院事務所『正倉院の大刀外装』　小学館　1977年。
（黒作大刀　第13号　〔中倉８〕　鐔・鎚　奈良時代（710～794年）　東大寺正倉院建立760年代）

○　鈴木敬三『古典参考資料図集』　国學院高等學校　大塚巧藝社　1988年。
（太刀（五）　毛抜透しの衛府の太刀と兵具鎗の太刀　１　伊勢神宮徴古館収蔵の毛抜透しの太刀　２・３　柄の形状と古様の葵鐔

第21節　貨　銭

総数10点が得られている。内訳は完形およびほぼ完形のものを含めると６枚が出土していて、他の４枚は破損品である。貨銭の種類は「開元通宝」８枚、「無文銭」１枚、「不明銭」１枚の三種類であった。

貨銭の分類に際しては、永井久美男編の『中世の出土銭－出土銭の調査と分類[(註１)]－』を参考に実施した。

個々の貨銭の特徴等については、貨銭観察一覧（第42表）に呈示した。貨銭の部位名称については、古銭界の用語[(註２)]を使用した。

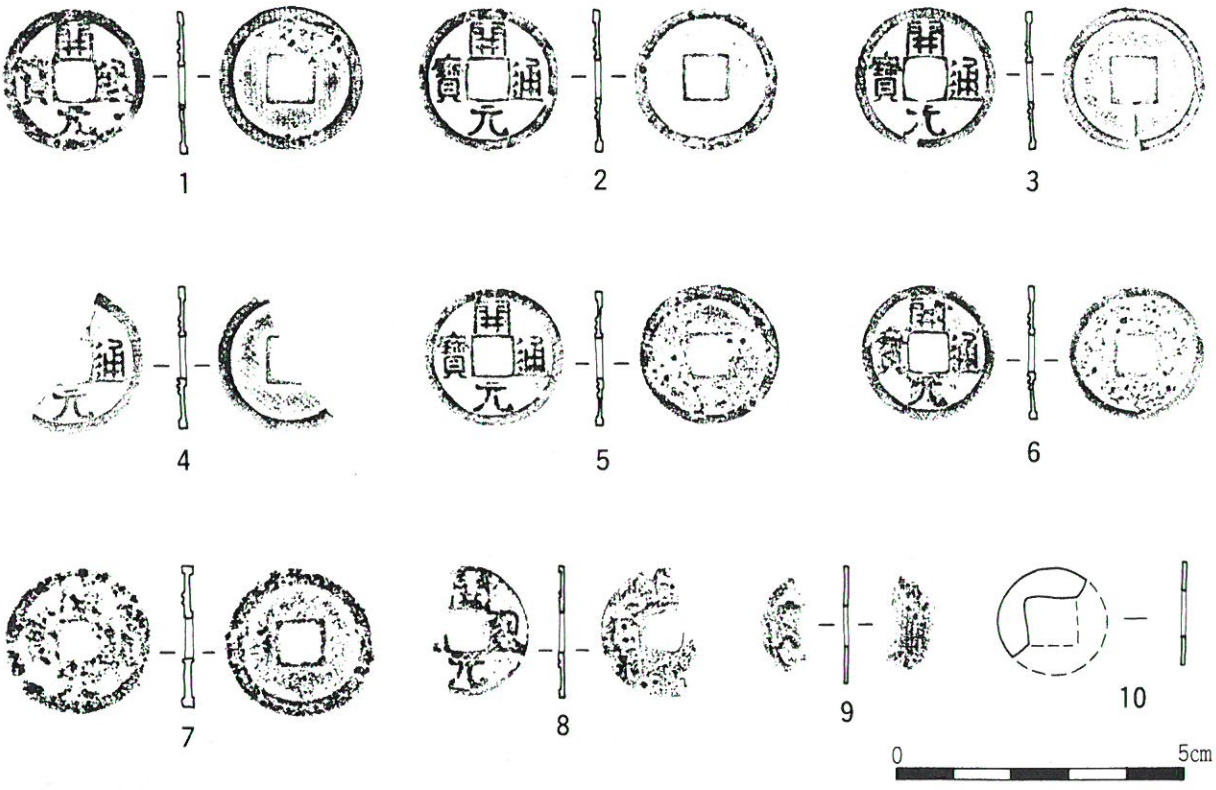
小　　結

本遺跡出土の貨銭の中から模鋳銭が２枚確認された。模鋳銭の２枚は「開元通宝」（第80図８）・「不

第42表　貨銭観察一覧

挿図番号	貨銭名	初鋳造年（西暦）	書体	外縁外径 タテ×ヨコ 孔径 (タテ×ヨコ) cm	外縁内径 タテ×ヨコ 内郭厚 cm	重量 g	観察事項	出土地点 出土層
第80図 図版63 1	開元通宝	621年 唐　武徳 4年	隷書	2.54×2.53 0.71×0.71	2.11×2.09 0.15	3.3	面に青緑色の錆が発生し、文字は磨滅気味である。孔内にバリが僅かに残っている。背にも部分的に青緑色の錆が発生。古銭界用語の「大字短一元」に相当するものとみられる。	7地区 Z－27
〃 〃 2	開元通宝	621年 唐　武徳 4年	隷書	2.53×2.52 0.70×0.74	2.14×2.13 0.16	3.6	面の錆は僅かに認められる程度で、文字は鮮明である。背の錆（青緑色）は面よりやや多めに発生している。古銭界用語の「容弱」に相当するものとみられる。	6地区 T－27 Pit.6
〃 〃 3	開元通宝	621年 唐　武徳 4年	隷書	2.47×2.46 0.71×0.71	2.09×2.11 0.15	3.0	「元」の字の箇所より破損し折れている。面および背に淡い青緑色の錆が部分的に発生しているが、文字は鮮明である。古銭界用語の「容弱」に相当するものとして考えられる。	4地区 I－5 Ⅱc層
〃 〃 4	□元通□	621年 唐　武徳 4年	隷書	2.60×(2.60) 0.68×(0.68)	2.16×2.16 0.16	1.9	面の文字の癖などから同図2と近似している状況から開元通宝として考えられる。文字は鮮明である。面および背の肉郭は磨耗し砥面となっている。面と背の一部分に僅かではあるが鉄分が付着している。	3地区 N－25 Ⅱc層
〃 〃 5	開元通宝	621年 唐　武徳 4年	隷書	2.44×2.46 0.64×0.65	2.06×2.08 0.13	2.5	素材が上記した1～4とは異なり質の悪い銅を使用していて脆い。破損箇所から断面を観察するとアバタ状を呈している。「元」の左側に 0.1×0.5 ㎜の扁楕円形の小孔がみられる。小孔は鋳造の際に生じた自然の穴として考えられる。面が全体的に微弱に窪んでいる。面の文字は比較的鮮明である。背に青緑色の錆が多く発生している。古銭界用語の「容弱」に相当する。素材の質が悪い状況と重量が他と比較して軽い点などから判然とする私銭の可能性も考えられる。	5地区 W－20 Ⅳ層
〃 〃 6	開元通宝	621年 唐　武徳 4年	隷書	2.35×2.36 0.65×0.62	2.01×1.98 0.14	2.3	面と背に青緑色の錆が部分的に付着している。面側の細縁は外縁（「通」の字右上）が欠けている。同じく「宝」の字の左側細縁の内側が欠けている。これらは鋳型の湯口から流された銅が銭郭まで上手に流されていなかった為、空気が残り気泡痕となったのかあるいは鋳型の銭郭に付着したゴミによるものである。古銭界用語の「小字」に相当するものとして今のところ考えられた。	7地区 い－24 表土
〃 〃 7	開元通宝	621年 唐　武徳 4年	隷書	2.52×2.52 0.62×0.61	2.05×2.12 0.15	3.6	面および背は青緑色の錆が全体に広がり、更に鉄分が付着し鉄錆で膨れ盛り上っている。鉄錆は特に面側に集中していて大半を覆っている。背では細縁部分に目立っている。面の文字は錆で不鮮明な状況にあるが、開元通宝と判読が出来る。	6地区 キ－6 Ⅳ層

挿図番号	貨銭名	初鋳造年（西暦）	書体	外縁内径 タテ×ヨコ 孔径 (ﾀﾃ×ﾖｺ) cm	外縁外径 タテ×ヨコ 内郭厚 cm	重量 g	観察事項	出土地点 出土層
第80図 図版63 8	開元通□	621年 唐 武徳 4年	隷書	2.30×(2.30) 0.69×0.59	2.01×(2.01) 0.11	1.5	面の文字は全体的に不鮮明であるが「通」の字は潰れて判りにくい。外輪の縁の幅が 0.2～1.1 ㎜と非常に狭い。背の縁は無い。錆は黄茶色を帯びていて全体的に覆っている。肉郭および文字面を除いた厚さは 0.3㎜を測り非常に薄い。孔郭と孔の位置がズレている。以上の状況から判然すると模鋳銭として今のところ考えられた。	7地区 T.T 6 南側
〃 〃 9	・・・ □□□宝	——	隷書		0.10	0.4	全体的に灰緑色の錆が発生し、僅かに青緑色を帯びた部分が観察される。面の字の部分は灰白色の錆が付着している。「宝」の字は潰れている。残存する縁の幅は 1.7～2.1 ㎜を測る。背の部分の縁は不鮮明ではあるが僅かにその痕跡を留めている。模鋳銭として今のところ考えられる。	6地区 カ－6 Ⅳ層上面
〃 〃 10	無文銭	——	——	1.85×1.85 0.85×0.75	—— 0.04	0.3	全体的に青緑色の錆が発生し、部分的に錆膨れが認められる。肉郭や孔郭は無い。孔の一角は縁辺まで3㎜幅しかなく破損しやすい所である。孔の一辺から縁辺までの幅は 4.1～4.6 ㎜の幅である。破損面の色合いは赤銅色を帯びている。	1地区 E－19 Ⅱa層



第80図　貨銭　開元通宝（1～8）、不明銭（9）、無文銭（10）

明銭」（同図９）で各１枚ずつ確認された。この模鋳銭については、無文銭と同様に銭鋳型が近年、神奈川県鎌倉市の今小路西遺跡[註３]（15世紀初頭）や大阪府の堺環濠都市遺跡内[註４]（16世紀後半）などから出土しているようである。嶋谷和彦氏[註４]・[註５]によると堺の模鋳銭には開元通宝～洪武通宝の21種類を同時に模鋳していたようであり、従来の貨銭の初銭年による遺跡の年代や時期決定については今後、慎重に実施しなければならない時期にきているのかもしれない。その他に開元通宝については永井久美男氏は次の様に述べて指摘している。「開元通寶は或る短期間を除けば唐代を通じて鋳造され、後の南唐や清末の太平天国においても同じ銭文をもつ銭が鋳行された。開元通寶の量目２銖４累（3.75ｇ）は貨銭の重量標準となる。唐は開元銭を鋳造して私鋳を禁じたが、鋳造期間と流通期間が唐280年余に及んだので種々の開元銭がある。…中略…同じ銭文の開元通寶であっても大小のものが混在し銭形が一定でない。これは長期の間に鋳造が各地で行われたため、初期鋳造銭と末期鋳造銭との間に格段の差が生じていることに加え、粗悪な私鋳銭が混在しているからである。…中略…粗悪な末期鋳造銭と私鋳銭の区分が困難であるものも事実であり、これが今後の課題となる[註６]。」と記述していて、本遺跡出土の第80図８に示した「開元通宝」については、唐代末期鋳造銭とみるかあるいは唐代の私鋳銭とみるかは、本銭を含めて、銭の成分分析などの科学的調査に委ねたいところである。

ところで、県内の貝塚や遺跡から出土する開元通宝については、高宮廣衞氏による重厚な論考[註７]がある。これによると開元銭は、30数遺跡が確認されていて、高宮廣衞氏は、先史時代終末期に属する遺跡と、これに後続する原史あるいは歴史時代の遺跡などに大別されている。前述の両期を仮に前期（奄美諸島を含める）。後期に区分されている。本遺跡は高宮氏の前期（11遺跡のひとつ）に含められていて、出土状況や共伴遺物等について詳細に述べられている。高宮氏は先史時代終末期の11遺跡で、５・６枚以上まとまって出土した例が多い事実から当時の南島の人びとが通貨としての価値を多少なりとも認識していた証拠ではないかと考え、先史時代終末期に属する時期に貨幣経済へ移行する直前の黎明期の段階にあったと推察されている。

註

註１．永井久美男編『中世の出土銭－出土銭の調査と分類－』　兵庫埋蔵銭調査会　1994年。

註２．陸原　保『改訂版　東洋古銭価格図譜　全』　万国貨幣洋行　1975年。

註３．宗臺秀明「１．鎌倉の模鋳銭」『中世の出土銭－出土銭の調査と分類－』　に収録。註１に同じ。

註４．嶋谷和彦「２．堺出土の銭鋳型と中世後期の模鋳銭生産」『中世の出土銭－出土銭の調査と分類－』　に収録。註１に同じ。

註５．嶋谷和彦（中世の銭貨流通と模鋳銭）「新発見考古速報展'95浦添展講演会」　発表資料　1995年11月18日。

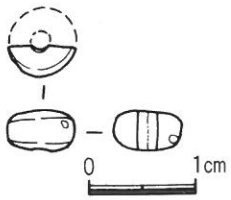
註６．註１に同じ。

註７．高宮廣衞「開元通宝から見た先史終末期の沖縄」『王朝の考古学　大川清博士古稀記念論文集』　雄山閣　1995年２月20日。

第22節　ガラス小玉

ガラス製の小玉の破片が１点のみ出土していたので、これを図化し、特徴を記述することにする。

第81図１は扁平なガラス小玉の破片で半分以上を欠いている。側面観は二辺に丸味のある長方形状を呈している。表面は磨耗し、気泡痕が表面や破損面から観察出来る。孔の側面観察から縦方向の筋が２・３本観られ、孔の上端部に



第81図　ガラス小玉

ガラスの盛り上った部分が認められる。巻きつけの横筋は観察出来ない。色合いは、青緑色を呈する。復元最大径6.2㎜、高さ3.9㎜、復元孔径２㎜、残存重量0.05ｇ。７地区い－34のⅣ層灰集中土壙 pit 内より出土。

小　結

この種のガラス小玉は県内においては稲福遺跡(註1)・勝連城跡(註2)・平敷屋古島遺跡(註3)などのグスク時代の遺跡から出土する例が多いが、弥生相当期の遺跡からは、今のところ宇堅貝塚(註4)から４個と具志原貝塚(註5)で１個出土しているのみである。宇堅貝塚と具志原貝塚出土のガラス小玉は免田式土器と共伴して出土しているようである。今回の出土は、乳房状尖底土器と平行する時期のものであり、沖縄貝塚時代後期遺跡の出土例としては宇堅貝塚や具志原貝塚に次ぐ資料とみられ、本品は県外から持ち込まれたものとして今のところ考えられるところである。

註

註１．當眞嗣一ほか『稲福遺跡発掘調査報告書』（上御願地区）　沖縄県教育委員会1983年。

註２．琉球政府文化財保護委員会「勝連城発掘調査報告」　1966年。

註３．上原　静『平敷屋古島遺跡発掘調査報告書』　勝連町教育委員会　1991年。

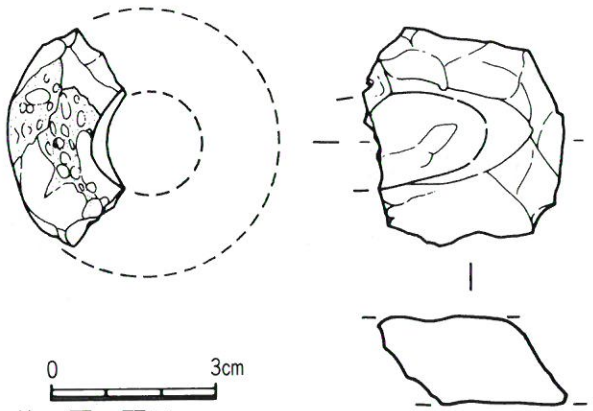
註４．金武正紀ほか『宇堅貝塚群・アカジャンガー貝塚発掘調査報告』　具志川市教育委員会　1980年。

註５．盛本　勲ほか『伊江島具志原貝塚の概要』　沖縄県教育委員会　1985年。

第23節　羽　口

羽口の破片が１点出土していたので、これを図化した。以下に特徴を記すことにする。

第82図は円筒状の小型の土製羽口とみられる。復元直径5.0cmを求めることが出来た。風道の復元孔径は2.3cmを推算することが出来る。風道の残存最長は1.97cm、厚さは1.5～1.67cmを測る。残存重量は21.3ｇを量った。色合いは外面が灰褐色を呈し、炉の接続箇所にはガラス質鉄滓が付着する。内面は黄茶色を主体とするが、炉の接続箇所は茶褐色を呈している。胎土に１㎜程度の粗い石英が僅かに混入する。４地区Ｏ－20のⅣ層上面から出土している。羽口はくびれ平底の土器と平行する時期のものとして考えられる。



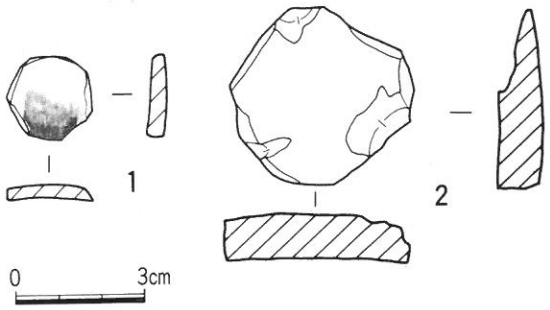
第82図　羽口

第24節　円盤状製品

本遺跡からは、染付の破片と沖縄製の荒焼壺の破片を打割調整で二次的に加工した円盤状製品が２点得られている。以下に個々の特徴を記述することにするが素材名を冠して、染付製円盤状製品と荒焼製円盤状製品として仮称することにする。

１．染付製円盤状製品

第83図１は染付の碗の胴部片を用いた製品で完形品とみられる左側面の下側が本来の破損面とみられる。平面観は歪な円形状を呈し、両面から打割調整を加えて成形する。横断面は湾曲している。打割による剝離調整はやや雑である。長径は1.97cm、短径は1.85cm、厚さは2.4～3.6mmを測る。重量は2.0ｇを量った。染付は外面の呉須が淡青色を呈し、構図は判然としないが吉祥文字かもしれない。釉は白色を呈し、両面に細かい貫入が認められる。素地は白色の徴粒子である。表採資料である。



第83図　円盤状製品
染付製（１）、荒焼製（２）

２．荒焼製円盤状製品

同図２は沖縄産無釉陶器の壺の胴部片を再利用した製品で完成品とみられる。本来の破損面は左側面の下側が破損面とみられる。平面観は歪な方形状を呈し、裏面から主に打割調整を加えて成形する。横断面は湾曲がある。打割による剝離調整は雑である。長径4.15cm、短径3.85cm、厚さは9.3～9.5mmを測る。重量は20.2ｇを量った。無釉陶器の特徴として、外面の色合いは茶褐色を呈し、内面は明茶色を帯びている。劈開面は茶紫色を呈している。素地は茶紫色の細粒子で小さい気孔の痕が観察出来る。調整は外面が回転擦痕、内面はやや雑な轆轤痕が認められる。８地区ク－４の撹乱層より出土。

小　　結

円盤状製品の２点については、素材などから時期を検討した場合、近世の時期が予想されるところである。この種の円盤状製品については、首里城跡[註１]・安仁屋トゥンヤマ遺跡[註２]・阿波根古島遺跡[註３]などから出土している。本製品の用途については様々な説があるものの遊戯具[註４]としての可能性が今のところ考えられている。

註

註１．上原　静ほか『首里城跡・歓会門・久慶門内側地域の復元整備事業にかかる遺構調査』　沖縄県教育委員会　1988年。

註２．島袋　洋ほか『安仁屋トゥンヤマ遺跡』（－下級下仕官隊舎建設に伴う緊急発掘調査報告－）　沖縄県教育委員会　1992年。

註３．島袋　洋ほか『阿波根古島遺跡』（－那覇・糸満線道路改良工事に伴う緊急発掘調査報告－）　沖縄県教育委員会　1990年。

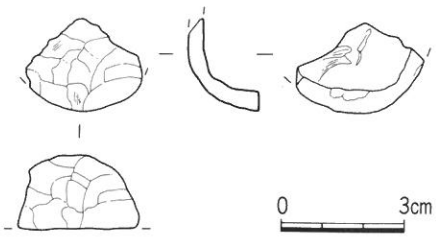
註４．ａ．上原　静「グスク時代・近世出土の円盤状製品」　読谷村立歴史民俗資料館　紀要　第10号　1986年。

ｂ．上原　静「円盤状製品その後の資料」　読谷村立歴史民俗資料館　紀要　第13号　1989年。

第25節　土製品

土製の鈴が１片出土している。破損片ではあるが鈴の割れ口が丁寧に切り取られている。以下に特徴を記述することにする。

第84図は球体状の鈴の破片とみられる。器面の調整は外面が篦削りとナデで仕上げている。裏面の鈴の割れ口は篦で削って割れ口として仕上げている。内面はナデを加え丁寧に仕上げている。厚さは３～６㎜を測る。色合いは淡橙色を帯びてい



第84図　土製品

る。素地は細かく、焼成は良好である。胎土に微細な石英と細かい茶色の鉱物を多量に含んでいて、希に石灰質の細かい砂粒（サンゴ片？）が含まれている。出土地点および出土層は２地区Ｆ－32の撹乱層より出土。

土鈴の所属時期は素材の色合いや胎土等からグスク時代もしくは近世の時期のものとみられる。県内遺跡では近世の無釉鈴がヒヤジョー毛遺跡(註1)や壺屋古窯跡(註2)で出土しているのみであり、土製の鈴の出土は今のところ報告がないようである。

註

註１．金武正紀・城間千栄子『ヒヤジョー毛遺跡』那覇市教育委員会　1994年。

註２．島　弘・玉城安明ほか『壺屋古窯群Ⅰ』那覇市教育委員会　1992年。

第43表　近世遺物出土状況

製品			出土地 / 層	1地区 Ⅰ	1地区 Ⅱ	2地区 Ⅰ	2地区 Ⅱ	3地区 Ⅰ	3地区 Ⅱ	4地区 表/攪乱	4地区 Ⅱ	5地区 表/攪Ⅱ	6地区 Ⅰ	6地区 Ⅱ	7地区 Ⅰ	7地区 Ⅱ	8地区 Ⅰ	8地区 Ⅱ	不明	合計
滑石製石鍋			口縁						1											1
			胴部		3						1		1			1				6
			不明		2										1					3
須恵器		壺	胴部		1										1					2
		不明	胴部	2	4							3	1		3	4				17
			不明												1					1
磁器	青磁	碗	口縁	1				1				1							1	4
			胴部					1				1							2	4
		皿	胴部	1																1
			底部												1				1	2
		盤	口縁														1			1
		袋物	胴部										1							1
		不明	口縁		1	1														2
			胴部	1	1				1			1	2		1	1			5	13
			底部					1										1		2
	白磁	碗	底部																1	1
		袋物	胴部														1			1
		瓶	胴部												1		2			3
		不明	胴部				1												2	3
			底部															1		1
	染付	碗	口縁										1							1
			胴部	1	1										1					3
		袋物	胴部					1												1
		不明	口縁															1		1
			胴部			1						1			1	2	2			7
	本土産磁器	碗	口縁												2	2	1	1	3	9
			胴部												2	1			2	5
			底部					1						1					1	3
		小碗	口縁						2						1			1	3	7
			胴部												2	2	1			5
		皿	口縁												1					1
			胴部						2										1	3
			底部					1								1				2
		急須	口縁														1			1
		蓋	口縁										1							1
		袋物	胴部													1		1		2
		不明	口縁						1										2	3
			胴部		1			1	1	3			1	1	2	1	3	2	5	22
			底部												2	1			1	4
陶器	沖縄産施釉陶器	碗	口縁	3		1		2	1						1		5	2	4	19
			胴部		1			2								3	2		3	11
			底部	2	1	1		2					2		3		5	3	2	21
		小碗	胴部																1	1
			底部												2				1	3
		皿	胴部										1		1					2
			底部														1			1
		壺	口縁																1	1
			胴部														2		1	3
		急須	口縁					1							2					3
		袋物	口縁													1			1	2
			胴部	4											2					6
			底部										1							1
		鍋	胴部																1	1
			底部																1	1
		瓶	胴部													1		1		2
		火炉	口縁																1	1
		香炉	口縁				1								1					2
		不明	口縁	1											1	1			1	4
			胴部	6	6	3		5	2		1	1	2	5	12	8	19	7	21	99
			底部						1						4		3	3	3	14
	沖縄産無釉陶器	蓋	口縁										1							1
		すり鉢	胴部	1	1									1	5			1	2	11
		鉢	口縁	1													1		1	3
			胴部											1						1
		壺	口縁					1			1						1			3
			胴部	1	1	1											1		2	6
			底部												1				1	2
		不明	口縁												1		1	1		3
			胴部	8	8	3		6	15	2	2	3	3	4	5	25	19	27	17	31	178
			底部						1						1		1	2	3	8
	褐釉陶器	壺	胴部											1						1
			底部														1			1
		茶入れ	胴部																1	1
		急須	口縁																1	1
		不明	口縁													1				1
			胴部	1				1					2	3	2		1		5	15
	黒釉陶器	碗	胴部														1			1
		不明	胴部													1			1	2
陶質土器		鉢	胴部												1					1
		急須	不明														1			1
		耳	胴部														2			2
		不明	胴部	2	3	1			3			2			5		1	1	4	22
瓦							1	1					3		3	1	2	1	5	17
合計				36	35	12	3	28	31	5	1	5	7	14	24	11	97	55	90	47	129	630

注１：ゴム印、クロム青磁、型紙刷りを含む
注２：色絵を含む
注３：沖縄施釉陶器の項　不明、胴部に耳を含む
注４：1,3,8地区の畦→Ⅰ層に含めた

第26節　軟体動物遺体

本遺跡は約10000㎡という広範囲の調査が行われ、膨大な量の貝殻（コンテナ300数個）が出土している。資料整理の都合上、土器の中でくびれ平底が主に出土した１地区と尖底土器が主に出土した７地区にしぼって分類、集計を行った。

１．最少個体数の算出方法

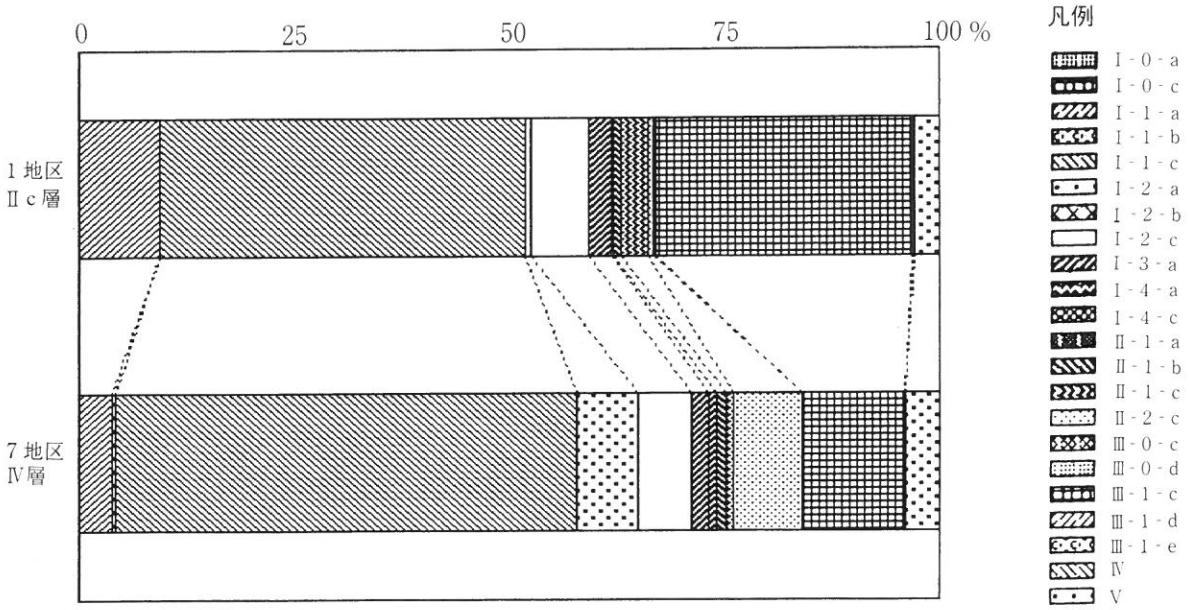
・巻貝、１枚貝：完形、殻頂、破片に分けて集計し、前二者の合計を最少個体数とした。

・二枚貝：右殻と左殻に分け、さらに完形、殻頂、破片に分けて前二者を合計し、多い方を最少個体数とした。

２．出土状況

本遺跡出土の貝は巻貝50科212種、二枚貝18科48種の計68科360種と既に報告されている県内の遺跡の中では最も多くの種類が出土している。これは本遺跡が砂丘地にあるのも一因すると思われる。ここではまず１地区Ⅱc層、７地区Ⅳ層で出土したすべての貝について触れ、本遺跡の当時の自然環境や採集活動について考えてみたい。

地区別の出土状況をみると１地区Ⅱc層は17022個体（27.7％）、７地区Ⅳ層は44332個体（72.2％）で７地区Ⅳ層の方が出土量は多い。１地区が陸側、７地区は海側（第２図）という立地条件も多少とも量的な差を繁栄している。主体貝は両地区ともイソハマグリで、１地区Ⅱc層－8176個体、７地区Ⅳ層－31560 個体が出土している。次に多いのはアラスジケマンガイで１地区Ⅱc層－5715個体、７地区Ⅳ層－6828個体の出土、ヒメジャコは１地区Ⅱc層－36個体、７地区Ⅳ層－3595個体、ミドリアオリガイは７地区Ⅳ層－3267個体（１地区Ⅱc層では出土なし）、巻貝ではオハグロガイが１地区Ⅱc層－158個体、７地区Ⅳ層－4735個体、マガキガイは１地区Ⅱc層－1094個体、７地区Ⅳ層－3408個体、クワノミカニモリは１地区Ⅱc層－1932個体、イボウミニナは１地区Ⅱc層－413個体、７地区Ⅳ層－94個体、オキナワヤマタニシは１地区Ⅱc層－568 個体、７地区Ⅳ層－2675個体が主な貝の出土状況である。



第85図　貝類棲息地別出土状況

3．棲息地別の出土状況

Ⅰ：外洋・サンゴ礁域

0：潮上帯

a：岩盤－イシダタミアマオブネ、キバアマガイ、リュウキュウアマガイなどが出土する。1地区Ⅱc層－0.11%、7地区Ⅳ層－0.09%と非常に少ない。これらの貝は水深5m程度まで見られ、アマモ上で棲息するものもある。

c：岩礫底、砂底、砂泥底－ニシキアマオブネで1地区Ⅱc層では出土はなく、7地区Ⅳ層では0.08%の出土でかなり少ない。食用も可(註1)である。

1：潮間帯中・下部

a：岩盤－1地区Ⅱc層で9.25%、7地区Ⅳ層で3.68%の出土である。巻貝ではクワノミカニモリ（C.petrosa）、マダライモ、サヤガタイモ、ハナビラダカラが出土している。二枚貝ではミドリアオリガイが7地区Ⅴ層で特に目立つ。ミドリアオリガイはサンゴ礁の浅瀬では最もふつうに棲息するもので小さい個体の多くはこの種にあたり、平敷屋トウバル遺跡の近くでも群生しているとのことである(註2)。また、クワノミカニモリはリーフ上のタイトプールやクレビスの砂地。低潮線に棲息する。

b：転石－1地区Ⅱc層ではかなり少ない。7地区Ⅳ層0.54%の出土である。アマオブネ、ウネレイシダマシが出土している。

c：岩礫底、砂底、砂泥底－最も多く出土している。1地区Ⅱc層では全体の42.13%、7地区Ⅳ層では53.31%で本遺跡の主体貝である。主にイソハマグリがほとんどでリュキュウナミノコわずかにみられる。巻貝ではイモフデガイが7地区Ⅳ層で1個出土しているのみである。

2：亜潮間上縁部

a：岩盤－1地区Ⅱc層では0.59%、7地区Ⅳ層7.00%の出土で巻貝はヤナギシボリイモ、ヤクシマダカラ、ホシキヌタ、イトマキボラ、コシダカサザエがみられるが、特にイトマキボラは殻の破片がかなりの量出土しているのが目に付く。二枚貝ではヒメジャコ、メンガイ類が出土している。

b：転石－1地区Ⅱc層ではほとんど出土してない。7地区Ⅳ層では0.04%出土する。量的には少ない。ホラダマシなどが見られる。

c：岩礫底、砂底、砂泥底－1地区Ⅱc層では6.5%、7地区Ⅳ層では6.36%の出土である。巻貝はマガキガイ、クモガイ、サラサミナシ、クロミナシガイ（D-11Ⅱ層最下部で大型のものが出土）、オハグロガイ、カバミナシガイ（7地区あ～え36灰集中土壙、殻長108.7㎜、殻径78.5㎜）が出土。二枚貝でヒレジャコなどが出土する。

3：干瀬

a：岩盤－1地区Ⅱc層－2.64%、7地区Ⅳ層では1.95%、巻貝はチョウセンサザエ、ハナマルユキ、コオニコブシが出土し、チョウセンサザエは蓋の方が殻より多く出土する。シラクモガイ、オニコブシガイは1地区Ⅱc層での殻が大きいのが出土している。

4：礁斜面及び下部

a：岩盤－1地区Ⅱc層－0.29%、7地区Ⅳ層－0.69%と非常に少ない。サラサバテイラは完形や殻頂よりは破片の方がかなり多い。

c：岩礫底、砂底、砂泥底－ほとんど出土してないが、トウカムリガイ、トサガキなどがみられる。

Ⅱ内湾・転石地域

1：潮間帯中・下部

a ：岩盤－ほとんど出土なし。７地区Ⅳ層0.09％出土と非常に少ない。二枚貝のニセマガキ C.echinata が７地区う－32Ⅳ最下部で出土する。

b ：転石－１地区Ⅱc層では1.02％、７地区Ⅳ層1.15％出土している。カンギクが多く、殻長38.6㎜、殻径42.2㎜（７地区え－28Ⅳ層最下部）の大きいもの見られる。他にオキナワイシダタミ、マルアマオブネが出土する。

c ：岩礫底、砂底、砂泥底－１地区Ⅱc層では2.93％、７地区Ⅳ層では0.73％出土している。巻貝はシマベッコウバイ、二枚貝はリュウキュウマスオガイなどが見られる。

２：亜潮間上縁部

c ：岩礫底、砂底、砂泥底－１地区Ⅱc層では0.62％、７地区Ⅳ層では8.14％の出土である。巻貝はオハグロガイ完形、殻頂より破片がかなり多い。二枚貝はカワラガイ、リュウキュウザルガイが出土する。

Ⅲ：河口干潟・マングローブ域

０：潮上帯

c ：岩礫底、砂底、砂泥底－１地区Ⅱc層では0.14％では７地区Ⅳ層では0.07％ではシレナシジミなどがみられる。

d ：マングローブ植物上－１地区Ⅱc層では0.02％、７地区Ⅳ層ではほとんど出土してない。

１：潮間帯中・下部

c ：岩礫底、砂底、砂泥底－１地区Ⅱc層では29.91％、７地区Ⅳ層では11.73％の出土でⅠ－１－cについで多い。巻貝ではイボウミニナ、二枚貝ではアラスジケマンガイが出土する。

e ：淡水に流入する礫底－１地区Ⅱc層では0.02％、７地区Ⅳ層での出土はない。カノコガイが出土している。

Ⅳ：淡水域－１地区Ⅱc層では0.11％、７地区Ⅳ層は僅少、１地区Ⅱc層ではカワニナ、トウガタカワニナの２種類が確認できる。

Ⅴ：陸域－１地区Ⅱc層では2.67％、７地区Ⅳ層3.95％の出土である。オキナワヤマタニシが最も多く、次にツヤギセルが多い。他にシュリマイマイ、パンダナマイマイ、オキナワヤマタカマイマイなど確認できる。

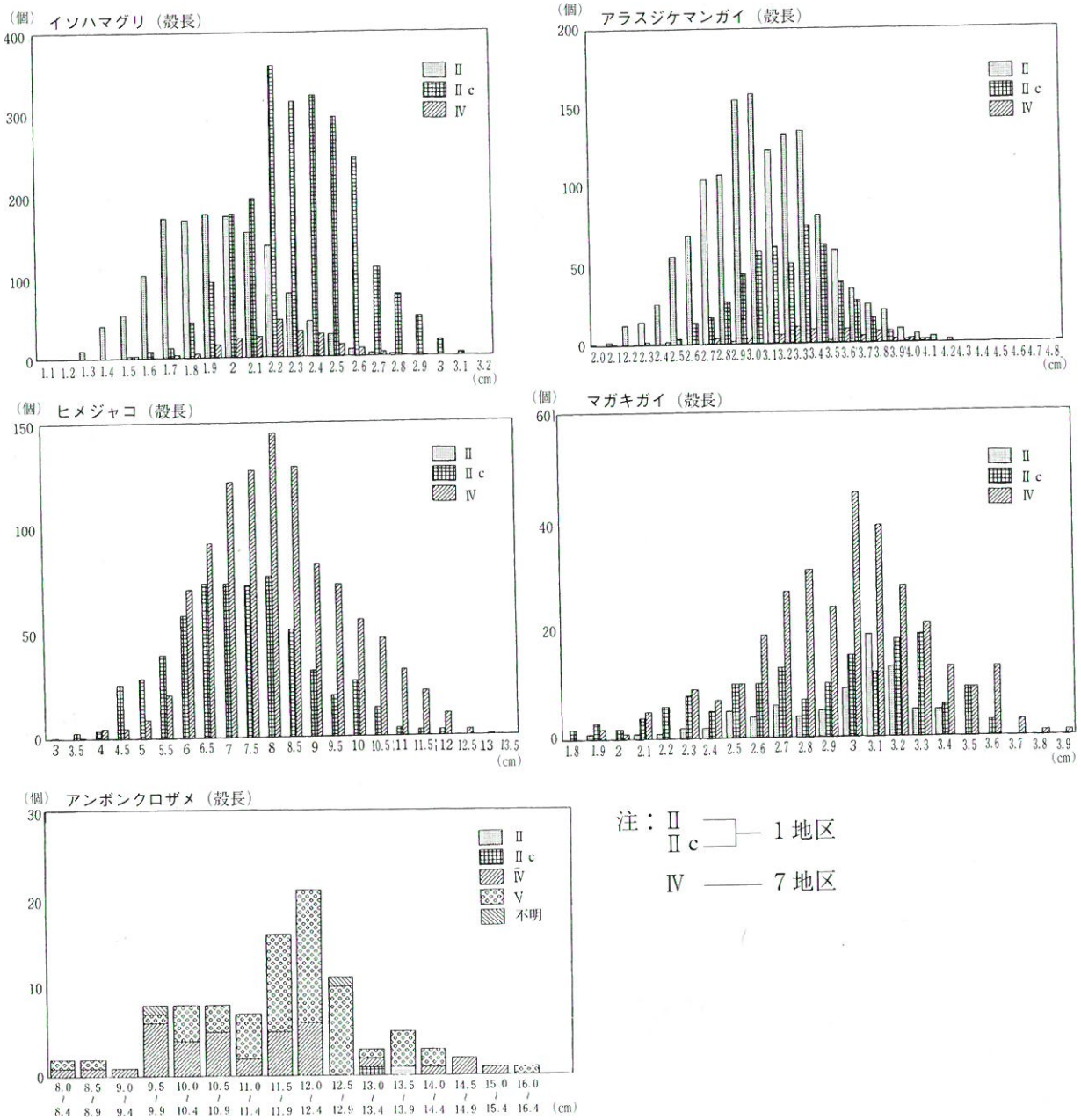
４．大きさについて

アラスジケマンガイ、イソハマグリ、ヒメジャコ、マガキガイ、アンボンクロザメ、サラサバテイラの計測を行った。計測の数もかなり多くなるため、１地区はD-11Ⅱc層、７地区はZ-34Ⅳ層のものについて計測した。第86図はその結果を棒グラフにしたが、二枚貝については、右殻、左殻の合計をまとめた。

イソハマグリ：１地区Ⅱc層は殻長の1.2cm～2.9cmの大きさが出土したが主に1.9cm台が多い。７地区Ⅳ層は殻長の1.5cm～3.3cmの大きさが出土したが主に2.2cm～2.6cmが徐々に多くなる。Ⅴ層は殻長の1.5cm～3.1cmの大きさが出土したが主に2.2cm台が多い。

アラスジケマンガイ：１地区Ⅱc層は殻長の2.0cm～4.6cmの大きさが出土したが主に2.9、3.0cmが最も多い。７地区Ⅳ層は殻長の2.3cm～4.0cmの大きさが出土したが主に3.3cmが最も多い。Ⅴ層は殻長の2.2cm～4.8cmの大きさが出土したが主に3.5cmが最も多い。これについては時期はちがう近接の勝連城跡でも計測を行いこれによると1.6cm～3.8cmの大きさのものが出土し、特に多いの2.4cm台のものである。これは本遺跡のものより小さくなる。

ヒメジャコ：７地区Ⅳ層は殻長3.3cm～120cmの大きさが出土したが主に8.0cmが多い。Ⅴ層は3.8cm～131cmの大きさが出土したが主に7.0～8.0cm台が多い。同時期の喜如嘉貝塚では8.0cm台のものが多い。ま



第86図　貝類大きさ別出土状況

た、現世の資料(註3)では4.5cm～5.5cmのもの多い。

マガキガイ：1地区Ⅱc層は殻径の1.9cm～3.4cm、主に3.1cm、3.2cmが出土。全体的に量は少ない。7地区Ⅳ層は殻径1.8cm～3.6cmの大きさが出土したが、主に3.2cm、3.3cmが多い。Ⅴ層は殻径1.9cm～3.9cmの大きさが出土したが、主に3.0cmが多い。量的にもこの層が他に比べて多い。本品も現代の報文がある。これによると瀬底島で殻長が3.75cm～6.64cmの大きさで平均が4.99cmである。本遺跡の殻長の平均は5.3cmである。現代のものより若干大きい(註4)。他に量的には少ないが大きさの目に付くものを下記に記述してする。

サラサバテイラは殻径7.1cm～13.1cm、オニコブシは殻径4.6cm～7.2cmが確認される。7地区あ－31Ⅴ層では殻径7.85cm、殻長10.87cm、シラクモガイは1地区Ⅱc層に於いて出土し、殻径4.6cm～6.5cmをとくになどである。

5．割れ方について

割れ方についてみると第　図に主な貝の完形、殻頂、破片の出土状況しめしたように。1地区Ⅱc層は

第45表 a 貝類出土状況（巻貝）

番号	科名	貝種名	生息地	1地区 1号溝 完形	殻頂	破片	II層 完形	殻頂	破片	IIC層 完形	殻頂	破片	IV層 完形	殻頂	破片	攪乱/不明 完形	殻頂	破片	小計 完形	殻頂	破片	個体数	7地区 溝状攪乱 完形	殻頂	破片	I層 完形	殻頂	破片	IV層 完形	殻頂	破片	V層 完形	殻頂	破片	土壙1 完形	殻頂	破片	土壙2 完形	殻頂	破片	不明 完形	殻頂	破片	小計 完形	殻頂	破片	個体数
1	オカムガイ科	オカムガイ																	0	0	0	0								2			1											0	3	0	3
2	ヒザラガイ科	ヒザラガイ	I-1-a				4			15			1			3			23	0	0	23				8			89			19			1			7			39			163	0	0	163
5	フジツボ科	フジツボ									6	2							0	6	2	6					1	1		14	6		1											0	16	7	16
7	ツタノハガイ科	オオツタノハガイ？	I-3-a																0	0	0	0						7																0	0	7	△
8		ベッコウガサ																	0	0	0	0																		1			1	0	0	2	△
9		オオベッコウガサガイ										1			1				0	0	2	△						2	4	12	17	5	6	12				7	4	11			1	16	22	43	38
10	ヨメガカサ科	ヨメガカサガイ																	0	0	0	0							1															1	0	0	1
11	ユキノカサガイ科	リュウキュウウノアシ	I-1-a							1		1							1	0	1	1																						0	0	0	0
4	ミミガイ科	マアナゴウ	I-3-a																0	0	0	0								1														0	1	0	1
3		イボアナゴウ																	0	0	0	0							3	5	5		3	2				1		1		1		4	9	8	13
11	スカシガイ科	オトメガサ																	0	0	0	0																						0	1	0	1
12	ニシキウズ科	オキナワイシダタミ	II-1-b		1		1	2	1	1	6	7					1		3	9	8	12				2	2	2	41	16	5	8	1								12	3		63	22	7	85
13		クマノコガイ																	0	0	0	0								4	1		5	2				1			1			3	9	3	12
14		ニシキウズ	I-2-a					1	6		4	52		3				4	0	5	65	5		1			2	18	4	11	76	1	5	56			2	13	17	75		3	15	18	38	243	56
15		ムラサキウズ	I-3-a																0	0	0	0							3	3	4	1								2		1	1	4	4	8	8
16		ギンタカハマ	I-4-a					4	13		8	31							0	12	44	12		2		1	3	21	2	10	61		6	12				2	3	7			4	5	22	107	27
17		ベニシリダカ	I-4-a								1								0	1	0	1									3			1				2	1	2				2	1	6	3
18		ヒメクボガイ																	0	0	0	0								1	1													1	1	0	2
19		サラサバテイラ	I-4-a		1			9	33		19	129		2	3		3	11	0	33	177	33		3	17	1	10	109	51	148	767	25	34	192			1	9	18	78		3	24	86	216	1188	302
20		ヘソアキ																	0	0	0	0																						0	0	0	0
21	リュウテン科	チョウセンサザエ	I-3-a					4	7	1		21		3	8		2	6	1	16	42	17		1	3		10	48	13	49	115	5	7	19				1	1	1	4	1	7	27	68	193	95
22		チョウセンサザエの蓋	I-3-a	1	1	1	10	9	3	29	21	17	8			2	2	2	50	33	23	83	10	1	2	108	1	4	347	15	48	24	1	2				10		3	18	2	6	517	20	65	537
23		コシダカサザエ	I-2-a		1			4	4	8	11	2							8	18	6	24				2	2		19	9	1	5									17	5		43	16	1	59
24		カンギク	II-1-b		1	1	8	12	58	54	90	691	1		9		5	1	63	108	760	171		7		25	25	7	317	128	42	74	30	14				7	2		193	66	29	616	258	92	874
25		カンギクの蓋	II-1-b				2			13	3					1			16	3	0	19				1			8		2	1						1			3	1	1	14	1	3	15
26		ヤコウガイ	I-4-a					2	7			40						2	0	2	49	2						23	2	6	72		3	11					1	4			1	2	10	111	12
27		ヤコウガイの蓋	I-4-a					1	1			4		2					1	0	7	1		1		2		4	1	2	15	1		1					1	2			1	4	3	22	7
28		オオウラウズ	I-2-a																0	0	0	0								1	1													0	1	1	1
29		リュウテン科不明																	0	0	0	0																					1	0	0	1	△
30	アマオブネ科	イシダタミアマオブネ	I-0-a							2	1	9							2	1	9	3				8	1		6	2											1			15	3	0	18
31		キバアマガイ	I-0-a							2		1							2	0	1	2				2			12	1		1				1			3			19	1	0	20
32		フトスジアマガイ	I-1-a																0	0	0	0														1						0	0	0	1
33		アマオブネ	II-1-b					1	3	3	4	2							3	5	5	8				2		1	1		2											0	3	3	3
34		オオマルアマオブネ	I-1-a																0	0	0	0							4				1			1						5	3	1	5
35		アマオブネ	I-1-b	1		3	19	9	11	38	33	47	2		1	3	1	5	63	43	67	106	2	1		37	5	7	173	7	15	13	1	3				3			11	1	2	240	15	27	255
36		ニシキアマオブネ	I-0-c					3	8	5	8	34						2	5	11	44	16	3	1		4			35	1	1	9	2					4			8	1		62	5	2	67
37		リュウキュウアマガイ	I-0-a																0	0	0	0				1	2		16	3											6			26	3	0	29
38		カゴカイ	II-1-e					1			4								0	5	0	0																						0	0	0	0
39	ヤマタニシ科	ヤエヤマヤマタニシ	V-8	1	1	6	54	31	121	275	117	552	27	14	27	37	11	39	394	174	745	568	26	3	3	270	26	54	1517	160	298	169	19	27	1			49	1	15	371	63	129	2403	272	526	2675
40	タマキビガイ科	コンペイトウガイ	I-0-a																0	0	0	0							1															1	0	0	1
41	オニノツノガイ科	オニノツノガイ	I-2-c					5	20		19	47	1		2			3	1	24	72	25		2	1	1	16	9	7	39	32	1	7	8				4	21	8		1	2	13	86	60	99
42		コオニノツノガイ	I-2-a					1	1		7	14							0	8	15	8					2	1		2	4							1						4	4	4	8
43		アラレカニモリ	I-1-a									1							0	0	1	△																						0	0	0	0
44		カワアイ（カニモリ）	I-1-a		12	57	60	402	1598	176	1213	3827		21	65	1	47	68	237	1695	5615	1932	1	5		85	72	10	145	284	16	3	5①						2	1	4	15		238	384	27	622
45		ヨコワカニモリ	I-2-c																0	0	1	△					1			1														0	1	1	1
46	トウガタカワニナ科	トウガタカワニナ	IV-5													1			1	0	0	1																						0	0	0	0
47		スグカワニナ									1								1	0	1	1																						0	0	0	0
48	カワニナ科	カワニナ	IV-5.6					1	1	1	17	14							1	18	15	19				2																		2	1	0	3
49	ウミニナ科	イトカケヘナタリ						1	1		3	8							0	4	9	4								1			3									2		0	6	0	6
50		キバウミニナ	III-0-c						61		10	18							0	10	79	10						1		7	3		1	3				1				1		0	10	7	10
51		イボウミニナ	III-1-c		10	32	4	73	964	25	282	2084		9	70		10	15	29	384	3165	413		3	1	2	40	2	10	84	6		1								1	8		13	136	9	149
52	ムカデガイ科	ヘビガイの一種	I-2-a																0	0	0	0					1					1						1						1	2	0	3
53		リュウキュウヘビガイ									1								0	1	0	0							1	2	1		1	1				3	4	3				4	7	5	11
54	ソデボラ科	イボソデガイ	I-2-c																0	0	0	0							1															1	0	0	1
55		アツソデガイ																	0	0	0	0							1															1	0	0	1
56		ムカシタモトガイ	I-2-c																0	0	0	0				1																		1	0	0	1
57		マガキガイ	I-2-c	1	15	25	12	197	294	190	628	635	6	14	7	4	27	25	213	881	986	1094	25	35	2	342	380	81	1201	839	265	154	50	16	3			259	41	9	30	49	14	2014	1394	387	3408
58		ネジマガキガイ	I-2-c								1	1							0	1	1	1	2	4	2	2	5	1	20	2	1	1									10	8		35	19	4	54
59		スイショウガイ	II-2-c																0	0	0	0								1														0	2	0	2
60		クモガイ	I-2-c			2		1	59	8	12	86		3	32		1	14	8	17	193	25	1	6	22		16	117	18	155	986	5	59	395			4	12	84	433		3	49	36	323	2006	359
61		ラクダガイ	I-4-c																0	0	0	0						2		1			1	1					1					0	2	0	2
62		スイジガイ	I-2-c						1			1							0	0	5	△			1			1		1	6		①	5①					1	3			2	0	3	19	3
63		ゴホウラ							2										0	0	2	△																	1					1	0	0	1
64		オハグロガイ	II-2-c	1		25	4	43	444	30	55	1541		7	99	6	12	86	41	117	2195	158	48	7	16	674	169	41	2356	735	299	281	55	9	21	2	2	53	21	5	234	79	34	3667	1068	406	4735
65		ヒメトリガイ												1					1	0	0	1																						0	0	0	0
66	タカラガイ科	ナツメダカラ	I-2-b																0	0	0	0							1															1	1	0	2
67		ナツメモドキ	I-2-a							1	1								1	1	0	2							3									1						4	0	0	4
68		ヒロクチダカラ	I-2-b																0	0	0	0				2		1	4												1			7	0	1	7
69		スソヨツメダカラ																	0	0	0	0							1															1	0	0	1
70		ハナビラダカラ	I-1-a								1	2							0	1	2	1				①	1	5		21	28		6	12					6	6				1	35	51	36
71		ハナマルユキ	I-2-a					5	38	1	31	83		1	3			1	1	37	125	38	2		5	3	34	67	25	143	222	9	15	31				10	18	16	1	4	15	50	214	356	264
72		ホシキヌタ	I-2-a			2					1	6							0	1	8	1				2		1	7	5	4	4	1	1				9	2	2				22	8	8	30
73		タルダカラ	I-2-a										1						1	0	0	1				1			3				1					1	1					5	2	0	7
74		コモンダカラ	I-2-a				1												1	0	0	1				3	2	1	3	1	3	2		1				3	1					17	4	5	21
75		ハチジョウダカラ	I-3-a				1	5	17	7	26	50						2	8	31	69	39	5	3	4	23	35	41	101	80	134	19	7	14				17	5	1	2	5	12	167	135	206	302
76		キイロダカラ	I-1-a																0	0	0	0							4															4	0	1	5
77		キイロダカラ(フジダカ)	I-1-a																0	0	0	0							1	1	2													3	1	2	4
78		ハナビラダカラ	I-1-a		1	1	5	9	19	13	27	64		2			2	7	18	39	93	57	7	1	1	7	3		30	9	8	3	1	1				6			8	2		61	16	10	77
79		ホシダカラ	I-2-c						4		1	5						1	0	1	10	1						12	1	9	48		1	15					1	5				1	11	80	12
80		ヒメホシダカラ	I-2-a																0	0	0	0							3															3	0	0	3
81		ホシキヌタ	I-2-a		1	2		4	32	1	17	43		2	3		1	1	1	25	81	26	1			4	5	10	26	25	18	4	1	1				11		1		1	4	46	32	34	78
82		タカラガイ科不明						1	11			8						4	0	1	23	1						1			3			3										0	1	7	1
83	タマガイ科	ヘソアキトミガイ	I-2-c							1	1								1	1	0	2																						1	0	0	1
84		トミガイ	I-2-c		2		1	6	1	3	26	3		1	1	1			5	35	5	40	1			8	5		24	19	4	3	2	1				1	1		10			47	27	5	74
85		キヌズミガイ														1			1	0	0	1																						0	0	0	0
86		リスガイ	I-2-c		1		1				3	3		2		1			5	4	2	9							4	1		2						2						9	0	0	9
87		トラダマ	II-2-c																0	0	0	0							2												1			2	0	0	2
88		アラゴマフダマ																	0	0	0	0																1						1	0	0	1
89		ホウシュノタマガイ	II-1-c	1			1	9	2	7	11	1		1		1			10	23	3	33				4			2													2		6	2	0	8
90	ヤツシロガイ科	イワカワトキワガイ	I-2-c																0	0	0	0							1	1														1	0	1	2
91		ウズラガイ	I-2-c																0	0	1	△					1	3			3		1					1						0	1	6	3
92		スミウズラガイ	I-4-c																0	0	0	0											1	8				1						0	2	8	2
93	トウカムリ科	トウカムリ																	0	0	0	0								1														0	1	0	1
94		ヒナヅル																	0	0	0	0									1													0	0	1	△
95	フジツガイ科	シノマキ																	0	0	0	0																			1			0	0	1	△
96	アヤボラ科	シマアラレボラ	I-2-a																0	0	0	0																						0	0	0	0
97		ミツカドボラ	I-2-a						1										0	0	2	△						1	2	4	3											1	1	3	5	4	8
98		コナフワダボラ	I-2-a						1	1	1	2							1	1	3	3					1		2	1		1												3	3	1	6
99		ホラガイ	I-4-a						2	1	1	13			5			1	1	1	21	1			3		1	33	9	6	88		2	19					2	11			4	9	11	158	20
100	オキニシ科	イワカワトキボラ																	0	0	0	0								1														0	1	0	1
101		オキニシ	I-3-a								3	3							0	3	4	3					3	1	6	9	20		1	3									1	6	13	25	19
102		オオナルトボラ									1	2							0	1	3	△						2		1									2					0	1	4	1
103	アッキガイ科	テングガイ																	0	0	0	0									2													0	0	2	△
104		ガンゼキボラ	I-4-a					2		12	12	6	27					1	14	6	40	20	4		1	16	5	12	25	18	26	10	1	6				1		1	1	1	8	57	25	54	82
105		ウネレイシダマシ	I-1-b					2	10	3	5	20	12		1	1		2	7	33	18	40				7	5		43	15	1	3	3								28	5		81	29	1	110
106		ヒロクチレイシダマシ								1									0	0	1	△							1	2	1													1	2	1	3
107		レイシダマシ	I-1-a							1		4							0	4	1	4							2	1		1												3	1	0	4
108		ムラサキイガレイシ	I-3-a					2		1		3	1						5	1	1	6	1			1			7	1		3												13	1	0	13
109		キマダライガレイシ																	1	0	1	1																						1	0	0	1
110		シロレイシダマシ									1								1	0	0	1																						1	0	0	1
111		アカイガレイシ	I-3-a		1			3	2	4	6	8	4						9	11	8	20	1		1	7	2	6	14	7	10	2		1										24	9	19	33
112		ヒロクチレイシ																	0	0	0	0								1														0	1	0	1
113		ツノレイシ	I-3-a						3	9	2	5	15				1	2	2	9	26	11			1	4	2	41	6	19	82	1	2	9				1		6		1	2	11	25	141	36
114		ツノテツレイシ	I-1-a							1	1								2	1	0	3							3	1		3	2											6	1	3	7
115		シラクモガイ	I-3-a	1			7	1	15	33	19	32	1				1		43	20	48	63	3	1		13	8	13	40	14	41	15	2	4				4	3		2	1	3	73	30	64	103
116		テツレイシ	I-1-a				2	2			4	2	1						6	5	1	11				2			8	1	1									1				12	1	1	13
117		ホソスジテツボラ	I-1-a							1									2	0	0	2									4													2	0	4	2
118		テツボラ	I-3-a									1							0	0	1	△						2	1		6	1							2					2	0	10	2
119		ナガハニレイシダマシ	I-2-a									1		1					0	0	1	△				1			2									1			4	1		7	3	0	10
120		ツロニシ																	0	0	0	0				1							2											0	0	2	△
121	オリイレヨフバイ科	イボヨフバイ	II-1-c					1	1	1	1	2	1	1					2	2	4	4	1			1	1		1	1														3	2	0	5
122		ミナミキンシバイ	II-1-c																0	0	0	0				1			1															2	0	0	2
123		アワムシロ	II-2-c																0	0	0	0							3															3	0	0	3
124		アワムシロ	I-2-c																0	0	0	0				2			5															7	0	0	7
125		ヒメヨフバイ	II-2-c																0	0	0	0					1		3									1						6	1	0	7
126		オキナワハナムシロ									2								0	2	0	0							1			1												1	0	1	3
127		オリイレヨフバイ																	0	0	0	0							2	2	1													2	2	1	4
128	エゾバイ科	スジグロホラダマシ	I-3-a																0	0	0	0				1															1			3	0	0	3
129		ホラダマシ	I-2-b																0	0	0	0				2	1		11	2		1									8	1		22	4	0	26
130		ノシガイ	I-1-a					1	1										0	1	1	△				1			1												1			3	0	0	3
131		シマベッコウバイ	II-1-c	1	1	1	2	8	8	9	14	14							12	23	24	35				8	3		46	10	3	1	1					2	1		12	3	1	71	18	5	89
132	セコバイ科	セコバイ																	0	0	0	0																						0	0	0	0
133	イトマキボラ科	イトマキボラ	I-2-a			2	1	1	32		4	58			1				1	5	94	6		3	8	4	14	142	37	61	423	11	19	95			5	5	14	73		14	33	57	125	779	182
134		ナガイトマキボラ	I-2-a					1				4					1		0	2	4	2		1		1	6	15	8	16	90	1	7	29				1	2	20			11	11	32	165	43
135		ハンザツマムシ																	0	0	0	0																						0	0	0	0
136		アカマイモドキ						2	4	2	3	1		1	1	1			2	6	7	8				2	1		3	5	1								3	2			1	7	6	4	13
137		リュウキュウツノマタガイ	I-3-a								1	2							0	1	2	1								1	2	1								1				1	1	4	2
138		チトセボラ	I-2-c								1	2							0	1	2	1				1	2	6	1	15	33		1	2							1			3	19	42	22
139	マクラガイ科	サツマビナ	I-2-c								1								0	1	0	1							1	3	2	1												1	0	0	1
140		サカサビナ																	0	0	0	0																						0	1	0	1
141		ジュドウマクラ										1							0	0	1	△					1																	1	0	1	1
142		マクラガイ科不明										1							0	0	1	△																						0	0	2	△
143	フデガイ科	チョウセンフデガイ	I-2-c																0	0	0	0							1															1	0	0	1
144		オニキバフデガイ																	0	0	0	0																1						1	0	0	1
145		イモヒデガイ	I-1-c																0	0	0	0							1															1	0	0	1
146		ツトコロモガイ																	0	0	0	0																						0	0	0	0
147	オニコブシガイ科	オニコブシガイ	I-3-a	1	1		1	4	21	22	20	54	2		2		2	4	26	27	81	53					1	7	2	8	40	1	2	14					2	2			2	3	13	66	16
148		コオニコブシガイ	I-3-a		6	6	28	43	85	95	118	221	2		6	1	1	5	126	168	323	294	2	1	6	21	22	43	50	67	140	10	5	16	1		1	11		5	7	9	17	102	104	228	206
149	クダボラ科	クダボラ																	0	0	0	0																						0	0	0	0
150	イモガイ科	クロミナシガイ	I-2-c			1	1	4	16	4	15	77		1	1				5	20	95	25			2	2	12	52	39	36	187	5	4	15				1	6	2	1	8	13	48	66	271	114
151		クロザメモドキ	I-2-c							1		4							0	1	4	1								4	1													0	5	1	5
152		ゴモクイモ								2	1								0	1	7	1						2			1													0	1	3	1
153		アンボンクロザメ	I-2-c			2		4	16		15	49					2		0	19	70	19		1	1			5	63	8	33	123	3	5	23				1	14	51			4	12	58	265	70
154		クロフモドキ	I-2-c					2			2	1							0	4	2	4						2		2	18								4				2	2	4	24	6
155		ミカドミナシ	I-2-c									2							0	0	2	△									3													0	0	5	△
156		マダライモ	I-1-a		2	2	3	16	60	13	63	113		3			1	5	16	82	183	98	6		1	22	19	27	81	56	136	10	4	9				8	3	2	12	4	11	139	86	186	225
157		ヤナギシボリイモ									1	1							0	1	1	1	1						1									1						3	2	0	5
158		ハルシャガイ	I-1-a					4	12	16	8	20	35					2	12	34	52	46						13	36	17	33	6	3					1		1			4	52	28	46	80
159		アカシマミナシ	I-2-c								1	2							0	1	2	1							6	7														6	6	7	11
160		ヒロクチイモ																	0	0	0	0																						0	0	0	0
161		サラサミナシ	I-2-c				II		1	14	1	10	100					1	1	26	92	27				1	19	45	17	63	182	1	12	34				4	8	29		1	5	22	103	297	125
162		ヤキイモ	I-2-c					1	17		10	45					1	6	1	18	70	19				2	5	24	3	21	64		4	15					1	1			1	5	33	152	38
163		ガバミナシ	I-2-c				1	1	18		3	70							1	3	70	4				1	12	46	1	43	280	3	6	31				1	4	5		7	14	5	72	396	77
164		ヤナギシボリイモ	I-2-a		2	12		23	67		75	106	2	7	3		2	6	2	109	194	111		13	30	5	83	160	42	276	747	9	32	95				6	29	90	1	22	53	63	455	1175	518
165		ハイイロミナシ																	0	0	0	0																						1	0	0	1
166		サラサミナシモドキ	I-2-a						4		1	1							0	1	1	1					5	15	1				2	1				1					1	2	6	20	12
167		イボカバイモ	I-2-c					1			1	3							0	1	4	1					4	2	3	9	10	1						1						2	11	14	13
168		イボシマイモ	I-2-a						3	1		4	5						0	7	6	7		1			2	2	7	11	10	1	1					1		1				8	19	12	27
169		ニシキミナシ										1							0	0	1	△								2	1													0	2	1	2
170		ゴマフイモ						2	6		3	13							0	5	19	5							2	12														1	3	16	3
171		アジロイモ	II-2-c								1	1							0	1	1	1							4	2								1	1					4	4	0	8
172		タガヤサンミナシ	II-2-c									1							0	0	1	△								1														0	0	1	△
173		キヌカツギ	I-2-a						2		1	6							0	3	6	3				4	1	9	5	3	29								1					10	4	40	14
174		ヤセイモ	I-2-c						4			3							0	0	4	△							1	3														0	1	3	1
175		アンボイナ																	0	0	0	0																						0	0	0	0
176		Conus sp.								2									2	0	0	2																						0	0	0	0
177		イモガイ科不明							2	13			17						0	2	30	2							5	36			3	5					4	2				0	14	43	14
178	タケノコガイ科	ベニタケガイ	I-2-c																0	0	0	0	1																					1	0	0	1
179		タケノコガイ	I																0	0	0	0							2															2	0	0	2
180	ナツメガイ科	ナツメガイ	I-2-c																0	0	0	0							2												2	5	8	1	7	8	1
181	キセルガイ科	ツヤギセル	V-8		2	1	1	2	7	21	23	29	94	2		2	2	1	4	31	38	122	69			4			34	12	13	3						2			25	8	1	68	20	14	88
182	マイマイ科	バンダナマイマイ	V-8					4	8	7	1			2	1		3	3	10	12	7	22	4	1		26	1	3	242	31	58	69	7	18				40	2	8	71	13	43	452	55	130	507
182	南マイマイ科	イトマンマイマイ						1	1	4	6	4	12						7	5	16	12				1	3	1	21	13	9	5	1	1				1			5	6	6	33	23	17	56
183	ナンバンマイマイ科	ジュリマイマイ	V-8																0	0	0	△						4	16	3		1	4					1		3	4	2		25	11	8	25
184		カサレンマイマイ																	0	0	0	△							8															3	2	0	3
185		ヤンバルマイマイ																	0	0	0	△							2															2	0	0	2
186		オキナワヤマタカマイマイ																	0	0	0	△																						0	0	2	2
188	オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ	V-9						1	3			2					1	0	0	0	△				4	7	21	7	32	31	2	21								1	1	5	57	10	66	67
189	ツノガイ科	マルツノガイ																	0	0	0	△																						0	0	1	△
190		ツノガイ																	0	0	0	0								1														0	0	1	0
191	巻貝不明											6							0	0	6	△									9													0	0	9	△
	小計			12	60	188	253	1024	4341	1174	3255	11419	59	100	375	69	140	345	1567	4579	16668	6146	161	110	146	1826	1140	1524	7628	4047	6724	1071	487	1358	27		2	15	614	367	1054	1182	446	605	12509	6599	11426	19108
	個体数			72			1277			4429			159			209			6146				271			2966			11675			1558			29			981			1628			19108			

凡例 ○：幼

注＊シロナルトボラとオオナルトボラは同種の為オオナルトボラに統一

＊ハナムシロとオキナワハナムシロも同種の為オキナワハナムシロに統一

第45表b 貝類出土状況（二枚貝）

1 地区

No.	科	二枚貝	層序	1号溝 完形 L	1号溝 完形 R	1号溝 殻頂 L	1号溝 殻頂 R	1号溝 破片	II層 完形 L	II層 完形 R	II層 殻頂 L	II層 殻頂 R	II層 破片	II C層 完形 L	II C層 完形 R	II C層 殻頂 L	II C層 殻頂 R	II C層 破片	IV層 完形 L	IV層 完形 R	IV層 殻頂 L	IV層 殻頂 R	IV層 破片	攪乱 / 不明 完形 L	攪乱 / 不明 完形 R	攪乱 / 不明 殻頂 L	攪乱 / 不明 殻頂 R	攪乱 / 不明 破片	小計 完形 L	小計 完形 R	小計 殻頂 L	小計 殻頂 R	小計 破片	個体数
1		ｵｵﾀｶﾉﾊｶﾞｲ	I-2-a																										0	0	0	0	0	
2		ﾍﾞﾆｴｶﾞｲ	I-2-a			1				1	2	2	2	6	3	22	23	22			1	1	1			2	1		6	4	28	27	25	35
3	ﾌﾈｶﾞｲ科	ｵｵｶﾘｶﾞﾈｴｶﾞｲ	I-2-a																										0	0	0	0	0	
4		ﾘｭｳｷｭｳｻﾙﾎﾞｳ	II-2-c			1		3	2	3	4	2	21	9	8	5	10	68	3		3	1	3	2	1	3	1	3	16	12	16	14	98	36
5		ﾊｲｶﾞｲ																											0	0	0	0	0	
6	ﾀﾏｷｶﾞｲ科	ﾂﾒﾜｸｹﾞﾘ	II-2-c						1		3	2	7	9	7	34	28	51				1		1		1	1		11	7	38	32	58	50
7		ｳﾁﾜｶﾞｲ																											0	0	0	0	0	
8	ｲｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳﾋﾊﾞﾘ																											0	0	0	0	0	
9		ﾏﾍﾞｶﾞｲ																											0	0	0	0	0	
10	ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ科	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ	I-4-a									1				1													0	0	1	1	0	2
11		ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘ	I-1-a																										0	0	0	0	0	
12		ﾏｸｶﾞｲ	I-2-a					3			2		10			1	2	4					1					1	0	0	3	2	19	4
13	ﾏｸｶﾞｲ科	ｶｲｼｱｵﾘ	I-1-a																										0	0	0	0	0	
14		ﾍﾘﾄﾘｱｵﾘｶﾞｲ	I-1-a																										0	0	0	0	0	
15	ｲﾀﾔｶﾞｲ科	ｲﾀﾔｶﾞｲ																											0	0	0	0	0	
16		ﾁｻﾗｶﾞｲ	I-2-b																										0	0	0	0	0	
17	ｳﾐｷﾞｸ科	ﾒﾝｶﾞｲ	I-2-a					1			3	2	20	3	2	14	11	67		1	9	2	16	2	2	1	3	12	5	5	27	18	116	34
18		ﾒﾝｶﾞｲの一種				1							1			1	1	4		1	2		3					1	0	1	4	1	9	4
19	ﾐﾉｶﾞｲ科	ﾐﾉｶﾞｲ	I-2-a																										0	0	0	0	0	
20	ﾍﾞｯｺｳｶﾞｷ科	ｼｬｺｶﾞｷ	I-2-a																				1						0	0	0	0	1	△
21		ﾏｶﾞｷ?											2			1		4				1							0	0	1	1	6	2
22		ﾆｾﾏｶﾞｷ?	II-1-a										1									2							0	0	0	2	1	2
23	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	ｵﾊｸﾞﾛｶﾞｷ	I-1-a										5			6	5	19			8	38	4		1		1	2	0	1	14	44	30	46
24		ﾄｻｶｶﾞｷ	I-4-a																				1						0	0	0	0	1	△
25		ﾉｺｷﾞﾘｶﾞｷ																											0	0	0	0	0	
26		ﾂｷｶﾞｲ	I-2-c																										0	0	0	0	0	
27	ﾂｷｶﾞｲ科	ｳﾗｷﾂｷｶﾞｲ	II-2-c																										0	0	0	0	0	
28		ﾋﾒﾂｷｶﾞｲ	I-2-c									1																	0	0	0	1	0	1
29		ｶﾌﾞﾗﾂｷｶﾞｲ	II-2-c																										0	0	0	0	0	
30	ｶｺﾞｶﾞｲ科	ｶｺﾞｶﾞｲ																											0	0	0	0	0	
31		ﾋﾚｲﾝｺ	I-4-a																								1		0	0	0	1	0	1
32		ｹｲﾄｳｶﾞｲ	I-2-a								2					1					2	5	2				1		0	0	5	6	2	9
33	ｷｸｻﾞﾙ科	ｼﾛｻﾞﾙ	I-2-a														1												0	0	0	1	0	
34		ｷｸｻﾞﾙ	I-3-a																										0	0	0	0	0	
35		ｶﾈﾂｹｻﾞﾙ	I-1-a																										0	0	0	0	0	
36	ﾄﾔﾏｶﾞｲ科	ｸﾛﾌﾄﾏﾔｶﾞｲ	I-2-a																										0	0	0	0	0	
37	ｻﾞﾙｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳｻﾞﾙｶﾞｲ	II-2-c				1	5	1		13	7	51	69	76	64	70	357	2	4		4	1	1	1			6	73	81	77	82	420	170
38		ｶﾜﾗｶﾞｲ	II-2-c						2	2	6	3	11	25	15	43	38	86	1			1					2	2	28	17	49	44	99	79
39		ｼﾗﾅﾐ	I-2-a								3		4	6	7	9	5	27					1			1		1	6	7	13	5	33	19
40		ｼｬｺﾞｳ	I-2-c										2					1											0	0	0	0	3	△
41	ｼｬｺｶﾞｲ科	ﾋﾚｼﾞｬｺ	I-2-c				1	6				1	101	7	4	5	14	308				1	24			1		29	7	4	6	17	468	22
42		ﾋﾒｼﾞｬｺ	I-2-a				1	3			1		51	8	6	27	28	173	3	4	6	4	24			1	1	14	11	10	35	34	265	47
43		ｼｬｺｶﾞｲ科不明				5	3	12					66					152					3					1	0	0	5	3	234	5
44	ﾊﾞｶｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳﾊﾞｶｶﾞｲ	II-2-c													2	4	3			1								0	0	3	4	3	4
45	ﾁﾄﾞﾘﾏｽｵｶﾞｲ科	ｲｿﾊﾏｸﾞﾘ	I-1-c	7	10	50	54	14	78	90	495	573	181	1013	1022	6131	6133	2407	45	43	131	122	8	22	32	84	86	14	1165	1197	6891	6968	2624	8176
46	ﾅﾐﾉｺｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳﾅﾐﾉｺ	I-1-c											5	5	11	8	5	1		3	4			1				6	6	14	12	5	21
47		ﾆｯｺｳｶﾞｲ	II-2-c																										0	0	0	0	0	
48		ｺﾆｯｺｳｶﾞｲ																											0	0	0	0	0	
49	ﾆｯｺｳｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳｼﾗﾄﾘ	II-1-c								1		8	5	3	15	8	45			1							2	5	3	17	8	55	22
50		ｻﾒｻﾞﾗ	I-2-c										1			2		6											0	0	2	0	7	2
51		モチヅキザラガイ	I-2-c								1		2																0	0	1	0	2	1
52	ｼｵｻｻﾞﾅﾐ科	ﾏｽｵｶﾞｲ	II-1-c																										0	0	0	0	0	
53		ﾘｭｳｷｭｳﾏｽｵｶﾞｲ	II-1-c			1		1	2			1	9	1	5	23	17	70						1				7	4	5	24	18	87	28
54	ｼｼﾞﾐ科	ｼﾚﾅｼｼﾞﾐ	III-0-c									4	7			13	13	17			3	1	4					1	0	0	16	18	29	20
55		ｱﾗｽﾉﾒｶﾞｲ	I-2-c												2			3											0	2	0	0	3	2
56		ﾇﾉﾒｶﾞｲ	II-1-c								1		1			1	1	3									1		0	0	2	2	4	3
57		ｼﾞｭｽﾞｶｹﾇﾉﾒｶﾞｲ																											0	0	0	0	0	
58		ｼﾗｵｶﾞｲ								1	2	3	2	2		8	11	2											2	1	10	14	4	15
59		ﾎｿｽｼﾞｲﾅﾐｶﾞｲ	II-1-c				1		7	5	6	7	1	51	59	64	78	30	1		3	3			1	2	2	3	59	65	75	91	34	158
60		ﾋﾒｲﾅﾐｶﾞｲ	I-2-c																										0	0	0	0	0	
61		ｱﾗｽｼﾞｹﾏﾝｶﾞｲ	III-1-c	7	11	53	56	71	217	249	412	403	433	1553	1468	3229	2953	3018	40	70	63	57	17	21	19	66	50	76	1838	1817	3823	3519	3615	5715
62		ﾏﾙｵﾐﾅｴｼ	I-2-a																										0	0	0	0	0	
63	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ科	ﾊﾏｸﾞﾘ														1	2												0	0	1	2	0	2
64		ﾁｮｳｾﾝﾊﾏｸﾞﾘ						1	1		8	4	19	3	3	75	73	90			2	1	9			3		4	4	3	88	78	123	92
65		ﾕｳｶｹﾞﾊﾏｸﾞﾘ	II-1-c							2	1	1	1	3	3	3	6	1											3	5	4	7	2	12
66		ｵﾄｺｴｼﾏﾊﾏｸﾞﾘ																											0	0	0	0	0	
67		ｲｵｳﾊﾏｸﾞﾘ																											0	0	0	0	0	
68		ｵｷｼｼﾞﾐ															1								1				0	1	0	1	0	2
69		ｵｲﾉｶｶﾞﾐ	II-1-c								1	1																	0	0	1	1	0	1
70		ﾘｭｳｷｭｳｱｻﾘ									1	1			1	1		7											0	1	2	1	7	2
71		ﾋﾒｱｻﾘ	II-1-c													2	1											1	0	0	2	1	1	2
72		ｽﾀﾞﾚﾊﾏｸﾞﾘ	II-1-c															1											0	0	0	0	1	△
73	二枚貝不明												2					2											0	0	0	0	4	△
合計				14	21	112	117	120	311	353	968	1019	1022	2778	2699	9815	9545	7053	96	123	238	249	123	50	59	165	151	180	3249	3255	11298	11081	8498	14848
個体数				138					1372					12593					372					224					14553					

7 地区

No.	二枚貝	溝状攪乱 完形 L	溝状攪乱 完形 R	溝状攪乱 殻頂 L	溝状攪乱 殻頂 R	溝状攪乱 破片	I層 完形 L	I層 完形 R	I層 殻頂 L	I層 殻頂 R	I層 破片	IV層 完形 L	IV層 完形 R	IV層 殻頂 L	IV層 殻頂 R	IV層 破片	V層 完形 L	V層 完形 R	V層 殻頂 L	V層 殻頂 R	V層 破片	土壙1 完形 L	土壙1 完形 R	土壙1 殻頂 L	土壙1 殻頂 R	土壙1 破片	完(形) L (切れ)
1	ｵｵﾀｶﾉﾊｶﾞｲ					1									1					1	1						
2	ﾍﾞﾆｴｶﾞｲ	1					5	2	7	7	7	22	23	25	22	5	1	2	1	2	1						
3	ｵｵｶﾘｶﾞﾈｴｶﾞｲ													1				1		2							
4	ﾘｭｳｷｭｳｻﾙﾎﾞｳ	1	2	3	4	3	32	33	23	20	82	138	128	107	80	298	73	57	16	23	42		2				3
5	ﾊｲｶﾞｲ														1	2											
6	ﾂﾒﾜｸｹﾞﾘ						2			1		1	2	5	3	1	1	1		1							
7	ｳﾁﾜｶﾞｲ											1		1	1				1								
8	ﾘｭｳｷｭｳﾋﾊﾞﾘ													2		2											
9	ﾏﾍﾞｶﾞｲ													1													
10	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ								3	1	5	1	1	23	18	107		1	15	12	33			1			
11	ﾐﾄﾞﾘｱｵﾘ			55	43	17			35	27	2	28	37	634	749	216	44	62	614	558	134						8
12	ﾏｸｶﾞｲ								1	4	1	1		32	32	28			5	11							
13	ｶｲｼｱｵﾘ									3	1		2	1	3				1	2							
14	ﾍﾘﾄﾘｱｵﾘｶﾞｲ								2	2			2	20	11	3	2	2	2	3	1						
15	ｲﾀﾔｶﾞｲ											2				1											
16	ﾁｻﾗｶﾞｲ										1					2					1						
17	ﾒﾝｶﾞｲ	1		5		12	16	4	37	16	130	107	58	191	84	501	26	23	38	25	74	2				1	2
18	ﾒﾝｶﾞｲの一種						5		2		10	24	16	30	4	93	5	2	2	2	6						
19	ﾐﾉｶﾞｲ													1													
20	ｼｬｺｶﾞｷ												2														
21	ﾏｶﾞｷ?												1	3	3	1											
22	ﾆｾﾏｶﾞｷ?	1					7	1	3	1	2	29	7	9	14	7	3										
23	ｵﾊｸﾞﾛｶﾞｷ		1	2				1	4	6	2	4	3	12	17	10	1	2			1						
24	ﾄｻｶｶﾞｷ																	1									
25	ﾉｺｷﾞﾘｶﾞｷ																										
26	ﾂｷｶﾞｲ				1						2				1	1	1				1						
27	ｳﾗｷﾂｷｶﾞｲ						1		1			2	2	3	8	2	2	1	3	1	3						
28	ﾋﾒﾂｷｶﾞｲ																										
29	ｶﾌﾞﾗﾂｷｶﾞｲ																			1							
30	ｶｺﾞｶﾞｲ										1				1	1											
31	ﾋﾚｲﾝｺ							1							1												
32	ｹｲﾄｳｶﾞｲ			1			2	1	4	5		10	6	11	8	5	1	2	6	1	2						
33	ｼﾛｻﾞﾙ						2				1	1	9	5	3		2	1		2							
34	ｷｸｻﾞﾙ									2		3															
35	ｶﾈﾂｹｻﾞﾙ						1					2		2													
36	ｸﾛﾌﾄﾏﾔｶﾞｲ												1														
37	ﾘｭｳｷｭｳｻﾞﾙｶﾞｲ	1		1	1	2	7	5	6	4	6	31	31	18	27	35	6	16	5	10	14						1
38	ｶﾜﾗｶﾞｲ	2	1	2		6	12	9	27	20	24	85	78	75	81	134	18	20	13	17	5						
39	ｼﾗﾅﾐ						1	6	3	1	22	51	56	27	40	95	21	19	3	7	13						1
40	ｼｬｺﾞｳ										2		2	2	1	12		1	4		13						
41	ﾋﾚｼﾞｬｺ		1			28	6	1	4	21	207	50	53	59	95	1203	23	20	18	22	103						
42	ﾋﾒｼﾞｬｺ	19	22	31	22	61	67	50	79	84	244	1010	1007	802	772	1940	436	401	250	239	529						51
43	ｼｬｺｶﾞｲ科不明										27	9	11			160					11						
44	ﾘｭｳｷｭｳﾊﾞｶｶﾞｲ					3			2	2	3	6	5	10	6	6	1	3		1							
45	ｲｿﾊﾏｸﾞﾘ	155	145	91	114	3	2025	2013	868	890	19	13451	16316	7233	7295	604	660	632	169	140	3	1	4	2	2		38
46	ﾘｭｳｷｭｳﾅﾐﾉｺ						1		1			13	15	9	4					1			1				
47	ﾆｯｺｳｶﾞｲ											2		3	4	1	1		1								
48	ｺﾆｯｺｳｶﾞｲ											1															
49	ﾘｭｳｷｭｳｼﾗﾄﾘ						1	1	1			8	2	8		10	1				1						
50	ｻﾒｻﾞﾗ								1	1	1			2	2	4			1		1						
51	モチヅキザラガイ						1				1	1	2	1	3	9	1			1	3						
52	ﾏｽｵｶﾞｲ										2	1															
53	ﾘｭｳｷｭｳﾏｽｵｶﾞｲ				1	1	2	2	6	5	21	14	15	28	22	89	8	4	3	3	7						
54	ｼﾚﾅｼｼﾞﾐ				1				2	1	9	7	4	16	22	54	4	3	9	6	11						
55	ｱﾗｽﾉﾒｶﾞｲ																	1									
56	ﾇﾉﾒｶﾞｲ					1	1		3	1	7		1	5	7	28					4						
57	ｼﾞｭｽﾞｶｹﾇﾉﾒｶﾞｲ												1														
58	ｼﾗｵｶﾞｲ																										
59	ﾎｿｽｼﾞｲﾅﾐｶﾞｲ	1	2	1	1		46	30	7	13	1	138	164	34	27	16	12	17		3	3						
60	ﾋﾒｲﾅﾐｶﾞｲ											2															
61	ｱﾗｽｼﾞｹﾏﾝｶﾞｲ	19	24	35	17	8	383	484	265	285	159	3211	3416	1609	1689	991	281	291	65	59	26	4	4	1	1		1
62	ﾏﾙｵﾐﾅｴｼ							1							1				1	1							
63	ﾊﾏｸﾞﾘ						1							1													
64	ﾁｮｳｾﾝﾊﾏｸﾞﾘ						①					1	1	3	8	2					1						
65	ﾕｳｶｹﾞﾊﾏｸﾞﾘ									1		1	1		2	1											
66	ｵﾄｺｴｼﾏﾊﾏｸﾞﾘ											1															
67	ｲｵｳﾊﾏｸﾞﾘ											1															
68	ｵｷｼｼﾞﾐ																										
69	ｵｲﾉｶｶﾞﾐ																										
70	ﾘｭｳｷｭｳｱｻﾘ																										
71	ﾋﾒｱｻﾘ						1					2	1		2				2								
72	ｽﾀﾞﾚﾊﾏｸﾞﾘ															1											
73	二枚貝不明											1				3											
合計		201	198	227	205	146	2629	2645	1397	1424	1002	18474	21482	11064	11175	6684	1635	1586	1248	1157	1048	7	11	4	3	1	12
個体数		428					4069					32657					2883					15					

凡例 ○：幼　　注*二枚貝の各地区の小計と個体数は必ずしも一致しない。（個体数は右殻、左殻のそれぞれの完形と殻頂を合計し多いほうを個体数とした。）

1 地区

破片	II C層 完形 L	II C層 完形 R	II C層 殻頂 L	II C層 殻頂 R	II C層 破片	IV層 完形 L	IV層 完形 R	IV層 殻頂 L	IV層 殻頂 R	IV層 破片	攪乱/不明 完形 L	攪乱/不明 完形 R	攪乱/不明 殻頂 L	攪乱/不明 殻頂 R	攪乱/不明 破片	小計 完形 L	小計 完形 R	小計 殻頂 L	小計 殻頂 R	小計 破片	個体数
																0	0	0	0	0	
2	6	3	22	23	22			1	1	1			2	1		6	4	28	27	25	35
																0	0	0	0	0	
21	9	8	5	10	68	3		3	1	3	2	1	3	1	3	16	12	16	14	98	36
																0	0	0	0	0	
7	9	7	34	28	51				1		1		1	1		11	7	38	32	58	50
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
			1													0	0	1	1	0	2
																0	0	0	0	0	
10			1	2	4					1					1	0	0	3	2	19	4
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
20	3	2	14	11	67		1	9	2	16	2	2	1	3	12	5	5	27	18	116	34
1			1	1	4		1	2		3					1	0	1	4	1	9	4
																0	0	0	0	0	
										1						0	0	0	0	1	△
2			1		4				1							0	0	1	1	6	2
1									2							0	0	0	2	1	2
5			6	5	19			8	38	4		1		1	2	0	1	14	44	30	46
										1						0	0	0	0	1	△
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	1	0	1
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
														1		0	0	0	1	0	1
			1					2	5	2				1		0	0	5	6	2	9
				1												0	0	0	1	0	
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
51	69	76	64	70	357	2	4		4	1	1	1			6	73	81	77	82	420	170
11	25	15	43	38	86	1			1					2	2	28	17	49	44	99	79
4	6	7	9	5	27					1			1		1	6	7	13	5	33	19
2					1											0	0	0	0	3	△
101	7	4	5	14	308				1	24			1		29	7	4	6	17	468	22
51	8	6	27	28	173	3	4	6	4	24			1	1	14	11	10	35	34	265	47
66					152					3					1	0	0	5	3	234	5
			2	4	3			1								0	0	3	4	3	4
181	1013	1022	6131	6133	2407	45	43	131	122	8	22	32	84	86	14	1165	1197	6891	6968	2624	8176
	5	5	11	8	5	1		3	4			1				6	6	14	12	5	21
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
8	5	3	15	8	45			1							2	5	3	17	8	55	22
1			2		6											0	0	2	0	7	2
2																0	0	1	0	2	1
																0	0	0	0	0	
9	1	5	23	17	70						1				7	4	5	24	18	87	28
7			13	13	17			3	1	4					1	0	0	16	18	29	20
		2			3											0	2	0	0	3	2
1			1	1	3									1		0	0	2	2	4	3
																0	0	0	0	0	
2	2		8	11	2											2	1	10	14	4	15
1	51	59	64	78	30	1		3	3			1	2	2	3	59	65	75	91	34	158
																0	0	0	0	0	
433	1553	1468	3229	2953	3018	40	70	63	57	17	21	19	66	50	76	1838	1817	3823	3519	3615	5715
																0	0	0	0	0	
			1	2												0	0	1	2	0	2
19	3	3	75	73	90			2	1	9			3		4	4	3	88	78	123	92
1	3	3	3	6	1											3	5	4	7	2	12
																0	0	0	0	0	
																0	0	0	0	0	
				1								1				0	1	0	1	0	2
																0	0	1	1	0	1
		1	1		7											0	1	2	1	7	2
			2	1											1	0	0	2	1	1	2
					1											0	0	0	0	1	△
2					2											0	0	0	0	4	△
1022	2778	2699	9815	9545	7053	96	123	238	249	123	50	59	165	151	180	3249	3255	11298	11081	8498	14848
			12593					372					224					14553			

7 地区

溝状攪乱 完形 L	溝状攪乱 完形 R	溝状攪乱 殻頂 L	溝状攪乱 殻頂 R	溝状攪乱 破片	I層 完形 L	I層 完形 R	I層 殻頂 L	I層 殻頂 R	I層 破片	IV層 完形 L	IV層 完形 R	IV層 殻頂 L	IV層 殻頂 R	IV層 破片	V層 完形 L	V層 完形 R	V層 殻頂 L	V層 殻頂 R	V層 破片
				1									1					1	1
1					5	2	7	7	7	22	23	25	22	5	1	2	1	2	1
												1				1		2	
1	2	3	4	3	32	33	23	20	82	138	128	107	80	298	73	57	16	23	42
													1	2					
					2			1		1	2	5	3	1	1	1		1	
										1		1	1				1		
												2		2					
												1							
							3	1	5	1	1	23	18	107		1	15	12	33
		55	43	17			35	27	2	28	37	634	749	216	44	62	614	558	134
							1	4	1	1		32	32	28			5	11	
								3	1		2	1	3				1	2	
							2	2			2	20	11	3	2	2	2	3	1
										2				1					
									1					2					1
1		5		12	16	4	37	16	130	107	58	191	84	501	26	23	38	25	74
					5		2		10	24	16	30	4	93	5	2	2	2	6
												1							
											2								
											1	3	3	1					
1					7	1	3	1	2	29	7	9	14	7	3				
	1	2				1	4	6	2	4	3	12	17	10	1	2			1
																1			
			1						2				1	1	1				1
					1		1			2	2	3	8	2	2	1	3	1	3
																		1	
									1				1	1					
						1							1						
		1			2	1	4	5		10	6	11	8	5	1	2	6	1	2
					2				1	1	9	5	3		2	1		2	
								2		3									
					1					2		2							
											1								
1		1	1	2	7	5	6	4	6	31	31	18	27	35	6	16	5	10	14
2	1	2		6	12	9	27	20	24	85	78	75	81	134	18	20	13	17	5
					1	6	3	1	22	51	56	27	40	95	21	19	3	7	13
									2		2	2	1	12		1	4		13
	1			28	6	1	4	21	207	50	53	59	95	1203	23	20	18	22	103
19	22	31	22	61	67	50	79	84	244	1010	1007	802	772	1940	436	401	250	239	529
									27	9	11			160					11
				3			2	2	3	6	5	10	6	6	1	3		1	
155	145	91	114	3	2025	2013	868	890	19	13451	16316	7233	7295	604	660	632	169	140	3
					1		1			13	15	9	4					1	
										2		3	4	1	1		1		
										1									
					1	1	1			8	2	8		10	1				1
							1	1	1			2	2	4			1		1
					1				1	1	2	1	3	9	1			1	3
									2	1									
			1	1	2	2	6	5	21	14	15	28	22	89	8	4	3	3	7
			1				2	1	9	7	4	16	22	54	4	3	9	6	11
																1			
				1	1		3	1	7		1	5	7	28					4
											1								
1	2	1	1		46	30	7	13	1	138	164	34	27	16	12	17		3	3
										2									
19	24	35	17	8	383	484	265	285	159	3211	3416	1609	1689	991	281	291	65	59	26
						1							1				1	1	
					1							1							
					①					1	1	3	8	2					1
								1		1	1		2	1					
										1									
										1									
					1					2	1		2				2		
														1					
										1				3					
201	198	227	205	146	2629	2645	1397	1424	1002	18474	21482	11064	11175	6684	1635	1586	1248	1157	1048
		428					4069					32657					2883		

7 地区（続き）

土壙1 完形 L	土壙1 完形 R	土壙1 殻頂 L	土壙1 殻頂 R	土壙1 破片	土壙2 完形 L	土壙2 完形 R	土壙2 殻頂 L	土壙2 殻頂 R	土壙2 破片	不明 完形 L	不明 完形 R	不明 殻頂 L	不明 殻頂 R	不明 破片	小計 完形 L	小計 完形 R	小計 殻頂 L	小計 殻頂 R	小計 破片	個体数
															0	0	0	2	2	2
					1			2	1	1		3	2		31	27	36	35	14	70
															0	1	1	2	0	4
	2				32	35	6	7	30	11	3	3	2	34	287	260	158	136	489	453
															0	0	0	1	2	1
								1							4	3	5	6	1	11
					1										2	0	2	1	0	4
								1							0	0	2	1	2	3
															0	0	1	0	0	1
		1			2	3	57	82	32				1	11	3	5	99	114	188	129
					82	181	1437	1414	453			102	150	33	154	280	2877	2941	855	3267
								1				2	3	1	1	0	40	51	30	52
															0	2	2	8	1	10
								1				2	1		2	4	26	18	4	30
															2	0	0	0	1	2
															0	0	0	0	4	△
2				1	20	16	21	10	24	4		5	4	26	176	101	297	139	768	473
					4	8	3		3						38	26	37	6	112	76
					1										1	0	1	0	0	2
															0	2	0	0	0	2
															0	1	3	3	1	4
					1		1		1	1				2	42	8	13	15	12	55
								3						1	5	7	18	26	14	34
															0	1	0	0	0	1
						1	1	1							0	1	1	1	0	2
														1	1	0	0	2	5	2
						1		1	1						5	4	7	10	6	19
															0	0	0	0	0	
															0	0	0	1	0	1
															0	0	0	1	2	1
															0	1	0	1	0	2
					2	4	3	1	1						15	13	25	15	8	40
							2	1							5	10	7	6	1	19
															3	0	0	2	0	5
															3	0	2	0	0	5
															0	1	0	0	0	1
					10	13	1	2	2		3	2	6	11	55	68	33	50	70	123
					4	3	1	3	1		1	9	7	9	121	112	127	128	179	255
					12	10	5	6	9	1	1				86	92	38	54	139	147
					1									1	1	3	6	1	28	8
					1	2	3	4	77	1	2	6	5	150	81	79	90	147	1768	226
					517	549	235	255	595	48	51	42	46	214	2097	2080	1439	1418	3583	3595
									17						9	11	0	0	215	11
					1	1	1	1		1					9	9	13	10	12	25
1	4	2	2		380	372	163	159	14	2283	2314	1114	1095	108	18955	21796	9640	9695	751	31560
	1												1		14	16	10	6	0	27
															3	0	4	4	1	7
															1	0	0	0	0	1
															10	3	9	0	11	19
						1									0	1	4	3	6	5
					1		1		2					1	4	2	2	4	16	9
															1	0	0	0	2	1
					1	1		1	1	2		7	3	23	27	22	44	35	142	73
					8	6	14	11	20	1			1	2	20	13	41	42	96	65
															0	1	0	0	0	1
					1				1					1	2	1	8	8	42	13
															0	1	0	0	0	1
															0	0	0	0	0	
					1	1				8	6	1	1		206	220	43	45	20	277
															2	0	0	0	0	2
4	4	1	1		192	214	48	37	6	174	168	120	121	143	4264	4601	2143	2209	1333	6828
															0	1	1	2	0	3
								1							1	0	1	1	0	3
								1							2	1	3	9	3	10
											1				1	2	0	3	1	5
															1	0	0	0	0	1
															1	0	0	0	0	1
															0	0	0	0	0	
															0	0	0	0	0	
					1				1						1	0	0	0	1	1
															3	1	2	2	0	6
							1								0	0	1	0	1	1
															1	0	0	0	3	1
7	11	4	3	1	1277	1422	2004	2007	1292	2536	2550	1418	1449	772	26759	29894	17362	17420	10945	48094
		15					3429					3999					47314			

も一致しない。（個体数は右殻、左殻のそれぞれの完形と殻頂を合計し多いほうを個体数とした。）